“世界の所英男”をまるごと20ページで超徹底解剖!!

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

enterbrain MOOK

2006
96
880yen

眠れるキング・コングがついに目覚めた!
独占ロングインタビュー
藤田和之

闘魂の鎖を引きちぎる!
野獣の大逆襲!!

蘇れ! AWA黄金時代
ゴー・フォー・ブロック対談
マサ斎藤×ニック・ボックウィンクル

特集・新日本プロレス最大の危機!!
GK金澤克彦
中村祥之
長尾浩志

『Dynamite!!』の裏MVPが
“キス事件”の真相をついに告白!
中尾芳広

2・10ハッスルオーディション濃密徹底詳報!!
ハッスル新章がついに動き出した!

HG大ブレイクのいまこそ再評価!
学生プロレスを全9ページで大特集!!

2・26『PRIDE.31』
無差別級GPへのサバイバル激化!!

なぜいまノゲイラ戦なのか?
“孤高の選択”の真意を読み解け!!
田村潔司
A・R・ノゲイラ

PRIDE無差別級GP
出場選手先取り大予想

kamipro (96) いまこそ試される野獣の嗅覚!

印刷・製本/図書印刷株式会社

2006 No.96 CONTENTS

kamipro

表紙イラスト／岡村昌明

闘魂の鎖を引きちぎった
野獣の決断とは？

近日公開、超拡大ロードショー!!

——日本のキング・コングの配給先は、『PRIDE』か、K-1か、どっちだ!?

闘魂の鎖を引きちぎった野獣の逆襲!!

——2月1日、所属先である猪木事務所の事実上の閉鎖にともない、その去就が注目されていた藤田和之が公式HPにおいて、独立を表明。今後はフリーとして活動することになった。すでに藤田和之は、彼が師事するアントニオ猪木にその旨を直接、伝えたという。これからは〝神〟の指令で動くのではなく、独自の〝戦路〟を突き進むために——。

いま格闘技界に渦巻く〝藤田和之・待望論〟。

昨年大晦日の格闘技大戦争の巨大な渦に巻き込まれなかった藤田和之には、大きな〝溜め〟が効いている。いや、それは関係者やファンからすれば、いままでも語りつがれる3年前のエメリヤーエンコ・ヒョードル戦——藤田和之のモンスターぶりがここ数年で最大限に発揮されたこの一戦以来、ずっと溜め続けられた期待感なのかもしれない。ついに闘魂の鎖を引きちぎったことで、その〝溜め〟が巨大な津波となり、06年のマット界に押し寄せようとする気配を感じる。

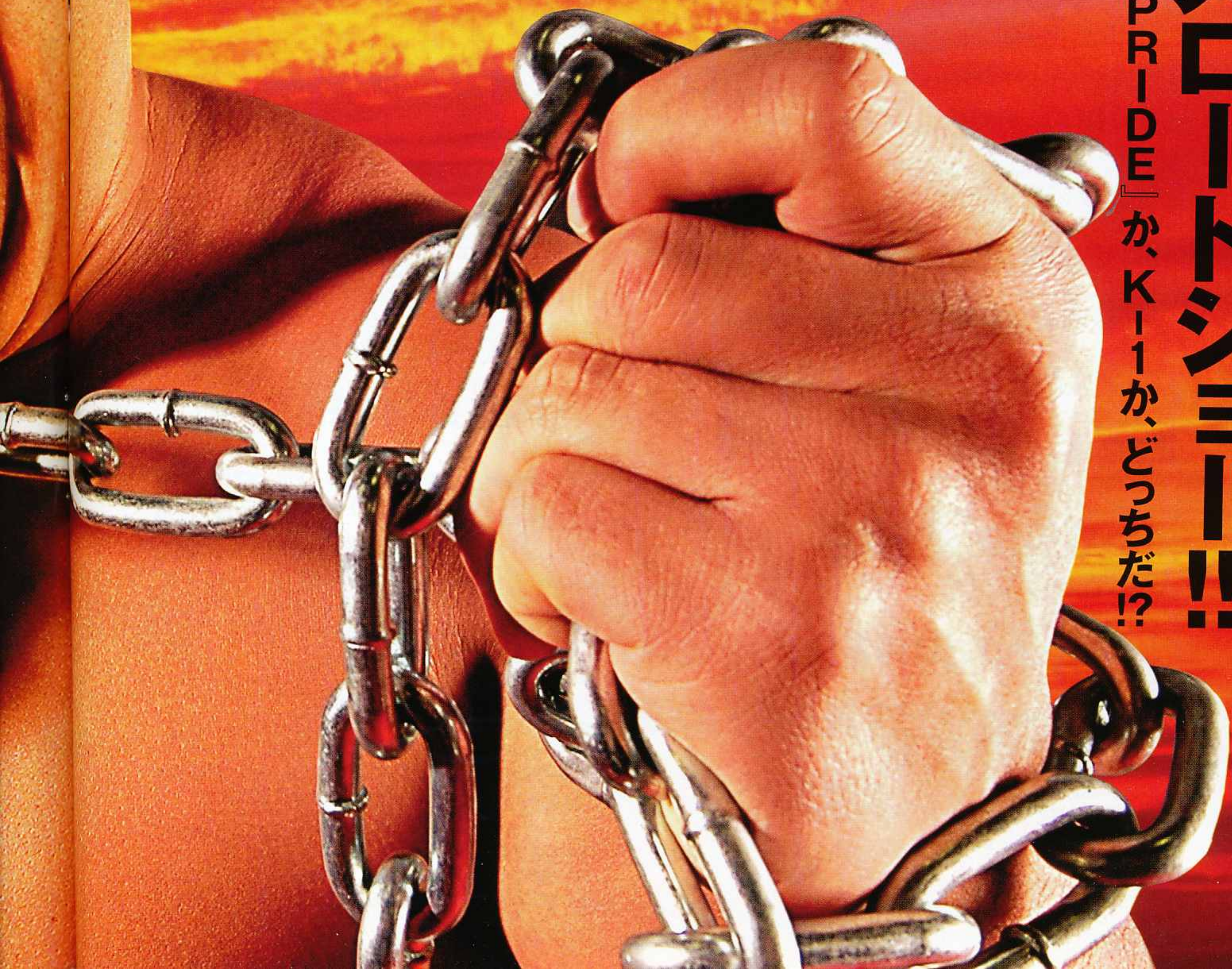
フリーになったヘビー級大物日本人獲得を目指して、さっそくK—1サイドが総合格闘技イベント『HERO'S』へビー級部門のエースに据えたい意向を示した。一方、『PRIDE』サイドも、5月から開催される『PRIDE無差別級GP』の参戦に歓迎の意を表した。二大メジャーからラブコールを受けた渦中の野獣の決断は、本誌締切2月13日の時点では、まだ明らかにされてない。

果たして、『PRIDE』か、K—1か。どこに上がって、誰と闘えば、一番おもしろいのか。いまこそ試される野獣の嗅覚——!!

映画の中のKING KONGは、その時々のアメリカの強さの象徴であるビルによじ登るも、無数の戦闘機との壮絶な攻防の末、無惨に打ち落とされた。しかし——。日本のキング・コングは、はるか上空にまでそびえる格闘技界という巨大建造物の頂きから、最新鋭戦闘機を次々となぎ払い、そして成熟を迎えている〝格闘技文明〟を破壊尽くし、動乱と混迷を招き込む予感さえもする。そうだ。常識を覆せ、世の中は乱れたときこそ一番、おもしろい!

闘魂の鎖を引きちぎったことで生まれた期待感と、強大な敵に挑むことで生まれる野獣の本領。

——近日公開、超拡大ロードショー。〝KAZUYUKI KONG〟の配給先は、やっぱり〝あの舞台〟か——!!

（文／ジャン斉藤）

KAZUYUKI KONG

フジタ・カズユキ

藤田

KAZUYUKI FUJITA

ついに小川直也のことも語った!!

野獣の選択 和之

PRIDEか、K-1か？
決断直前の心境を探る
独占インタビュー

「これからはすべて自分で判断します」

一人の男を巡って、二大メジャーが争奪戦を繰り広げる。
06年マット界の主役候補、藤田和之は
何を考えているんだろうか――？
インタビュー収録した2月2日現時点で、
新たな戦場の名前を口にではできないとはいえ、
聞きたいことは山ほどある。
久しぶりとなる野獣ロングインタビューだ!!

聞き手／金澤克彦　構成／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫
designed by hisa(TwoThree)

藤田和之
野獣の選択

KAZUYUKI FUJITA

藤田　さぁ！　今日は**永田裕志話でいいんですよね!?**

――まあ、永田裕志話でもいいんだけど、とりあえずほかに聞きたいこともたくさんあるから。フリーになった藤田和之はいま何を思う？　とか。

藤田　まあ、去年の暮れあたりから気持ちはフリーだったんで。

――それは新日本プロレスの東京ドーム出場を「お断り」したあたりから？

藤田　いや、その「お断り」する前からもう気持ちはフリーだったんで。

――マスコミにはドタキャンだ、新日本追放だって書かれたけど、条件云々よりも出るような気持ちになれなかったということでいいわけですね？

藤田　そうですね。それで年末は家でゆっくり過ごしました。「コタツでみかん」でしょうか（笑）。年明けは家族でハワイに行きまして。

――じゃあ、あの押尾学と同じ頃に？（笑）。

藤田　えっ誰ですか、それ？

――今年の大晦日の永田裕志の対戦相手候補だよ。押尾学か金子賢かって言われてるよ。

藤田　へぇ〜、でも永田裕志なら秒殺でしょう。**勝敗はわかりませんけど（笑）**。

――12月は大晦日に備えてロスのマルコ・ファスの道場へ行ってたんでしょ。『PRIDE』とK－1の双方から大晦日出場のオファーがあったという確かな情報を聞いてるんですが、オファーがあったことは自分の耳には入ってましたか？

藤田　マルコのとこに行っているときは、毎日練習して、それが終わると日焼けをしてましてですね……。

――（さえぎって）そこに、いろいろ電話があったり、誰かが会いに来ませんでした？

藤田　いえいえ。マルコのところは気候が暖かいんで、心も身体もノビノビとできて。とにかくマルコとの時間を大事にしました。

――いつでも出撃態勢は整っていたということ？

藤田　イグザクトゥリー！　あとは練習が休みの日は、**ウチの嫁さんの買物に付き合ったりしてですね**。

――あ、嫁さんの話をしてもかまわないんですか？

藤田　もう、べつに。

――でも、いままで公には出してなかったよね？

藤田　出さないだけで、いちいち報告することでもないかなって。

――まあ、いまさらモテようと思わないしね（笑）。

藤田　な〜んにもないですよ（笑）。

――ブッチャー（橋本真也）なんかは昔ず〜っと隠してたからね。ず〜っとモテようとしてたから（笑）。

藤田　俺は隠してたわけじゃなんですけど。聞かれたら「ああ、結婚してますよ」ぐらいの話で。

――でも、プライベートはあまり明かしてなかったじゃないですか。犬を4頭飼ってる話ぐらいで。ベリーという犬とマナブとユウタンと、あとなんだっけ？

藤田　マナブとユウタンはうちの犬じゃないです。うちのは黒いアリとサリーと、（急に小声になって）**ラブリー……**。

――ああ、ラブリー!!

藤田　ええ。オスが2頭にメスが2頭。

――サカリの時期は大変だというね（笑）。

藤田　サカリが大変なのはマナブとユウタン（笑）。**俺にもそんな時期があったけど、**俺の話は置いといて。ウチの犬は近親相姦にはなってないですから（笑）。

――恋愛してもオッケーなんだ？

藤田　はい。みんな自由恋愛してます。みんなフリーですから。

――犬もフリーなんだ（笑）。

藤田　ところで金澤さんも（『ゴング』を辞めて）フリーになったって聞いたんですけど。

――そうだよ。いろいろあったんだけどねえ。

藤田　**いろいろって、まさか追放されたんですか？（笑）**。

――うん！　自分から追放（笑）。カシンみたいなもんだよ。

藤田　なるほど（笑）。**説明が面倒なときは「あの方」の名前が出るんですね？**

――そうそう（笑）。まあそんな俺の話はな、なんてね。どうでもいいけど、大晦日に備えてコンディションはちゃんとつくっていたわけでしょ？　常に仕事をする態勢で。

藤田　いや、コンディションをつくるというより、いつも通りリラックスしていたって感じです。年末は「コタツにみかん」!!

――（無視して）でも結局、大晦日は家でおせちを食べながらフジテレビとＴＢＳの格闘技番組を交互に観ていたわけですよね？「大晦日に食べ過ぎて、正月に食うものがなくなった」って言ってたじゃない？

藤田　ボクのことはともかく!!（笑）。金澤さんは正月、どこにいたんですか？

――正月は千葉の両親の家にいた。あなたの家の近所です。俺のことはどうでもいいよ（笑）。

藤田　いや、いろいろ聞きたいなって。今月はどういう予定なんですか？

――曙を観に新日本の札幌大会に行く。俺、けっこう曙のファンだから。

藤田　曙のどういうところが好きなんですか？

――プロレスが好きなところだね。（藤田の顔を見ながら）誰かとはそこが違うか

インタビューではなかなか本音を明かさない男として知られる藤田和之。であるならば、ここは新日本若手時代から藤田をよく知るＧＫ金澤克彦の登板だ!!　ほぼ雑談に近いインタビューは1時間30分にも及び、撮影時間と併せれば約3時間のロング取材を藤田が受けるのは、ＧＫいわく非常に珍しいそうだ。

藤田　ふ～ん。ボクも北海道へ観に行こうかな。

——曙&長州組vs蝶野&天山組をやるんだよ。これこそがプロレスじゃないですか。

藤田　**長州さん、元気なんですか？**

——長州さんもずいぶん変わったけどね。昔は北尾光司と揉めたりさ、外の世界から入ってきた大物と絡むとかならず大きなトラブルになっていたけど。茅ヶ崎に大きな道場をつくった某選手とかね。

藤田　へぇ～。

——でも、あなたは長州さんとはうまくやっていたもんね。

藤田　いえいえ。**でも永田裕志には負けますけどね。**

——初めて『PRIDE』に出るときも、「送り出してくれた新日本プロレスに感謝してます」ってちゃんと言ったもんね。

藤田　……ああ、もちろん、もちろん。

——その映像を移動バスの中で観ていた長州さんは、そこで大きく頷いたっていうエピソードがありますけども（笑）。

藤田　え～!!　本当ですか～？　また～（笑）。

——ホント。話を戻すけど、年が明けて一番最初に話したのがその藤田和之という人でね、中尾（芳広）とヒース・ヒーリングのキス話をしたら全然信じなくて、「ウソでしょ？　それ、話つくってるでしょ？」って疑っていた。あの試合、見たでしょ？　テレビでは流れなかったけど。

藤田　そう言えば、なんかで見ましたね。

——とある人が動画を送ってきたでしょ？（笑）。

藤田　ん？　そうでしたっけ？

——ほかにも大晦日の試合をいろいろ観たと思うけど、どれが一番印象に残りました？

大晦日は家でゆっくり過ごしました。「コタツにみかん」でしょうか（笑）。

日本人ファイターとしては初めて、MMAで"サップ越え"を果たす。なんと一方的に蹴りまくり殴っての結末で。すでにサップ幻想の陰りが見えていた当時とはいえ、体格差を跳ね返す身体能力を秘めている藤田和之だからこそできた芸当ともいえる。

藤田のフックを顔に浴びたヒョードルがふらふらと足許を揺らす——皇帝を絶体絶命の危機に追いつめた藤田の野獣ぶり!!　また、この決戦の前月、ヒョードルが視察に訪れた中西学戦では、手の内を隠したと思われるファイトぶりだっただけに、藤田は知能犯でもある。

猪木軍vsK－1の第1R。MMA初挑戦のミルコを相手に誰もが藤田の圧勝を信じて疑わなかったが、タックルにドンピシャでヒザを合わせられ、額をカットし大流血!　この一戦からミルコの才能が開花、格闘技ビジネスが巨大化していく。永遠に語り継がれるべき一戦だ。

関係者のあいだでガチンコなら"新日本最強"と囁かれていた藤田が、新日本を離れて『PRIDE』に電撃参戦。MMA転向わずが4ヵ月で当時の最強戦士マーク・ケアーを撃破!!　アゴに強烈なヒザを叩き込まれながらビクともしない藤田のタフさは鳥肌モノだった。

藤田　……金澤さんは何を観てました？

——俺の話はどうでもいい！

藤田　いや、参考にしようかなって（笑）。

——俺は二つをハシゴしてた。曙vsボブ戦を見てたけど、小川直也vs吉田秀彦戦が始まって、小川の入場で『爆勝宣言』が流れちゃったら、もうそこでチャンネルを固定しちゃった。

藤田　ふ～ん。ところで、昨日は何食べました？

——昨日は覚えてない。さっき撮影中に、肉まん食った。で、小川vs吉田戦のことだけど。

藤田　（無視して）ボクはあんまんなら、こしあんのほうが好きなんですよ。

——俺はつぶあん……って、だからそんな話はいいんだよ！　真面目な話なんだけど、小川vs吉田戦は観ていてどうだった？

藤田　そういえば、**金澤さんの新婚旅行はマウイだそうですね**（話をおもいきりそらして）。

——えっ、なんで知ってんの!?

藤田　昔、金澤さんがそんな話をしたのを急に思い出して。ボクも去年、家族と一緒にマウイに行ったんですけど、マウイはいいところですね～。

——「♪この～木、なんの木♪」の木、あった？

藤田　オアフの観光の本に「♪この～木なんの木♪　の木がここにあります」って書いてありました。

——マウイでも「これが♪この～木なんの木♪　の木です」ってガイドに説明されんだよ。たぶんね、どこでもそんな説明してんだよ。

藤田　でも、マウイ凄く良かったですよ。金澤さんはもう一度、行きたいと思います？

——ああ、行ってもいいね。

藤田　で、パラオには行ったことあります？

——ない。パラオもいい？

藤田　いいですよ。今度パラオに行きましょうよ。

——パラオってのんびりするにはいいんでしょ？

藤田　こないだ会長（アントニオ猪木）と会ったときも「お前もまた今度パラオに来いよ」って言っていただいたんで。

——猪木さんとはちゃんとお話した？

藤田　なんの話ですか？

——フリーになる挨拶。

藤田　はい。挨拶はしました。

——猪木さんにはどんなこと言われました？

藤田　「ご挨拶にきました」って言ったら、「お前、ちょっとこっち来い。まあちょっと場所を移して」って。**それでサウナに連**

00.1.30-04.12.31 "野獣"藤田和之・MMA全戦績［12勝4敗］

日付	大会	結果
04.12.31	Dynamite!!	○vsカラム・イブラヒム（1R1:07／KO）
04.5.22	ROMANEX	○vsボブ・サップ（1R2:15／KO）
03.12.31	猪木祭り	○vsイマーム・メイフィールド（1R2:15／肩固め）
03.6.8	PRIDE.29	×vsエメリヤーエンコ・ヒョードル1R4:18／裸固め）
03.5.2	新日本プロレス	○vs中西学（3R1:09／TKO）
02.12.31	猪木祭り	×vs ミルコ・クロコップ（3R5:00／判定3-0）
02.8.8	LEGEND	○vs安田忠夫（1R2:46／肩固め）
01.8.19	K-1	×vsミルコ・クロコップ（1R0:39 ／ドクターストップ）
01.5.27	PRIDE.14	○vs 高山善廣（2R2:18／ レフェリーストップ）
00.12.23	PRIDE.12	○vs ギルバート・アイブル（2R5:00／判定 6-0）
00.8.27	PRIDE.10	○vsケン・シャムロック（1R6:46／ TKO ※タオル投入）
00.5.1	PRIDE GP決勝戦	×vsマーク・コールマン（0:02／TKO※タオル投入）
00.5.1	PRIDE GP決勝戦	○vsマーク・ケアー（1R15:00／判定3-0）
00.1.30	PRIDE GP開幕戦	○vs ハンス・ナイマン（1R2:48／袈裟固め）

藤田和之 野獣の選択

ボクの正月は独立した2月1日。小川直也の正月は、いつだったんでしょうね?

れて行かれたときはビックリしましたけどね。

――あ、サウナに行ったの？　ホテルの。

藤田　サウナと、その手前のラウンジみたいなところで。会長はサウナとかお風呂が好きだから。

――猪木さんからは「頑張れ」とか言われた？

藤田　はい、それはもう。「頑張れ！」って言っていただきました。

――で、あなたは「お世話になりました」と。

藤田　もうそこはきちっとご挨拶しました。感謝の言葉で。

――これから猪木さんとの関係というのはどうなるんだろうね。目に見えない部分では一緒なのかな？　アントニオ猪木を尊敬する気持ちとかはこれからも変わらない感じで。

藤田　**これからも自分の師匠であることは変わらないですし、そこを否定してしまうのはボクにとって本意ではないですから。**

――それで猪木事務所はどうして……。

藤田　（さえぎって）こないだの大雪のときはどうしてました？

――埼玉のほうはかなり降ったよ。埼玉は東京や千葉より寒いから、日陰のところの道路はずいぶん凍っていたね。つい最近まで雪が残っていたし。

藤田　ここ（道場）も寒くないですか？　だいぶ暖まってきましたか？

――暖まってきたからさ、そろそろ小川vs吉田の話をちゃんとしようと思うんだよ。

藤田　ハッハッハッ！　まあ、いいじゃないですか、そんな話は。

――正月の午前中に電話であの試合の話をしたときは、「良かったんじゃないですか。お互いが持ち味を出していて」って言ってたけど。それは試合として良かったの？

藤田　そんなこと話しましたっけ？

――話してた、正月に（キッパリ）。

藤田　う～ん。**ボクの正月は2月1日なんですよ。**

――あっ！　そうですか。フリーになった記念すべき日。

藤田　**昨日、明けましたんで。明けまして、おめでとうございます！**

――じつはね、それに一番最初に気がついたのが谷川貞治氏なんだよね。俺はたまたま用があって先だって彼と電話で話してたんだけど、「藤田選手と話すことがあったら、2月1日は明けましておめでとうございます！　とお伝えください」って言ってたんだよね。

藤田　**誰かわかってくれるのかな～、と思ってたんですけど、谷川さんだったんですね。**

――谷川さんはセンスいいね。で、小川vs吉田はどうだった？

藤田　ま～だ言ってんですか（笑）。もういい加減、その話は終わってもいいんじゃないですか？

――（無視して）小川vs吉田はおもしろかった？　だって小川直也とはプロレス界で同期じゃないですか。猪木さん、佐山さんと一緒に練習をした仲じゃないですか。

藤田　**いや、彼はもう立派な柔道家ですよ。**

――柔道家？

藤田　**柔道家としてプロでやっているっていうことです。柔道界からプロに来たっていう意味でね。**

――でも、いま小川直也は『ハッスル』のリングに上がっているプロレスラーですよね。それは彼なりの表現の仕方だと思いますけど。

藤田　**彼の正月は、いつだったんでしょうね？**

――いつだろう？　小川直也の正月はまだきてないかもしれないな～。という意味では、まだ未来への期待があるかもしれない。

藤田　**そういう意味ではボクよりも早く年が明けてたんじゃないですかね。何年も前から。**

――あっ、それは小川直也がずいぶん昔に猪木さんのもとを離れたっていうこと？

藤田　まあ、いいじゃないですか、そんな話は（笑）。

――いや、それがよくないんだよ！　ということは小川直也の正月はとっくにきている。

藤田　そういえば、（小川直也は）こないだテレビに出てたらしいですね。金澤さん、そう言ってましたよね。

――ああ、小川道場の紹介企画でね。風水のなんとかさんって人に「トイレのなかにお子さんの写真とかは置いてはいけません」とか言われてたよ。トイレにはカレンダーも置いてはいけないんだって。

藤田　どうしてですか？

――カレンダーというのは今後の自分の予定を決めるものだから、不浄な場所で今後の予定なんか決めちゃいけないんだって。そのテレビを見てウチもトイレのカレンダーを俺が剥がしたんだけど、嫁さんが戻してた（笑）。「トイレにカレンダーはつきものだよ」って言って。

藤田　ウチのトイレにはカレンダーはないっすね。

――大切なもの貼ってない？　犬の写真とか。

藤田　ないっすね。

――でもトイレを不浄な場所って決めつけるのもなんだなと思って。

藤田　不浄な場所だからいつもきれいにしてなくちゃいけないって聞いたんですけどね。しかし、勉強になりますね。

――あとベッドは壁にくっつけてはいけない、とかね。

藤田　なんで、どうしていけないんですか？

――先が行き止まっちゃうからだって。で、一番良い場所に小川直也は過去のトロフィーとかをバーっと置いてたんだけど、一番良い場所にこういったものを置いちゃいけないとも言われてたよ。

藤田　なんでですか？

――過去の栄光にさかのぼることになるから。

藤田　そこで栄光が止まってしまうということですか？

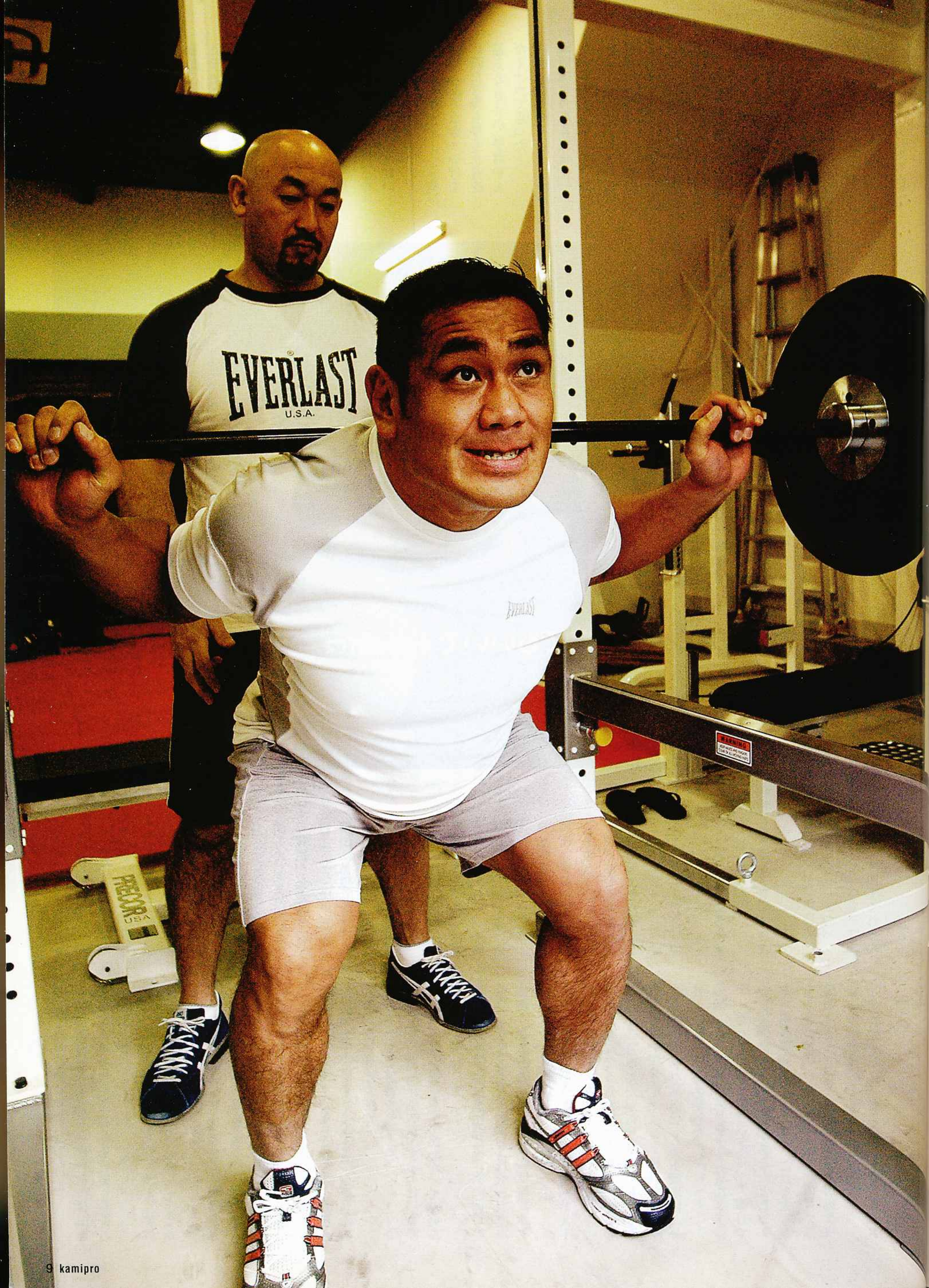
――うん。だから良くないんだって。なんか俺、小川直也博士みたいだけど、道場には過去に獲ったメダルがバーっとあるわけよ。で、真ん中に例の銀メダルがある。要するに、みんなはこれを見て金を目指してくれっていう意味で、自分にとってはけっして誇れなかったバルセロナ（五輪）の銀メダルがあるという……。いい話でしょ？　俺は危うく小川直也のファンになるとこだったけど（笑）。

藤田　でも、金澤さんは昔から小川直也が好きだって言ってたじゃないですか？

――それはあなたが言ったんでしょ！　あなたが焚きつけたんじゃない（笑）。

藤田　「俺、ホントは小川直也のファンかもしれない。俺が一番、小川直也を愛しているかもしれない」って言ってませんでしたっけ？

――それはあなたが「金澤さんは、小川直也の話になると情熱がほとばしる。そ

次のリングはどこでもいいですよ、新日本以外なら

れって、たぶん好きなんですよ」って言ったからですよ。「お互い好きなんですよ、きっと。向こうもたぶん、そう思ってますよ」って(笑)。それで「あ、そっか」って言っただけで。

藤田　ハッと気付いたら、俺は小川直也が好きだっていう。

――たしかに当時は情熱を込めてペンを走らせていたからね。一番ペンが走ったのが小川直也と大仁田厚だ(笑)。

藤田　正直、いまだから言いますけど、その金澤さんの言葉を聞いたときに**ちょっと(小川直也に)ジェラシーを感じちゃいましたね。**

――クククク! 「俺もそうならなきゃいけないんだ。俺も早く正月を迎えなきゃいけないんだ!」って思った?

藤田　いやいや、そういう意味じゃなくて……ったくもう～っ(笑)。

――さっきの撮影で編集部員に言われて、あなたが飛行機や鎖を持っている姿を見たときに、ついに解き放たれたなって思いましたよ。いままでの藤田和之からは想像もつかない。かつてはインタビューすら渋っていたのに(笑)。ついに藤田和之の正月が来たのかなと。

藤田　**フフフフ、アーッハッハッハッ!!**

――もしかしたらハッスルもやっちゃうのかなってね(笑)。プロレスのリングに上がることはもうないんですか?

藤田　**金澤さんはもう『ゴング』には上がらないんですか?**

――ああ～、わからない。……いや、いまのところはない。

藤田　**ボクもいまのところ頭にない!!**

――じゃあ一緒だ。

藤田　一緒ですね(笑)。

――きっとね、いま(『ゴング』に)戻っても同じだと思う。

藤田　ボクもたぶん同じだと思います。

――同じですよ、ボクが『ゴング』に出ないのと、あなたがプロレスのリングに上がらないのは。でも『東スポ』のインタビューでは「WWEも視野に入ってる」みたいに言っていたよ。

藤田　WWEが藤田和之は視野に入ってないだろうけど。

――そりゃ存在は知ってはいるだろうけどさ。だって健介がフリーになったときも、すぐWWEから自宅に連絡が入ったんだから。なんとジョニー・エースから直々に「トライアウトを受けに来てくれないか?」ってさ。

藤田　ボクには全然、連絡ないっすよ(笑)。でもトライアウトも一つの経験としてはいいかもしれないですね。

――今後のこととして、5月の『PRIDE無差別GP』に出るんじゃないかという報道が先走ってますけど。

藤田　(無視して)そういえば、金澤さんはこの雑誌のほかにはどこで書いてんですか?

――スカパー!のモバイルでも記事は書いてるけど……って、そんなことはどうでもいい!! 5月の『PRIDE』は出るの?

藤田　金澤さんがちゃんと大会パンフレットで自分の紹介を書いてくれるんでしたら、どこにでも。

――『PRIDE』でもK―1でも?

藤田　金澤さんが書くとこにボクも出ますよ。

――じゃあ、両方に書くよ!(笑)。さあどうする?

藤田　ワハハハハ!

――ちなみに俺は全日本プロレスのパンフにも書いてるから。

藤田　向こう(全日本)が出てくれなんて言うわけないじゃないですか!!

――武藤社長だったら「いったい藤田をどう使えばいいんだよ⁉」って頭を抱えるかもね(笑)。

藤田　「何しに来るんだよ⁉」って(笑)。武藤さん、俺のことをよくわかってますから。

――じゃあ私の言葉で言うと、戦場としては『PRIDE』でもK―1でもオッケーで、いままでどおり条件が合ってモチベーションも上がるリングを選ぶ、ということでいいのかな?

藤田　いままでどおりじゃなくて、金澤さん次第ですよ。ホントですよ、金澤さんあっての藤田和之ですから。

――あっ、そ(素っ気なく)。

藤田　こんなにボクが言ってるのに、金澤さんはボクの気持ちが全然わかってないんですね(笑)。

――じゃあ、俺は藤田和之に次の闘いのヒントを与えればいいわけ?

藤田　おもしろいですね! ぜひ、ボクにヒントをください。

――ヒントというかね、5月の『PRIDE』に出るのが一番いいんじゃない?

藤田　なんで5月なんですか? ボクの正月が2月なんだから、ボクの5月は6月じゃないですか。

――ああ、6月なんだ。じゃあ戦場は『HERO'S』になるのかな。

藤田　もっともっとヒントくださいよ!

――ヒントねえ。そういえば、大晦日で一番迫力のあった試合があなたとヒョードルの再放送だったという。これも大きなヒントですよ。

藤田　え～っ、そうですか。永田vsヒョードルの見間違いじゃないですか?

――(無視して)テロップに「PRIDE

藤田和之 野獣の選択

ヘビー級選手権」って出てたよ。選手権じゃないのにね。

藤田　ところで、去年は3WAYのIWGP選手権がありましたけど。

──あったね～。蝶野正洋とブロック・レスナーと。その話したい？

藤田　ウンウン、いいですよ、全然。レスナーのバーディクトで投げられて。

──評決（バーディクトの意）が下った。

藤田　**あの試合で評決を受けたわけですよ（ニヤリ）。お前なんか飛んでけ～ってね。**

──ああ、なるほどね（笑）。バーディクトがフリーになるきっかけでもあったんだ。

藤田　そういうわけで、今日は長らくありがとうございました。

──なんだよ、それ!!

藤田　もうそろそろ終わりかと（笑）。

──ダメだよ!! たとえば、今後闘いたい相手として、因縁のミルコなんかは……

藤田　（さえぎって）今日、車ですか？

──電車。

藤田　何分ぐらいかかりました？

──ん～、1時間20分ぐらい。俺の家からはちょっと不便だよね、ここの道場は。

藤田　それで時間は大丈夫なんですか？

──全然大丈夫。だから～、そろそろ真面目な話をするよ！

藤田　（編集部員に向かって）時間、大丈夫じゃないですよね？

編集部　いや、まったく問題ありません（笑）。

──内容的には大丈夫じゃないよ！　ふざけたことばっか言って。

藤田　ふざけてない（笑）。真面目にやってます。

──真面目な話をしたのは、小川直也のことだけでしょ。

藤田　だって～、金澤さんが好きだっていうから。

──その小川直也が出ている『ハッスル』だけど、『ハッスル・マニア』をPPVで観たって言ってましたよね。おもしろかった？　レイザーラモンHGとか。

かつては橋本真也、小川直也、安田忠夫ら魅力的な面子が集っていた“猪木軍”だったが、時が経つつれ彼らは巣を飛び出し、アントンの“残された切り札”藤田和之もその下を離れた。ちなみに藤田は新日本若手時代、“猪木最後の付き人”を務めていたことで知られる。

藤田　『ハッスル』は何がお勧めなんですか？

──お勧めもなにもあそこは髙田総統が一番でしょ。

藤田　前から金澤さんは言ってましたもんね、「絶対おもしろい！」って。

──髙田総統はこないだサイン会までやったんだよ。

藤田　どこで？

──『モンゴリアンチョップ』という自分のジンギスカンの店で。人がいっぱい集まっちゃって、すぐ近くのラブホテルから営業妨害で抗議がきたらしいよ。昼間っからホテルに入る人もいるのにヤンヤヤンヤといろんな人が駆けつけちゃたもんだから。

藤田　へえ～。そのサイン会はちゃんとやれたんですか？

──髙田総統は子どもにもサインしてるんだよ。ちっちゃい子に「風邪を引かないようにね！」って言ったり。じつは良い人だった（笑）。

藤田　金澤さん、髙田さんのことも好きですよね。

──けっこうファンだね。髙田総統ファンだし、髙田延彦のファン。小川直也のファンでもあるけど、向こうから嫌われてるんだよ。すべて片思いだよね。

藤田　いや～、なんか切ないけど、心温まる話ですよね。ホント今日はいい話が聞けました。ありがとうございました。

──まだ終わらないよ！　このあと誰か待ってるの？

藤田　いや、フリーだから誰も待ってないですよ。家に帰ります。

──家までどうやって帰るの？

藤田　ウチの嫁さんが迎えにきてくれます。

──嫁さんはどっかで待ってるんじゃなくて、家にいるんでしょ？

藤田　でも、時間は全然問題ないです。

──じゃあいいじゃない！　真面目な話をするよ。早く仕事したい？　去年はかなり仕事をしたじゃないですか。いままでで一番ってことはないけど。

藤田　ここ数年では一番ですけどね。

──怪我している状態でも試合をやっていたし。

藤田　いや、仕事があるうちはやらないと。

──今年はたくさん試合したいという気持ちはありますか？

藤田　そうですね。

──リングを選んで？

藤田　**もちろん、新日本はありません！（笑）。もうフリーなんで、これからはすべて自分で判断します。**

──年末だけに絞るとか。

藤田　そんなことないですよ。

──積極的に試合はやりたい？

藤田　はい、積極的に。どこでもいいですよ、新日以外なら。

──でもさ、昔から名前が挙がっていて、昨年末も話があったようだけど、いまさらピーター・アーツとやってもしょうがないでしょ？

藤田　**ま、もういいんじゃないですか。誰かとやったじゃないですか**

──K－1ではこれといった対戦相手がいないんだよね。チェ・ホンマンじゃあ、あんまりって顔してるし。

藤田　嫌だとは言ってないですよ。俺は何も言ってないですよ。

──じゃあ、ヒョードルともう一度闘ってみたい気持ちはある？　ファンはそこに一番興味がある。

藤田和之

野獣の選択

藤田　……ヒョードルって誰？（笑）。

――エメリヤーエンコ・ヒョードル！

藤田　何色？　どんな味ですか？

――色は白い。どんな味かは自分が知ってるでしょ。じゃあ、ノゲイラはどう？

藤田　何が？

――アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ。

藤田　アントニオ猪木は知ってますけどね（笑）。……金澤さん、メガネ変えました？

――変えてないって！　だから、ヒョードルとノゲイラだったらどっちと闘いたい？

藤田　もういいじゃないですか。そういう質問は永田裕志にしてくださいよ。

――ダメ！　じゃあ、ミルコって知ってる？

藤田　何が？（笑）。

――あなたが顔から流血したせいで金持ちになって、国会議員までなっちゃった人。

藤田　え〜っ！　どうして？

――あなたがミルコのヒザめがけてタックルをかましたから。

藤田　アハハハッ、どこで？

――さいたまスーパーアリーナのど真ん中で。

藤田　ど真ん中で。

――……あらためて聞くけど、どこのリングでもいいのね？

藤田　だ・か・ら、金澤さん次第ですから。ボクは金澤さんのあとにくっ付いてるんですから。金澤さんがフリーになったから、俺もフリーになったんですよ。すべて金澤さん次第だって言ってるじゃないですか（笑）。

――じゃあ、俺は小川直也戦が見たい！

藤田　？……。

――吉田秀彦戦はそうでもないけど。（そばを通りかかった和田良覚を呼び止めて）和田さん、藤田vsミルコ戦ってあんまりおもしろくなさそうですよね？

和田　やっぱりヒョードルでしょう！　でも、ファンは誰を一番望んでますかね？

――ヒョードル、そして小川直也ですね。

和田　ホントですか？

――小川直也は禁断の対決でおもしろいんじゃないですか？

藤田　……今日の取材は何時までですか？　もうそろそろ（笑）。

――まだ時間は大丈夫（笑）。

藤田　しかし、今日の金澤さん、なんかよそよそしいですね。なんか堅いな〜。やっぱフリーは大変なんですかね（笑）。

【ふじた・かずゆき】1970年10月16日、千葉県船橋市出身。入場曲「未定」（藤田和之公式サイトより→http://www.beast-1.com/）。レスリング全日本学生選手権4連覇、全日本選手権2度優勝。182cm、115kg。

――けっこうヒマな時間もあるよ。あなたも『ｋａｍｉｐｒｏ　Ｈａｎｄ』に入会していろいろチェックしてるみたいだけど（笑）。

藤田　いや、それは金澤さんが書いてると聞いたから、見さしていただいて。おもしろいですよ。楽しみにして見てますから。

――ふ〜ん。

藤田　ボクはこんなことあんまり言わないんですけど、意外とおもしろいっすね、あれ。新聞買うよりも、どこでも見れるし。

――電車に乗ってるときに見るといいよね。

電車でプロレス雑誌を出すのって、照れがあるじゃないですか。ましてや関係している張本人が見てたらマヌケですもんね。

藤田　いま金澤さんってどういう名称で書いてるんですか？

――いまはいろいろ。スカパーだと〝ＳＫ〟（スカパー！金澤）で、サムライＴＶだと〝ＦＫ〟（フリー金澤）だし。

藤田　〝ＦＫ〟。それ、藤田和之じゃないですか（笑）。

――じつは裏返すと藤田和之っていう（笑）。でも、これからは俺やあなたのようにフリーが多くなると思いますよ。新日本の大量離脱なんかでゴタゴタしちゃってるし。いろいろ目に付くと思うけど、何か感じるところはありますか？

藤田　べつに、何も。本来あるべき姿なんじゃないかなと思いますけど。プロなんだから。もう会社どうこうじゃなくて、最後は自分がしっかりしてればいいだけのことだから。ここ（胸を指して）をしっかり持っていればね。**自分の足で歩くことに変わりはないんじゃないですか。**

――どこに所属してようがね。

藤田　自分を持っていれば問題ないと思います。べつにそんなたいしたことじゃないと思いますよ。自分のことをちゃんとやってるかどうかなんで。……ちょっと真面目になっちゃいましたけど（笑）。

――それはもう、新日本プロレスを辞めた6年前に決心したわけだしね。新日本があああなってしまったことに何か思うところはない？

藤田　いままで自分が恩義を感じてた会社ではなくなったということですね。

――それは猪木さんがもうオーナーではないから？

藤田　もちろん会長には感謝の気持ちがあるし。でも会長は関係ないことだし。猪木事務所にも恩義を感じてますし、そこはみんな同じなんじゃないですか。心の問題だと思うんで。

――やっぱり違うな、ベースが空手の男は。みなさん、藤田和之はじつは空手家だったんですよ。

編集部　えっ、そうだったんですか!?

藤田　ちっちゃいときね。

――子ども黒帯だったんだよ。サッカーの前は空手少年だった。

藤田　**空手は6年以上やってたんすもん。**流派とかはよくわかんないけど、町道場で。でも、それは言わない約束だったのに（笑）。

――いや、これからフリーとして武器になるよ。

藤田　武器になんかならないですよ。**だって全然活かされてないですから（笑）。**

――組手が怖くて空手をやめたんだよね。中学生になると組手が始まるから。

藤田　**危ないからやめただけですよ。**でも、だったら（自分は）いま何をやってんだって話ですよね（笑）。

――そのときの自分がいまでも許せないらしいから。「なぜ俺はあのとき空手から逃げたんだろう」と。じつはアトランタ五輪の夢を追っていたんじゃなくて、空手をやめてしまったことがトラウマとなり、総合の世界に踏み込んだと。

藤田　なにを勝手にストーリーつくってんですか！　これは絶対言わないって言ってたじゃないですか（笑）。

――ダメ！　今日の衝撃事実は嫁さんがいたってことと、格闘技のベースが空手だったってこと。

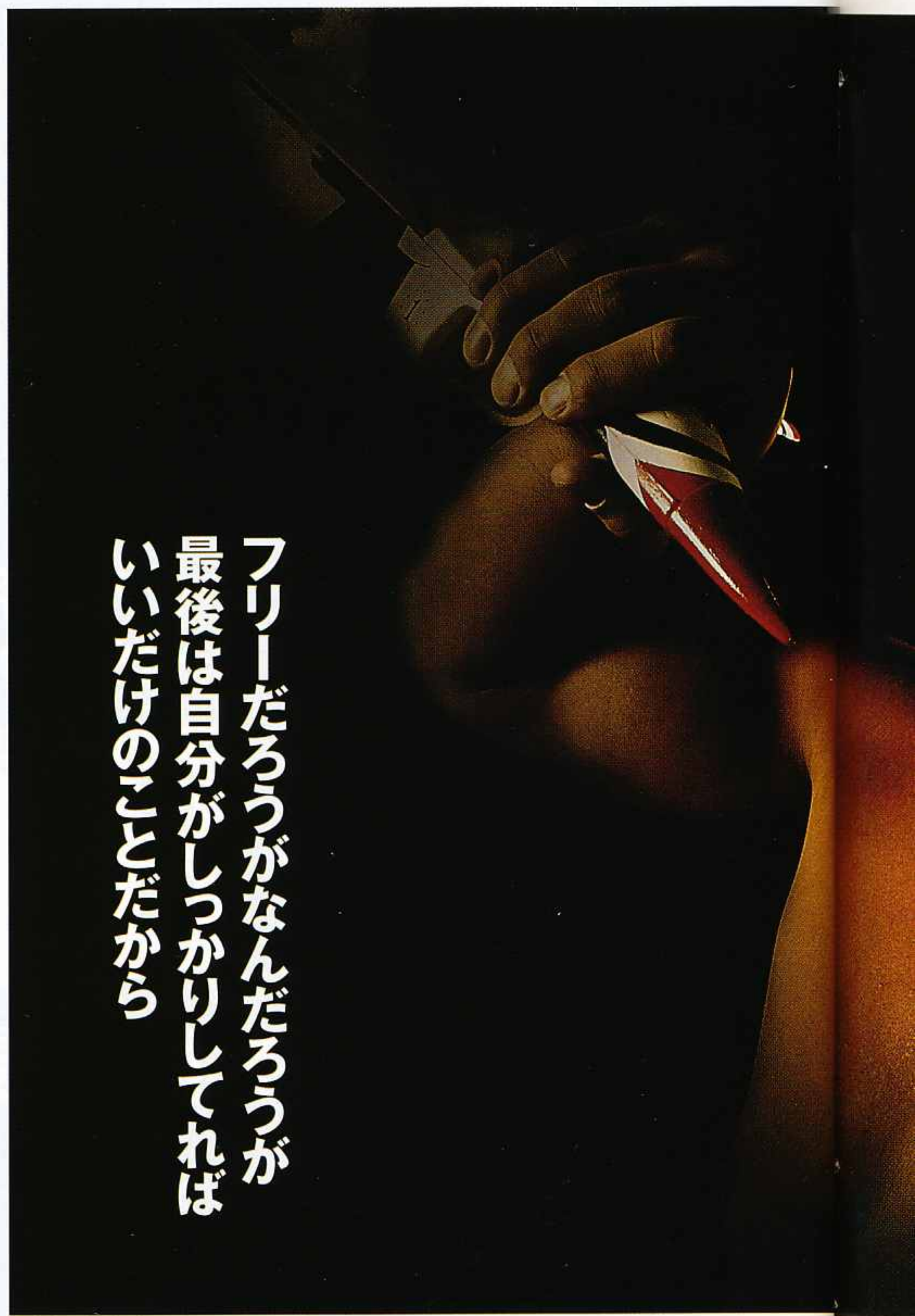
藤田　嫁さんいたっておかしくないでしょ！（笑）。

――そうだね、そろそろ言っとかないと、ある意味絶対ヤバイよ（笑）。この歳でこの風貌だからね。あとは空手家だったというのは大事にしないと。これはヒョードルもあらためて警戒するね。「フジタは空手の有段者なのか？」って、新たな情報に混乱するかもしれない（笑）。

藤田　………なんか今日のインタビュー、フリー潰しですよ。

――いや、あなたの人と成りが伝わればいいなと思って。あんまり伝わってないか（笑）。「猪木の傘の下から世界へ飛び出せ！」じゃないけど、5月のさいたまスーパーアリーナ、楽しみにしてます！

藤田　ちょっと勝手に決めないでくださいよ！　それで締めちゃうんですか？

――あるいは谷川貞治氏が頑張るか。いったいどうなるのであろう？　と。まあ、また後々正式に決定してからまた聞かせてください。今日はありがとうございました！

フリーだろうがなんだろうが最後は自分がしっかりしていればいいだけのことだから

KAZUYUKI FUJITA

藤田　**ありがとうございました！（ビシッ、と敬礼のポーズ）。**

【06年2月2日／都内某所の野獣鍛錬所にて収録】

【〝フリーの先輩〟GKの取材後記】

プロレス側にも格闘技側にも属さない特異な存在。あるいは双方に片足ずつ突っ込んでいる中途半端な存在。それが周りの見る藤田和之像だろうか？　ところが、ここにきて総合格闘技界を賑わせる藤田待望論。手のひら返しはやめろよな！と言いたくなる。みんな、ヒョードルだ、ノゲイラだ、ミルコだって、ガイジン相手にはしゃいでいたんじゃねえのか。オレはもう何年も前から言ってるんだよ。そのデッカイ頭蓋骨の中に、脳ミソのいっぱい詰まったニッポン最強のビーストがいるってことを。だけど、今回はしてやられた。「インタビューは世間話でOK。でも撮影は全面協力してね」とリクエストしたら、まさしくその通り。あの藤田が、鎖や飛行機といったギミックを持つなんて、おおよそあり得ない光景。これはついに解き放たれたか？　と思いきや、インタビューでは本当に世間話に終始しようとする。まあ、実際しゃべれない。その舞台が『PRIDE』であろうが、K―1になろうが、契約完了まではしゃべらない。それもまた藤田という男なのだ。だから今回はここまででご勘弁を。嫁さんがいること、小学校の6年間、空手をやっていたこと。いままでのタブーに触れたことでご容赦願いたい。これはフリーランス・藤田のプロローグに過ぎないのだ。

【これまで、ヒョードルだ、ノゲイラだ、ミルコだって、ガイジン相手にはしゃいでいた編集部の取材後記】

なんと34号ぶりとなった本誌の藤田和之インタビュー。読者が一番知りたい野獣の矛先はあきらかにされなかったとはいえ、藤田和之と古くから親交のあるGK金澤克彦氏が聞き手を務めたことで、いままで本誌読者にはピンときてなかったその人間性が滲み出る内容になったと思う。

そして人間性に加えて露わになったのは、試合直前でもないのに分厚く筋骨隆々とした肉体‼（ゴリラ体とでもいうべきもの）。もし藤田和之が『PRIDE』へ乗り込む決断を下せば、本当にヒョードルだ、ノゲイラだ、ミルコだって、ガイジン相手にはしゃいでいる場合ではないかもしれない――。恐るべき藤田和之の可能性を体感できた取材であった。あ、そんな逸材を早くから見いだしたGKは超偉いとも付け加えておきます！

〝超獣コンビ〟結成!!

藤田と共に“トップ選手が集まる道場”オープン!
最強レフェリーが明かす超野獣プロジェクト!!

和田良覚

「藤田君を世界最強の男にします!」

藤田和之と共に、もう一人の野獣が“闘魂の鎖”から解き放たれた!これまでUインター、キングダム、リングスを渡り歩き、一昨年からは猪木事務所に所属していた和田レフェリーが、藤田と共に独立。パーソナルトレーナーとして、藤田和之と二人三脚で歩むこととなった。そんな和田さんが考える「藤田和之・超野獣化プロジェクトとは何か?」。オープンしたての二人の道場「ハイパーストレングス」で話をうかがった。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫
designed by hisa (TwoThree)

——独立おめでとうございます（笑）。
和田　またフリーに逆戻りで～す（笑）。
——Uインター、キングダム、リングス、そして今回の猪木事務所。なぜか和田さんが行くとこ行くとこみんな会社畳んじゃうんですよね（笑）。
和田　みんなに言われてますよ（笑）。
——でも、凄いですよ。髙田延彦、前田日明、アントニオ猪木と業界のトップを総ナメにしていながら、ことごとく会社がなくなってるんですから（笑）。
和田　やっぱ僕のせいですかね？
——う～ん、どうなんでしょうね。
和田　ちょっと、そこは否定してくださいよ！　たまたまです！
——そういうことにしておきましょう（笑）。で、今回は和田さんが2年ぐらい前から所属していた猪木事務所が新日本プロレスに吸収みたいな形になるわけですよね。
和田　はい。そして僕は1月31日付で退社というか解雇になったんで。
——それで2月からは独立というか藤田和之選手とともにこの道場を立ち上げたわけですか。
和田　道場を立ち上げたっていうかね、これはもともと猪木事務所の道場だったんですよ。去年、猪木事務所も所属選手が多くなってきたし、ちょうどフィジカルトレーナーである僕もいるんで、自前の道場を持とうっていうことになって。
——和田さんはもともとトレーナーですもんね。
和田　そうなんです。僕はファンの方から見るとハゲちゃびんのレフェリーですけど、専門はもともとフィジカルトレーナーですから。僕が選手のフィジカル面を見られるし、藤田選手も穏和な性格なんで、いろんなトップ選手が集まれる場所。一般の方に解放するんじゃなくて、ホントにプロの選手が集まれる道場を作ろうってことになったんですよ。
——かつてのU系や新日本プロレスといった古き良き道場のいい部分は残しながら、最新のトレーニング方法でしかもプロ選手がオープンで集まれるというのは、凄くいいアイデアですね。
和田　だから僕もね、どうせやるんだったら一流のものをって考えて、トレーニング機材なんかも全部僕が選定して、一つ一つこだわったんですよ。だからここにある機材は見る人が見たら「凄いな」って思う機材ばかりですよ。
——ところが、そうやって道場を作り上げてる途中で、猪木事務所解体の話が持ち上がってきちゃったわけですか。
和田　そうなんですよ（苦笑）。事務所が機能しなくなったら、もちろんこの道場もなくなってしまうわけですよね。でも、せっかくこうやって機材揃えてね、手間暇かけていろんな部分も手作りで道場を作り上げてきたわけじゃないですか。それでご祈祷していただいて神棚も作りましたから、神様をお呼びしたわけで。ハッキリ言えば僕や藤田君、それから浜中なんかの魂が入ってましたからね。それをなくしてしまうのは、あまりにももったいないというか、残念なんで僕と藤田君で守っていこうってなったんですよ。

道場の中にはスパーリング用のマットのほかに、和田さん選定したこだわりの機材がズラリ。どれも"藤田仕様"を考えた、通常のジムにはないものばかりだという。中でも怪物的にデカいサンドバックは圧巻!!

猪木事務所はこういう形になりましたけど 僕と藤田君で道場を守っていこうって

——じゃあ、猪木事務所の道場になるはずだった場所を受け継いで、藤田&和田道場にしたと。
和田　そうです、二人三脚ですよね。猪木事務所はこういう形になりましたけど、僕はこの道場に人生賭けてましたからね。そして藤田和之っていう、本当に世界のトップに立てる男のお手伝いができれば、それはトレーナー冥利に尽きますから。その代わり真剣勝負ですよね。
——藤田和之を世界一にすると。
和田　もちろんそうです。その自信もありますし。僕はフィジカル面を担当しますけど僕だけじゃない。（藤田の）総合格闘技の先生であるマルコ・ファス先生だとか、あとはボクシングの先生。具志堅用高さんのところにいるトレーナーの野木丈司さんっていう、いろんな格闘家にボクシングを教えてる先生がいるんですけど、野木さんも藤田君のことを「タイソン並だ」って言いますからね。
——タイソン並ですか！
和田　いや、ホントに。もちろんボクシングのテクニック的にはまだまだかもしれませけど、とにかくパンチ力と踏み込みの速さが凄いんですって。だからそれぞれの役割分担で、藤田選手を強くするプロがついてるんですけど、みんな藤田君の潜在能力や素質に惚れ込んでますからね。
僕が担当するフィジカル面で言うと、まだ藤田君は60パーセントぐらいですよ。
——あれで60パーセント！
和田　フィジカル面で言えば、まだまだあと40パーセントは成長します。筋力的にも伸びますし、やっと股関節の使い方、肩甲骨の使い方、身体の軸のバランスとかを覚えてきた段階ですから。
——そんな段階であれだけの力を発揮してるわけですか。
和田　でも、これを１００パーセントにするには、けっこう時間がかかるんですよ。いままでの癖っていうのもあるし。ただ、逆に言うとほとんど我流であそこまで作ったんですからね、彼は。それをこれからは僕がコーディネートしていくっていうか。とにかく神経の伝達を上げる。投げるでも打つでも蹴るでも、なんでも神経の伝達ですから。藤田君もやっとそれがわかってきて、やっとなんたるかをつかんできた状態ですから。これから〝野獣〟を〝超・野獣〟にしていきますよ。
——じゃあ、いまは「超・野獣化プロジェクト」の第一段階という感じですか。
和田　はい。ホントに世界狙ってますからね。藤田君の場合はヘビー級の日本人としては桁外れというか。やっぱり規格外ですから。凄く楽しみだし、僕自身、ホントに人生賭けてますから。
——でも、いまの格闘技界って、欧米の凄い身体をした選手たちがいろんなトレーニングをやってますよね。そういう外国人選手と張り合っていかなきゃならないわけですけど。
和田　（力強く）大丈夫です！　僕のトレーニングスタイルとして目指しているのは、国士舘大学の陸上部監督やってる岡田雅次さんっていう先輩がいまして。その系統っていうのがハンマー投げの室伏広治選手のトレーニングの中にあるんで

すよ。で、この前、他の雑誌の取材で国士舘に行ってトレーニング見させてもらって、やっぱり僕のスタイルは間違ってないっていうことを改めて確信持てましたから。そりゃあ、たしかにマシンとかいいものがいっぱいありますよ。スポーツ競技は多種多様ですけど、でも、人間のやることにはなんら変わりないですから。投げる、打つ、飛ぶ、走る、すべての動作なんて、うまく股関節を使ってたり、伝達したりとか、そういうバランスなんですね。だからマシン等はそれほど重要視してないんですよ。

——マシンよりトレーニングのやり方スタイルが重要だと。

和田　そうです。スポーツってなんでも自分の力でバランスよく立って、それをうまく動かすだけだから。だから先輩も言ってましたね、「一畳分ありゃできるんだよ」って。それは工夫、やり方次第なんです。それも決して変わったことをやってるんじゃなくて、基本に忠実に。ただしそれが一番難しいんですよ、そのバランスだとか。

——なるほど。でも室伏選手を見たらわかりますよね、ハンマー投げなんて、もの凄い身体をした欧米人がゴロゴロいる中で、一番遠くまで投げるのはあの中では細身の室伏選手ですからね。

和田　関係ないでしょ？　ただの筋肉オバケじゃ通用しないと思いますよ。それはハンマー投げのスキルや筋力もさることながら、やっぱりバランスのよさと神経の伝達がちゃんとできてるからなんですよ。先輩なんかもそうやって強い選手を輩出してるし。それを僕はいかに格闘家に還元できるかという勝負ですから。

——その藤田選手はまだ次に上がる舞台は決まってないんですよね？

和田　これからですね。でも、どこに出るにしろ、僕は世界を獲ってほしいし、獲れると信じてますから。やっぱりヒョードルを倒すのは藤田和之でしょう！

——その期待はやっぱりありますよね。

和田　それはみんな言うでしょ？　もちろん勝負事だから絶対はないですけど、その可能性は十分秘めているんで。僕のおバカな頭とボロボロの身体をいっぱい使って（笑）、できる限りのサポートしてくつもりだし。その信頼関係もちゃんとできてます。ホントに自分の夢、人生を賭けてるみたいなところがあるから。

どこに出るにしろ世界を獲ってほしい　ヒョードルを倒すのは藤田和之でしょう！

和田良覚

「藤田君を世界最強の男にします!」

——藤田和之は人生を賭けるに値する男だ、と。

和田　そうですね。ボクシングの先生も言ってましたけど、藤田君に教えてると、自分が凄く疲れててもやり甲斐を感じて、教えてる僕らが興奮してしまうんです。それも毎回ですよ。だからウチのカミさんが「ホント、父さんは藤田さんと練習やってると嬉しそうね」って言うんですよ。いつも僕が家に帰ってくると「藤田君がこうだったんだよ、ああだったんだよ」って嬉しそうに話すみたいで（笑）。

——遊んで家に帰ってきた子どもみたいに（笑）。

和田　ホントそうですよ（笑）。だからこの年になってね、年甲斐もなく興奮してますよ。もう厄年も過ぎて、ハゲチャビンのオヤジがね、夢語ってるのもへんなんですけどね。子どものようにワクワクしてますよ。みんなで作り上げてって。だから僕はこれに関われて幸せだなって。

わだ・りょうがく■1963年2月25日、茨城県出身。174cm、98kg。1991年、UWFインター旗揚げにレフェリーとして参加。以後、キングダム、リングスへ移籍。02年3月のDEEP名古屋大会では格闘家としてもデビュー。アステカに1Ｒ2分54秒KO勝ち。“最強のレフェリー”ぶりを実証する。2004年9月より猪木事務所に移籍。現在は多くの格闘技団体でレフェリーを務める傍ら、フィジカルトレーナーとして「ハイパーストレングス」代表を務める。

——トレーナー冥利に尽きると。

和田　そうですね。僕のほかには有名で優れたトレーナーの先生がいっぱいいますよ。ただ僕の強みは、Uインターの頃からずっと選手と一緒に練習もしてきましたから、どんなもんかっていうのがわかるし。たとえば、スパーリングが多めになってきたら、身体のどこに負担がかかるかもわかるわけですよ。

——この世界でずっとすぐ側で選手を見てきてるわけですからね。そして自分でもDEEPに2試合出てるから選手の気持ちもわかると（笑）。

和田　たった2試合で選手の気持ちがわかるっていうのはおこがましいですけど、少しはわかりますから。自分の教え方はすべて経験に基づいているんで。いままでの経験は無駄じゃなかったということですよね。

——いろんな団体を渡り歩くハメになったけど無駄じゃなかったと（笑）。

和田　なかなかできない経験ですからね（笑）。そりゃこれまで試行錯誤はしましたよ。失敗もしましたし。でもやっと自分のトレーニングのスタイルも、これだっていうのができましたしね。そういうときに、この環境でできるっていうのは凄いラッキーというか。神様に感謝してます。あとは結果を出すだけです。結果が出せなかったら、僕はそれまでのトレーナーだし。結局、試合までの過程でどんないいことやっても、結果出さなきゃなにもならないのがプロの世界なんで。夢を持って努力して突き進むだけですよ。……って、すっげえ僕らしくなくて真面目な話ですみません（笑）。

——いやいや、いいですよ。バッチリです！　じゃあ今年は期待していいですね。

和田　もちろんです。あとは怪我だけ心配ですね。どうしても練習の過程で怪我はつきものなんで。

——じゃあ、もし藤田選手がケガしてしまったら、和田さんが責任を取って、和田良覚vsヒョードルに変更と（笑）。

和田　なに言ってんの！　そんなの即死決定でしょ！（笑）。

——ダハハハ！　冗談はさておき、今年の藤田選手にはおおいに期待してます！

【06年2月2日／『ハイパーストレングス』にて収録】

心臓に毛が生えているという表現ではすまない!!

〝神〟をも恐れぬ野獣伝説

文／中村カタブツ君

『PRIDE無差別級GP』参戦が噂される藤田和之といえば、新日時代から格闘技方面の実力を高評価される一方、そのえげつない発言の数々でも好評を博してきた、ある意味マット界の野蛮人として知られる存在だろう。

なにしろ、彼の言葉は「野獣」のキャッチフレーズどおり、どれもストレートで生々しいアニマルぶり。例えば、2000年の『PRIDE・GP』で華々しい勝利を挙げていた頃、古巣の新日本プロレスの選手たちは、というより長州力は「中西学や永田裕志あたりがやっても勝てる」といったニュアンスの発言を連発していたものであった。すると、藤田はこの失礼極まりない態度に猛然と反撃したのである。それもこんな言葉で――。

「やったことのない奴らが語るなよ。マスターベーションばっかりしている童貞くんがセックスを語るようなもんだろ。ふふふ」と。

まさに無差別級な感じの容赦のなさ&濃さだろう。だが、藤田の標的は、新日現場監督として猛威をふるっていた当時の〝天下の長州力〟なのである。アマレスにおいても、プロレスにおいても大先輩である、そんな長州に向かって「童貞くん」呼ばわりなのだから、怖い者知らず。じつは、藤田のこのふてぶてしさは、新日入門当時から発揮されているもので、『野獣降臨』(藤田和之著)ではこんなエピソードも自ら披露している。

「その日は朝帰りして『いいや、今日の合同練習は』と思って部屋で寝てたんですよ。そしたら『なんだお前は!』って(長州に)起こされて殴られました。で、『座れ』って言うんで、『なんで座んなきゃいけないのかなぁ』と思いながらイスに座ったら、『何やってんだ、お前。下だーッ!』って。それで、あぐらをかいて床に座ったら、『バカ! 正座だーッ!』って。俺、頭痛くなっちゃった(苦笑)」

これ、明らかに藤田が悪いだろう。酒飲んで朝帰りして面倒だから勝手に朝練をパス。それを怒られているのにイスに座るわ、あぐらはかくわで、その仕舞いに「俺、頭痛くなっちゃった」ってなんだ、それ! 先輩を先輩とも思っちゃいないようなのである、素で。

そのうえ、巡業バスに乗れば、ベテラン勢が座るはずの広い前部のシートを勝手に占拠。それも長州の真横に座ってそのまま大イビキで熟睡して、「なんでお前がここにいるんだ!」と激怒させる。ところが、藤田はなんとも思わなかったのか、長州休業中にはついに特等席の長州シートにドカッと座り、当然のように気持ち良く眠りについたのであった。それだけではない。猪木さんの付き人時代にはこんな素敵なエピソードも残っている。

バスとは違い、飛行機に乗る際には睡眠薬がないと眠れないという、意外に繊細なところがある藤田。そんな彼が猪木さんと二人で海外に行くことになったとき、当然、藤田は機上の人となった途端、起きてる猪木さんを尻目に薬を飲んで即座に熟睡開始。ところがというか、案の定というか、目的地に着いても彼は一向に起きようとしないのである。となれば、起こすのは師匠の猪木さん以外にはいないわけで、最初は「おい藤田、起きろ」と優しく言っていたのに起きる気配一切なし。周りの乗客は、「何をしてるんだ、猪木は?」と注目するのは当然で、次第に立場がなくなってきた猪木さんは、ついに闘魂ビンタを連打! それでも起きない藤田。最後には弓を引くナックルパートまで叩き込んだのに、まだ起きない! 最終的には、猪木さんが彼をおんぶして飛行機から降ろしてあげたという、アントンちょっといい話になったのであった。ホント、ひどい付き人がいたもんである。だが、このあとの猪木さんの行動もじつは凄かった。空港でもまだ熟睡中の藤田を蹴りまくり、それでも起きないとみるや、最後はなぜかチョークスリーパーで絞め落としたという。寝ているのに。たぶん、殺そうと思ったのであろう。

それにしても、闘魂ビンタからチョークスリーパーまで、アントン・フルコースを食らってるのに、寝こけている藤田こそバケモノ。それゆえに猪木イズム最後の継承者と言われるのも納得で、当然ながら「いつ何時誰の挑戦でも受ける」の言葉も継承中なのだ。それも、「いつ何時誰の挑戦でも〝本当に〟受ける」と〝本当に〟を付け加えるから、ここでもなんだか師匠をないがしろ。だが、実際、彼は2004年の『Dynamite!!』では、アテネ五輪のレスリング金メダリストのカラム・イブラヒムをわずか1分7秒右フックでKO。エメリヤーエンコ・ヒョードル戦ではヘビー級ファイターの中でただ一人、ヒョードルをKO寸前に追い込むなどの結果を残してその言葉を証明してきたのである。しかもリング外では、こんなファイトまで実践していたのでちょっと紹介……と思ったら「とても濃すぎる内容のため」編集部から引用自粛を要請されたので、各自調査! とにかく、彼にとってはあらゆる場所がヒャッホーな〝マット界〟なのであった。

藤田和之とはこんな男なのだ。自覚なくふてぶてしい態度を貫き、口を開けばえげつないセリフをやっぱり自覚なくチョイス。そして、リングに上がれば、じつに頼もしい存在なのである。今年の『PRIDE無差別級GP』では、そんな藤田の絶品かつ絶倫ぶりの人間性に乗るのがおもしろいと思えるので、『PRIDE』参戦を熱望するわけだ。野蛮人万歳!

2.26『PRIDE.31』で
なんとホドリゴ・ノゲイラと激突!!

潔 司

Dreamers PRIDE.31
Road to 無差別級GP

art from others.

なぜ、いまノゲイラ戦なのか?

"孤高の選択"の真意を読み解け!!

聞き手&文／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　designed by matsu (TwoThree)

まったくこの男だけはわからない!

昨年の大晦日『PRIDE男祭り』にて、桜庭和志との〝SADAMEの一戦〟を3年連続オファーされながらそれを辞退。〝頑固者〟ぶりを見せつけたばかりの田村潔司が、2・26『PRIDE・31』に出場決定。しかも相手は、前PRIDEヘビー級王者、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ!

階級も同じく多くのファンが望んでいる桜庭戦のオファーには頑なに首を縦に振らなかった男が、自分より約20キロも体重の重いヘビー級トップクラスと闘う意図はどこにあるのか? この、どう考えても絶対不利な闘いに、田村はどんな意味を見いだしているのか?

謎、謎、謎。

ファンの頭の中をクエスチョンマークでいっぱいにするところから、この男の闘いはすでに始まっているのか? それにしてもわからない。

田村潔司とノゲイラは、いまから6年半前の99年10月9日、リングスKOKトーナメント2回戦で一度対戦している。その頃の田村は〝グレイシー越え〟を果たしたリングスのエース、対するノゲイラはまだ無名の若き格闘家の一人ながら、結果はノゲイラの一本勝ち。田村は敗れながらも、この若き柔術家を絶賛していた。

田村は今回、このノゲイラと闘うことで、『PRIDE』のリングで〝回転体〟と呼ばれた寝技の攻防を見せようというのか? それともこの闘いの先に無差別級GPを見据えているのだろうか?

そういえば、田村は最近、『赤いパンツの頑固者』に続く、2冊目の著書を発売した。そのタイトルは『孤高の選択』。

田村にとってノゲイラ戦という〝孤高の選択〟をした真意はどこにあるのか? このインタビューは、ノゲイラ戦決定前に行なったため、ハッキリとは語っていないが、田村の言葉の端々から、それを読み解いてほしい。

田村

Selection of apar

みんな逃げたくなるほどの悩みがないから
俺が逃げてるように見えるんだろうね

——今日は田村潔司の謎というか、「なぜ?」という部分をいろいろ解き明かしていこうと思うんですけど。

田村　ほうほう。

——まずはなぜヘアスタイルを変えたのかということからうかがいたいんですけど（笑）。

田村　髪切っただけだよ（笑）。

——いやぁ、昨日のDEEPで髪を立ててた田村潔司を見かけたんで、どういった心境の変化かなと（笑）。

田村　そんなね、お任せで切ってもらって、その足で後楽園行っただけなんだから。

——そうなんですか。30代後半を迎え、ちょっと若作りがスタートしたのかなと思って（笑）。

田村　でもね、さすがに外見から入んなきゃいけない歳になってきちゃったなとは思ってるよ（笑）。

——たしか12月で36歳になったんですよね?

田村　そう、36歳。

——四捨五入で40歳。

田村　うるさいよ!（笑）。なんで四捨五入するのか、意味がわからん。

——デビューして18年ですか。

田村　平成元年デビューだからそうだね。5月で18年じゃないかな。

——昨日、田村さんの新刊である『孤高の選択』（東邦出版・刊）が発売されましたけど、このタイミングで、これまでの格闘家人生を振り返るような本を出したのは、なにか意図があったんですか?

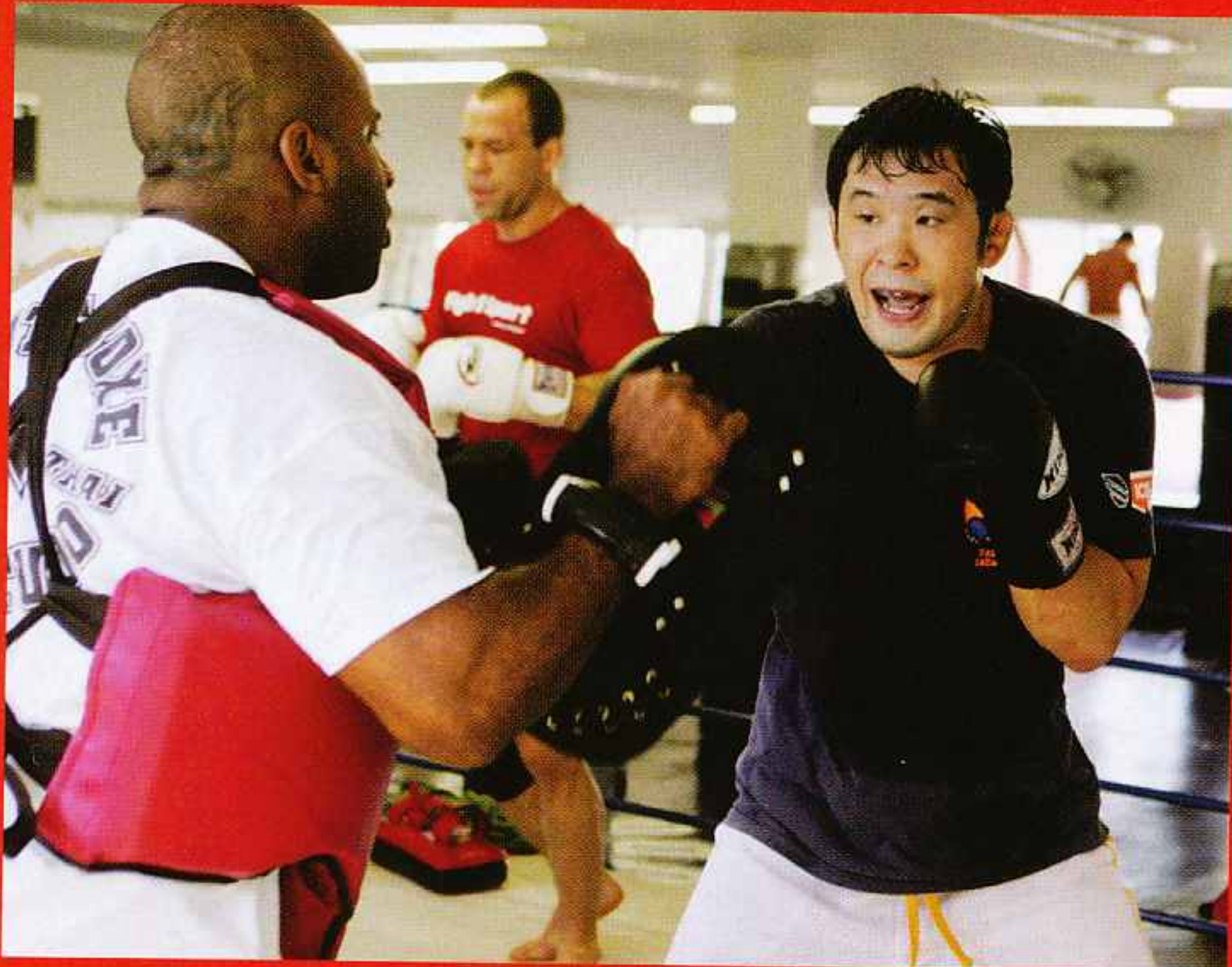
田村　べつに意図なんかないよ。「本を出しませんか?」って話になって、「出そうか」って話になっただけだから。

——でも、いままであんまり深くは語ってこなかった部分も、一通りまんべんなく語ってますよね。

田村　そうね、いつかはしゃべろうかなと思ってたこともあったし、まだまだしゃべってない部分って言ったらへんだけど、本音の部分はまだしゃべれないところもあった。

——まだ本にも書けない隠された本音がたくさんあるわけですね。

田村　うん、話し忘れた部分もあとになって思い出すときもあったかな。

『孤高の選択』を読むと、田村自身、いつかはやらなければならないと覚悟を決めている感のある桜庭和志戦。もしかしたら、この一戦が無差別級GPで実現することもありうるのだろうか?

——でも、そういうこと言うと、本の売れ行きに響きますよ（笑）。

田村　そう?　押し売りするわけにはいかないから。買ってくれる人は買ってくれるんじゃない。全部読んだ?

——読みましたよ。昨日、水道橋の本屋まで行ってちゃんと買って。

田村　へえ、偉いねぇ。

——まぁ、取材前にいちおう読んどかないといけませんからね（笑）。

田村　どうだった?

——正直言って、田村さんをよく知っている人間からしたら「衝撃の事実」みたいなものはありませんでしたけど、その時々での田村潔司の決断するくだり。どのへんにこだわりを置いているのかがわかって、そこは興味深かったですね。

田村　まぁ、自分の歴史であったり軌跡だからね。でも、捉え方って人それぞれだからさ。少しでもこの本を読んで感銘を受けたり喜んでくれる人がいたら、出した甲斐はあるよね。

——感動とは違いますけど、田村さんって『PRIDE』の試合についてこんなに真剣に考えてるんだというのはありましたね。

田村　真剣だよ!　真剣だから悩むんじゃん。

——でも、『PRIDE』初参戦のシウバ戦のとき、反PRIDE的な発言があったんで、「本意じゃないけど、仕方なく『PRIDE』に出てる」と思ってる人もいると思うんですけど、これ読むと、『PRIDE』というか、この競技に真剣に向き合ってることがわかりましたね。

田村　やっぱりそのスタイルに対応しなきゃいけないなっていうのがあるから、そこは真剣だよ。

——で、この本のタイトルは『孤高の選択』ですけど、田村潔司が30代後半を迎え、髪も切り、これからどんな選択をしていくのかということを聞きたいんですけど。

田村　これからのことはこれからでしょ。本に書いてたように、俺が選択をして、イエスかノーかって出さなきゃいけないんだけど、人ってさ、自分一人じゃ決められないときもあるから。だからいろんな人に相談をしたりとかして、最終的には自分の決断をしなきゃいけないから、基本的には俺優柔不断なの。

——そういうイメージはありますけど、実際そうなんですか?

田村　実際、優柔不断よ。っていうか、やっぱり大事なことほど悩むからね。「どうしようか、どうしようか、俺はどうしたらいいんだろう?」。悩んで悩んで逃げ場がなくなって、どうしても決断しなきゃいけない状況になったりさ。

——それが髙田さんの引退試合だったり。

田村　うん。だからね、みんな逃げるような悩みがないから、俺が逃げてるように見えるんだろうね。ホント逃げたいぐらい悩むんだから。

——それなのに、逃げたくなるような選択をなぜか定期的に突きつけられてるわけですね（笑）。

田村　うん、ホント逃げたいよ。『孤高の選択』っていったらキレイなタイトルだけどさ、悩んで逃げ場がなくなったときの選択だからね。そのうちうつ病になるよ。よく経営者の人でさ、社員から嫌われて、自分の給料取れなくて、金も回んなくて、よそからお金引っ張ってきたりとか、踏んだり蹴ったりになって首吊りとかする人いるけどさ、そういう人は真面目なんだろうし、責任感が強いんだろうし、逃げ道がないからそういうことになっちゃうんだろうし。そ

田村潔司
Selection of apart from others.

99年10月9日■第2回リングスKOKトーナメント2回戦で実現した田村vsノゲイラ。当時、リングスのエースだった田村としてはどうしても負けられない試合だったが、ノゲイラの関節地獄の前に2R一本負け。その後、ノゲイラはKOK優勝。田村はこの半年後、リングスを退団した。

ういう人の気持ちがね、凄いわかる。みんなやっぱり悩んでるし、俺はここまでいろんな決断をしなきゃいけない立場になるとは全然思ってなかったからさ。

——それにしても、そういう大きい局面がよく訪れますよね。

田村　だから逆に言うと逃げ道を作っちゃダメだね。俺もたまに逃げるんだけど、逃げられるっていうのは、逃げられるぐらいの用件なんだもん。ホントに大事なことって逃げたくても逃げられないからね。

——じゃあ毎年話題になり、そしてこの本にも書いてある桜庭選手との試合っていうのは逃げられることだったんですか？

田村　桜庭は桜庭でまたそれと一緒にしたらダメ。だから、書いてない本音の部分もあるんだけど、それはちょっとそっとしといて。

——桜庭戦については「逃げた」というより、いまでも選択を悩んでいるという感じですか？

田村　だからそっとしといて。絶対そういう誘導尋問には引っ掛からん！

——ダハハハ！　まあ、あの本を読んでも桜庭戦っていうものにちゃんと向き合ってるんだなっていうのは、端々から伝わってきましたけどね。

田村　まぁ、ちゃんと話は聞いて、ちゃんと悩んで、ダメならダメで断らなきゃいけないから。

——では、桜庭戦は置いておいて、今年の田村潔司はどんな選択をしていくんですか？

田村　それは言える部分と言えない部分があってさ。言える部分は、『頑固プロレス』と『スタイルE』を見守ることだね（笑）。

——（無視して）本誌独自の取材によると、田村さんが近々、大きな試合、ハッキリ言うと『PRIDE』でノゲイラ戦を控えているってことをつかんだんですけど。

田村　うん……まだ発表できる段階じゃないけど。今回は俺一人で悩んでる。ちゃんと自分で判断する努力をしてる。でも、現時点では決まってないから。決まってないことは話せないから、そこは泣いてちょうだい。

——でも、もうオファーはとっくに届いていて、交渉も大詰めではあるんですよね？

田村　だから発表できる段階にならなきゃ言えないって言ってんじゃん（笑）。人にはいろいろ事情っていうのがあるし、段階もあるからさ。俺一人でフライングしちゃうと周りに迷惑かけちゃうでしょ。言っちゃいけないことをフライングしてしゃべる人もたまにいるけどね、○○とかさ。

——ダハハハ！　いちおう伏せ字にしておきましょう（笑）。ちなみにやるやらないは別として、無差別級の試合についてどんな考えをお持ちですか？

田村　無差別級は……やる選手本人が納得してりゃいいんじゃないの。

——田村さんはどうなんですか？

田村　わからん。

——わからない（笑）。

田村　だっていま現時点で同じ階級であるミドル級だってさ、日本人選手と外国選手とは通常体重で10キロぐらいハンデがあるわけだからね。無理な話だよ！　いまは昔よりは階級がちょっとずつ増えてるけど、それでも10キロとかそういう幅があるわけで……。一番楽なのは、ホント純粋に83キロとか84キロとか、双方がお互いの体重に合わせるっていうのが理想だよね。ただ、そういうわけにもいかないだろうから、無差別ってその無理の壁を壊したいという気持ちもあるよね。

——逆に田村さんは『PRIDE』の83キロ級（ウェルター）でやってみようとかって思ったりしないんですか？

田村　やってみたい気もあるよ。83キロがベストっちゃあベストだね。

——いまは何キロあるんですか？

田村　85キロぐらいだね。

ホントは83キロ以下がベストの階級だけど〝孤高の選択〟をしなきゃいけないのかなと思う

——じゃあ、ちょっと絞ったらすぐじゃないですか。

田村　基本的に俺は無理してこの体重維持してるから。飯を抑えたら83キロに簡単になるの。

——そうなんですか。じゃあ83キロでやりましょうよ。

田村　何を簡単に言ってんの、君（笑）。

——提言ですよ、提言。桜庭さんにも83キロに落としてもらって、ウェルター級頂上対決として田村vs桜庭戦をやりましょう！

田村　だから簡単に言うなって！

——でも、今年は無差別級GPとウェルター級GP両方開催される話もありますから、どちらかのオファーはありそうですよね。

田村　そう？　まあ、孤高の選択をしなきゃいけないかな。でも、その前に片付けなきゃいけない〝洗濯物〟がたまってるから。それからだけど、先に宣言しちゃってもいいかもね。

——どんな宣言ですか？

田村　俺は石橋を叩いて渡るってパターンなんだけど、もう「ここに行きます」って宣言をしちゃってもいいかもしれない。たとえばダイエットでもさ、自分だけでやってると先延ばししちゃったりするじゃん。だったらみんなの前で「3カ月後に5キロ痩せます」とか宣言しちゃって、自分にプレッシャーをかけたほうが達成できそうでしょ。

——なるほど。じゃあ田村さん、ここで宣言しちゃいましょう！

田村　いや、いまはしないよ。

——しちゃいましょうよ（笑）。

田村　だから俺にも事情があって、いろいろ片付けなきゃいけないことがあるし！　ホント孤高の選択っていう洗濯物がたまってるんだから、もうちょっと待ってて！

【06年2月6日／登戸・華屋与兵衛にて収録】

田村潔司

Selection of apart from others.

たむら・きよし
1969年12月17日、岡山県出身。第2次UWF、Uインター、リングスを渡り歩いた生粋のU戦士。97年には初代リングス無差別級王者に輝く。2003年には『U-STYLE』を旗揚げ。かねてから桜庭和志戦が期待されながらも、なかなか首を縦に振らない頑固者。180cm、88kg。

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラvs田村潔司

対戦正式決定直後 両者に電話取材で直撃！

2・26『PRIDE・31』最後の1カードとして、ついに正式決定したノゲイラvs田村。この原稿締め切りの13日現在、両者からこの一戦に向けての正式なコメントは出されていないが、本誌はノゲイラ、田村両選手に電話取材を敢行！ 対戦への意気込みを語ってもらった。（聞き手／堀江ガンツ）

前回闘ったときとは違う技で一本勝ちしてみせるよ！

——ノゲイラ選手、練習追い込み期間に申し訳ありませんが、よろしくお願いします！ 調子はどうですか？

ノゲイラ 最高だよ。去年はゆっくり治療ができたから、ヒジのケガもすっかり治ったし、いまは『PRIDE』で闘い始めてから最高の体調だと思う。だから早く試合がしたいよ。大晦日は試合のチャンスがなかったから、そのぶん、2月の試合にぶつけるつもりだよ。

——大晦日の『男祭り』のビデオはご覧になりましたか？

ノゲイラ うん、見たよ。ミルコvsハントとゴミvsサクライが印象に残ったね。とくにゴミは素晴らしかったよ。あとはもちろんアローナvsシウバもね。

——ミルコvsハントはどんな感想を持ちましたか？

ノゲイラ この二人はこれからボクが闘う可能性のあるトップファイター同士の闘いだから、もちろん興味があったし、ミルコがやられたのを見て、次はボクがハントとやってやる！ って思ったよ。

——おぉ！ ノゲイラvsハントですか。それは見たいですね。

ノゲイラ 最初に言った通り、いまは絶好調だから、2月はヘビー級のトップファイターと闘うつもりでいたんだ。だからハントでもいいし、ジョシュでもいい。ミドル級だったらGP王者のショーグンとやってもいいと思ってた。そのつもりで練習していたから、相手がタムラになると聞いて、ちょっとビックリしたね。

——田村潔司という名前を聞いて、やっぱり拍子抜けした部分はありますか？

ノゲイラ ハッキリ言えば、これは調整試合なのか？ って思ったよ。

——調整試合！

ノゲイラ タムラは立ち技も寝技もうまい、トータルに優れたいい選手ではあるけど、何年も前に勝っている選手だし、ボクはあの頃よりもずっと強くなっている。しかも自分よりずいぶん体重も軽い相手だから、正直言って拍子抜けした部分はたしかにあるよ。

——ボクもちょっといまのノゲイラ選手と田村選手が闘うのは無謀だと思うんですけど、なぜ田村選手はこのカードを承諾したと思いますか？

ノゲイラ ちょっとわからないけど、前回の試合も寝技中心のいい試合だったから、ボクとグラウンドで勝負したいんじゃないかな。

——でも、ヘタしたら寝技に行く前にパンチで決まりそうな気もするんですけど（笑）。

ノゲイラ ここ2～3年、ボクシングの練習を一生懸命やってきたから、KOする自信はあるよ。でも、ファンがボクとタムラの寝技の勝負を見たいというなら、あえて寝技で勝負してもいいと思う。前回も一本で勝ってるけど、今回は前とは違う形で一本取ってみたいね。

——じゃあ、新しい技が見られたりする可能性もありますか？

ノゲイラ 試合展開にもよるけど、いろいろ試してみたいとは思うよ。2年前のGPではスピニングチョークを初公開したけど、今回も何か新しい技でファンを驚かせてみたいという気持ちもある。〝ウッチー〟とかね（笑）。

——ウッチーってありましたね、そんな技が（笑）。そういえば、その技が生まれるきっかけになったアナウンサーのウッチーが今度結婚するんですよ。

ノゲイラ へぇ、そうなの？ じゃあ、なおさらお祝いのために極めなきゃいけないな。トライしてみるよ（笑）。

——なにか凄く余裕ですけど、田村戦で気をつけることはありますか？

ノゲイラ 申し訳ないけど、正直言ってないね。寒い日本で風邪をひかないように気をつけるよ。ボクの今年の目標はあくまでヒョードルを倒してGPで優勝すること。だから、ここでつまずいてられないし、しっかり一本で勝って、5月からのGPに勢いをつけるよ。

——わかりました。では、日本でお会いしましょう。ありがとうございました！

【06年2月13日／国際電話にて収録】

決まったからにはやるもう本能に任せるしかない！

——ノゲイラ戦が正式決定したわけですけど。

田村 まだ決まってないでしょう。

——いや、残念ながらもう二日前に正式に発表されました（笑）。

田村 あ、そう（笑）。

——早速ですが、なぜノゲイラと闘おうと決心したんですか？

田村 いや、とくに理由はない。

——ズコッ！

田村 もういまさら理由なんかないよ。頑張るだけだね。

——体重差が約20キロあるわけですけど、そういった体重差がありながらやろうというには、なんらかの考えがあってのことだと思うんですけど。

田村 考えはあるけど、試合が決まったらそれはもうやるだけだから。やるっきゃない、それだけだね。

——ノゲイラとは6年半前に一度やってますけど。

田村 もう6年半も前なんだ。

——あれからノゲイラのイメージって変わりましたか？

田村 全然立場は逆転しちゃってるからね。俺がもちろん胸を借りる立場だから、まあ頑張りますよ。

——前回の試合も一本負けは喫したものの、内容的にはスイングしたいい試合だったと思うんですよ。今回も『PRIDE』でありながら、そういったスイングしたいい試合をノゲイラとしてみたいという気持ちはありますか？

田村 いい試合をしたいのは毎回思ってるからね。それができるかどうかは、やってみなきゃわからないけど。

——ノゲイラは相手としていい試合ができる相手だとは思いませんか？

田村 それはちょっと微妙だけど、まあ仕掛けてくるとは思うから、ポジショニングや体重のかけ方が重要にはなってくるだろうね。

——じつはノゲイラからもコメントをもらってるんですけど「タムラはいいファイターだけど、いまの自分にとっては調整試合だ」と言ってるんですよ。

田村 煽るねぇ（笑）。でも、どうも思わない。試合を見てもらえばわかるでしょう。こっちはもちろん調整試合どころじゃなく、精一杯やるだけだけどね。

——こういう階級を超えた試合の先には、無差別級GPがあるんじゃないかと思うんですけど、それは視野に入ってますか？

田村 その先を視野に入れるというのはないな。毎回、一試合一試合に生き残りを賭けてるからね。

——では、生き残ったらGPもあり得ますか？

田村 終わらないと考えられないよ。

——GPにはかねてから対戦を希望する吉田秀彦選手も出場が濃厚ですけど。

田村 だから終わってから考えるって！

——では、ノゲイラ対策はもう当然考えてますか？

田村 考えてできるもんでもないからね。まあ、ノゲイラもボクシング的な部分では前よりはうまくなってるし、リーチも長いだろうから、距離をしっかり考えてね。だから重要なのは間合いと相手の出方でしょう。相手がスタンドで出てきたら、スタンドの体重差っていうのはパンチの重さだけだから。間を取ってれば体重差は関係ないし。でも、どれだけパンチが伸びてくるかっていうのはわからないから、これはもう行き当たりばったり。本能に任せるしかないね。だからもうホントに一生懸命やる、それしか言えないね。

【06年2月13日／電話取材にて収録】

PRIDE3強崩壊か!?

北欧の巨人、ついにPRIDE上陸!!

～なぜ、この男はいままでPRIDEに出なかったのか～

ユノラフ・エイネモ

ついに『PRIDE.31』への参戦が発表された
北欧の巨人、ユノラフ・エイネモ!
彼は03年のADCC99キロ以下級の世界王者であり、
格闘技マニアのあいだでも『PRIDE』の3強に食い込む
「最後の大物」として期待値の高い選手である。
ここでは、『PRIDE』でデビューするまでの
エイネモの半生を追ってみた。
波乱万丈の「北欧の巨人」の人生を刮目してみよ!

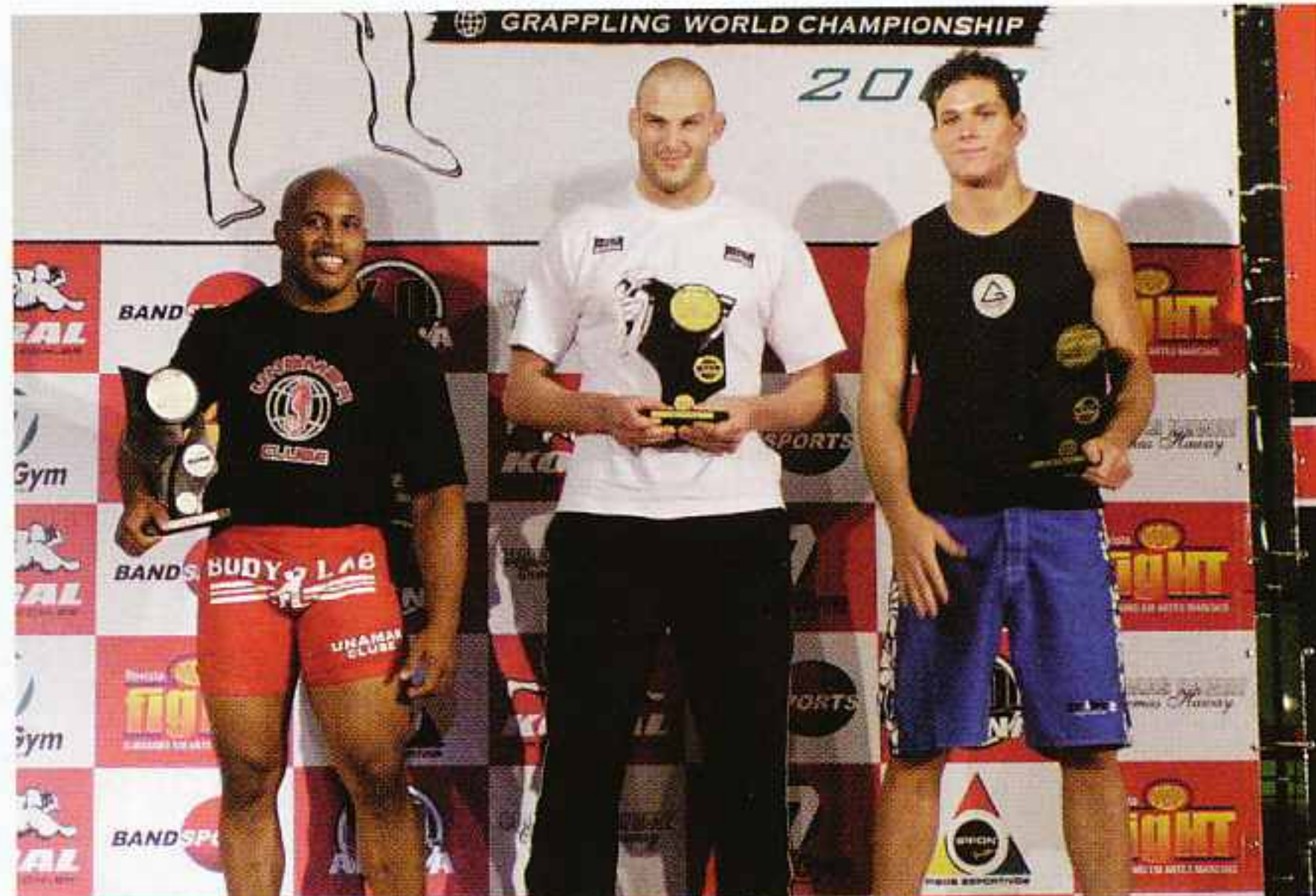
本文／大川義之　撮影／菊池茂夫
試合写真／丸山剛史、ブッカーK
構成／ジャン斉藤、松下ミワ
designed by matsu (TwoThree)

ユノラフ・エイネモに会ったことのある人なら、彼がとにかく笑顔を絶やさないとびっきりのナイスガイであり、周囲への配慮の行き届いた人物であることを知っているだろう。そんなエイネモの少年時代は、さぞかし優等生なのだろうと思ったが、返ってきた答えは少々意外なものだった。

「僕は常にナイスガイであろうとしてきたけど、誰でも時には少し自暴自棄になることがあると思う。僕はいい学生ではなかったし、かなり早い時期に学校を辞めているんだ。でも学校やストリートでのケンカはそれほどをしたことはない。ただ、そういうことは誰にだって起こりうることだけどね」

ストリートファイトの経験はないと言うエイネモだが、数年前に多数の警官相手に大立ち回りを演じたこともあると聞く。ノルウェーのオスロでのある夜、エイネモではない連中がケンカを始め、通報を受けた警官がぞろぞろやって来た。偶然エイネモもそこにいたため警官はまとめて連行しようと、エイネモも捕まえようとしたが、そこはアブダビ・コンバット（以下ADCC）優勝&BJJ茶帯の格闘巨人。ガタイがK－1ファイターほどもある警官（北欧の警官はデカい）を次から次に投げ飛ばし、その手のほどこしようもない強さに、警官たちは次第に遠巻きになり、ついには逮捕をあきらめて帰ったというステキなエピソードがある。戦闘モードに入ったエイネモは、いつ何時、相手が警官であっても獰猛なバイキング戦士と化すのである。

エイネモといえば、ADCCで名を上げた男。次にADCCでのエイネモの活躍を紹介しよう。01年、かつてのマネージャーであるチーム・スカンジナジアのマルコ・レイステンの接触によってADCCへの出場権を得たエイネモは、トーナメントでい

2003年のADCC88－98.9キロ級では、決勝でアレッシャンドリ・カカレコと対戦し、チョークスローパーでみごと一本勝ち。さらに、2005年は万全のコンディションではなかったものの、4試合中2試合で一本勝ち。果たして、この実力を『PRIDE』で発揮できるか!?

なぜ、これほどまでに早く成長できたのか、説明できないね

きなりヒーガン・マチャド（マチャド兄弟の三男。柔術でヒクソンを最も苦しめた男）、ホーレス・グレイシー（ヒクソンより強いといわれた故ホーウスの息子）という名だたる強豪を破り、99キロ以下級で堂々のベスト4入りを果たす。ヒーガンは彼との激闘を終えた後、酸欠でブッ倒れ、ホイラーはこの大会で最も印象に残った選手としてエイネモを選び「非常にテクニカルで、末恐ろしい選手」と言わしめた。エージェントがエイネモ側と接触をしたのも、このADCC大会の活躍を見てのことである。

彗星のように現われたエイネモは格闘技を始めた話をこう語る。

「以前柔道をやっていた友達の一人が、ちょうどブラジル旅行である柔術を学んで帰ってきた。僕はその時ちょうどウエイトトレーニングをやっていて、他にも何かやりたいと思っていたから、一緒に何かやろうと思った。何人かの友達と小さな場所を借りて、BJJのトレーニングを始め、いくつかのマットを手に入れ、レスリングの練習も始めたんだ。これが1998年の終わりごろさ。約6カ月間そこでトレーニングした後、僕はSBJJA（スカンジナビアンBJJアカデミー）に参加した。彼らはもっと大きなアカデミーを持っていて、リカルド・ボレイニウスとヤリ・ヘイスカネンによって運営されていた。彼らはマルーロ・ヨギとの関係を持っていたから、この3人はみんな僕の先生ということになる」

驚くべきことに、エイネモが01年にADCCに参加した時は、柔術を本格的に始めて3年も経っていなかったことになる。

エイネモは続く03年のADCCで、前回の成績がフロックでなかったことを証明するかのように、全4試合中3つの試合で一本をとってみごと優勝。格闘技環境としては後進国であった北欧で、どうしてエイネモのように短期間でこれほどテクニカルな選手に成長することができたのだろうか。

「正直、僕にもわからないんだ。『人は何か才能を持っている』と言う以外に、自分がなぜこれほど早く成長できたのか、説明できないね。もちろん、とてもたくさん練習したし、いつも強い関心を持ち続けていたよ」

このように順風満帆に見えたエイネモの格闘技人生だったが、03年に修斗のリングで日本デビュー戦を勝利で飾ったあと、エイネモは練習中に足の親指を骨折する。「指が曲がったままでは具合が悪いから」と軽い気持ちで手術を行なったところ、これがなんと彼を引退の危機にまで追い込む大事件に発展する。

「その足の手術は、僕にとってまさに悪夢だった。医者は簡単な手術だと言っていたし、僕はその日のうちに退院することになっ

【ユノラフ・エイネモ戦績】

■MMA戦績5戦5勝

○ vs Jan Jarvensivu［1R 4:20 腕ひしぎ十字固め］（2000年10月6日『Focus Fight Night 4』）
○ vs エルッカ・シャルストーン［1R 2:22 TKO］（2000年12月2日『FinnFight 4』）
○ vs オラフ・イネット・フェルト［1R 1:07 TKO］（2001年11月4日『修斗』）
○ vs エフェート・フェイート［1R 1:54 TKO］（2003年2月22日『修斗』）
○ vs ミンダウガス・クリカウスキス［1R 0:47 腕ひしぎ十字固め］（2003年11月3日『修斗』）

■ADCC戦績　16戦12勝4敗

▼ADCC 2001 -99kg級（2001年4月11日）
○ vs ヒーガン・マチャド［レフェリーストップ］（1回戦）
○ vs ホイス・グレイシー［ポイント判定2-0］（2回戦）
● vs ヒカルド・アローナ［ポイント判定3-0］（準決勝）
● vs アレッシャンドリ・カカレコ［ギロチンチョーク］（3位決定戦）

▼ADCC 2003 -99kg級（2003年5月18日）
○ vs ブランドン・ベラ［腕ひしぎ十字固め］（1回戦）
○ vs ラリー・パパドロポロス［チョークスリーパー］（2回戦）
○ vs ホジャー・グレイシー［ポイント判定2-0］（準決勝）
○ vs アレッシャンドリ・カカレコ［チョークスリーパー］（決勝）

▼ADCC 2005 -99kg級（2005年5月29日）
○ vs リック・マクーリ［チョークスリーパー］（1回戦）
○ vsヴィトー・ヴィアナ［チョークスリーパー］（2回戦）
● vsアレッシャンドリ・カカレコ［ポイント判定2-0］（準決勝）
● vs シャンジ・ヒベイロ［ポイント判定6-0］（3位決定戦）

ていた。手術が終わって家に帰ったけど、気分はすぐれず、高熱が出て二日後には激痛で眠れなくなった。それでまた医者のところに行くと、彼はいくつかの錠剤を渡しただけで、また僕を家へ帰したんだ。翌朝、父は何かおかしいと気づいたので、再び僕を病院へ連れて行った。病院に着いて医者が僕の傷を見たとたん、すぐ僕は隔離病棟に連れて行かれた。だって僕の足はひどい感染症を引き起こして、丸太のように腫れ上がっていたんだからね。医者たちは多くのテストを行なったけど、なかなか原因を突き止められなかった。彼らは僕に一番強い抗生物質を投与して、また僕を隔離病棟に移した。次の2週間、彼らは4回以上も僕の足を手術して、やっと僕の足からバクテリアを発見したんだけど、そのバクテリアは肉食性で、なんと僕の足を食べていたんだ！　さらにその2週間後、医師たちはこれから2、3日待って状態がよくならなければ、バクテリアが他の身体にも及んでしまうのを防ぐために、僕の足を切断しなければならないと言った。怖かったし、僕は苦痛のせいでほとんど眠れなかった。幸いにもその後、ようやく抗生物質が効き始めて足の切断は回避できたけど、入院と車椅子や松葉杖を使った生活が6ヵ月も続き、回復までかなり長い時間を要した。これによって僕は体重や、あらゆる面での体力、そしてスタミナを失なってしまい、再び練習に戻るのは、かなり大変だった」

エイネモの感染症は骨髄寸前にまで達しており、健康な人で感染係数が7のところ、エイネモは320あったという、まさしく絶体絶命の状態だった。格闘技どころか、日常生活もままならないエイネモは本気で引退を考え、生活の安定を得るためにノルウェー国家から障害者としての生活保護を受ける申請を出すことにした。ところが、この申請中にDSE側から正式オファーを受けたため、悩んだ末に再び格闘家としての道を歩むことを選び、申請を取り下げたのだった。

その後、エイネモは必死にリハビリを行ない、復帰の試運転として05年のADCCに出場する。コンディションは完全ではなかったが、それでもエイネモは4試合中2試合で一本勝ちするなど、以前と変わらない極めの強さを見せた。そしてさらに状態が上向いたところで、ようやく『PRIDE』と正式に契約を結ぶことになったのである。

「僕は院内感染から早く立ち直ろうと努力している。怪我のために自分のスタイルを少し変化させる必要はあったけど、いまは足の状態もいい。MMAのレベルはいま、本当に高くなっているし、誰でも立っても寝ても試合を終わらせる力を持っている。『PRIDE』での闘いは、タフな闘いになるだろうけど、僕は自分自身を信じているよ。『PRIDE』で最強の選手たちと闘いたいし、自分の技術を試してみたい」

グラウンドファイトにおけるエイネモの武器とは、その長い手足と、軽量級に劣ら

ゆのらふ・えいねも■1975年12月10日、ノルウェー出身。長身を武器にアイスホッケーのキーパーとして活躍していた異色の経歴を持つ。その後、本格的に柔術を学び、2000年10月に総合デビュー。さらに、寝技世界一を決するADCCには2001年から参戦し、2003年にはヨーロッパ初のアブダビチャンピオンに輝く。初来日は2003年11月の『修斗』ミンダウガス戦。198cm、100kg。

いまは世界最強のスパーリングパートナーと練習しているんだ

ぬスピード、そして確かなテクニックに裏打ちされた極めの強さである。ADCCの優勝にみられるように、エイネモが現在の重量級で最高級の実力を持った選手であることは間違いない。しかしエイネモの『PRIDE』参戦に興奮するマニアがいる一方で、これまでに総合での試合数が少ないことを理由に、総合でのエイネモの実力を未知数と見る向きも少なくない。実際、エイネモの総合格闘技の戦績は5戦しかしておらず、その相手も二線級の打撃格闘家ばかりである。しかしこの試合数の少なさは、エイネモが試合をしようとすると相手が直前で試合をキャンセルしたり、ひどい場合は当日になって相手が会場に現われないという状況が何度も続いたため、試合がしたくてもできなかったことによる。つまりエイネモは、早くからヨーロッパで闘う相手がいなかったのである。

エイネモ自身が認めるようにいまのMMAは日進月歩で技術が進歩している。サブミッションの技術だけでは勝てないし、トップをめざすのなら打撃やレスリング力の強化は不可欠である。そうした自分のレスリング力と打撃の力について、彼は次のように冷静に分析する。

「僕のグラップリングにおいて、レスリングのトレーニングは常に大きなパートを占めていた。だから自分のレスリング力は悪くないと思っている。打撃のトレーニングについても、僕はノルウェーでボクシングやムエタイをトレーニングしてきた。もちろんスタンドの打撃は自分の一番強い分野ではないけれど、これからよくなっていく分野だと思っている。そして、いまは世界最強のスパーリングパートナーを得るためにここ（マーク・ハントのジム）にいる。だから、いまは気分がいいよ」

エイネモのADCCでの試合を見ると、確かに随所で素早いタックルを見せるなど、確かにレスリングのトレーニングを積んでいる様子がうかがえる。打撃については、本人が語るようにまだ巧いと言えるレベルではないが、ミンガウダス・クリカウスキス戦では鋭いローキックを何度か見せたように、センスは悪くなさそうだ。初来日当時、打撃が下手だったヨアキム・ハンセンが徐々にその技術を向上させたように、ハントと練習を積んでいけば、トップ戦線に食い込んでいくのに必要な打撃レベルを習得できる可能性は充分にある。エイネモは1月中旬からハントとともにトレーニングをつづけ、2月26日の『PRIDE・31』にもシドニーから直接来日する。

アブダビで味わった栄光から一転、絶望を目の当たりにしたエイネモ。世界の舞台と死の淵を知る者として腹の据わった闘いを見せてくれるはずだ。K−1最強の拳とADCC最強の技が合体した時、いったい何が起こるのだろうか。『PRIDE』初参戦のユノラフ・エイネモを見逃すな！

ハンセン、エイネモを生んだ

北欧格闘技の歴史

ヨアキム・ハンセン、ユノラフ・エイネモの修斗、PRIDE参戦により、俄然、注目が集まっている北欧格闘技。北欧出身の選手が来日する機会も多くなく、その歴史もあまり知れ渡ってはいないが、じつは北欧格闘技界は90年代初頭からすでに始動していた。

UFC、ブラジリアン柔術の到来で北欧に拡大した総合格闘技の熱

2003年にヨアキム・ハンセンが、修斗ウェルター級の世界チャンピオンになって初めて北欧（デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド）にも活発な格闘技シーンがあることを認知した人は多いだろう。

90年代初頭からその動きはあったものの、北欧格闘技シーンにおける「総合」に繋がる出発点は、北欧四天王といわれるリカルド・アンダーション、リカルド・ボレイニウス、オーガスト・ワレン、オマー・ブィシエらが、プロ活動を始めた95年ごろと位置づけていいだろう。

ブイシエとともにサンボを学んでいたアンダーションとボレイニウスは、95年にそろってオランダのフリーファイトに出場し、その後ブラジリアン柔術へ傾倒する。パンナムで茶帯の部を制したアンダーションは現在BJJ黒帯でヒルティBJJアカデミーを運営する。ボレイニウスはヨアキム・ハンセンとユノラフ・エイネモの師に当たる人物でSBJJAを設立した。ワレンはバート・ベイルからシュートファイトのライセンスを取得して、95年以降北欧各地にジムを開いてシュートファイトのイベントを行なってきた。現在ワレンのジムの数は100を超えると言われており、その規模はヨーロッパ最大である。オマー・ブイシエは早くからアメリカに渡ってヒクソン・グレイシーとスパーリングしたり、オランダでバス・ルッテンと知り合ったことから97年にパンクラスに参戦して好成績を収めた。現在では柔術とパンクラスを指導するジムをスウェーデンのストックホルムに持っている。このように93年にアメリカで始まったUFCなどの影響により、90年代後半から入ってきたブラジリアン柔術や、シュートファイティングの拡大によって、総合格闘技は徐々に北欧全域に浸透していった。

ちなみに彼ら以外にもまったく別ルートでプロ格闘家となった選手として、1994年にはリングスに参戦したトニー・ホーム（ハルメ）を忘れてはならない。彼はUFCに出場した唯一の北欧格闘家でもある（97年にランディ・クートゥアーのデビュー戦の相手としてUFC13に出場し秒殺されている）。その後、ホームはフィンランドで国会議員となり、地元のフィンランド映画に出たりCDデビューしたりと大活躍。しかし、2003年7月には酒に酔っ払って自宅で妻に向って無認可の拳銃を発砲するなどの事件を起こしている（怪我人はなかった）。その後、妻とは離婚したが現在も下院議員を続けているという。

格闘技への厳しい法律規制と若きバイキング戦士の急速な成長

徐々に北欧で格闘技が広がっていったものの、北欧には非常に厳しい法律的な制約があった。北欧4カ国のうち、ノルウェーとスウェーデンでは、顔面などを殴るコンタクトスポーツが禁止されている。

このようなやむにやまれぬお国の事情によって、グラウンド軽視の風潮があるオランダとは違い、北欧ではその歴史の最初から柔術やサブミッションレスリング（以下SW）が活発に行なわれる土壌が作られていく。四天王から数えて第二世代といえるヨアキム・ハンセンやユノラフ・エイネモは、1998年以降頻繁に行なわれてきた柔術やSWの大会などに出場して頭角を現わしてきた。これらの活動が認められて、北欧勢も2001年からADCCの出場権を得ていくことになる。またコンタクトスポーツが禁止されている反動からか、1998年に北欧における初めての総合格闘技大会であるフィンファイトは頭突き、ヒジ打ちありの過激なVTルールを現在までいっさい変更せずに開催している。しかし、MMAが認可されているフィンランドでも、報酬を受けての賞金ファイトは禁止されており、選手は微々たる金額で命を削って闘っているという。

こうしてBJJ大会やSW大会で経験を積んでグラップリング技術を磨き、総合はフィンファイトで危険な実践的打撃を学ぶ、というように対極にある重要な二つのファクターが形成されているのが、北欧格闘技界のユニークな点である。

2002年以降は、修斗の海外での勢力拡大によって、フィンランド、デンマーク、スウェーデン（しかしコンタクトスポーツの禁止する法律を国会で審議中であり、スウェーデンでは今後開催は厳しいことが予想される）でも修斗の大会が開催されるようになり、好成績を収めれば日本に出場する道もできた。2002年以降、修斗にヤニ・ラックス、ダービッド・ビエルクヘイデン、トーマス・ヒッテン、サウリ・ヘイリモらがハンセンに続いて来日したが、日本で勝利するのはまだまだ容易ではないのが現状だ。しかし、修斗のネットワークの下で、北欧はさらにオーガナイズされた形で近隣のリトアニア、オランダ、ロシアなどと切磋琢磨して競い合っており、明日のハンセン、エイネモを夢見て若きバイキング戦士たちが経験を積む格闘技熱の高い国へと変貌しつつある。

これまでの北欧格闘技界の成長ぶりを見ると、近い将来、北欧がブラジル、ロシア、日本、アメリカ、オランダなどと肩を並べる日もそう遠くはないだろう。

髙阪剛 vs マリオ・スペーヒー

（日本／チーム・アライアンス）　（ブラジル／ブラジリアン・トップチーム）

日本とブラジルの格闘技界重鎮対決。昨年4月のヒョードル戦以来、2度目の『PRIDE』参戦となるTKだが、自身は昨年10月パンクラスのリングでクロコップ・チームのマーク・カイルに敗れているだけに、パンクラス王座を返上し、「GPに格闘技人生を賭ける」との悲壮な決意を抱いての出陣となる。しかし、相手のマリオは強敵。1年前、TKの愛弟子・横井に完勝するなど精神的にも優位に立っている。両者ともに寝技のスペシャリストだけに、勝負の分かれ目は打撃になりそう。となると、パンチの重さでマリオがやや有利か。TKの秘策に期待したい!

西島洋介 vs マーク・ハント

（日本／フリー）　（オーストラリア／オシアナスーパーファイタージム）

元ボクシングWBF世界クルーザー級王座、西島洋介山改め、西島洋介改め、陽海山改め、やっぱり本名の西島洋介がついにPRIDEデビュー!　対戦相手はなんと『男祭り』でミルコを破り一躍トップグループ入りしたマーク・ハント!　西島にとっては厳しすぎるデビュー戦となったが、考えてみればハントは寝技はもちろん、“ボクサー殺し”のローキックもとくに得意としておらず、ある意味、西島にとっては闘いやすい相手。勝敗予想は7：3でハントだが、ハントの豪腕フックに西島がカウンターでストレートを合わせ、KO勝ちというシーンもありうる。とにかくド迫力な殴り合いを期待したい!

クイントン・“ランペイジ”・ジャクソン vs ユン・ドンシク

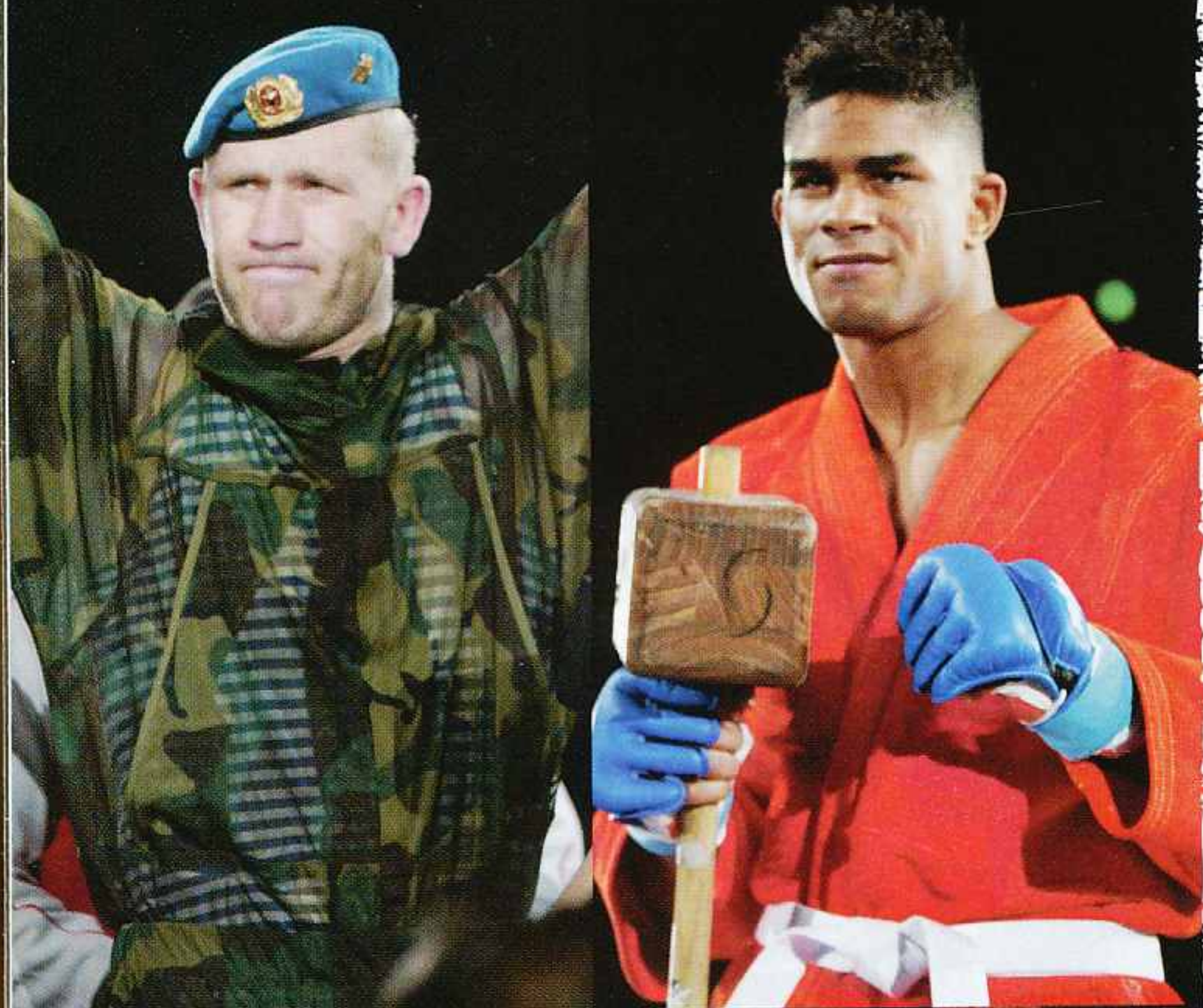
（USA／ゴッド・ストリート・ソルジャー）　（韓国／髙田道場）

そのヘビー級顔負けのパワーから、無差別級GP出場も期待されるランペイジが、髙田道場入りしたユン・ドンシクと対戦。鳴りもの入りで『PRIDE』参戦を果たしたものの、初戦はサクの打撃に秒殺負け、2戦目は同じ柔道出身の瀧本に判定負けと、結果が出ないユン。しかし、髙田道場に入門し、さらにアメリカのマット・ヒュームの道場に留学するなど、その総合格闘技への真摯な取り組みから、着実に力を付けていると関係者の評価は高い。ランペイジ圧倒的有利であることは間違いないが、寝技の防御に難があるだけに、グラウンドに持ち込めばユンの一本勝ちも大いにありうる!

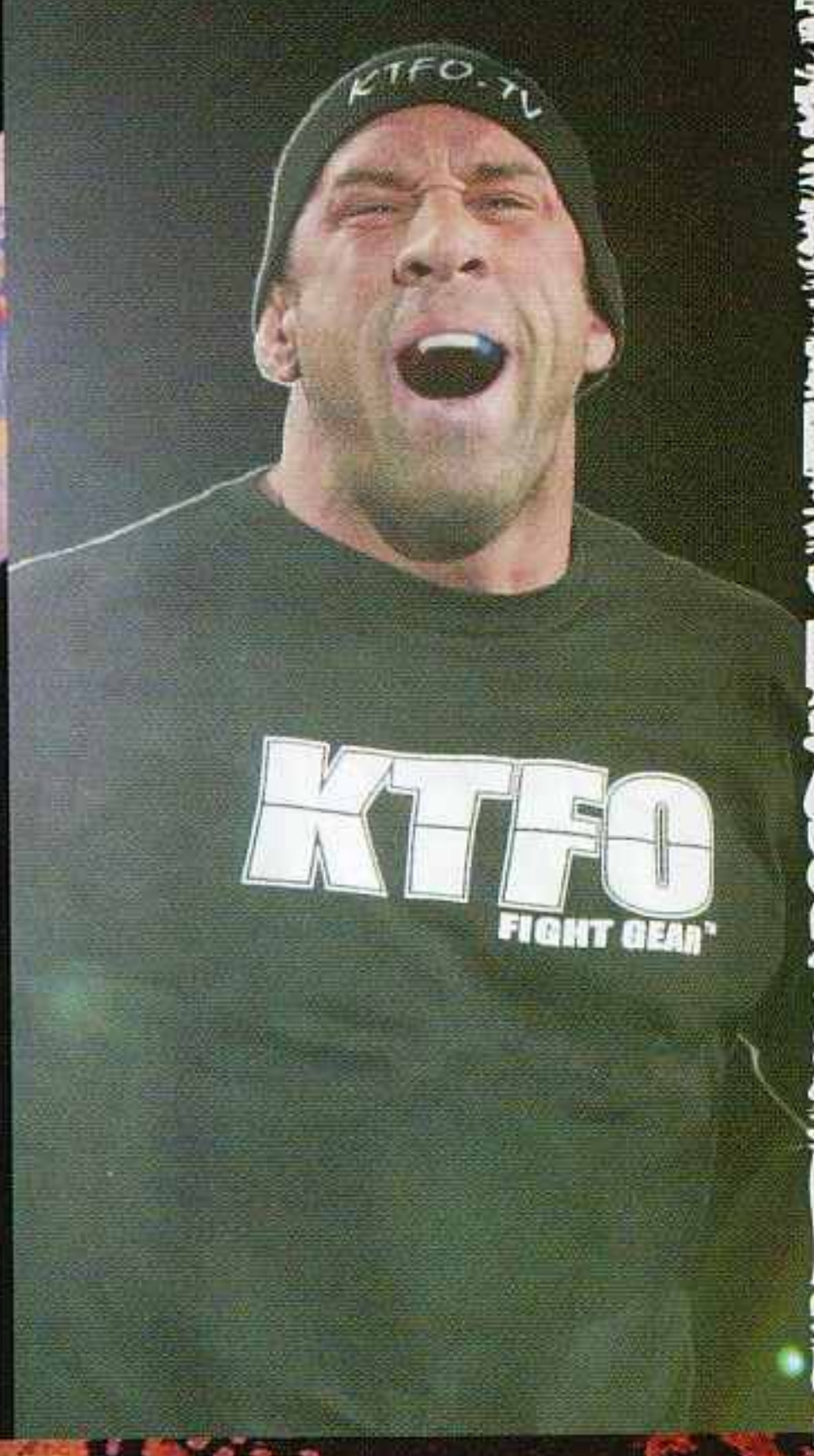
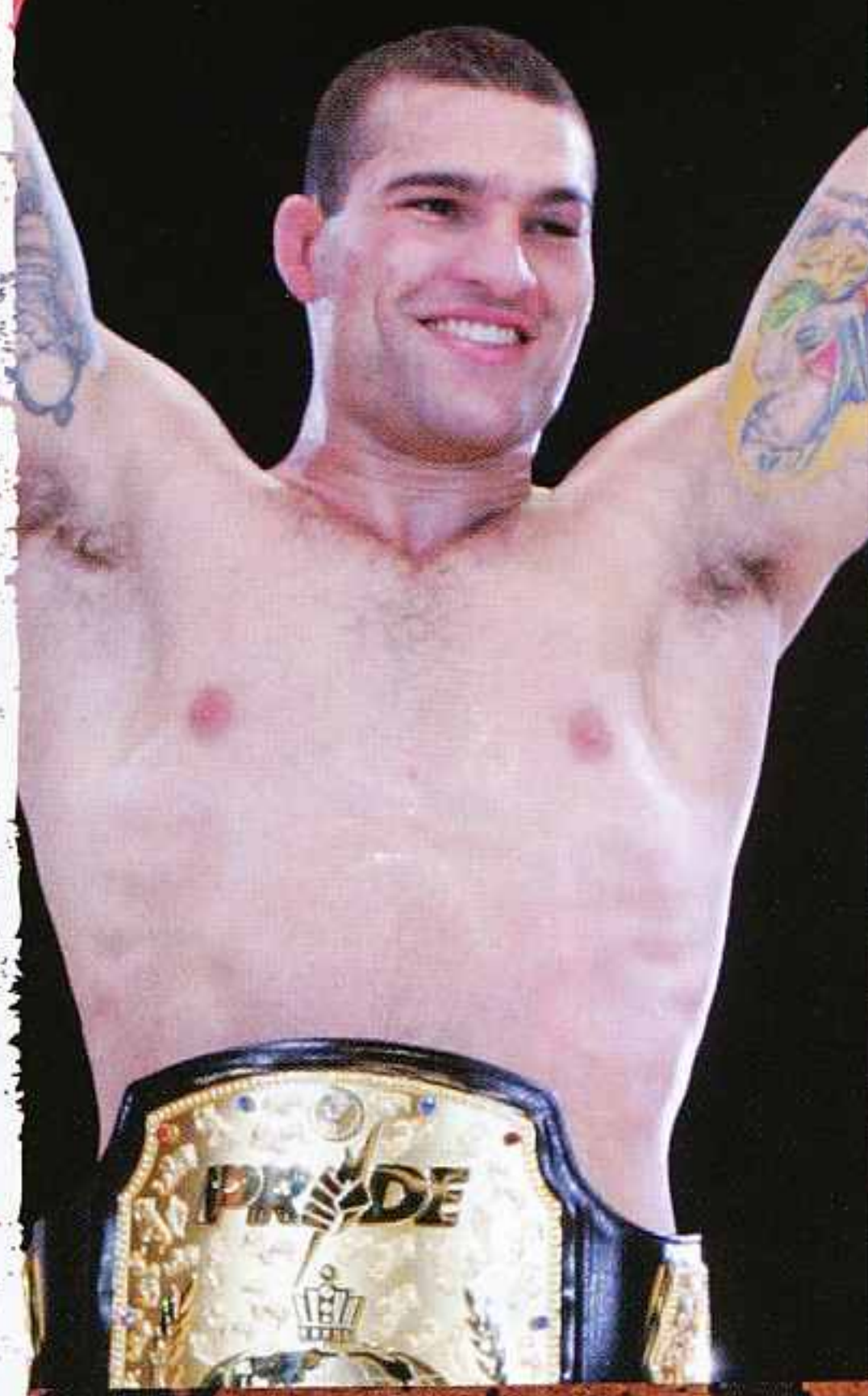
中村和裕 vs ジョシュ・バーネット

（日本／吉田道場）　（USA／新日本プロレス）

ランデルマン、ボブチャンチンを破るなど、日本人格闘家としてはトップクラスの戦績を誇りながら、なぜか半袖道着を脱ぎ捨てた瞬間KO負けした姿ばかりが印象に残る悲運のYAWARA君がヘビー級の大物ジョシュと激突!　柔道時代は100キロ級に出場していた中村だけに、ここで金星を挙げて無差別級GP出場をアピールしたいところだが、対するジョシュもGP出場のためには取りこぼしは許されず過酷な闘いになることは間違いない。予想は体格差もありジョシュの勝ちとなるが、カズもここは思い切ってジョシュに真正面からぶつかり、内容でもファンの支持をつかみたいところだ。

Road to 無差別級GP!
生き残るのは誰だ?

セルゲイ・ハリトーノフ vs アリスター・オーフレイム

（ロシア／ロシアン・トップチーム）　（オランダ／ゴールデン・グローリー）

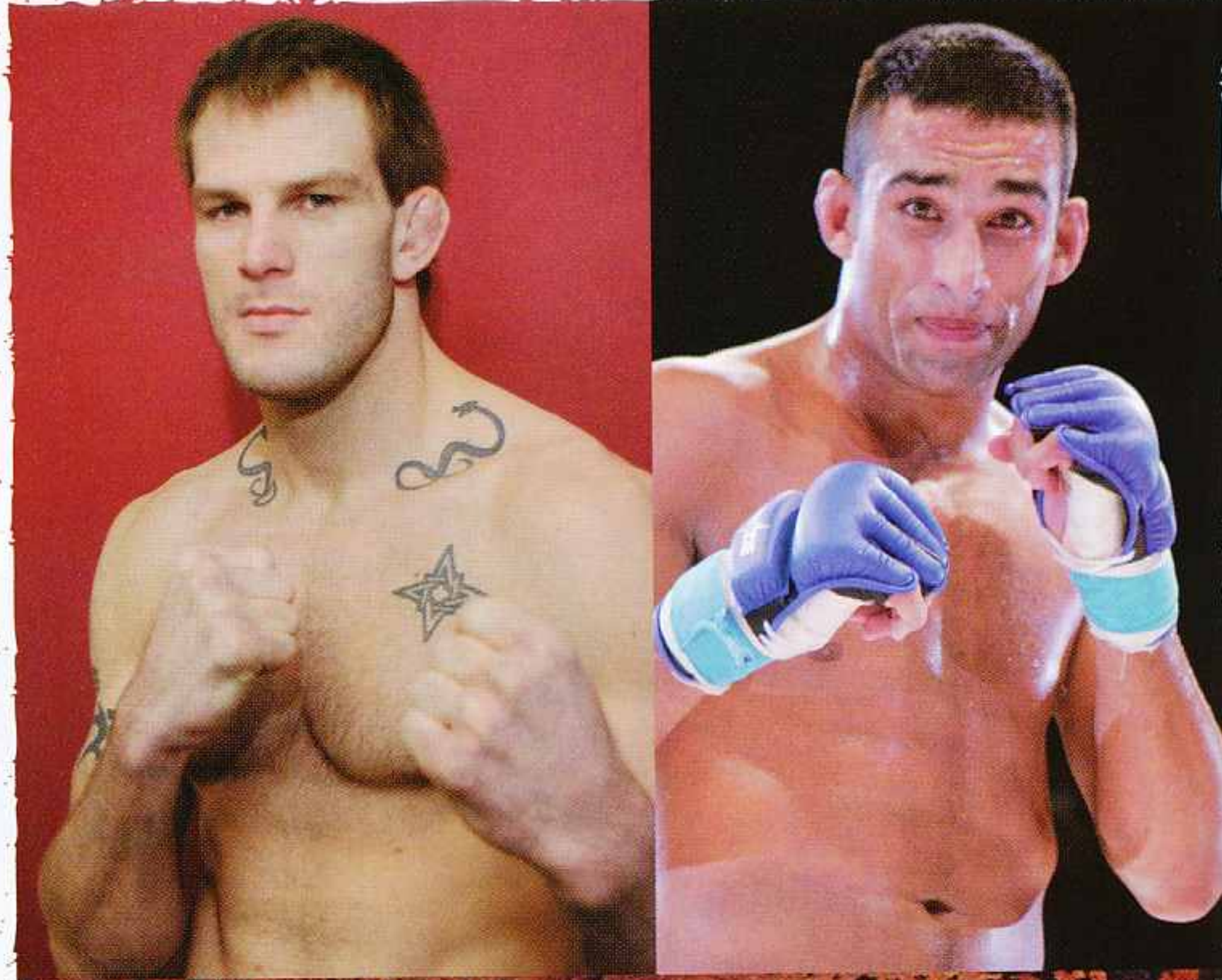
“3強”に続く存在として、今年の無差別級GPではヒョードルとの宿命の元同門対決が期待されるハリトーノフが、昨年のミドル級GPベスト4のアリスターと対戦。一見、ヘビーvsミドルという図式でハリトーノフ圧倒的有利にも見えるこのカードだが、アリスターは身長でハリを上回り、通常体重は100キロを有するなどは決して楽な相手ではない。しかも、ハリトーノフは相手を自分のパンチの間合いに誘い込みカウンターのフックでKOするのが必勝パターンだが、強烈なヒザ蹴りを持つアリスターにその戦法はあまりにリスキー。今大会イチの番狂わせがここで起こる可能性は高い!

マウリシオ・ショーグン vs マーク・コールマン

（ブラジル／シュートボクセ）　（USA／ハンマーハウス）

昨年、ミドル級GPを制覇したニュースター、ショーグンがついに階級を超えた闘いに打って出る! その相手は『PRIDE・GP』初代王者にして現ハッスルの酔っぱらい親父ことコールマン。『PRIDE』では、ヒョードル、ミルコという超強豪との対戦が続き勝ち星にこそ恵まれていないコールマンだが、ヒョードルからテイクダウンを奪うなど、まだまだ力は衰えておらず、ショーグンにとっては厳しい闘いとなるだろう。ただ、いまのショーグンは体重差を跳ね返すだけの勢いと無尽蔵のスタミナを有しており、2R以降、打撃でショーグンのKO勝ちと予想する。

ペドロ・ヒーゾ vs ローマン・ゼンツォフ

（ブラジル／ファス・バーリトゥード）　（ロシア／レッドデビル）

『PRIDE』初登場となった昨年のハリトーノフ戦では、しばらく実戦から遠のいていたことから動きが鈍く、KO負けを喫してしまったものの、本国ブラジルではノゲイラと並び称されるほど評価が高いヒーゾ。ブラジル修行に出向いた中村カズが「ビビるほど強い」と評する実力が、GPを前にした大事な試合でついに見られるか。対するはＩ編集長ご推薦の“レッドデビル第3の男”ゼンツォフ。ヒョードル&アレキの最強兄弟と世界一多くスパーリングをしている男だけに、その成長は楽しみ。しかし、予想はやはりローキックからパンチのコンビネーションでヒーゾKO勝ち。

ユノラフ・エイネモ vs ファブリシオ・ヴェウドゥム

（ノルウェー／チーム・スカンジナビア）　（ブラジル／クロコップ・チーム）

かねてから格闘技マニアの間では『PRIDE』参戦が待望されていた“北欧の巨人”エイネモが、大けがを乗り越えてついに『PRIDE』初参戦!　いきなりヴェウドゥムとの寝技頂上対決に挑むとことなった。2003年ADCC99キロ以下級優勝のエイネモと98キロ超級準優勝のファブリシオ。しかも、ファブリシオはクロコップ・チーム所属、それに対しエイネモはこの試合に向けてミルコのライバル、ハントのジムで特訓を積むなど、早くもお互いのライバル意識が爆発寸前といったところ。ケガからの復帰戦ということでファブリシオ有利だが、エイネモにもおおいに期待したい。

2.26 PRIDE.31 DREAMERS
プチ予想付き見どころ紹介

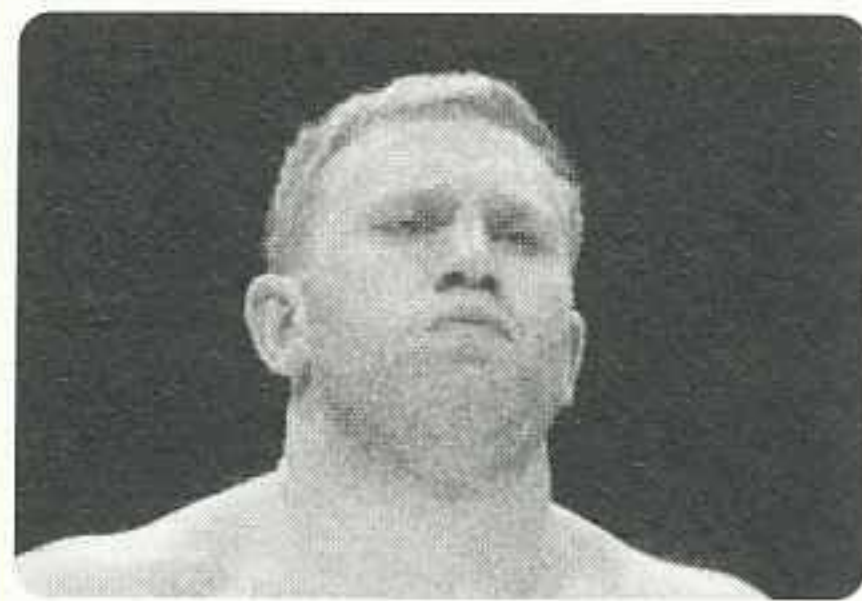
PRIDE.31 DREAMERS
さいたまスーパーアリーナ　2006年2月26日（日）　開場14:30　開始16:00（予定）
[チケット料金] VIP（ビップ）【専用入場ゲートグッズ付き】／100,000円　RR／30,000円　スタンドS／17,000円　スタンドA／7,000円

早くも話題沸騰!

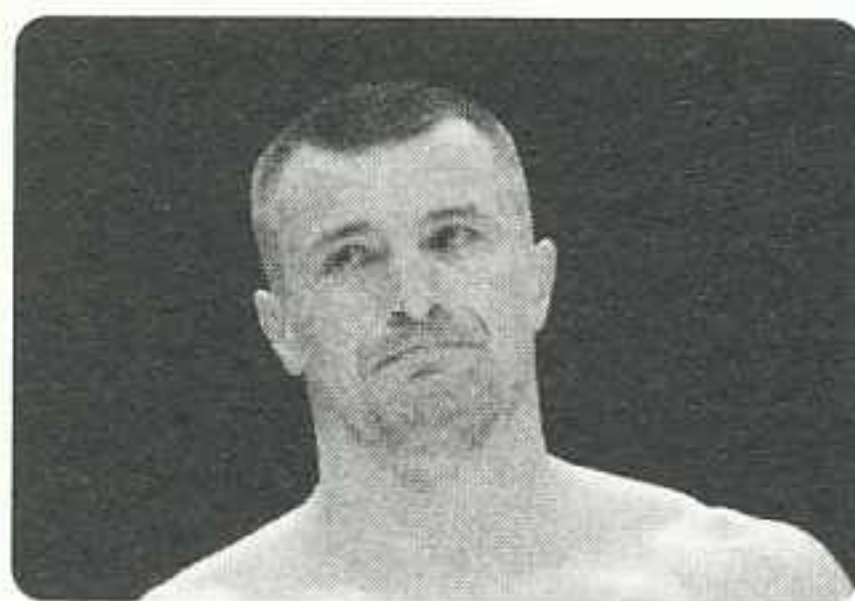
PRIDE無差別級 GP出場選手 妄想・願望・大予想!!

構成/堀江ガンツ designed by bun-chan (Two Three)

開幕戦出場16名はこの中にいる!?

★★★★☆ PRIDE GP 2003 ベスト4

セルゲイ・ハリトーノフ

ミルコが敗れたいま、ファンが打倒ヒョードルにもっとも期待する男。順当にいけばGPで禁断の元同門対決が実現しそうだが、その前のアリスター戦で不覚を取るようだと、レッドデビルに“ロシア枠”を独占され、落選もありうる!?

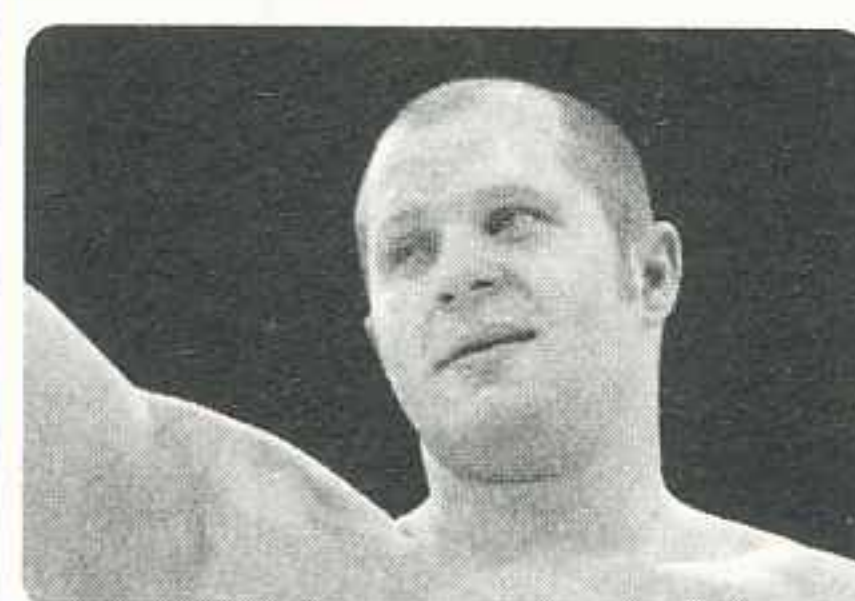
★★★★★ 99年 K-1 GP準優勝

ミルコ・クロコップ

昨年、人生を賭けたヒョードルとのタイトルマッチに敗れただけでなく、大晦日にはハントにも判定負け。あとちょっとで『PRIDE』の頂上というところまで登りながら滑り落ちたミルコは、今大会にすべてを賭けてくるだろう。

★★★★★ 前PRIDEヘビー級王者

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

ご存知、ヒョードル最大のライバル。一昨年のヘビー級GPではヒジのケガを押して出場を続けていたが、昨年、時間をかけて治療したことで調整も万全。田村戦でつまずくことも考えにくく、バリバリの対抗馬となるだろう。

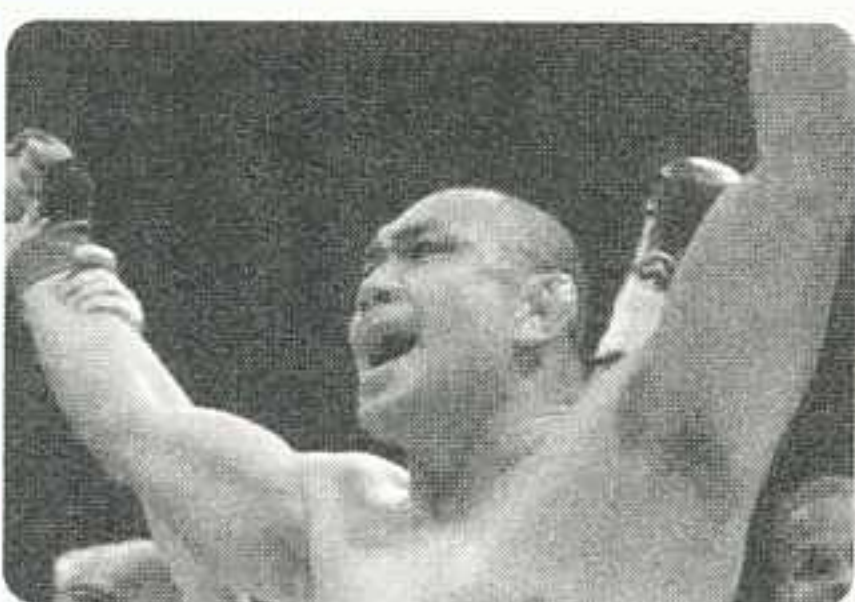
★★★★☆ PRIDEヘビー級王者

エメリヤーエンコ・ヒョードル

この男が出ないことには、ヘビー級GPだろうが無差別級GPだろうが始まらない!　しかし、1月に手術した拳の回復が5月に間に合うのかが問題。ケガの状況によっては、もしかしたら2回戦からのシード出場もありうる!?

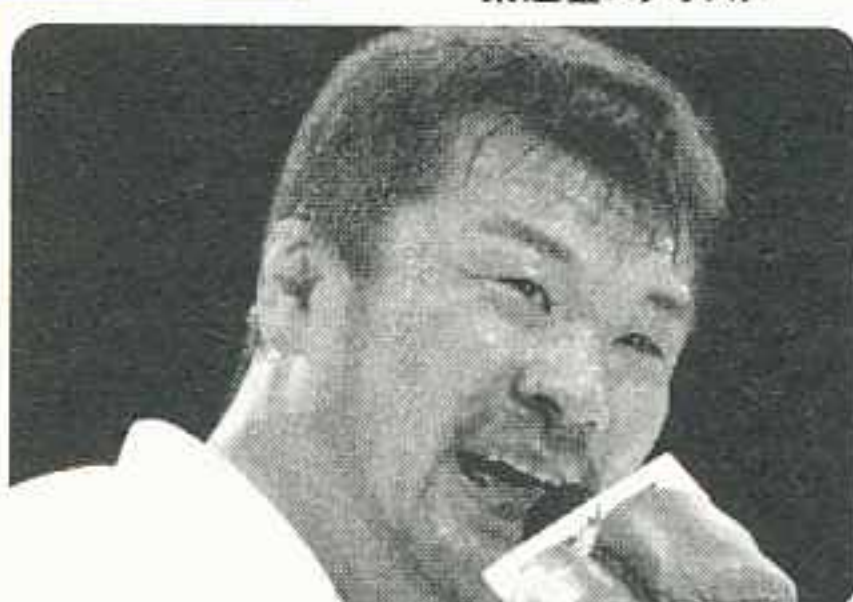
★☆☆☆☆ PRIDE.GP2003ベスト4

小川直也

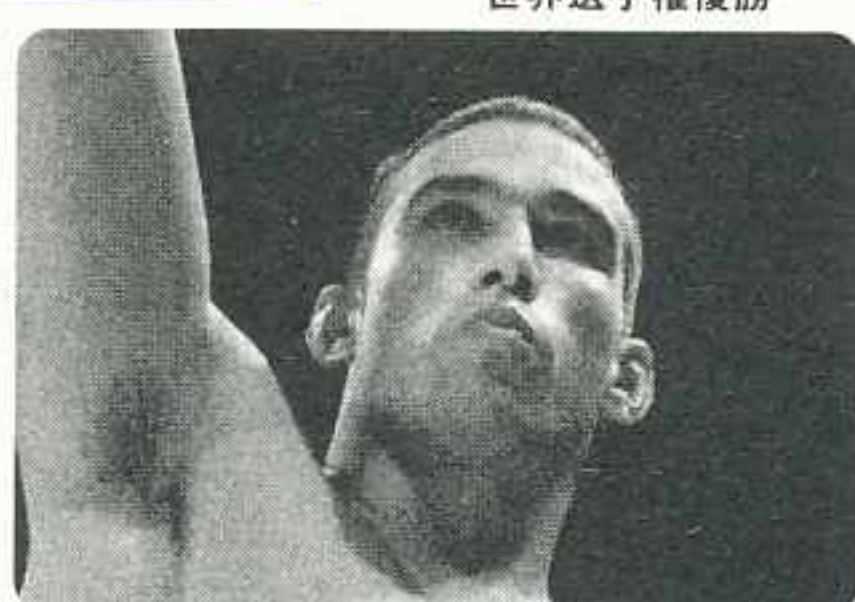
昨年大晦日、吉田秀彦に敗れ、『PRIDE』から“卒業”との見方が濃厚なキャプテン。しかし、負けたまま引き下がっては男がすたる。ここは2003年はまさかの『PRIDE・GP』出場でハッスル旋風を巻き起こした再現に期待したい！

★★★☆☆ PRIDE.GP2000ベスト4

藤田和之

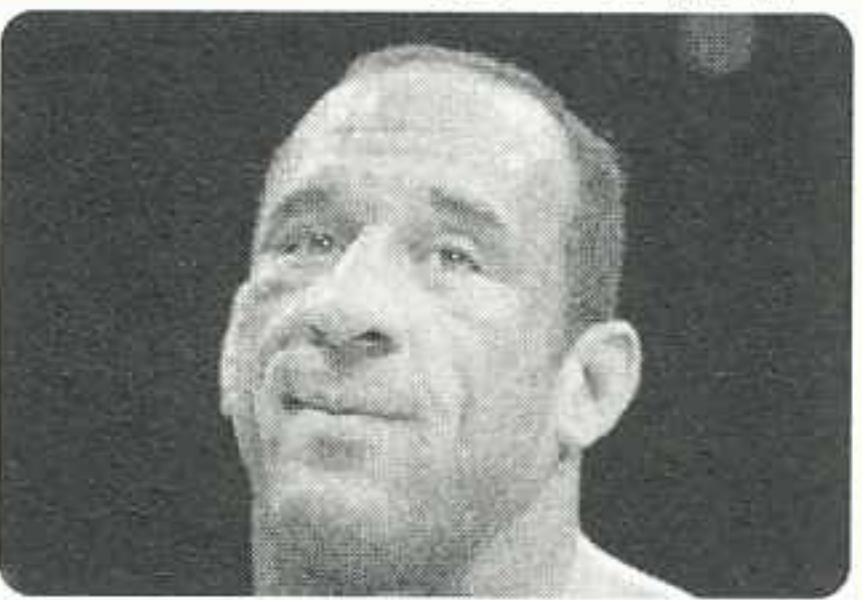
今年1月、ついにというかようやくというか、“闘魂の鎖”を引きちぎり、今年大勝負を仕掛ける野獣・藤田。『PRIDE』、K−1双方からラブコールが送られているが、やはりファンが望むのは頂点に挑む姿か。野獣の選択に期待したい！

★★★★★ バルセロナ五輪、柔道金メダリスト

吉田秀彦

昨年8月、巨漢タンク・アボットを破り「重いほうでもできるかな？」と自信を深め、大晦日に2003年ヘビー級GPベストの小川直也にも一本勝ちした吉田の出場は決定的。現在、体重も増やしており、パワーアップでオー! な吉田が見られるか？

★★★☆☆ 03年ブラジリアン柔術世界選手権優勝

ファブリシオ・ヴェウドゥム

柔術で輝かしい実績を誇り、『PRIDE』でもエリクソン、ゼンツォフに一本勝ち、ハリトーノフとも互角の闘いを展開するなど、出場資格十分。2・26でエイネモに勝てば出場確定か。ノゲイラとの究極の寝技対決なども期待される。

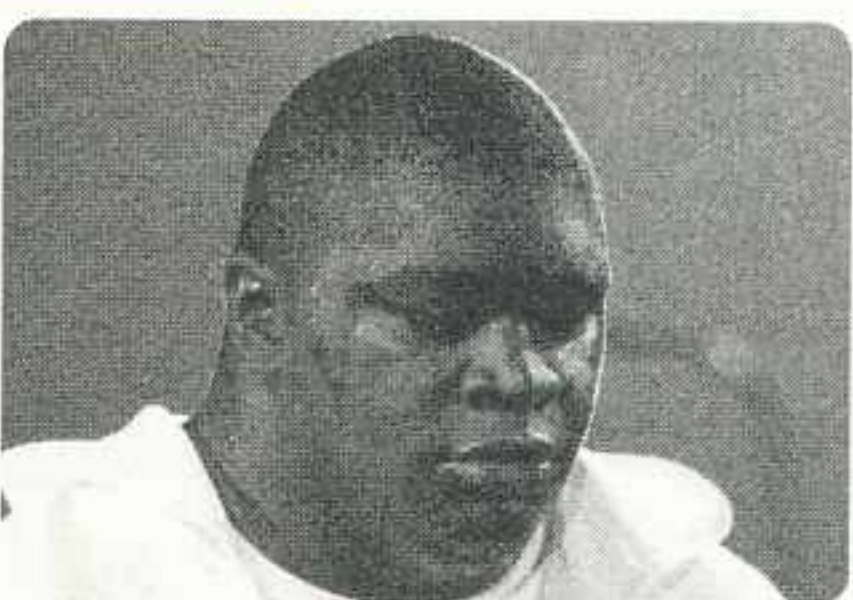
★★★☆☆ PRIDE.GP2000優勝、元UFCヘビー級王者

マーク・コールマン

元UFCヘビー級王者、初代PRIDE・GP王者という輝かしいを誇り、もっともっと尊敬されてもいいはずだが、なぜかショーグンの噛ませ犬に見えてしまうかわいそうなマーク。ここはもう一丁、オヤジの奮起を見せてもらいたいところ。

★☆☆☆☆ にらめっこ世界王者

ズール（親父）

PRIDE無差別級GPに「シニア枠」を設けてゼヒ出場してほしいのが、この伝説の魔人ズール（親父）。息子ズールが秒殺負けを喫して、その雪辱に燃えているとこ伝えられ、その原始的な練習にも熱が入っているとのこと。美濃輪戦が見たい！

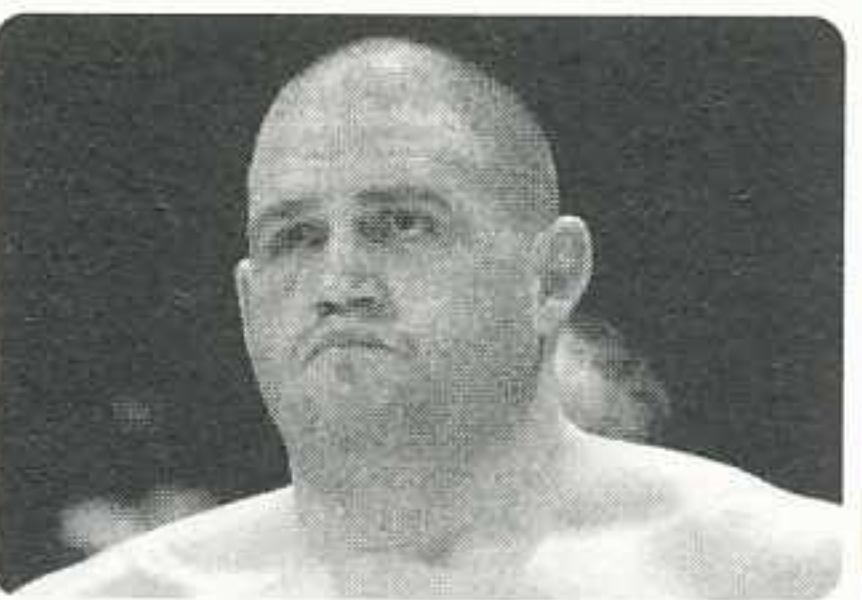
★★★☆☆ 自称37勝37KO

ズール

『PRIDE』初登場でパンツがズレ落ちながらも戦闘竜を撃破。そのピンポンパン体操ばりの奮闘が評価され（？）大晦日は皇帝ヒョードルと対戦。見事、秒殺されたが、一度立ち上がった根性と身体能力は、もう一回チャンスを与えてもいいかも。

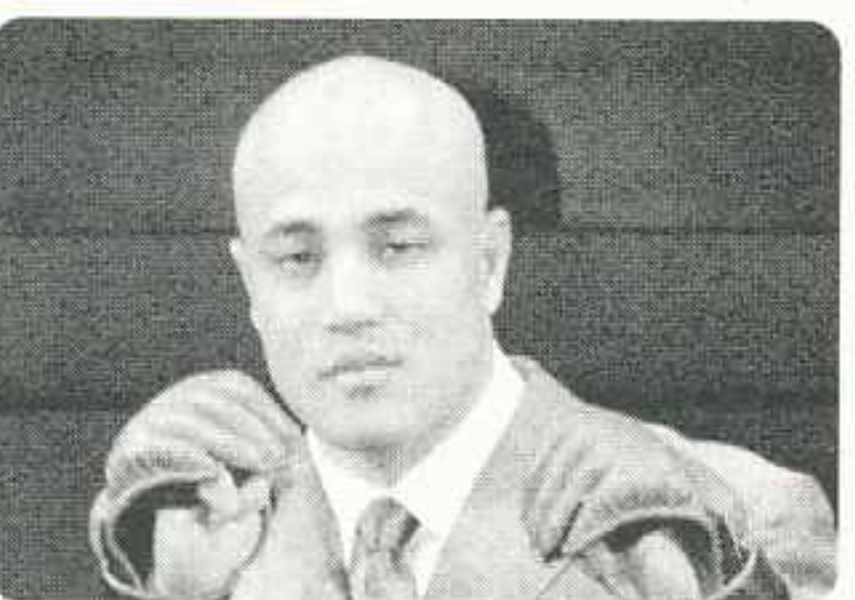
★★★☆☆ 世界ビックリ人間大賞受賞予定

ジャイアント・シルバ

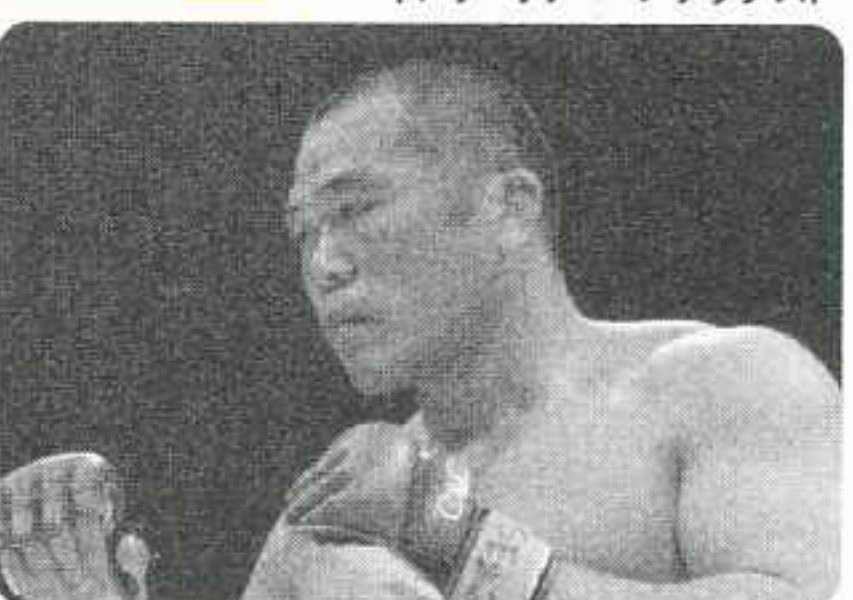
デカいというだけの理由で2003年ヘビー級GPに出場（しかもベスト8進出）。デカいというだけで大晦日の常連にもなっているシルバ。今回もやはり“無差別”というからには、このデカいだけの男を出場させるべきという気がしないでもない。

★☆☆☆☆ シドニー五輪レスリング金メダリスト

ルーロン・ガードナー

「カンバンワ〜！」この呑気の挨拶が災いし、あまり期待されなかったにも関わらず、一昨年の大晦日、吉田秀彦を判定で下す殊勲を上げたガードナー。もう1年以上も総合のリングを離れているが、このあたりで久々の登場もあるか。

★★☆☆☆ 元WBF慧海クルーザー級王者

西島洋介

2・26『PRIDE.31』でついにPRIDEデビューをはたす西島。どこまでやれるのか、いまはまったくの未知数だが、ミルコ、シウバを倒したK−1王者ハントを下せば、デビュー2戦目にして、この総合格闘技最高峰の大会出場も考えられる。

★★★☆☆ 前スーパーヘビー級キング・オブ・パンクラシスト

高阪剛

日本人ヘビー級総合格闘家の第一人者であり、いまだ皆のような存在のTK。そのTKが今回、格闘家人生のすべてを賭ける意気込みでGP出場を望んでいるという。難敵マリオを下し、ゼヒともこの究極の舞台で勝負してほしいものだ。

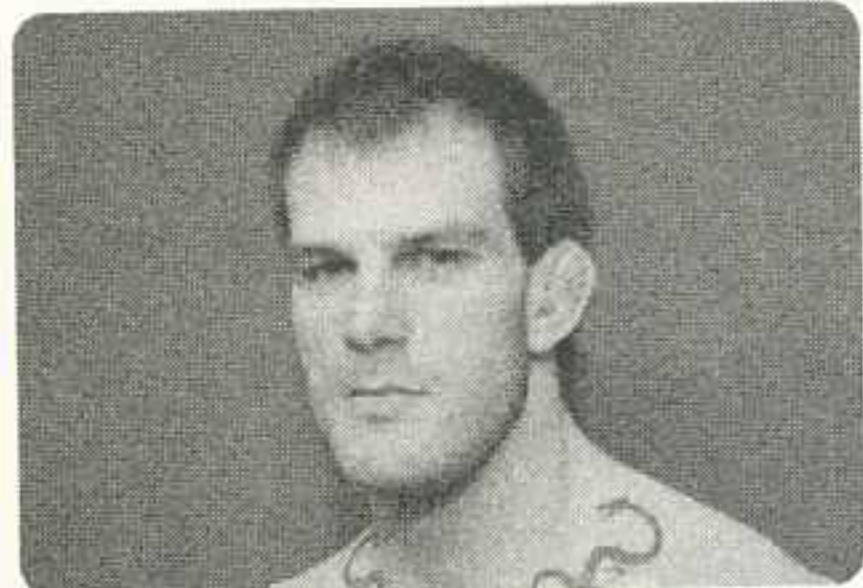
★★★☆☆ 元リングス無差別級王者

田村潔司

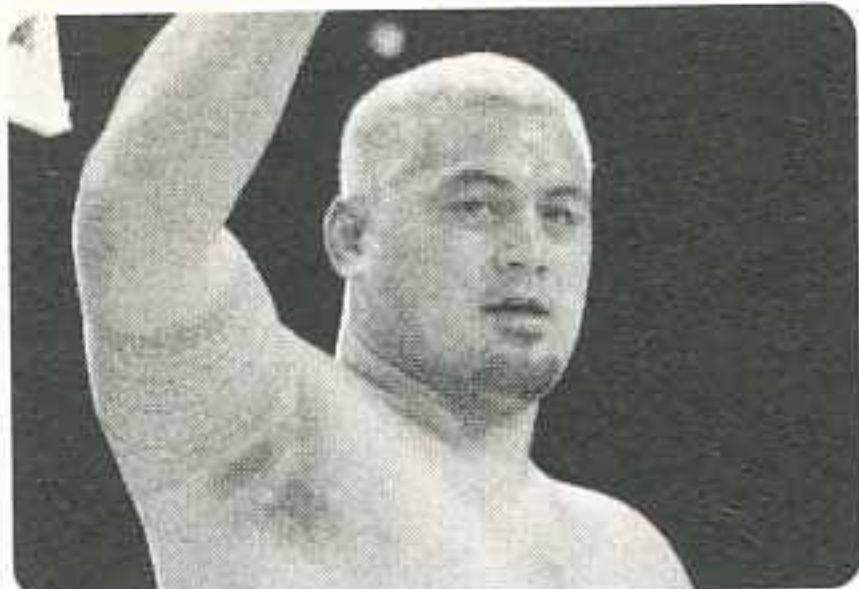
拳のケガが原因で、昨年のミドル級GP出場を見送った田村が無差別級GPに出場とはこれまた考えにくいが、『PRIDE.31』でノゲイラ戦に挑むのはその布石とも考えられる。元リングス無差別級王者でもあり、孤高の選択をすることはありうる。

※GP出場の可能性を★マークで数値化しています。

5・5大阪ドーム PRIDE無差別級GP

★★★ 03年アブダビ・コンバット無差別級優勝

ユノラフ・エイネモ

2・26『PRIDE.31』でファン待望の『PRIDE』初参戦をはたすエイネモ。当然、GP出場も期待されるが、ファブリシオに一本負けを喫するとそれも危うくなりそう。ダークホースとして大会を盛り上げてほしいが……。

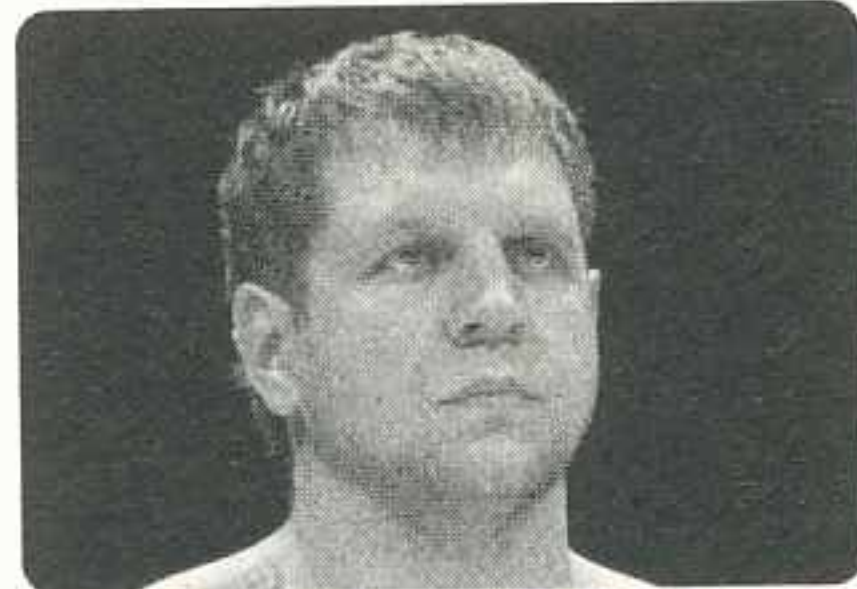
★★★★ 01年K-1 WORLD GP 優勝

マーク・ハント

一年に一度しか働かない"地上最強のナマケモノ"の異名を持つハントだが、今年はバリバリ働くと宣言！　シウバ、ミルコという『PRIDE』のスター二人を倒してるだけに、皇帝ヒョードル戦も期待される。出場確定か？

★★★★ 無差別級 キング・オブ・パンクラシスト

ジョシュ・バーネット

"3強"に次ぐ、もしくは食う存在として、GPの台風の目になってほしいのがこのジョシュ。『PRIDE』ではケガもありミルコに2連敗を喫しているが、GPでいよいよその本領を発揮するか？　カズを倒れば出場は必至。

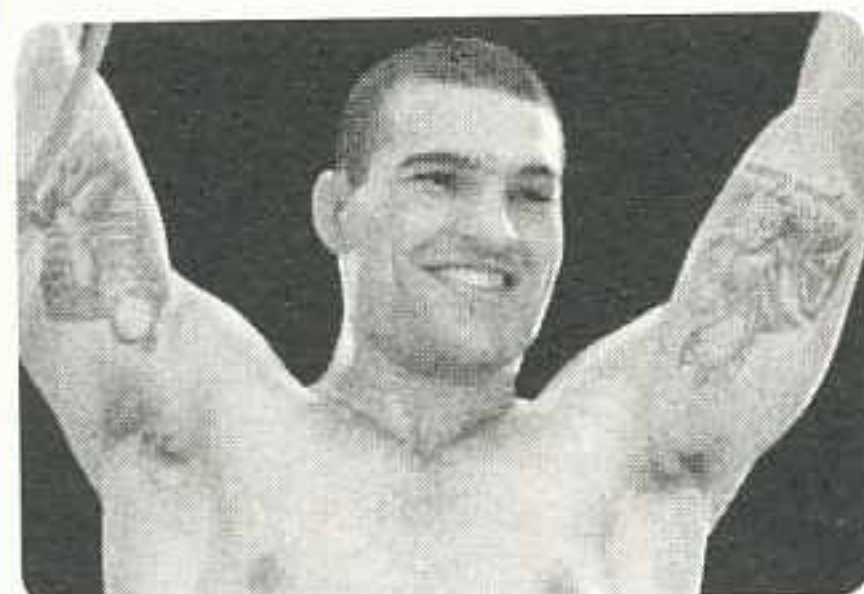
★★★★★ コマンド・サンボ世界王者

エメリヤーエンコ・アレキサンダー

兄ほどキャラが立っていないにも関わらず、身体もデカくやたらと強いという、まったくもって厄介な男アレキ。その実力は、すでに3強と同等という意見も多く、このままではホントに決勝がエメリヤーエンコ兄弟対決となってしまうかも。

★★★ PRIDEミドル級王者

ヴァンダレイ・シウバ

かねてからヘビー級との闘いを期待されていたミドル級絶対王者。これまでミルコ、ハントと闘い勝ち星こそ奪えていないが、凄まじい名勝負を展開している。しかしシュートボクセから二人出ることは考えにくく、ショーグン次第か!?

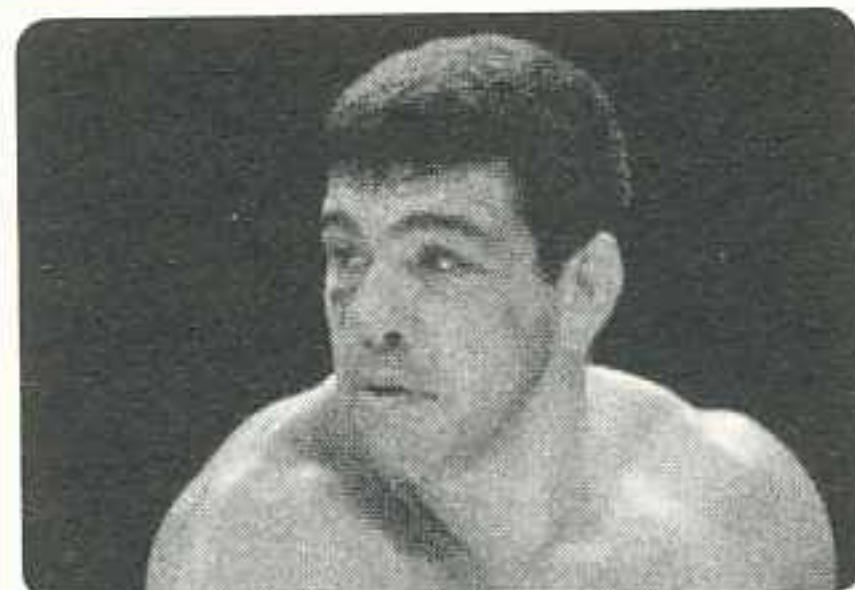
★★★★ PRIDEミドル級GP2005優勝

マウリシオ・ショーグン

階級を超えてヘビー級のトップに挑む選手としてもっとも期待されているのがこのショーグン。兄ニンジャがヘビー転向に失敗しているだけに、同じ轍を踏まないとその意気込みもハンパではなかろう。コールマン戦をクリアしてぜヒ出場してほしい。

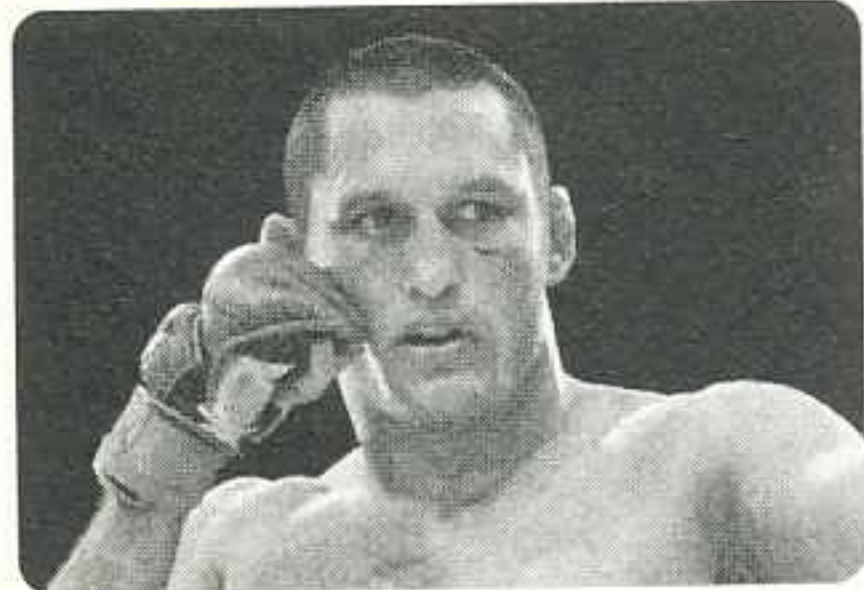
★★★★ ただいま3連勝中

ジェームス・トンプソン

ファンからトンプソンさんと呼ばれ、最強争いとはまったく関係ないところで人気が定着したプルプル男。なにげに戦闘竜、ルング、シルバを3タテし、色物系では頭一つ抜け出している。このタイプは何気に実力と関係なく出場濃厚な気が。

★★★ WVCⅡトーナメント優勝

ペドロ・ヒーゾ

日本のPRIDEファンには、ハリトーノフにアッサリとKO負けしたイメージが強いかもしれないが、UFCではジョシュやオルロフスキーをKOするなどMMA屈指のストライカーとして評価が高かった。出場の可否はゼンツォフ戦の内容次第か。

★★★ PRIDEウェルター級GP 2005優勝

ダン・ヘンダーソン

早くも「ウェルター級絶対王者」と呼びたいほどの強さを見せ、昨年のウェルター級GPを制したダンヘン。しかし、かつてはあのノゲイラも参加した無差別級トーナメント、KOKで優勝しており、階級の壁を乗り越えられる最右翼とも言える。

★★★★ ブラジル・スーパーファイト ミドル級王者

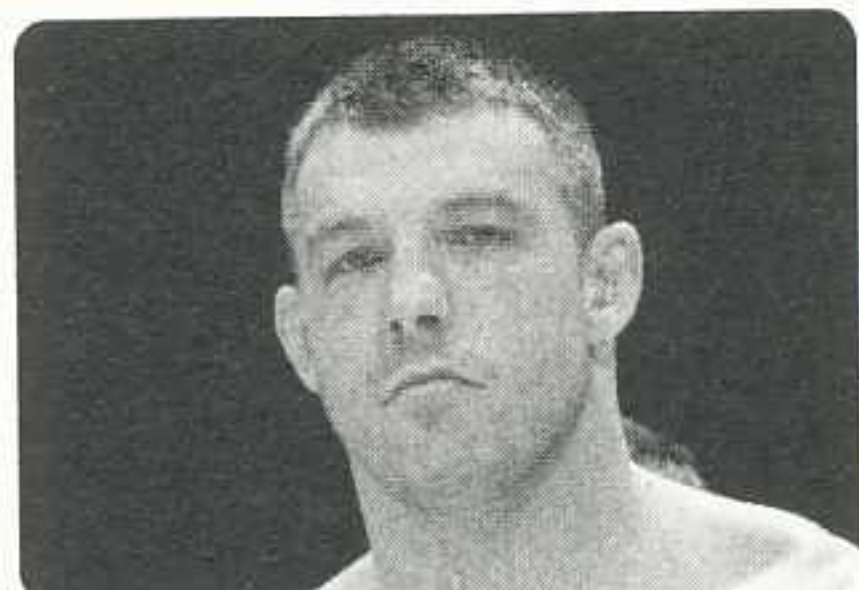
美濃輪育久

通常は83キロ以下級で闘っているだけに、無差別級GP出場というのはまさしく無謀……ではあるが、無謀だからこそ出場するのが美濃輪育久。「プロレスラーに体重差は関係ない」とばかりに、ウルトラ・ヘブンを目指して参戦濃厚だ！

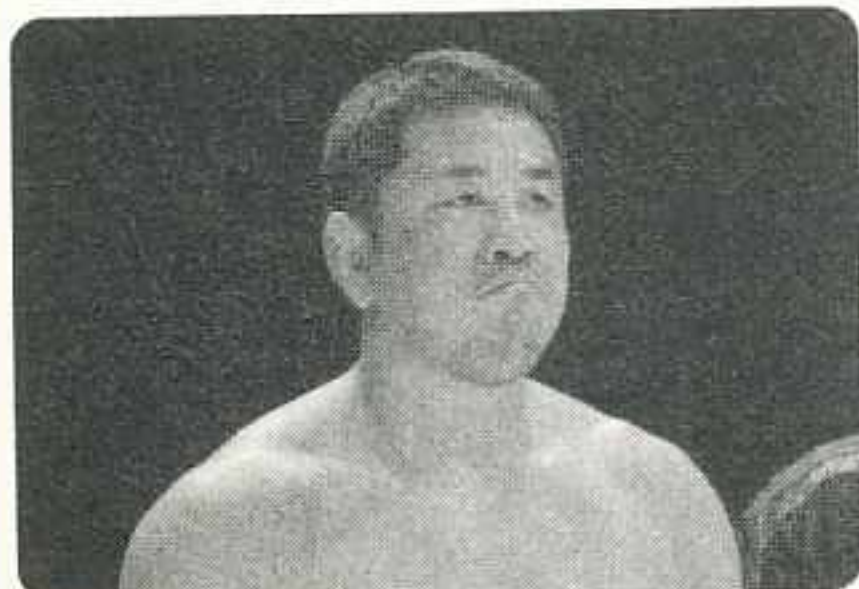
★★★ PRIDE.GP2000ベスト4

桜庭和志

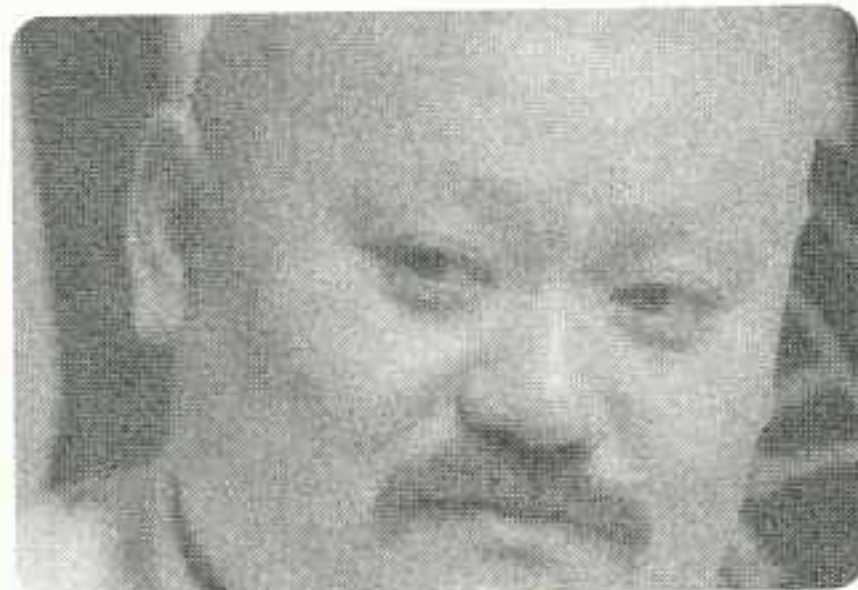
これまでミドル級でも対格差に泣かされ続け、昨年のブラジル修行でようやく93キロをキープできるようになったサクが無差別出場というのは考えにくいが、5月に向けて3度目のブラジル修行が決定しただけに、可能性はにわかに高まった。

★★★ シドニー五輪柔道金メダリスト

パウエル・ナツラ

吉田を上回る柔道の凄まじい実績を引っさげて『PRIDE』に参戦しながら、初戦がノゲイラ、第２戦がアレキサンダーと、相手が悪すぎたために2連敗を喫したナツラ。しかし、内容ではトップクラスと堂々渡りあっており、GP参戦もあるか？

★ 元IWGPヘビー級王者

永田裕志

格闘技界のW杯といわれるこのGPに、プロレス界、いや日本を代表として出場するにもっとも相応しい男は誰かというアンケートを取れば、なぜかブッチギリで１位になりそうな永田さん。2・26はBML徳島ではなく、ぜひ『PRIDE』へ！

★ 元WAR世界6人タッグ王者 元IWGP　タッグ王者

後藤達俊

プロレス界最後の切り札がついに動いた。あの"東海の殺人拳"寛水流の出身であり、酒を飲めば、包丁、日本刀を振り回すその狂気は、まさになんでもあり。新日本を退団し、「PRIDEでもハッスルでも出る」と宣言したこの男を放っておくな！

★ 元UAW世界ウエルター、ミドル、ジュニアライトヘビー級王者

エル・ソラール

総合の経験は、鈴木みのるの金玉を蹴りあげたDEEPでの1試合だけであり、そんな男がGPに出場するわけないと思われるが、じつは3年前の大晦日、桜庭と闘うプランがあっただけにとしてちゃっかり紛れ込む可能性もなくはない、かも。

★★ 『ADCC2005』2階級制覇

ホジャー・グレイシー

昨年の『アブダビ・コンバット』無差別級を見事に制し、グレイシー一族の若き帝王とまで呼ばれるホジャー。現時点では総合よりも柔術を優先しているが、一族の名誉回復のためにも、GPは若き帝王が勝負するに相応しい舞台に思えるが……

気になる気にするPRIDE、K―1の06年を大展望

二大メジャーの行方

総力戦となった大晦日興行戦争を終え、充電期間ともいうべき沈黙を守っていた二大メジャー、『PRIDE』とK―1。06年マット界を制すべく再び動き始めたが、その行方を占うべく、事情通の業界人による匿名座談会、敢行!!

写真協力／DSE
構成／ジュードー・オー2006
designed by bun-chan (Two Three)

座談会出席者

金 選手＆関係者に強力パイプを持つ。この人に聞けば、選手の性癖すらわかるが、ヤバい話は口を閉ざすベテラン・フリーライター。

銀 某スポーツ雑誌の編集ライター。業界に情報網を張り巡らせ、守備範囲は総合格闘技からキックボクシングまでにも及ぶ地獄耳。

銅 業界3年目の某スポーツ紙記者。フットワークの軽さに定評があるが、若さがゆえの軽薄さが玉に瑕。いや、命取りになっている。

金 編集部から「匿名座談会で今年の格闘技界の行方を占ってくれ」という要請を受けて、我々も久しぶりに集まったわけだが……。

銀 時期的に難しいテーマだなぁ。いまはDSEもFEGも今年の流れやヤマ場づくりに向けて仕込みの真っ最中だろ。この号の発売時にはけっこう様子が変わってるかもしれないしなぁ。それに、匿名であっても、さすがに現段階では言えないネタもあるし、急転直下、発売日の頃には情報を解禁してもよくなってるっていうこともあるかもしれないし。

銅 まぁ、そのへんは気にしないでさっさと進めましょう！　まずK―1はのっけからゴッド・アングルが飛び込んできてますよね。谷川（貞治）さんが先月の『kamipro』で今年の目標に〝打倒・ホリエモン〟と掲げたら、図らずも違うところでホリエモンが打倒されちゃったし（笑）。

銀 ボビー・オロゴンも曙に勝って勢い余ったのか、所属事務所内で大暴れ。あれだけレギュラー番組を抱えていた島田紳助が、あの程度の事件ですら半年間の謹慎だった。ボビーのリング登場はしばらくないかもなぁ。弟のアンディ・オロゴンも2・4K―1MAXを突然のケガで欠場するしさ。

銅 そういうレベルのネタはともかくですね……。

銀 おまえが振ったんだろ！

金 小ネタなら、『kamipro』編集長の山口（日昇）氏と前田日明が、ついに邂逅を果たしたそうだよ。

銅 えっ、えっ、いつですか⁉

金 滑川康仁の結婚式のこと。二人とも呼ばれてて、山口氏が前田日明に殴られて、血の雨が降るんじゃないかと関係者も噂し合ってたし、そんな噂が流れて滑川本人も困惑してたって話だけどね。

銅 なんせ、『kamipro』の堀江ガンツは、昨夏ロシアで前田日明の鉄拳を二発も頂戴しましたからね。

金 聞くところによると、その結婚式の場で山口氏が「前田さん、ごぶさたしてます」と挨拶に行ったら、日明兄さんは破顔一笑、懐かしそうな顔をして「誰やったっけ？」って冗談で返したらしい。

銀 山口日昇が「なんにもなかったよ」と編集部に報告したら、ガンツが「なんで俺だけ殴られるんだ、理不尽だ！」と言ったら、「俺は前田日明に殴られるようなことは、何もしてない。おまえは俺が殴られればいいと思ってたのか？」と、今度は山口日昇に殴られたらしいね（笑）。

金 いずれにしても、何事もないのはつまらな……いや、よかった。滑川選手、結婚おめでとう！（笑）。

銅 なんで二人ともボクの知らないそんな小ネタで盛り上がってるんですか？

銀 おまえが聞いてきたんだろ？

銅 （ちょっとスネながら）いや、そんなことより、一番ボクが知りたいのは、何をおいても5月5日大阪ドームで開幕する『PRIDE無差別級GP』のことなんです！　ズバリ聞きます。いったい誰が出てくるんですか？　ねえ、ねえ！

金 その前哨戦となる『PRIDE・31』のカードは出揃ったが、『PRIDE無差別級GP』の本格的な決定は、それ以降になるだろう。

銅 え～、そうなんですかぁ？　何もわからない状態なら、今日は来るんじゃなかったなぁ。ネットで情報でも漁って、いろいろ妄想していたほうがよかったですよ！

銀 末端とはいえ、とてもマスコミの発言とは思えないな、おまえの発言は（笑）。G

Pには、世間がアッと驚くアマチュア界の大物が投入されるという話から始まって、大物外国人ファイター、それから参戦が決定的な吉田に加えて、藤田や桜庭の参戦の有無、それから『PRIDE・31』でノゲイラ兄とやることになった田村の参戦の有無まで、これから春に向けて話題は沸騰していくと思うよ。いまは沸騰させるための水をヤカンに入れたっていう状況じゃないかな。

銅　ただ、ボクは本人がいくら希望したとしても、五味隆典の『無差別級GP』参戦は個人的に断固反対ですね！　そもそも競技化が進む現代MMAにおいてはですね……（ぶつぶつ）。

銀　ぶつぶつうるさいな。本人が出たいんならいいじゃねえかよ。それに本人はおもしろさを広めたい」っていう表明もしたんだし、いまさらその話題を蒸し返すなよ（笑）。

金　拳の怪我を手術したヒョードルは、6ヵ月の安静が必要だというショッキングな情報も入ってきている。ヒョードルはダントツの優勝候補だけに手術後の状態は気になるところだ。

銀　おそらく大丈夫だろうけどね。でもさ、弟のアレキサンダーと揃って出場すれば、決勝戦で兄弟対決が実現してもおかしくないからな。同門ならまだしも、兄弟対決はやりづらいだろうし、興行的にも兄弟対決が決勝になったらどうかといえば……かといってアレキサンダーを出さないわけにはいかないところもある。彼の成長ぶりには目を見張るものがあるし、いまもっとも誰からも対戦を嫌がられるファイターになってるよな。

銅　エメリヤーエンコ兄弟の対決が実現したら、ボクはぜひ見たいですね！

金　そのアレキサンダーに『PRIDE・31』で同じロシア人で元チームメイトのハリトーノフをぶつけるというプランもあった。ハリトーノフが昨年10月のファブリシオ戦で負傷しなければ、大晦日にヒョードル戦がマッチメイクされていたという話だし、エメリヤーエンコ兄弟とハリトーノフの凄惨遺恨マッチはいずれ近いうちに実現するだろうね。

銀　ハリトーノフとアレキサンダーの勝者が、ヒョードルとぶつかるっていう可能性は高いね。

藤田和之の行方、PRIDEか、K―1か？

銅　GP関連で行方が話題になっている日本人選手といえば、2月1日に猪木事務所を離れてフリーになった藤田和之です。彼のGP参戦がマスコミを賑わせていますよね。

金　いや、藤田和之はまだどうなるかわからないんじゃないか。

銅　いや、本人はもう出陣する腹は決めてると思うなぁ。いや、きっとそうに違いないですよ!!　青島幸雄が国会でそう決めたのダ～!!

銀　だから落ち着けよ、おまえは（笑）。

銅　だって、K―1に行っても、いったい誰と闘うんだろう？　という疑問があるじゃないですか。

金　いや、いち早く藤田獲得を表明したK―1の谷川プロデューサーは、藤田を『HERO'S』ヘビー級部門のエースに据えたい意向を示した。選手にとって何かを創造していく作業は、非常に魅力的なオファーだと思うよ。一方、DSEの榊原代表も積極的に獲りに行くことはないとしながらも、藤田の『PRIDE』再登場には歓迎の意を表わしている。

銀　大晦日戦争直前にも『PRIDE』とK―1の藤田和之争奪戦が繰り広げられていた。業界からひさしく消えていた、ある大立者が日本やアメリカで藤田と接触していたという噂もあったし、藤田の矛先がどこの舞台に向けられるのかは、本当にここ数週間がヤマ場じゃないかな。

金　まぁ、今回出てくるとしても、プロレスラー・藤田がプロレスを背負ってGPに出陣するという、ちょっと錆びついたアングルではなく、DSEは、藤田には〝GPを勝ちにいける日本人〟ということで期待しているんじゃないかな。

銅　藤田にはヒョードルをグラつかせた実績があるわけですから、たしかにプロレス代表とかではなく、日本代表としてGPに殴りこむ、というほうがワクワクしますよね。

銀　大晦日興行戦争の反動で沈静化していた格闘技業界だけど、1月の大きなニュースといえば、やっぱりホイス・グレイシーのUFC復帰かな。

銅　これをきっかけにK―1とUFCの仲は一気に親密さを増しそうですよ。もともとホイス復帰を発表する際に、事前に「世紀の大発表」と謳っていたから、もしかしてK―1との提携を発表するのかなんて期待しちゃったんですけど。

銀　K―1とUFCの提携は今後、ありえない話ではないけど、関係筋から聞いた話では、UFC側はK―1との提携話にはあまり興味は持ってないらしいね。このタイミングで発表がないということは、今後もないと考えるのが妥当じゃないか。

銅　い、いや、ボ、ボクだってじつはそう思ってましたよ！　それにしても、一時期友好関係にあった『PRIDE』とUFCの関係はどうなっちゃうんだろうなぁ……。

銀　現状維持ってところじゃないかな。がっぷり四つじゃないけど、付かず離れずの関係でさ。お互いメリットがあれば協力するという感じだと思うな。

銅　でも、『PRIDE』はいつになってもUFCに選手の派遣をしないから、『PRIDE』を見限ったUFCがK―1と手を取り合ったと考えてもおかしくないですよね？

銀　いや、『PRIDE』側も選手派遣に関

してはやぶさかじゃないし、何か具体的な障害があるわけじゃない。ただ、お互いのメリットが一致する機会に恵まれてないだけに思える。

金 というか、互いのメリットが一致する機会はもうありえないんじゃないか？　『PRIDE』、K—1、UFCの三者は今後、鎬を削る関係になっていく。大袈裟に言えば、選手の争奪戦を含めた〝太平洋戦争〟の様相を呈すことだって考えられるよ。

銀 それだけUFCはK—1や『PRIDE』にとって厄介な存在になりつつあるってことだ。UFCはTUF（リアリティ・ショー形式の選手育成番組）の成功で一般世間の認知度を得て、スポンサーも付いて急激に成長している。つまり、実力もギャラもトップクラスのファイターたちを抱える体力が付いたわけだ。

金 加えてTUFでネームバリューと実力を付けた選手たちがこれから続々とオクタゴンに登場すれば、アメリカ人ファイターの数はダントツに多いわけだし、アメリカでのUFC人気はますます高まるよな。その地盤を軸に「アメリカ発世界」の格闘技イベントとして、世界制覇を狙ってきてもおかしくはないね。

銀 これは悪い意味で言うわけじゃないが、結局、UFCもK—1や『PRIDE』から学んだエンターテインメントとしての要素を売りにしたいし、そこが一番のポイントだと思っているだろう。たしかに競技色は強いけど、一方で、レトロファイター路線が一番の見出しになっていた。ケンシャムがティト・オーティスに挑んだ一戦がPPV件数の新記録を打ち立てたことがあったことからも、アメリカでの地盤づくりをシッカリやったあとに世界戦略を練ってくるだろう。そのときにK—1と『PRIDE』、どちらと組んで巨大市場の日本に斬りこんでくるかだろうな。

『武士道』がパワーアップでオー!?

銅 しかし、UFCがそれだけ力をつけてくると、『PRIDE』の全米進出は今年も無理そうですかね？　この件は主にルール問題が大きな障害になってるそうですけど。

金 いや、水面下では着々と準備が進められている。……DSEとしては『PRIDE』の世界観をストレートに持ち込みたい意向がある。アメリカという地域に限らず、売り興行という形式ではあれば、いつでも開催できるが、現地のプロモーターにお任せして『PRIDE』という冠だけを被せて、それが『PRIDE』だと思われたくないという考えがあるわけだ。

銀 ぶっちゃけ、DSEは目下、無差別GP、『武士道』の陣容整備に全力投球だろうしね。なかなかアメリカ進出まで手が回らない感じだよな。でも、現地スタッフを使って『PRIDE』の世界観が損なわれないようなイベントを今年秋には決行するんじゃないかな。DVDも驚くほど売れてるみたいだし、アメリカには『PRIDE』マニアが、我々が想像する以上にいるからね。

金 『武士道』はウエルター級もしくはライト級のGPが行なわれるらしい。開催時期についてはわからないが……。

銀 『武士道』関連で俺が聞いた話だと、『武士道』の環境が劇的に変貌するというビッグ・プロジェクトが進行中らしいね。

金 ああ、あの件だな。

銅 な、なんですか!?　二人して。ボクにも詳しく教えてくださいよ！

銀 いや、それはまだ言えないんだけど、決してネガティブなことじゃないよ（笑）。

銅 というか、もったいぶらないで教えてくださいよ！　あ！　もしかして、レスリング協会と『PRIDE』の共同プロジェクト、寝技のグランプリともいえる「パンクラチオン」が関連したりするんですか？

金 それはあまり関係ない。そのプロジェクトの話をすれば、レスリング協会が主導となって、DSEが運営に協力していくかたちになるんじゃないか。将来的には、サンボや柔道など、あらゆる寝技系格闘競技の一流選手を集めて、世界一を決めていく舞台をつくるというプランみたいだ。

銅 あと聞きたいのは、榊原代表が昨年から開催をほのめかしている立ち技系のイベントですよ。これ、本当にやるんですか？

銀 まだそういうイベントをやれたらおもしろい、という程度の話と聞いているけどね。

銅 でも、昨年末にこんな噂を耳にしましたよ。大晦日『PRIDE男祭り』の中で1DAYトーナメントを開催して、マーク・ハント、ミルコ、西島洋介、ハリトーノフの4人が立ち技ルールで争うと！

金 マッチアップの段階でそういったプランがテレビ局サイドから挙がったと聞いているが……『PRIDE』的にはいつでも開催できるはず。ただ、DSEが一番、重要視しているのは、単発ではなく継続していくイベントとして、本腰を入れて取り組むという点だ。なぜ立ち技なのか？　というファンの疑問にも答えられる形をつくらないとならない。たとえば、真の立ち技最強という意味で、極端な話、素手で行なうとか、スタンドの締めや投げありでやるとかね。単にK—1への対抗心だけでやろうとしてるわけじゃない。「世界最強を決める」というのは、もはやDSEのお家芸とも言えるけど、その舞台が何の最強を決めるのか？　その意味合いや継続性、その他、軸となるテーマや立ち位置が決まらないと榊原代表はやらないんじゃないかな。

銀 対する本家K—1は、受けて立つ自信満々らしいね。立ち技系の選手ルートを押さえている強みもあるだろうけど。ただ、ちょっと耳にしたことでいえば、立ち技王国の

オランダの状況は、あいかわらず一寸先は闇のようだけど……。

金　しかし、石井（元）館長や谷川氏にはK—1をここまで巨大なジャンルに手掛けた豊富な経験がある。K—1本戦にしても競技性回帰の傾向が見られるし、まだまだ立ち技で後塵を拝することは簡単には考えられないな。

銅　もしかしたら、『PRIDE』の立ち技部門設立宣言がK—1にとって良い意味でプレッシャーになったのかもしれないですね。なにしろセーム・シュルトが優勝するんですよ。ここ数年のK—1であれば、地味に強いからGPエントリーすら難しかったシュルトが。立ち技としての競技性回帰を打ち出していきそうですよね。

銀　だから、むしろ寝技のほうが、DSEにとっては巨大化させやすいだろうな。小川vsノゲイラや、小川vsナツラ、吉田vsハリトーノフなど現有勢力でも夢のマッチメイクが組めるし、レスリング協会がそのネットワークで一流選手を担ぎ出せるかもしれないしね。競技的に地味になるところをどうカバーして育てていくかだろうけど。

立ち技中・軽量級、驚ガクの噂

金　今年のK—1はますます中・軽量級に力を入れていく模様だ。『HERO'S』とK—1 MAXは、日本人選手だけでほぼ興行が成り立つ優良物件。経費面はK—1本戦はより安上がりになるし、毎月交互にMAXと『HERO'S』を開催するのはなんら不可能な話ではない。

銀　そこで、だ。じつはその『PRIDE』立ち技部門が、中・軽量級を軸に開催されるんじゃないか？　という驚ガクの噂を聞いたけど。

銅　はあ？　ちょっと妄想情報すぎないですか、それ（笑）。

銀　絶対にそう言われると思った（笑）。しかし、浮き足立っているキック関係者がこれまた多いんだよ。どことはいえないが、最近になって急に『PRIDE』の名前を口にしている立ち技系の団体や選手がいるし。

金　ただ、この業界はほんの茶飲み話程度の話が伝言ゲームの末に尾ひれが付いていくパターンが多いからな。

銀　ごもっとも（笑）。

金　そういえば、詳しい時期は言えないが、K—1がK—1 MAXの下の階級を対象にした新ブランド『K—1 SPEED』（仮称）を立ち上げて、某テレビ局放映に向けて動いたことがあった。結局、立ち消えになったが。

銅　『K—1 SPEED』！

金　いまならK—1 MAXのときにワンマッチを入れ込む形が現実的じゃないかな。これまた立ち消えになったけど、K—1 MAXのスーパーファイトで小林聡にオファーがあったとも聞いている。

銀　自分が言い出したくせにこんなこと言うのもなんだけど、やっぱりK—1の線で考えるのが現実的だなあ。『PRIDE』もヘビー級やミドル級の立ち技イベントならまだしも、イチからこの階級に取り組む余裕は、さすがに現時点ではないだろうし。

銅　ところで、『PRIDE』とK—1の選手争奪戦の行方はどうなりそうですか？　DEEPの佐伯代表と結びつきが強かったはずの三島☆ド根性ノ助が、『HERO'S』と協力体制にあるチーム・キングス入りしたことで、DEEPライト級タイトルの返上、『武士道』離脱が公の事実として語られていますけど。

金　同チームの上山龍紀の件にしろ、『チーム・キングス』を束ねる青木良氏が動いただけで、『HERO'S』の引き抜き云々というレベルの話じゃないと思う。

銀　まあ、『武士道』は彼らに十分すぎるお金を払っていて、それを蹴って出て行くんだからしょうがないんじゃないの。三島がチーム・キングス入りしたことで『HERO'S』との距離がグッと縮まったことはあきらかだけど、『武士道』離脱は三島の個人的な嗜好だと思うし。修斗時代から彼をよく知る人間ならなんら驚くことじゃないよな。

金　三島は今年で34歳だし、現在負傷欠場中。タイトル返上は公式には発表されていないが、新たな舞台で完全燃焼する三島に期待したいね。

銅　しかし、引き抜きではないにしろ、選手の移籍は今後活発になるような予感がしますよね。

金　須藤元気だって昨年の夏頃、『武士道』移籍の噂があった。話はずれるが、宇野薫は大晦日にK—1ルールに初挑戦、なんと魔娑斗と対戦するプランがあったそうだ。今年は『HERO'S』の開催数が増えることから総合専念が見込まれるが、宇野薫クラスのトップファイターでさえ試行錯誤している現状があった。

銀　何が起きてもおかしくないっていうところがあるよな。移籍する・しないはちょっと大袈裟になるけども、揺るがないのはそれぞれの中・軽量級ブランドのトップである五味隆典、山本KID、魔娑斗ぐらいなもんじゃない？　極端な言い方をすれば。

金　『武士道』にしろ、興行数は増えていくだろうし、席を埋めるために新しい選手の抜擢は増えていくだろう。先日のK—1 MAX日本人トーナメントみたいにね。『HERO'S』は3・15日本武道館を発表しているが、『武士道』の具体的な興行プラン、日程が明らかになったときに水面下でいろんなことが動くんじゃないかと思うね。

銀　ま、そんなとこかな。今日はおしまい!!

銅　ちょ、ちょっと待ってくださいよ！　さっき話が途中だった『武士道』のビッグプロジェクトってなんなんですかぁ⁉

カバー・バージョンではない!!

将軍KYワカマツ➔

オリジナル・アーティスト・バージョンによる
《プロレス＆格闘技》入場テーマ曲CD!!
大絶賛につき 第2弾 が遂に登場!!

これまでの入場テーマ曲CDではカバー・バージョン収録でしかなかった洋楽曲の数々をユニバーサル ミュージックの膨大なカタログの中からリストアップしました。
オリジナル・アーティスト演奏のオリジナル曲を、第1弾・第2弾共になんと34曲収録!!
また、ボーナストラックには入場テーマ曲として使われているクラシックも厳選収録。
今まで手に入れることを躊躇していた曲がこの2枚にぎっしり凝縮されています。
これであなたのライブラリーのバリエーションが大きく増えること間違いなし!!

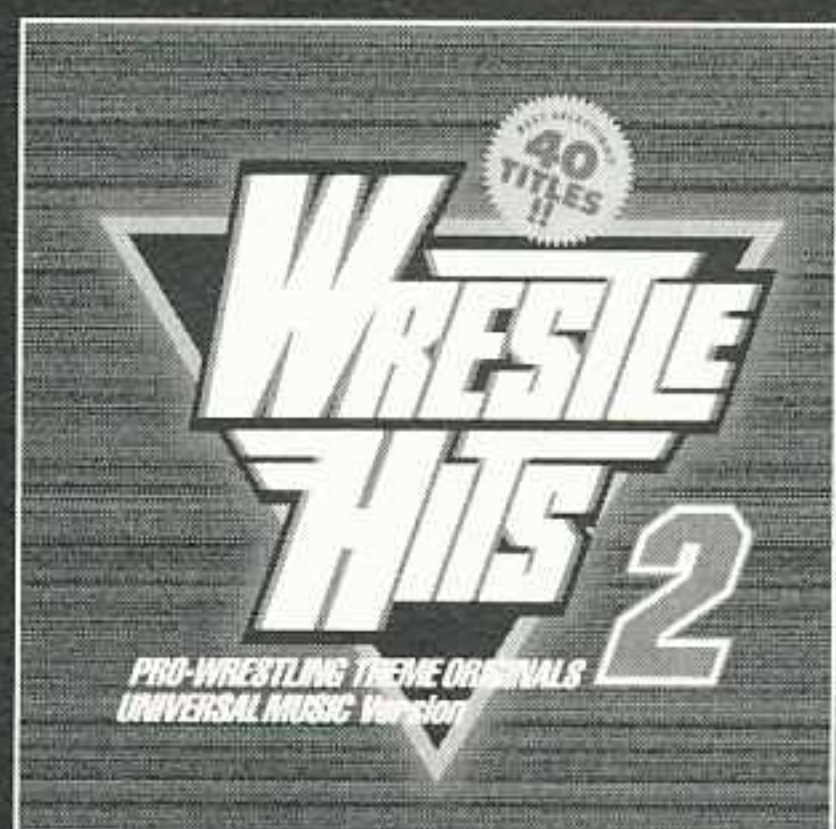
総力結集!!

2枚組40曲で3,000円だ!!

WRESTLE HITS PRO-WRESTLING THEME ORIGINALS UNIVERSAL MUSIC Version

レッスルヒッツ
プロレス・テーマ・オリジナルス ユニバーサル ミュージック編

UNIVERSAL
UNIVERSAL MUSIC

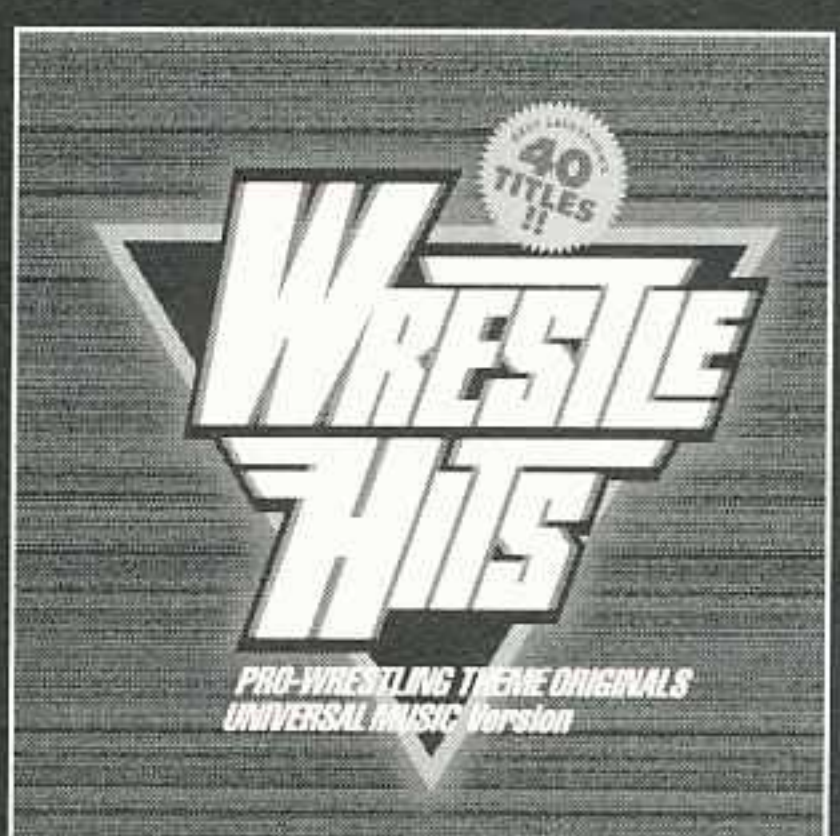
40 TITLES!! WRESTLE HITS 2 PRO-WRESTLING THEME ORIGINALS UNIVERSAL MUSIC Version

レッスルヒッツ 2
定価¥3,000[税抜価格¥2,857]
UCCU-1125/6 2CD

disc1 栄光のジュニア・ヘビー級選手たち 他

01 【opening】行進曲第九番 ホ短調 作品95《新世界》[ドヴォルザーク]
02 ウェア・ザ・フッド・アット►DMX
03 ヴィヴァ!►ボンド
04 フィラデルフィア・フリーダム►エルトン・ジョン
05 ロスト・アット・バース►パブリック・エネミー
06 マジック・カーペット・ライド►ステッペンウルフ
07 Y.M.C.A.►ヴィレッジ・ピープル
08 愛のテーマ[LOVE'S THEME]►バリー・ホワイト
09 ワイルド・モー・モー►高中正義
10 ザ・ヒート・ゴーズ・オン►エイジア
11 【intermission】星条旗よ永遠なれ
12 アイル・シー・ヤ►シャカタク
13 タジマハール►高中正義
14 エル・ファンタズモ・アンド・ザ・チキン-ラン・ブラスト-オ-ラマ►ホワイト・ゾンビ
15 キープ・イット・イン・ザ・ファミリー►アンスラックス
16 エレクトリック・ヘッド・パート1(アゴニー)►ホワイト・ゾンビ
17 キラメキ☆MMM BOP►ハンソン
18 ドント・クライ►エイジア
19 オリーブの首飾り[EL BIMBO]►ポール・モーリア
20 【ending】交響曲第九番 ニ短調 作品125《合唱》[ベートーヴェン]

disc2 懐かしの世界の強豪たち 他

01 【opening】交響曲第五番 ハ短調 作品67《運命》[ベートーヴェン]
02 ゴー►エイジア
03 ア・ジプシーズ・キッス►ディープ・パープル
04 ミュジカット►カンサス
05 ホット・ウォーター►レヴェル42
06 スタートレック・メドレー・パート1►ミーコ
07 タイム・アゲイン►エイジア
08 虹の彼方に～オズの魔法使い[Over The Rainbow ～We're Off To See The Wizard (The Wonderful Wizard Of Oz)]*メドレー►ミーコ
09 マイアミ・バイスのテーマ TVドラマ『特捜刑事マイアミ・バイス』より►ヤン・ハマー
10 死神の生き血[BLOOD DEATH HATRED]►モータル・シン
11 アンリトゥン・ロウ►ディープ・パープル
12 インディアンズ►アンスラックス
13 正義の力(メイン・タイトル) 映画「アンタッチャブル」より►エンニオ・モリコーネ
14 【intermission】ソビエト社会主義共和国連邦 国歌
15 スーパー・バッド►ジェームス・ブラウン
16 オール・ザ・シングス・シー・セッド►t.A.T.u.
17 サンダー・キッス'65►ホワイト・ゾンビ
18 ザ・スコアー►エマーソン、レイク＆パウエル
19 治療不可[Difficult To Cure]►レインボー
20 【ending】ブレイブ・マーチ[SCOTLAND THE BRAVE]「スコットランド民謡」より

40 TITLES!! WRESTLE HITS PRO-WRESTLING THEME ORIGINALS UNIVERSAL MUSIC Version

レッスルヒッツ
定価¥3,000[税抜価格¥2,857]
UCCU-1070/1 2CD

disc1 プロレス

01 【opening】行進曲《威風堂々》第1番[エルガー]
02 ライジング・フォース►イングヴェイ・マルムスティーンズ・ライジング・フォース
03 アイズ・オブ・ザ・ワールド►レインボー
04 サンダー・ストーム►高中正義
05 スカム・オブ・ジ・アース►ロブ・ゾンビ
06 キックスタート・マイ・ハート►モトリー・クルー
07 ワイルドで行こう[BORN TO BE WILD]►ステッペンウルフ
08 パーフェクト・ストレンジャー►ディープ・パープル
09 エレクトリック・ヘッド・パート2(エクスタシー)►ホワイト・ゾンビ
10 【intermission】交響詩《はげ山の一夜》[ムソルグスキー]
11 カラー・オブ・ユア・スマイル►ナイト・レンジャー
12 エクリプス►イングヴェイ・マルムスティーン
13 ジャングル・ウォーターホール►チック・コリア & リターン・トゥ・フォーエヴァー
14 コスミック・ハイウェイ[THEME ONE]►コージー・パウエル
15 バッド・シームストレス・ブルース-フォーリン・アパート*メドレー►シンデレラ
16 ドラゴン►ヴァンゲリス*別テイク曲
17 ゼロ・トゥ・シックスティ・イン・ファイヴ(フリー・ライド・サーファー)►パブロ・クルーズ
18 スーパースター►カール・アンダーソン
19 ネヴァー・ゴナ・ストップ(ザ・レッド、レッド・クルーヴィ)►ロブ・ゾンビ
20 【ending】ピアノ・ソナタ第二番 変ロ短調 作品35《葬送》～第3楽章[ショパン]

disc2 格闘技 他

01 【opening】交響詩《ツァラトゥストラかく語りき》～序奏[R.シュトラウス]
02 キャプチャード(保護)►キャメル
03 ケイオス B.C.►セパルトゥラ
04 ドライヴィング・サウス►ザ・ストーン・ローゼス
05 メイン・タイトル 映画『ブレイブハート』より►ジェイムズ・ホーナー
06 パーティ・アップ►DMX
07 ノック・ユー・アウト(Mama Said Knock You Out)►LL.クールJ
08 太陽(Sonne)►ラムシュタイン
09 ついに自由に(Now We Are Free) 映画『グラディエーター』より►ハンス・ジマー & リサ・ジェラード
10 キリング・マシーン►L.A.GUNS
11 ユア・ラヴ・イズ A 187►ホワイト・ヘッド・ブラザーズ
12 【intermission】ワルキューレの騎行[ワーグナー]
13 デイズ・ライク・ディーズ►エイジア
14 メイク・ユア・ムーヴ►レインボー
15 開けゴマ(OPEN SESAME)►クール・アンド・ギャング
16 ウォーク・オン(サム・モア)►ボストン
17 スターウォーズのテーマ～カンティーナ・バンド►ミーコ
18 マシーン・ガン►コモドアーズ
19 オリンピアーヴォーカル・ヴァージョンー►セルジオ・メンデス
20 【ending】《カルミナ・ブラーナ》～おお、運命の女神よ[オルフ]

第1弾! 第2弾! 絶好調発売中!!

制作●ユニバーサル クラシックス&ジャズ　発売・販売元●ユニバーサル ミュージック株式会社　http://www.universal-music.co.jp/jazz/

『PRIDE』、K—1をついに超えた!?
UFCの巨大化が
止まらない!!

UFCのホイス獲得に見えた

MMA 三国志時代の到来

BJペン、ティト・オーティスも復帰!! オクタゴンで何が起こっているのか?

UFCが大々的に発表したホイス・グレイシーの電撃カムバック!!　参戦交渉が一筋縄で済まない——とくに日本標準とした金銭面は高いハードルだが——グレイシーを引っ張り出し、そのうえ一発目に“超難敵”マット・ヒューズ戦を合意させたUFC。そのパワーは二大メジャー『PRIDE』、K—1にも劣らないものになってきた。いったいUFCで何が起こっているのか?　パワーアップでオクタゴン!!　な現状に迫る!

構成／ジャン斉藤　designed by nogu (Two three)

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンがクールなUSAニュースをお届け!!

USA Cool 宅急便 Vol.1

CoolでHotなアメリカMMAニュースを発信する新コーナー!! めでたい連載一発目のテーマは、ホイス・グレイシーの復帰、リアリティ番組TUF人気がますます燃え盛るアメリカの老舗格闘技プロモーション、UFCの"いま"だ!!

聞き手／デューク東郷　助手／上杉どんぐり

「UFCがPRIDEやK-1に匹敵するメジャープロモーションへと変貌を遂げた理由」

PROFILE

【すこっと・ぴーたーそん】格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』(http://www.mmaweekly.com/)を主宰。ビッグマッチのたびに来日。八王子某所に居を構え、日米格闘技事情に精通している。最近覚えた日本語は「パワーアップでオー!!」(ポーズ付き)。

――今月から始まった『USA Cool 宅急便』!! ナビゲーターは日系3世のデューク東郷、そして『MMA WEEKLY』編集長のスコット・ピーターソンです!

スコット　『kami-pro』読者のみなさん、はじめまして! スコット・ピーターソンです。このコーナーでは毎月、気になるUSA情報を、ボクのショートインタビューやコラムなどでお届けするので期待してください。

――スコット、HotでCoolなUSA情報を期待しているぜ! なにを隠そうボクは日本在住でそこらへんにはまったく疎いんだからね。

スコット　まったく自慢できることじゃないが、私にまかせてくれよ(微笑)。さぁ、今月はどんなテーマでトークしようか?

――やっぱり、無知なボクでもアッと驚いたホイス・グレイシーのUFC参戦かな。なんだがUFCにはビッグバンの予感をおおいに感じるけど……スコット、UFCでは何が起こっているんだい?

スコット　いきなり結論から言おう。UFCは『PRIDE』やK-1に匹敵するメジャープロモーションへと変貌を遂げようとしているんだ!

――おっと、いきなりビッグマウスだな! 崇高なる格闘理念の前に挫折するってことはないだろうね?

スコット　……WHAT? 何を言っているのかさっぱりわからないが、UFC躍進の原動力となっているのは『ジ・アルティメット・ファイター』(以下TUF)だ。

――選手育成ドラマのリアリティ・ショーのことだね。続けてくれ、スコット。

スコット　なんといってもTUFの功績は、MMAを一般に浸透させたこと。それまでのMMAにはハードコアなファンしか存在しなかったけど、TUFスタート以降は一般人、つまり、いまではすっかり主流になったファンがPPVを観るようになった。みんながテレビでUFCを毎週観たいと思うほどにね。

――そいつはご機嫌な展開じゃないか!

スコット　そのTUFによって多くの視聴者がMMAというジャンル、そしてUFCというプロモーションに興味を持つようになったということだよ。

――アメリカでリアリティ・ショーというジャンル自体に人気があることは知っているが、そんなにTUFはおもしろいのかい? 何が魅力なのか読者諸君にザックリ教えてやってくれよ。

スコット　じゃあザックリいこうか(笑)。TUFのおもしろさは、選手たちのトレーニング風景や成長の過程に加えて、選手個人の性格や内面にもスポットを当てる。そしてクライマックスはチーム同士の対抗戦、ゲームチャレンジが待っている。こうした番組構成だから、従来のマニア層より少しだけ教養の高い人たちを引き込みやすくなっているんだ。

――つまり、いままでのマニア層は教養が足りないってこと? スコット、ちょっと舌が滑りすぎなんじゃないか?(笑)。

スコット　WHAHAHAHA! 舌が滑っているのはアンタだろ(笑)。で、そのTUFは4月からサード・シーズンが始まる。おそらくこれまでのシリーズの中で一番盛り上がると思うよ。なぜならビックリすることに、コーチがケン・シャムロックとティト・オーティス。因縁のある二人がそれぞれチームを指揮して争うってわけ。

――ケンシャムだけに"ケン猿の仲"! な～んつってな、GAHAHAHA!

スコット　(日本語のダジャレを理解できずに無視して)……ファースト・シーズンは、登場人物のキャラクターが魅力的だったからケーブルテレビの視聴率を1.6ポイントも獲得した。この数字は驚異的な数字で、セカンド・シーズンは1.4ポイントと低下してしまったけど、サード・シーズンは巻き返しが期待できるだろうね。

――UFCはますます新しいファンを増やすことになるってことか。

スコット　新しいファンの影響もあって、UFCの会場の雰囲気もずいぶんと変わったよ。だって新しいファンたちはUFCの歴史を深くは知らないし、詳しいMMA事情もご存じない。なにしろ、あのディエゴ・サンチェスをもの凄く素晴らしい選手だと思っているんだからな(肩をすくめて)。彼はTUFの中でこそ強かったけど、MMA界全体の中では、二～三流のファイター。

そういうことをわかってないファンがじつに多いんだ。

――でも、そのサンチョの野郎の活躍で、ビジネスの規模が拡大していったんだろう？

スコット　サンチェスだよ！　たしかにビジネスの規模は広がった。じつは、これまでのコアなファンは、あまりお金を使わなかったんだけど、新しいファンはお金をたくさん落とすんだ。たとえば、ボクの運営している『MMA WEEKLY』のサイトにプレミアム会員の有料ページがあるんだけど、ここ最近、プレミアム会員がどんどん増えている。

――なるほど！　だからお金を落とさないマニア層には辛口発言のオンパレードだったわけだ（笑）。

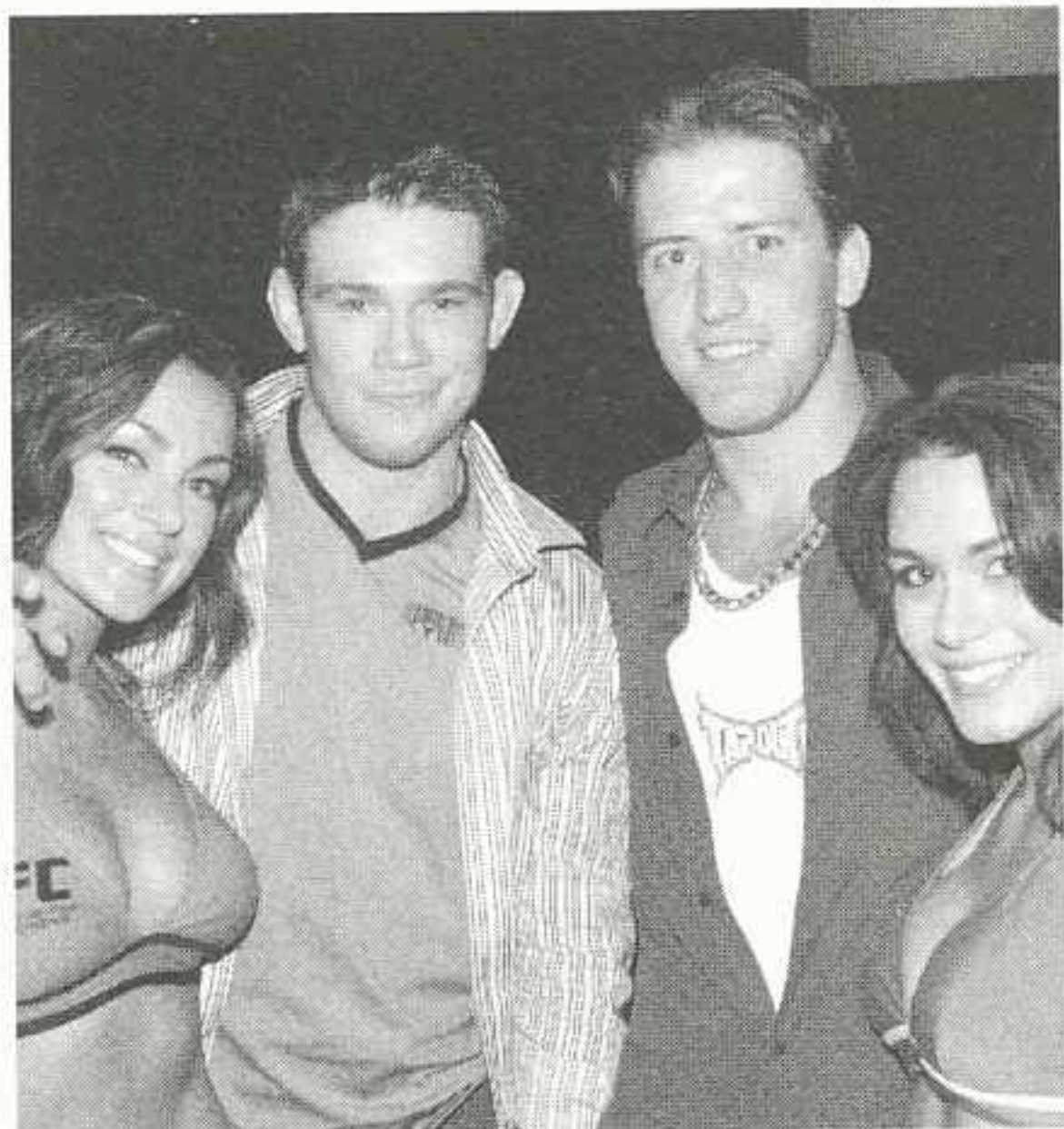
スコット　一般層を歓迎しているのはボクたちだけじゃないぞ！　UFCだってそうだ。TUF効果のせいか、チケットの値段がどんどん上がっている。一番安いチケットが昔は30～35ドルくらいだったのに、いまは倍の60～70ドル。こないだ（2月4日）の大会なんて、300ドルだったリングサイドのチケットが700ドルになっている。

――大橋巨泉もビックリの倍価格！　ウソだと言ってくれよ、スコット！

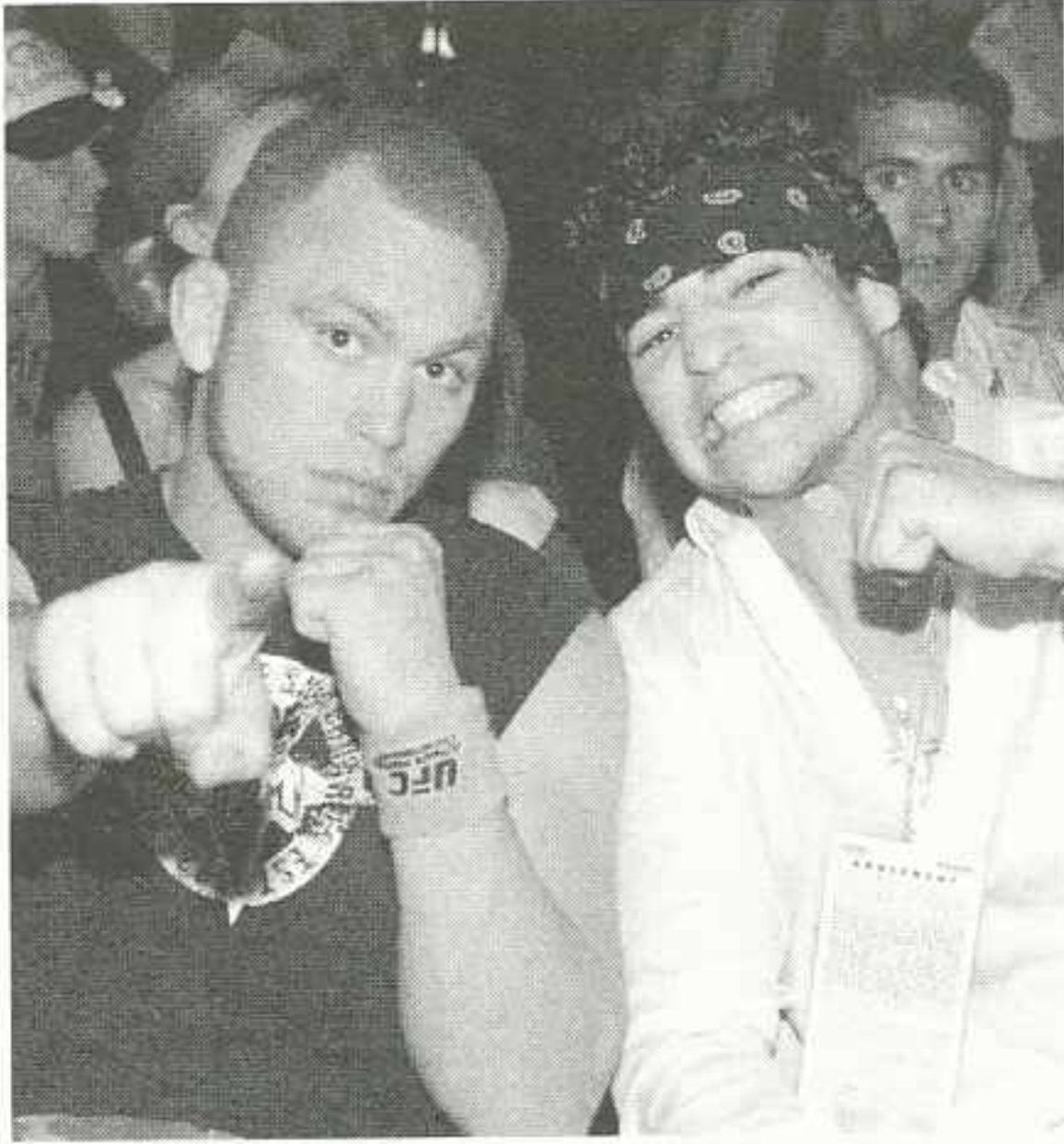
スコット　残念ながら本当の話だよ（肩をすくめながら）。UFCサイドは、値段を上げるのは今回だけだと言っている。それは同時期にスーパーボウルがラスベガスであって、多くの人が訪れるからという理由でね。でも、ボクはこの大会だけの値上がりだとは到底思えないな。

――それはなぜだい？

スコット　なぜかといえば、アメリカではいったん値段が上がってそれが受け入れられると、もう下がらないのが常識なんだ。

©April Pishna

写真左・Forrest Griffin
（フォレスト・グリフィン）
TUFの代名詞的ファイター。「好きなことをしたい」と警察官からこの世界に転身。つねにリラックスした大人の態度で、番組の視聴者からも高い人気を誇り、そのキャラクターからザイエンス社がイメージキャラクターに採用。UFC本戦でエルビス・シノシックらを撃破。4月にはティト・オーティスとの対戦が決定している。

写真右・Stephan Bonnar
（ステファン・バナー）
番組的では、あまり目立たないが、ファイターたちの口やかましいおじいちゃん的な存在。ディエゴにシャワーの浴び方を注意したり、アスパラガスの端を切るなと小言を言ってブン殴られた。はしゃぐクリスをたしなめることも。フィナーレではディエゴに判定で敗れものの、その闘いを評価され、UFCと契約を結んだ。

©April Pishna

写真右・Diego Sanchez
（ディエゴ・サンチェス）
ニューメキシコ州アルバカーキ出身。UFCがラテン・コミュニティ向けに引き出した選手。9歳からレスリングを始め、ハイスクール王者に。MMA開始3年でKOTCのタイトルを奪取。TUFではとにかくワガママな姿勢を貫きファンから反感をかう。TUFで勝利を重ねたあとにUFCと契約。このクラスで10本の指に数えられるようになった。

写真左・Chris Leben
（クリス・レーベン）
ルームメートの枕にションベンをぶっかけるなど、大のイタズラ好きのパーティボーイ。その性格もあって、合宿所の中では最高のチャンピオン。TUF成功の理由は彼にあると言っても過言ではないほど。UFC本戦には出場をしてないものの、ジ・アルティメット・フィナーレでジェイソン・トラッカーに勝ったあと、アルティメット・ファイト・ナイトで3連勝。

TUF人気でUFCのビジネス規模は拡がった

それは税金も同じなんだよ！

――ああ、普段から身に染みているってわけか（笑）。

スコット　とにかくUFCのビジネスが拡大していることは間違いなくて、以前は年間6～7回しか開かれなかった大会が、いまは毎月ライブショーかライブTVショーが行なわれる予定だ。

――つまり、UFCの未来は安泰！　BANZA～I、BANZA～I!!

スコット　いや、ところがそううまくはことが運ばないのが世の中の常だろう？　将来的な問題として、多くの選手たちが他のプロモーションに移ってしまう可能性が出てきてるんだ……。

――おっと、それは穏やかじゃないね！　スコット、いったい何が起ころうとしてるんだい？

スコット　デューク、耳をダンボにして聞いてくれ。というのは、TUFの成功でUFCはかなり儲けているんだけど、選手へのギャランティは以前とほぼ変わらないんだ。

――な～んてこったい!?　じゃあ選手たちは不満だらけだろう？

スコット　選手どころか、その事実を知ったファンが文句を言うぐらいだよ。無駄な金は使うくせに、選手へのギャランティは少ないということで、とにかくファンは怒っている。だから不満が募った選手が離脱して、ほかのプロモーションに移籍するなんてことも十分に考えられる。もちろん、チャック・リデルやランディ・クートゥア級の選手たちがすぐさまアクションすることはない。というのもほかのプロモーションも、トップクラスのギャラを払えるほどの体力はまだないからね。

――でも、たとえば、ほかのプロモーションがリアリティ・ショー的な番組を中継することになったら、どうなるかな？

スコット　いい質問だ。実現性の問題はおいといて、そうなったらUFCと混同したファンが流れ出すんじゃないかな。基本的にアメリカのファンは、まだMMAをちゃんとわかってないというか、ファンが定着してないところがあるから。

――近代MMA発祥地のアメリカだけど、じつはまだまだ未開拓。そういうことだな、スコット？

スコット　YES。UFCの繁栄と同時に、ほかのプロモーションも潤ってきている現状がある。テレビがつく・つかないということに加えて、選手の移籍が増えると大きな変化が起こるかもしれないね。

――では、もっと大きな括りの話をしようか。ちょうど同じ曜日に別々の局で放映しているWWEとの視聴率戦争の話題だ。無知なボクですら、ずいぶんHotなことになってることを耳にしているぞ。

スコット　WWEがUFCを恐れていることはたしかさ。ビンス（・マクマホン）は隙のないビジネスマン。UFCのステップアップを気にするのは当然だろう。それにアメリカでリアリティ・ショーが定着したように、人びとはフェイクじゃなくてリアルなモノを求めてきている。もちろんリアリティ・ショーは、完全なリアルじゃないけど。つまり、シチュエーションがフェイクという意味でね。ただ、そこでファンが求めるリアリティ・ショーのメン

UFCの巨大化を探る
USA Cool宅急便

タリティにUFCは見事にマッチしたということさ。
——その状況を取り巻く不思議な関係も聞きたいことがあるんだ。ただいまTUFを放送しているスパイクTVは、以前WWEを中継していただろう?
スコット　じつはそうなんだ。つまり、スパイクTVはWWEからUFCに乗り換えたという言い方もできる。マネーを巡ってWWEと交渉が決裂したんだと思うんだけど……何か大きなトラブルがあったことは確かだろうね。なにしろ当時のスパイクTVはWWEの最終回が近くなると、番組の間にUFCのコマーシャルを入れて「フェイクじゃない。これがリアルファイトだ!」というメッセージを流していたぐらいだから。
——WWEの鼻っ柱をブン殴ったわけだ!
スコット　もちろんWWEはこのコマーシャルに大激怒。裏側ではちょっと誌面で公にできないイザコザもあったんだ。残念ながらいまここで話すことはできないけど……。
——しかし、WWEがそこまで対抗心を露わにするってことは、それだけUFCが成長を遂げたという証でもあるわけだろ?
スコット　ホイスの参戦もそうだし、イケイケのところはあるね。ついにカリフォルニア州開催のメドも付いたそうだし。
——『PRIDE』もカリフォルニア州開催へ尽力していたって聞いているぞ。
スコット　YES。ラスベガスとニューヨークは別として、アメリカではカリフォルニア以外は金にならないんだ。ビジネス的なうまみがない。そして、そのカリフォルニアでMMAを開催する場合は、UFCサイドの意見が通ってオクタゴンのケージを用意しなければならない。
——つまり、リングの使用は禁止!
スコット　『PRIDE』はリングを置けるように努力はしているんだけど、UFCが州のコミッション委員会を「ケージのほうが安全です」と納得させたみたいなんだ。
——UFCがよろしくやりやがったってわけか!
スコット　でもネバダ州やラスベガスではリングが使えるだろうから、『PRIDE』のアメリカ進出の道が閉ざされたわけじゃあない。ただ問題を挙げるとすれば、従来の『PRIDE』ルールが試行できるかどうかということだろうね。
——寝ている相手への踏みつけやサッカボールキックがアメリカで認められるかどうか。
スコット　もっとも、それらのルールの判断は州によって違ってくるから、どうなるかはわからないけどね。
——UFCはアメリカ進出を狙っている『PRIDE』と協力し合っていきたいという気持ちは以前ほどあるのかな?
スコット　わからない。ダナ・ホワイトは「PRIDEファイターをUFCで観たい」というコア層に対して、「『PRIDE』が選手を貸さないんだ」と説明していたけど。それが本当かどうかもわからない（笑）。
——セルゲイ・ハリトーノフがUFCに上がる話があったそうだけど、「地味すぎる」という理由でUFCが断った話は有名だ。一方の『PRIDE』も、トップ選手派遣の気配は積極的に感じられなかった。スコット、ズバリ聞こう。『PRIDE』はもしかしたらオクタゴンから逃げているんじゃないのか?
スコット　これは個人的な意見だけど、おそらくUFCは『PRIDE』の選手をオクタゴンに入れることになんの関心もないんじゃないかな。というのは、『PRIDE』は団体ではなく、あくまでプロモーションだ。UFCが参戦を望む選手の橋渡しはするが、そのファイターにはUFCからギャラを払わなければならない。逆のケースも然りだ。しかし、そもそもUFCのギャラは『PRIDE』と比べると低くて、初参戦のような選手だと2000ドルプラス勝利者賞の2000ドルぐらいしか払われてない状況なんだ。ヘビー級にはもう少し払うようだけど、ハリトーノフについて言えば、ハードコアなファンしか存在を知らなくて一般のファンへの浸透度は低い。でも、実力は一流。そんなロシア人を起用するということはビジネス的にありえないよ。
——だったら、ボクらのアイドル、サクはどうだい?　ミノタウロは?

©MMA WEEKLY

ホイスが勝っても負けてもUFCはおいしい展開

UFCの巨大化を探る
USA Cool宅急便

ラスベガスで開催された2・4『UFC57』。横アリと同等のキャパを誇るマンダレイ・ベイ・イベントセンターはソールドアウト!!　メインでリデルに敗れた鉄人クートゥアーが引退を示唆。TUFボーイズの台頭著しいオクタゴンに世代交代の波が押し寄せている。

©April Pishana

一時は存続すらも危ぶまれたUFCだったが、まさかの大逆転!!　ビッグマウスで知られるダナ・ホワイトUFC代表の舌は、今後も滑らかかつ過激に振るわれることだろう。さぁ、次なる秘策はなんだ?　ひさしぶりとなる日本上陸はありえるのか!?

スコット　ノゲイラや桜庭でも同じことなんだと思う。なんといっても新しいファンたちは、彼らの存在を知らないんだから。ダナ・ホワイトは、彼らより強くはないけれど、知名度が高いTUF出身のファイターを起用したほうがいいと思ってるんじゃないかな。

――たしかにその選択のほうがビジネス的にはまったく正しいな。そこで気になるのはK－1とUFCの関係なんだよ。ホイスのカムバックでUFCとの距離がグッと縮まったK－1は、代表のミスター・サダハルバがUFCとの全面対抗戦や選手派遣を示唆しているぞ。

スコット　UFCがK－1と提携しても、それがUFCにとって利益になるかどうかはちょっとわからないなあ。アメリカ人はボブ・サップを知らないし、バンナを知っている人もほとんどいない。UFCが彼らに対してキャッシュを使うとは思わないね。ただ、UFCのヘビー級ファイターはかなり手薄なので、人材をほしがっているのは事実。もしかすると、手が届きそうなものには手を伸ばすかも。

©April Pishana

5月の大会でホイスを迎え撃つ、現UFCウエルター級チャンピオン（77kg以下）のマット・ヒューズ。詳しい実力のほどは次のページを参照してほしい。日本のファンには地味なイメージが定着しているが、現地ではTUFの鬼教官として一躍人気者になっている。

――たしかにUFCのヘビー級戦線は人材が乏しい。スコット、正直スマンけど、ボクはいまのヘビー級チャンピオンが誰かさえも知らないよ！

スコット　アンタはちょっと知らなすぎ！

――（無視して）でも、アメリカのファンはホイスのこともよくは知らないんじゃないのかな。だって彼がUFCから去って10年以上も経過しているんだぞ。

スコット　ホイスはたしかに伝説だけど、新しいファンはよく知らないだろうね。だけど、ホイスが戻ってくることは、コア層にとって、ちょっとしたご褒美みたいなものになるんじゃないかな。

――ご褒美のわりには、ホイスのギャラは高すぎやしないかい？　そこに何か戦略はあるならば別だけど。

スコット　ホイス参戦が営業的なキャンペーンになって、また新しいファンを教育できるのなら、いい買い物と言えるかも。とくにホイスがTUF第4シーズンのコーチになるんだったら、その伏線としては十分考えられるよ。もしホイスがヒューズに勝ってコーチになれば、UFC側にとってはいい展開になるだろうね。

――それにしてもホイスの決断はリスキーすぎると思わない？　だって、相手はあのマット・ヒューズだぜ。

スコット　ヒューズは間違いなくトップファイターの一人だし、ホイスにとっては長いキャリアの中でももっともタフな闘いになるだろう。わかっていることは、ホイスは負けたらすべてを失なうと断言しても言いすぎじゃない。逆にUFCはホイスが勝っても負けても、おいしい展開が待っているということさ。

――OK！　今月はここまでだ。スコット、来月もよろしく！

スコット　アンタはもうちょっと勉強してきてくれよ（笑）。

【2月某日／「ハードロックカフェ」にて収録】

USA NEWS Cool宅急便

「ここは私の家です」ホイス、オクタゴンに復帰!!

1月16日、「UFN3」でダナ・ホワイトUFC代表が“レジェンド”ホイス・グレイシーをオクタゴンに招き入れ、ホイスが現UFCウェルター級チャンピオン、マット・ヒューズとの試合でUFCに復帰することを発表した。試合はUFCウェルター級の170パウンド（77.18キロ）契約で、ネバダ州アスレチック・コミッションの認定した通常のUFCルールで行なわれることになる。このルールではジャケットの着用が認められていないため、ホイスは年末の『Dynamite!!』同様、上半身裸での闘いとなる。また試合はおそらく5月に行なわれる見込みでタイトルマッチになる可能性もある。

ついにフランク・シャムロックが帰ってくる!

シャムロックは格闘技界のビジネスのあり方に異を唱えて闘うことをやめた、良心の男だ。3年近く総合の世界から遠ざかっていたフランクだが、33歳を迎えてついに復帰を決意。3月10日に米国・サンホセで自らが開催するイベントでシーザー・グレーシーと闘うことになった。「このスポーツを制して、このビジネスを制する。そしてその利益でファイターのための新しい闘いの場を作るんだ。選手がリタイアしたときにブレインダメージがあったり、身体に障害が残ったり、すっからかんにならないようなシステムをね」（フランク）

UFCのスパイクTV視聴率

スパイクTVが1月16日に放送した2時間特番『Ultimate Fight Night Live』は200万人以上の視聴者を画面に引き込み、同時間帯のABC、NBC、CBSのプライムタイムの番組と比べても、男性の18歳から34歳の層で1位を獲得。またほぼ同時間に放映されたTNTのマイアミ・ヒートvsロサンゼルス・レイカーズをも上回った。

TUF3の制作も開始

ケン・シャムロックとティト・オーティスがコーチを務めるTUFサードシーズンの撮影が1月16日からラスベガスで開始。約6週間に渡って行なわれる制作期間中、いずれ闘うことになる選手たちが生活をともにしながら、ムエタイや柔術、ボクシング、レスリングのトレーニングを積むことになる。6月に行なわれるフィナーレではライトヘビー級とミドル級の決勝進出者計4人がTVライブでの試合に臨むことになり、勝者にはアルティメット・ファイターの称号が与えられる。

UFCがカリフォルニアに進出!!

カリフォルニア州コミッションがケージマッチを認めたことにより、ダナ・ホワイトUFC代表は4月15日にアナヘイムでカリフォルニア州初となる興行『UFC59』を開催することを公式に発表した。同大会のタイトルは『リアリティ・チェック』と題され、TUFサードシーズンのコーチ、ティト・オーティスと、TUFファーストシーズンで優勝し注目を集めたフォレスト・グリフィンのライトヘビー級の試合が予定されている。ほかの出場選手についてはヘビー級王者のアンドレ・オルロフスキーが挙げられている。

UFCとWFCが法廷闘争に

UFCは「Fighting」や「Championship」という名称を使うことが、商標侵害にあたるとして、WFC（The Worldwide Fighting Championship）を連邦裁判所に訴えた。対してWFCは、それらの言葉はこれらのスポーツを表現する一般的な言葉であり、MMA業界にとっては、IT業界における「Operating System」または「OS」のようなものだと反論している。UFCは世界中のプロモーションに対して、訴訟を起こすとしており、『PRIDE』に対しても訴訟する可能性も否定できない。

WFCのファイターであり、マッチメーカーであるシャノン・ザ・キャノン・リッチは「正直言って、なんでUFCが我々みたいな小さなプロモーションを追い回すのかわからない」と首をかしげる。「もし法廷で闘うことになって勝てば、それは我々の勝利だけではなくて、ほかの小さなプロモーションの勝利でもあるんだ」。UFCのこの行動はほかのプロモーションが持つMMAのマイナスイメージからUFCを遠ざけるためのものであり、競合が育つのを防ぐ目的があると考えられる。現在アメリカ国内だけでもUFCやWFC以外にも、Mixed Fighting Championship（MFC）,やInternational Fighting Championship（IFC）など「Fighting」や「Championship」と名の付くプロモーションが40ほどある。WFCは現在のところ、そのままその名称を使用する予定。

ニック・ディアスとジョー・リッグの場外乱闘!!

「ニック・ディアスは本当にキチガイだよ」（ジョー・リッグ）。『UFC57』で闘った両者だが、リッグが判定勝ちを収めたあと、同じ病院に向かうことに。その治療中、病院でまたも闘うことになった。病院で遭遇した二人は言い争いになり、その口論はニックがリッグスの顔にパンチを入れるまで終わらなかった。そのとき点滴をしていたリッグスは「点滴は飛びだしてくるし、血は飛び散るし、周りの女の子は泣き叫んでるし、本当にクレージーな状況だったよ」と振り返る。ディアスは「リッグがやってきて、挑発してきた」と事情説明したが、その後の取材で、最初にニックがジョーに手を出したことを認めている。地元の警察は二度とケンカをしないように注意をしたが、今後彼の処分がどうなるのかまだわからない。

元ウェルター級王者BJペンもUFCにカムバック

K－1参戦を発端としたUFCとの契約違反訴訟でオクタゴンから遠ざかっていたBJペンがUFCに復帰する。予定対戦相手として、ジョージ・サン・ピエールの名前を出した。ファンイベントでペンが明かしたところによると、もともと交渉の段階で、『UFC56』で闘ったジョージ・サン・ピエールとショーン・シャークの勝者と試合をすることで契約をしていたとのこと。UFC復帰となれば、現ウェルター級王者マット・ヒューズとのリマッチを期待する声がファンから挙がる。BJは、「チャンピオンは俺。マットじゃないよ」と答える。以前から自分が本当のチャンピオンだと公言してはばからないペンは「だって、本物のベルトは家の引き出しに入ってるんだもん」と驚愕の発言!

ネイサン・マーコートがオクタゴンに復帰!

ネバダ州のアスレチック・コミッションはネイサン・マーコートの嫌疑を晴らした。マーコートは8月6日のUFCラスベガス大会の試合後、ステロイドの陽性反応が出ていた。数日後の2回にわたる再テストでは陽性反応はでなかったものの、マーコートは12月にヒアリングを受けていた。年明けの1月、ついにUFCへの復帰が認められたことになる。「オクタゴンに戻れてハッピーだよ」。時期はまだ決まってないが、早い復帰が待たれる。

鉄人クートゥアー引退示唆!!

2月4日、ラスベガスで行なわれた『UFC54』で、チャック・リデルに敗れたランディ・クートゥアーが試合後、引退を示唆する発言。「オクタゴンでこのグローブを着けるのは、おそらくこれが最後になるだろう」!!

協力／『MMA WEEKLY』

ホイスのリスキーな復帰！迎え撃つマット・ヒューズはこんなモンスターだ！

「ヒューズ戦はやめたほうがいい」

誰かホイスに忠告する奴はいなかったのか？

文／橋本宗洋

ヒューズ全戦績データ

05.11.19「UFC56」	○vsジョー・リッグス	（アームロック／1R3:28）
05.4.16 「UFC52」	○vsフランク・トリッグ	（裸絞め／1R4:05）
04.10.22「UFC50」	○vsジョージ・サンピエール	（アームバー／1R4:59）
04.6.19「UFC48」	○vsレナート・ヴェリッシモ	（3R判定）
04.1.31「UFC46」	●vsB.J.ペン	（裸絞め／1R4:39）
03.11.21「UFC45」	○vsフランク・トリッグ	（裸絞め／1R3:54）
03.4.25「UFC42」	○vsショーン・シャーク	（5R判定）
02.11.22「UFC40」	○vsギル・カスティーリョ	（1R終了時TKO）
02.7.13「UFC38」	○vsカーロス・ニュートン	（TKO／4R3:27）
02.3.22「UFC36」	○vs桜井マッハ速人	（TKO／4R3:01）
01.11.2「UFC34」	○vsカーロス・ニュートン	（バスター／2R1:27）
01.09.08「EC43」	○vsスティーブ・ゴム	（TKO／2R3:18）
01.08.11「RINGS」	○vs金原弘光	（3R判定）
01.07.13「EC41」	○vsチャック・ラベンダー	（裸絞め／3R2:31）
01.06.16「EC40」	○vsスコット・ジョンソン	（KO／1R3:24）
01.05.11「Gladeators」	○vsジョン・クロック	（サブミッション）
01.03.31「FCC4」	○vsブルース・ネルソン	（裸絞め／1R3:01）
01.03.17「RINGS」	○vsブレット・アルザーウ	（アームバー／1R3:27）
01.02.08「Shidokan」	●vsジョセ・ランディ	（KO／1R4:45）
00.12.16「UFC29」	●vsデニス・ホールマン	（腕十字固め／1R4:45）
00.11.12「RINGS」	○vsメナード・マーカム	（アームロック／1R0:20）
00.09.30「RINGS」	○vsロビン・ニューマン	（三角絞め／1R1:40）
00.08.23「RINGS」	○vsクリストファー・ヘイズマン	（2R判定）
00.06.29「EC35」	○vsジョー・グスト	（アームバー／1R2:45）
00.06.09「UFC26」	○vsマセロ・アグア	（TKO／1R4:34）
00.05.21「EC32」	○vsショーン・ピータース	（裸締め／1R2:52）
00.05.13「WEF9」	○vsアレクサンダル・バーロス	（3R判定）
00.04.15「SuperBrawl」	○vsエリック・ダビラ	（アームロック／2R3:24）
00.01.15「WEF8」	○vsジョージ・ペレーラ	（TKO／2R3:24）
99.11.20「IE」	○vsダニエル・ヒアナ	（KO）
99.11.13「EC29」	○vsトム・シムズ	（アームロック／1R0:48）
	○vsラバーヌ・クラーク	（裸締め／2R1:35）
	○vsジョー・ドークセン	（KO／2R0:25）
99.09.24「UFC22」	○vsバラリー・イグナショフ	（3R判定）
99.05.29「修斗」	○vs郷野聡寛	（3R判定）
99.04.24「JKD」	○vsエリック・シュナイダー	（KO）
99.04.02「EC23」	○vsジョー・スタン	（サブミッション／1R2:30）
98.12.11「EC」	○vsライアン・ショート	（TKO／2R5:00）
98.10.17「EC21」	●vsデニス・ホールマン	（ギロチンチョーク／1R0:17）
	○vsデイブ・メネー	（TKO／1R判定）
	○vsビクトー・ハンシュカー	（TKO／1R1:39）
98.04.28「JKD」	○vsクラッグ・クイック	（サブミッション）

勝負に絶対はない。

そんなことはわかっている。だから勝負はおもしろいのだし、これまでリングの上で〝絶対〟のはずの存在が崩れ落ちた瞬間を、我々は何度も目にしてきた。ホイス・グレイシーとマット・ヒューズが5月のUFCで対戦するという情報を聞いたときも、だから〝勝負に絶対はないからな〟と思おうとした。まあ、一応は。

念のために書いておくが、〝勝負に絶対はない〟というテーゼを味方につけなければいけないのは、ホイスのほうである。日本でのネームバリューではホイスのほうが上だが、最近の両者の試合ぶりを見るかぎり、この対戦はヒューズが圧倒的に有利だといわざるをえない。

ヒューズの戦績は38勝4敗。最後に負けたのは、もう2年前のことだ。その前の敗北となると、2001年にまで遡らなければいけない。あるいは、キャリアの中で倒してきた選手を挙げていくだけでもヒューズの強さは十二分に伝わることだろう。フランク・トリッグ（2回）、カーロス・ニュートン（2回）、桜井〝マッハ〟速人、金原弘光、郷野聡寛……。

普通、トップクラスのファイターには何かしらニックネーム、キャッチフレーズが付いているものだ。〝氷の拳〟ヒョードル、〝柔術マジシャン〟ノゲイラ。アメリカでもB.J.ペンは〝プロディジー（天才）〟と呼ばれ、ジェンス・パルヴァーのニックネームは〝パルヴァライザー（粉砕機）〟。だが、様々な資料にあたってもヒューズのキャッチフレーズは見当たらない。UFCウエルター級のタイトルを2度獲得した、紛れもないトップファイターなのにもかかわらず、だ。なぜこんなことになるのかといえば、ヒューズがキャラクターや個性的なファイトスタイルではなく、強さと結果でのしあがってきた選手だからだろう。あるインタビューで「あなたの最大の武器は？」と聞かれたヒューズは、味も素っ気もない

日本でもなじみの深い強豪を幾人も葬っているヒューズ。その実戦数でだけ判断すれば、百戦錬磨はヒューズのほうかもしれない。

こんな答えを返している。

「強さ、だね」

レスリング出身のヒューズだが、彼は決して世界レベルの選手ではなかった。大学時代の最高成績は全米3位。卒業後は電気技師の見習いをしながらレスリングのコーチを務めていた。当然、総合格闘技デビューも華々しいものではない。シカゴで行なわれたローカル大会。ファイトマネーは100ドル。そういう場所から、ヒューズは実力で、というより実力だけでUFCの頂点にまで上り詰めたのだ。

そのファイトスタイルは、いわば究極のグラウンド&パウンド。タックルでテイクダウンしては、パウンドで傷めつける。ただ、だからといって〝コツコツ判定勝ちタイプ〟を想像してはいけない。38勝のうち判定決着はわずか8。筆者が見た試合でいえば、2002年7月のUFCロンドン大会におけるカーロス・ニュートン戦のインパクトは凄まじいものだった。『PRIDE』でも高い評価を得たニュートンを、ヒューズは文字通り圧倒。しかもガードの中から殴るだけでなく、しっかりとパスし、マウントを取ったうえで拳やヒジを存分に叩き込んでいったのである。レフェリーストップを宣告されたニュートン、その腫れあがった顔は無惨というしかなかった。

仮にパウンド地獄から逃れられたとしても、今度はサブミッションが待っている。12の（T）KOと同時に、ヒューズが18もの一本勝ちをマークしていることを忘れてはいけない。アームロック、チョーク、十字。じつはここ数戦のヒューズは、KOよりも〝極め〟による勝利のほうが多いのである。

ただのパワーファイターではない。単なるレスラーではない。叩き上げの総合格闘家であるヒューズに、何か隙はないのだろうか。たとえば崩れ始めたらもろいとか。その答えもNO、である。昨年4月のフランク・トリッグ戦。ヒューズは1Rにパンチの連打を浴び、KO負け寸前のピンチに陥った。だが、その直後にタックルを仕掛けたヒューズはトリッグを担ぎ上げたままオクタゴンの逆サイドまで猛ダッシュ、とてつもない勢いでマットに叩き付け、そのままチョークを極めてみせた。

強靭な肉体、穴のない技術、さらに精神面でも崩れないヒューズ。さて、こんな相手とホイスはどう闘うつもりだろうか。ホイスは下（ガードポジション）からが強い？ なるほど。だがヒューズの上からの攻撃はもっと強い。考えてもみてほしい。昨年大晦日の『Dynamite!!』で、ホイスは（65キロしかない）所英男の動きを封じることしかできなかった。今度の試合でも、ホイスはヒューズの攻撃力を何パーセントかは減少させることができるだろう。だが、それ以上のことができるかといえば……。

自身のウェブサイトで、ヒューズはホイス戦に向けての心境をこんなふうに語っている。

「ホイスは関節技でしか勝てないだろ。オレはKOもできるし、いろんなオプションがある」

「いつものように闘うだけだよ。『今度の相手の名前はグレイシー』って、ただそれだけだ。何も特別なことはないね」

勝負に絶対はない。ホイスvsヒューズ戦に関して一応はそう思おうとした、というのは冒頭に書いた通りだ。では、その次に筆者が何を思ったのかといえば、こういうことである。

「ヒューズ戦はやめたほうがいい」

誰かホイスにそう忠告する奴はいなかったのか!?

リングスで対戦した

金原弘光のボヤキ証言

01年8月11日、有明コロシアムで開催されたリングス10周年記念興行のメインイベントで両者は激突（KOKルール）。何度もテイクダウンに成功して有利なポジションをキープしたヒューズが判定勝ち。膠着状態が続いた内容だった。

マット・ヒューズはねぇ、俺も一回闘ったことあるけど、すっっごい力強いよ。あの階級では一番力強いでしょう。俺とやったときは90キロ弱ぐらいまで体重を上げてきてたけど、それでも100キロ級の選手と同等以上の力があったからね。アローナ以上だよ！　彼は手足が短いから、ガッチリとクラッチして相手の身動きをとれなくするんだよね。だから膠着させる能力っていうのは世界一なんじゃないの（笑）。

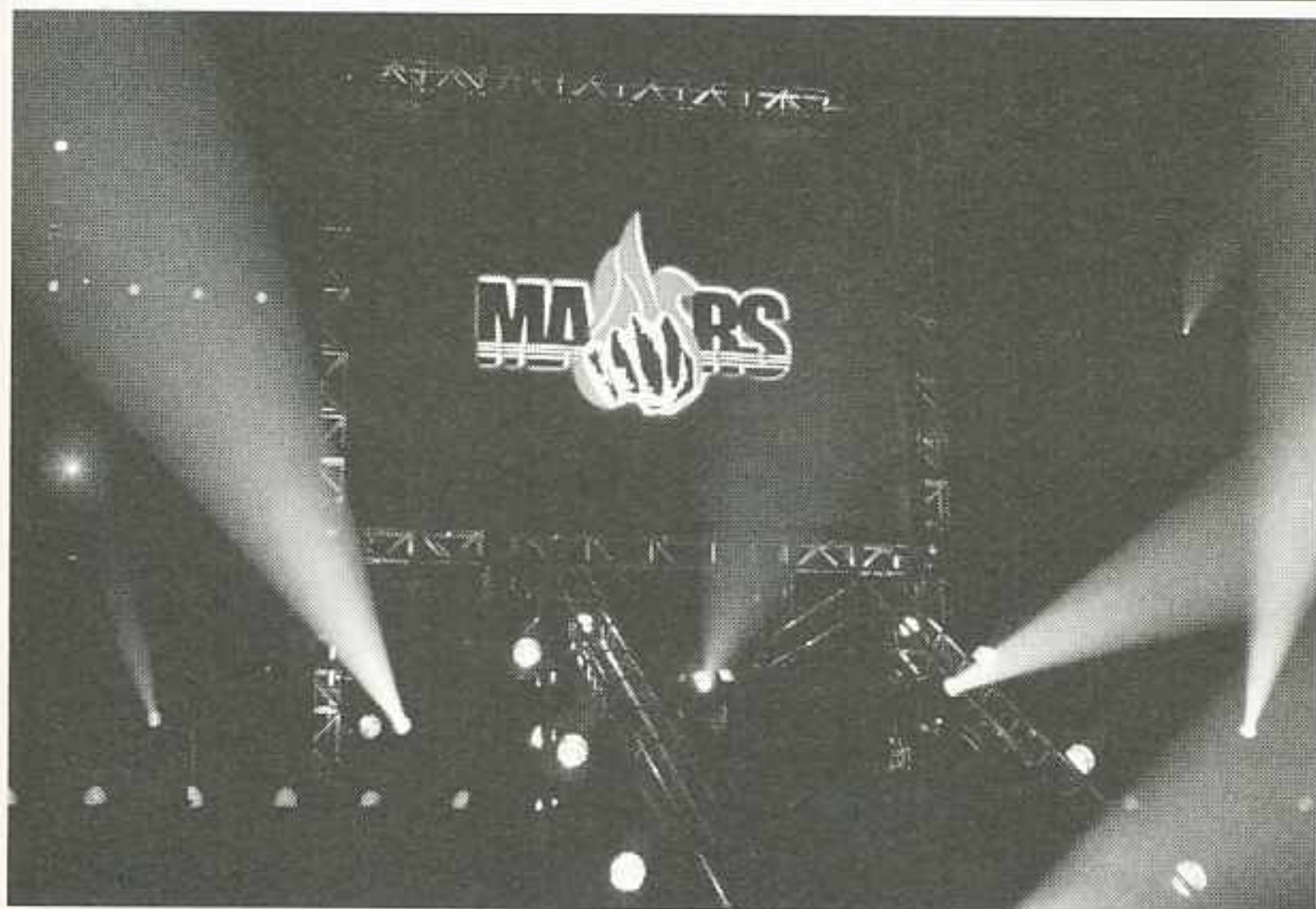
寝技の技術は巧いわけじゃないけど、軸がしっかりしてるし、力とボディバランスが凄いよね。今度、5月にホイスとやるんでしょ？　いまのホイスだったらマット・ヒューズの勝ちは動かないと思うけど、膠着が長引きそうだよね。ヒューズは押さえ込むだろうし、ホイスはガードポジションで固めて動かないだろうから。ホイスはきっと関節を取れると思ってこの試合を受けたんだろうけど、難しいでしょ。大晦日だって極めかけたのは所君のほうだったからね。

それよりさ、俺はマット・ヒューズとやったときに苦い思い出があるんだよ。なんかマット・ヒューズとボビー・ホフマンの仲が悪くてね。試合の日、俺が赤コーナーでヒューズは青コーナーなのに「ホフマンと一緒は嫌だ」とか言って俺の控室にいるんだよ。俺、それが嫌でさぁ。これから闘う相手が目の前でニコニコしてて、俺はアメリカでヒューズに世話になったから「おまえ、あっち行けよ」とも言えなくてさ。じゃあ、俺が青コーナーに行くよっていっても、それもダメだって言われてさ、とにかく嫌でしょうがなかったよ。あれで精神的にやられたよね（笑）。

2·4
『MARS』
有明コロシアム

「純粋で良質な総合格闘技」
(by MARSチーフプロデューサー　天野勇気氏)

GCM系ビッグイベント MARS発進!!

撮影／平工幸雄

この日、有明コロシアムに4300人の観衆を集めた『MARS』旗揚げ戦。売店には早くもMARSオリジナルTシャツが陳列されていた。また会場内の演出は、4カ所に設置された巨大なビジョン、選手入場時のイカしたライティングなど準備万端。

ところでMARSって何？

MARSとは

「純粋で良質な総合格闘技」をスローガンに掲げた今大会は、真の格闘技ファンなら、素直に喜んでもらえる内容と自負しております。

「MARS」は直訳すると太陽系の惑星の火星ですが、ギリシャ神話のマルス・闘神（闘いの神様）の意味を持っております。私たちはファンのみなさまと一緒に闘神伝説を創造して、「MARS」を世界最高の総合格闘技イベントに成長させたいと思っております。（以下省略）

—MARS開催のご挨拶より—

『DOG（ディ・オー・ジー）』や『DEMOLITION（デモリッション）』など、これまで独自のコンセプトでさまざまな大会を立ち上げてきたGCMが、さらに「純粋で良質な総合格闘技」を追求し、新たな大舞台を創設した。その名も『MARS（マーズ）』！　上記にもあるように、〝MARS〟とは、ギリシャ神話としてその闘いぶりが語り継がれている〝闘いの神・マルス〟からとったもの。つまり、『MARS』はまさに格闘技界に伝説の闘いを残すべく立ち上げられた舞台なのだ。

＊

12月22日に行なわれた旗揚げ発表記者会見で、GCM久保社長は「『MARS』は格闘技の真髄を知るマニア向けの大会です。選手も、魅せる試合ではなく勝つことだけを考えればいい」と大会の方向性を述べ、門馬秀貴vsホドリゴ・グレイシー、光岡映二vsヴィトー・〝シャオリン〟・ヒベイロという格闘技好き必見のカードを発表。さらに、〝東洋の神秘〟矢野卓見、修斗を主戦場に活躍する弘中邦佳、久々の国内試合となる浜中和宏（※結局、浜中は対戦相手のケガにより試合中止）といった実力派を揃えるなど、〝勝敗がモノを言う格闘マニアの世界〟の構築に向け着々と準備を進めていた。また、同会見にはFEG代表・谷川氏も出席し「互いに協力関係を築いていい形で盛り上げたい」とコメント。つまり、『MARS』と『HERO'S』の関係は、いわば『PRIDE』と『DEEP』のそれに近く、選手側からす

○田村彰敏（総合格闘技津田沼道場）
vs イアン・ラブランド（チーム・クエスト）×
1R 3分40秒 三角絞め

△門馬秀貴（和術慧舟會A-3） vs
ホドリゴ・グレイシー（チーム・ホイス・グレイシー）△
3R ドロー（判定0-1）

メインを飾ったのは和術慧舟會の門馬とホイスをセコンドにつけたホドリゴ・グレイシー。試合はホドリゴが門馬をコーナーに追い詰めてヒザ蹴りを放つという単調な展開に。終盤、門馬も打撃で反撃を試みたが、勝機をつかめぬままゴング。

流れるようなグラウンドさばきで、あっという間に三角絞めの体勢に持ち込んだ田村。チーム・クエストの強豪イアン・ラブランドを相手に、1Rでみごと一本勝ち！　その早業に会場にもどよめきが。

純粋な総合格闘技は
ドロー も判定も想定内か!?

○アラン・カラエフ（マルプロジム）
vs 金親幸嗣（フリー）×
1R 3分09秒
アームロック

総合2戦目の金親は序盤、体重180キロの巨漢アラン・カラエフからマウントまで奪ったものの、カラエフが体重をうまく移動し、逆にマウントを奪う。こうなっては身動きがとれない金親。カラエフのマウントパンチを浴び、最後は腕を極められた。

○ハニ・ヤヒーラ（アタイジジュニア柔術）
vs 矢野卓見（烏合会）×
3R 1分14秒 三角絞め

"東洋の神秘" 矢野卓見の相手は、2005年アブダビ準優勝のハニ・ヤヒーラ。両者、高度なグラウンド技術を惜しげもなく披露し、終止目まぐるしい寝技の攻防に。しかし最後はヤヒーラが下から三角絞めをしかけ、ヤノタクはなんと失神状態に！

○弘中邦佳（アカデミアA'z） vs
ライアン・シュルツ（チーム・クエスト）×
2R 1分47秒 腕ひしぎ逆十字固め

昨年、修斗で復帰を果たした弘中。チーム・クエストのまだ見ぬ強豪ライアンと対戦。2R、ライアンからテイクダウンを奪った弘中。すぐさま裏十字の形で腕を伸ばしにかかる。必死に堪えるライアンだったが、つかんだ腕を放さない弘中が腕十字をがっちり極めた。

○辻結花（総合格闘技津田沼道場）
vs 有賀美由紀（禅道会）×
2R 1分49秒 ヒールホールド

映画『イーオン・フラックス』公開記念スペシャルマッチ、またスマックガール公式試合として行なわれたこの一戦。辻が有賀の足に絡みつき、一気にヒールホールド！　これに有賀はやむなくタップ。辻はスマックのベルトを担ぎ、誇らしげに勝利をアピールした。

○アライケンジ（パンクラス）
vs タクミ（パレストラ大阪）×
2R 0分04秒 KO

昨年、全日本ブラジリアン柔術選手権大会で準優勝を果たしたタクミはパンクラスismアライとの対戦。試合は2R、開始早々にアライが激しくパンチを放ち、左フックがみごとにヒット!!　これで崩れ落ちるタクミ。開始4秒でKOに沈んだ。

○ターレス・レイテ（ノヴァ・ウニオン）
vs 渋谷修身（フリー）×
3R 判定3-0

パンクラス退団以来初の試合となる渋谷だったが、ターレス相手に何もできず。逆にターレスは飛びヒザ蹴りやバックを取って投げようとするなど、多彩な技を見せながらテイクダウンを奪う。勝敗は判定決着となったが、明らかに手数の多いターレスが勝利。

○ヴィトー"シャオリン"ヒベイロ
（ノヴァ・ウニオン） vs
光岡映二（和術慧舟會RJW）×
3R 判定3-0

04年12月の『修斗』川尻達也戦以来の来日となったシャオリン。光岡からテイクダウンを奪うと、ガードポジションからよじ登るようにマウントへ。距離を詰める光岡に対し、シャオリンもそこから手が出せないが、終始上にいたシャオリンが判定勝ち。

MARSチーフプロデューサー 天野勇気氏のコメント

今日の大会は事前にカードの変更だとかいろいろありましたが、総括すると凄くいい大会だったんじゃないかなと思います。弘中君の試合にしても強豪相手に勝ちましたし、その他の試合に関しても、私としては未来の開けた大会になったんじゃないかなと思います。今後の予定ですが、いまの段階では2006年は4～5回ほど予定をしてまして、次回大会は5月初旬ぐらいをめどに考えております。（反省点は？）大会が決まってからの準備期間が短かったもので、そういった部分をもうちょっと改善しないといけないですね。（試合数が多く、途中で会場を後にする人もかなりいたが？）僕のほうから見ててもそういう点が見受けられました。反省点ととらえて考えてやっていきたいです。（今後も会場は有明コロシアムレベルで？）そうですね。これぐらいの規模をメインにやっていきたいなと考えております。選手に関して言えば、実力はあるんだけども大舞台に立てない選手はたくさんいますんで、そういった選手の発掘の場所にしていけたらなと考えております。

ると『MARS』で活躍すればさらなる大舞台『HERO'S』への道が開ける、という図式になるのだ。

＊

しかし！　『MARS』旗揚げ戦の開催日である2月4日は、協力体制にあるはずの『K―1 MAX』の開催日でもあった。それに加え、ターゲットは違うと言えど『WWE』やその他、多数のプロレス＆格闘技イベントが関東近辺で行なわれた。また『MARS』は1万人以上収容できる有明コロシアムでの開催が決定していたものの、チケットが発売されたのは、なんと大会の17日前。さらに、対戦カードも二転、三転、四転するなど、かなりドタバタ感があったことは否めない。

＊

そんな不安要素を抱えながら迎えた当日。そこは、さすが、多くの格闘技イベントを手がけてきたGCM。場内には4カ所にビジョンが設置され、さらに入場前の映像やライティングの設備にしても抜かりはない。また、来場者全員にルミカライトが無料配布されるという細かい演出も観客の気分を盛り上げた。

＊

そして肝心の試合。主催者のコンセプト通りの試合が展開されたのか、「興行論より勝負論」に徹したマニア受けする（したのかわからないが）試合が多数。メインを務めた門馬も、コーナーに押しこみ固めてきたホドリゴに対し、試合後「自分自身、もうちょっと何かできたんじゃないか」とコメントしたものの、結果的には〝勝負論を追求する〟という主催者側の思惑に沿った闘いを繰り広げた。だが、実際に会場が沸いたのは、勝負にこだわりながらも〝魅せる〟試合が展開された矢野vsヤヒーラ、田村vsラブランド、弘中vsライアンだ。3試合ともに激しい寝技の攻防から一本を勝ちとった試合であり、歓声の大きさからしても、より観客に届いた試合ではなかったかと思う。

＊

大会の総括として、MARSチーフプロデューサー天野氏は「凄くいい大会だったと思います。未来が開けた大会になりました」と話した。対戦カード、試合内容からして、たしかに主催者側の意志は貫き通せた（のか）。ただ気になるのは、「マニア向けの大会ながら、有明コロシアムほどの大会場で興行を行なう」という図式は成立するのかということである。現に、今回の観客動員数は4割強（主催者発表4300人）に止まっている。天野氏によると「次は5月、今日と同規模の会場で行なう予定」とのこと。しかし、そうであるならば出場選手の面子やマッチメイクなどを含め、かなり熟考されたものでないとお客を呼び込むのは単純に考えて困難だと思える。それに加えて、「勝つことだけを考えろ」という主催者と、それでもいい試合を見せたいという選手側の思いはどこで着地点を見つけられるのか。旗揚げ戦で見えたいくつかの課題を前に、次回の『MARS』がどういうかたちで答えを出してくれるのか、第二回大会に期待したい。

（松下ミワ）

桜井隆多vs長南亮のサバイバルマッチに格闘技の本質を見た!!

【DEEPミドル級タイトルマッチ】
○＜挑戦者＞長南亮（1分57秒／TKO）桜井隆多＜王者＞×
※長南が第三代王者に就く

ピラニアがベルトに食いついた!!

2・5 DEEP 5周年記念大会 "瀬戸際の一戦"が生んだ DEEP熱狂空間!!

撮影／乾晋也

……ん～、長いっ!! 長いよ、佐伯代表!!

記念すべき5周年イベントとなった2・5DEEP後楽園ホール大会は、5時間にも及ぶ長時間興行。本戦12試合、本戦前に行なわれたフィーチャーキング決勝戦が4試合。全部で16試合!!……もあったから、長くなるのは当然か。メインイベントで勝利した長南亮が締めのマイクを握ったときには、時計の針はとっくに22時30分近くを指そうとしていた。ん～、長い……。

しかし、佐伯ワールドにどっぷり浸かっている〝DEEP者〟なら、そんなことでくたびれたりはしないのだ。そもそもDEEPはボリューム満点の試合数がいまや名物になっているし、どちらかといえば、帰り時間の心配をするより「会場の延長料金が発生したら大変だろうなあ……」と、佐伯代表の懐具合や血糖値の行方が気になるはず!

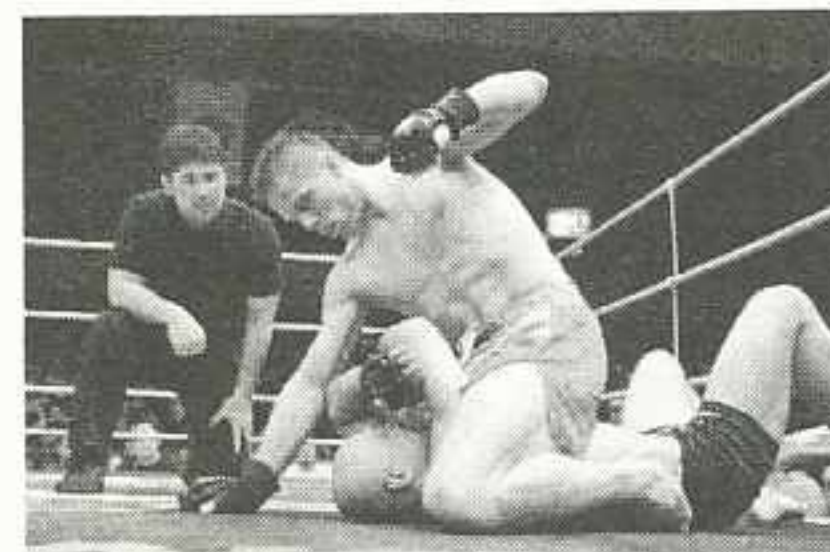
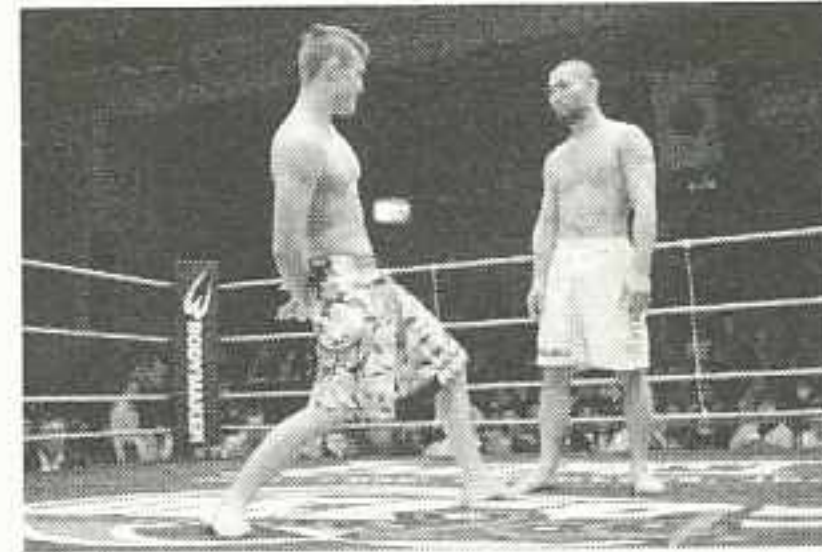
それになによりも長時間観戦が気にならない大会内容!! 今回の目玉カードであるメイン・セミに組まれたサバイバルマッチ――桜井隆多vs長南亮、三崎和雄vs小路晃――の異常な緊張感、熾烈な攻防の興奮は十分、満足できるもの。長時間観戦の疲れは心地良いものへと昇華していた。

とくに、この日一番……いや、後楽園においても近年まれにみる異常な盛り上がりだったのは、桜井隆多vs長南亮戦だ。試合前から場内はハイボルテージ。そして「相手の心を折る（長南）」ことを目的とした真っ向勝負の殴り合いで会場温度

凄すぎて佐伯代表の血糖値も急上昇!!
DEEP 5周年イベントのここが凄い！

5周年記念を迎えた佐伯さんが凄い!!　お祝いに何か編集部ができないか？　ということで、今号の表紙に登場していただくことに（どこにいるかは各自調査）。大会前日、ピリピリムードが漂う軽量会場の片隅で、下絵となる写真をパチリ。タンクトップがナウイゼ！

中村大介の"U"魂が凄い!! 黒タイツにレガース、頭は丸坊主と、まるでUWFの練習生とでもいうべき姿で試合に臨んだ中村。試合早々アグレッシブに迫る藤沼の打撃を軽くいなしがら左フックをヒット！　後退する藤沼の腕を捕らえて、見事な回転体から腕ひしぎ!!

長南が凄い!!　というか怖い。赤毛にモヒカンというビジュアルに加えて、シャークをあしらかったのようなマスクを装着!!　長南は「パンクを意識したんですよ」と目をギラリと光らせる。先日の滑川康仁の結婚式にも、この出で立ちで出席したそうだ（大嘘）。

パワーアップでオーディション！　なファイターが凄い!!　PRIDE USAオーディション合格者のニック・リングが、『武士道』復帰を目指す吉田道場の村田を相手に実力の差を見せつける。キック出身ながら寝技も器用で、腕ひしぎ、三角絞めで村田を極めかけたほど!!

グラップリングマッチがある意味、凄い!!"足関十段"今成と、米国柔術の若きクセ者ジェフ・グローバーがグラップリングで激突!! ハイレベルな寝技合戦が期待されたが、お見合い状態が続き動きがない展開に。奇妙なポーズで牽制するだけに止まった。残念!!

小路vs三崎のサバイバルマッチも凄い!!　日本人大物同士の一戦。フットワークで優る三崎に対して、小路が飛び込んでワンツーを放ったがうまく交わされ転倒。そのまま三崎が覆い被さりフロントチョーク！　意地でもタップしない小路を三崎が絞め落とした……。

超満員札止めが凄い!!　前売りの時点であっという間にチケットは完売。当日わずかに販売された立ち見のチケットも売れ切れた。まあ、佐伯代表は後楽園ホールにおける興行で『ハッスル』の次にお金を掛けていると豪語するだけに、超満員じゃないと大変なのかも？

韓流ファイターが凄い!!　前回のDEEPで滑川康仁と互角の勝負を展開し、注目を集めたリー・ジョンホが再登場。テイクダウンされても驚異的な足腰の強さであっさりスタンドへ。ドロー決着ながら宮本を打撃戦で圧倒。またしても株を上げる試合内容!!

恩田剛徳がデカイ!!（写真左）195センチ、105キロという恵まれた体格。正道会館K-1プロ部門練習生4年。第1回新空手新人王優勝者にして、掣圏道のランカーでもあった巨人ファイターだ。貴重な日本人ヘビー級ファイターとして、今後の闘い振りが注目される。

2・5『DEEP 23 IMPACT』5周年記念大会
東京・後楽園ホール
（超満員札止め）

1.○恩田剛徳（CMA拳術會）【2R 判定3-0】
濱田順平（CMA誠ジム）×

2.△宮本優太郎（ビバリーヒルズ柔術クラブ）
【2R 判定1-1 ドロー】
リー・ジョンホ（CMA KOREA正進ジム）△

3.○MIKU（クラブ バーバリアン）【1R 2:52 裸絞め】
古館由紀（Team-ROKEN）×

4.○横田一則（GRABAKA）
【2R 4:05 TKO】梅田恒介（R-GYM）×

5.○白井祐矢（TeamM・A・D）【2R 判定3-0】
岩見谷智義（高田道場）×

6.○ニック・リング（AMCパンクレイション）
【2R 判定3-0】
村田龍一（吉田道場）×

7.○中村大介（U-FILE CAMP.com）
【1R 0:52 腕ひしぎ十字固め】
藤沼弘英（荒武者総合格闘術）×

8.○Barbaro44（クラブ バーバリアン）【2R 判定2-1】
長岡弘樹（総合格闘技DOBUITA）×

9.○長谷川秀彦（SKアブソリュート）【2R 判定2-0】
岩瀬茂俊（T-BLOOD）×

10.【グラップリングマッチ】
△今成正和（Team-ROKEN）【3R 判定ドロー】
ジェフ・グローバー（パラゴン柔術）△

11.○三崎和雄（GRABAKA）【1R 1:32 裸絞め】
小路晃（フリー）×

12.【DEEPミドル級タイトルマッチ5分3R】
○長南亮（TeamM・A・D）
【1R 1:57 TKO】桜井隆多（R-GYM）×

※長南亮がタイトル奪取、第3代王者に輝く。

次回も後楽園ホールだ!! 行くしかない！
DEEP 24 IMPACT

【日時】4月11日（木）　18:00〜
【チケット】VIP席¥15000／SRS席¥10000／指定A席¥8000／指定B席¥6000／指定C席¥5000
【予定カード】DEEPライト級チャンピオン決定戦
【出場予定選手】帯谷信弘、滑川康仁、しなしさとこ
【大会情報】DEEP
オフィシャルサイト→http://www.deep2001.com/

はさらに上昇！　殺気立つ長南の凶拳は心を折ることはできなかったが、桜井の鼻を折り、ドクターチェックの結果、試合が止められた。

佐伯代表に見いだされ、DEEPの歴史とともに格闘技人生を歩んできた男が、DEEPのチャンピオンになることで5周年記念の節目を祝う。ちなみに5年前、彼はU－FILE CAMPに通う一般会員の大工にしかすぎなかった。

そんな長南の例に及ばず、選手育成は昔からDEEPのテーマだ。「『武士道』に選手を10〜15人ぐらい送り込みたい!!」

前号『kamipro』のインタビューで、佐伯代表がフガフガ鼻息を荒くしてこう語っていたが、そこに最近では、『武士道』出場者たちの"復活を懸けた場"という要素も加わった。長南亮も桜井隆多も前回の試合は、『武士道GP』の敗戦になる。両者とももう一度、『武士道』のステージに歩を進めるためには絶対に落とせない一戦だが、必然的にどちらかが復活の狼煙を上げることはできない。

つまり、やるか、やられるか。這い上がるか、落とされるか。

だからこそ二人のテンションもまるで気が違ったかのように、異常だったのだろう。観客側からしてもそんな格闘技の本質を突いた試合が刺激的でないわけがない。

鼻を折られて、おびただしい量の鼻血を流しながら、それでもなんらひるまず殴り合いに挑んだ桜井——。凄え!!

桜井のドクターチェック中、返り血を浴びた身体を気にすることなく、一人黙々とシャドーを続けていた長南——。怖え!!（もともとか）。

いくら身体能力に優れて技術を持った選手同士が拳を合わせたところで、そこに興行や観客をも巻き込んだ勝負論が存在しなければ、極端な言い方をすれば、鑑賞に値するものではないと思う。

しかし、長南と桜井の二人が抱えていた"瀬戸際の闘い"というテーマは、独りよがりになることなく、興行全体に、観客の視線に、しっかり落とし込まれていた。選手、興行、観客——。3つの方向が見事に一致したことから、驚くべき熱狂空間が生まれたのだ。

試合はわずか117秒のドクターストップ決着。結果を一瞥すれば、不完全燃焼と捉えられてもおかしくない。しかし、再戦を望む声が多くのファンから上がっているのは、もう一度、あの熱狂空間に身を委ねたい。おそらくそんな願望も込められているのだろう。

"やるか、やられるか"という格闘初期衝動を爆発させた、DEEPという"場"。"選手育成"と"『武士道』への道筋"の両輪がうまく転がっているかぎり、再び同じような興奮が巻き起こる気配に満ちている。それは決して一朝一夕でつくりあげられたわけじゃない。5年という年月と私財を懸けて、そんな舞台をつくりあげた佐伯代表は、偉い!!　凄い!!　よっ、延長料金も滴るいい男〜!!　なのであった。

（ジャン斉藤）

アンディ・オロゴン戦
K―1MAXで大ブレイク！……し損なった男
されどこの顔と名前を覚えておけ！

プロレス界の未来を背負う空飛ぶ電波系(?)レスラー

飯伏幸太

(DDT)

聞き手＆文／ささきぃ　構成／堀江ガンツ
撮影／丸山剛史　試合写真／平工幸雄　乾晋也
design by さおとめの事務所

2・4『K─1 WORLD MAX』でボビー・オロゴンの弟、アンディ・オロゴンがデビュー！　相手はDDTのプロレスラー、飯伏幸太(いぶし・こうた)！

カード発表記者会見では、スーツ姿のまま〝その場飛びシューティング・スタープレス〟を披露。かねてからプロレス界では「丸藤正道の飛び技と、KENTAの蹴りを併わせ持つ男」「10年に一人の逸材」と評価され、11・3「ハッスル・マニア」のオープニングファイトにも抜てきされたデビューから約1年半の超ド級のルーキーが、プロレスラーの称号とDDTを背負ってK─1に参戦する！

これは『Kamipro』も黙って見てはいられない！　と、1月31日、〝ゴールデン・スター〟飯伏幸太インタビューを敢行。勝ったらカラーだ！　頑張れ飯伏！　と意気込んだものの、その取材直後には「アンディ・オロゴンの怪我により試合中止」という発表がなされたのだった……。

だが、谷川プロデューサーは大会前日の会見で「4月以降の大会で、飯伏選手にはなんらかのチャンスを与えたい」とコメント。今後も参戦の可能性は十分残されている上、レスラーとして飯伏幸太が強烈なキャラクターであることも変わりない。このインタビューを読めば、谷川プロデューサーが「写真を見ただけで、何かやってくれそうだと思った」と、飯伏を抜てきした理由がわかるはずだ。

──『K─1 MAX』に突如参戦することになり、突如参戦が中止になった飯伏さんですけど、インタビュー当日に中止が決定したんですよね。

飯伏　そうですね。『Kamipro』さんのインタビューを受けたあと、駅で切符を買おうとしたところで「中止になった」って電話がかかってきましたね。ホントに直後でした。ショックでしたね。

──ずいぶんなタイミングですよね（笑）。インタビュー中も水しか飲まなかったりと、減量はかなり苦しんでいた様子でしたけど、まず何か食べようって感じですか？

飯伏　まず食べました。ショックだったんですけど、最初の感情は「もう減量しなくていいんだ」っていうほうが強かった気がします。メチャクチャきつかったです。

──最初に何を食べました？

飯伏　食べ放題に行って……ケーキを食べました。そこから肉です。もの凄く食べて、腹一杯食べたあとに現実に戻って『なんで（試合が）なくなったんだ』って、またそれが凄いストレスっていうかショックで食べまくって……3日で13キロ体重が戻りました。

──13キロ!?　ずいぶん戻りましたね（笑）。K─1の会場にもいらっしゃってましたけど、大会を見ていてどう感じましたか？

飯伏　うーん……。見ていたらやっぱり出たかったですね。正直、自分だったらもっと面白い試合ができたんじゃないかな、っていうのもありますし……。自分は、やるんだったら勝っても負けてもKOを見せたいんですよ。だからそういう意味でも、自分が出て会場を盛り上げたかったですね。

──今回、参戦の話が来て消えてしまったことで、さらに闘志に火がついたみたいなところはありますか？

飯伏　あ、それは正直ありますね。やってみたくなりました。次はもう少し準備期間がほしいですけど、挑戦してみたいですね。

──飯伏さんはもともと、K─1や全日本キックでレフェリーをなさっている大成敦さんのジムに通っていたんですよね。

飯伏　そうです。先輩に誘われて入ったんですけど、入って3日後に総合格闘技の試合に出されたんですよ。

──いきなり!?（笑）

飯伏　そうです、そうです。その先輩が、「すごいヤツだ」とか言ってたらしくて。試合は1ヵ月くらい前から登録されてて。

──入る前から決まってたと（笑）。

飯伏　行ったら「3日後に試合だから、とりあえずガードだけは教えてあげる」って言われて。構えとかもわからないんで全部

1月24日会見で、ボビー・オロゴンの弟、アンディ・オロゴン、ボビーと並んで撮影に応じる飯伏。ちなみにアンディは「31人兄弟の中の6人目のお母さんの3番目ぐらいの子ども」とのこと。

ジムに入門して3日後、いきなり総合格闘技の試合に出たんです

飯伏幸太を語るエピソード　その1

「栄養失調になった」

ＤＤＴの練習生時代はお金がなくて、電気とかガス代が払えなくて。でも水だけは出たんで、水を飲んでたんですよ。携帯もそのうち止まって、水だけ飲んでたら、急に指先が痺れてきて……。春頃だったんで、そんなに寒くないのになんでだろうと思ってたら、すごい寒くなってきたんですよ。やばいなぁと思ってたら、眠くなってきて。ずっと寝てたら、立てなくなって。友だちに病院に連れていってもらって、そのまま点滴を打たれました。あのときはホントに死ぬかと思いましたね。デビューしたあともう1回（栄養失調に）なって。先輩とかからは「なんで言わなかったの？」って心配してくれて言われたんですけど、人見知りで、そのときはあんまりそういうことが言えなかったんです。

教えてもらったんですけど、実戦でそんなに出せるわけでもないので、高校時代にやってたラグビーのタックルが出ましたね（笑）。それは普通のアマチュアの大会だったんで、けっこう余裕で勝ったんですけど。

――勝っちゃったんですか！　それは凄いですね。

飯伏　それでちょっと楽しいなって思って。その1ヵ月後に今度は新空手のK―2トーナメントに出ることになって。

――また早いですね（笑）。

飯伏　それは1回戦で負けたんですよ、最初は。それでスッゴイ悔しくて。やっぱりこれじゃダメだと思って凄い練習して、4ヵ月後ぐらいに1回勝って勢いが付いて。そのまんまそこから1年間くらい試合には出ずに頑張って練習して、次はトーナメントで優勝できたんですよ。

――その「頑張って」というのは、仕事をやりながらですか？

飯伏　仕事をやりながらです。週6とか7で、休みの日もやってましたね。

――それはもう、プロ選手と言っていいくらいの練習量ですね。

飯伏　いま考えたら、凄い練習してましたね。自分で自分を追い込んでいるときが好きだったというか。それのおかげで勝ったんですけど。

――それだけ相当な練習してたら期待されるでしょうね。でも飯伏さんは、新空手で優勝されてそのあとすぐに大成さんに「プロレスラーになるんで辞めます」って言ったんですよね？

飯伏　……そうです。

――まさか大会の翌日とか？

飯伏　翌日です（笑）。

――翌日!!　それも早いんですね（笑）。

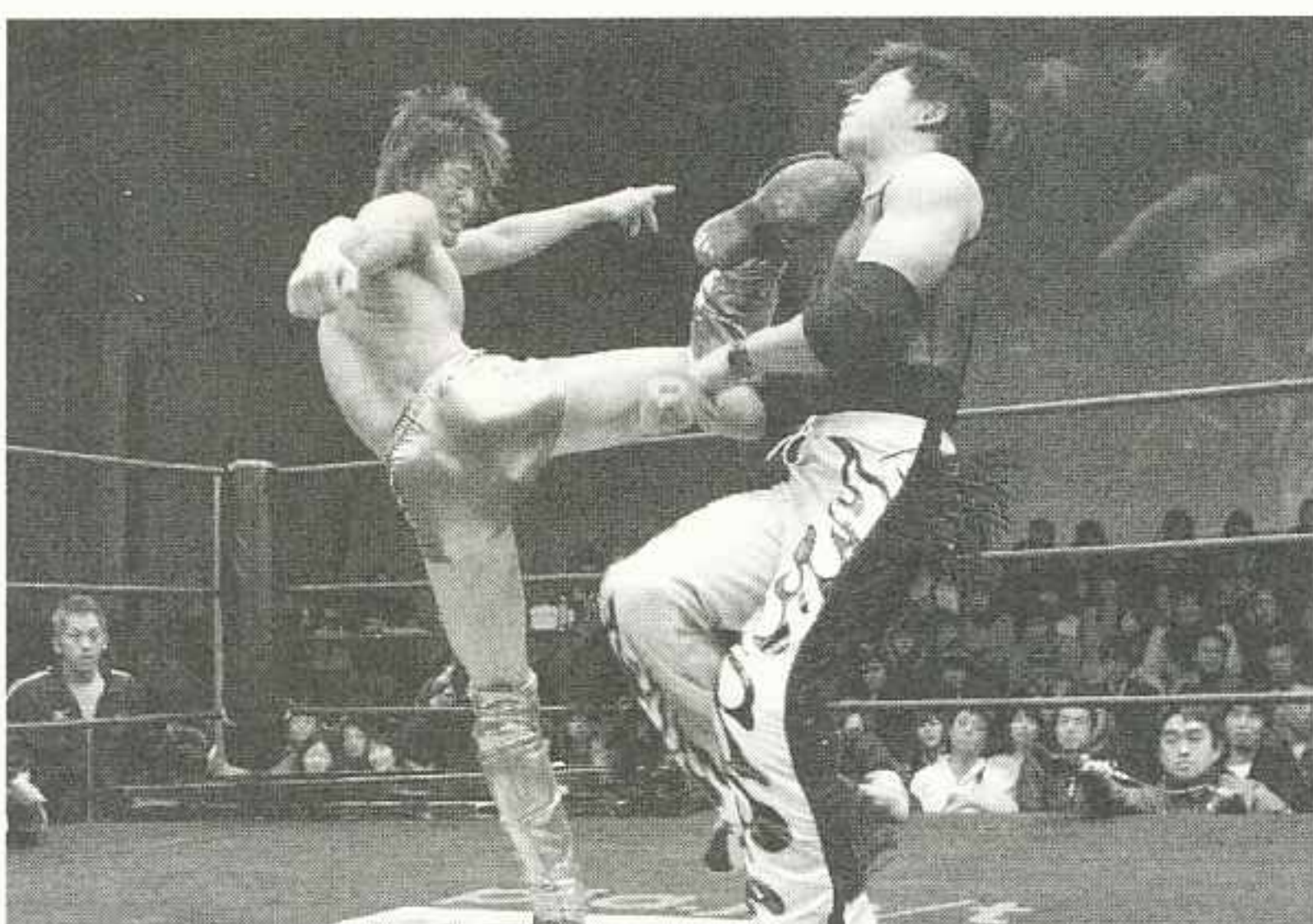
飯伏　キックボクシングをやっていて徐々にハマっていったんですけど、最終的には、やっぱりプロレスラーっていうのがどっかにあって。ただ、まずK―2の新空手トーナメントで優勝しないと、ちょっと区切りがつかないというか。だから、その試合で優勝したんで、自分の中で区切りがついて。

――優勝して、もう吹っ切れてしまったわけですね。

飯伏　はい。でも、もの凄い反対されて。ずっと言ったんですけど、その日は全然相手してくれなくて、そこから毎日ずっと言い続けてたらだんだん向こうが折れてきて、「プロレスラーになってもいいけど、キックボクシングも続けてくれ」って言われて。

――ああ、両立してくれと。

飯伏　なんか話が進まないな、と思っていたので、「わかりました」って言って、そのまんま消えた感じなんですけど。

――フェードアウトしたと（笑）。プロレス自体は、いつ頃からファンだったんですか？

キックのベースがあるだけに、当然打撃も注目。『BATI- BATI』では旗揚げ第1試合に登場、対戦した臼田勝美が「イケメンだけど、リングの上でも全然イケてる」と絶賛した。

小6のとき、西日本プロレスに面接をしていただきました

飯伏　小学校5年生くらいからですね。兄貴が借りてきたプロレスのビデオを見て、ムーンサルトプレスとか飛び技をやってるのを見て凄いなと思って。それからビデオを借りに行って、ドンドン見始めたんですよ。そこから1年くらい経って、深夜にプロレスをやっているのを知って、ビデオを録り始めて、そこから本格的に見始めました。

――憧れたというか、一番印象に残っている選手というと？

飯伏　やっぱりサスケ選手とハヤブサ選手ですねぇ。

――そういう選手を見て、技をコピーしたりとかやってました？

飯伏　ああ、プロレスごっことかでやってました。普通にムーンサルトとか校庭で。

――プロレスごっこでムーンサルト級の技をですか？　しかも校庭で（笑）。

飯伏　やってました（笑）。

――ギャラリーが凄くなかったですか？

飯伏　凄かったです。でも見てる人が喜んでくれるのが面白くって。

――「好き」っていうのが、「なろう」っていうのになり始めた瞬間というのは？

飯伏　小6くらいからですね。

――小6？　じゃ、けっこう早くから意識してたんですね。

飯伏　そうですね。小6の始めくらいのときに、毎日、マット運動の薄いマットでよ

飯伏幸太を語るエピソード　その2

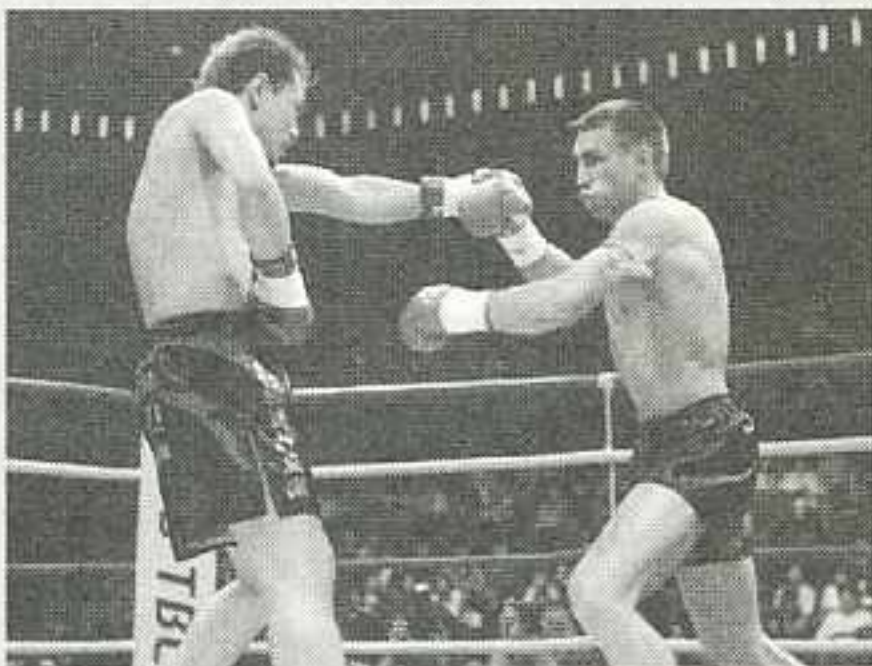
「鉄棒で飛び技の練習」

いまでもやってます。公園の鉄棒です。危ないとは思ってます。下は砂場だし、ちょっと離れたら地面なんで、危ないんですけど、それがいいんですよ。それぐらいじゃないと試合では出せないんで。ケガしたことですか？　ありますね。それはやっぱり自分の中に緊張感が足りなかったんだと思います。

飯伏がブレイクするはずだった

2.4 K―1 MAX
『エステティックTBC K―1WORLD MAX ～日本代表決定トーナメント～』
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
観衆 13927人（超満員札止め）

【トーナメント1回戦】
○HAYATO（FUTURE_TRIBE）
［3R 判定3-0］
安廣一哉（正道会館）×

HAYATOが前へ前へ出て猛攻。安廣は前蹴りで突き放すが、続けざまにHAYATOのヒザ、左、右がヒット。HAYATOが判定で勝利、この試合のみノーカットでテレビ放送された。

【スーパーファイト・K―1ルール】
○レミギウス・モリカビュチス（リングス・リトアニア）
［1R 0:08 KO］※飛びヒザ
我龍真吾（ファイティング・マスター）×

レミギウスのセコンドには所英男。我龍が睨み付けるがレミギウスは無視。ゴング直後、強烈なローから飛びヒザ、わずか8秒でレミギウスが勝利、谷川Pが世界トーナメント出場に太鼓判を押した。

【リザーブファイト・K―1ルール】
○白須康仁
［3R判定3-0］
白虎×

リザーブファイトは前NKB王者白虎と、現MAウェルター級王者白須が登場。白虎のパンチに対し白須がローを軸に攻め、カウンター、ローをヒット。判定で白須がリザーバー権を獲得した。

く受け身とかやってたんですよ。厚いやつだと、慣れないと思って。

――ああ、バランスが。じゃ、当時から、「ごっこ」じゃなくて真剣に受け身を取ることを考えて、薄いマットでやってたわけですね（笑）。

飯伏 そうです。タイミングを合わせて飛んだりとか……。あんまり、いまの練習と変わんないないことをやってましたね。

――高校出て、すぐどこかの団体のテストを受けにいこうとかっていう気持ちとかはなかったんですか？

飯伏 中学校を卒業してすぐに受けにいこうと思ってたんですけど。あ、一番初めは小学校の6年生が終わって、春休みの頃、西日本プロレスっていうプロレスが来たんで、それを受けに行ったんですよ。たぶん徳田（光輝）さんに面接をしていただいて。

――徳田さんですか（笑）。

飯伏 まず「履歴書出せ」って言われて。「ない」って言って、年齢とかいろいろ細かいところ聞かれて、ちょっと怪しまれたんですけど。

――え？ ごまかしたんですか？

飯伏 ごまかしました。ごまかしたんですけど、すぐバレたんですけどね（笑）。

――小学生ですから、そりゃバレますよね（笑）。

飯伏 バレたんですけど、「とりあえず動いてみろ」みたいになって、動かせてもらえたんですよ。そしたら、「動きはいいから、中学校卒業してから来いよ」って言われて。でも、そのまんま、なんかべつにって。

――そこはアッサリしてますね（笑）。

飯伏 次に中学校を卒業して、新日本プロレスを受けようと思ったんですけど、親に言ったら泣かれてしまったんで……。それはまずいかなと思ってしまって。「高校だけは行ってくれ」と言われて。で、高校だけは行って。

――「高校だけは行ってくれ」って言われるケースは多いみたいですね。

飯伏 もともと鹿児島だったんですけど、こっち（関東）に出てくれば、なんとかなるだろうって思って。ほとんど何もわからずこっちに来て、そしたら勤務場所は成田空港だったんですよ。

――勤務地もわからず来たんですか？

飯伏 はい。どうせ1日で辞めるからいいや、と思って。

――あらら（笑）、親というか、周りに対して、「東京で就職するから」という言い分でこっちに来たと。

飯伏 はい。でも、なんかその日に「辞めます」って言いづらくなって……。

――まぁ、言いづらいですよね（笑）。

「ゴールデン・スタープレス」。後ろ向きでコーナーに上がり、空中でバク宙、身体をひねって表を向いて最後は背中から着地する。いま使っている技のほとんどは中学時代にできていたものらしい。こんなのプロレスごっこで出されたら逆に引くよ！

KOUTA IBUSHI

飯伏 で、とりあえず、1ヵ月だけやろうと思ってたら、1ヵ月働いて、初めて給料もらうじゃないですか？ そしたら高校卒業して初めてそんな大金をもらったので、これはおいしいかな、とズルズルとちょうど1年間くらい働いて。その途中に、「これじゃまずい。プロレス団体に入りたい」と何回か思ったんですけど、ちょっとやっぱり、なんて言うか、ビビッている部分が自分の中にあったんですよ。で、まずはちょっとキックボクシングかなと思って、そこから新空手の大会に参加して。その後、『ららぽーと』でDDTを見て「よし！」と決断して、履歴書を送りました。

――「ここならできる」と思ったらしいですね（笑）。

飯伏 いまなら言えるんですけど、当時はDDTが一番ゆるい感じがしましたね（笑）。

飯伏幸太を語るエピソード その3

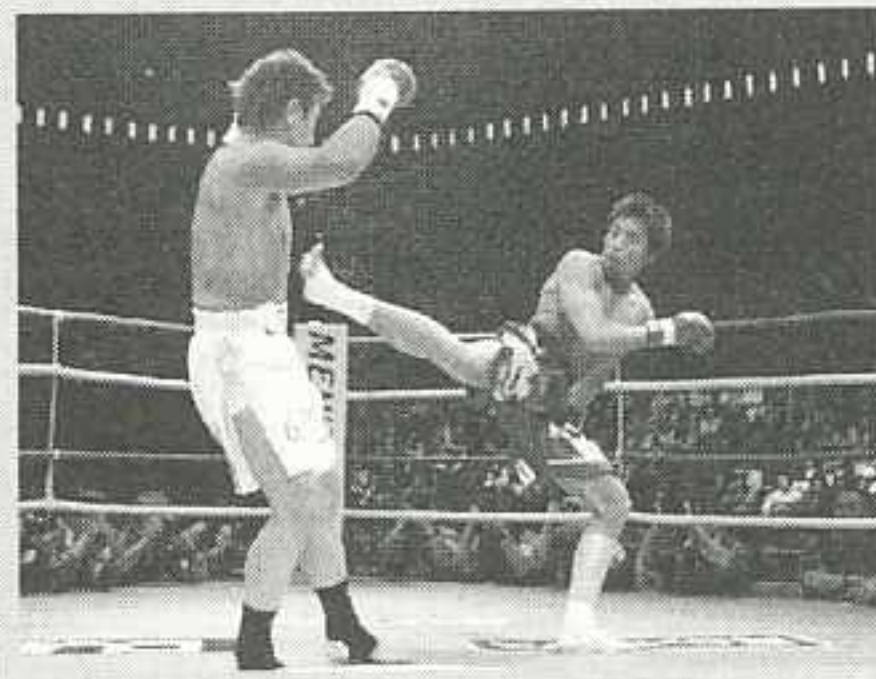
「甘いものが大好き」

甘いものはなんでも大好きですね。朝起きたら必ず甘いパンとか食べてます。肉とか魚も好きですけど、一番好きなのは、ガムとかアメとか。ハイチュウが大好きなんですよね。ガムの中でもそのまま飲めるじゃないですか。そういう系が好きなんですよ。ハイチュウは食パンにパーッと並べて食べてたりしました。一枚の食パンに一本ぶんを並べて、そのまま食べるか、それをちょっと焼くと、ちょっと溶けた感じになっておいしいです。栄養失調になったとき言われたんですけど、胃下垂なのと、基礎代謝っていうのがもの凄く高いらしくて、何もしなかったら、すごいガリガリになるって言われて。普通の人は1日2500カロリーぐらいでいいといわれたんですけど、自分は7000ぐらい摂らないとダメって。維持ができないみたいです。

【スーパーファイト・K－1ルール】
○ブアカーオ・ポー.プラムック（ポー.プラムック）
［判定3R 3-0］
マイク・ザンビディス（メガジム）×

2004年K-1 MAX王者ブアカーオと、山本KIDをKOしたザンビディスの初対決。リングサイドでチェ・ホンマンが興味深げに見つめる中、ザンビディスの闘いを封じ込んだブアカーオが判定で勝利した。

【トーナメント1回戦】
○佐藤嘉洋（フルキャスト）
［3R 判定3-0］
新田明臣（バンゲリングベイ）×

新田のセコンド、ニコラス・ペタスがドリフのハッピで登場。新田の入場はあと2種類用意されていたという。佐藤は静かな入場。突進する新田、佐藤がパンチ、ヒザ。判定は三者とも佐藤勝利を告げた。

【トーナメント1回戦】
○上山龍紀（TEAM Kings）
［3R 判定3-0］
大東旭（チーム・クラウド）×

ゴング直後、上山がいきなり回転蹴りを仕掛けるが空振り。ボクサー大東がボディへパンチのラッシュ。上山はパンチをかいくぐってロー、前蹴り、ヒザ。判定で上山がK－1初参戦を勝利で飾った。

【トーナメント1回戦】
○TATSUJI（アイアンアックス）
［2R 2:47 TKO］※ドクターストップ
山本優弥（青春塾）×

2R中盤、山本が右肩を脱臼。山本はストップ宣告に「できるー!! やらせてください!! TATSUJIくんやろう!!」と泣きながら絶叫。判定は覆らず。注目の新鋭対決は、突然の幕切れとなってしまった。

飛び技は毎回毎回、これで終わってもいいって気持ちで飛んでます

ここなら自分でもいけるんじゃないかな、とか。デビュー戦で辞めようと当日まで思ってたんですけどね。

―デビュー戦で（笑）。そこも新空手のトーナメントと同じですね（笑）。

飯伏　はい（笑）。とにかくプロレスラーとして一度リングに立ってみたいって、それだけだったんですよ。相手も尊敬するＫＵＤＯさんで、これはもう最大の記念になるし、思い残すことは何もないと思って。やっと終われると思って、早く試合をして辞めようと思ったんですよ。自分の中でできるだけの技も出し尽くそうと思っていて。

―他の団体じゃ、新人にいきなり大技とかはやらせないでしょうね。

飯伏　普通はないですよね。でも自分ができること全部出そうと決めてて。そしたら、やってるときに、お客さんが盛り上がっているというのがわかったんで、それになんか、凄い感動したんですよ。それで辞められなくなったんです。

―そこからはもう辞めたいとは思ったことは？

飯伏　ないですね。

―それだけお客さんの歓声っていうのが大きいんですね。

飯伏　大きいですね。快感というか。自分がファンで見てたとき、お金払って見てて、なんか「ああ、手を抜いてるな」とわかる試合があったんですけど、それだけは避けたいと思って、自分は全部全力でやってます。

―飛び技一つにしても、常に事故と隣り合わせっていう面はありますよね。ディファアカップのとき、飯伏さんが「これで終わってもいいと思って飛びました」っておっしゃっていたのが、非常に印象的だったんですよ。

飯伏　飛び技は毎回、これで自分が終わってもいいやっていう気持ちで飛んでますし、そこは覚悟してます。

―いまも1回1回、命をかけるつもりで飛んでいるという感じですか？

飯伏　そうですね。自分がいまあるのはデビュー戦でなんでもやりたい技をやれたというか、出せる技を全部出せたということと、それに高木（三四郎）さんがＯＫだしてくれたということが大きいですね。

―高木さんにはデビュー戦で辞めたいってことも含めて話してたんですか？

飯伏　辞めるまでは言えないですけど「出せることを全部やりたい」って言ったら、「できるならやってみればいいんじゃないか」って言われて、「でも失敗したら、オマエはそこまでだぞ」という感じのことも言われたんです。その恩があるんで、自分はこれからも、プロレス代表というかＤＤＴ代表としてやっていきたいですね。

―飯伏幸太っていうよりも、ＤＤＴとして。最初は軽い気持ちだったみたいですけど、ＤＤＴの人たちと一緒にやっていくにつれて、「ここじゃなきゃイヤだ」みたいに変わってきたんですか？

飯伏　そうですね。高木さんの人間性というか、自分的にも信頼できるというのがあるんで。

―高木さんが聞いたら、泣きそうな言葉ですね（笑）。まさにドラマチック・ドリーム・チームですよ。

飯伏　ホントにもっとＤＤＴをでっかくしたいと思います。Ｋ―１に上がるときにも、僕はＤＤＴの代表としてリングに上がって、ＤＤＴの存在をアピールしたいですね。

―ありがとうございました。さらなる飯伏さんの活躍と、次こそＫ―１参戦が中止にならないことを期待してます！

（1月31日&2月7日収録）

飯伏幸太／いぶし・こうた　1982年5月21日生まれ、鹿児島県出身。DDT所属。181cm、血液型O型。04年7月1日後楽園ホール、対KUDO戦でデビュー。写真撮影は1月29日後楽園大会の試合前に行ったが、減量による脱水症状で苦しんでいた飯伏は試合後救急車で搬送され、撮影時の記憶が全くなし。インタビュー直後に試合中止、追加取材を行った日はdragon-doorでイタリア人「IBUSHIINO」に変身、翌日からは韓国でディック東郷と対決……という、ドラマチックを体現している男。現KO-Dタッグ王者。

KOUTA IBUSHI

飯伏幸太を語るエピソード　その4

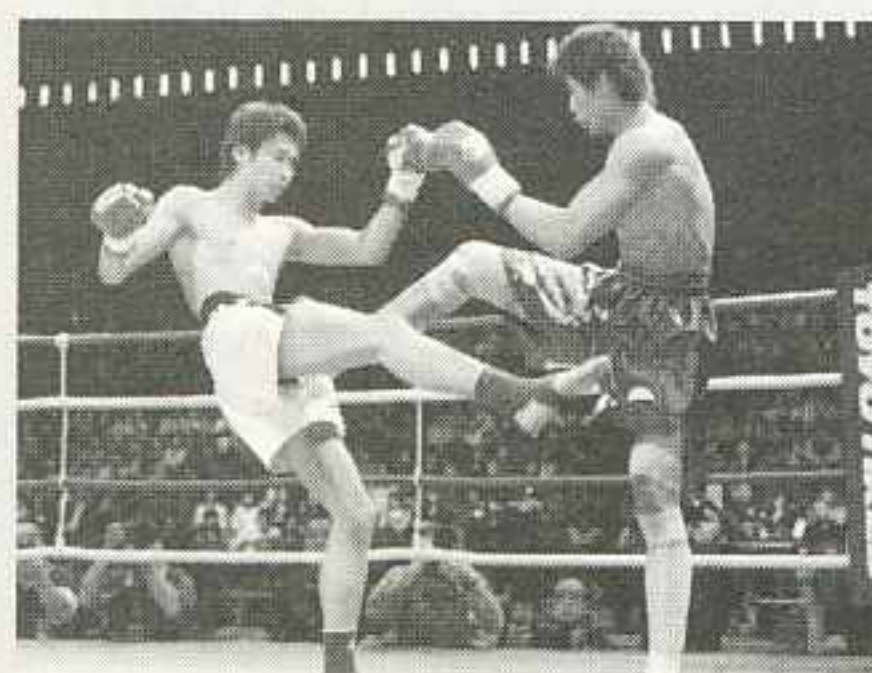
「人見知り&雲が嫌い」

人混みが嫌いというか、怖いです。人見知りなんで、基本的に人と会うのが怖いです。あ、人混みでもお客さんは平気です。家で洗濯するときとかも、ドア開けた外に洗濯機があるんで、ちょっと開けて人がいないか確認します。あと雲が嫌いなんです。雲っていうか、曇りがいやですね。太陽が隠れることが嫌いで。空を見るもイヤですね。だからといって、べつに晴れの日が好きというわけではないんです。よく引きこもってゲームとかしているんですけど、引きこもっているときは、太陽が嫌いなんです。よく周りから変わってるとは言われるけど、自分の中では、自分がもっとも一般人に近いんじゃないかと思うんですよ。ホントはみんなも人混みが怖いとか思ってるんじゃないかなぁって思います。

【トーナメント1回戦】
○佐藤嘉洋
［3R 判定3-0］
TATSUJI×

佐藤のロー、前蹴りに対してTATSUJIは思い切りよく踏み込んでパンチ。佐藤は前蹴りで距離をとりながらヒザ。TATSUJIを踏み込ませず、初戦から終始自分の闘いを貫いた佐藤が全試合判定で優勝した。

【スーパーファイト・K―1ルール】
○魔裟斗（シルバーウルフ）
［3R判定3-0］
イアン・シャファー（リングス・オーストラリア）×

新作ガウンで登場の魔裟斗に場内大歓声。パンチを繰り出すシャファーを魔裟斗はハイ、ローで終始完封。ＫＯには至らなかったが判定勝利、左足骨折から7ヵ月、魔裟斗が完全復活を宣言した。

【日本トーナメント準決勝】
○佐藤嘉洋
［1R終了 ドクターストップ］
上山龍紀×

上山は1回戦ではしていなかったヒザへのテーピングをして登場。１Ｒ闘い抜くが、終了すると顔をしかめ、足をひきずる。昨年手術したという左ヒザじん帯の損傷で、上山のＴＫＯ負けとなった。

【日本トーナメント準決勝】
○TATSUJI
［判定3R 3-0］
HAYATO×

ローマ字名前同士の対決となった準決勝。1Rからパンチラッシュを仕掛けるTATSUJIの勢いに、HAYA-TOが苦戦。TATSUJIのローでHAYATOがダウン。判定でTATSUJIが勝利、決勝進出を決めた。

好きな言葉？
最近は「本能」です!!

K-1 PREMIUM 2005 Dynamite!! のウラMVP

あの中尾芳広が真相を語る

～事件は偶然ではなかった!?～

05年12月31日『Dynamite!!』で勃発した『中尾事件』をキミは知っているだろうか。そう！　中尾芳広がヒース・ヒーリングにキスして殴られ、ゴングが鳴る前に試合が終わってしまった前代未聞の事件のことである。コトを起こした張本人、中尾芳広。彼はいったい何を考え、そのような希有な行動に出たのか!?　そして最も気になるその“中尾像”とは？

聞き手／松澤チョロ　構成／松下ミワ　designed by shiraki（TwoThree）

飛び技
ここなら自分
とか。デビュ
ってたんです
―デビュー
ーナメントと
飯伏 はい（笑
して一度リン
だけだったん
DOさんで、
し、思い残す
っと終われる
めようと思っ
るだけの技も
―他の団体
かはやらせな
飯伏 普通は
きること全部
やってるとき
いるというの
か、凄い感動
れなくなった
―そこから
とは？
飯伏 ないで
―それだけ
大きいんです
飯伏 大きい
たとき、お金
手を抜いてる
ですけど、そ
自分は全部全
―飛び技一
合わせってい
ァカップのと
ってもいいと

―中尾さん、今日はお目にかかれて非常に光栄です！

中尾 あ、そうですか。よろしくお願いします（ニッコリ）。

―さっそくですが本題に入らせていただきます。（恐る恐る）あの〜、やっぱり中尾さんといえば、『Dynamite!!』のヒーリング戦のことから聞かせていただきたいんですが。

中尾 はい（真剣なまなざしで）。

―あの日、中尾さんはヒーリングにKOされたあと、そのまま担架で病院に運ばれるという異常事態（※下記参照）に見舞われたわけですが、あのときのことは覚えてます？

中尾 ……もう、その話をするたびに思うんですけど、正直言って何があったかわからないんですよね。

―やっぱり覚えてないですか。たしかに、殴られたあとの中尾さんは焦点が定まってなかったですよ。

中尾 ホント、気がついたら病院の中だったんですよ。ちょっと覚えてるのは、自分が倒れてるときにリングに人がいっぱいいたから「あれ？ これ負けちゃったのかな」って思ったぐらいです。試合前、自分はずっとストレートの練習をしてたんで、カウンターでやられたのかなって。

―たしかに、カウンターでやられたのには違いないんですけど（笑）。しかし、試合中に記憶が飛んだという話はよく聞きますけど、ゴングが鳴る前に記憶が飛ぶというのは本当に前代未聞ですよね。

中尾 そうですよねぇ。あっ、ただ……。

―ただ？

中尾 ……自分は、ヒーリングにキスをしたのは覚えてます。

―あ、それは覚えてましたか！（笑）。

中尾 はい（照）。正直言って……、本当に正直ですよ、……あれは本能だったんですよね（小声で）。

―ガハハハハ！ 本能のキスでしたか（笑）。

中尾 自分は昔から対戦相手を睨むのが好きなんですけど、ヒーリングを睨んでるときにたまたま近くに口があったんですよ。

―たしかにああいう場面では、かなり至近距離になりますもんね。

中尾 そんときに、「あ〜、あれ？ しちゃおっかな」って。

―「しちゃおっかな」って（笑）。

中尾 ほんの一瞬「しちゃおっかな」って思ったんですよね。そうなったときに「いいや、やっちゃえ」って。

―そんな軽はずみに決断しちゃったんですか（笑）。

中尾 あのとき、ヒーリングは少し震えてたんですよね。身体のツヤもよくなかったし。それを見て「自分の型に飲まれてるな」って思って。そういう余裕があったんです。

―余裕があったんで「ちょっと挑発してやろう」と思ったわけですか？

中尾 （無視して）それに、ヒーリングってけっこういい男なんで。近くに唇もあったし、もう「しちゃお」ってなったんですよねぇ。

―ガハハハハ！ 中尾さんはプロに転向してからヒーリング戦を合わせて全7試合闘ってるわけですけど、過去に対戦したドン・フライやボブ・サップに比べると、たしかにヒーリングは色男ですからね。

中尾 う〜ん、まあ、前に試合した人たちはあまり色男じゃなかったですね。どっちかって言ったら、自分のほうがいい男でしたよ。

―あ、そこでも負けてないと。

中尾 そうですね（キッパリ）。人はどう思うかわからないですけど、自分の中では「俺、カッコいいかな」って。鏡見ながらいつもそんなこと考えてるんです。

―それはじつに興味深い話ですね。

中尾 だって、同じ格闘家ならやっぱりカッコいいほうがいいでしょ？『K―1 MAX』なんてカッコいい選手がたくさんいるじゃないですか。だからヘビー級もそうじゃないといけないと自分は思うんですよ！

―中尾さんは、その先陣を切っていると！

中尾 そう！ それに、自分はカッコいいものに興味を示すタイプなんで、やっぱり色男を目の前にして本能的になんか出たんでしょうね。

―なるほど！ だんだん事件の真相が見えてきましたよ。

中尾 でも今回のことは、なんか前日の記者会見から全部つながってる気がするんだよなぁ。

―は!? 前日からつながってると言いますと？

中尾 自分、前日の会見で意気込みを聞かれたときに「いまだ隠れてる自分の本当の姿がヒーリング戦で出るんじゃないかと思います」って言ってるんですよ。それって、こういうことだったのかなってね。最初に矢野（卓見）さんに「全部、結びついちゃってるよ」って言われたんですけど、あ〜ホントだって思いました。

―ということは、前日会見のときからヒーリングに関しては少なからずそういう意識があったと？

中尾 う〜ん……（困惑）。まあ、記者会見はやっぱり緊張感を持って臨んだんですけど、ヒーリング見たときは正直「強そうだな」っていうのと「いい男だな」っていう感情があって。

―そうですか（笑）。

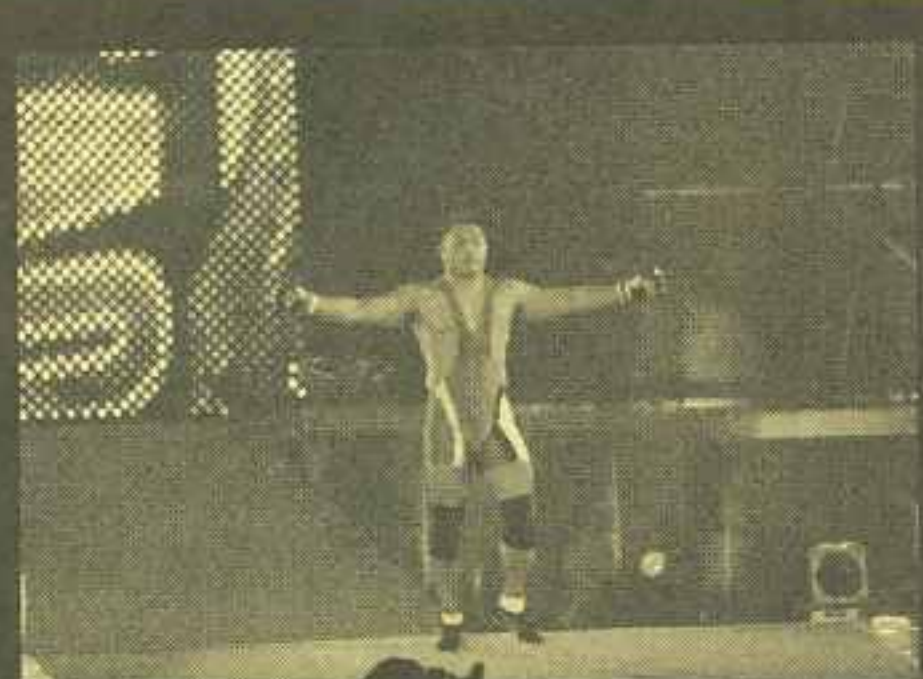
ただ、……自分は、ヒーリングにキスをしたのは、ちゃんと覚えてます

中尾事件の全容

●前日会見のコメント

中尾
「相手がヒーリングということで、自分の眠っている力をすべて出せると思います。頑張ります」

ヒーリング
「日本に戻って久しぶりの試合で、楽しみにしています。明日、自分のベストを見てもらいたい。そう思っています」

『Dynamite!!』当日

テキサス風ハットをかぶって入場してきたヒーリングは、拳を高く突き上げ観客にアピール。対する中尾さんは会場に入った瞬間からボルテージは最高潮か!? 軽く深呼吸をしたあと激しい雄叫び！ ヒーリング戦に対する意気込みを示してみせた！

リング上に上がった両者。審判のボディチェックや注意事項など関係ない！ といった具合に激しく相手を睨みつける！ すでに闘いは始まっている、と言わんばかりの緊迫感だ。

2006.2.10『ハッスル・ハウスvol.11』後楽園ホール大会　詳細レポート

目覚めると、自分のケータイに着信履歴が78件も残ってたんです！

中尾　ヒーリングってやっぱり名前も実績もある選手ですよね。それでも、正直言って「俺の中では通過点かな」とは思ってました。自分はいつも目標を高く持ってるんで。

――しかし、「勝てる！」っていう自信の一方で、やっぱり「カッコいい」とも少なからず思ってたわけですね。

中尾　正直言って、そうですね。神様がくれたチャンスというかなんというか……。でもそれより、自分はいままで本当の意味で総合の選手と闘うっていう機会が少なかったんで、なんかこう、もの凄い試合を見せられればいいなって思ってたんですよ。……それがちょっと違う方向に行っちゃったんですけど（苦笑）。

――ちょっとどころではない感じもしますけど（笑）。現に、大晦日は地上波では放送されませんでしたしね。

中尾　あれはできないでしょうねぇ（しょんぼり）。

――ちなみに、周りの反応はどんな感じでした？

中尾　あ、一番凄かったのは自分のケータイに名前のない着信履歴が78件も残ってたことです！

――78件!?　そんなにかかってきましたか！

中尾　知らない人たちが僕の番号をどっから入手したのか不思議なんですよ！　それに、留守電聞くだけで無料通話分がなくなったぐらいですから。1月の電話料金は並じゃないですからね。

――それは困りましたね。ちなみに、皆さんはどういったことを留守電に残してたんですか？

中尾　それが、あんなことになったんで、実際に「ヒーリングのチューはどんな味だった？」とか聞く人もいましたね（笑）。

――ガハハハハ！　で、中尾さんはなんと？

中尾　正直言ってですね、ヒーリングの唇、カサカサだったんですよ!!

――あ、カサカサでしたか!?

中尾　カサカサ！　だから自分も一瞬、戸惑ったんです。そこも覚えてるんですよ。

――意外といろいろ覚えてるじゃないですか（笑）。

中尾　正直言って、チューぐらい自分なんとも思わないんですけどねぇ。

――いままでのお話を聞いてると、中尾さん、かなり勘違いされる発言が目立つように思うんですけど。ズバリ言って男好き……ではないんですよね？

中尾　いや、男好きってわけではないですけど……。

――同じ自衛隊出身の井口（摂）さんに探りを入れてみたところ、男好きという事実はないみたいでした。やっぱり〝隠れてた部分〟が出てきてしまったということなんですかね？

中尾　自分はまだ独身なんで、そういう部分でもやっぱ疑われますよね。

――じゃあ、ヒーリングの発言にもあったような〝ホモ野郎〟ではない？

中尾　ハッハッハッ！　でもわから

03年12月の『Dynamite!!』ハハレイシビリ戦でプロデビューした中尾さん。その後、現在まで総合では無敗を誇っている。また、これまでの対戦相手に関して「ルックスでも自分のほうが上」と完全勝利を宣言!!　自信満々です。

中尾芳弘プロ転向後の全戦績

○vsダビド・ハハレイシビリ［2R 1:13 ギブアップ］（03年12月31日『Dynamite!!』）

－vsドン・フライ［無効試合］（04年5月22日『ROMANEX』）
※フライが右目上から出血したため。

○vsウェスリィ“キャベージ”コレイラ［判定2-1］（04年11月20日『RUMBLE ON THE ROCK』）

○vsドン・フライ［判定3-0］（04年12月31日『Dynamite!!』）

×vsボブ・サップ［判定3-0］（05年6月14日『K-1』）

○vsファイ・ファラモエ［1R 2:35 腕ひしぎ十字固め］（05年9月7日『HERO'S』）

－vsヒース・ヒーリング［無効試合］（05年12月31日『Dynamite!!』）

※勝敗は当初、ヒーリングの反則負けとなっていたが、後日、FEGは審判団の協議の結果、ノーコンテストと裁定したことを発表した。

劇的瞬間を解説

最もお見せしたい決定的瞬間の写真がないので、解説しよう！　右の写真のあと、額をぶつけ合って壮絶な睨み合いを始める二人。あわや一触即発か？　と思われた次の瞬間、なんと！　中尾さんがヒーリングにキスをした!!　これに怒りを示したヒーリング。思わず右フックで中尾をKOしてしまったのだ!!

ヒーリングに殴られた中尾さんは、さらに悪いことに、倒れた瞬間、頭をもろにリングにぶつけてしまう。意識が朦朧としている中尾さんに、思わずレフェリーが助けに出た。

「自分は何も悪くない!　あのホモ野郎がキスしたからだ!!」と必死にアピールするヒーリング。同性愛に厳しいテキサス出身のヒーリングとしては、この対処法こそ正義だったのだ（!?）

前代未聞の事態にリング上も騒然。やがて、中尾さんは担架に乗せられ、首を頑丈に固定される。さらに、そのまま病院へと運ばれる事態となったのだ!!

ないですよ（小声で）。

――なんで、わからないんですか!?

中尾　いや、好きではないですよ。うん。

（笑）。

――ちょっと安心しました。

中尾　でも人間って男と女しかいないし、自分はホモではないけど、チューとかするぶんに関しては平気ですね。

――チューなら平気（笑）。

中尾　平気っていうか、大学でレスリングやってたときって寮だったんですけど、1年生の頃なんかはとくにタコ部屋だったんですよね。だから、夜寝てるときなんかにたまたま誰かの太股を枕にしてたとかっていうのは当たり前だったんですよ。

――ヒザ枕ならぬ太股枕が当たり前（笑）。

中尾　そんな感じだったんで、チューぐらいだったらべつになんとも思わないんですよね。先輩が調子に乗って「おまえら、チューしてみろ」とか言うのも日常茶飯事だったし。ちょっとしたイジメみたいな感じで。

――そういう体育会系的なノリに中尾さんも馴染んじゃったというか。

中尾　そうですね。だから本当にたまたま唇が近かったから「チューしちゃお」ってなっただけです。

――そして、どうせだったらイケメンのほうがよかったと。

中尾　ブサイクよりは、そっちのほうがいいんじゃないかと。

――なるほど（笑）。ちなみに中尾さん、当の映像のほうはご自身でもちゃんとご覧になったんですよね？

中尾　一回だけ見ました！　あれはやっぱ悔しかったッスね～。

――あ、〝恥ずかしい〟じゃなくて？

中尾　なぜかと言うとですね、自分は小さい頃から絶対に譲れないポリシーがありまして。

――ポリシーですか。それはどんな？

中尾　「どんなときも絶対にダウンしない」ってことなんです！

――小さい頃からそんなことをポリシーにしてましたか（笑）。

中尾　自分、普通のケンカにしても練習でも試合でも一回もダウンしたことないんですよ。

――サップ戦も、黒星はつきましたが判定まで持ち込みましたもんね。

中尾　だから、知らないあいだに自分がダウンしてたっていうのが何よりも悔しいんですよ！　何がイヤだって、それが一番悔しいですよ!!

――じゃあ、これまであれほど強烈なパンチを喰らったのは？

中尾　初めてですね。力も全然抜けてましたし。でも意識が遠くなったのはパンチのせいじゃなくて、倒れたときにリングに頭をぶつけたからなんですよ。ドミノ倒しみたいに真後ろに「ドンッ！」って倒れたのがけっこうキツかったですね。

――本当に映画のワンシーンでも見るかのように豪快に吹っ飛んでましたからね。

中尾　あれは自分の中ではパフォーマンスのつもりだったのになあ。ヒーリングも殴らなくてもなって思いますね。そんなの、試合が始まればいくらでも殴れるのに。

――まあ、ヒーリングはテキサス州出身で、同性愛とかは銃殺されるぐらい厳しい地域らしいですからね。そういう部分もあったんでかなり怒ってたんだと思うんですよ。

中尾　まあ、国によって文化は違いますけど、自分から言わせてもらえばもっとK―1のことを学んでこいと。いままでだってK―1ではああいうことあったし。

――たしかに試合前のキスはマイク・ベルナルドvsジェロム・レ・バンナ戦（95年5月4日）でもありましたからね。

中尾　それから、もう一つ悔しいと思ったのは……。

――まだ悔しいことが？（笑）。

中尾　それはですね、初夢にヒーリングが出てきたことなんですよ！

――初夢がヒーリング！　ヒーリングといっても、それはちっとも癒されないんじゃないですか（笑）。

中尾　（無視して）それは病院で寝てるときだったんですけど。

――あ、お見舞いに来てくれたんですかね（笑）。

中尾　（またもや無視して）それが凄い悔しくて。なんでよりによってヒーリングなんだよって。俺の初夢まで奪いやがってって凄い悔しかったんです。

――初夢で起こったことは、実際に起こるって言いますからね。

中尾　だから本当にもう、次は絶対勝たないとなって。

――ぶっちゃけ、再戦したいっていう気持ちはあるんですか？

中尾　はい。それで、もう作戦も立ててるんですけど。

――気が早すぎる（笑）。

中尾　あとで見た限りでは自分は右フックでやられてるんですよね。だからどうしてもパンチで倒したい！　それで、……これは言っていいのかわからないですけど。

――この際なんでも言っちゃってください！

中尾　じゃあ、……ヒーリングをパンチで倒してリングに寝てるところにチューするんです！

――は!?　それじゃ、また無効試合とかなっちゃいますよ！

中尾　（無視して）自分は勝つこと

正直言って、ヒーリングの唇カサカサだったんですよ!!

中尾事件に関する識者・関係者の見解

【五十音順】

プロ格の重鎮から見た中尾事件
井上義啓

K―1の選手が、ね、あんなことやったらもう観客論もクソもないですよ。あれは単なるおふざけであって、たとえ大晦日の『Dynamite!!』と言えども、許されるもんじゃない。本人は『Dynamite!!』だからいいだろうという考えもあったんだろうけども。それでも、やっぱりK―1だからね。しかも、はっきり言って、あんな下ネタじみた行為をとったらね、もう弁解のしようがないだろうが。「K―1はおちゃらけだ」と、みんなそう思ってしまいますよ。あれはK―1にとってもの凄く大きなダメージ。俺はあのことを知ったときに、天を仰いだからね。何をやってるんだ！　と。呆れかえったよ。もう、俺だったら永久追放ですよ!!　やっちゃいかんことぐらい、ちょっと考えたらわかりそうなもんだろうが。こんなこと言ったらあの選手に申し訳ないけどもね、どんなに弁解しようが永久追放。俺が谷川の旦那だったら、はっきり言って5年間使わないと言いますよ！

ホモ疑惑浮上者から見た中尾事件
入江秀忠（キングダム・エルガイツ）

エッ、中尾vsヒーリング戦の感想ですか？　なんで、僕に聞くんですか？　昔、ホモ疑惑があったからですか（笑）。中尾選手がどうかは僕は知らないですけど、僕はホモじゃないですから。これは本当ですよ。まあでも、もし同じようなシチュエーションでキスされたら、僕だったら逆に2倍にして返しますね。やられたらやり返すと（笑）。それで、僕だったら試合後に、また誘うかもしれませんね（笑）。ただ、格

サップとは総合ルールで再戦したいですね。正直、負ける要素がないですよ（キッパリ）

05年6月の『K-1』ボブ・サップ戦で、みごとなドロップキックを披露した中尾さん。判定3-0で負けはしたものの、この試合で自身が考案したプロレス技“中尾スペシャル”のヒントを得たと言う。ちなみにその必殺技は未発表です。

が凄く好きなんで、厳しい練習もしているし、絶対やってやろうと思ってるんで！　いや～、危ないなぁ。ヒーリングはちょっと自分と距離を置かないと、本能が出て大変なことになるかもしれないですね。うん、そのほうがいい！

――わかりました（笑）。話は変わりまして、ヒーリング戦以外のことをおうかがいしたいんですが。

中尾　はい。

――中尾芳広といって思いつくのは、やっぱり〝メダルを捨てた男〟ということなんですよ。レスリングでメダルを狙える位置にいたにもかかわらず、プロの格闘家に転向した理由はなんだったんでしょうか？

中尾　小さい頃、自分はタイガーマスクに憧れてて、やっぱり闘うことが好きだったんですよ。だから、K―1とか他の格闘技も凄い観てましたし。その中で、たまたまレスリングの道に進んだってだけなんですけどね。

――そこでレスリングを選んだっていうのはプロレスラーになりたかったからですか？

中尾　高校進学のときに、本当は普通の高校にもう入学が決まってたんですよ。でも、兄貴の友だちが自分の家に来たときに僕が格闘技好きだと聞いたらしくて。またこれが偶然なんですけど、その人が東京工高レスリング部のキャプテンだったんですよ。

――それでお誘いがあったと。

中尾　そうです。結局その高校に行ってレスリングをすることになったんです。

――では、プロレスの道に進まず、格闘技のほうに進んだのは？

中尾　自分が社会人になったときに、ちょうどK―1が夜中に放送されてたんですよ。それを何回か見て「凄いことやってるな」って思ったのが始まりです。そのうちゴールデンタイムで放送されるようになって、そこでブランコ・シカティックが優勝したのを見て「これ凄い！」って。

――K―1の影響が強かったと。

中尾　そんときは総合格闘技っていう分野はまだあんまりなかったんですよね。だけど、K―1を見ていくうちに、そっちのほうにだんだん興味を持ち出したんですよ。やっぱ当時はプロレスより総合のほうが光ってたし。K―1とかヒクソンが話題になってた時代で。だからそっちにいっちゃおうって。

――タイミングもバッチリだったと。ところで、先ほどヒクソンの名前が出ましたけど、「俺だったら勝てる」っていう自信はありました？

中尾　ありましたね。それに、自分はプロに転向してから1年間ぐらいマルコ・ジャラっていう先生に教わったことがありまして。

――あ、そうでしたね。

中尾　マルコ・ジャラって人はヒクソンと一緒にいたこともある人なんですけど、そのつながりでヒクソンの家に行ったこともありますよ。

――ヒクソンの家にも行ってるんですか？

中尾　もう、すんごいお屋敷で。実際に話をすると、ヒクソンは考えることもたしかに凄い人でした。だけど、正直、自分は勝つことができると思ってましたね。

――でもヒクソンは「闘いたい」という思いだけでは、もはや試合が組まれない人になっちゃってるじゃないですか。

中尾　そうなんですよねぇ。

――中尾さんはK―1ルール以外ではいまだ無敗ですし、〝強さ〟という点では認められてきてるとは思うんですけど……。

中尾　（遮って）だからそれ以上のことをやりたいんですね。パフォーマンスも含めて。自分がそういう部分をつかみかけたのは、じつはボブ・サップ戦なんですけど。

――奇しくも負けた試合で。

中尾　試合中にドロップキックとか出したんですけど、あれでひとつレベルアップできた実感がありましたね。

――中尾さんはあの大会はK―1ルール初挑戦だし、「勝てるわけないよ」と思って観てた人も多かったと思うんですが、結果的にはトーナメントで優勝したサップ相手に判定まで持ち込んでるんですよね。

中尾　自分ですね、本当に負ける気がしなかったんですよ。

――そこも自信がありましたか！

闘技の世界で、対戦したいと思ってる相手って、恋愛と同じような感情が出てくるような気もするんですよ。ずっと、その選手との試合をシュミレーションしながら練習してると夢とかにまで出てくることがありますからね。そういう意味では、僕も昔からずっと「ヒクソンとやりたい、ヒクソンとやりたい」って言ってますけど、試合前に闘えることになったら、試合前に嬉しさのあまりキスしちゃうっていう気持ちもわからないでもないですね（笑）。でもね、何度も言うように僕はホモじゃないですから。

ハードゲイから見た中尾事件
川村亮（パンクラスism）

中尾選手とも、ヒーリング選手とも面識がないのでまったくわからないんですけど、試合の前や最中は欲望を抑えないとダメですよね。ハードゲイと呼ばれるボクでも、そこは抑えるようにしてますから。試合前で高ぶっちゃった気持ちが、闘いのほうにいくか、欲望のほうにいくかっていうところで、スイッチが切り替わっちゃったのかな、と。ただ、ヒーリングが中尾選手を殴ったあとに「このゲイ野郎！」ってののしったって聞いたんで、そこはゲイでありハードMのボクにはたまらないですね。うらやましかったです。

キス評論家が語るキス論
ターザン山本！

口付け、口付け愛はSEXを超えるもの。男女の愛における最大の上位概念なり。また口付けは女性のもの。女性の特権なり。

中尾　結果的に負けてはいるんですけど、パンチだったら正直いって俺のほうが速いかなって思ってたし、サップは身体があれだけ大きいから疲れるのが早いだろうし。身体が大きいっていっても自分がサップから押されることはないとも思いましたしね。……でも負けちゃった。

——負けちゃいましたね（笑）。

中尾　ちょっと蹴りが想定外だったんで。だからって、有効打っていうのは自分もらってないですし。もしサップと再戦するとしたら今度は総合でやりたいなって思いますけど。

——総合だったら、Ｋ－１ルール以上に負ける気はしないと。

中尾　負ける要素がないですよ（キッパリ）。関節技、スピード、パンチ、まず負けないです。

——とにかく凄い自信ですね！

中尾　でも、もっと自分の眠っているパワーを引き出してくれる選手がいいですね。眠ってる部分、たくさんあると思うんで。自分がわくわくする選手とやりたいです。

——プロ転向会見のときなんかは、藤田（和之）さんをかなり意識した発言が目立ってましたけど。

中尾　藤田選手とはやってみたいですね。まあ藤田選手でも正直言って負ける気しないですよ。体重なんかは向こうのほうがちょっと重いのかもしれないですけど、テクニックとかスタミナでいったら負けないですよ。藤田選手だったら新しい自分を引き出してくれるかもしれないですし、いつかは試合したいですね。

——やっぱり、いまでも藤田選手はかなり意識はされてるんですか？

中尾　試合やって勝たないと、ずっと自分が二番手に甘んじちゃうんで。やっぱりヘビー級でレスリング出身でっていうなら、自分が勝って一番になりたい。

——同じキャラは二人もいらないと。

中尾　そうですね（ニヤリ）。

——ところで中尾さん、次の試合はまだ決まってないと思うんですけど、希望のリングとかあります？

中尾　希望って、たとえばプロレスとかも含めてですか？

——え、プロレスをやってみたいという願望もあるんですか？

中尾　今年はやりたいですね、プロレス。まあ、『ＨＥＲＯ'Ｓ』のヘビー級トーナメントを開催するっていう話もあるみたいなんで、もちろんそれも狙ってますけど。でも、プロレスやりたいっていう意志もあるんですよ。

——プロレスラー中尾芳広っていうのも見てみたいですね。

プロレスもやりたいと思ってるんですよ
自分の必殺技も、もう決めてあるんです！

まだ見ぬ自分の力を引き出してくれる対戦相手を探している中尾さん。先日、猪木事務所を辞め、フリーとなった藤田選手は中尾さんがプロ転向したときからずっと気になる相手だという。また、中尾さんは密かにレスナーにも対戦要求していた!!

中尾　もうですね、自分の思い描いているプロレスの形がちゃんとあるんですよ！

——すでに準備万端でしたか！

中尾　やってみたい技もあるし。自分こう見えてもバック宙とかもできるんですよ！

——じゃあ、ムーンサルトプレスなんかも楽勝？

中尾　練習すれば。でも、それより凄い技を考えたんです。おもしろいんだけど最後はカッコよくっていうのが自分の理想なんで、だからフィニッシュは「なんでこんなことができるの!?」って技をやるんです！

——〝中尾スペシャル〟があるわけですね？

中尾　はい。それを見せたいんです。

——では、２００６年中にはプロレスデビューもはたしたいと？

中尾　あ～、いいですねぇ。でも本当に真剣ですよ。自分はプロレスは本当に充分練習してやらないとダメだってわかってるし、プロレスの怖さも知ってるし。

——ただ、いままで、「プロレスも総合も凄い！」っていう選手ってなかなかいないんですよ。その点、中尾さんはやっぱり自信もある？

中尾　ん～、本能次第ですね。何が起こるかわからないけど、正直なところ、まあ自分ならできるかなって。

——技術ももちろんですが、プロレスは格闘技とはまた違う頭の良さも必要だと思うんですけど。

中尾　大丈夫です。自分頭は凄くいいんで！

——強いし、イケメンだし、頭までいいと。ホント、ミスター・パーフェクトじゃないですか。

中尾　あの、なんて言うんですかね。自分けっこうＩＴ！　……ＩＴじゃねえな。なんだったっけ？　……頭を使うタイプなんですよ。

——ああ、ＩＱレスラーですか？（笑）。

中尾　ＩＱだ！　そうそう。自分は昔から考えて闘うタイプなんで。

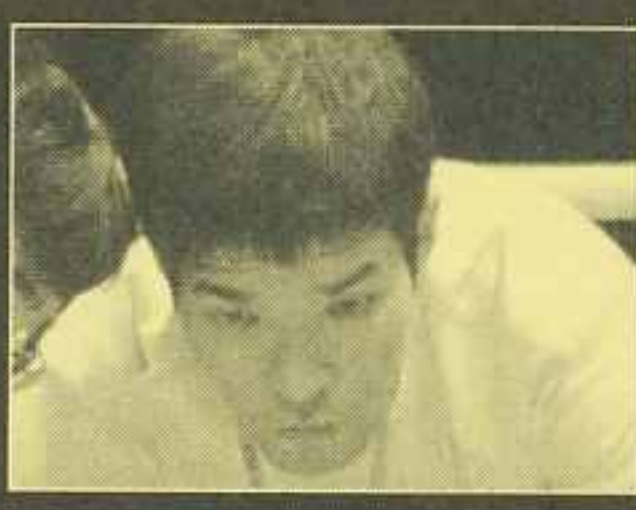
——そうですか（笑）。ちなみにＩＱレスラー的には、勉強的な頭の良さにも自信があるんでしょうか？

中尾　かなり（キッパリ）。自分は中学校時代は塾も二つ通ってましたし、家庭教師までいましたからね。凄い勉強マニアだったんで。

——勉強マニア！

〝ホンモノ〟が語る中尾事件
男色ディーノ

中尾vsヒーリング戦でのキス事件のコメント？　……正直、ショックがデカかったわ。あのシーンを見てちょっと落ち込んだの。だって、前から言ってたじゃない？　総合格闘技やＫ－１のリングに上がっても普段と変わらないファイトを見せるって。あれはアタシが先にやろうと思ってたことなの。本音で言えば、アタシが出たいのは『男祭り』だし、やりたい相手はノ〝ゲイ〟ラなんだけど、まあそんなことはどうでもいいわ。先にやられちゃったのは事実だから、もしアタシが総合のリングに上がったら、あれ以上にダイナマイトな攻撃を見せるわ。地上波放送とか絶対無理な、すっごいヤツを披露するから期待してて。エッ!?　中尾選手は同じ匂いがするかって？　アタシはそういうのは敏感にキャッチできるんだけど、でもなんか、中尾選手の場合は見たまんまじゃない？　あえてアタシが言う必要もないでしょ。中尾選手はプロレスにもチャレンジしたいとか言ってるみたいだけど、アタシとＭＥＮ'Ｓテイオーのタッグに優るとも劣らない名タッグになれそうな予感がするのよね。手取り足取りプロレス流のテクニックを教えてあげるから、いつでもいらっしゃい。

ドクターから見た中尾事件の危険性
綱川慎一郎

まずああいうときに我々がケアするのは、やっぱり首の保護ですね。中尾選手の場合、私がリング上がったときに意識は戻っていたんですが、「手を動かしてください」って言っても動かせなかった部分があったんですよ。その場合、上位中枢というか、首から上の障害が心配されるということで、我々はまず首を固定する、という判断をとらなければならないわけです。それからやっぱり懸念されるのは脳しんとう、それから頸椎損

中尾　たまたまレスリングっていう別の道に行っただけで、若い頃の知識はまだまだあるんで。だから空間図形なんかは格闘技にも生きてるのかなって思ってますけどね。

――なるほど（笑）。

中尾　（いきなり話を変えて）それで、自分は東洋大学に通ってたんですけど、新日本の中邑選手なんかとも交流があったんですよ。一緒に練習してたこともあって。中邑選手がプロレスラーになったときも「自分、覆面被ろうと思うんですけど」って相談される仲でもあったんですよ。

――へぇ～。ちなみに、中尾さん的には覆面レスラーっていうのはいかがですか？

中尾　あ～、マスクはイヤですね。

――やっぱりイケメンで売ってる立場としては、覆面はNGですか（笑）。

中尾　いや、単純に苦しそうだから（冷静に）。いま、プロレスでいったら『ハッスル』とか熱いですけど、自分がやりたいこととはちょっと違うんですよね。

――やるんだったらストロングスタイル系ですか？

中尾　それともまた違うんですよ。スタイルは何がいいかよくわからないですね。でも、WWEなんか見てると「いいな！」とか思ったりしますよ。

――WWEはイケメンがいっぱいいますしね！（笑）。

中尾　そうですね（真顔で）。

――誰か気になる選手とかいるんですか？

中尾　自分が一番好きなのは、カート・アングルです！　格闘技もプロレスもそんなにうまくないんですけど、なんかメチャメチャ好きなんですよね。

――アングルはプロレスはうまいと思いますけど……。

中尾　（遮って）あとWWEだと、自分、ブロック・レスナーのマネージャーやってる人をよく知ってて、実際にレスナーにも会ったことがあるんですけど。そのときに約束したんです。「今度、闘おうよ」って。

――レスナーに対戦要求したわけですね。

なかお・よしひろ■1972年6月25日、東京都板橋区出身。高校からレスリングを始め、03年全日本選手権フリースタイル96キロ級優勝など、目覚ましい活躍を見せた。しかし同年12月、オリンピックへの道を捨て、急きょプロ転向し、『Dynamite!!』参戦を発表！　その後、総合ではいまだ負けなしの連勝街道を突き進む。ニックネームは「ナカオマン」。180cm、98.4kg。

自分、正直IQレスラーなんですよね 家庭教師もいたし塾にも二つ通ってましたから

中尾　そしたら「フフフ」って笑ってましたけど（笑）。だからレスナーとはやらないといけないですね！

――いまレスナーが上がっている新日本だと、なかなかレスナーに勝てそうな選手って思いつかないですからね。そういう意味では、中尾さんなら何かやってくれそうな期待はありますよ。

中尾　そこで必殺技を出したい。

――その必殺技を出せたらレスナー相手でもいけそうな感じなんですか？

中尾　……危ない（ボソッ）。

――レスナーでも危ない！

中尾　その技のヒントを得たのは、じつはボブ・サップ戦のドロップキックからなんですけど。

――残念ながらクリーンヒットはしなかったですけど、ヒントを得たわけですね。

中尾　はい。ドロップキックにコレとコレをつなげたら……（頭の中でシュミレーション）……やっぱヤバいな。

――とにかくヤバイ技なんですね？

中尾　はい。それをですね、本当は最初にヒーリングにかけようと思ったんですけどね。

――総合でもいける技なんですか？

中尾　ええ。ただこれは非常にリスクを伴なう技なんです。なぜなら、一番始めから自分が下になっちゃう技なんで！

――一番始めから下になる？

中尾　まあ、これ以上は言えないですけど、いや～、なんだかワクワクしますね！　それをやろうとしてた自分を褒めたいなと思いますよ。いや、ヤバイ！

――それって、完全に自己満足じゃないですか！（笑）。

中尾　（まったく無視して）これは大一番でいきたいところですね！　格闘技の場合は大一番になるとみんな固くなっちゃうんで、そのときに出せるような選手になりたいなって。

――本当にいろんな意味で中尾さんの次の試合は楽しみですよ！

中尾　まだ『HERO'S』のヘビー級トーナメントに出るか、プロレスをするかわからないですけど、どっちにしても万全にしていきたいなと。

――じゃあ、具体的に言うと、3月の『HERO'S』で復帰戦の可能性が高いんですかね？

中尾　ただ実際、ヒーリング戦で頭打ったのがまだ7割ぐらいの回復で、練習もちょっとボクシング始めたぐらいなんで。まあ、それでも体調が整ったらいっちゃおっかなって！

――谷川さんも中尾さんの次の試合は注目度も高いっていうのはわかってるでしょうから、きっといい相手を選んでくると思いますよ。

中尾　はい。なんでもいけます。あ、でも……。

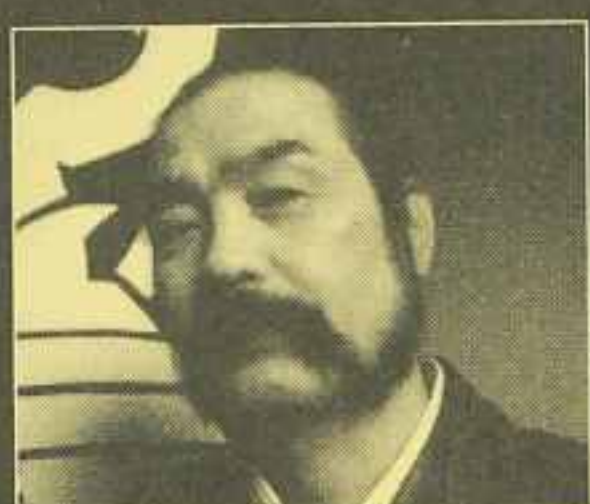
――どうしました？

中尾　（急に殺気立って）やっぱりヒーリングとやりたいですね。

――またそこに戻りましたか（笑）。

中尾　絶対パンチで倒して、寝てるヒーリングにチューするんです！　これ、絶対。

――完璧です！（笑）。次の試合も必要以上に期待してます!!

【06年2月6日／大森ゴールドジムにて収録】

傷ですね。ノーガード戦法ってありますけど、あれはノーガードっていうのを頭においてやってるわけですよ。しかし、今回の事件はノーガードといっても、まったく殴られることを想定してなかったわけですよね。そうなると完全に相手のパンチ力が100あるとすると100すべて受けちゃうわけです。その瞬間、首には力が入ってないし、要するに準備ができてない。だから、余計に首や頭のダメージがかかるわけです。危険です。

武士道論から語る中尾事件
堀辺正史

一言で言って、これは日本人としての美意識の欠如が問題です！　これは〝日本の侍〟たる格闘家とは思えないバカな行為と言えます。中尾選手の行為というのは日本人に対する観念、倫理観すらもぶち壊したと言えます。また、挑発行為をするにしても、そのあとぶん殴られてKOされるというのがいけない！　ゴングが鳴る前とはいえ常在戦場の意識が欠如していたということですから。しかも、日本の文化では相手に敬意を示すときというのは、なるべく近づかないものなんですよ。時代劇などでも高貴な人である殿様に下の者が呼ばれたときでも、なかなか近づかない。殿様が「近うよれ」と促して初めて二、三歩近くに寄る。それでもまだ距離はあるわけです。この距離を置くという文化はもともと侍の世界ではもし相手が刀を抜いてきても対処できる距離をとるというところから来ています。それが尊敬を表わす行為へと変化していった。つまりこれが武道の〝間合い〟です。だから日本人というのは、西欧人のように簡単にはキスしない。それを闘いの場で不用意に近づき、相手にキスをして殴られるというのは、刀で一刀両断されたのと同じ。武人として恥ずべきです！　……ま、端から見るぶんには面白いですが（笑）。

編集部の見解

中尾事件については賛否両論ありますが、『kami-pro』編集部は全員一致をもって中尾選手を応援します!!

中尾芳広さんに聞く30の質問!!

Q1 名前の由来を教えてください。
A 草のように方向を失なわないで、広く生きてもらいたい、と。

Q2 血液型は？
A A型です。

Q3 家族構成は？
A 両親と、あとは3人兄弟みんな男。自分は真ん中です。

Q4 好きな言葉（座右の銘）は？
A 昔は「精神力」って言葉が好きだったんですけど、最近は正直なところ、「本能」っていう言葉が凄い好きなんですよね。ヒーリング戦あたりから。

Q5 自分で自分の性格をどう思いますか？
A あー、あんまり考えたことないですけど、好青年かなって（笑）。

Q6 逆に、人からはなんて言われますか？
A 何を考えてるかわからない人。親もそう言います。

Q7 好きな異性のタイプは？
A 忍耐力がある人です！　人間、生きていく上で大変なことっていっぱいあると思うんですけど、その中で耐えることができる人。自分、顔とか関係ないんで。

Q8 好きな食べ物は？
A あー、これは夢がないって言われたことがあるんですけど、ちくわの磯辺揚げです（ニッコリ）。一日一回は食べます。必ずそばと一緒に。食べてないなあと思うと、必ずそばと一緒にちくわ食べます。

Q9 嫌いな食べ物は？
A 自分は凄い好き嫌いがありまして、シチュー、グラタン、バター類がダメですね。ウチの親が「脂肪肝になるからバターは食べなくていい」って。だから白いものが苦手になったんです。自分、それで凄い学校の先生からイジメられまして。あのですね、自分……（イジメられ話が10分間続く）。

Q10 好きな飲み物、嫌いな飲み物を教えてください。
A 好きな飲み物はコーラです。練習中もコーラを飲んでます！　カロリーなんか気にしないですよ。練習中にもコーラを1・5リットル飲みます。水とコーラを用意しとくんです、練習前に（満足げに）。

Q11 好きなアーティストは？
A BON JOVIが好きですね。日本人ですか？　日本人は……、いつも自分の車にずっと入れてるCDがあるんですよ。それはドリカムなんですけど、『未来予想図Ⅱ』が凄い好きなんです！　頭にくることがあると『未来予想図Ⅱ』を聴くんです。

Q12 いま、好きな人はいますか？
A います。たくさん好きかなぁ。（男女問わず？）シークレットで（笑）。

Q13 嫌いな人は？
A なんか自分、心が曲がっている人が嫌いなんですよ！　話してて常識がないとか、心が濁ってる人は嫌いです。（矢野さんのような独特なオーラを持つ方はどうですか？）（まったく無視して）あっ！　自分ですね、矢野さんとも衝撃的な出会いがあったんですよ!!　（衝撃的な出会いの話が10分間続く）……だからですね、自分、矢野さん大好きなんですよ！

Q14 毎月買ってるような本はありますか？
A 自分、PHP好きなんです。「勝つための○■×※☆」とかそういうのが凄い自分は好きで、全部持ってます！　一回読んで線引いておいて、何度もそこを見ますね。なんでこんな楽しいんだろうって（笑）。

Q15 好きなテレビ番組は？
A あー、自分はテレビで育ったようなもんですよ。テレビっ子。好きなのは、いまやってる……、なんでしたっけ？　戦国系の、……あ、『戦国自衛隊』です！　なんで現代から戦国時代に行っちゃうのかなって。自分だったら、どうなっちゃうんだろうって（興奮）。でも、一番好きなのがあるんですよ。『101回目のプロポーズ』。すっごい好きなんですよね!!　大学の1年生のとき自分は寮生活だったんですけど、先輩に意地悪されて見せてもらえなかったんですよ。でもちゃんとビデオ撮ってて、しょっちゅう見てました！　いまも年に一回は必ず見ます。ビデオもあるしDVDも持ってます!!

Q16 幽霊とかお化けは信じますか？
A 信じますね。なんか後ろ見たらいるんじゃないかなって感じることもあるし、見たことはないけど。UFOも信じます。自分、なんでも信じやすいんで。

Q17 自分が思う長所と短所は？
A けっこう面倒みるのが好きなんですよ。面倒見がいい。短所は……、ないって言うとあれですけど、強いて言えば、邪魔されるのが嫌いで、集中してるときに横やりが入るとすっごい許せない！　自衛隊時代も、偉い人でも関係なくやっちゃうって感じですね。

Q18 もし明日地球が滅亡するとしたら何をしますか？
A あー、ちくわの磯辺揚げをいっぱい食べたいですね。すっごい好きなんですよ！　しかも青のりじゃないとダメなんです。青のりがかかってるちくわの磯辺揚げが好きなんです。だから、一回食べて、23時間50分後にもう一回食べたいですね。たまんないね。

Q19 生まれ変わったら何になりたいですか？
A もう一回日本人になりたい。自分でありたい。カッコいいんですけど、自分が凄い好きなんですよ！　だからアメリカ人とかロシア人じゃなくて、日本人の自分がいいです。（ナルシストじゃないんですよね？）ナルシストではない。親の教えで「自分を好きになれるように努力しなさい」って言われてたんですよ。それに嫌いになっても寂しいんで、好きでいたいですね。

Q20 忘れたいことってありますね。
A 忘れたいことかぁ。このあいだのことかな（苦笑）。

Q21 インターネットは好きですか？
A 好きですね。毎日は見ないですけど、見たら長いです。（キス事件はネット上でも話題になっていましたが）あとから見ました。あと、この前、メールで人から「中尾、名前考えた」って言われたんですよね。「なんですか？」って聞いたら、「山本〝KID〟徳郁っているじゃないか」と。だから「中尾〝kiss〟芳広」はどうかって。「いいね！」って言ったんですけど、あとから「ふざけんな！」って思いました。

Q22 女性の胸とお尻ではどちらが好きですか？
A その二つですか？　うーん、脚ですね。あ、どっちかですよね？　うーん、脚。……難しいな。胸かな。でもあんまり大きいのは好きじゃない。手のひらよりちょっと大きいのがいいですね（笑）。

Q23 一日25時間あったら、あまった1時間は何をしますか？
A 難しい質問しますねぇ。1時間か。……車を磨いていたい。洗車好きなんですよ（目をキラキラさせて）。一週間に必ず1、2回はします。雨が降っても必ず。（車種は？）セルシオです！　セルシオ好きなんです。

Q24 尊敬している人は誰ですか？
A 野口英世です。日本だけに留まらず世界に羽ばたいていくっていうのが好きですね。

Q25 大地震です。何を一番に持っていきますか？
A う～ん、これも難しい！　……枕ですかね。自分ですね、家に枕が9個あるんですよ。すっごい寝つきが悪いんですよね。寝れないからいろんな枕で調整してるんですよ。首が張ってるときとか、体調によってもいろいろ違うんで。

Q26 何のため、誰のためなら死ねますか？
A 死ぬんですか？　う～ん、……自分のため、ですか。

Q27 100万円拾ったらどうしますか？
A 正直、届けはしないけど……、穴掘って埋める！　穴掘って隠します!!　自分ですね、小さい頃から穴掘って隠す習慣があったんですよ。マズイと思ったら穴掘ってました。けっこう埋めたっすよ！　殺した蚊も埋める。鯉が死んでも穴掘って埋める。だから自分ち掘ったらいろいろ出てくると思いますよ。切手も埋めたことがあるんです。これは将来とんでもなく価値が上がるなって思って、ビニールに入れて埋めたんです！（満面の笑み）。（それはどこにあるか覚えてるんですか？）覚えてます!!　ちなみに、親父もよく埋めてたんですけどね。

Q28 対異性への必殺技は？
A 自分で言うのはイヤなんですけど、みんなから瞳がキレイだって言われるんですよ。だから「俺の目を見ろ」って（笑）。ホントっすよ！　いつも自分はこの型ですから。チャームポイント聞かれるときも、絶対「瞳」って書くんです。

Q29 結婚願望はありますか？
A 自分33歳なんで、ないって言ったらウソなんですけど、いまはまだいいかなって。まあ、本能だからどうなるかわからないですけど。（子どもはほしいですか？）子どもは好きで、絶対格闘家にするんです。3歳からプロテイン飲ませます。

Q30 2006年中に必ず達成したい目標は？
A ヒーリングにKOで勝って大の字になってるところにチューしたいですね。必ずします！（ほかにもう一つぐらい？）『HERO'S』ヘビー級トーナメントがあったら、それで優勝したいです。自分はワンマッチばっかりなんで、やっぱトーナメントに出て稼ぎたい。……自分、株が好きなんですよ（瞳を輝かせて）。だから優勝したら、それに使おうかなぁ。あのですね、いい株あるんですよ。負けない株が！

2006.2.10『ハッスル・ハウスvol.11』後楽園ホール大会　詳細レポート

ハッスルオーディション 2006に参加した皆さん

世界的スーパースター
タジリ
ハッスル軍入り

石狩太一の大ファン
田中未由
ハッスル軍入り

HGの相方
RG
鈴木家入り

歌って踊れる
マイケル
髙田モンスター軍入り

某老舗団体出身
長尾浩志
髙田モンスター軍入り

元ハッスル中継解説
青木裕子
坂田軍入り?

一体これは何のイベントなんだ!?

2006年最初の大会となった2月10日の『ハッスル・ハウスvol.11』(後楽園ホール)は、ハッスル初となるオーディション企画が行なわれた。新戦力も加わりさらに勢いを増して混沌としてきたハッスルの最新情報を「パワーアップでオー!」とお届けします!

写真/平工幸雄　山口比佐夫　平専英　写真提供/DSE
構成/真下義之　坂井ノブ　designed by bun-chan (Two Three)

ハッスル ニューシーズン到来!!
パワーアップで
オー!!

世界的スーパースターから女の子まで あらゆる才能が横一線に並んだハッスル初の 公開オーディションで新戦力が加入!!

毒霧とタランチュラを見たハッスル軍は「あいつ、本物のタジリだ！」と確信。入札希望の札を上げて交渉成立！　心強い味方が加わった。

アン・ジョー司令長官にはタジリの代名詞とも言える大技タランチュラが炸裂！ 後楽園ホールは割れんばかりの大歓声！

何もできないまま長尾とのスパーが終わり、「偽物だろ」と疑惑の目を向けられて「なんでですか!?」と泣き叫ぶ

元WWEクルーザー級王者
タジリ
176cm 93kg

IWA　JAPANでデビュー後、単身メキシコに殴り込み。大日本プロレスからメキシコ～ECWを経てWWEで活躍。今年から日本に主戦場を移す。

「ハッスルがパワーアップするためには、人材の育成が不可欠です！」という新GM・鈴木浩子の号令によって開催されることが決定した「ハッスル・オーディション２００６」。プロ・アマ、ファイター、パフォーマー、男女（ゲイ）を問わず幅広く門戸を開いたため、ありとあらゆる特技を持った人たちから応募が殺到！　最終的には応募総数４２０通の中から厳選された６名がリングに上がり、最終審査を受けた。

いままでのハッスルはリング外のレベルは高いがリング内はまあまあという評価が多かったが、今回のオーディションで獲得した新戦力はハイレベルだ。とくにリング内、つまりファイター部門では某老舗団体を退団して話題の長尾浩志に加え、年末にＷＷＥを退団して日本に定着するタジリがサプライズで登場！　大きな歓声がわき起こった。本場アメリカのエンターテインメントを体験してきた超一流のプロレスラー・タジリが、ハッスルのリングでどんな闘いを表現してくれるのか非常に楽しみだ。

インリン様が去ったことでお色気部門も完全なる空き家になっていたが、サバのみそ煮が得意料理だというホンワカした雰囲気の田中末由と、今後の展開次第では脱ぐ可能性も出てきた青木裕子の登場は男性ファンの心をくすぐる存在となるに違いない。

またＲＧはすでに前回の大会に登場して場内を凍り付かせていただけに、出てくるなり大ブーイングが発生した。すでに観客との関係が構築されはじめており今後が楽しみだ。マイケルに対しても観客は好意的な反応でマイケル自身もノリノリ。激しいダンスと脱力のマイケルネタで魅了した。この両者はリング内外での活躍が期待でる。

じつはこの後楽園大会は昨年のハッスルを引っ張ってきたＨＧとインリン様が不在、さらに〝キャプテン・ハッスル〟小川直也もケガで試合ができないという非常に厳しい状況であった。そこでハッスルはあえて新エース、

ハッスルオーディション2006 最終審査&入札結果レポート

某老舗団体出身

長尾浩志

196cm 113kg

バレーボール実業団で活躍したアスリート。今年1月末に某老舗団体を退団してハッスル・オーディションに参加。

1分間の自己PRタイムはお互いプロレスラーということでスパーリング対決になったのだが、長尾はバレーボールで強烈なアタック連発！　タジリは逃げるので精一杯。

長尾にはハッスル軍とモンスター軍が両方とも入札希望の札を上げた。長尾は「オーディションの前から決めてました」とモンスター軍に入団。

落選したタジリは「なんでプロレスのスパーリングでバレーボールをやってんだよ!?」「これだから某老舗団体出身者はクルククルクルパーなんだ」と長尾に食ってかかる。

HGの相方

RG

174cm B97 W101cm H80cm

いま日本一忙しい芸人HGの相方として最近テレビにも頻繁に映るようになった。学生プロレスでプロレス技術を培っている。

「帰れ！」と観客の大ブーイングを浴びつつも、「この一体感、最高！」と余裕の表情。「学生プロレス出身でプロレスもできますよ～」とネタを披露。「おじゃま、おじゃま、おじゃーマンスープレックスホールド！」

まさか誰もRGには入札しないだろうと思っていたら鈴木浩子GMが「こんな才能の原石は見たことありません」と断言。「ナントカとはさみは使いよう、と言いますから」と採用。

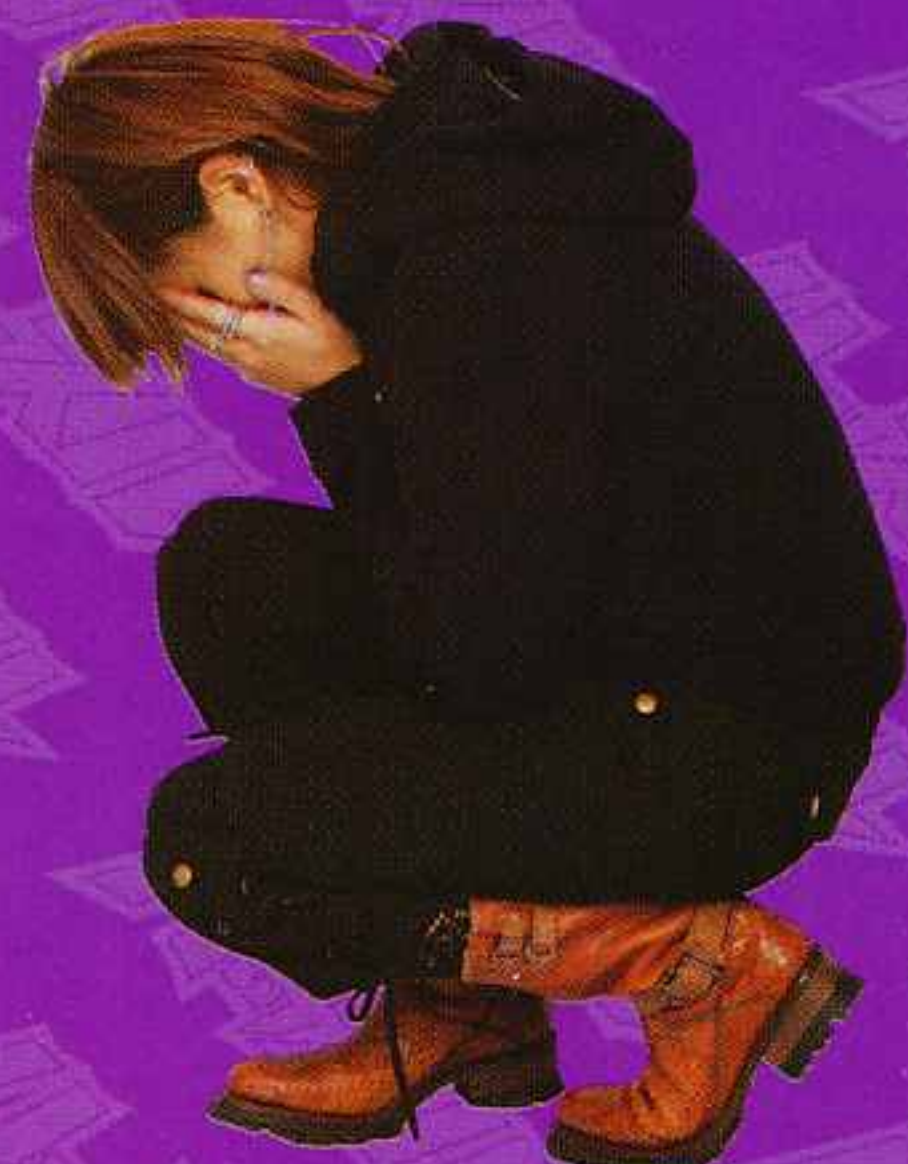
ワタナベエンターテインメント所属

マイケル

172cm B96cm W84cm H94cm

お笑い芸人として引っ張りダコの大活躍。今年2月にはCD『マイケルンバⅡ』が発売になったばかり。

「♪ヤーッホヤッホヤッホ、マイケル」と歌って踊ってネタ披露。「2月1日にCDデビューしました。このCD、何枚売れるかな？　1枚、2枚、3マイケル！」場内はもちろん大歓声！

髙田モンスター軍はマイケルの素材に惚れ込み「HGの刺客として育ててやる」と入札した。長尾とタジリの乱闘時にはさっそく島田&アンのもとに駆けつけた。

石狩太一の大ファン

田中未由

石狩太一の大ファンを公言してオーディションに参加。「石狩選手にお弁当を作ってあげたい」という19歳。特技のエアロビとプロレスのコラボを掲げてハッスルに名乗りを挙げた。

19歳というピチピチの若さあふれる田中未由ちゃんは白いガウンで登場。自己アピールタイムにはガウンを脱ぎ捨てて純白ビキニ姿に！

得意のエアロビクスとプロレス技をコラボした技を一生懸命披露するのだが、踊りながら繰り出すキックはご覧の通り……最高だ！

元ハッスル中継解説

青木裕子

160cm

タレントとして活動しながら歌手を目指す。ハッスル中継には解説として参加してきたが前回の後楽園大会で浩子GMからクビを宣告されてしまう。

泣き崩れた青木裕子に救いの手を差し伸べたのは「人呼んで巨乳殺しの坂田亘」だった！　浩子GMには「権力振りかざして、そういうの人権ナントカって言うんじゃネエのか？」と噛みつき、青木裕子の肩を抱き、自分の控室へと連れていった。

最初は気丈に振る舞っていた青木裕子だったが場内の「脱げ」コールには泣き出してしまう。気まずい空気が流れる中、自己PRタイムは終了。

登場するなり自己PRタイムで「歌を歌います」と宣言した青木裕子に、鈴木浩子GMは「いまなんつった？ あんたの売りはおっぱいなんだから脱ぎなさい」と場内の「脱げ」コールを誘発！

2月5日には一次審査と二次審査を通過した8名（2名欠席）が報道陣に公開された。下は4歳から上は67歳まで応募総数420通の中から選ばれた精鋭中の精鋭だ。

新GMに加え、このオーディションに参加した新戦力を大量に投入して、完全に新しい風景を作り出している。昨年ヒットした芸能人路線からさらに前へ前へと突き進んだことで、観客が戸惑う場面も大会中に何度かあった。だが、そこは『ハッスル・マニア2005』の成功にあぐらをかくことなく、次のステージに駒を進めた、と解釈すべきだろう。

結局、進化することをやめ、過去の栄光の上であぐらをかき続けた（そしてこの大会の中でさんざんネタにされた）某老舗団体とハッスルの一番の違いはそこなのだ。

（坂井ノブ）

※オーディションの最終審査はパフォーマー男子、パフォーマー女子、ファイターの3部門で行なわれ、それぞれ1分間の自己PRをする。全員が終わったところでハッスル軍、モンスター軍、鈴木家が入札を行なった。

あのマイケルを高田モンスター軍が交渉権獲得!?

高田総統～!! よろしくお願いしマ～イケル!!

マイケル

「ドンマイケル！」のギャグでおなじみ人気タレントのマイケルがなんと『ハッスルオーディション』に参加！　交渉権を獲得した、高田モンスター軍入りは確実となった。そこでオーディション終了後のマイケルを緊急キャッチ！　マイケルがハッスルでやりたいこととは何なのか？　を直撃！

聞き手／真下義之　写真提供／DSE

マイケル■大阪府出身のお笑いタレント。「一枚、二枚、三マイケル！」や「ドンマイケル」のギャグで人気沸騰中。元ダンサーだけにダンスはプロ級。レギュラー番組に『ひらめ筋GOLD』（日本テレビ）や『日曜スタジオパーク』（NHK総合）など。06年2月には『マイケルンバⅡ』でCDデビュー。

—マイケルさん、今回は『ハッスルオーディション』合格おめでとうございます！

マイケル　ありがとうございます！　誰も札を上げてくれずにオーディションだけで「おしマイケル！」にならなくて本当によかったです（笑）。

—ナハハハ！　しかし会場からのリアクションは予想以上に凄かったですね。

マイケル　いや～やりやすかったです。ただ僕の前のRGさんは大ブーイングを浴びてたじゃないですか？

—RGさんはああいう芸風なんで気にする必要はないと思いますけど（笑）。でも、やっぱり緊張されましたか？

マイケル　けっこう、ナーバスになってましたね。でも大歓声で迎えていただいたし、紙テープまで投げてもらって。

—手拍子も自然発生して、RGさんとは違う一体感がありましたよ！

マイケル　調子に乗って自分のCD（『マイケルンバⅡ』※注）の宣伝もしちゃいましたけど気持ちよかったですね～。普段のお笑いライブよりやりやすかったです（笑）。

—アウェイ感は感じなかったわけですね。ただ今回は持ち時間が少なくて、終わったときに観客から「エ～ッ！　もう終わり？」という声もありました。

マイケル　ちょっと短かったですね（笑）。でも、短い時間でいかにアピールしようかと、テンションを上げました。

—しかし人気者のマイケルさんがなぜオーディションを受けたんでしょうか？

マイケル　僕って、お子さんには人気があるんですけど、ファン層が片寄りがちなんですよ（笑）。ハッスルは大人の男性女性も見てますから、幅広くマイケルを知ってもらえるチャンスかなと。

—ハッスルはご覧になってましたか？

マイケル　生観戦はないですが、HGさんとか和泉元彌さんが話題になってましたし新聞やテレビで拝見してましたね。

—HGさんとはバラエティ番組でも、ご一緒してますよね。

マイケル　話す機会はあまりないんですけど、彼のブレイクの仕方を見ててもハッスルにはチャンスがある！　と。

—オーディションの1次&2次通過会見では、マイケルさん自ら「HGさんと闘いたい」とコメントしてましたし、マイケルさんを獲得した島田二等兵も「HGへの刺客」と発言しましたが、〝ハッスルで試合をする〟可能性は？

マイケル　う～ん。できるかわからないですけど。リングに上がる以上は闘ってみたい、という気持ちもありますね。自分は素早い動きや身体のキレには自信がありますから！　それに小さい頃は初代タイガーマスクさんに憧れてたんですよ。

—ほ～マイケルダンスの原点は、佐山聡さんにあったと（笑）。

マイケル　あの身軽さや宙返りに憧れましたね。それで小学校でずっとバク転の練習をしてたら、本当にバク転ができるまでになったんです。

—体育館のマットでみんなやりますけど、できるまでやる人は少ないですよ！

マイケル　ああいうタイガーマスクみたいな試合はしてみたいですね。……もちろん本業の方にはかないませんし、試合をするかわかりませんけど、ハッスルでもグッドパフォーマンスをしたいです。

—ぜひ、5代目〝タイガーマイケル〟を目指してほしいです！　え～ちょっと話は変わりますが、マイケルさんはどうして〝マイケル〟なんですか？

マイケル　これはですね～。僕は昔はアイドルだったんで、ずっとダンスの練習をしてたんですよ。ある日、僕のダンスの先生から「君はダンスが、まぁイケルね」と言われまして。その言葉が頭に引っかかって、まぁイケル、まぁイケル、マァイケル……マイケル！　と（笑）。

—ガハハハハ！　その命名から、数々のマイケルギャグが開発されていったと。

マイケル　そのあとギャグを考えてるときに、突然「マイケル！」という手をパッと開くポーズを思いついたんですよ。

—天から啓示があったわけですね。

マイケル　そこから「ドンマイケル！」や「てんでこマイケル」とか……自分で辞書を調べたりしつつ、マイケルワールドが膨れ上がっていきましたね。

—精力的に活動されてるマイケルさんですが、将来的には海外デビューなどは考えていらっしゃいますか？

オーディションだけで「おしマイケル！」にならなくて、本当によかったです（笑）

マイケル　いや～、海外はまだ視界には入ってないですね。それにアメリカには超ビッグネームなマイケルがいるんで……。

—ナハハハ！　裁判やら訴訟やらでも う大変なことになってますけども。

マイケル　いつかはアメリカで新しいマイケル像を確立したいですけどね（笑）。

—ひとまず、ハッスルでは髙田総統率いる髙田モンスター軍にマイケルさんが加入！　という展開になったんですが。

マイケル　髙田総統が僕のギャグを気に入ってくれるといいですけども……（不安そうに）。

—髙田総統はああ見えてお茶目な方ですから大丈夫だと思いますよ（笑）。でも「ビターン！」はやられると思いますけど。

マイケル　こうなったのも運命だと思って頑張ります！

—「マイケルのMはモンスターのM！」という意気込みで、マイケルさんが活躍されることを期待してます！

マイケル　よろしくお願いしマ～イケル！

注：『マイケルンバⅡ』（ポニーキャニオン）マイケル待望のCDデビューが実現。現在、絶賛発売中の『マイケルンバⅡ』はコミカルかつアップテンポな曲に乗せてマイケルが歌って踊る！「ドンマイケル！」などマイケルギャグも満載だ！

ハッスルオーディション終了後、（同じく髙田モンスター軍が交渉権を握った）長尾とともに早くも髙田モンスター軍につきヤル気十分のマイケル。髙田総統は改造を加えるのか？　3月大会での“モンスター化”度合に要注目だ！

オーディションだけじゃない！ 激動の『ハッスル・ハウスVOL.11』レポート！

鈴木家、全方位的に開戦!!

"傍若無人"ぶりはますますエスカレート！

はやくも正念場到来!?

傍若無人な鈴木家がエスカレート！　小川直也、川田利明、髙田総統とやりあっただけでなく、興行を半強制的に「パワーアップでオー！」で締めるやりたい放題！　内外から不満うずまく中、3月の興行ではその姿勢に結果が求められる！　増長する鈴木家にはやくも正念場到来か!?

鈴木家、怒濤の3番勝負 1 VS "キャプテン・ハッスル" 小川直也

ハッスルのエースをかけて、明大先輩後輩対決が実現か！

負傷中の"キャプテン"小川が、藤井軍鶏侍のセコンドとして来場！　明治大学の後輩である健想は「小川先輩、僕とやりましょうよ」と不敵に挑発して一色触発！　小川も「おまえにはハッスルのエースは無理」も応戦。シングル決着の機運が高まった。

鈴木家、怒濤の3番勝負 2 VS "モンスターK" 川田利明

「この歯抜け野郎！」VS「この居候！」対決は3月5日、横浜文体で決着！

「おい、ローカルレスラーの川田！」とディスる健想に、マイクに定評のある川田も「おまえのカミさんもローカルアナウンサー出身だろ！」と切り返し、健想が浩子の実家で居候してることも暴露するなど、3月5日の初シングル戦に向け両雄は俄然ヒートアップ！

鈴木家、怒濤の3番勝負 3 VS "全知全能" 髙田総統

髙田総統VS浩子GMも開戦！　総統の葉巻に禁止命令？

髙田総統と浩子GMが危険な初遭遇！　浩子が総統の衣装にケチをつければ、総統も「温泉芸者に言われたくないよ！」と反撃。だが浩子は総統の葉巻禁止を宣言する強権ぶりに総統も「キミをGMとは認めていない」と宣言。抗争はさらに激化の様相を見せている。

強引なやり方で増長する新勢力"鈴木家"が止まらない！

この日、オープニングに登場した浩子GMはまず3月の横浜、後楽園に元WWEのスーパースターであり元同僚のタッグチーム「チーム3D」を招聘した、とビックニュースを発表。

この日の鈴木家はハッスルを支えてきた"キャプテン・ハッスル"小川直也、"モンスターK"川田利明、"全知全能"髙田総統と全方位的に噛み付いてハッスルの新エースの座を猛アピール。

そして3月5日の横浜文化体育館で健想と川田との初シングルマッチが控える。だがあまりの傍若無人ぶりに、内外から不満がうずまいている現状では"結果"と"内容"が求められる。鈴木家はいきなり正念場を迎える、と言えるだろう。

エンディングではハッスルポーズを期待した観客に対し、新オフィシャルポーズの「パワーアップでオー！」を強要！

やりたい放題の鈴木家はどこまで勢力を伸ばすのか？　髙田モンスター軍、ハッスル軍の反撃は？　怒濤の3月シリーズに向けてファイティング・オペラが動き出した！

オープニング映像に"ハッスルあちち"登場！　と思いきや大谷とウリふたつの江頭2：50が再登場！　悪質な野次を飛ばす一部のファンに対し、熱くもの申～してみせた。

『ハッスル・ハウスVOL.11』試合トピックス

天龍が再登場！　"モンスター仮面"も新登場！

ハッスル仮面のDNAを培養し、総統の「ビターン！」でパワーアップした対ハッスル仮面用モンスター。モンスター仮面パープル、ブラック、ホワイトがハッスル仮面にまさかの完勝！

田中将斗とタッグ結成したErica＆マーガレットの乙女コンビは、試合後に田中から「やるやないか！」と讃えられると今後は「男子とも闘っちゃう！」とモンスター軍に恐怖の宣戦布告！

試合前の控室で「天りゅうブッ潰す」と書き初めした坂田は天龍とチョップで真っ向勝負！　試合後にタイトル戦を要求した坂田に天龍は「コールマン連れてこい！」と逆要求！

メインは川田と組んだ佐藤耕平（しゃべり以外はイケル男）と、大谷と組んだ石狩太一がヤングなソウルをぶつけ合う熱戦に。最後は石狩を耕平が見事なぶっこ抜きジャーマンで決着。

06年いよいよ始動!!

ハッスル

待望のニューシーズンはいったいどうなる？

インリン様の忘れ形見“イン卵”が巨大化！　1月29日には髙田総統じきじきに成長ぶりを公開。謎が謎を呼ぶイン卵、ハッスルニューシーズンのキーはこの卵が握っている！

昨年、『ハッスル・マニア2005』で膠着したプロレス界の空気を一新させたハッスル。06年最初の『ハッスルハウスvol.11』でのハッスルオーディションも大成功！ いまや注目度満点、話題満載のハッスルのニューシーズンを先取りして徹底検証！

イン卵写真提供／髙田モンスター軍
試合写真／平工幸雄　写真協力／DSE

『ハッスル・マニア』という巨大な物語の終着点から、約3カ月。HGとインリン様の〝その後〟を描いた昨年末の『ハッスル・ハウス　クリスマススペシャル』をはさみ、いよいよハッスル怒濤のニューシーズンが幕を開ける！

それにしても『ハッスル・マニア』の以前、以後ではハッスルを取り巻く環境は激変してしまった。今回も、WWEを脱退後の動向が注目されていたタジリが日本マット復帰の舞台としてハッスルオーディションを受けたり、新日本プロレスを退団した長尾浩志もオーディションに参加するなどメジャーなリングとしての業界認知度は急上昇。

またHGや和泉元彌に続いて、タレントの江頭2：50やマイケルも登場するなど、プロレス圏外の芸能人たちの参入も活発化！ 業界内外から魅力的な人材が続々と参戦、エンターテインメントな場としての求心力は強まる一方だ。

こういったハッスルのニューシーズンの行方を左右しそうなのが昨年12月25日の『ハッスル・ハウス　クリスマススペシャル』でインリン様が髙田総統に残した〝イン卵〟の存在だ。プロレスの範疇をブっちぎるこの展開を、ハッスルが、徹底してクソ真面目な姿勢で演じきったことで、観客の心を見事に揺さぶってみせた。

「もはやプロレスではない何か」なソフト面での新境地に加えて、ハード面においても今年のハッスルは、ほぼ毎月のように興行が開催される。榊原代表が「ハッスルをお笑いだけにするつもりはない」と言うように、興行数の増加によって、ファイティング・オペラとして、より深度を深めた形での「喜怒哀楽」なテーマ設定や、ドラマのように入り組んだ謎、複雑な人間模様などが提示しやすくなるし、さらなる連続活劇化が進行しそうな予感がある。

今回は、そんな期待の新展開を読み解く重要なキーワードを4つ選出！ ハッスルのニューシーズンを徹底予想します！

ハッスルTOPICS

髙田モンスター軍がサイン会を実施!?

『髙田総統洗脳の宴』（1月29日、モンゴリアン・チョップ×aaH 円山町店）

唯一無二、誰よりも高貴な男、髙田総統と〝モンスターK〟川田利明によるサイン会が奇跡の開催！ 肌寒い1月の午後にモンスター信望者が集結。長蛇の列となった！

この宴にはアン・ジョー司令長官、島田二等兵ももちろん参加！ とくにアン・ジョー司令長官は率先して記念写真に応じるなど、モンスター軍らしからぬファンサービス精神を発揮！

一番先頭の参加者は、2時間前から列に並ぶなど異様な熱気！　最終的に300人以上のモンスター信望者でゴッタ返し、モンゴリアンチョップ周辺は大パニック状態に！

健想がハードゲイシャ化!!

『ゲイシャ・ガール、リングに上がる』出版記念サイン会（2月3日、都内書店）

健想は、浩子のエッセイ出版記念サイン会になんと白塗りの芸者姿で登場！ HGに「おまえのハードゲイはもう古い。時代はハードゲイシャだ！」と強烈なアピールを展開！

ここが気になる!! ハッスルを読み解く4つのキーワード!

① 着々と成長する"イン卵"のゆくえ

加藤(A)GM代行のひとこと
この前も参戦を呼びかけたけど、僕のいまの興味はフィギュアの浅○真央！「真央のMはモンスターのM！」ってことでイン卵からは真央ちゃんが生まれてほしい、けど無理かな〜。

昨年12月25日の『ハッスル・ハウス　クリスマススペシャル』でインリン様が産み落とした（？）イン卵は、髙田モンスター軍の基地で厳重に管理中。1月29日の会見では大きくなったイン卵が報道陣に披露された。髙田総統は「生物学上、卵が大きくなることはありえない」との見地から「インリンのM字遺伝子がイン卵に息づいている」こと、イン卵自体が「生命エネルギーの大きな塊」であると断言！

また、『ハッスル・ハウスvol.11』では、アン・ジョー司令長官と島田二等兵の「イン卵様〜」というコールに、光り輝いて応え、さらにイン卵の内部にはM字開脚のまま息づく赤ちゃんの姿を確認！（写真小）新モンスターの胎動なのか？　インリン様の子どもなのか？　モンスター級の結末から目を離すな！

③ 勢力拡大！鈴木家の野望とは？

加藤(A)GM代行のひとこと
浩子新GMはいちいち要求が細かいし、とにかく仕事がやりづらいんですよ！　その点、ユル〜い感じだった笹原さんやグダグダな草間さんは楽だった。またGM選挙やりましょうよ！

サギ同然のやり口でGMの座を強奪！「世界的エンターテインメント化」を目指して、活動中の浩子新GM&健想の"鈴木家"。

新GMとして初プロデュースとなった2月10日の『ハッスル・ハウスvol.11』では初の試みである『ハッスルオーディション』を成功させ、最後は新ポーズ「パワーアップでオー！」で無理矢理締めるなど理不尽な勢いは止まらない。さらに負傷中のキャプテン小川とのシングル戦を迫ったり、髙田総統に「場内での葉巻喫煙の禁止」をブチ上げる強権ぶり！

髙田モンスター軍とは鈴木健想vs川田利明戦（3月5日、横浜文化体育館）で決着がつくか？　健想は続くHG戦（3月12日、愛知県体育館）との2連勝で一気にハッスルのエースの座を狙う。この連戦で明るい未来は見えるのか？

② 包囲網完成！どうするどうなるHG!?

加藤(A)GM代行のひとこと
2月の後楽園は「新宿2丁目でハード・コンドームの試着会」のため欠場しましたが次回はHGの2連戦が目玉！　ゆくゆくはHGとマイケルとの夢の対決も実現させたいです！

ワッショ〜イ!

CDデビューも決定し"ゲイ人"としても超ハードスケジュールなHGだが、3月には髙田モンスター軍の刺客モンスター、PTA戦（3月5日、横浜文化体育館）、鈴木健想戦（3月12日、愛知県体育館）と2連戦が決定！

恐怖の包囲網に対しHGは1月25日の会見に映像で登場しモンスター軍、健想を新ギャグ「ワ、ワ、ワ、ワッショ〜イ！」で挑発する余裕のポーズ。モンスター軍は「髙田総統がHGに反感を持つ母親とPTAのお偉方の怒りを注入した」新モンスター、PTA（Piston Take Away＝ピストン運動を奪い去り、腰を振らせない）に自信満々。健想も勝敗にHGのサングラス外しを要求（負けたらチョンマゲ断髪を宣言）など、HGの真価が問われる2連戦になるのは必至！　絶対に見逃すな！　ワッショ〜イ！

④ 興行数もパワーアップでオー！

4月に大阪大会、後楽園2連戦が決定！

加藤(A)GM代行のひとこと
僕らは「ハッスル事業局」としてハッスルの仕事に集中する日々です！　毎月興行は辛いけどやる気は満々。今年はハッスルにとって大事な年！　PRIDEを超える日も近いですよ！

今年のハッスルはハード面でも勝負に出る！　昨年までほぼ隔月ペースで開催していたハッスルは06年よりほぼ毎月、開催する方針となり興行数は倍増！

DSE社内ではハッスル専門の「ハッスル事業局」体制が本格スタート。榊原代表が「ホップ、ステップと来て、次はジャンプ」と言うようにハッスル飛躍の年になりそうだ。

3月には後楽園、横浜、名古屋と中規模クラスの会場がズラリ。4月には昨年初開催され、最高の盛り上がりをみせた大阪府立体育館大会も実現！　HGの大阪凱旋も予定されるなど大爆発の予感。さらにソールドアウト状態が続く後楽園ホール2連戦も決定！「6月と11月には2万人クラスのビックマッチを予定」（2／11日刊スポーツより）など、イベントとしても攻勢をつらぬくハッスルから目が離せない！

3月、4月も興行連発!!　今後の大会スケジュール

KYORAKU presents **ハッスル14** 神奈川・横浜文化体育館大会 3月5日（日）開演17:00予定（開場16:00） [対戦決定カード] 鈴木健想 vs "モンスターK" 川田利明　HG vs PTA [チケット料金] ※全席指定・消費税込み ハッスルVIP　12,000円（特典：ハッスルグッズ付） RRS　8,000円／スタンドS　6,000円／スタンドA4,000円 ※スタンドAのみ小学生以下は2,000円（ドリームステージにて受付）	KYORAKU presents **ハッスル・ハウスvol.12** 東京・後楽園ホール 3月9日（木）開演19:00予定（開場18:00） [チケット料金] ※全席指定・消費税込み ハッスルVIP　12,000円 スタンドS7,000円／スタンドA5,000円／スタンドB3,000円	KYORAKU presents **ハッスル15** 愛知・愛知県体育館大会 3月12日（日）開演17:00予定（開場16:00） [対戦決定カード] 鈴木健想 vs HG [チケット料金] ※全席指定・消費税込み ハッスルVIP　12,000円（特典：ハッスルグッズ付） RRS　8,000円／スタンドS　6,000円／スタンドA4,000円 ※スタンドAのみ小学生以下は2,000円（ドリームステージにて受付）
KYORAKU presents **ハッスル16** 大阪・大阪府立体育会館 4月20日（木）開演19:00予定（開場18:00）	KYORAKU presents **ハッスル・ハウスvol.13** 東京・後楽園ホール 4月22日（土）開演19:00予定（開場18:00）	KYORAKU presents **ハッスル・ハウスvol.14** 東京・後楽園ホール 4月23日（日）開演12:00予定（開場11:00）

完全解剖 所英男

“世界の所さん”のすべてがわかる! 20ページ大特集!!

- 所英男の素顔がわかる50の質問
- 噂の風呂なしアパートに潜入リポート
- プロデビューから全32戦を本人が解説!!
- 所さんのお父さんも登場!
- 所さんの愛用品大プレゼント!!

昨年7月、修斗世界王者ペケーニョを破りブレイク後、大晦日『Dynamite!!』でのホイス・グレイシー戦でさらにファンを増やし、いまや名実ともに“世界の所さん”となった所英男。2006年、さらなる飛躍が期待されるこの男の魅力を、いまこそ全20ページで徹底解剖!　これを読めば、所さんのすべてがわかる!

構成／堀江ガンツ　designed by hisa（TwoThree）

2年間同棲してた子との別れがこれまでで最大の失恋ですね

Q1 子どもの頃のあだ名とその理由は？

あだ名は「とこちゃん」なんですけど、理由は「ヒデちゃん」だと気持ち悪いからじゃないですか（笑）。それか小学校のとき図書館に『とこちゃんのヨット』っていう本があったんですよ。そこから来てるのかもしれないですね。

Q2 初恋はいつどんな相手？

小学校1年から6年間好きだった子がいますね。頭が良くて運動ができて美人という僕と釣り合わない子でした（笑）。6年間同じクラスだったんで仲は良かったんですけど、付き合ったりはなかったですね。告白ですか？　告白とはちょっと違うんですけど、小学生の頃って好きな人を教え合ったりするじゃないですか。それで思い切ってその子に「いやぁ、じつはアンタや」みたいなこと言って（笑）、一時期、文通じゃないですけど手紙を渡し合ったりしましたね。

Q3 ファーストキスはいつどこで？

小学生の頃たまに教室の前とかで男と遊びでキスしたりしてましたけど（笑）。ちゃんと女の子としたのは高1ですね。友だちの家でカップル同士が何組か集まってて、僕の相手は単なる友だちだったんですけど、まわりが盛り上がり始めたんで、僕らもその勢いでって感じで（笑）。

Q4 ズバリ、バレンタインデーの思い出は？

中2ぐらいのときに付き合ってた子がいたんですけど、その子が前に付き合ってた男にチョコを「あげた・あげてない」でケンカになった思い出がありますね。結局、それが原因で別れたんですよ。小学校、中学校のときって、バレンタインデーって大事件でしたからね。僕も意味もなく放課後教室に残ったりして（笑）。

Q5 これまで最大の失恋は？

19歳から2年間同棲してた子がいたんですけど、その子と別れたのが最大の失恋ですかね。別れたのをきっかけに『パワー・オブ・ドリーム』に入って格闘技始めたんですよ。だから失恋というより結果的には良かったんですけど、ヴィトンのバッグをローンで買ってプレゼントしたあと別れたんで、ローンだけ残ったという苦い思い出がありますね（笑）。まぁ、でも同棲っていうのも、いま考えれば、一人で上京してきて寂しさを紛らわせてただけなのかもしれないですけどね。いま、その子がどうしてるのか全然わからないんで、ちゃんと結婚とかしてくれてればいいんですけど。

Q6 初めて行ったコンサートは？

じつは最近なんですけど、ウルフルズのコンサートに去年行ったんですよ。初めてプロの歌手のコンサートに行って、なんかトータス松本の動きが愛くるしかったですね。

Q7 好きなミュージシャンは？

浜田省吾、長渕剛、サンボマスター、サザンオールスターズですね。あんま聴いてないですけど（笑）。

Q8 一番好きな曲は？

渡辺美里の『マイレボリューション』ですね。これ聴くと「がんばろう」って思うんですよ。あとは大事MANブラザーズバンドの『それが大事』ですね。あれはいいですよ！

Q9 愛読書は？

格闘技雑誌とかじゃないですよね？　それ以外にないんですけど……『パワー・オブ・ドリーム』（前田日明・著）にしといてください（笑）。前田さんから本をいただいたりしたことはないんですけど、たぶん僕が本を読めないってわかってるんじゃないですか（笑）。

Q10 好きなマンガは？

『ヤンマガ』に「アウト・ロー」っていう少年野球の監督の話があるんですけど、それにハマってますね。そのマンガの舞台が大田区の下丸子なんですけど、下丸子はボクが上京してきてから住んでたところなんで、そういう意味でも愛着があります。

Q11 好きな食べ物は？

前は焼き肉だったんですけど、最近はフルーツが好きですね。やっぱり30歳近くなってくると身体が求めるものが変わってきて、いまは肉より寿司のほうが好きですね。

所さんの魅力といえば、いまをときめく格闘技界のスター選手とは思えぬ、その飛び抜けた親しみやすさ。いまもまだ風呂なしアパートに住み、僕らと同じようにコンビニやTSUTAYAを愛用する所さんの私生活や、その愛すべき素顔を覗いてみよう！

の質問

所さんの素顔をもっとよく知るための50の

Q12 好きな芸能人は？

ずっとこういう質問では「佐藤江梨子」って答えてたんですけど、最近は「小野寺愛（ZSTガール）」と言うようにしてます（笑）。小野寺さんはやっぱかわいいですよね。でも……佐藤江梨子も好きです。たまに僕も『PRIDE』出てたら会えたのかな、とか思ったりしますけど（笑）。

Q13 一番好きな女子アナは誰？

やっぱりフジテレビ系ですね。中でも中村仁美が一番いいです。あの人見たさに朝やってる『こたえてちょーだい！』見たりしてますから（笑）。

Q14 かっこいいと思う芸能人は（男で）？

雰囲気的に田村正和さんとかカッコいいですよね。あとはイチロー選手。

Q15 仲のいい芸能人はいますか？

残念ながらまだいないです（笑）。

Q16 似てると言われたことのある芸能人は？

サッカーの小野ですね。あとはふかわりょうってたまに言われましたね。自分では高橋克典だと思ってるんですけど（笑）。

Q17 世間のニュースで、いま一番憤っていることは？

許せないのは少女を殺したりする事件ですね。僕が子どもを持つ頃になったら、もっと増えるかもしれないじゃないですか。まだ娘をもつ感覚ってあんまりわからないですけど、自分の娘を殺されたりしたらたぶんカタキを討ちに行きますね。

Q18 いままで見た映画で一番好きなのは？

最近見た映画は『ピーナッツ』なんですけど、やっぱりずっと野球やってたんで野球の映画が好きですね。『メジャーリーグ』とか『フィールド・オブ・ドリームス』とか、あとやっぱり『ミスター・ベースボール』ですね。この前、12チャンネルでやってたんで改めて見たんですけど、ナゴヤ球場が舞台で監督が高倉健って凄いなぁって（笑）。

好きな曲は大事MANブラザーズの『それが大事』。あれはいいですよ！

Q19 好きなテレビ番組は？

いっぱいありますけど……一番は『所さんま萬遊記』ということで（笑）。あとは『踊る！御殿!!』が好きですね。

Q20 格闘技以外で好きなスポーツは？

野球ですね。やるのも見るのも。

Q21 格闘家以外で好きなスポーツ選手は？

千葉ロッテマリーンズの今江選手ですね。プロ野球選手って、昔野球やってた僕の感覚からすると凄い高貴で雲の上の人って感じなんですけど、雑誌の対談でお会いしたら、気取ったところもなく、日本シリーズのMVPを取った人が僕に対してもちゃんと接してくれて凄く好きになりましたね。

Q22 格闘技以外で好きなものは（趣味）？

もともと趣味が格闘技だったんで、いまはないですね。しいて挙げれば、お笑いのビデオを見ることですね。

Q23 所英男が選ぶリングスベストバウト3を教えてください。

1位はやっぱり横浜アリーナでやったハンvsフライですね。あとは前田さんvsカレリンとか、山本さんvs田村さんの後楽園でやった試合が凄かったです。

Q24 これだけは人に負けないというものは？

う〜〜ん……とくに思いつかないんですけど……ZSTに出た回数ぐらいですかね（笑）。

嫌いというか、認めてない格闘家はいます

Q25 これまでで一番高価な買い物は？

最初に買ったバイクですね。知り合いに売ってもらったんですけど、車検込みで20万ぐらいしました。

Q26 休日の楽しみは？

限界まで寝ることですかね。背中が痛くなるまで爆睡して、起きて誰か誘ってごはん食べにいくのがいいですね。

Q27 自分の試合のベストバウトは？

いっぱいありすぎてわからないですね（笑）。それは冗談ですけど、ホントにどれも思い出深いんですよ。その中で一つ選ぶとしたら、勝村さんと組んでレミギウス＆ペトライティス組とやったタッグマッチですかね。この試合がきっかけで『HERO'S』にも出られるようになったし、総合格闘技のタッグマッチであれだけスイングしたことってないと思うんで。

Q28 自分以外で好きな格闘家は？

こういう質問は困りますねぇ（笑）。リングスジャパン勢全員とかじゃダメですか？……やっぱりダメですよね。じゃあ、前田さんで（笑）。

Q29 正直言えば、嫌いな格闘家もいる？

いますね。嫌いというか認めてない格闘家が。名前は言いませんけど。

Q30 自分の試合以外のベストバウトは？

最近で言うと、今成さんvs前田吉朗ですね。もう二人が醸し出すムードというか、あのリング上の電気が走ってるような緊張感ある空気が凄いなぁって。

Q31 ライバルは誰？

レミギウスとZST四兄弟（小谷、今成、矢野）ですね。このうちレミギウスと矢野さんには勝ったことあるんですけど、小谷君と今成さんにはコテンパンにやられてるんで、勝ちたいですね。とくに小谷君は今年中になんとか再戦して倒したいです。

Q32 いつかプロレスもやってみたい？

リングスルールとかだったらいいですけど、僕は身体が小さいんで、あんま思わないですね。

Q33 引退後にやってみたいことは?

結婚ですかね。結婚相手の条件ですか? 僕を立ててくれて、家庭的で、それでいて凄くかわいくて……金持ちのお嬢さんだったらなおいいです（笑）。

Q34 自分の身体で自身がある部分は?

なかなかケガしないことですかね。けっこう、試合数やってるんですけど、ほとんど五体満足ですから。

Q35 得意な料理は?

得意というか鍋しかできないですね。水炊きかそこにキムチの素を入れたキムチ鍋しかできません。

Q36 掃除、洗濯など、家事全般で得意なものと苦手なものを教えてください。

全部苦手、全部面倒くさいですね（笑）。洗濯物を干すときの面倒臭さといったらないですからね。練習から帰ってきて洗濯することが多いんですけど、部屋で一息ついたころに「ピーピーピー」ってブザーが鳴るんですよ。そうすると面倒くさくて、「また明日洗えばいいや」ってなっちゃうんですよ。あと、掃除や片付けができないのは、部屋を見ていただければわかると思います（笑）。

Q37 ファッションの好みを教えてください（所選手自身&女性のファッション）。

シンプルなのがいいですね。カジュアルっていうか。最近はアディダスを着ているときが多いですね。女性に着てもらいたい服は、最近、スーツが大好きです!（力強く）。スーツと黒いストッキングですね（笑）。

Q38 男同士で出かけるときは、大抵どこに行きますか?

あんまどっか行くことはないんですけど、居酒屋とかが多いですね。和民とか（笑）。

好きな女性のファッションはスーツと黒いストッキングです（笑）

Q39 女性とのデートはどこに行くことが多いですか?

デートもあんまないんですけど……やっぱり和民ですかね（笑）。

Q40 自分はアブノーマルだと思う?

いや、自分では普通だと思ってるんですけど。アブノーマルだと言われたこともないですし。でもたまに「ちょっとそれはやめて」とか言われたりはします（笑）。

Q41 異性に大事なのは匂いだ?

やっぱり匂いは重要ですね（笑）。

Q42 どんな女性が好きですか?

背が高くて……お尻がちょっと大きいほうがいいですね。それから……甘えん坊なのがいいです（笑）。あと最近、年上に憧れますね。それから料理できる人。こっちの条件はたくさんあるんですけど、僕自信はダメな男なんですけどね（笑）。

Q43 逆に、嫌いなタイプは?

やっぱり料理できない人は嫌ですね。あとは○○ないひと（笑）。たまにいるんですよね。そういうとき、凄い焦っちゃうんで（笑）。

Q44 （所英男の）女性ファンのことをどう思っていますか?

やっぱりありがたいですね。最近、ファンレターをもらったりすることが多いんですけど、読むと糧になるというか、がんばろうって気持ちになりますからね。ホント、中には心を打たれる手紙とかもあるんですよ。だからもらった手紙は全部ちゃんと読んでます。返事はなかなか書けないですけど、たまにプリクラとか貼ってあるとホントに手紙書きたくなったりすることも正直あります（笑）。でも、やっぱり一人だけに送るっていうのはダメなんで。ありがたく読ませてもらってます。

Q45 人生で最も落ち込んだ時期は?（理由&脱却法も）

プロデビューして間もないころですね。もう何をやっていいかわからなくて。でも脱出方法は練習頑張って、試合で結果出すしかないんで。これはどんな選手でも一緒ですよね。

将来の夢は立派なお父さんですね 家はレンガ造りで煙突がほしいです

Q46 自由に使えるお金があったら何に使いますか?

時間があったら暖かいところに旅行に行きたいですね。男同士で。ボク去年、家族旅行でグアムに行ったんですけど、周りにビキニの女の子がいっぱいいるわけじゃないですか。でも、母親に「あの娘かわいい」とか言うわけにもいかないんで、今度は男同士で行って「あの娘いいよね」とか言い合って、気持ちを分かち合いたいですね（笑）。

Q47 どんなときに涙腺が緩みますか?

試合直後って感情的になってるんで、たまに泣いたりしますね。あと試合前に練習で追い込んでるときとかも気持ちがどんどん高まってるときなんで、シャワー浴びながら泣いてたりします。べつに嬉しいとか悲しいとか、そういうわかりやすい気持ちじゃないんですけど、試合の前後は何か感極まるっていうか涙が出ますね。

Q48 正直言って、大学には行ってみたかった?

（力強く）行きたかったです! キャンパスライフってやつに憧れます。毎年、春になると新歓コンパとかやってて凄く楽しそうじゃないですか。あれはホント、心の底から羨ましいですね（笑）。

Q49 人生をやり直したいと思う?

最近は思わないですけど、半年前までは高校受験ぐらいからやり直したいってよく思ってました（笑）。それぐらいからやり直さないと、自分はどうにもならないんじゃないかと思ってたんで。

Q50 将来の夢は?

立派なお父さんとして一家の主になりたいですね。子どもがいて奇麗な奥さんがいて、犬なんか飼いたいですね。家はレンガの家で暖炉と煙突がほしいです（笑）。

所さんの素顔をもっとよく知るための

50の質問

“世界の所さん”は本当にビンボーなのか!?
噂の風呂なしアパートへ
遂に潜入!!

取材&文／堀江ガンツ　撮影／黒田史夫

男の部屋だ!!

見て、この散らかりっぷり！　フリーター、もしくは授業にほとんど出ない大学生男子のようなこの部屋だが、男にとってはなかなか居心地がいいことも確かなのだ。

これが噂の風呂なしアパート外観。否応なしに昭和の匂いが漂ってくる、アンティークなムードが素敵だ。ちなみ横にあるバイクは知人から10万で譲り受けた所さんの愛車です。

鍵なんてもちろんかからない、アパートのイメージにピッタリな郵便受け。錆び具合が素敵だ。ちなみにちゃんとテプラで「所　英男」と打ってあるところがまた涙を誘う。

風呂なしアパートといえば、上り下りのときにやたら音がデカい、鉄の階段。毎朝、新聞屋さんがこころ駆け上がるだけで、住民は自然と目が覚めるという画期的な作りとなっている。

『HERO'S』に出場以来、「風呂なしアパートに住み、コンビニ弁当を食べて生活する格闘フリーター」というキャラクターがすっかり定着した所英男。

しかし、格闘技界のニューヒーローとして大ブレイクし、大晦日の『Dynamite!!』でも主役級の活躍を果たしたいま、もう貧乏キャラはキツいんじゃないか。もっとハッキリ言えば、貧乏を演じているだけで、本当はリッチな生活を送っているんじゃないか。そんな疑問の声も日を追うごとに増してきていることも事実だ。そこで本誌は〝世界の所さん〟の生活の実態を探るべく、噂の風呂なしアパートへと潜入取材を敢行！　所英男真実の姿をここではリポートしよう。

所が住んでいるのは神奈川県川崎市の某所。駅前で所本人と待ち合わせ、そこから歩いて10分弱。「あ、ここです」と所が指差す先には、いまどき珍しい昔ながらの〝神田川系〟アパートがそびえ立っていた。パッと見で推定・築30年以上。全体的にアンティークかつチープなムードを醸し出すこのアパートの家賃は月4万3000円。ここには以前努めていた会社の寮を出た4年前に引っ越してきたという。所の部屋はここの2階。鉄の階段を上がるときのカンカンという乾いた足音が貧乏臭くていい。

「ちょっと散らかってますけど、どうぞ」

そう所に招かれアパートのドアを開け、それで我々が見たものは……およそ必要ないと思われるモノに埋め尽くされた、見事なまでの〝野郎の部屋〟だった。

所の部屋は古いアパートらしく6畳間と4畳半の台所という間取りで、いまの主流である1Kタイプの部屋と比べると広いはずなのだが、荷物が溢れ返り床が

逆方向から写した所さんの部屋全景。玄関から万年床まで“けもの道”ができている以外は、すべてモノが散らかっていることがよくわかる。これぞ男の部屋だ！

一人暮らしの男の大事なアイテムと言えば、DVDソフト。所さんもご自慢のコレクションを恥ずかし気もなく大公開してくれたが、残念ながらパッケージはお見せすることができません。

ここが所さん行きつけの銭湯。サウナや朝風呂もあり、かなり使い勝手が良さそうだが「だいたいジムのシャワーで済ませちゃうんで、銭湯は疲れたときにゆっくり入るぐらいですね」だそうです。

玄関の前にはシューズやグローブを始めとした荷物の山が。所さん曰く「ここが練習用具置き場です」。一見ただ散らかっているように見えるが、じつは整理されているのだ（たぶん）。

男の部屋にどうしてもモノが増えてしまうのは、いらないモノでもなかなか捨てられないから。所さんの部屋にももちろん、もう履けない靴を始めとしてなぜ取っておいているのか不明なものが多数存在する。

まるで友達の家に遊びに来たかのよう

大公開これが所英

見えている面積が極めて少ない。それも玄関から万年床へ一直線に〝けもの道〟ができているだけというわかりやすさ。これを「ちょっと散らかってる」と言えるところが、まさに一人暮らしの男ならではである。しかしながら、男なら妙に落ち着いてしまう空間であることもたしか。格闘技界のニュースターの部屋を訪れたというより、学生時代の友だちの家に遊びに来たかのようなのだ。

僕はこれまでミルコ・クロコップやヴァンダレイ・シウバなど、トップファイターの自宅を取材してきたが、彼らの住む豪邸とは、あまりに違う所さんの生活ぶりに親近感を覚えずにはいられない。ミルコやシウバは街を一望できる高台に住んでいるが、所さんの場合、たしかに高いところ（アパートの2階）には住んでいるが、窓からの眺めがミルコらが「街を一望」なのに対し、所さんの場合、いきなり目の前に隣のアパートなのだ。しかも風呂なし。W★ING時代の松永光弘を思い起こさずにはいられない。

これを見た多くの人は「お金持ってるんだから、早く引っ越せばいいのに」と思うだろう。しかし、「居心地がいいし、じつはとくに引っ越す必然性も感じないんですよね」という所の気持ちも男なら理解できるはずだ。しかも、急激な収入アップで自分を見失なわないために「恥ずかしながら、お金は親に管理してもらって、使うぶんだけもらってるんです（笑）」という。つまり、口座にお金はあっても、所自身の生活はほとんど変わっていなかったのだ。

結論。所さんの私生活は、まったくもってキャラクターどおり。嘘偽りない風呂なしファイターだったのである。

完全図解
所くんの部屋 とことん 全部見せます!!

押し入れを開けてみると、上段は洋服がハンガーで掛けられるように改造されており、なかなか使い勝手が良さそう。そして下段にはなにやら怪しいものが数点……「ま、そのへんは男の子ということで(笑)」(所・談)

アパートには一応、ベランダがあり柔術着が干してあった。なお、目の前にはいきなり隣のアパートがあり「向かいが大学生の部屋で、朝5時ごろに洗濯機回すんですよ」とのこと。

ちゃぶ台の上には、サプリメントや飲みかけの飲み物などがギッシリ。いったいどこでご飯を食べているのか？　飲んでるお酒が「第3のビール」というところがまた、風呂なしらしくてよい。

壁には前田日明引退試合のポスター（サイン入り）と、所さんが一度だけ出場したリングス「バトルジェネシス」のポスター、さらにZST旗揚げを報じた本誌の記事（初めて〝小さなヴォルク・ハン〟と名付けられた）が貼られていた。

ベランダ
電気ストーブ
TV
押入
ちゃぶ台
万年床
棚
WC
冷蔵庫
格闘技荷物の山
ごみ箱
冷蔵庫
玄関
洗濯機
冷蔵庫

ふとんの横には段ボール箱の上に置かれたノートPCが。ここでブログを書いたりもちゃんとしているらしい（自己申告）。

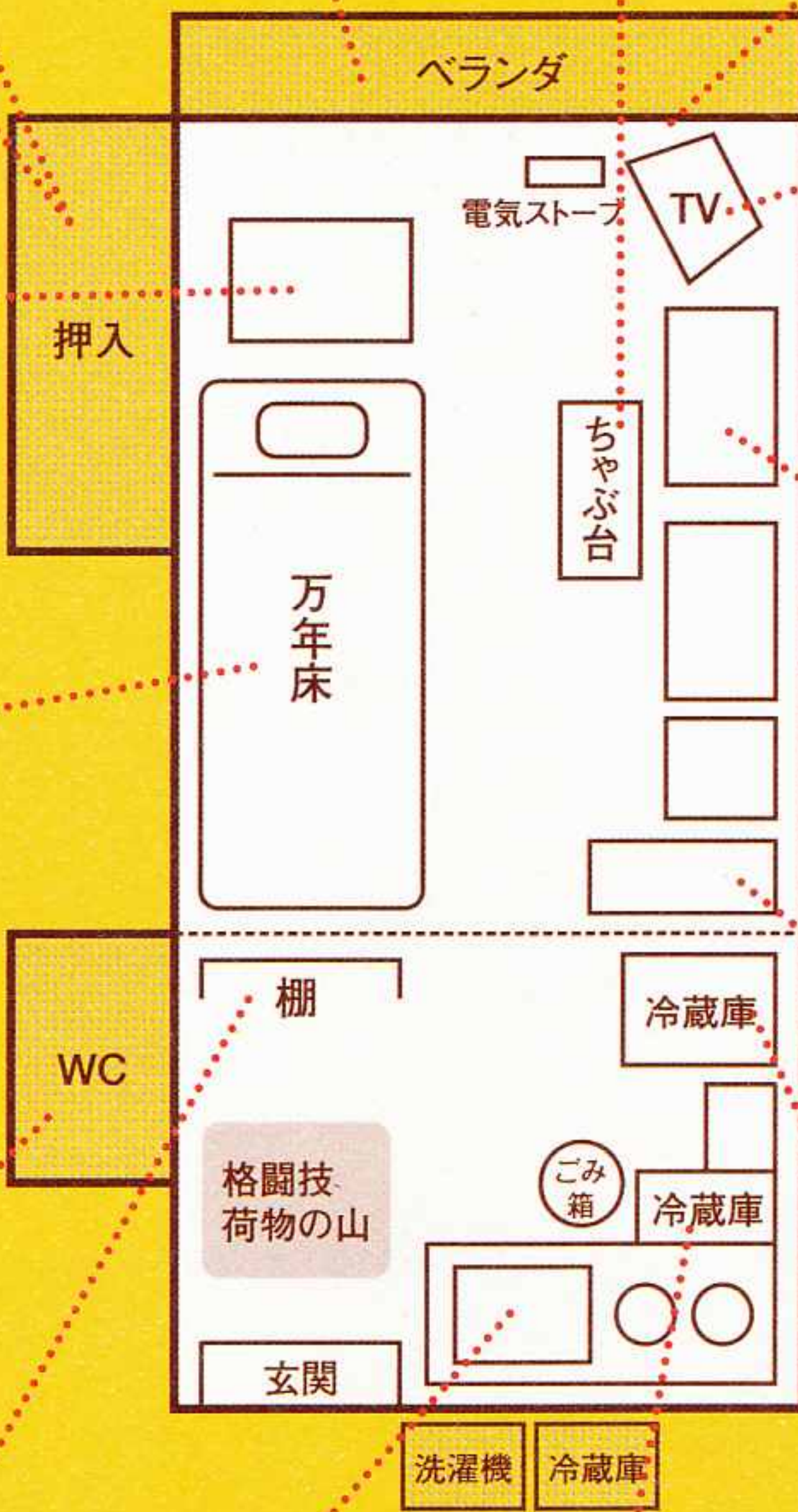
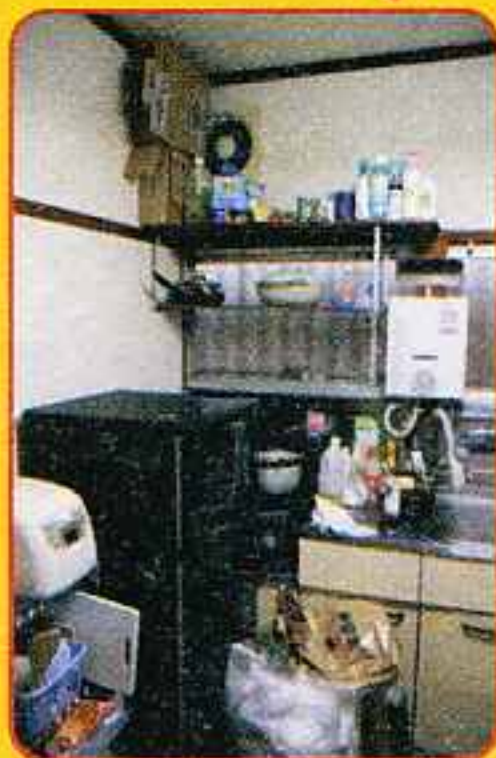
テレビの上には『HERO'S』のベスト8カップ、ゴールドジムの盾などと共に、“幻の大会”プレミアム・チャレンジの勝利者賞モニュメントが飾られていた。なお、このモニュメントが下に置いてあったプレステ2の上に落ちてきて壊れたという。

貧乏アパート一人暮らしの基本中の基本である万年床。もちろん所さんの部屋にも汚れに汚れたふとんが常に敷かれていた。合格！

ワイヤーシェルフには所くんのお宝がたっぷり。上段には所ジョージさんからもらった刀と帽子さらに柴犬の置物。前田日明のサイン色紙、千葉ロッテ今江選手のサイン入りバット、さらにゆでたまご先生のサイン色紙、そしてなぜかヤノタクフィギュア、今成の記事などが飾られていた。

トイレはもちろん和式便所！　それにしても便器の前にマンガや雑誌が置かれているが、洋式便所ならともかく和式で踏ん張りながら読んだりしているのだろうか？

山盛りの荷物の上に置かれていたGT-F（ZSTのグラップリング王座）のチャンピオンベルト。所さんは「僕の一番の宝物です」と言うが、この無造作に置かれた扱いを見るとそれも疑いたくなる。

アパートの中に入ると、いきなり目の前の棚の上にシューズが山となって積まれていた。もしや、ここが所家の「下駄箱」なのか!?

所さん曰く「ウチのキッチン兼バスルームです」という流し台。ここでは食器を洗うだけでなく、頭髪や「身体のデリケートな部分」（所・談）を日々洗ったりするのにも使っているという。

その貧乏キャラが幸い（災い？）して、知人からもらった2台目の冷蔵庫。しかし、まったく使っておらず、キッチンの場所をとり、ガス台を使いにくくしているだけというのが素晴らしい。なお、部屋の外にはさらにもう一台冷蔵庫がある。所家は風呂はないのになぜか冷蔵庫だけ3台もあるのだ。

冷蔵庫の中は一人暮らしの男にしては、意外なほど食材がたっぷり。しかし「たぶん半分以上、腐ってると思います」（所）とのこと。

[スペシャル写真館]

所英男「男のダンディズム」

いつも動きやすいスウェット系トレーニングウエア姿で、ジーパンすら一本も持っていないという所さん。これまで記者会見のときはZST広報・上原さんのスーツを借りて出席していたが、そろそろ前田日明スーパーバイザーから「いつまでもバカボンみたいなカッコしてたらアカンで」とスーパーバイズされるのも時間の問題。というわけで、ひと足早くダンディな所英男に変身してもらいました！

撮影／乾晋也 designed by hisa（TwoThree）

自分で言うのもなんですけど
けっこう似合いますよね（笑）

紙のプロレス
やるときは、トコトンやりまっせ!!
幻的格闘技
FANTASTIC

今回、所さんにやってもらった「スーツ&刀（orほうき）」というのは、じつはかつて『紙プロ』誌上で日明兄さんにやってもらった格好。普段はトレーニングウエアばかりの所さんだが、本人が言うように、予想以上に似合ってる。なお、この刀は所ジョージさんからプレゼントしてもらったとのこと。

Boutreview.com

Boutreview.com

③×vs門脇秀基

[2R3分29秒、チョークスリーパー]
2001.12.14 コンテンダーズ X-RAGE Vol.1

僕はこれまで練習でも落とされたことなかったんですけど、初めて落とされて、しかもそれが人前だったんでかなり屈辱的でしたね。だからいまはべつになんとも思ってませんけど、当時は門脇さんをいつか倒さなきゃ気が済まないって感じで、正直言って恨んでましたね（笑）。

①△vs阿部裕幸

[2R終了 ドロー]
2001.08.15 クラブコンテンダーズ

この試合はクラブでやる試合だったんで試合開始が夜中の2時ぐらいだったんですよ。だからよくわかんない状態でしたね。いちおうプロデビュー戦になるんですけど、実感もなかったんで、アマチュアのときと同じような気持ちで緊張せずに闘えたのがよかったんじゃないですかね。あと覚えているのは、阿部さんと組んでみたらいい匂いがしたことですね（笑）。

②×vs小谷直之

[3R終了 判定負け]
2001.09.21
リングス BATTLE GENESIS vol.8

これが僕の最初で最後のリングスでの試合なんですけど、この頃、僕はけっこうアマチュアの大会で成績が良くて一カ月に3つの大会で優勝したこともあったんですよ。しかもプロ第一戦で阿部さんという有名な選手と引き分けたあとだったんで、凄く自信があったんですけど、その自信を小谷君に木っ端みじんに打ち砕かれた試合ですね（苦笑）。この試合に負けてから、苦闘の時代が始まるんですよ。やっぱりこの頃から小谷君は僕にとって壁でしたね。

⑥×vs今成正和

(2R終了 判定負け 38-40)
2002.07.07 コンテンダーズ7

矢野さんに続いて今成さんとの組技の試合なんですけど、これも勝負にいけなくてパスガードにいくフリだけして、全然自分からいけなくて、自分の力のなさと気持ちの弱さが試合をするたびに出てしまって、凄く辛い時期でしたね。いまでこそ見慣れましたけど、試合中、今成さんの顔を見るだけで怖かったんで（笑）、完全に飲まれてましたね。

⑤○vs矢野卓見

(10分 時間切れ 判定勝ち) 2002.05.06 プレミアムチャレンジ

ルールが組技から総合に変わっての再戦なんですけど、これまた勝負にいけない闘い方で、突き放して突き放して判定で勝つには勝ったんですけど、反省だらけの試合ですね。正直言って矢野さんと寝技で勝負するのが怖かったんで。でも、プレミアムチャレンジっていう大会自体は凄く懐かしいです（笑）。

④×vs矢野卓見

(2R終了 判定負け 38-39)
2002.03.10 コンテンダーズ X-RAGE Vol.2

ここからコンテンダーズ、プレミアムチャレンジと組技、総合両方で矢野さんと連戦になるんですけど、とにかく「負けたくない」っていうだけの闘い方炸裂ですね。いまの僕が見たら絶対に「プロとしてどうかと思う」とかいって思いっきり批判してたと思います（笑）。当時は矢野さんと面識はいちおうありましたけど、練習とか一緒にやったことはなかったんで、途中で寝転がられたりして、どうしていいかわからなくて、とにかくやり辛かったですね。たぶんいま矢野さんと闘っても同じですけど（笑）。

⑦△vs中原太陽

(2R終了 時間切れドロー)
2002.08.24 クラブコンテンダーズ

矢野さん、今成さんという凄い二人と連戦した後だったんで、まぁ大丈夫だろうと思って、やる前から勝つもんだと思って挑んだ試合だったんですけどコテンパンにやられたんで、ちょっと試合後荒れましたね。結果こそドローですけど、それは判定なしのルールに救われただけで、一方的にやられまくって……。もう悔しくてやりきれなくて、控室でイス蹴飛ばしたりして、（同じジムの）折橋君にぶん殴られそうになりました（苦笑）。小谷君に負けてからこの中原戦までが、一番辛い時期でしたね。

昨年、彗星のように現われたように思われがちな所さんだが、じつはプロのキャリアはすでに5年を数える。ここでは正真正銘のビンボーファイター時代から現在までプロ全試合を所さん本人に解説してもらった。

全戦績

⑧○vs滝田J太郎

(1R1分41秒、ドクターストップ)
2002.09.08 デモリッション

この試合でようやく連敗から脱出したんですけど、滝田さんが僕の腰骨に頭ぶつけて流血ドクターストップになっただけなんで、勝った感じがしませんでしたね。覚えてるのは、滝田さんがモーニング娘。の曲で入場してきたことぐらいです(笑)。

⑨○vs坪井淳浩

(2R4分9秒、腕ひしぎ十字固め)
2002.11.23 ZST.1

プロになってから結果も出ないし、何をやったらいいかわからないし、凄く悩んでたんですけど、このZSTっていうイベントがスタートして拾ってもらえたおかげで、「もうちょっと頑張ろう」と思ったきっかけになったんですよ。おそらくZSTがなかったら、デモリッションで何戦かやったあと格闘技辞めてたと思います。試合自体はこの試合の1カ月前からレスリングが凄く強い高校に住み込みで練習して挑んだんですけど、シュートボクサーの坪井さんにタックルをことごとく切られてテイクダウンまでされちゃったんですよ(苦笑)。でも、これでレスリングを諦めて、闘い方が変わるきっかけになったんで、結果的には良かったかなと思いますね。

⑩○vs松本秀彦

(延長R終了 判定勝ち 2—1) 2003.03.09 ZST.2

サンボの強豪である松本さんに痛めつけられながらも判定で勝てて嬉しかったんですけど、しょっぱい判定勝ちでガッツポーズして大喜びしてる僕を見てZSTの上の人が怒っちゃって、次の大会からZSTは判定がなくなったんですよ。結果的にZSTの流れを僕が変えてしまった試合ですね(笑)。

⑪×vsアンタナス・ジャスビタス

(2R終了 判定負け 3-0)
2003.03.09 リトアニアFBUSHIDO “CAOSAS”

これはZST四兄弟で初めてリトアニア遠征に行ったんで凄く思い出深いんですけど、試合で印象に残ってるのは、ドナタス代表の豹変ぶりですね(笑)。あんなに優しかったドナタスがレフェリーになった途端、あからさまにリトアニアびいきのレフェリングになって、“アウェー”を初めて感じた試合でしたね。でも、このときのリトアニア遠征はホントにいい思い出なんで、またいつか4人でリトアニアに行ってみたいですね。

⑫×vsレミギウス・モリカビュチス

(1R1分45秒、KO) 2003.06.01 ZST.3

初めてレミギウスとやったんですけど、気がついたら試合が終わってましたね(笑)。足関いったとき、ボディーにヒジ打ちをやられたんですけど、あまりの痛みに身体がピーンと伸びましたからね。危なく打撃でタップするところでした。それでヒジ打ちがあまりに痛いから自分から技解いてスタンドになったんですけど、そしたらヒザ蹴りの嵐を食らってKOされましたからね。でも、この試合がきっかけで「下がるのはやめよう。弱気になったらやられる」って思えたんで、いい経験にはなりました。

⑬○vs中原太陽

(1R4分56秒、腕ひしぎ十字固め)
2003.09.07 ZST.4

じつはこの試合で無様に負けたら引退しようと思ってたんですよ。中原君には前回コテンパンにされてるし、動いてスピードで勝負するっていうキャラも被ってて、しかも向こうのほうが若いわけじゃないですか。テレビ解説でも熊久保さんが「見ててください、中原君の動きを」とか言って僕は完全に噛ませ犬扱いでしたからね(苦笑)。だから、これで負けたら僕の存在価値ってもうないなって思ったんで、いろいろ賭けて挑んだ試合だったんですよ。で、この頃ってリトアニアに行ったあと、矢野さん、今成さんと練習するようになって、寝技に自信が持てるようになったんですよね。それで自分から寝技で攻めていけるようになって、その成果が試合で出てほっとしましたね。

⑭○vs大石“JACKAL”真文

(1R3分13秒、腕ひしぎ十字固め)
2003.11.23 ZST GP opening stage

この大石さんとの試合が勝ったあと、一番興奮した試合でしたね。大石さんは修斗の前世界チャンピオンで正直言って格も実力も向こうが全然上だったんで、なんで十字が取れちゃったのか、いまだに不思議なんですよ。あれだけスパッと極るのって練習でもなかったんで。僕の試合の前に矢野さんと今成さんが勝って、その勢いに乗れたような感じですね。そしてメインで小谷君が勝って、4人ともみんな持ち味が出て、たぶんこの大会がZSTのベスト興行ですね。

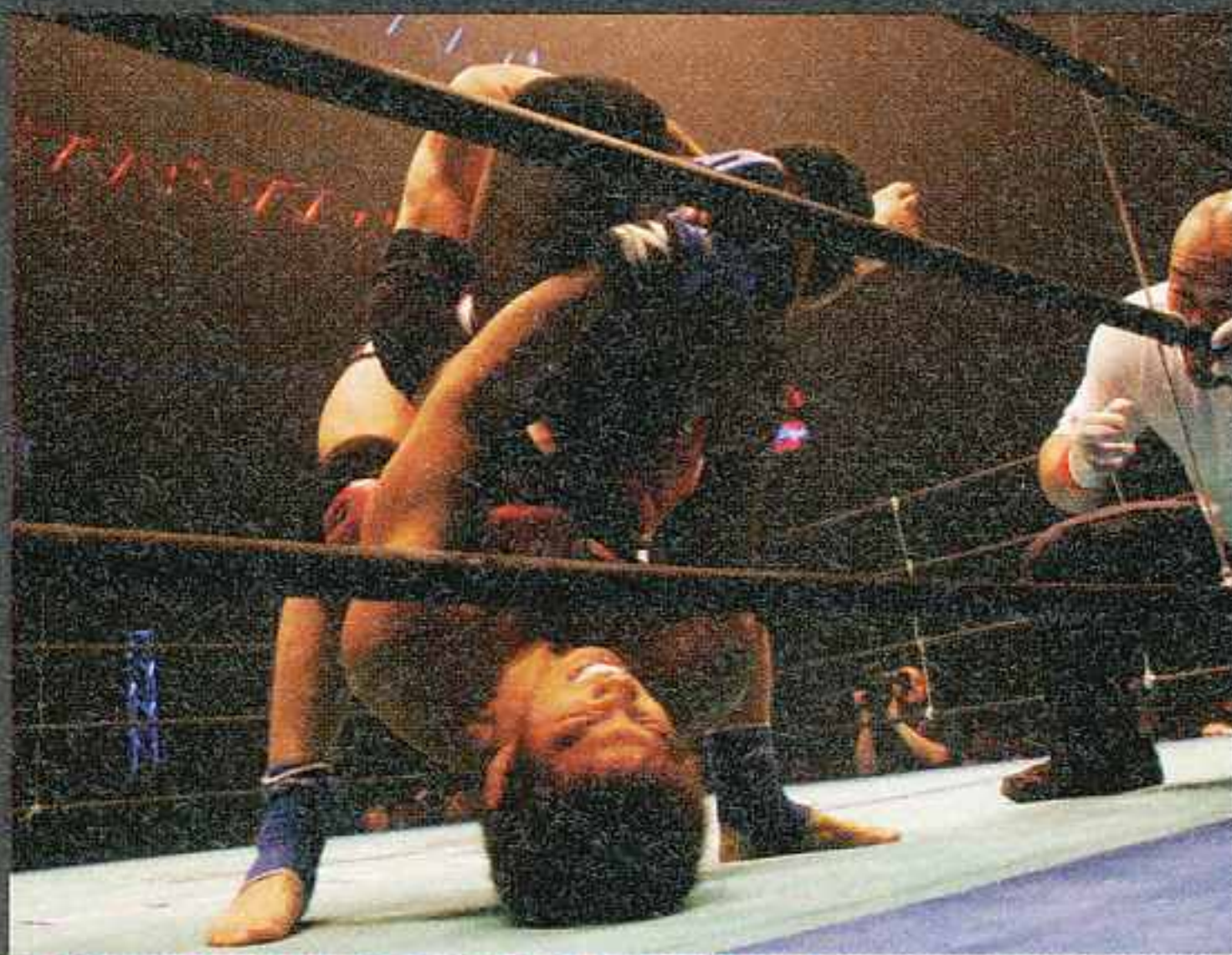
⑮×vsTAISHO

(1R0分53秒、KO)
2004.01.11 ZST GP final stage 2回戦

中原君、大石さんと2試合連続で一本勝ちして、自分でも凄く勢いに乗ってる感じだったんですけど、TAISHOさんに見事に辛い思いをさせられましたね。TAISHOさんは柔術の凄い人なんで、正月返上で寝技を徹底的に練習して挑んだんですけど、結局、寝技の攻防になる前にKOされてしまったという(苦笑)。これは辛かったですね。DEEPの選手に負けてしまったっていうのも悔しくて、もう一度挑戦したかったんですけど、引退されてしまったんで残念ですね。でも、この負けが次につながったんだと思います。

“世界の所さん”本人が解説する

所英男全

“世界の所さん”本人が解説する 所英男全成績

⑳○vsレミギウス・モリカビュチス

（1R3分30秒、三角絞め）2004.05.05 ZST.5

レミギウスとは前回、自分の気持ちの弱さが出てKO負けしたあとの再戦だったんで「絶対に自分に負けない」という目標を立てて頑張ったんですけど、それができたというか、レミギウスにも自分にも負けなかったというのが大きかったですね。レミギウスみたいな恐ろしい打撃を持った相手でもガンガン前に出れたんで。でも、レミギウスとの闘いは、できればこれで終わりにしたいですね。あんな恐ろしい人とはなるべくやりたくないです（笑）。

▼GT-F 1回戦

⑯○vs大石“JACKAL”真文【2R 5:00 判定 3-0】

▼GT-F 準決勝

⑰○vs松本秀彦【2R 5:00判定 2-1】

▼GT-F 決勝戦

⑱○vs若林次郎【2R 2:39 裸絞め】

2004.03.07 GT-F

この大会はZSTで一番思い出深いですね。この3人と闘えてしかも優勝できたってことは凄く嬉しかったんですけど、この大会がきっかけで今成さんと矢野さんがZSTを脱退してしまったという辛さもあって。今成さんのぶんも僕がやらなきゃっていう思いがいい方向に向かったんだと思います。このときの大石さんとの試合が僕がいままでで一番動いた試合でしたね。だから凄く疲れましたけど、決勝は向かい合ったとき僕以上に若林さんが疲れてるのがわかったんで、若さで乗り切りました。これで優勝して『紙プロ』さんに初めて単独インタビューしてもらったんで、そういう意味でも印象深いですね（笑）。

㉑○vs佐東伸哉

（3分23秒、三角絞め）
2004.07.04 BATTLE HAZARD 01

これはレガースを着けてリングスルールでやったんですけど、凄く緊張しましたね。初めてのルールで改めてリングスルールって難しいと思ったんですけど、掌底でダウンを奪って一本勝ちできたんで、自分でもよくやったなと思えた試合ですね。機会があればまたこのルールでやってみたいですね。相手はU－FILEの中村大介選手で。あの人はUインター大好きなんで、リングスファンvsUインターファンで一億円賭けて闘ってみたいですね（笑）。

⑲○vsエリカス・ペトライティス

（2R3分40秒、裸絞め）
2004.04.04 リトアニアBUSHIDO 『VENDETTA』

エリカスとはこのときが初めて闘ったんですけど、そのあと3回も闘うことになるとは思いませんでしたね（笑）。この頃はGT－Fに優勝したあとで寝技に自信があったんで、寝技に持ち込めばなんとかなるなと思ってたんですけど、なかなか極められなくて凄く疲れました。でも、この日は自分の試合より、その前にやった内山（貴博）さんとダリウス（・スクリアウディス）の試合のほうが印象深いんですよ。とにかくダリウスの打撃がもの凄くて、それを内山さんが凌いで一本勝ちしてホントに凄い試合だったんで、これが日本でやってたら凄い評判になってたと思うんですけど、残念ながらリトアニアだったんで、内山さんはブレイクするチャンスを逃しましたね（笑）。

©ZST

㉒×vs小谷直之

（1R1分44秒、ヒールホールド）2004.09.12 ZST.6

この試合はもう忘れました。記憶にないです。というか忘れさせてください（苦笑）。このときはムチャクチャ気合入ってたし、GT－Fで優勝したあと連勝が続いてたんで「小谷君に勝つのはいましかない」と思って挑んだんですけど……見事に秒殺されましたね。ヒールホールドをバキバキ極められて骨折したと思いましたからね。小谷君とはなんとか年内に3度目の闘いをやって、今度こそ勝ちたいですね。また負けそうな気もしますけど（笑）。

㉔×vsダリウス・スクリアウディス

（2R終了 判定負け）2004.11.20 リトアニアBUSHIDO-RINGS

これは試合も辛かったですけど、次の日の飛行機がホント辛かったですね。蹴られまくった痛みが翌日余計酷くなって、飛行機の中でのたうち回りそうになりましたから。とにかく打撃が化け物みたいに強くて、しかも僕が寝技に持ち込もうとすると、ロープつかみ放題なんですよ。なんかリトアニア側は所英男には何をやっても許されると思ってるみたいで（笑）。ちょっと喝を入れてやりたいですね。相手が今成さんだったら絶対そんなことやってこないと思うんで（笑）。まぁ、ダリウスとは今度はZSTルールでちゃんと再戦したいですね。

©ZST

㉕×vs大石“JACKAL”真文

（延長R 判定負け 1－2）
2005.01.23 ZST－GP2 ［Final Round］

大石さんには2回勝ってるし、この大会は決勝でレミギウスに勝つことにしか考えてなかったんですけど、それが良くなかったですね。自分の慢心を大石さんの意地で押し切られた形で、大石さんは強かったですけど、自分に負けた気がしますね。この日は大石さんが光ってましたね。

©ZST

㉓○vs勝村 周一朗

（1R0分38秒、フロントチョーク）
2004.11.03 ZST-GP2 ［OPENING STAGE］

これはもうラッキーパンチじゃないですけど、ホントたまたま極まった“ラッキーチョーク”ですね（笑）。いま勝村さんとはよく一緒に練習したり、指導も一緒にやったりするんですけど、なかなか一本取れませんからね。まぁ、でもこれがきっかけで勝村さんがZSTに上がり続けるようになったんで、よかったですね。

㉘○vsアレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラ

（延長R 0分8秒、TKO）
2005.07.06 HERO'S 2005 ミドル級世界最強王者決定トーナメント

この試合がなかったらいまの僕はないんで、僕にとってノゲイラは神様みたいな存在ですね。ノゲイラが築き上げたものがあったからこそ、それに勝った僕が持ち上げられたんで、常にノゲイラに対する感謝の気持ちは忘れないようにしないといけないなって。なんかノゲイラがコツコツ貯めた貯金を僕がもっていっちゃったみたいな感じなんで、ちょっと申し訳ないなって。でも、判定で勝ってもインパクトなかったと思うし、それがバックブローでKOできたのってホント神懸かってるというか、何かが乗り移ったとしか思えないですね。いまは気持ちが落ち込んだときに、この試合のビデオを見て元気出すようにしてます（笑）。

㉗○vsレミギウス・モリカビチュス&エリカス・ペトライティス

（パートナーは勝村周一朗）
（1－0 13分30秒 三角絞め）2005.05.03 ZST・7

僕の人生が変わった試合ですね。この日はレミギウスを見るために前田さんと谷川さんがリングサイドに見にきてたんですけど、この試合後に声かけてもらえて『HERO'S』出られるようになったんですよ。ホントはこの試合前、気管支炎になってたんで上原さんに「出れません」って言ってたんですけど、勝手に試合発表されちゃって出ないわけにいかなくなって、ちょっと憤慨してたんですけど、結果的に出てホントに良かったと思います。だからいまでは勝手に発表した上原さんにも感謝してます（笑）。

㉚○vsガブリエル・リムレイ

（1R1分12秒、三角絞め）
2005.10.12 K-1 WORLD MAX 2005～世界王者対抗戦～

この試合はプロとしてちょっとよくなかったと思うんですよね。せっかく初めてK－1に出させてもらったのにあっさり終わらせちゃって、試合後、谷川さんのご機嫌をうかがってしまった嫌らしい自分がいましたから（笑）。このときは「一本で勝たないと『Dynamite!!』に出られない」っていうプレッシャーを意識しすぎて、ただ勝つだけの試合になっちゃったんで。だから対戦相手のことも、紳士だったってことぐらいしか覚えてないんですよ（笑）。

㉙×vs宇野薫

（2R 判定 0-3）
2005.09.07 HERO'S 2005
ミドル級世界最強王者決定 トーナメント準決勝

この試合は宇野さんと闘えることが光栄、胸を借りるみたいな気持ちで挑んじゃったんですけど、判定負けして、どんな相手でも「絶対に勝つ」という気持ちでやらないとダメだと痛感させられましたね。ホイス戦はこのときの反省が活きたんだと思うんですよ。ホイスみたいに僕よりずっとずっと格上の相手でも「何がなんでも勝つ」っていうテンションで試合できたんで。そういう意味では、負けましたけど、これで自分もプロの選手になれたかなと思いますね。宇野さんとはもう一度やりたいです。

㉖○vsエリカス・ペトライティス

（2R終了 判定勝ち）
2005.04.07 リトアニアBUSHIDO Chaosas

この頃、花粉症でひどい体調だったんですけど、そんなときにやたらタフなエリカスが相手だったんで、とにかく疲れましたね。試合がどうのこうのより気管が辛かったです。これがリトアニアで4回目の試合だったんですけど、ようやくブーイングがなくなったんで、僕もリトアニア人に認められたんだなと思いました。

㉜△vsホイス・グレイシー

（3R終了 ドロー）2005.12.31 K-1 PREMIUM 2005 Dynamite!!

この試合が終わってどっと疲れが出ましたね。これが4カ月連続の試合だったんですけど、『Dynamite!!』までは気持ちが張りつめてたんですけど、終わってすべての力が抜けてしまって、いまだに練習に集中できないんですよ。それぐらい大きな試合だったんですけど、ホイスとドローになったあと、エリカス・ペトライティスに負けたらヤバいなと思って（笑）。そうなるとホイスの株が下がっちゃうんで、頑張らないといけないと思います。ホイスとはクリーンに闘えたんで、今度は一緒に練習させてもらいたいですね。ノゲイラに勝ってから半年間、まさに激動でしたけど、改めてリングスやパンクラスの選手は凄いなと思いましたね。みんな毎月試合してたわけですからね。だから僕も今年もガンガン闘っていきたいと思います。

㉛○vsジェイソン・ラインハート

（1R2分27秒、ヒザ十字固め）
2005.11.23 ZST.8 旗揚げ3周年記念大会

この選手はキャラ強かったですね。試合前は筋肉ムキムキの写真が一枚あるだけで、どんな相手なのかもわからなかったんですけど、インパクトありましたよ。山本宜久さんじゃないですけど、グラップリングの試合なのに体重が落ちないからって、試合前ずっとシャドーボクシングやってましたからね（笑）。みんな「あのシャドーはヤバい」って言ってましたから、今度は総合でまたZSTに来てほしいですね。

幼少期から『Dynamite!!』まで

所英男の父が語る。

05～06年、慌ただしい年末年始を過ごしたのは、所選手本人だけではない！　一家総出で遠く岐阜県揖斐郡から『Dynamite!!』観戦に望んだ所一家は、年が明けてもいろんな取材に大わらわ。その大騒動がやっと落ち着いたところで、改めて所選手のお父さんに先日の『Dynamite!!』から幼少期に遡ってお話をうかがった。父から見た所英男とは？

聞き手／松下ミワ　写真提供／所パパ

いろんなことが走馬灯のように甦ってきてね「英男はこんなことがしたかったんやなぁ」って

――お父さん、今日はお忙しいところわざわざ申し訳ありません！

父　いえいえ、ちょうどいま町内会の集まりから戻ったとこなんですけどもね。

――あ～、そうでしたか。

父　今日は英男のことでしょ？　まあ、なんでも聞いてください。

――ありがとうございます！　では、さっそく『Dynamite!!』のお話から。しかし『Dynamite!!』と言えば、年末年始はお父さん大忙しだったんじゃないですか？

父　そうですねぇ（しみじみ）。忙しかったというよりも、なんか違った雰囲気でしたね。嬉しさとか心配とかが重なってね。

――年末はご実家にも取材陣が訪れたとか。

父　テレビの撮影が12月中旬だったかな？『Dynamite!!』の宣伝番組というんですか？　あれを作るということで一度みなさんがお見えになりましたけどね。

――テレビの取材が入るなんて、所家もひと騒動でしたね（笑）。

父　なんせ初めてなもんで。「意識しないでください」と言われても、そりゃ無理です。

――でも聞いた話によると、けっこうお父さんがカメラワークを指示されてたとか（笑）。

父　いやぁ（照）。私たちは短いスピーチぐらいの経験しかないんでね、カメラの前で話してくださいと言われてもちょっと……。でも、テレビっていうのはあれですね。いくつものシーンを上手につなげていって形になるもんやと思ったんで、あとから思えばポツポツでも数話せばいいことやったんかいなと思ったりしとったんですけど。

――なるほど（笑）。その『Dynamite!!』にはご家族で足を運ばれたんですよね？

父　私と家内と、長男夫婦と孫3人。でも家族だけやなくてね、子どもの友だちやら近所の方も来ていただいて。マイクロバスを借りまして大阪まで行ったんですよ。

――マイクロバスですか!!　そんなに大勢で。

父　はい（笑）。小学校のときは私も少年野球の試合によくついてまわったもんですけど、英男が東京へ出てからは、まあ成人しましたし、とくに観てませんでね。格闘技に関してはよく思ってなかった部分もありまして。

――では、所選手の試合を会場でご覧になるのは初めてだったんですか？

父　いえ、9月の『HERO'S』と11月の『ZST』は観に行きましたんで、3回目ですか。でも今回は試合時間が長かったもんで、観ながらいろんなことが走馬灯のように甦ってきてね。「英男はこんなことがしたかったんやなぁ」って、早く理解してあげればよかったなって思いながら観てたんです。

――そうでしたか（しみじみ）。当日、会場には前田日明さんもいらっしゃいましたが、何かお話はされましたか？

父　前田さんとは、11月の『ZST』のときに私の席の2、3個隣におられたんでね、そのときにちょっとご挨拶を。

――お父さんから見て、どんな印象でした？

父　いやあ、大きい方でねぇ。なんか、温かい方だなと。

――温和だったと（笑）。

父　前田さんには子どもがK―1と契約するときの代理人になっていただいたということもありましてね。また、親に気を遣っておられたんでしょうけど「所くん、来年はもっとビッグになりますからね！」なんて言ってくださいました。

――所選手は前田さんと、普段からよく一緒に練習してるみたいですしね。

父　そうみたいです。とにかく7月の『HERO'S』で勝ったときに前田さんからお電話をいただいたらしいんです。それで「携帯の電話番号まで教えてもらった！」ということをね、兄にもの凄く自慢してましてね。

――そんなに（笑）。

父　兄もやっぱり格闘技好きで、前田さんのことは神様みたいに思っているもんでね。「凄いなあ！」言うて。昔は「格闘技はケンカの延長や」なんて私も思っとったもんで、子どもたちがWOWOW観てても私自身はほとんど観なかったんですよ。けど、〝前田日明〟という名前は知ってましてね。というのは、〝テプラ〟とかいうシールがあるの知ってます？

――打った文字がすぐにシールにできるテープ製作機ですよね？

父　英男はあれを使って〝前田日明〟って書いたシールを部屋中に貼ってたんですよ。

――部屋中にですか!?

父　それに、前田さんは〝日〟に〝明るい〟と書いて〝あきら〟と読みますね。だから、変わった名前だなと思った記憶がありますよ。

――そんな無邪気な少年時代だったんですね。

父　それに英男の子どもの頃といったら、まあとにかく元気でね。

――やっぱり小さい頃から運動は得意だったんですか？

父　体育が「5」ばっかりということでもないですけど、とにかく動くことが好きでしたね。保育園入る頃からかな？　気管支が弱かったもんで水泳教室に入ってね、小学校1年生ぐらいからサッカーを始めたんですよ。しかし、4年生ぐらいからはスポーツといえば少年野球にしぼってましたね。英男の練習や試合は私もほとんどついて行ったもんですよ。

――父親にそこまでしてもらえるなんて、所選手は恵まれてますね。

父　そんなこともないんですけど。そこでもまあ、とにかく積極的というんですかね。恥を恥と思わないというか。……たとえば町内会でバスに乗って旅行なんかに行きますね。それでバスの中でガイドさんがクイズを出したりする場面もあったんですが。

――ああ、そういうのよくありますよね。

父　そうすると必ず1番か2番に「ハイハイハイ！」って手を挙げるんです。とにかく答えがわかってもわからなくても。

――クラスに一人はいそうなタイプ（笑）。

父　最初に声出して、みんなに注目されたいっていうのがあるんでしょうけど。当てられてから答えを考えるというね。授業参観にも行

きましたけど、とにかく親が来てることが嬉しいもんで、先生を見ながらウズウズしてましたよ。自分に当ててくれというようなね。

――非常に目に浮かびますね（笑）。でも、それだけ熱心に少年野球に付き添ってたということは、やはりお父さんとしては「将来は野球選手に」という思いもあったんですか？

父　高校卒業しても本人は野球を続けたかったみたいですけど、私としてはそうも思ってませんでしたね。ウチはクリーニング店をやっとるんですが、家の仕事を手伝わせてもね、長男なんかは「1時間手伝え」っていうと1時間きっかりでどっか行ってしまう感じやったんですよね。けど英男の場合は「1時間手伝え」っていうと、こっちが「もういい」と言うまで黙々とするようなタイプやったんです。

――ものごとに没頭するタイプなんですね。

父　そういう気質でないと私たちの商売はあかんもんで。ほんならクリーニング学校というのが東京にあるからそこに行かせようか、といって東京に行かせたんですよね。

――それがまさかプロの格闘家になって帰ってくるとは（笑）。

父　「一本刀土俵入り」といって、関取になろうと思って上京してやくざになったというような話が昔あったんですけどね、まさにそんな感じでしたね（笑）。

――お父さんは格闘技に関しては強く反対されてたんですよね？

父　もちろん反対しました。とにかく早く辞めさせなということと、ケガのないようにということを言ってたんです。それにすぐ辞めると思っとったんですわ。格闘技というと、私たちが子どもの頃に観た力道山のように強靭な身体の持ち主しかできないと思っとったんでね。

――所選手も格闘技に関してはお父さんに内緒にしていたと言われてましたが、実際に気づいたのはいつだったんですか？

父　プロになったときやないかな。真ん中の兄に聞きましてね。そのとき英男は私が紹介したクリーング店……、白洋舎さんに就職しとったんですけど、私に相談せずに黙って辞めてしまったもんでね。私も白洋舎さんにはよう挨拶もできんで、そのまま放ってしまってたんですが。

――そんなことがあったんですか。

父　しかしね、英男の就職をお世話してくれた方に言われたんですけど、白洋舎のOB会に出たときに「所くんの話が出ましたよ」と言ってくださってね。「『私が就職させた子です』と鼻が高かったです」と電話をいただいて。こちらからは顔向けできんなと思っとったもんで、私もやれやれと一安心しましたよ。

――テレビに映った7月、9月の『HERO,S』であれだけ活躍すれば、きっとそう言いたくなるでしょう。

父　私が初めて英男の試合を観たのも7月の『HERO,S』でしてね。あの大会に出場するということと、相手が強いというのは聞いとったんですが、『HERO,S』があれほど大きな大会というのは知らんかったもんで。

――それはご家族でご覧になってたんですか？

父　いえ、たまたま女房は友達と北海道旅行に行ってて、私一人が家でテレビを観とったんです。まあ、チラッとぐらいは映ると思っとったんですけど、観たらボブ・サップが出てくるしね、それと同じ舞台に子どもも映ってるもんでね。まず「ええっ!?」っと。

――ボブ・サップと同等だと（笑）。

父　普通なら子どもがテレビに出るとなると、みんなに「観てくれ」なんて言いたくなるんですけど、あそこまで映ると思わなかったもんで、私自身もビデオも何も撮らずにただ画面をジーッと観てました。

――翌日はご近所の方に声をかけられたりもしたんじゃないですか？

父　明くる日にね、わざわざクリーニング持って「観ました！」という方が2、3みえましたよ（笑）。それに、他の町内会の人がわざわざ「昨日は凄かったな」と言ってくれたりね。逆に、地元の方でも知らん人は「何があったんや？」とポカンとしてましたけどもね。

――ハハハハ！　人によってまったく反応が違ったわけですね。その様子では年明けはますます騒がれたんじゃないですか？

父　今度は80歳過ぎの方にまで試合観てもらって。「いい試合やった！」と言ってもらえて嬉しかったですね。

――それはかなり鼻が高かったでしょうね。

父　いやぁ。でも親はもの凄い不安でしてね。10秒か15秒でやられるとなれば、やっぱり地元の人に見られるということもあったもんで責任を感じるというかね。「なんとかいい試合をやってくれ」っていうのが本音でしたね。

――でもあの試合の活躍で所人気はまた一層上がるんじゃないかと思うんですけど。とくに女性人気が（笑）。

父　ハッハッハ！　女性人気ねえ。

――ちなみに、所選手は昔から女性にはモテてたんですか？

父　女性人気はわからないですねぇ。生徒会の役員やったりってタイプじゃないんで。……そうたいしたことなかったと思いますけど。

――それは意外ですね（笑）。

父　でも、兄の友達と遊んどったということもあって、とにかく上級生にはどこに行ってもかわいがってもらってましたけどね。上京してからも兄の友達で大学に行ってる子が英男を訪ねてくれてご飯を食べさせてくれたりとかしてたみたいですから。だから、英男が華々しくなったから周りがついてきたんやなくてね、いまの付き合いは昔から「英男、英男」いうて集まってくれた人ばかりですよ。

――所選手は本当に人に好かれるツボを生まれつき身につけてたという感じですよね。

父　やっぱし三男坊なもんで、そうせんと注目されないとわかってたんかもしれないですけど（笑）。

――なるほど（笑）。そんな所選手ですが、『Dynamite!!』であのホイス・グレイシーと互角の闘いをしたとなると、今後さらに強い人と闘う機会が増えると思うんですが。

父　怖いですね。でも、本人はどうも楽しいみたいですけど。今回も永田選手からホイス選手に対戦相手が変わりましたよね？　そのことで英男と長男が電話で話とったんですが、英男はもの凄い喜んどると言ってましてね。長男は「えらい人と当たったもんやな」と言ってたんですけどね。そのへんの感覚がね、私らが思ってるよりかなり図太いかなと（笑）。

――本当にいい意味で欲張りなんでしょうね。

父　わざとそう言っとるのか、天然なのか私もよくわからんですけど。今年はKID選手や元気選手とか大物と闘う可能性が私から見てもあると思うんですが、親はとにかく心配でしてね……。しかし、本人は負けのことなんて毛頭考えてない。バスでの出来事やないですけど「ハイハイハイ！」って手を挙げて、大物と当ててもらうのを待ってる感じで。

――要は、昔と変わってないってことなんでしょうか（笑）。

父　親としてもいままで通りでいてくれるほうがいいんですけどねぇ。

――格闘家になっても、テレビに映っても、変わらないでいてほしいと。

父　まあ、ゴングが鳴ったら強くあってほしいですけど、リング外では弱くてもかまわんもんで。立派な人間であってくれればねぇ、私としてはそれで充分です。

【06年1月29日／電話取材にて収録】

ゴングが鳴ったら強くあってほしい リング外では弱くてもかまわんもんで

所選手のブログを厳しくチェックする所パパ。「温かい言葉をみなさん書いててくださるもんで」と話す所パパは、"読者の方への返事と更新は確実に"というアドバイスを遠く岐阜県からコトあるごとに伝えているという。

所英男を見いだした男

上原譲［ZST広報］が語る

“坊主”が“世界の所さん”になるまで

リングス広報としてアマチュア時代から所を知り、その後、“ZST四兄弟”として所英男を抜擢。現在はZST広報として、所さんのマネージャー的な役割もつとめる上原氏。そんな“所を最も知る人物”が至近距離から見た、格闘家・所英男のサクセスストーリーを語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ　写真提供／所英男

——今日は、アマチュア時代から所選手をよく知るZST広報の上原さんから見た所英男を語っていただきたいんですけど、そもそもの出会いはなんだったんですか？

上原　最初はアマチュア・リングスの大会ですね。所は何度かアマリンに出てたんですけど、毎回、書類の不備があることで有名だったんですよ。

——ダハハハ！　書類に不備がある男として覚えたと（笑）。

上原　そのときは彼が所属してた『パワー・オブ・ドリーム』とリングスがあまりいい関係じゃなかったんで、リングスに対する嫌がらせなのかなと思ってたんですよね。だから嫌な坊主だなっていうのが最初の印象ですね（笑）。

——ヒドい第一印象ですね（笑）。

上原　しかもその坊主がいっつも締め切りギリギリになって書類を提出してくるんですよ。それで最後のアマチュア・リングスである『KOKリミテッド』っていう大会で所は優勝したんですけど、決勝で闘ったのがリングス所属ではないけれど当時、前田道場で練習してた上原力っていう選手だったんですよ。

——ああ、いましたね。

上原　この『KOKリミテッド』の優勝者はリングスの『バトル・ジェネシス』（中軽量級中心の大会）に出場できるってことにしてたんですけど、僕らとしては前田道場で練習してて、リングス入門テストを受ける予定だった上原力とリングスライト級のエースだった小谷が闘うっていうのが理想だったんですよ。

——じゃあ、所選手が優勝したのは想定外と（笑）。

上原　そうです。あんな坊主をリングスに上げようとは思ってませんでしたから（笑）。

——その頃からプチ番狂わせを起こしてたんですね（笑）。

上原　でも、あそこで所が優勝したことで、所の師匠であるヤマケン（山本喧一）さんと前田さんが再び会うきっかけになったんですよ。

——それでリングスの末期にヤマケンさんがリングスに上がるようになったわけですか。

上原　そうなんです。それでその小谷vs所っていうのもZSTの原点みたいなものだし、結果的にいろんなきっかけにはなってるんですよね。でも、『バトル・ジェネシス』の記者会見を開いたとき、一人だけリクルートスーツみたいなのを着た場違いな坊主がいるわけですよ。そんときは「失敗したな」と思いましたけどね（笑）。

——まぁ、ZSTになってからも、上原さんのスーツを借りて記者会見に出たりしてる男ですからね（笑）。

上原　ただ、アマリンに優勝して『バトル・ジェネシス』に出るってなったあと、『タイタンファイト』で所選手の試合を見たんですけど、20キロ重い選手にヒール極めて勝ったり、優勝した重量級の選手にも向かっていってたんで「負けん気は凄いな」と思ってたんですよね。

——あの大会はフリーウエイトでしたからね。

上原　だからリングス『バトル・ジェネシス』での小谷直之戦も、対格差も実力差もあるんで、すぐ終わると思ってたんですけど、下から動いて果敢に攻めてましたからね。だから、基本的にどんな相手でも果敢に攻めていくっていうスタイルは、昔から変わってないんですよね。

——その頃、小谷選手に向かっていったと同じように、去年、ペケーニョやホイスにも向かっていってたわけですね。

上原　たとえるなら、所英男は「迷わずバンジージャンプを飛べる人間」なんですよ。怖いもの知らずでとにかく思い切りがいいと。

——普通、なかなか試合でギャンブルできないもんですけど、所選手の場合、「ギャンブルしよう」という決心すら必要なく、いつの間にかギャンブルしてるみたいな感じですよね（笑）。

上原　そうなんですよね。だからリングスファンでヴォルク・ハンに憧れてたりしたのが、いい方向に向かったのかもしれないし。あとは大きな分岐点になったのが『ZST・2』での松本秀彦戦ですね。所英男はあの試合の前に、勝ったときのガッツポーズの練習してたんですよ。

——ダハハハハ！　そんなアピールの練習を（笑）。

上原　僕はそれを見て「バカだな、こいつ」と思ってたんですけど（笑）、実際、しょっぱい試合で微妙な判定勝ちしたあと、大喜びではしゃいでガッツポーズしたんですよね。それを見たZSTのスタッフ全員が怒りまして、所のことを叱ったんですよ。そこから変わりましたね。

師匠・ヤマケンが獲得したUFC-Jのベルトを勝手に拝借して記念撮影をするジム生・所英男。いまこのベルトは須藤元気の元にあるが、これを奪い返すことが所の目標でもあるのだ。

98年当時は単なるイチ・リングスファンにすぎなかった所さん。東京ベイNKホールでの試合を（もちろん自腹で）見に行くだけでなく、入口で記念撮影までしてしまうおのぼりさんだった。

格闘技を始める前、クリーニング会社「白洋舎」野球部時代の所さん。この草野球のキャッチャーだった男が、のちに日本シリーズMVP選手と対談するまでになるのだから人生わからない。

所英男の第一印象はアマ大会出場書類に毎回不備がある嫌な坊主でしたね（笑）

——プロとしての考え方が変わったわけですね。

上原　そうです。あそこからプロが試合をするということは、勝つだけじゃなくて、ファンが驚き楽しんでもらえる闘いをしなきゃいけないっていう考えになったんですよ。だからあの試合以降、所の試合は変わってると思いますよ。たしか次がレミギウスで、その次は中原太陽選手との試合だったと思いますけど、あのへんの試合では所本来の動き回るアグレッシブな試合をやってましたからね。

——なるほど。ところで、もともと上原さんはなぜ当時は無名だった所選手を「ZST四兄弟」という中心選手として使おうと思ったんですか？

上原　ZSTというのは中途半端で終わってしまったリングス・ライト級を受け継いで、しっかりとした形にしようというところから始まってるんですけど、その際の中心人物として、まず〝リングス・ライト級のエース〟って言われてた小谷を出そうというのが決まっていたんです。あとはリングスにも上がっていて特異なキャラクターの持ち主だった矢野（卓見）さんに上がってもらいたいと思って、それから矢野さんとよく一緒に練習してる選手でキャラが強くて、足関というセールスポイントを持った今成（正和）という選手がいるって聞いたんでお願いしたんです。そして所ですけど、彼はまぁリングスで小谷とやってるし、いいかなって感じだったんですけど（笑）。

——四兄弟というより、〝3強〟プラスおまけみたいな感じですか（笑）。

上原　いや、でもいい試合をしてくれるんじゃないかっていう期待はもちろんありましたけどね。ZSTは〝リングスの続き〟という部分も大きかったんで、所がリングスファンだったことも幸いしたんじゃないですか。

——それにしても、所選手はZST登場以来、一貫としていじられキャラですよね。

上原　そうですね。でも、このあいだひさびさに飲み会みたいなのがあったんですけど、ビール5杯ぐらい飲んだら調子に乗り始めて「人生バランスが大事なんれす。上原さんがこういうキャラクターだから、僕はこうでいいんれす」とか力説してたんですよ。

——酔った勢いで（笑）。

上原　ろれつは回ってないし、なんだこいつと思いましたけどね（笑）。

——ZSTの初期に所英男といえば、「遅刻」「ウソツキ」「スケベ」というのが3大特徴でしたけど（笑）、最近はどうなんですか？

上原　いまはちょっと有名になっちゃって、へんに手を出せなくなってビビッてますよ。

——あ、スキャンダルにならないように（笑）。

上原　だからウチがどうやってやっていくかですね。でも、なんかギャラは貯めてるみたいですよ。定期預金を始めたみたいで。

——定期預金！　しっかりしてるじゃないですか。

上原　このあいだ「上原さん、知ってますか？　100万以上の定期預金を組むと銀行の引き出し手数料がかからなくなるんですよ」とか、豆知識を披露してましたよ（笑）。

——でも、所選手の場合、こうやってスターになっても天狗になるってことはないですよね。

上原　そうですね。所の場合、お金が入るようになって浮かれるというのじゃなくて、心のゆとりができたみたいですね。いままでは常にお金の心配があって、バイトとかもやらなきゃいけないのと、練習環境があまりよくなかったことで、納得できる練習ができてなかったみたいなんですよ。それがいまはお金は普通の生活に困らないぐらいはあるし、リバーサルジム所属になったこともあって練習環境も充実してるし、自分がどんどん強くなってることを実感してるみたいなんですよ。

——じゃあ、この大ブレイクがゴールというより、ここからがようやくスタートということですね。

上原　そうですね。だからべつに有名になってもまったく性格は変わらないし、相変わらずいじられキャラだし（笑）。それでも格闘技という面については、まだまだ伸びしろがいくらでもあると思うんで。フィジカル面や打撃なんかについても、ようやく本格的にやり始めたところですからね。だから、これからも期待してもらっていいと思いますよ。

——前田さんも「今年が勝負やからな」って言ってるみたいですからね。では、今年も所選手のさらなる活躍を期待しましょう！

【06年1月27日／代々木八幡の喫茶店にて収録】

リングス活動休止前、最後のアマチュア・リングスの大会（KOKリミテッド）で優勝し、前田総帥と記念撮影に収まる所さん。この優勝でリングス出場の道が開け、ZSEへとつながっていったことを考えると、まさに人生の大きな転機だったのだ。

『アマチュア・バトラーツ』の大会でも優勝し、イカレ社長こと石川雄規らと記念撮影に収まる所さん。まさにアマチュア大会荒らしともいうべき活躍ぶりだったのだ。

アマ時代から動き回る寝技が持ち味だった所さんは、『アマチュア・コンテンダーズ』でも優勝。数年後、大会プロデューサーである宇野薫と闘うとは、この時点では夢にも思わなかっただろう。

プロデビュー前、さまざまなアマチュア大会に出場していた所さん。これは師匠ヤマケンがプロデュースした『タイタンファイト』で素手のバーリ・トゥードルールで闘ったときのものだ。

応募券
パンチ監督

“世界の所さん”の部屋にあった

愛用品大プレゼント!!

丸ごと20ページ、世界の所さん特集の最後を飾るのは愛用品大プレゼント!
雑然とした風呂なしアパートにあった本物の愛用品を
たっぷりとちょうだいしてきました。
どれもこれも最近まで本人がホントに使用していたものばかり。
もちろん、もれなく全部直筆サイン入りです!!

応募要項

ハガキにこのページ上にある応募券を貼り、①～⑦の質問の答えを明記の上、下記の宛先まで郵送してください。抽選で各1名様に世界の所さんの愛用品をプレゼントします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（商品は3月20日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤この特集の感想⑥世界の所さんにやってもらいたい企画⑦所さん以外で同じように大特集してほしい選手名

【宛先】〒151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス　kamipro編集部「所さんのマジックミラー号」係

ZST「ストイック」Tシャツ

ハッスルTシャツのデザインもろパクリな「ストイック」Tシャツ。しかし、なぜにZSTでストイック？

パワー・オブ・ドリームTシャツ

世界の所さんが最初に格闘技を始めたジム「パワー・オブ・ドリーム」Tシャツ。所さん自身、もうこれ一枚しかないという貴重な一枚をプレゼント！

『GT-F』Tシャツ

所さんがプロになって初の栄冠であるグラップリング大会『GT-F』のTシャツ。イラストは本誌でもおなじみ花くまゆうさく先生。これだけ新品です。

ZST Tシャツ

所さんのイメージカラーである赤の『ZST』Tシャツ。押し入れのハンガーに掛けてあったものを強奪しました。

アディダスのジャージ

これまた押し入れの中に入っていたジャージ。ズボンのほうは見つからなかったので、上だけですがこれまた愛用の一品です。

トレーニングウエア

所さんが長年使用しすぎて、すっかり汚れが落ちなくなってるトレーニングウエア。“愛用度”でいえばこれが一番！

ISAMI製の単パン

これまた練習でよく使った単パン。試合用モデルとデザインが似ているので、所英男変身セットとしての使用も可。

所さん愛用マグカップ

所さんが取材日の朝まで使ってた愛用マグカップまであげちゃいます！

所英男セレクションBOX

シューズの箱ですが、中身はスニーカーではありません。所さんの秘蔵コレクションをドドーンと放出！　ちなみに男性限定です（笑）。

ケロリンの風呂桶

銭湯に行くと必ずある「ケロリン」の風呂桶。所さんの象徴のようなアイテムをサイン入りで！

レミーガ戦で使ったアンクルガード

所さんが初めてレミギウスと闘ったときにつけていたアンクルガード！　なお失神KO負けを食らったいわくつきのアイテムです！

蘇れ！ 栄光のAWA伝説

旧友再会

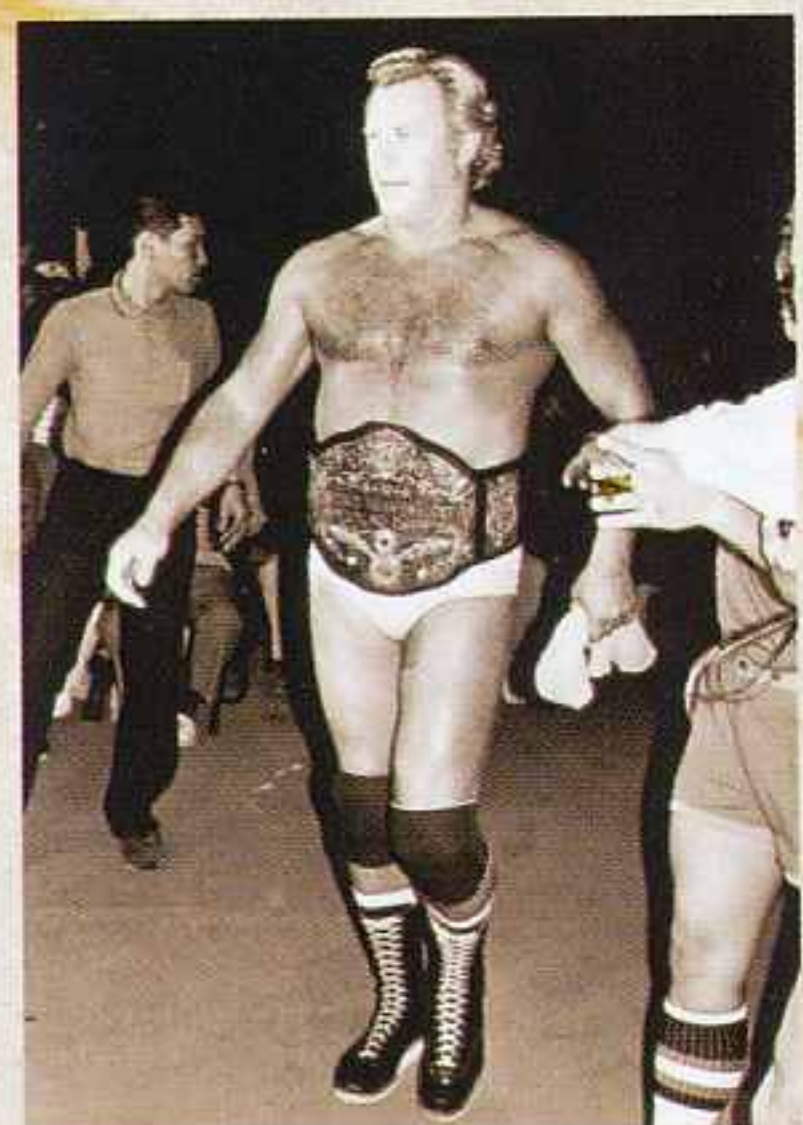
第36代 AWA世界ヘビー級王者

マサ斎藤×ニック・ボックウィンクル

第24,26,28,32代 AWA世界ヘビー級王者

ZERO1・MAXでのAWA世界戦の立ち会い人として、来日したニックさんに会うべく、我らが“男の憧れ”マサ斎藤が表敬訪問！かつてAWAマットでタッグを組んで暴れ回った二人が久々の再会を果たした。古き良きアメリカンプロレスの伝説がいま蘇る！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／丸山剛史　通訳／上杉どんぐり

designed by matsu（TwoThree）

Masa Saito & Nick Bockwinkel

旧友再会

マサ斎藤×ニック・ボックウィンクル

ニックはジェントルマン 酒ばかり飲んでた俺とは違い レスラーの模範だった

ニック OH！ 久しぶりだな、マサ。かけがえのない友よ！

マサ 久しぶりだなぁ。

（熱く抱擁を交わす二人）

マサ夫人 彼は今日の日を楽しみにしていたんですよ。ずっとニックさんの写真を見ていたんですから。

ニック 私もマサとの対談の話を聞いて嬉しかったよ（ニッコリ）。

マサ夫人 （マサは）刑務所に入れられているときに、ニックさんに面倒を見ていただいて、すごく嬉しかったんですって。

ニック あの事件は本当に悲しかったよ。マサはまったく悪いことはしてないんだけど、ルームメイトが騒ぎを起こして、部屋にやってきた4人の警官をわけもわからないまま、ノシてしまったったんだよな。

――警官をぶっとばしちゃうって凄いですよね（笑）。

ニック 本当は彼に責任はなかったけど、とにかく警官をぶっ飛ばしてしまったから、関係者もどうすることもできなくてね。1年半も（刑期を）打たれたんだよ。だから、私のワイフが日本食を持っていったり、面倒を見たんだ。（マサに向かって）誰だっけあのときのルームメートは？

マサ ケン・パテラだよ。

ニック （苦虫を噛みしめたような表情で）あぁー！ ケン・パテラかぁ……。彼は本当にデカいだけが取り柄のヤツでね（タメ息）。彼は本当に厄介なヤツだったよ。

――迷惑な男でしたか（笑）。

ニック いまでもだよ。あれからずいぶん時間が経っているけど、いま思い出しても、アスホールと言ってやりたいね。

マサ でも、まぁ（刑務所は）いい休養になったよ。

――刑務所がいい休養ですか（笑）。

マサ 規則正しい生活で身体を治せたしね。他にやることないから練習ばかりしてたし。

――それで刑務所から出てきたら、余計強くなってたっていうんだから凄いですよね（笑）。刑務所にいたころは日本からカルピスの差し入れとかもあったんですよね？

マサ うん。よく飲んでたよ。

――これはファンの間で語られてる伝説なんですけど、マサさんがカルピスを水で薄めず、原液のままロックでガンガン飲んでたってホントですか？

マサ 水で薄めないと飲めないよ～（笑）。

――ダハハハハ！ さすがにそれは都市伝説でしたか（笑）。

マサ ちゃんと薄めないとおいしくないじゃない。

ニック たしかマサは、スコッチかバーボンで割って飲んでたんじゃないかな（笑）。

――ダハハハハ！ それならわかります（笑）。

マサ ニックはいくつになったの？

ニック 私？ 71だよ（笑）。

マサ ガッハッハッハ、ずいぶんになるなぁ。

ニック ユーは？

マサ シィックスティスリィ～～！

ニック じゃ、まだまだ子どもだね（笑）。

マサ ガッハッハッハ！

――凄く久しぶりにお会いになったと思うんですけど、いつ以来ですか？

マサ いつ以来？ ……（沈黙）……忘れちゃったな（笑）。

――忘れちゃいましたか（笑）。

ニック 長く人生をやっていると、ついこの間のようにも思えるし、ずいぶん前のようにも思えるし、そんなもんだよ（笑）。ミネアポリス（AWA）に来たのはいつだっけ？

マサ たぶん、82年ぐらいかな。87年にAWAから出るまで、ニックとはよくタッグを組んでたなぁ。

――あ、タッグを組んでサーキットを回っていた時期もあるんですか？

ニック そうだね。AWAは私たちにタッグを組ませたんだよ。いいチームだった。移動もずっと一緒で、デカいバンを借りてたんだけど、マサはバンの中にソファやベッドがあるのに、床で寝てたんだ（笑）。

マサ ガッハッハッハ！

ニック 全然気にしない男だったんだよ。

――イメージ通りですね（笑）。マサさんから見てニックさんはどんな人でしたか？

マサ そりゃあジェントルマンだったよ。俺とは大違い（笑）。

ニック まぁ、マサと比べたら少しはジェントルマンだったかもしれないね（笑）。

マサ ニックからはいろいろ勉強したよ。

――ニックさんから何をもっとも学ばれたんですか？

1・22 ZERO1・MAX後楽園大会で行なわれた、大谷vsコリノAWA世界戦の特別立会人を務めたニックさん。試合ではイス攻撃を仕掛けるコリノからイスを取り上げるだけでなく、「思わずレスラーの血が騒いで」（ニック談）大谷にイスを振り下ろすという、一見段取りを間違えたかのような暴れっぷりをみせてくれた。

マサ　やっぱりアメリカで一人で独立して闘っていくという心意気のようなものかな。ニックは若い頃から引退するまでトップを張ってた男だからね。

ニック　でも、それについてはマサはしっかりできていたよ。たとえば、ロード・ウォリアーズが初めて日本に行く前に、アメリカで私たちと試合をしたんだよ。日本からはわざわざカメラクルーがAWAに来たんだが、彼らは自分たちだけが目立つような試合をしようとしていたんだ。でも、それはいけないことだろう？　私たちはもちろん、そんなことはわかってたから試合前にマサと、やられたらやり返そうぜって話をしてたのさ。だから、結局日本のクルーはいい映像は撮れなかったよ（笑）。

――まだ見ぬ強豪ウォリアーズが全然強く見えない映像になっちゃったわけですか（笑）。

ニック　私は努力しているアスリートを否定するようなことはしないけど、人をバカにしたような態度を取る人間には、好きなようにはやらせないよ。

――そういう若僧には身体でわからせるわけですね。

ニック　彼らは"作られた筋肉の鎧"を身にまとっていたけど、そんなものはマサには通用しないよ。

――マサこそ本物の筋肉と（笑）。

ニック　彼らが強さを図る目安は、どれだけ筋肉があるかだったんだが、レスリングをマスターしていたマサには、筋肉の大きさなんか意味のないことだったね。

――そんなマサさんは生意気なボーイズがいたときには、「ちょっと懲らしめてやるよ」というような役をけっこう受け持ってたりしたんじゃないんですか？

マサ　それはね（ヒロ・）マツダさんがひどかったから、俺もね（笑）。

――マツダさんからそういうものを継承してきた、と（笑）。それからマサさんは、当時は、レスラーだけじゃなくて、挑戦してくる観客とも闘ったらしいですね？

マサはカルピスをバーボンかスコッチで割って飲んでいたような気がするな（笑）

マサ　あの頃は、そういう時代だったからね。自分の商売を守るためにやったよ。

――カッコいいですね～。これこそ絶対に負けられない闘いですもんね。当時はヒールに観客がナイフを突きつけてくるというようなこともあったんですか？

マサ　それはもっと昔の話だな。

ニック　太平洋戦争後の1940年代には日本人に対してネガティブなイメージも強かったから、ヒールの日本人に対してそういうことがあったのかも知れないけどね。

――では、マサさんにとってAWA時代のサーキットは快適でした？

マサ　まぁ、快適なこともあったしキツいこともあったよ。同じところにいるわけにはいかないんだ。サンフランシスコとかソルトレイクシティ、デンバーのあたりとか、あの頃の時代としては距離があった（サーキットだった）な。

――ニックさんは当時チャンピオンですよね。マサさんから見て、ニックさんはチャンピオンとしてどういうところが優れていたと思いますか？

マサ　やっぱりねぇ……（5秒ほど経過）……なんだろう？（満面の笑みで）。

――ダハハハ！　出てこない（笑）。

マサ　いや、いつも試合を大切にして、キチっとしていることかな。

――レスラーとして模範的な存在だったわけですか。

ニック　ありがとう（笑）。私たちはお互いを讃えて、褒め合うことにしているんだよ

栄光のAWA世界ヘビー級王座変遷史

初代　バーン・ガニア
2　ジン・キニスキー
3　バーン・ガニア
4　ミスターM（ビル・ミラー）
5　バーン・ガニア
6　クラッシャー・リソワスキー
7　バーン・ガニア
8　フリッツ・フォン・エリック
9　バーン・ガニア
10　クラッシャー・リソワスキー
11　バーン・ガニア
12　マッドドッグ・バション
13　バーン・ガニア
14　マッドドッグ・バション
15　イゴール・ボディック
16　マッドドッグ・バション
17　クラッシャー・リソワスキー
18　マッドドッグ・バション
19　ディック・ザ・ブルーザー
20　マッドドッグ・バション
21　バーン・ガニア
22　ドクターX（ザ・デストロイヤー）
23　バーン・ガニア
24　ニック・ボックウィンクル
25　バーン・ガニア
26　ニック・ボックウィンクル
27　オットー・ワンツ
28　ニック・ボックウィンクル
29　ジャンボ鶴田
30　リック・マーテル
31　スタン・ハンセン
32　ニック・ボックウィンクル
33　カート・ヘニング
34　ジェリー・ローラー
35　ラリー・ズビスコ
36　マサ斎藤
37　ラリー・ズビスコ
※ラリー・ズビスコのWCW移籍に伴い王座剥奪。91年に団体消滅。2005年ZERO1・MAXのリングでAWA王座再興。
38　大森隆男
39　スティーブ・コリノ
40　大谷晋二郎

AWAとは?

アメリカン・レスリング・アソシエーション。ミネアポリスに本部を置き60～80年代の古き良きアメリカンプロレス黄金期にNWA、WWWF（現WWE）と共に、"世界3大王座"と呼ばれた。84年にはジャンボ鶴田が日本人初のAWA王者となり、全米を防衛サーキットで転戦。90年にはマサ斎藤が東京ドームでまさかの王座奪取を果たし、試合後、日本プロレス界初の"ウエーブ"が起こるなど、日本マット界との関わりも深い。昨年、ZERO1・MAXのリングで復活。現王者・大谷は40代目王者説と34代目王者説がある。

旧友再会

マサ斎藤×ニック・ボックウィンクル

大事なことは量ではなく質。それはいまも昔も変わらない

（笑）。というのはね、スタイルが違うということもあるんだけど、彼はプロになる前にアマレスをしていたし、それは私とも重なるんだよ。私も父からレスリングの教育を受けたからね。だから、常にお互いをリスペクトして、信頼していたんだ。

――マサさんはニックさんが模範のタイプということでしたが、マサさんご自身はどんなタイプですか？

マサ うーん。酒ばっかり飲んでたから模範じゃないよなぁ……。

一同 ダハハハハ！

ニック 彼はたくさん食べるし、飲むしね。ロード中に外出するときは彼はいつも行動が早かったよ。いい場所を見つける嗅覚があったというかね。すぐにいい場所を見つけてしまうんだ。私はマサとは違っていろいろ考えて選ぶタイプだったんだ。でも二人が違うタイプだったことはうまくいったね。アプローチの仕方が違うから、常にいいチョイスができるんだ。

――そうやって飲みにいくのは、夜のショーが終わってから繰り出したんですか？

マサ そうそう。ダウンタウンに繰り出すんだよ。

――どんな店に行くんですか？

マサ レスラーが行くバーがあるんだよ。

――飲み方としては、どんな飲み方だったんですか？

マサ 酔っぱらうまでだよ（笑）。

――酔っぱらうまで（笑）。

マサ でも、誰にも迷惑を掛けないよ。

ニック べつにいいんだよ。マサは運転していなかったからね。それは私の役目だったから（笑）。彼はホントによく食べて、飲んで、……（マサ夫人を見て言いにくそうにして）……いいレスリングをしていたよ。

――ダハハハハ！　いま何か言いかけましたね（笑）。

マサ夫人 ニックさん、私は彼の3番目の妻だから気にせずお話してくださいね（笑）。

マサ 彼はね、1時間飲んだらちゃんと帰ったんですよ。チャンピオンでしょ。レスラーとして摂生がうまかったね。

ニック そうだね。私は彼ほどタフじゃなかったからね（笑）。

マサ 俺の場合は、酔っぱらうまで飲んじゃうから（笑）。

ニック 食事に関しては、私も彼と同じくらい食べたけど、ビールとサケ（日本語で）とスコッチとかウィスキーに関しては、彼

に比べれば、私は子どもみたいなものだったよ（ニッコリ）。
―女性に対しては、どっちがモテたんですか？（笑）。
ニック　さぁどっちかな。まずは私たちはファンの好みのタイプじゃなかったからね。それに二人ともハンサムなほうじゃない。だからレディーに追いかけられる問題はなかったよ（笑）。
マサ夫人　ニックさんたら、私がいるからしゃべらないのよ。でもいろいろあったんでしょ（笑）。
ニック　いやいやホントに人気がなかったんだよ（笑）。

プロレスは夢のあるスポーツなんだからファンが知らなくていいこともあるさ

―じゃ、ハードなロードの中で楽しみというのはなんだったんですか？
マサ　何もない（キッパリ）。
―ダハハハ！　何もありませんか（笑）。
マサ　ビール飲んで終わり。（楽しみは）試合が終わったあとのシャワーとちょっとだけの安心感だけだよ。
―週に何試合ぐらいやっていたんですか？
マサ　4試合とか、5試合かな。
ニック　週によって違うけど、ロードに出ているときは毎日試合があったし、全然試合がないときもあったしね。
―ニックさんは最近のプロレスはご覧になってますか？
ニック　たまにだね。チャンネル回してやっていれば、見るって感じだけどね。いまのスタイルは、量だけ増えて、質が下がっているように感じるよ。巨乳のコがやたら目立ってるし。私たちの時代には、あんなコはロッカールームにいなかったよ（笑）。
―そうでしょうね。
ニック　いまのレスリングは、限られた時間にどれだけのムーブを盛り込むかの競争に見えるね。それは、私たちの知っているレスリングからは離れてしまったようだ。
―マサさんはここ数年で、いいなぁと思うような選手はいますか？
マサ　新日本にいたときは、ガイジン担当やってたからね。スコット・ノートン、（ビッグバン・）ベイダーとかね。こないだ見たのは、なんていうんだっけ？
マサ夫人　ブロック・レスナーでしょ。
マサ　そうそう。でも、アメリカでやっているレスラーは、そのまま同じこと日本でやっても通用しないんだよな。そこを導いてやるのが俺の役目だったんだけど。
―日本で成功するコツみたいなものとし

て、どんなことを教えたんですか？

マサ ………いまって、そういうこと言ってもいいの？（笑）。

―ダハハハ！ いまのファンはタフですから、いいと思いますけど。

マサ でも俺がやってきたことは言いたくないね。

―そこは企業秘密だと（笑）。

マサ やっぱりプロレスラーだけがわかってることっていうのは必要なんだよ。なんだかんだみんな言っちゃうとおもしろくないじゃん。プロレスは夢があるスポーツなんだから、ファンが夢を見るためには教えないほうがいいこともあるんだよ。

―なるほど。

ニック 保守的だと思われるかも知れないけど、そういったことは大事なんだよ。レスリングはひと言で簡単に言えるようなことじゃないからね。

―いま日本ではプロレスの人気が低迷しているんですけど、プロレス再興のために何かアイデアや提言があれば、教えていただけますか？

ニック そうだなぁ。団体が多すぎることが問題だね。それから試合の中身についてもさっきも言ったけど、試合の中で技の数を競っているんじゃダメだね。二つの技より4つの技というふうにね。それじゃ、アクロバットのデモンストレーション合戦になってしまっているようにしか見えないよ。それが試合の質を下げているんだ。まるで、交通渋滞の中にあるような状態だね。バックドロップ、ボディスラム、ヘッドロック、レッグロックと技は多くあるけど、詰め込みすぎて試合を動かせていないんだ。

―マサさんはどのようにしたら落ちたビジネスをもう一度上げることができると思いますか？

マサ 日本のプロレス界はもうグチャグチャでしょ。テレビの時間帯も落ちた（遅くなった）でしょ。

―はい。

マサ 誰かプロレス界をまとめる人がいないとダメなんだよ。じゃないと……この先もっと悪くなるよ。

―いまよりさらに悪くなっちゃいますか。

マサ プロレスがプロレスでなくなってきてるんだもん。戻れなくなる前に、早くこのプロレス界をコントロールする人がいないと。

ニック キッチンの中にシェフが多すぎるんだよ。境界線を定めて、その地区のプロモーターを決めて、質の高い興行を提供すればいいんだよ。みんなこのビジネスで数ばかり求めている。それじゃ、おもしろいものはできないだろ。

マサ いまは昔では考えられないようなプロレスがいろんなところで作られてるでしょ。ルーチャだってなんだって、いろんなプロレスはあっていいんだけど、それが今後のプロレス界に対して良いか悪いかしっかり見分ける人がいないんだよな。

ニック そうだね。誰かがどういうプロレスが求められているかを定義しなければいけないね。シチュエーションが悪くなる前に、何かしなければならない。だから私の印象でいうと、量ではなく質を求める環境にならないといけないな。たとえば去年の6月にカート・アングルとショーン・マイケルズが闘っているのをPPVで見たんだけど、本当に素晴らしい試合だったよ。ファンが試合そのもの、二人の一挙手一投足に対して、声援やブーイングを送っていたんだ。つまり、結局すべてはこれなんだと思ったね。私は楽しんだし、ファンも楽しんだんだ。そこに確かに商品はあるんだ。少し、悲観的な感情を持っていたけど、プロレスはプロレスなんだよ。プロレスの定義というのは古くならないんだ。

―マサさんはどうですか？

マサ うん、プロレスっていうのは誰でもできる仕事じゃないんだよ。選ばれた者にしかできないんだから、そういうものを背負っていかないと。ファンだってちゃんとトレーニングして身体作った男が闘うから見てくれるんだから。誰でもやっちゃうと、ビジネスが段々下がっていっちゃうじゃない。

90年12月26日、浜松アリーナ■T・J・シン、ヒロ・マツダなど往年のレスラーがゲスト出場した新日本のビッグマッチで、最後のマサvsニックが実現。この時点でニックはすでに引退していたが、現役時代と変わらぬ動きでファンを魅了した。

―逆にいま総合格闘技が凄い人気なんですけど、マサさんが若かったら挑戦してますか？

マサ デンバーかどっかで見たね。アルティメットというのを。

―あ、実際に。

マサ 凄いなぁと思ったね。なんか、グローブもなんにも着けないでやるんで、「こういうのもあるのか、俺にはできねえな」と思ったけど（笑）。

―いやいや、プロレスファンはオクタゴンで大暴れするマサさんを夢見てたんですよ（笑）。

マサ 俺もなぁ、いま45歳ぐらいのグレイシー……いるじゃん？ 名前なんだっけ？

―ヒクソン・グレイシーですか？

マサ そう。若かったら、あれとはやってみたいと思ったけどね。

―マサ斎藤vsヒクソン・グレイシーはメチャクチャ見たいですよ！（笑）。

マサ いま、ああいうのはアメリカでどこでもできるようになったの？

―地域によってですね。ようやく今年になってロサンゼルスとかでもできるようになったみたいです。いままでラスベガスとかだけだったんですけど。

マサ 『PRIDE』とか、そういうのが出てきたらねぇ。商売敵だけど、プロレスラーはもっと頑張らなきゃダメですよ。

ニック そうだね。あと4～5年後にどうなるか。私も大好きな日本のプロレス界が良くなることを願っているよ。

―わかりました。では、これからもマット界を見守っていただけたらと思います。ありがとうございました！

【06年1月22日／都内・某ホテルにて収録】

旧友再会

マサ斎藤×ニック・ボックウィンクル

プロレスはプロレスなんだよ。その定義は決して古くならない

PRIDEみたいなのが出てきたらレスラーはもっと頑張らなきゃ

マサ斎藤
Masa Saito

1942年8月7日、東京都出身。東京五輪にレスリング日本代表として出場。65年に日本プロレス入門。その後フリーとして日米を股にかけて活躍。87年、猪木との「巌流島の闘い」は試合時間2時間以上という歴史に残る死闘といなった。現在は健介オフィスの選手アドバイザー。

ニック・ボックウィンクル
Nick Bockwinkel

1936年12月6日、米ミズーリ州セントルイス出身。名レスラー、ウォーレン・ボックウィンクルの実子で、弱冠16歳でルー・テーズ相手にデビュー。72年にはAWA世界タッグ、75年にはAWA世界ヘビー級王者となり、通算7年以上王座を守り続けた。188cm、120kg。

構成／ささきぃ
撮影／平工幸雄
designed by matsu (TwoThree)

KENSUKE SASAKI 20th ANNIVERSARY
東京・後楽園ホール
2006.02.11

正直、感動！

佐々木健介、20年目の涙……!!

健介とこの日初めて対峙した中嶋くん。徹底的に痛めつけられながらもミドルを放ち、掟破りの逆ノーザンライトボムも披露。最後は敗れたが、健介もその成長ぶりに感動していた

バトルロイヤルに参加した鬼嫁、北斗晶。天敵・鈴木みのるの張り手を受け、いきなり鼓膜を破られるも、AKIRA、雷陣明との"アキラトリオ"で反撃。最後はみのるが勝ち残った

現在の佐々木健介を語る上で欠かせない存在、フロリダ・ブラザーズも登場。はじめて見た武藤敬司は、いまさらながらに「新日本時代の健介じゃ考えられない」と驚いていた

20周年セレモニーには健介を20年見守り続けてきた"父親"マサ斎藤さんが登場。花束を受け取った健介は号泣。「これからも見守っていてください」というメッセージが流れた

きわめて貴重な小橋建太の他団体参戦。口から大流血しながらも豪腕ぶりを見せつけ、試合後はメインを裁いた和田京平レフェリーと握手。「佐々木健介と出会えてよかった」

チケットは発売後、2日でほぼ完売。後楽園ホールはギッチギチの超満員。最後列、バルコニーともに数列の立ち見客がひしめいていた。テレビカメラ他、報道陣の数も大量。メインを見終えたマスコミの中からは「もう今年の最高試合は決まったんじゃないか」という声も漏れていた。

最初から最後まで、破壊王の言葉を借りるなら「どプロレス」の世界。お笑いにしても、バトルロイヤルにしても、こちらの期待を過剰に上回っている。"青春の握り拳"小橋建太の参戦、中嶋くんと佐々木健介の初対決。圧倒的にキャラクターが立った選手たちが見せる「どプロレス」、超ド級の「ノンフィクション家族もの」。あまりに直球すぎるその世界観は、普通なら失笑されるようなものかもしれない。だけど、この一家とその周囲の登場人物は、圧倒的な力強さで観客を引き込んでしまう。

小橋&健介組という、プロレス界の誇る豪腕タッグから雨あられの攻撃を受けた中嶋くん。試合後は「健介オフィスに残って良かった。佐々木さんと、北斗さんとやってきて本当に良かった。攻撃はすごく痛かった。痛くて、怖かった。僕には父親がいないんで、初めて親父に殴られたというか…親父の愛情を凄く感じました。健介オフィスにいて良かった」と、涙しながら試合を振り返っていた。「父親」というキーワードは、佐々木健介を語るうえで外せない。健介にとってのマサ斎藤さんがそうであったように、いま中嶋くんにとって佐々木健介という存在がいる。

そして、旦那の20周年セレモニーで、プロレスラーの平手を受けて鼓膜を破る嫁は世界中、どこを探しても北斗晶一人しかいないだろう。「北斗晶あっての佐々木健介」なのだけど「やっぱり佐々木健介の底力」でもあり「中嶋くんの可能性」でもある。息子には健之介くんと誠之介くんがいて……と、どこまでもキャラの立った健介ファミリー。そういえば、頑固なお目付役の天龍源一郎もいた。やっかいな隣人の鈴木みのるもいるし、あんまり役に立たない居候みたいな健心もいる。そのまま日曜9時とかのドラマにしたいような濃厚な人間絵巻と、彼らが愛してやまないプロレスの面白さをしっかり堪能できた大会だった。

恥ずかしがらずにレッツ・カミングアウト!

掟ポルシェの
萌え萌え女々苑
デラックス

女子プロ界のリビングレジェンドの
現在・過去・未来

“セクシーパンサー”
ミミ萩原改め 聖矢

掟ポルシェが独占直撃!

前号で掲載予定だった女子プロ界の“リビング・レジェンド”ミミ萩原インタビュー。諸事情により掲載が一号遅れてしまったが、その分、増ページでお届けする『掟ポルシェの萌え萌え女々苑DX』! 昨年12月に同期のジャガー横田の呼びかけで久々にリングに登場した“セクシーパンサー”ミミ萩原改め聖矢を掟ポルシェが直撃!!

聞き手/掟ポルシェ　構成/松澤チョロ　試合&スタジオ撮影/平工幸雄　designed by shiraki (TwoThree)

構成／ささきぃ
撮影／平工幸雄
designed by matsu（TwoThree）

あの素晴らしい時代をもう一度

女子プロスーパースター列伝

kampro

――今日（05年12月4日）は何年ぶりのリングになるんですかね？

聖矢　何年ぶりなんですかね？　細かいことは言わないでぇ（笑）。まあ、ウン十年ぶりかな（苦笑）。

――久しぶりのリングの感触はいかがでした？

聖矢　やっぱり、あの～、血が……騒ぐというか（笑）。リングに上がっちゃうと思わずロープに走っちゃいましたね（笑）。

――リングに上がったら試合をしたい気分になるんじゃないですか？

聖矢　なりますねぇ。できないのはわかっていてもね（笑）。体力はないけど、気は引退した当時のままですからね。あのときから、時が止まっちゃってるんですよ（笑）。

――まだまだ、ファンの皆さんもミミさんの現役復帰を期待してますよ！　今日も試合が見れると思って来た方もけっこういましたし。

聖矢　え～、そうなんですかぁ。あややややや（笑）。

――ガハハハ！　先程は試合ではなく歌とダンスを披露してましたけども、現在は広島を拠点に、ダンサーの男性・星十（せいじゅ）さんと一緒に歌と踊りのステージをやってらっしゃるんですよね。以前、広島の駅前で聖矢＆星十のパフォーマンス告知ポスターを見ましたよ。

聖矢　ええ、そうですね。あとはライブハウスとか、いろんなところでやってます。

――歌もダンスも、現役プロレスラー並のキレがあって華麗でしたよ！

聖矢　ありがとうございます！

――今回はジャガー横田さんの呼びかけに応えた形でのリング登場なんですよね？

聖矢　そうですね。しばらくお互いの電話番号もわからなくて連絡が取れなくて。それが最近ようやく連絡が取れて、久々に会えたんですよ。一番の親友だったんで。

――ジャガーさんとは同期になるんですよね。

聖矢　ええ。連絡が取れるようになってから、私が東京で仕事がある度に会って、食事をしたりとかしてますよ。ご主人も一緒に。

――最近ジャガーさんはダンナさんと必ずワンセットですよね（笑）。二人でのテレビ出演の機会もやたら増えて。そのジャガーさんはどう言って、ミミ萩原さんのリング登場を口説き落としたんですか？

聖矢　「名前が変わったっていうことを多くの人に知ってもらう、いいチャンスなんじゃないの？」って言ってもらったんですよ。

――現在はミミ萩原さんではなく、聖矢さんとして活動されてるんですよね？

聖矢　そうなんです。もう1年間、聖矢としてやってますね。

――改名のキッカケって何かあったんですか？

聖矢　そうですねぇ。どうしても、ミミ萩原っていうと、女子プロレスってイメージが強いみたいで。

――まあ、世間はそう認識していますよね。

聖矢　ですね（笑）。私がそう言わなくても、お呼ばれしていろんな舞台に行くと、垂れ幕とか看板とかで、長い間、「元女子プロレスラー」って書かれてましたしね。ホントは歌手が最初なんですけれども（笑）。

――〝セクシーパンサー〟（※ミミ萩原時代のシングルタイトル名で自身のキャッチフレーズにもなっていた）でしたからね！（笑）。

聖矢　今日も入り口でサイン求められて、みんなに「セクシーパンサーって書いてください」って言われましたよ（笑）。

――ガハハハハ！　じゃあ自分は「愛（アイリーン）鈴」（※ミミ萩原時代のシングルタイトル）でサインお願いします！（笑）。

聖矢　あら、そんなことまで知ってるの（笑）。

――はい（笑）。アイドル時代の曲っていうのは、いまでも歌われてるんですか？

聖矢　歌わないです、歌わないです。今日歌った曲もそうですけど、いまは全部自分で作詞作曲した曲だけですよ。現在CDが三枚出ています。全部で300曲ぐらい自分で作ってますね。

――300曲!?　そのペースで作曲し続けると古賀メロディ並に多作になっちゃいそうな勢いですね！　CDはどこで買えるんですか？

聖矢　広島のCDショップでは買えるんですけども。あとはインターネットでも販売してます。「聖矢・星十」で検索していただければ、私がいまどういうことしているかっていうのが全部出ますんで。

――聖矢・星十ですか……。名前だけ聞くと夫婦漫才みたいですね（笑）。

聖矢　そうそうそう（笑）。どこに行くにも一緒で。聖矢・星十のステージは歌とダンスが一つのパッケージになってるんですよ。セクシーダンスですね。老人ホームにお呼ばれしても、いまのセクシー路線は崩さないんです（笑）。おじいちゃん、おばあちゃんも喜んでくれます。

――喜びすぎて入れ歯も外れてフガフガしちゃいますよ！

聖矢　アハハハハハ！　逆に「刺激があっていい」って喜ばれますよ。

――刺激が強すぎて急にお迎えが来ちゃったら怖いですね！

聖矢　アハハハ！　日舞とか演歌歌手とかは老人ホームにもけっこう来てらっしゃるみたいですけど、そうじゃない刺激がほしいということで、お呼ばれする機会が増えましたね。皆さん凄い若返っていただいて（笑）。

――回春のお手伝いとしては十分すぎますね！　今日は現役時代の話もお聞きしますけど、コスチュームが派手だってだけで、かつての全女はいろいろキツかったみたいですね。

聖矢　もうホント、いま思い出しても大ッ変でした（苦笑）。

――鉄柱に手加減なしで頭を打ち付けられたとか。

聖矢　そうでしたねぇ……（しみじみと）。サードロープから顔の上に乗られて。胸の上じゃなくて顔に乗られたら受け身取れないんですよ。それで救急車で運ばれて。なんかパキーンっていったなって思ったら、次の日、病院で目が覚めたりとか。そういうのがしょっちゅうでした。

――「それ以上やったら死ぬだろ！」って感じですよね。やっぱり新人な

昨年12月４日に新宿FACEで行われたジャガー横田＆デビル雅美の女帝興行にゲスト出演したミミ萩原改め聖矢。女子プロ時代の同期ジャガーの呼びかけで数年ぶりにプロレスファンの前に姿を見せた聖矢は、いきなりロープワークを披露するなど久々のリングを満喫していた。

恥ずかしがらずにレッツ・カミングアウト!

休憩明けに登場した聖矢は300曲以上あるというオリジナル曲を熱唱。その後はセクシーダンサー二人を従え、リング上を所狭しと華麗にダンシング。現役時代のキャッチフレーズ"セクシーパンサー"ぶりプラス妖艶さを増した聖矢を見たければ広島へレッツ・ゴー!

のに人気があるのが先輩レスラーは気に入らなかったんですかね。

聖矢　というか「芸能人上がりがなんでプロレスやるんだ?」みたいなことじゃないですかね。でも私、芸能人上がりって言っても、芸能界をちゃんと辞めてからプロレス界に入ったわけですから。

——そうなんですよね。華やかな芸能界を辞めてまでプロレスをやりたかったっていうのは、なかなか理解しがたい部分がありますけど。

聖矢　そうですかね。もともと私はスポーツがなんでも大好きだったんですよ。

——テニスだとか乗馬もやられてたんですよね。

聖矢　そうですね。ただ、体力がなくて、昔から「強くなりたいな」とは思ってました。強くなれる職業で、そしてなおかつプロでできるものをって考えたときに、女子プロレスがやりたくなったんですよねぇ。ゴルフとかやっても強くなれないですし。

初めてプロレス観戦して『これが私のやる職業だ!』って思ったんです

——『プロゴルファー祈子』みたいにクラブ振り回してケンカすればけっこう強いかもしれないですけど(笑)。何か女子プロレスを志すきっかけみたいなのはあったんですか?

聖矢　テレビ番組でビューティ・ペアと一緒になって。ジャッキー佐藤さんが私のファンだって言ってて、話をしたら「今度試合を見に来てください」って言ってくれて。

——ジャッキーさんのほうがミミさんのファンだったんですか?

聖矢　みたいですね。そして、後楽園に招待されて、それが初めての生での観戦だったんです。で、「あ〜、これが私がやる職業だぁ!」とピーンと来て、見に行ったその日に「やる!」って決めちゃったんです!

——何か運命的なものを感じたんですね。

聖矢　もう次の日に女子プロレスのドアを叩きに行きました。

——行動早いですねぇ! でも、そのとき既に芸能事務所には所属されてたんですよね?

聖矢　そうなんですけど、その頃、5年契約が丁度切れるときで、次の契約をどうしようか話してたところだったんですよ。社長は自動的に次も契約するだろうと思ってたみたいですけど、社長に電話を入れて、「私は女子プロレスに行きますので」って話をしたら「はい、わかったよ」って言われて。

——エッ、二つ返事で送り出してくれたんですか?

聖矢　なんで、こんなに簡単にね、送り出してくれるのかなと私も思ったんです。そしたら、社長が先に全女に電話してたみたいなんですね。「ミミがそっちに行くと思うんで、適当にあしらって帰してやってください。ご迷惑をおかけします」と(笑)。

——どうせ一時の気の迷いだろうと思ったわけですね。

聖矢　そうそう。適当に、受け身とかやらせておいたら気が済むだろうと。そしたら全女の社長も「わかりました。面倒見させてもらいますから。ダメだったら帰します」って、社長同士で話ができてたんですよ。

——その辺の女の子がいきなりやってできるもんじゃないですから、まぁ当然ですよね。

聖矢　次の日に全女の社長に会いに行ったら、快く「どうぞ、どうぞ」って入れてくれて。すぐに「練習生と一緒に練習やってみな」ってなって、なんてみんな優しいんだろうって思って。それからコーチに従って、ランニング、腕立て伏せ、縄跳びをやりました。全然一個もできなかったんですけど(苦笑)。

——エッ、縄跳びもできなかったんですか(笑)。

聖矢　ボクサー式の縄跳びは無理でした。「♪お嬢さん、おはいんなさい」ならできるんですけどね!(笑)。

——そもそも自分がお嬢さんですからね(笑)。

聖矢　縄跳びやってたら縄を凄い短くされちゃって、「こんなに短かったら首に当たっちゃいます。私の頭もっと上ですよ」って言ったんですよ。そしたら、こうやってやるんだって見本見せてもらって。できるようになるまで時間がかかりました。

——話を聞いてると、この機に乗じて、松永会長が事務所から奪い取ったというか、移籍させちゃったみたいな感じですけども。

聖矢　三日で辞めると思ったのが、私本人が楽しくなっちゃったから(笑)。

——本人の意志だから、そこはしょうがないと?

聖矢　はい。「もうちょっと待ってくれ」と社長同士、話をしてたんですけど。1ヵ月経っても3ヵ月経っても辞めないんで、芸能事務所のほうは困ったと思いますよ(笑)。

——アイドル時代は売り出しに三千万かかったそうですからね。辞めると言った瞬間は「あ、どうぞ」って言ったのが、結局160万ぐらい衣装代だとか、違約金的なものを払うハメになったっていう話を聞きましたけど。

聖矢　かなり払ったんですけどね。払っても払っても、まだ取られて「なぜ?」みたいな(笑)。

——月給は30万円だったそうですけど、当時のタレントさんってミミさんに限らず、ヘアメイクが自前だったりとか、お金のかかることだらけなんですよね。

聖矢　いろいろ自前でしたね。すっごい大変でした。

構成／ささきぃ
撮影／平工幸雄
designed by matsu（TwoThree）

『TVジョッキー』の奇人変人コーナーに出されたことがあったんですよ

――経費もすべて自分持ちというか。

聖矢　ハンパじゃなかったですね。先生に曲を書いてもらう譜面代とかもありましたし。一曲が6万円とかで。

――バックで演奏する生バンド全員分の譜面ってそんなにかかるんですか？

聖矢　だから人の曲を歌うときでも同じだけかかりますよ。ワンステージ20曲歌うとすると6万×20曲とか、お金かかりますからね。

――ワンステージ120万が曲だけで!?　じゃあ、月給30万じゃ全然足りませんよね？

聖矢　全然足りませんでしたよ。

――儲からない仕事ですね、アイドルって。アイドル時代は『仮面ライダー』にも出てましたよね？

聖矢　ホント、良く知ってますよね（苦笑）。

――再放送の度にお見かけしますよ！　あれがデビュー作ということでいいんですかね？　山本リンダさんも出てらっしゃいましたけど。

聖矢　アハハハハ。ちょっと待ってください。いま思い出しますから。う～んそれがデビューで、その後『TVジョッキー』なのかな。アシスタントで、白いギターを渡す役でした（笑）。

――えっ、ミミ萩原が奇人変人相手に白いギターの贈呈役!?

聖矢　やってましたね。

――それ、当時とは違う価値が出て来ますね。じゃあ素人が目にレモン絞って我慢してる姿とかを毎週目の当たりにしてたんですね（笑）。

聖矢　そうそう（笑）。でも私もね、奇人変人コーナーに出されたことがあったんですよ（苦笑）。

当時からご覧のように露出度の高いコスチュームで試合を行っていたミミ萩原。デビュー当時は連戦連敗、リング上で対戦相手にいたぶられ浮かべる、その苦悩の表情が男性ファンのハートをがっちりキャッチ。

――タレントなのに！（笑）。

聖矢　それがね、私のマネージャーが白いギターが欲しいっていう理由で（笑）。

――そんなのマネージャー本人が出ればいいじゃないですか！

聖矢　私もそう思うんですけど、内緒で申し込んじゃってたんですよ。私は何も話を聞いてなくて、ある日、ディレクターに「ミミは火の輪くぐりね」って言われて（笑）。

――無茶ですよ！

聖矢　サーカスのライオンじゃないのにですよ。

――そんなの、ダチョウ倶楽部でも断る仕事ですよ！

聖矢　自分がちょうど入るぐらいの小さいフラフープに灯油を掛けて火をつけて、もうボーボーなんですよ！

――どう考えても『お笑いウルトラクイズ』ですよ、それ！　下手すりゃ全身丸焼けじゃないですか！

聖矢　「髪の毛が焼けちゃうから、水泳キャップをして飛んでくれ」って言われて。「私、そんなことやったことないし、できない！」って言ったんですけど、「もう申し込んじゃったし、テレビ局も大ノリだから企画変えられない。悪いね、ミミ」って言われて。

――「悪いね」で済む問題じゃないですけどね（笑）。

聖矢　家で涙もんで練習しましたよ。

――火の輪くぐりの練習！（笑）。

聖矢　その頃は受け身もできなかったし、まずはでんぐり返しから始めて。それである程度、飛べるようになったんですけど、さすがに火の輪は自宅になくて。

――そんなもん家にあったらおかしいと思います（笑）。

聖矢　ウチの母が割り箸を何本もセロテープでとめて輪を作ってくれて、それを飛んでましたよ（笑）。

――涙ぐましい親子愛です！

聖矢　当日はぶっつけ本番でリハーサルもなしですよ。「どうしよう」ってパニックだったんですけど、「行けーッ、ミミ！」って周りから言われて、私も「ガオーッ！」じゃないですけど、やりましたよ（笑）。なんとか飛びました。

――ガハハハハ！　美女と野獣の野獣側ですね！　文字通りのセクシー・パンサーというか（笑）。

聖矢　あの白いギター、みんな私がもらったと思ってるんですけど、もらってないですから！　「ありがとうございました！」ってテレビでは言ってるんですけど、裏ではマネージャーに渡して「スマンね、ミミ」って言われて（笑）。

――ヒッドイ話ですねぇ！　ミミさんにギャラは出たんですか？

聖矢　もらってないですね……。

――そんなムチャさせられたら、芸能界に未練なくなっても当然ですよね（笑）。その後、ビューティ・ペアが人気爆発した1978年に女子プロレスに転身されて話題を呼んで、女子プロレス界に黄金時代を作ったわけですよね。自分で、ブームが来てるというのはわかりました？

聖矢　やっぱり、あの～、ファンがハンパじゃなかったですね。追っかけが日本中追っかけてくるんですよ。どうやってお金を工面してるんだろうって思ってましたね。巡業がないときはバイトしてお金を貯めてたみたいですけど。

――試合数の多い全女ですから、年間200試合ぐらい追っかけなきゃいけないわけですよね。

聖矢　あの頃は300試合ぐらいやってましたね。

――週休一日！

聖矢　いや、休みはないんです。残りの65日のほとんどが移動日で。あと、2週間ぐらい合宿があるんですよ。

――週休ゼロ！

聖矢　プロレスの合宿は毎年箱根とかでやってたんですけど、あれはキツかったですねぇ。グニャグニャのコースを20キロ走らされたり。ファンの人は休みがあると思ってたでしょうね。試合がない日は雑誌とかにもオフって書いてあるじゃないですか。でもそれ、合宿なんですよ。まだ試合やってるほうがいいですよ。

――地獄ですねぇ……。その頃も移動はバスですか？

聖矢　はい。寝泊まりも全部バスの中でした。

――全女は巡業中、バスの中で生活するんですよね。

聖矢　メインに出る選手になると、二つ席をもらえて、あとはみんな席が一個なんですよ。私は二つあったんで、横になって寝れるからまだ良かったんだけど。

――横になるっていってもバスの座席二つ分ですからね。それこそ試合でアバラ折れたりしたら、くっつくもんもくっつきませんよね。

聖矢　ホント、そうでしたよ。

――現役時代は相当ケガに苦しんだって聞きましたけど。

聖矢　もうしょっちゅうケガしてましたね。

――ケガしてもポスターに顔が出ちゃってると、なかなか休めないん

恥ずかしがらずにレッツ・カミングアウト!

あの素晴らしい時代をもう一度

女子プロスーパースター列伝 kamipro

ですよね。

聖矢　はい。でもね、アバラ折ってたときなんかは6人タッグに入れてもらえるんですよ。

——どっちにしろ試合には出されると(笑)。

聖矢　「コーナーに立ってるだけでいいから出てくれ。売り興行だから」って。立ってるだけでいいからって言われても、試合が始まったらそういうわけにはいかないじゃないですか? 髪の毛持たれて引っ張られたら、嫌とは言えないですし(苦笑)。

——人気のあるミミさんには嫉妬もあって、そういうときに限って引っ張り出されたりするわけですよね。

聖矢　そうなんです。真っ先に引っ張り出されて、サラシ巻いてる折れてるところばっかり狙って蹴られるんですよ。

——それじゃあアバラも複雑骨折しちゃいますよね。

聖矢　指も複雑骨折して3ヵ月くっつかなかったです。毎日踏まれてたんで。

——骨折部分を毎日! 聞いただけで痛くて気が遠くなりそうですよ!

聖矢　踏まれないように気をつけてはいるんですけど、手を下ろされて、やっぱり踏まれるんですよ(苦笑)。その度に病院に行って、注射を打ったりしてたんですけれども、いい加減その病院の先生も、「こんなんじゃ絶対に治らない。社長に言ってやる」と怒っちゃって。そのときは、さすがにしょうがないってことで替えの選手に出てもらいました。

——腹を立てる医者の気持ちもわかりますよ。でも、ミミさんが出ないと興行が成り立たないわけですよね。

聖矢　当時は売り(興行)が多かったですからねぇ。1年前とかに買っちゃってるわけですから。

——盲腸になって、薬で散らして試合に出たこともあったんですよね。

聖矢　注射で散らして出ましたね。毎回痛み止めばっかり打ってました(苦笑)。

——そういうときも、やっぱり脇腹の盲腸部分を攻撃されるんですよね?

聖矢　そうなんですよ! 「〝もうちょ〟っと、やめて!」と思っても、盲腸を蹴られてて(笑)。

——ガハハハハハ! なんで命に関わる話なのに〝盲腸〟と〝もうちょっと〟をかけてんですか(笑)。

聖矢　アハハハハハ。みんな盲腸ばっかり狙ってきて、「他のところはないのかよ!」って思うんだけど。全員で盲腸を蹴ってきましたね。もう白血球がバーッと上がって、吐きながら試合してました。

——凄惨ですね……。そういう妬みってずっと続くもんですか?

聖矢　ずっとでした。ただね、先輩が辞めて、私たちが上になってからは良かったですよ。その頃はずっと試合も勝ってて、「やっぱり、強くなって上になるもんだ!」と思って(笑)。だけど、それも長くは続かなかったですね。デビル(雅美)が来

こちらは現役当時のミミ萩原vsデビル雅美戦。ビューティー・ペアの人気が爆発した’78年、アイドル歌手から突如、女子プロレスラーに転身したミミは大きな話題を呼び、デビュー後、女子プロ黄金時代を創った。

構成／ささきぃ
撮影／平工幸雄
designed by matsu (TwoThree)

入る前から女子プロはイジメがあって当然だって思ってましたね

たり、外人選手もいっぱい来たりしましたからね。外人選手って身体が大きい分すぐバテちゃうんですよ。

——当時でいうとモンスター・リッパーとかですね。

聖矢 ええ。バテちゃうから、蹴りとか反則ばっかりになるんですよ。そうすると自分は疲れないじゃないですか？

——たしかにモンスター・リッパーは技数は多くなかったですよね。典型的なズル&ラフファイトというか。

聖矢 手加減なんか一切なかったですからね（苦笑）。

——毎日が大変だったんですねぇ。

聖矢 でも、楽しかったですよ。いま考えると。

——あと、全女と言えば、『百発投げ』っていう伝説のシゴキがありますよね？

聖矢 もうね、全然受け身も取れなくてグデングデンになりますから。それでも、みんなやめてくれませんからね（苦笑）。

——意識もなくなりますよね？

聖矢 なくなりますねぇ(平然と)。脳震とうとかしょっちゅうでしたから。

——女子プロレスラーの方のインタビューは結構してるんですけど、どの選手も百発投げと、寮から脱走したっていう話をしますね。

聖矢 私は脱走はないですね。

——それは凄いですよ！　どんな選手でも一度や二度の脱走は当たり前みたいですけど。

聖矢 そう意味では、私は凄く大切にしてもらってたんですよ。社長もそうですけど、みんなが凄い優しくしてくれて、「頑張れよ！」って言ってくれたんで。こういう世界はイジメられるのが当然なんだって。

——イジメられなきゃ強くならないと？

聖矢 そうですね。でもみんなイジメられてるかと思ってたら、私だけだったんですよね（笑）。

——その事実に気付かなくてよかったです！　辞めようと思ったこともあるんですか？

聖矢 いや～、だって私は入った日に社長に「私は絶対にチャンピオンになります！」って言いきったから。チャンピオンにならなきゃやめられないですよね。

——気丈ですねぇ。のちに白いベルトを巻かれたわけですけど。

聖矢 はい。オールパシフィックとタッグのチャンピオンになりました。

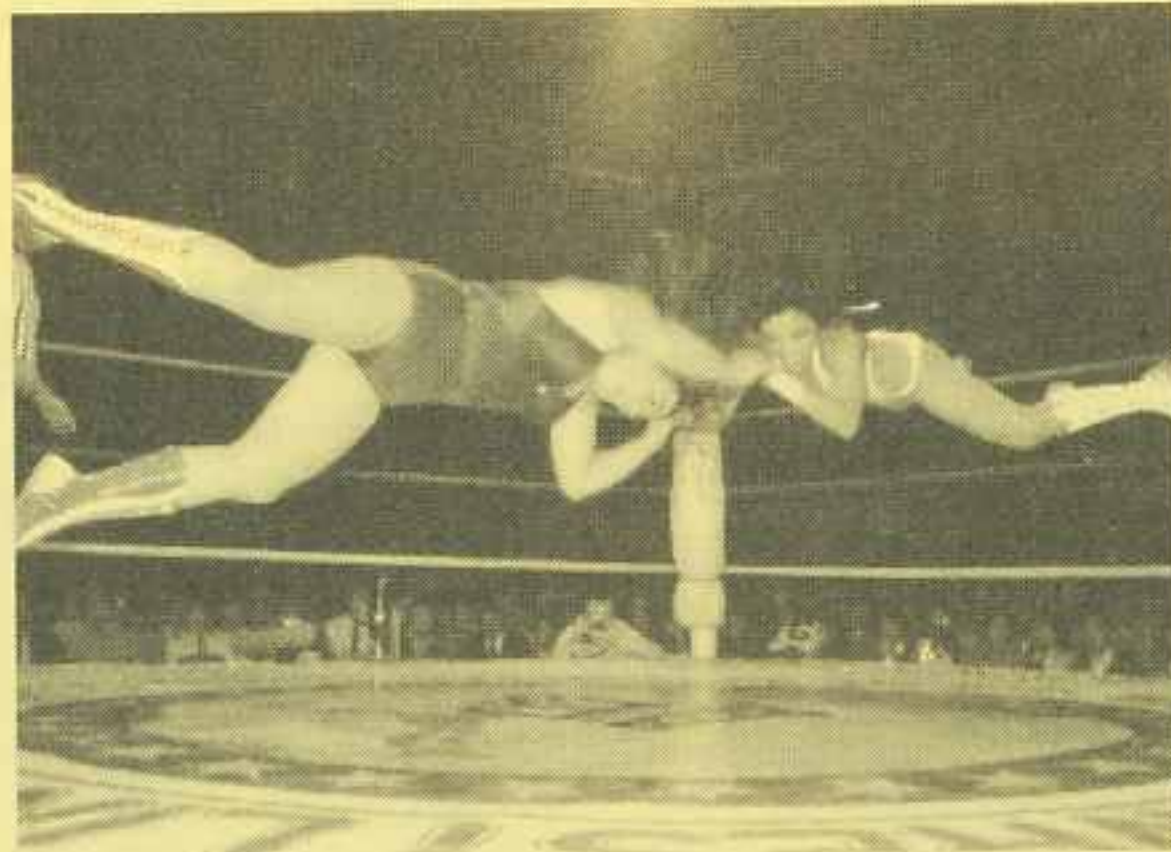
——チャンピオンになったら心おきなく辞められそうですよね。でもチャンピオンになる頃には強くなってますから、試合してても面白くなったんじゃないですか？

聖矢 面白いですね。ただ、最後の方になったら、もう芸能の仕事が忙しくて、試合に間に合わないことがあったんです。

——そんな本末転倒な事態が度々？

聖矢 結構ありましたね（苦笑）。芸能仕事やサイン会とかが毎日あって、練習する時間がなくなっちゃったんですよ。私たちは必ず朝練と、体育館についてから2時間は練習するんですよ。それで、夜に試合をして。そうしないと身体が付いていかなくて。

——コンディションが保てなくなるわけですね。

聖矢 練習がないと全然筋肉も落ちて来ちゃうし、息もあがっちゃうし、それでもう大変になってきたんですよね。ケガも多くなってきて……。それでドクターストップになっちゃったんですよ。

現役当時165cm、48kgと華奢な身体ながらも外人レスラーとも頻繁に闘っていたミミ。必殺技ビーナス固めを武器に立ち向かうも、最後はパワー負け。そんな姿に男性ファンは萌え萌えだったのだ。

——最後は腰を痛めて、「これ以上やると車椅子生活になるぞ」って医者から宣告されたみたいですね。

聖矢 そうそうそう。コミッショナーの方から「ダメだ」って言われたら選手は出れなくなっちゃうんで。だから、自分の意志での引退じゃないんです。

——全日本女子プロレスは25歳定年制という制度がありましたよね。

聖矢 あ～、でもそれとはまた違って。私は27歳のときに引退でしたね。

——じゃあ、完全に特例ですね。

聖矢 健康だったら、もっとやってたかもしれないけど。

——当時の芸能活動としては映画『カルフォルニア・ドールズ』（※ロバート・オルドリッチ監督、ピーター・フォーク出演のスポ根ものの名作として有名）に出てましたよね？

聖矢 アハハハハハ。よく知ってますねぇ。いろいろ調べてくださったんですね（笑）。

——いやいやいや、調べたっていっても、この中に書いてあることぐらいしか知りませんよ（といってミミ萩原の著書を取り出す）。

聖矢 あ～～～、『しゃべっちゃいけない女子プロレス』！　よくありましたねぇ、これ（笑）。ちょっと見ていいですか？

——どうぞ！　この本、セクシーショットばっかりなんですよね。股間から狙ったアングルか、あるいは胸元から狙ってる写真しかないっていう。

聖矢 あ～、ホントだ。

——当時のミミさんに求められてたものがすべて、ここに凝縮されてるわけなんですけどね。男性ファンの視点から見るセクシャルな女子プロレスっていうか。

聖矢 なるほどね（笑）。

——ビューティ・ペア以降の女子プロレスって宝塚的な魅力があって、女性ファンの方が多かったわけですけど、ミミさんに関しては男性ファンが多かったですよね。

聖矢 そうですねぇ。ふ～ん（食い入るように自著を読む）……。

——映画の話なんですが、撮影スケジュールとか、かなり強行日程だったと思うんですけど。アメリカまで渡って撮影されたんですよね？

聖矢 ロサンゼルスのMGMで撮影したんですけど、行きも帰りもVIPの待遇をしてもらって、全部ファーストクラスだったし、向こうに着いたらリムジンで迎えに来てくれたんです。撮影が終わったら毎晩共演者の人がいろんなところに連れて行ってくれるんですよ。

——なんかちょっとした慰安旅行ですね（笑）。

聖矢 ちょっと撮影したら休んでって感じで、遊んでる時間のほうが多いんじゃないかなと思いました。それで撮影の最中、なんかした瞬間に擦りむいちゃったんですよ、私。擦りむいたところがちょっと水ぶくれになったぐらいで、普通だったら自分でブチッてやって、バンドエイド貼るぐらいのもんなんですけど、みんな大騒ぎしちゃってですね。お医者さんに連れて行かれました。私は恥ずかしいから医者になんか行きたくないって思ってたのに。

——女子プロレスの世界じゃ、そんなのケガのうちに入らないわけですよね（笑）。

聖矢 ただの擦り傷ですよ。それなのに撮影中止になっちゃって。

——擦り傷で撮影中止!?　なんかエライことになってますねぇ（笑）。

聖矢 私も「ホントに擦り傷だから」って言ったんだけど、全然聞いてもらえなくて、お医者さんに連れて行かれて。で、病院に行ったら注射で水を抜くんですよ。抜くほどな

恥ずかしがらずにレッツ・カミングアウト!

あの素晴らしい時代をもう一度
女子プロスーパースター列伝
kamipro

いんですけどね（苦笑）。そこに今度は抗生物質を入れて、「なんてアメリカは複雑なことをするんだろう？」って思いましたね（笑）。

——たしかに恥ずかしくなりますね、それ（笑）。

聖矢　抜いたら抜いたままでいいのにって。それで、「しばらく様子を見ますけど、痛かったら痛み止め出しますよ」って言うんですよ。たかが擦り傷に（笑）。

——ハリウッドスターですからね。何かあったら即違約金が発生する世界ですし。

聖矢　そうなんでしょうね、きっと。私はもうビックリしちゃって、「早く撮影再開してください」って逆に怒ったんですよ。そしたら、あっちの人たちが「じゃあ、言う通りにしましょう。その代わり、少しでも具合悪くなったら言ってください」って。擦り傷で具合悪くはならないと思うんですけどね（笑）。

——アマゾンの真ん中で破傷風になったわけじゃないんですからね（笑）。

聖矢　そういう意味ではいい体験しました。向こうの映画会社っていうのは、スタークラスの人に対して日本じゃ考えられないぐらいの待遇をしますから。一人ずつワゴンも付いて、「自分でするからいい」って言っても、「ダメです！」って言われて、全部メイクアップアーティストが付くんですよね。

——ほっといてもフルーツの盛り合わせが出てくるみたいな（笑）。

聖矢　もう、すぐ出て来ますよ。食べ物も全部ワゴンで出て来るんですよ。何一つ不自由なかったです。

——作品自体はどうでしたか？　向こうでの女子プロレスの取り上げられ方っていうのは日本とは若干違うんですよね？

聖矢　どんなに時間が経っても向こうの人から見たら、日本人は芸者なんですよね。名前も「ザ・ゲイシャーズ」でしたし。

——つい最近もWWEで、鈴木健想選手の奥さんがゲイシャガール・ヒロコとして活躍されてましたから、あまり変わってないみたいですね（笑）。で、今回はダンスという形で、リングに戻ってきたってことになるんですけども、それを呼びかけたジャガーさんとは現役時代から非常に仲が良かったんですよね？

聖矢　はい。ホテルでも同じ部屋だったんですよ。タイトルマッチに向けて、みんなが食事に行ってるときも食事抜きで2人で練習してました。結局2人同時にベルトを獲ることができたし、凄く嬉しかったですよね。

——リングシューズを忘れたら貸し借りするぐらいの仲だったとか。

聖矢　そうですね。いまでも仲いいですよ（笑）。

——久々のリング復帰にあたって、ジャガーさんは「彼女も各種報道でいろいろ誤解されていた部分があるから、それを払拭するためにも出て来てもらった」みたいなことをコメントされてましたけど。

聖矢　ええ、そうですね。いつもね、私のことを守ってくれてたんですよ。

——守ってくれてたというと？

聖矢　周りがイジメばっかりだったじゃないですか？　だから、私がケガで動けなくなったらおんぶしてくれたりとか、身の回りのことを全部やってくれてましたね。

——ジャガー横田さんのダンナさんはリングドクターもやってますけど、ミミ萩原さんのリングドクターはジャガー横田さんだったと？（笑）。

聖矢　そうですね（笑）。何より2人で、いい意味でのライバル。お互いベビーフェイスだから闘うことはあまりないじゃないですか？　だけど、訓練するときは「今日、腕立て100回したよ」って聞いたら、私は101回やりたいんですよ（笑）。それで101回やったら、向こうは102回とか105回やるんですよ（笑）。

——二人して負けず嫌いですね！

聖矢　そうすると、こっちも悔しいから110回やるんですよ。もう2人でバカみたいに腕立てやってまし

現役時代、何冊か出版されたミミ本からの素敵なワンショット。プロ意識の高いミミは観客を楽しませるためあえて露出度の高い水着をセレクトしていたという。おまえは女だ！

構成／ささきぃ
撮影／平工幸雄
designed by matsu（TwoThree）

どうでしょう？ そういう機会があれば……頑張ります！（笑）

たから。2人とも疲れてるのに、試合が終わってホテルに帰ってからもやるんですよ。そうやってやり合いながら強くなっていったんです。

——試合より腕立てで疲れますよ！（笑）。ジャガー横田さんと言えば現役時代から強さが売りでしたけど、ミミさんは華やかな感じで、スタイルは真逆でしたよね。

聖矢　そうですね。あの人は汗かかないんですよ。凄いスタミナもあったし。でも、私はちょっとしたことで凄い汗をかくんですよ。それを見て、「私の体力をあげたい」っていつも言ってくれてました。でも、仲は良かったですねぇ。いろんな意味で。

——プライベートでも仲が良かったんですか？

聖矢　そうですね。お互い持ってないものを持ってたんで、そこが好きだったのかなぁ。

——あと、ミミさんの仲の良かった選手というと一年先輩のジャッキー佐藤さんですよね。著書の中でも、あまりにも仲が良かったんで、レズビアンじゃないかと疑われたと書かれてましたけど（笑）。

聖矢　そうそう、そうなんですよ（笑）。

——一緒に住んでたこともあったみたいですね。

聖矢　同じマンションで半分ずつお金出し合って住んでましたね。年間300試合やって、年の3分の1、家に帰って来れるかどうかだから、ほとんど荷物置き場なんですよ。家にはホント1～2ヶ月いれればいい方だったんですね。他の女子レスラーもそうですけど、みんな寂しいから犬を飼うんですよ。犬を飼えるマンションっていうと凄い高くて当時でも20万とかして。結局犬も巡業に連れて行くから、荷物置いてるだけで月に20万払うわけじゃないですか？ それだったら誰かのところへ転がりこんだほうがいいし。みんなも大概、半分ずつ払って2人ずつ住んでましたよね。

——そういう訳があって、ジャッキーさんのところへ転がりこんだわけですね。

聖矢　最初から仲良しで、私のファンだっていうのがキッカケで入っていったから、凄く面倒見も良かったです。ジャッキーさんも入った当時は守ってくれてましたね。だから、いろんな守ってくれる人がいたから良かったのかな。

——ジャッキーさんに守られてること自体がイジメる側にとっては気に入らなかったりもするんでしょうし。

聖矢　ジャッキーさんと同期の人たちにはよくイジメられましたね（笑）。「アイツ、先輩に可愛がられて」みたいな。

——それはジャッキーさんでも止められはしないんですね。

聖矢　ジャッキーさんは「悔しかったら強くなりなさい」って。強くなることでしか、復讐できないと。

聖矢　そう。いつもイジメてる人より上になるしかないわけですから。

今後、ミミ萩原に戻ってリングに復帰する予定はあるんですか？

——最後になりますけど、今後選手としてリングに復帰する予定はあるんですか？

聖矢　アハハハハハ。気持ちはね、上がってるんですけどね。

——さすがに"気持ちだけ"って感じで？

聖矢　どうでしょう？ 試合をやるんだったら、もう一年間ぐらいは体力作りしないと。そりゃあ、踊ってるから体力とスタミナはあるかもしれないですけど、プロレスだったら受け身を取ったり、違う身体の作り方をしていかないとダメですし。

——そうなってくると1試合～2試合の復帰だと、さすがに割は合わないですよね（笑）。

聖矢　どうでしょう？ アハハハ。

——ダンプ松本さんなんかも最近はずっと試合してますからね。やはり女子プロレス界は新しいスターがいないので、是非ここは聖矢さんからまたミミ萩原さんに戻っていただいて、活躍していただければと勝手に期待してます！

聖矢　は、はい。そういう機会があれば……頑張ります（笑）。今日は久し振りにリングに上がれて、とっても嬉しかったです。また、違う形で、体力が続けば、一試合でもエキシビジョンでも……逆にエキシビジョンの方が息が切れるんですけどね（笑）。

——エッ、そうなんですか（笑）。

聖矢　5分の間にすべての技を見せないといけないから（笑）。だから、先々、もしそういう機会があるのかなぁ？ ないのかなぁ？ ちょっとわかりませ～ん（可愛らしく・笑）。

——もしミミさんなりに納得の行くものが見せられるようになったら、いつでもリングに帰ってきて下さい！ 『ハッスル』でのゲイシャ対決なんかも期待してます！

聖矢　ハイ！ あと、聖矢・星十をよろしくお願いしま～す！

【05年12月4日／都内「新宿FACE」控室にて収録】

せいや■1972年『仮面ライダー』で芸能デビュー、翌年、ミミの名で歌手デビューを果たすと、その後はテレビを中心に活躍。78年、プロレス界に転身し女子プロブームの立役者に。84年、タランチュラ戦を最後に引退。その後はタレント活動を再開させるも、93年、お告げを聞き広島に転居。現在は聖矢（パートナーは星十）の名前で歌手やダンサーとして広島を中心に活躍中。
HPアドレス http://iam-oceans.net/

おきて・ぽるしぇ■4月にロマンポルシェ。が久々の東京ライブを敢行！ 奇跡的なメンツの対バンで発狂必至!!
4/19（水）新宿LOFT 19:00START
【タイトル】『RHYTHM OF FEAR』【出演】ロマンポルシェ。/Perfume/NIRGILIS/RAM RIDER/
【料金】ADV2.500円（＋drink）DOOR3.000円（+drink）
【問】新宿LOFT（03-5272-0382）
掟ブログ→http://porsche.exblog.jp/

恥ずかしがらずにレッツ・カミングアウト!

HGのカミングアウトで再びクローズアップ!

学プロフォーーッ!!

HGの"カミングアウト"により再評価されている学生プロレス。古くから切っても切れない関係にあった学プロとプロレス界だが、様々な事情により、それが表面化されることはほとんどなかった。しかし、ここ数年、HG以外にも現DDT王者の男色ディーノをはじめ、堂々と学プロ出身をアピールする選手も多くなってきている。そんな時代だからこそ、学プロを9P大特集でお届け、フォーーッ!!

構成&撮影/松澤チョロ　HG撮影/山口比佐夫　design by さおとめの事務所

こんな時代だからこそ、レッツ・カミングアウト！

「今こそ学プロ出身を誇る時が来た!!」

2006年の『週プロ写真名鑑』に登場している選手＆関係者は、なんと535名！　その中で確認できた学プロ経験者は23名（アマチュアプロレス出身は除く）。他にも数名いるのは間違いないが、わかっただけでも約23人に一人は学プロ出身なのだ！　学プロ、フォーッ!!

恥ずかしがらずに
レッツ・カミングアウト！
学プロ
フォーッ!!

今回の『kamipro』ではHGの〝カミングアウト〟で再評価されている学生プロレス（以下・学プロ）っていったいなんなんだろう？　こんな時代だからこそ、あえて根掘り葉掘り検証してみよう。

そもそも、プロレス専門誌（『kamipro』がプロレス専門誌かどうかはおいといて）で、9ページも誌面を割いて学プロを取り上げるなんて、これまでほとんどなかったはず。あったとしても、せいぜいちょっとした大会レポートぐらいだろう。その理由としては、古くから、いや、ごくごく最近までプロレス界に根強くあった学プロアレルギーが考えられる。そのアレルギーの原因を想像すると、

「あんなものプロレスと認めない！」

「なんだ、そのリングネームは！」

「選ばれた人間しかできないのがプロレスなんですよォォォ！」

ざっと、こんな感じだろう。たとえるなら、お笑い芸人が、クラスの人気者と同じ舞台に上げられ憤慨するような感じか。まあ、たしかに「おっしゃるとおり！」と思えるフシもいくつかある。学生生活の片手間にトレーニングを積み、観客にいいところを見せようと派手な大技を繰り出し、その結果、大ケガを負ってしまう。そんな話を耳にしたのは過去に一度や二度ではない。そのたびに「プロレスは危険だ」などと言われ、その矛先は当然の様にプロレス界へと向けられていった。

とくに〝キング・オブ・スポーツ〟を掲げる新日本プロレスでは、学プロに対しての嫌悪感が露骨に見て取れた。のちにWWEマットにまで上がった学プロ出身レスラーの出世頭のMEN'Sテイオー（学プロ時代のリングネームはテリー・ボーイ）が参戦した際には、必要以上に厳しい攻めを見せ、ほぼ一方的に試合を終わらせたこともあった。当時のケンドー・カシンからは「学プロ出身とは試合しない」などというストレートな発言も飛び出している。表には出ていないまでも、当時の新日本ではカシンと同じような考えのレスラーがほとんどだったと思う。それぐらい、学プロ出身レスラーが目のカタキにされていた時代があったのだ。

たしかに、その頃は学プロ出身の選手もそれほど多くなかったため、標的にされるのも致し方ないところもあっただろうし、ファンの側も「学プロ上がりなんて、やっちゃえ！」という感情が少なからずあったのも事実。

しかし、いまは違う。今回の企画をやるにあたり、学プロ出身のレスラーを調べてみると、予想を上回る選手名が次から次へと判明。正直20人ぐらいかなと思っていたら、なんと軽くその倍以上、学プロ出身のプロレスラーは存在した。

ざっと列挙してみると、メジャーどころでいえば、すでにプロレスファンなら誰でも知っている棚橋弘至（当時のリングネームはターナー・ザ・イ●サート）、同じく新日本の某選手もプリン●壁として学プロのチャンピオンになっている。カミングアウト組では男色ディーノ（リングネームは現在と一緒）や、ハヤブサ（肥後●いき）、ミスター雁之助（ソープ延●）、怨霊（ウルフ●澤）、GENTARO（ヤ●サメ）などなど、どインディーで活躍する選手も挙げていたら本当にキリがない。DDTやK－DOJOのように複数名、学プロ出身者がいる団体もいくつかあるのだ。

レスラー以外でいうと、現在NOAHのリングアナを務める難波氏も越波辰巳との素敵なリングネームで活躍していたのは有名だし、タレントの松村邦洋（実況アナとして活躍）や漫画家のにわのまこと氏は富豪2夢路と同じ九州の学プロで活躍していたという。他にもユリオカ超特Qや、HGの相方RGなど様々な人材が学プロから輩出されているのだ。

そもそも、「学プロっていったいなんなの？」という人のために簡単に説明しておくと、文字通りプロレス好きの大学生がプロ同様、観客の前で試合を披露するプロレス団体のことである。学園祭での興行がメインとなり、基本的には入場無料で実況＆解説者の掛け合い、下ネタ全開のリングネームもその魅力の一つ。すでに活動歴は20年以上というプロ団体顔負けの歴史を誇る学プロ団体だってあるのだ。

30代以上のプロレスファンには『11PM』や『トゥナイト』などで、ちょくちょく学プロ特集が組まれていたのを記憶している人も多いだろう。深夜ながら4時間近く地上波で学プロの試合が流されたこともあったし、学プロの試合ビデオが某メジャー団体の試合ビデオ以上の売り上げを記録したこともあったという。

そんな学プロ界だが、ここ数年プロレスの人気低迷が叫ばれると、比例するように所属選手も激減。現在でも全国に学プロ団体は存在しているが、開店休業中の団体も多く見受けられるのが現状だ。

いまから10数年前の、ある意味、学プロの黄金時代、たくさんの学プロレスラーズが卒業とともに団体から旅立っていった。その落とし子とも言える多くのレスラーが、現在、ピンからキリまで50団体以上あると言われているプロレス団体へ就職しているのだ。もちろん、その中にはお世辞にもレベルが高いとは言えないレスラーも何人か確認できる。しかしながら、棚橋やHG、ディーノといった、いわゆる〝できる〟選手もかなりの数いるのだ。「好きこそものの上手なれ」ではないが、学プロを志す選手は、ほぼ100％プロレス好きと言えるわけで、いわゆる他の格闘技界で実績を残しプロ入りした選手に比べると、プロレスに対する認識＆愛情は最初から雲泥の差。学生時

日本全国主要学プロ分布図

ここでは、日本全国津々浦々に存在する学生プロレス団体の中から、関東地区、関西地区、九州地区の主な学プロ団体を紹介しよう。この分布図から抜け落ちてしまった団体の皆さん、申し訳ありません。先に謝っておきます。

関西地区の主な学プロ団体

関西大学プロレス研究会（KWA）

1981年に設立された学プロ団体。当時の正式サークル名は「関西大学プロレス研究会・闘魂」。1987年には学プロ初の有料興行を開催。『週刊ファイト』等でも何度も取り上げられた関西を代表する学プロ団体。某老舗団体のジュニアのトップレスラーと一字違いの全本浩二なんてレスラーも在籍している。
HPアドレス→http://www.medianetjapan.com/2/20/sport/kwa/index.htm

大阪学院大学プロレス研究会（OWF）

現DDTチャンピオン・男色ディーノを輩出した学プロ団体。かつては大阪府立体育館で興行を行なうほどの盛り上がりを見せたOWFだが、ここ最近は慢性的な人員不足に頭を悩ませているという……。
HPアドレス→http://www.geocities.jp/owfofficial2004/

同志社プロレス同盟（DWA）

設立は1978年。卒業生には、いまをときめくレイザーラモンHGや、シュート活字でお馴染みのタダシ☆タナカらがいる。プロ仕様のリングを所有した初の学プロ団体と一部では言われているものの真相はズバリ言って不明だ。
HPアドレス→http://www.geocities.jp/dwa2006hp/index.htm

立命館プロレス同好会（RWF）

ユリオカ超特Q、レイザーラモンRG（出渕誠）、そして現在某老舗団体で絶賛活躍中のターナー・ザ・イ●サートらを輩出している学プロ界の名門団体。ここ最近も卒業生数名がプロのマットでデビューを果たしている。現在、女子レスラーも一人在籍している。
HPアドレス→http://rwf.hp.infoseek.co.jp/

儒教大学プロレス格闘技研究会「W-CROSS」

1995年に設立され、活動歴はすでに10年を超えているサークル「W-CROSS」（※株式会社ダブルクロスとは無関係です。念のため）。プロ仕様のリングを所有し、学園祭をはじめ年数回の興行と、提携団体の興行への協力が主な活動内容だが、現在所属選手は片手で足りるほどだという……。
HPアドレス→http://f30.aaa.livedoor.jp/~wcross/wcrosstop.htm

桃山学院大学「豆乳門JAPAN」

2002年、メキシコ帰りのエル・カミーノを中心に設立された新興団体。
HPアドレス→http://seo.ktplan.ne.jp/tonyumon/

関東地区の主な学プロ団体

関東学生プロレス連盟（UWF）

1980年8月に池袋西武デパート屋上にて旗揚げされ、すでに25年以上の活動歴を誇る日本を代表する学プロ集団「U.W.F 関東学生プロレス連盟」。現在は、専修大学（SWFスネークピットジャパン＝専修大学スネークピットジャパン）、明治大学（MWA＝明治大学プロレス研究会）、東海大学（TWF＝東海大プロレス連合）、法政大学（HWA＝法政大学プロレス研究会）、学習院大学（mWo＝学習院プロレス愛好会）、早稲田大学（WWA＝早稲田プロレス研究会・爆裂）、東洋大学（TWA＝東洋大学プロレス研究会）、高千穂大学（TWO＝高千穂プロレス愛好会）などのメンバーが参加し、日々、練習に励んでいる学プロ界のメジャー団体。試合スタイルは、ガチガチのストロングスタイルからお笑い系のコミックマッチと多種多様。ここのリングをまたぎ、のちにプロのリングへ上がった者は数え切れないほど。過去、所有していたリングを運搬用の車ごと盗難されたこともある。
HPアドレス→http://www.geocities.co.jp/Athlete/9173/

SWS学生プロレス

多摩地域のプロレス好きの大学生が集まり活動を行なっているのが「SWS学生プロレス」（※メガネスーパーとは無関係）。現在参加しているのは帝京大学、中央大学、明星大学、多摩大学、桜美林大学、電気通信大学、東京経済大学、聖徳大学といったところ。OBにはインディー団体ガッツワールドのガッツ石島から、AV男優としてお馴染みのミートボール吉野（当時のリングネームはズガン・ハンセン）、第3代SWS世界ヘビー級王者・ブリン●壁という、どこかで聞いたような選手も在籍していた。
HPアドレス→http://www.geocities.co.jp/Athlete-Sparta/7394/

一橋大学世界プロレスリング同盟（HWWA）

1978年4月、一橋大学格闘技同好会として発足（初期メンバーにはルー・テーズ研究家としてもお馴染みの流智美氏も!）。現在は一橋大学世界プロレスリング同盟として活動中の老舗中の老舗・学プロ団体。なぜ団体名に仰々しく"世界"と入っているのか気になり調べてみると、単にHWAという先行団体が存在したためだった……。
HPアドレス→http://www.geocities.jp/hwwa1978/

武蔵野美術大学プロレス連盟（MWF）

上記HWWAの提携団体。現在、イタリアン・フォー・フォースメンの一員としてDDTのリングを中心に大暴れしているアントーニオ本多が在籍していた。数年前の『紙プロ』の掟ポルシェのコラムで所属女子レスラーの長州ミキティと松浦あじゃを取り上げたことがある。本多の学プロ時代の姿も確認できるMWF所属レスラーのプロフィールは↓
http://www.geocities.jp/hwwa1978/wrestlersmwf.htm

日本大学プロレス研究会（NUWA）

その名の通り日本大学の学部生から構成される学プロ団体。OBには現役プロレスラーはもちろん、『週プロ』某記者や、いまはなき『プロレス激本』の関係者もいたりする。
HPアドレス→
http://www.geocities.jp/morrisbottom19830803/index3.html

上智大学プロレス連盟（SWF）

パイプカット・キッドというレスラーが創設した学プロ団体。さすが上智（?）学プロには珍しく外人レスラーも何人か所属している。
HPアドレス→http://swf.hp.infoseek.co.jp/sensyu/sensyu.html

慶應義塾大学プロレス研究会（KWA）

その名の通り慶應大学の学部生で構成される学プロ団体。
HPアドレス→http://www.geocities.co.jp/CollegeLife/3058/

立教大学プロレス愛好会（RwO）

その名の通り立教大学の学部生で構成される学プロ団体。
HPアドレス→http://www.geocities.jp/yagyuujyuubee2000/

九州地区の主な学プロ団体

熊本学園大学プロレス研究会（旧:SWA 熊本商科大学プロレス研究会）

今年で25周年を迎える九州の老舗的な学プロ組織だが、現在は所属メンバーは6人タッグも組めない人数とのこと……。OBにハヤブサ（当時のリングネームは肥後●いき※熊本のお土産として有名な大人のオモチャ）やミスター雁之助（当時のリングネームはソープ延●）らがいる。
HPアドレス→http://swa20th.com/index2.htm

九州産業大学（KSUWF）

日本で唯一、大学公認のプロレス研究"部"として活動、現在は体育館に常設リング（!）も保有している。OBに富豪2夢路（当時のリングネームは本人曰く「内緒」）や山笠Z"信介（当時のリングネームは元気・炭谷）、2・7T2P後楽園大会で引退を表明したGALLARDO、名前は出せないが新日やBML参戦経験もある某インディー選手、全日参戦経験もある某インディー選手等々、プロのリング経験者を5名以上輩出している九州の名門・学プロ団体。

代の4年間でキャリアとトレーニングを積めば、パフォーマンス能力を含め、案外、学プロ出身選手の方が即戦力になるのではないか。かつては〝強さ〟を売りにプロレス界へと転向してきた選手もいたが、いまでは、そういった選手は対応力、待遇面も考慮し、総合の舞台を目指すのが普通になってきている。プロレス界にとってみれば寂しい現実ではあるが、そういう時代なのだから仕方がない。

一昔前までなら、選手関係者、そして一部ファンからも冷ややかな目で見られてきた学プロだが、ここ数年はHGに代表されるように「学プロ出身だからうまい」「学プロ出身だからパフォーマンスもできる」といった風にマイナスイメージどころか、プラスイメージにとらえられることが多くなってきている。

学プロ出身に誇りを持ち、当時のリングネーム、そしてキャラクターのままプロのチャンピオンにまで登りつめた男色ディーノ。そして学プロ出身という事実を「セイセイセイ！」とカミングアウトし、棚橋を困惑させながらも『ハッスル』で大ブレイクをはたしたHG。

つい先頃、来日したWWEの某スーパースターもHGの『ハッスル』での試合映像を見て「グレイト！」と本職は芸（ゲイ）人であることも知らずに驚きの表情を浮かべ、その後、HGの本職はコメディアンと聞いて二度ビックリしていたという。この事実からもわかるとおり、学プロ出身レスラーは、いつの間にか世界からも認められる存在になっていたのだ。ある意味、学プロだって世界標準！

もう恥ずかしがる必要はない。あなたも、そこのあなたも、いまこそ学プロ出身という事実を誇るときが来た！ HG、ディーノ、そしてテイオーに続き、レッツ・カミングアウト!! ……もちろん、〝ゲイ〟じゃないですよ。

ユリオカ超特Qの
私、学プロの味方です！

日本一のドラゴンマニアは伝説の学プロ実況アナだった！

お笑い界で学プロ事情に精通しているといえば、この人、ユリオカ超特Q。立命館プロレス同好会（RWF）時代は実況アナとして活躍、RG、棚橋らを後輩に持つ日本一のドラゴンマニアに学プロの魅力を語ってもらった。

——今回は藤波さんネタではなく、ユリオカさんに学生プロレスの話をうかがわせていただければと思ってます。

ユリオカ　はいはい。学プロといえば、ここ最近HGのカミングアウトで再評価されてますけど、じつはボクも学プロで活躍してましたからね。

——なんでも、伝説的な学プロ実況アナとして有名だったみたいですけど。

ユリオカ　まあ、伝説になってるかはわかりませんけども（笑）、試合というより実況席で活躍してましたね。一応、リングネームは「セーラー・百合岡」ってことで（笑）。

——セーラー・百合岡？　何か意味はあったんでしょうか？

ユリオカ　『セーラー服・百合族』という昔のポルノ映画が元ネタですね（笑）。

——そうでしたか（笑）。ユリオカさん的には学プロっていうと、どのようなイメージを持ってますか？　これまでプロレス界では、ある種、タブー的な扱いを受けているところもありましたけども。

ユリオカ　レベルで言えば、それこそプロレス界と同じように、ピンからキリまであると思うんですけど、『ハッスル』のHGの動きに代表されるように、トップクラスの選手は十分プロでも通用するレベルにあると思いますよ。実際、学プロ出身のプロレスラーなんて「何人いるんだよ!?」って話ですからね（笑）。

——たしかに、両手ではとても足りないぐらいいますからね（笑）。

ユリオカ　ボクらの頃はまだまだでしたけど、レベル的にはHGやRGの時代はかなりいってたと思いますよ。いわゆるプロレス的な受け身に関して言えば、アマレスとか柔道出身とかよりも学生プロレス出身の方がうまいんじゃないですか？

——それは間違いないでしょうね（笑）。

ユリオカ　アマレスのメダリストとかにはリック・フレアーみたいなデッドリードライブの受けはできないと思いますけど、学プロでは基本ですからね（笑）。

——アハハハハハ！

ユリオカ　あと、学プロ出身に限らずですけど、プロレスをたくさん見てる人のほうがアマチュアのエリートよりも、プロレス的ムーブは、しっかりと頭に入ってるわけですよ。邪道・外道さんを見てもわかるじゃないですか？　あの二人なんてホントにプロレスが好きなところから入って来てますからね。

学プロの世界も、しょっぱいヤツはチャンピオンにはなれません！

——そうですよね。職人肌の邪道・外道も出発点はTPG（たけしプロレス軍団）ですからね（笑）。

ユリオカ　いまでこそレスリングマスター的な存在ですけど、出生はTPGですから、どちらかと言えば怪しいわけですよ。思いきり学プロ寄りというか（笑）。

——たしかに（笑）。

ユリオカ　だけど、あんだけ素晴らしいレスラーになってるわけですから。いまDDTのチャンピオンの男色ディーノとかはカミングアウトしてますし、ハヤブサ選手やMEN'Sテイオー選手なんかも学プロ出身って有名じゃないですか？

——ホントたくさんいますからね。

ユリオカ　へんな言い方ですけど、そういう偏見はファンのほうにももうないと思うんですよ。ボクも昔だったら、自分自身でも関わっていながら、ちょっと偏見はありましたから（笑）。

——学プロ出身者が即プロで通用する世界であってほしくないという複雑な心境もあるんでしょうね（笑）。

ユリオカ　そうなんです。そういうのをファンの気持ちとして持ってたんですよ。プロレスっていうのは学生プロレスとはまったく違うもんで、ボクらがおいそれと足を踏み込める世界じゃないというプロレス界の不文律がファンもレスラーもあった時代でしたからね。新日本なんかは、とくにそういう傾向が強かったですし。でも、いまは『ハッスル』の成功ぶりや、HGの発言のほうが、どのプロレスラーの発言より影響力があるわけですよ。HGの試合にしたって、もちろん練習はしたんでしょうけど、ロープからロープへの感覚とかも自然に覚えてたと思うんですよ。なおかつ自分の身体に染み込んだものじゃないと、できたとしても、もっと不格好になってると思うし。

——付け焼き刃的な感じはしませんでしたからね。

ユリオカ　あの動きを見て、驚いた人も多いでしょうし、ボクも素晴らしいと思いましたけど、「あれぐらいできて当然だろ」っていうのは正直ありましたよ。だいたい学プロでも、しょっぱいヤツはチャンピオンになれないんですよ。

——学プロでも、そのへんはキッチリしてるわけですね。

ユリオカ　学プロだって入ってきた時点で「あ、コイツはチャンピオンになるな」とかね、なんとなくわかるんですよ。プロレスの世界と一緒なんですよ。ホント、プロレス界がなんで学プロにここまでアレルギーを持つのかわからないですね。いろんな事情があるんでしょうし、みんながみんなカミングアウトはできないと思いますけど、なんら恥ずかしがる必要はないと思いますよ。

——それこそ、HGの活躍で、いままでよりカミングアウトもしやすくなったんじゃないですかね。

ユリオカ　逆にボクなんかからすると誇りを持ってカミングアウトしてほしいぐらいですね。たとえばね、プロレスファンからプロレスラーになる人って多いですけど、プロレスごっこをせずにプロレスラーになった選手なんか、ほとんどいないと思うんですよ。

——逆にいたら怖いですよね（笑）。

ユリオカ　そういう意味では、学生プロレスの中でも有名だとへんに言われちゃう部分もあると思いますよ。ボクの後輩のターナー・ザ・イ●サート……あえて

恥ずかしがらずにレッツ・カミングアウト！
学プロフォーッ!!

一文字伏せ字にしておきますが、まあ棚橋選手のことなんですけど（笑）。

――よく存じあげてます（笑）。

ユリオカ　棚橋選手だって、HGが出てくるまでは学プロをやってたってことはプロレスファンでもマニアぐらいしか知られてなかったと思うんですよ。

――いまでは浅いファンでも知ってますからね（笑）。

ユリオカ　HGのブレイクとともに、いくら新日が隠そうと思っても学プロ出身という事実は隠しきれないわけですよ。

――もう無理でしょうね（笑）。

ユリオカ　仲間内でこぢんまりと学プロやってて、のちにプロになった選手もたくさんいますからね。そういう選手は注目度も高くないんで、あまりツッコミも受けずにプロで活躍してるわけですよ。そういう意味では、棚橋選手とかはちょっと可哀想かなと。ウチの団体なんかもインディーでレスラーになってるヤツが何人かいますからね。この間、久し振りに学プロのOB会に出たら「どうもお疲れさまです」って二人から挨拶されましたから（笑）。

――アハハハハ！

ユリオカ　一応伏せ字でお願いしたいんですが、●●●・●●●と●●●●●●っていうんですけどね。

――う～ん、ボクはわかりますけど、知らない人がほとんどでしょうね（笑）。

ユリオカ　そうでしょうね。でも彼らだって、身体は小さいですけどレベルは高いですからね。もうね、これからは、そういう選手が増えてくると思うんですよ。いまは、なかなかアマレスとか柔道の大物をプロレス界に引っ張ってくるのは難しいじゃないですか。

――ですね。そういう意味では、学プロに限らず、好きでやってる人を吸い上げるっていうのが一番現実的でもありますよね。

ユリオカ　それこそ、そういう選手がオリンピック候補選手とか、ある程度実績があるヤツと闘うっていうのも、また地味ながらも夢がありますしね。だいたい、ボクが好きな藤波さんだって、とくにスポーツ歴があるわけじゃないじゃないですか？

――そうでしたね（笑）。

ユリオカ　スポーツ歴は陸上競技ぐらいで。ジャンボ鶴田さんとか天龍さんみたいな実績はなかったけども、ホントにプロレスが好きな少年の第一号でトップになった人が藤波さんでしょ。いまプロレス界は下火と言われてますけど、逆に言うとね、いまの時代に学プロに入るような人間ぐらい"プロレスLOVE"なヤツはいませんよ（笑）。

――それは間違いないですね（笑）。

ユリオカ　プロレス界に比例して学プロも下火になってきてるなんて、よく耳に入ってきますけど、HGやRGの活躍で今年の4月は入門希望者も増えるんじゃないですかね。

――そうなればいいんですけど、いまのところ影響はないみたいですね（笑）。

ユリオカ　なぜかウチの大学はプロレスラーとお笑い芸人を輩出してるというね。ターザン（山本！）さんもそうなんですけど（笑）。

――なんだか凄いメンツですね！（笑）。

ユリオカ　どんな大学だよ！って話なんですけど（笑）。でも逆にお笑い芸人になってから、学プロの面白さというか、学プロの持つパワー、笑いを生み出す力や凄味がわかりましたからね。

――具体的に言うとどういうことですか？

逆に芸人になってから、学プロの持つパワーや凄みがわかりました

上の写真はユリオカさんが「セーラー百合岡」として学プロの実況アナをやっていた頃の写真だ。実況席から選手が言ってほしくないことを絶妙のタイミングでツッコむのが学プロ実況アナの基本だ。

ユリオカ　要するに学プロって、見る側はプロレスを知らなくてもいいんですよ。プロレスが嫌いな人だって学プロを見たら意外と笑えるんですよ。いま西口プロレスとか成功してますけど、あれもね、プロレスの細かい知識を知ってたら、より面白いけど、知らなくても全然面白いんですよね。

――西口プロレスは全然プロレスとは関係ないイベントに出ても、かなりウケてますからね。まあ、小力効果もあるでしょうけど。

ユリオカ　それもありますけど、やっぱり一番わかりやすいのが、あの実況だと思うんですよ。リング上がボケで実況席がツッコミで。逆に芸人になってから、「凄いことやってたんだな」「あのパワーにはかなわないな」って思いましたもん。ボクも年に何回かは学プロの実況やってみたいっていまでも思いますからね。

――ユリオカさんは、みちのくプロレスとかの実況もされてますけど、それとはまた違う感じで？

ユリオカ　やっぱり、プロレスの実況は学プロのように客席にも聞かせる実況とはまた別物ですからね。

――プロレス好きな芸人としては、ある意味、一番やり甲斐のある仕事と言えるかもしれませんね（笑）。

ユリオカ　そうかもしれません。会場の反応がダイレクトだし、芸人としても実力を問われますからね。いま考えると、ボクが芸人になったキッカケとしても学プロを経験したのが一番大きいかもしれないですね。学プロの実況アナウンサーをやって、その快感を知ってしまったっていうのが後々につながってますから。

――いまのユリオカ超特Qがあるのも、学プロのおかげだと。

ユリオカ　そう言っても過言ではないですね。

――では最後に、今後の学プロに期待することが何かあれば？

ユリオカ　そうですねぇ。しいて挙げれば、ターナー・ザ・イ●サートと60分フルタイムドローという熱戦を繰り広げた元ZERO－ONE練習生の小森クンの動向は気になりますね（笑）。

――小森クンはRG命名の「んこ天小森」というリングネームでターナー・ザ・イ●サートとモノ凄い試合をしたらしいですからね。残念ながらプロデビュー間近に辞めてしまったみたいですけど。

ユリオカ　何年か前にZERO－ONEの会場で話しかけられたんですよ。小森クンは売店にいたんですけど、ボクに向かって「ユリオカさん、ボクの出生について何も言わないでください！」って叫んでましたからね。周りにお客さんがたくさんいたんですけど（笑）。

――ガハハハハ！　意味がわからないですね（笑）。

ユリオカ　「言ってほしいのか、おまえは！」ってツッコみましたけどね（笑）。（ドラゴン調で）まあ、小森クンに限らずですけど、ボクは学生プロレスの味方なんで、これからも頑張ってください！

「学プロ、フォフォフォフォーッ!」

レイザーラモン

RGが語る“ギブアップ住谷”の真実

レイザーラモンHG

HGの相方として学プロ時代から行動をともにしてきたのがRGだ。学プロ時代は“チン先真性”として選手&実況アナとしても活躍していたという。そんなRGにHGの“ギブアップ住谷”時代の話を中心に話を聞いてみた。

—今回はレイザーラモンHGのカミングアウトで再注目されている学生プロレスについて、お話をうかがわせていただければと思ってます。

RG “バッチこ〜い!”ですよ! まあ、ボクもこう見えて、京都統一タッグチャンピオンでしたからねぇ(誇らしげに)。

—そうみたいですね。RGさんの話も、のちほど少し聞かせていただこうと思ってますが、まずは学プロ時代のHGさんの第一印象から聞かせてください。

RG やっぱり、HGは当時から背も高かったですし、身体もできてたんで、「おっ、将来のエース候補が来たな」っていうのは正直思いましたね。

—そういうのは直感でわかるもんなんですか?

RG わかりましたよ。さすがに、ここ最近のブレイクぶりまではわかりませんでしたけど(笑)。

—HGさんとは大学は違いますけど、どういう接点で知り合ったわけですか?

RG HGは同志社で、ボクは立命館で、二人ともプロレス同好会に入って、それぞれ活動してたんですけど、月にいっぺんぐらい合同興行があるんですよ。そこで出会いましたね。

—すぐに意気投合したって感じだったんですか?

RG いや、HGは無口な感じの子やったんで、そんなに特別話すって感じではなかったですね。ただ、アメリカンプロレスのビデオがプロレス同好会のOBのタダシ☆タナカさんから、よく送られてきてまして(笑)、そのビデオを「ムッチャええな」って言いながら一緒に見てたぐらいですね。

—当時はどういったトレーニングをしてたんですか?

RG いまはどうかわかりませんけど、ボクらの時代はけっこう気合い入れてやってたんですよ。ボクはレスリング部にも所属してたし、あと社会人プロレスの方たちと交流したり、出稽古とかもしょっちゅう行ってましたからね。

—へぇ〜、それは本格的ですね。じゃあ、『ハッスル』でのHGさんの活躍も、あれぐらいできて当然って感じで見てたんですか?

RG 試合に関してはそうですね。どっちかというと試合よりパフォーマンスの部分のほうが不安っていうか、どうなるんかなと思ってたんですけど。……でも、ボクと違ってパフォーマンスも素晴らしかったです(苦笑)。

—アハハハハハ! 学プロ時代のHGさんは、どんな試合スタイルだったんですか?

RG 二人とも凄くアメリカンプロレスが好きで、HGはとくにWWEが好きで、ボクはECWがメッチャ好きだったんですよ。ちょっとムチャする系が好きで。あと二人でショーン・マイケルズvsレイザーラモンのラダーマッチを見て「これだ!」みたいな衝撃を受けて。それで、HGって凄くレイザーラモンのモノマネがうまかったんですよ。

—そういうのもあって、コンビ名をレイザーラモンと付けたと?

RG そうですね。レイザーラモンは二人とも好きだったんで。

—そういったアメプロ好きがリング上でも反映してたんですか?

RG いや、モノマネと試合はまた別で。HGの試合はたとえるなら全日スタイルって感じですかね。当時の四天王プロレスみたいな。

—あ〜、たしか本人も全日本に入りたかったと言ってましたよね。

RG そうですね。もうこれは、『kamipro』読者なら誰でも知ってると思いますけど、現在は某老舗団体のターナー・ザ・イ●サートとのタイトルマッチはメチャクチャいい試合でしたからね。

—そうみたいですね。いつかプロのリングでの再戦が見たいところですけど。

RG まあ、プロレス界は何が起こるかわからないんで、まったく可能性がないわけじゃないと思うんですけどね。ボクももう一回見たいです。

—『ハッスル』のリングでも披露してましたけど、一応、RGさんの当時のリングネームを聞いておきましょうか(笑)。

RG ボクは「チン先真性」でやってました(苦笑)。HGは「ギブアップ住谷」ってリングネームです。

—HGさんは普通ですけど、「チン先真性」っていう、ある意味、学プロらしいリングネームは先輩に付けられたモノなんですか?

RG ボクは自分で付けましたね。後輩にもたまに付けてあげたりしてました。小森っていうヤツに「んこ天小森」とか。“うんこ軍団”ってのを作ってたんで。

—エッ!? うんこ軍団はともかく、学プロ時代に棚橋選手と60分フルタイムドローの熱戦を繰り広げた元ZERO ONEの練習生・小森くんのリングネームを付けたのはRGさんでしたか?

RG ボクが付けました。ボクはけっこうお笑い担当って感じで、実況解説やったりとかしてたんですよ。

—学プロは実況解説がかなり重要な要素を占めますからね。

RG そうですね。先輩のユリオカ(超特Q)さんも伝説的に笑いを取ってた実況者でしたから。

—そうだったみたいですね。

RG ホント、学プロにとって実況はかなり重要だと思いますね。ボクらの時代は自分がけっこうメインでしゃべってたんですけど。

—試合でもお笑い的なものをされてたんですか?

RG ほぼそういう感じでしたね。ときどきハードな試合に駆り出されたこともありましたけど、ほとんどは休憩前ぐらいの、お笑いで沸かすみたいなコミックマッチをやってましたね。

—HGさんはお笑い系の試合はとくにやってなかったんですか?

RG HGは体格的にメイン級でしたか

ら、セミファイナル、メインでガンガンやってて、でもその中にも笑いを散りばめてって感じで。そういう意味で人気は当時からかなりありましたね。
——ちなみに、チン先真性って、どういうキャラだったんですか?
RG ちょうど、新崎人生がみちプロで暴れ回ってた頃で、ボクも坊主にして、拝み渡りやったりとか、いろいろ真似はしてましたね。ちなみにボクのパートナーはポーゴの真似したMr.珍POGOでした。いまは読売新聞社勤務なんですけど（笑）。

『ハッスル・マニア』で打点の高いドロップキックを難なく繰り出すなど百点満点のプロデビューを飾ったHG。2月10日に開催されたハッスルオーディションで鈴木家からの指名を受けたRGのプロデビューはあるのか?

——あ、そうなんですか（笑）。そのチン先真性というリングネームには深い意味というか……。
RG （遮って）あ、ボクは仮性です。
——失礼しました（笑）。
RG でも、だんだん人生スタイルからズレていって……ボクが一番影響を受けたのはECWだったんで、ECWスタイルでイスを使って、デスマッチとルチャ系、それプラスお笑いみたいなスタイルでしたね。
——立命館や同志社に限らず当時の大阪の学プロシーンは、かなり盛り上がってたみたいですね。
RG そうですね。大阪学院大学で活躍してた男色ディーノ君なんかはボクらのちょっと後輩が提携してやりだした頃から活躍してましたからね。
——「男色ディーノ」で検索すると当時の学プロでの活躍がメチャメチャいっぱい出てくるんですよね。
RG ディーノ君は伝説的に人気あったみたいですね。ホント凄いですよ、学プロのキャラのままデビューして、いまはDDTのチャンピオンですからね。学プロ界のリビング・レジェンドというか。
——学プロ時代の活躍は隠している人が多い中で、当時と同じリングネームとキャラで活躍してますからね。
RG まあ、ゲイって意味では、HGとキャラが被るところもあると思いますけど、またHGと違う気持ち悪さみたいなのもあるし、学プロのときからやってたムーブをそのままやってプロでウケてるっていうのは凄いと思います。そういう意味では、ディーノ君に限らず、学プロ出身者はもっとカミングアウトしていいと思うし、全然恥ずかしがる必要はないと思いますよ。
——昔と違って、いまは「学プロ出身はうまい」なんて普通に言われたりしますからね。
RG そうですよね。全国的に散らばってますけど、学プロ出身者って、もう何十人もプロになってるわけだし、いろんなスタッフも裏方としてプロレス界に関わってる状態ですから、どれだけ学プロが優れた組織だったかっていうのは声を大にして言いたいですね。
——パフォーマンス能力とかは、柔道やレスリング出身とかよりも、間違いなく優れているわけですからね。もちろん、中には例外もいるとは思うんですけど。
RG え!? ……もしかして、その例外って、ボクのことですか?
——いやいや、そんなことはないです（笑）。
RG 安心しました。でもホント、学プロ出身の選手ってプロレス心がわかってるし、武藤さんじゃないですけど〝プロレスLOVE〟が溢れてる人ばっかりですからね。
——では最後に、学プロについて何か言い忘れたことでもあれば?
RG まあ結論としては、学プロ出身はHGだけじゃないってことですよ!『ハッスル』でもWWEでも、いつでも〝バッチこ～い!〟なんで、RGもよろしくお願いしま～す。学プロ、フォ、フォ、フォ、フォ、フォーッ!!

恥ずかしがらずにレッツ・カミングアウト!

学プロ、フォーッ!!

学プロ名物(?) 珍リングネーム集

学生プロレスといえば下ネタ満載のリングネームもある種、名物となっている。ここでは古今東西、学プロ戦士の中から気になるリングネームをいくつか紹介&解説してみます。学プロ、フォーッ!

★ショータ・チチシボリ
※ 元ネタは新日本プロレス初の東京ドーム大会でアントニオ猪木と闘ったショータ・チョチョシビリ。元の名前が面白いっていうのもあるが、語呂もいいし定番の下ネタもしっかり入っているじつに学プロらしいリングネーム。

★ ドン・ナカヤ・ビデオリサーチ
※ 元ネタは先日、『kamipro』にも登場した前田日明との格闘技戦でおなじみドン・ナカヤ・ニールセン。数年前まで視聴率調査といえば「ニールセン」と「ビデオリサーチ」の二社が有名だったが現在「ニールセン」は視聴率調査から撤退。それは抜きにしても、ヒネリの効いたリングネームだ。

★ アイルトン・フェラ
※ 元ネタはF1レーサーのアイルトン・セナ。下ネタが基本の学プロリングネームだが、中でも"フェラ"が挿入されたリングネームは「フェラえもん」「ロッキー・フェラウケア」「吉田フェラ作」「フェラ田三四郎」などなど全国的に数多く存在する。

★ おちんぼ・シャブロック
※ 元ネタはたぶん、フランク・シャムロック。こちらも基本の下ネタの活用形だが、「フランク」を「おちんぼ」に見立て「シャブロック」するという強引ながらも、ヒネリの効いた、なかなか秀逸なリングネーム。ちなみにこのシャブロックは学プロ時代、現在、DDT、マッスル等で活躍するアントーニオ本多からベルトを奪取したこともあったりする。

★ 鈴木みのらない
※ 元ネタは、もちろん鈴木みのる。入場時には、みのるばりに黒タオルをスッポリと被り入場するも、風にはなれないレスラーなのだろう。世界一性格が悪いかどうかは未確認。

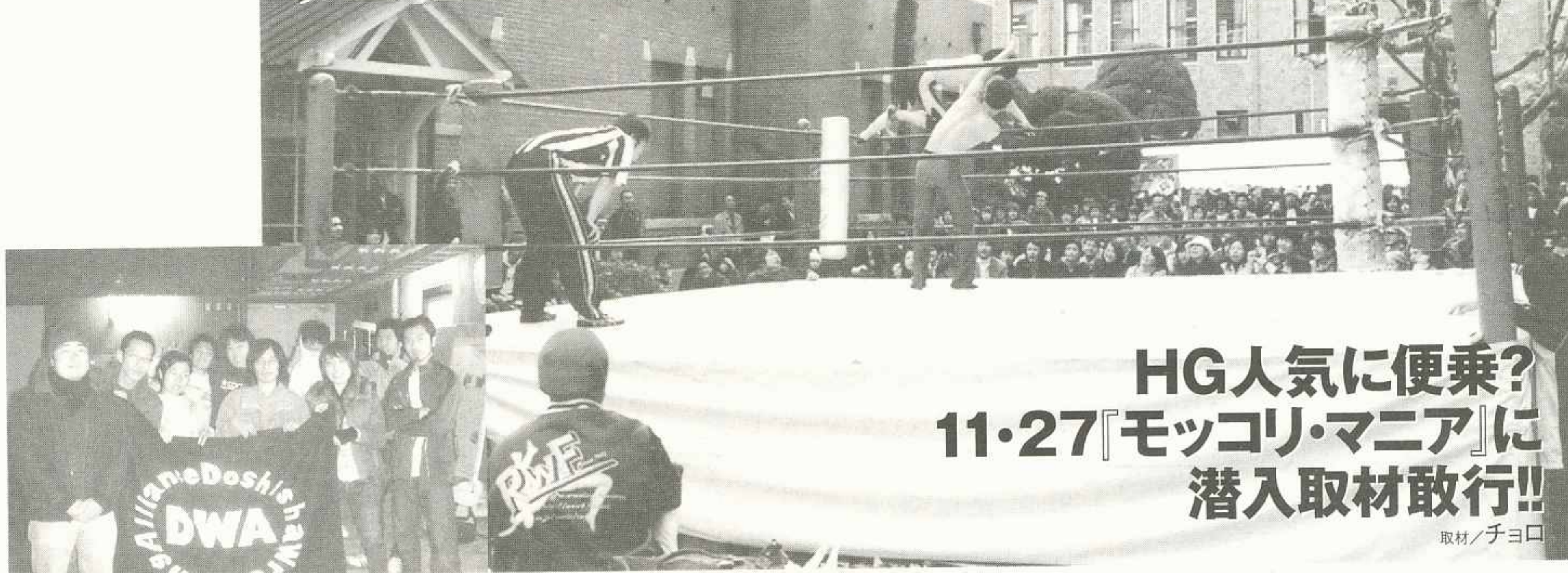
★ 新百合ヶ丘超特Q
※ 元ネタはご存知、お笑い芸人のユリオカ超特Q。ユリオカさんの芸名は本名の百合岡から来ているが、この選手はきっと新百合ヶ丘出身でユリオカさんファンの選手なんだろう。

★ アソコ永井
※元ネタというか、きっと、このレスラーの名字は永井さんで、おまけにアソコが長いことから付けられたリングネームに違いない。ある意味、学プロの王道的リングネーム。

ここにもいた! もう一人の学プロ出身の〝スミタニ〟を直撃!

【やまかさ・じぇっと・しんすけ】本名:すみたに・しんすけ。「山笠Z" 信介の翼の折れたトビウオBlog」では学プロ時代の同期のK-DOJOの某選手のことや、2・7『T2P』で引退した後輩のネタも書いてます。http://blog.livedoor.jp/yamakasa_jet/

学プロ取材を進めていくうちに、ZERO1・MAXの山笠"Z信介（以下・ジェット）も学プロ経験者であるということが『週プロ写真名鑑2006』で発覚。ジェットは『写真名鑑』のスポーツ歴の欄に、しっかりと「九産大プロレス研究部」と書いていたのだ。ZERO1事務所で会見があった際、たまたま居合わせたところを直撃してみた。「学生プロレスですか? 大学時代やってました。ウチの学プロは日本で唯一のプロレス研究〝部〟で、学校からお金も出てたんですよ。リングネームはですね、たまたま地元に女子プロレスが来てて、みんなで見に行ったんですけど、そこにNEOの元気美佐恵さんがいまして、先輩が『元気美佐恵って名字も名前って面白いな。しかも、〝元気〟っていうけど、ちっとも元気じゃないよ』とか面白がって言ってて、その勢いで『元気・炭谷』ってリングネームになりました（苦笑）。試合スタイルは、猪木さんが好きだったんで普通に黒のタイツでストロングスタイル系でした」とコメント。これを近くで聞いていたFOS中村代表は「そうか、おまえも本名は〝スミタニ〟だもんな。HGも学プロ時代はギブアップ住谷って名前だったし、おまえもビッグになって『ハッスル』で〝スミタニ〟タッグが組まれるように頑張れ!」と負傷欠場中のジェットを激励。「が、頑張ります!」と戸惑いながらも決意を新たにしたジェット。はたして、〝スミタニ〟タッグが見られる日は来るのか? ちょっとだけ期待して待とう!

HGを生んだDWAのトホホな現在

HG人気に便乗？ 11・27『モッコリ・マニア』に潜入取材敢行!!

取材／チョロ

毎年恒例の同志社学園祭EVEでの飛び石興行。今年はその狭間の27日に『モッコリ・マニア』を開催。大会後にはリング上で翌日の大会へ向け練習が行なわれていた。中央はRWF唯一の女子レスラー、藤崎詩織ちゃんだ！

メインを務めたのはDWA会長の〝味皇〟村田源二郎。学友会が解散に追い込まれ補助金が減額、新入生の入部ゼロ、さらには顧問の辞任など、DWA最大の危機を乗り越え、卍固めで大会を締めくくった〝味皇〟。頑張れ！

真ん中の怨霊チックなレスラーは03年会長の恥霊。そのキャラをHP上で発見した元ネタ選手のオファーでプロ興行にも参戦経験があるという変わり種。07年の卒業をもくろみ就職活動中とのことだが、はたして……

そもそも今回、『kami-pro』で学プロ特集をやろうと思ったのはHGの『ハッスル・マニア』でのブレイクぶりはもちろんのこと、HGの母校・同志社プロレス同盟（DWA）が11月27日に、その名もズバリ『モッコリ・マニア』という ビッグイベントを開催するという情報を入手したのがキッカケだった。

11月3日に行なわれた『ハッスル・マニア』から1ヵ月も経たずして、HGの母校で開催されるというHG人気に便乗した学プロならではの戦略といえるだろう。これは行くしかない！『モッコリ・マニア』と銘打っているからには、ひょっとしたらOBのHGの電撃参戦もあるかも!? 「そんなシーンが見れたらスクープだな。いや待てよ。そんなおいしい場面が撮れるんだったら、それこそ一般誌も黙ってないか」などとぼんやり考えながら、同志社大学のある京都へと向かった。

DWAのホームページを見ると、『モッコリ・マニア』の簡単な情報は載っているのだが、マッチメークはおろか、開始時間すら書かれていない。「まあ学園祭の中のイベントってことだし、早くても12時開始ぐらいだろ」と呑気にかまえ、同志社の門をくぐったのが12時ちょっと過ぎ。専門学校卒のボクにとって広大な大学のキャンパスはどこに何があるかまったくわからない。しょうがなく案内所で、『モッコリ・マニア』の開催場所を聞くと、すでに始まっていると言うではないか。

「リングサイドはマスコミのカメラでもういっぱいだろうなぁ」と、急いでリングが設置されている野外の特設会場へとダッシュしていると、早速、HGを発見！しかし、そのHGは「フォー！　フォー！」言いながらウロウロしているのだが、周りには人っ子一人いない。よく見ると160センチ弱のミニHGだった。残念。

気を取り直して、すでに試合が行なわれているリングに向かう。ようやく会場にたどり着くと、一方向だけではあるが200人以上の観客がリングに向かって熱心に視線を投げかけていた。しかし、学プロ名物の実況&解説がほとんど聞こえてこない。リングサイドではマイクを持った実況&解説者が何やらしゃべっているのが確認できるのだが、すぐ近くでロックのライブがガンガンに行なわれていたため、マイクの音はおろか、リング上でのアピール、そして受け身の音さえ耳を澄まさなければ聞こえないのだ。

これでは学プロの魅力は半減である。リング上では「コンドー・ムタ」や「出るッ・ピュ！エロ」などといった、いかにもなレスラーから「ダイビング窪塚」といった、ちょっとした時事ネタを取り入れたレスラーなどが、悪状況にもめげず必死に闘い観客に盛んにアピールしていた。

予想していたマスコミ陣もついには現われず、もちろん本物のHGが姿を見せることもなく、メインでDWA05年度会長の〝味皇〟村田源二郎が卍固めで窪塚を切って落とし、何やらアピールが行なわれたあとはリング上に勢揃いしたレスラーたちが「3、2、1、モッコリ！モッコリ！」とポーズを決め（たしか股間の前に両手で膨らみを作るポーズ）、『モッコリ・マニア』は幕を閉じたのだった。

自分勝手な期待感がかなり大きかったため、そのアッサリ&モッコリ感には、ちょっと拍子抜けしてしまったが、これが、いまの学プロの現実なのだろう。

現在は裏方も含め約10人ほどで構成されているというDWA。他の多くの学プロ団体と同様、ここ数年は入門者の数も激減中とのこと。桜の花の咲く頃には、HG効果で入門希望者が増加することを切に願いつつ、同志社のキャンパスをあとにした。DWA、再興フォーッ！

学プロから〝プロ〟の王者へ——

男色ディーノから後輩たちへ贈る言葉

学プロ界のリビング・レジェンド

『強くなりたい』

俺は柔道をやっていた。

自分で言うのもなんだが、高校のときに県で1、2番を争うほどの選手だった。

そんな俺だが、この春からは「普通の大学生」をしている。もちろん、スポーツ推薦入試の話もあったのだが、その話は怪我を理由に断った。そして、そこそこ勉強すれば入れる大学に入った。

周りのみんなは声をそろえて「もったいない」と言った。でも、俺は柔道を続ける気にはなれなかった。……本当に怪我はしたんだ。でも、怖かったというのが本当の理由かもしれない。

結果だけしか必要とされない世界。出た結果が、すべてのことを決定する。そう、いままで正しいと思っていたことすら、結果の前では無力なんだ。

俺は昔、後輩をいじめていた柔道部のエースを殴ったことがある。そうしたら、監督から俺が殴られた。そして言われた。

「エースが怪我したらどうするんだ！」

その世界から、俺は逃げ出した。

そしていま、俺は学生プロレスをしている。

もともと嫌いではないし、何よりプロレスだったら柔道をやってた俺より強いヤツはいないだろう、そう思って学生プロレスを始めた。

でも、いざ始めてみて、少しガッカリした自分がいた。相手を倒すために試合をしているはずなのに、なんでこんなに無駄な動きをするんだろう？

相手の技を、なんでわざと受けなくちゃいけないんだろう？

ロープに投げられたら、返ってくる練習。相手が殴ってくるのを、逃げずに正面から受けきる練習。

いったい、プロレスってなんなんだろう？

あまりにも、いままで俺が見てきた世界と違いすぎた。俺は、プロレスをする気がなくなっていた。幸い、俺は練習をしているだけで、まだデビューはしていない。

だから、いまのうちにこのサークルを辞めようと思った。そして、一番仲のよかった先輩にそのことを伝えた。

「おまえが決めることだから、しょうがないな。でも、プロレスもそんなに悪いもんじゃないよ」

先輩はなぜだか笑ってそう言った。

結局、一週間後の昼に行なわれる試合を最後に、俺は学生プロレスを辞めることにした。

学生プロレスは、基本的に3年生を中心に展開している。だから、メインイベントは3年生が務めることが多い。

この日もそうだった。

相談に乗ってくれた人のいい先輩と、やたら筋トレが好きなマスクマンの先輩のシングルマッチ。……どちらもいい先輩なんだけど、ハッキリ言って俺のほうが強い。もし、いま試合をやっても負ける気がまったくしない。だからかどうかはわからないけど、俺はなんだか馬鹿馬鹿しいような気持ちで入場が終わってリング上に立っているこの人たちを見ていた。——試合が始まる前までは。

俺は、魅了されていた。

彼らが織りなす芸術に、と言えば少しくさいかもしれない。でも、それはまるで芸術だった。

普段、練習でやっている動きで、観客をひきつけ、普段、練習でやっている動きで、見ている観客が沸く。そして、マスクマンの先輩の攻撃で流血しても立ち上がる先輩の姿を見たとき、俺は不覚にも興奮していた。

そうか。プロレスには、これがあったんだ。たしかに試合をすれば俺は勝てるかもしれない。でも、俺は、彼らと同じことはできない。観客をいまの俺と同じように興奮させることはできない。俺には、芸術作品は作れない。

いつか先輩が俺に言っていた。

「観客にとって、おまえが本当に強いのかどうかはどうでもいいことなんだよ。それよりも、おまえが『どのように強いのか』を、リング上で『どのように見せるか』そのほうが観客にとって重要なんだ」

それを聞いたときには、何を言っているのかわからなかった。俺がその言葉を思い出した瞬間、リング上では先輩は空中を舞っていた。

キレイだな。単純に、そう思った。

試合後、控室で倒れたままの先輩は、それでも笑いながら俺にこう言った。

「プロレス、悪いもんじゃないだろ？」

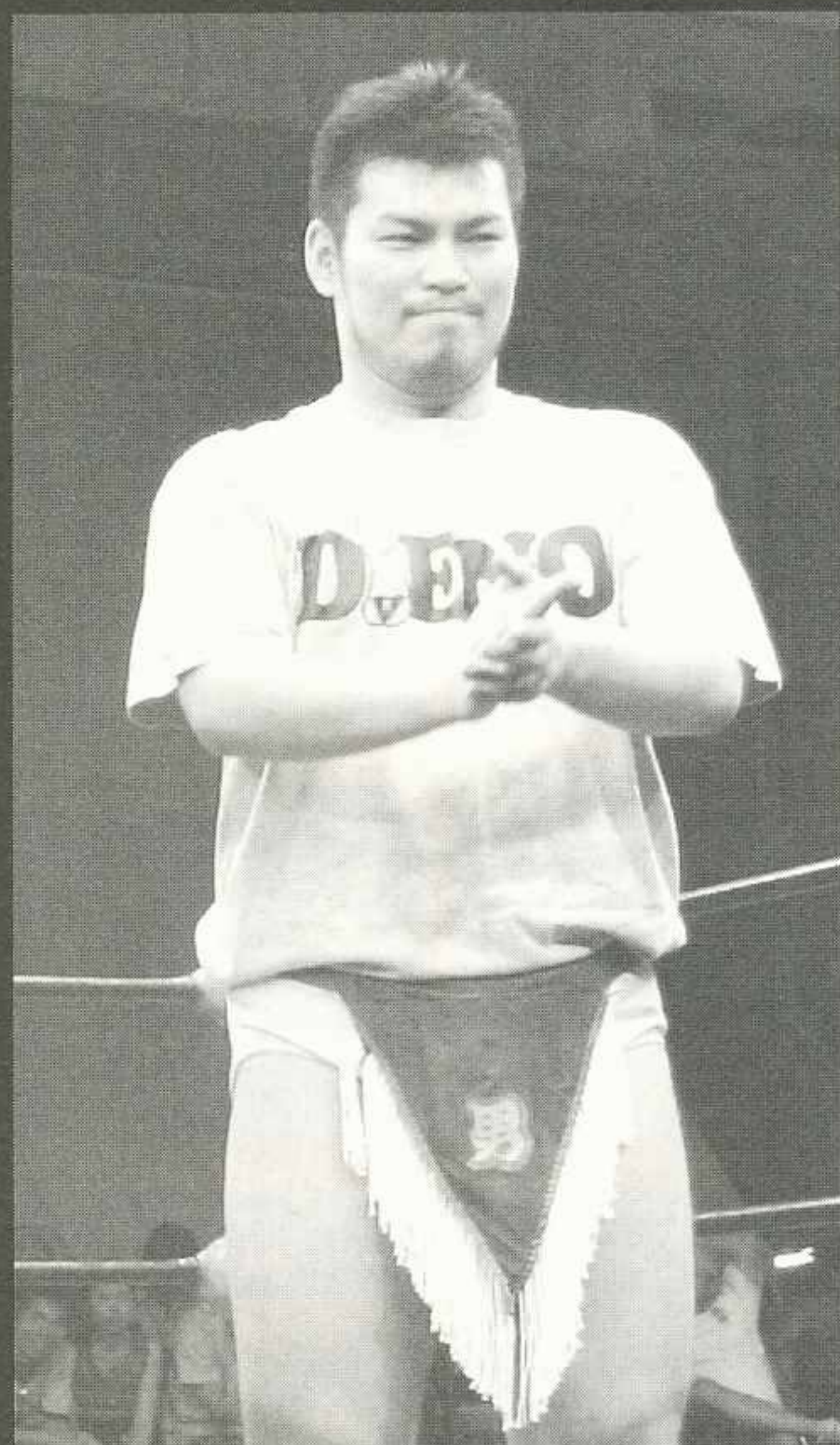
俺は先輩に頭を下げ、思っていることを素直に言った。

「俺も、そう思います」

もう逃げたくない。ここで闘おう。

そして俺は、先輩と一緒に、なぜか笑った。

強くなりたい。リング上で強くなりたい。本気で、そう思った。

恥ずかしがらずにレッツ・カミングアウト！
学プロフォーツ!!

【だんしょく・でぃーの】学プロ時代から同じリングネーム＆同じキャラで、所属するOWFの第16、18代ヘビー級王者に輝き、現在はDDTのKO-D無差別級王者。そんな男色先生の素敵な原稿が読めるのはここだけ！『男道～ゲイプロレスラー 男色ディーノのROAD TO あきら～』アドレスは→ http://ameblo.jp/dieno/

Back Number

究極の格闘技大戦争勃発!
no.49 '02.04 880 yen

和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田／アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?／破壊王も火のヤリ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐり!

50号記念企画てんこ盛り号
no.50 '02.05 880 yen

「地方発世界」開始! 小川&橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!／ギョ!? ［編集長が新日本に三くだり半!

揺るぎなきプロレスの確立
no.51 '02.06 880 yen

両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子／天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談／新・超獣ザ・プレデター

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52 '02.07 880 yen

全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム／戦慄の『LEGEND』前夜!

『Dynamite』ド直前号!
no.53 '02.08 880 yen

ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久／独占肉弾スクープ! マット・ガファリ／爆裂! 川村社長ガチンコ語録!／偽造王の知られざる半生!

『Dynamite』を大総括!
no.54 '02.08 880 yen

"首の皮一枚" ホイス&エリオグレイシー／"青い目のケンシロウ" ジョシュ・バーネット／純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン

受け継げ、Uインター魂!!
no.56 '02.10 880 yen

田村戦直前! その覚悟を読み解け!! 髙田延彦／蘇れ! Uインター伝説!! 安生&金原&高山／『紙プロ』に世界一性格の悪い男が登場! 鈴木みのる

驚ガクの6周年記念号
no.57 '02.11 840 yen

サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる"U"が始動!! 田村／悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ／北尾戦・セメントマッチの真実ジョン・テンタ

夢の対談、大連発号!
no.58 '03.01 880 yen

夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×髙阪／Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健／カルガリー師弟対談 ヒト×ハシフ・カーン

最後の皇帝、PRIDE上陸
no.59 '03.02 880 yen

いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス／爆発!! WJマグマ語録／吉田道場の秘密兵器 中村和裕／UWFの再興と再考 田村

PRIDEは変貌&再生する!
no.60 '03.03 880 yen

ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気／あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし／全日本中継の真実!! 倉持隆夫

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no.61 '03.04 880 yen

裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン／プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光

マット界、超絶リボーン!!
no.63 '03.06 880 yen

「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!／憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー／芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64 '03.07 900 yen

"異次元格闘技戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー／ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"

田村vs吉田、徹底検証!!
no.65 '03.08 880 yen

"最後の皇帝" 燃え上がる! ヒョードル／"反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!! ミルコ／吉田秀彦戦の"謎"に迫る! 田村潔司／闘魂ストーカーを捕獲! イズマイウ

『PRIDE武士道』誕生!!
no.66 '03.09 880 yen

緊急独占インタビュー! ミルコ／マッハの野望を砕いた"赤い暗殺者"登場!! 長南亮／"天才空手少年"VT秒殺デビュー!! 中嶋勝彦／『東スポ』とは何か?

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67 '03.10 880 yen

ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー! ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー／アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68 '03.11 880 yen

大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦／曙とは何者か!?／一年ぶりの勝利でニコニコインタビュー 桜庭和志／"野良犬"『紙プロ』初登場! 小林 聡

ハッスル1開催、ド直前!!
no.69 '03.12 900 yen

出てこい! 泣き虫!! 橋本真也&小川直也／『泣き虫』著者登場! 金子達仁／大晦日直前インタビュー! 田村潔司／アイアム リアルプロレスラー 美濃輪育久

紙プロ大賞'03発表!!
no.70 '04.01 880 yen

PRIDE征服宣言! ミルコ／シウバに宣戦布告! 近藤有己／ド真ん中の真実を語る! 佐々木健介&北斗晶／発表! 紙プロ大賞&マット界語録2003

ハッスル2で大フィーバー!
no.71 '04.02 880 yen

『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ／待望の『紙プロ』初登場! 川田利明／理想のプロレスを追い求める! AKIRA／幻の猪木vsアミン戦の真実!!

PRIDEに格闘ロマンを見よ!
no.72 '04.03 840 yen

GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／K-1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁／全て見せます!!『突撃! 佐々木健介邸』

最も過酷な道を行く男!!
no.73 '04.04 880 yen

GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド／キックの名伯楽登場! 伊原信一／魔界のニューリーダー 村上和成

感じろ、ハッスル魂!!
no.74 '04.05 880 yen

PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／"ハードコアのカリスマ" ミック・フォーリー／掣圏会館皇帝 佐山サトル激語り!!

英雄誕生の気運高まる!!
no.75 '04.06 880 yen

シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也／奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統／インド狂虎登場! タイガー・ジェット・シン／年金未納からUFOまで

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no.76 '04.07 880 yen

小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志／新連載『月刊PG談（仮）』吉田豪×掟ポルシェ

小川vsヒョードル決定!!
no.77 '04.08 880 yen

「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ／サンボの神様降臨!! ビクトル古賀

PRIDE GP徹底総括号
no.78 '04.09 840 yen

衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／K-1のトップが小川を語る 谷川貞治／壮絶インディー人生! 田中将斗

髙田総統がビターンと降臨!
no.79 '04.09 840 yen

キャプテンに休息なし! 小川直也／特別付録・髙田総統ポスター／谷川さん推薦企画『曙は是か非か?』／ビビッたか? ボヤいたか!? 金原モンスター軍

守護神ミルコが外敵狩りへ!
no.80 '04.10 880 yen

独占ロングインタビュー ミルコ／ハッスル軍お家騒動を激白!! 小川直也／新連載! 佐山サトルの右流タン探訪紀／袋とじ企画 元全女・グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!
no.81 '04.10 880 yen

ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ／新日本でハッスル成功! 小川直也／スーパーひとし君登場! 草野仁／佐山サトル×船木誠勝

男たちの祭りは激化する!!
no.82 '04.12 890 yen

"道場破り"の全てを激白! 安生洋二／WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪／伝説の悪徳レフェリー降臨! 阿部四郎

大晦日格闘技戦争、大爆発!
no.83 '05.01 880 yen

『PRIDE 男祭り』怒濤の大総括!／蘇る新日本黄金伝説!! 橋本真也×船木誠勝／『シベ超5』公開記念SP対談! 水野晴郎×サスケ

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84 '05.02 880 yen

"殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／"頑固者"がPRIDE GPを語る 田村潔司／"起爆剤"か、それとも"時限爆弾"か? 前田日明復活大特集!!

PRIDEvsHERO'S開戦!!
no.85 '05.03 860 yen

PRIDE GP2005特集! 桜庭和志、田村潔司、髙田延彦／パンクラス2大王者が揃い踏み! 髙阪剛×近藤有己／HBKが大暴れ!? 草野仁×浅草キッド

PRIDE GP直前大解剖号
no.86 '05.04 860 yen

大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散の真実を語る!!／PRIDE GP&K-1 MAX 出場全選手パーフェクトガイド

PRIDE GP開幕&大総括!
no.87 '05.05 860 yen

敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝のマッドネス対談シリーズ!! ゲスト・宇野薫／蘇れ! 新日本プロレス学校対談 金原弘光×池田大輔

ミルコ、運命のヒョードル戦へ!!
no.90 '05.08 880 yen

ミルコの家族総出演! クロアチア現地取材／さらば破壊王! 橋本真也追悼特集／新日本前社長・草間政一が独白!／どっこい生きてる全女魂! 松永高司

通販申し込み方法

▼バックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。

①『紙プロHand』で注文　②電話注文 03-5368-1797
③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。
※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。

ご注意 郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

野獣 is BACK!!

“皇帝を最も苦しめた日本人”

伝説のヒョードル戦直前の藤田インタビューは

紙のプロレス RADICALで読める!!

「皇帝vs野獣」伝説の一戦をいま、振り返る!

no.62 '03.05

★03年6月、『PRIDE26 RE-BORN』にて自ら、vsヒョードル戦を志願した貴重な藤田和之の試合直前インタビューの掲載号!（聞き手／堀江ガンツ）
★ 記者会見で握手を拒否した藤田にブチ切れ状態、怒りのE・ヒョードルインタビューも必見!

880yen

注 新装刊となった「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。
http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます!

03-5368-1797

平日 15:00〜22:00

販売元 (株)ダブルクロス

本誌 Back Number

格闘ノストラダムス!

no.16 '99.03 780yen

アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!／引退後初!前田日明インタビュー／相撲多重アリバイ 石川孝司／語ろうジャンボ鶴田

特集 神秘とは何か？

no.14

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF

特集 インディペンデントの逆襲

no.15

あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／Ｋ－１とは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのＫ－１三兄弟（当時）インタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF

特集 実況パワフル北朝鮮

no.17

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

780yen⇒390yen 50%OFF

パンクラス公式読本

矛・盾

97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!! ターザンも炎上してますよォォ!!

各1260yen⇒630yen 50%OFF

純プロ王国NOAHに迫る!!

no.29 '00.07 840yen

三沢、秋山『紙プロ』初登場!!／プロレススーパースター列伝 仲野信市／本誌独占ジャンボ鶴田夫人最愛の夫の真実を語る!!／TKおかん

“新”プロレスとは何か?

no.32 '00.10 840yen

田村潔司に快勝！ A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村／“和製カレリン”本田多聞

純プロレスを徹底検証!

no.35 '01.02 840yen

ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／“ノアの怪物”杉浦貴／UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

燃えよ、闘魂の火種!!

no.36 '01.02 840yen

ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言／W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く／吉田豪に“ドラゴンの呪い”が襲う!!

純プロレス戦国絵巻!

no.37 '01.04 840yen

安田忠夫が借金から自殺未遂までを語る!／アブダビコンバット01一大探検記!／シュート活字Ｘファンタジー活字／比類なきプロレスがWWFにはある!

小川直也は是か非か?

no.38 '01.05 840yen

忘れ物の正体は――。髙田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル／プロレススーパースター列伝 阿修羅原／死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

前田日明は是か非か?

no.39 '01.06 840yen

前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男／プロレススーパースター列伝・田上明

地上最強のプロレスとは?

no.40 '01.07 880yen

蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎／プロレススーパースター列伝 グラン浜田

“最後の黒船”WWF来襲!!

no.41 '01.08 880yen

リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現!／W☆INGの真実・茨城清志／毒舌知能犯秋山準語録

アントンパワー大爆発!!

no.42 '01.09 880yen

ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／“ヒャッホーの真実”辻よしなり／蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光

聖戦『PRIDE.17』迫る!!

no.43 '01.10 880yen

ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会／野武士が語るんだよな 中野巽耀

サク連敗とPRIDEの未来

no.44 '01.11 880yen

その修羅場の数々! シーザー武志／怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴／ハンス・ナイマン&ディック・フライ／闘龍門大特集

一寸先はハプニング!!

no.45 '01.12 880yen

悪魔の書、現る! ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談／プロレススパースター列伝 グレート小鹿／語録で振り返るマット界2001

WWE日本侵攻、5秒前!

no.47 '02.02 880yen

“天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!／噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!／プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

桜庭、満開の日は近い!

no.48 '02.03 880yen

奇跡のメガトン対談! 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光／伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン

新 卓球少女(似)松下ミワの ハガキ愛ランド

前回、読プレに出した「萌えジャージ」に一通も応募がない！　と、意外と寂しい思いをしている松下ミワです。こんにちは。日本の気候も、株価も、耐震問題も寒冷前線真っただ中ですが、そんな寒さはさようなら！　というわけで、今月もマイケル級の笑顔で寒さを凌ぎましょう。それではよーい、ドンッ。3、2、1、大雪、大雪、う～、いただきます!!（試食）。

kamipro95号へのお便り紹介

毎回楽しく読ませていただいています。僕は五味選手が大好きで、サイン入りTシャツが欲しくてたまりません。すでに何枚かハガキが届いていると思いますが、このハガキで20枚目になります。いま書いている20枚目のハガキで最後にするつもりだったのですが、先ほど書店に立ち寄ったときに『kamipro』が置いてありまして我慢できずに3冊購入させていただきました。
【兵庫県・田丸克也さん・高校生・17歳】

⬇田丸さん、五味選手への熱烈なハガキを大量に送ってくれてありがとうございます！　五味選手も凄いけど、それ以上に五味人気は凄い。ランキングも見ての通り、ぶっちぎりで1位。独走態勢は止まりそうもありません!!

世界の所さんインタビューが良かったです。所選手の天然っぷりとホイス戦直前の公開練習で矢野卓さんに極められてタップしている姿を想像するとおかしくておかしくて（笑）。所選手最高です。
【福岡県・清水善江さん・主婦・31歳】

⬇公開練習で自身の万全さをまったくアピールできなかった所選手はさすが。しかし、本番の集中力の高さと言ったら本当に凄い！　次回はさらなる大物との対戦に期待しましょう!!

シウバとヒョードルの対談は凄かった。まさかこの二人の対談が見れると思ってなかった。ヒョードルがシウバを尊敬しているということもわかり嬉しいです。握手している写真もかっこいいので、表紙でも良かったと思います。
【大阪府・近藤徹さん・会社員・39歳】

⬇まさにPRIDEファン垂涎の対談。二人がディズニーランドではしゃいでいる姿は非常に平和でステキですね。でも、英語が苦手という二人がどうやって意思疎通を図っているのか、とっても不思議ですね。

この度は所英男選手のTシャツをいただきまして誠にありがとうございます。まさか当選するとは思ってなかったので驚きました。私が格闘技に興味を持ち出したのも所選手がきっかけだったので本当に嬉しかったです。
【鹿児島県・金谷美樹さん】

⬇本当に洗濯せぬままお送りしましたが、喜んでいただけて何よりです。プレゼントしてくださった所選手に感謝！

kamiproAWARDがよかった。どの雑誌よりもkamiproAWARDが面白い。あの絵もいかすし、好きな試合が何試合も入っていた。ただ、今成さんのがないのが残念だった……。
【山梨県・アシシオ太郎さん・15歳】

⬇今成選手は花くまゆうさく先生が堂々のMVPに選出してまっせ。さあ、もう一度見直してアンダーラインだ!!

江頭2:50が面白かった。僕は大谷選手が新日本の頃から似ていると思っていた。とくにスワングダイブドロップキックのときの姿勢が。
【広島県・寺戸和之さん・会社員・42歳】

⬇江頭2:50のインタビューは、この道20年以上のカメラマン平工さんをして現場が最高に面白かったと言わしめた傑作。江頭さんも『kamipro』リサーチを行ない、準備万端でインタビューに臨んでいただいたみたいです。さすがプロフェッショナル！

浅野IWA社長×タジリが面白い。緑タイツのときの田尻選手、IWA観に行ったとき少しダサかったなあ。でもワザは凄かった！　いやぁ、いろいろ思い出して面白かった。

【三重県・モスラさん・小売業・32歳】

⬇タジリ選手、ついに『ハッスル』に参戦!!　しかし、ぬかみその写真は凄い。一瞬、違うモノかと思って、私ドキッとしました。

①
和歌山県
② 井谷真穂 ③14歳 中学生
④所英男の福袋
⑤江頭2:50
理由：顔がおもしろかったから!!!!!
⑥インリン様 さよならの向こう側
理由：キモかったから
⑦袋閉じの宇野薫と所英男の対談
⑧イイ女になる☆☆

⊃チョロさんをして「すべてのコメントが完璧！」と言わしめたこの井谷さん。短いながら、鋭いコメントありがとうございます。

森達也さんのインタビューをとったのは凄いと思う。こういうアナーキストをも載せるところが、さすが『kamipro』と思う。そして今度は、佐山皇帝の右流ルンスペシャルインタビューを待っています。
【新潟県・斎藤貴樹さん・会社員・31歳】

⬇森達也著『悪役レスラーは笑う』はぜひ読んでください！　プロレスを知らない格闘技ファンのあなたでも絶対面白く読めるはずだ!!（実証済み）。書店へ急げ！

何と言っても“中尾事変”。意味不明な出来事でビックリした。
【宮崎県・児玉理香さん・会社員・36歳】

⬇チョロさん&ポンジュース上杉が身体を張った甲斐がありました。あっという間にグローブ&レスリングタイツを調達したチョロさんと、撮影が決まって、すぐさま歯磨きを始めたポンジュースの素晴らしき行動力の勝利です。

95号・面白かった記事ランキング

順位	記事
1位	五味隆典インタビュー
2位	シウバ×ヒョードル対談
3位	江頭2:50インタビュー
4位	所英男インタビュー
5位	検証 大晦日視聴率狂騒曲

95号巻頭を飾った五味、所の両選手が上位に！　2005年MVPを獲得した五味選手、2006年スタートから向かうところ敵ナシ。所選手は念願の上位ランクインおめでとうございます!!　2位を飾ったのはPRIDE王者対談。二人でディズニーランドに行ったというメルヘンチックな話題が功を奏したのか!?　3位は江頭2:50分。「ワンクールのレギュラーよりも一回の伝説！」というステキな言葉を残したエガちゃんが、『kamipro』にも伝説を残してくれました。

2006年 みんなの目標

さてさて、今回『新・ハガキ愛ランド』では読者のみなさんから「2006年の目標」を募りました。一年の目標を宣言するにはあまりにも中途半端な時期ですが、そんな意見はサッと無視してさっそく紹介させていただきます。全員が目標達成すれば、エコノミストがいなくても日本は景気回復だ！　さあ、みんなで叶えましょう～。

ロト6を当てたいな、1億！
（三重県・モスラさん・小売業・32歳）
▼私も万馬券を当てたいです！

体脂肪10％を切る。いま現在12％。
（千葉県・大貫尚志さん・会社員・31歳）
▼素晴らしい！　10％切ったら、ぜひ写真を送ってください!!

身体をやわらかくする。開脚して胸がつくのが目標！
（埼玉県・金子晃司さん・会社員・30歳）
▼その動機がまったく予測不能ですが、せっかくなので、頑張ってください！

契約社員から正社員になる。親孝行をする。
（青森県・清野健徳さん・契約社員・35歳）
▼いいですね！　一歩一歩って感じです。

身長を40センチ高くしてセーム・シュルトをやっつけます。ひざで。
（東京都・寺田純さん・豆腐売り・24歳）
▼残念ながら、24歳から40センチは伸びないですよ。目標は叶えられるものを書きましょう!!

まず受験に受かって、高校でモテモテで、いい青春を迎えたい！！！
（山梨県・アシシオ太郎さん・15歳）
▼夢いっぱいですね！　本誌発売頃には、受験真っただ中でしょうが、絶対合格してください。

ハーレー・ダビットソンを買いたい。
（広島県・寺戸和之さん・会社員・41歳）
▼買って、乗り回して、風になりましょう！

今年の目標は全国大会バレーボール小学生の部、優勝!!（誕生日：2月3日です）。
（長崎県・前多絵里奈さん・小学生・10歳）
▼もうとっくに過ぎましたが、誕生日おめでとう!!　わざわざ教えてくださってありがとうございます。

今年はなんとかPRIDEのスポンサーになることが目標です。
（長崎県・前多料臣さん・通信自営業・33歳）
▼“今年はなんとか”という文言に、前多さんの意気込みが見えますね！　ぜひ叶えてください。

ましプレ

武蔵ライター

先月号に引き続き、真下さんからのプレゼントです。前と一緒じゃないかって？　いやいや、今回は武蔵です!!　ちなみに、ボブ・サップライターには一通もおハガキが来なかったので、武蔵ライターとあわせてお送りします。カモン！　応募!!

※このコーナーは応募がくるまで続けます。

GKのインタビューで藤田のことをしゃべっていたのが嬉しかった。大晦日のヒョードル戦のVTRを観て、PRIDEの無差別級GPに期待できる日本人は藤田しかいないと思っていたので。GKにはもっと藤田のことを聞いてほしい。

【秋田県・こまちこまさん・美容師・25歳】

⬇そのGKがインタビュアーとなった藤田インタビューが、今月の巻頭を飾りました。さて、独立した藤田選手はいったいどのリングに上がるのか。乞うご期待!!

先月はサスケ&韮澤先生のサイン色紙、ありがとうございました。今年は生でUFOを見たいと思います。そうすれば、いままで妄想癖があるのでは？　と疑っていたサスケさんの言動が少しでも信じられると思うからです。

【岩手県・内田一郎さん・会社員・33歳】

⬇UFOは選ばれた人でない限り、姿を見せてくれないらしいので、まずUFOに好かれる人物になることをお勧めします！

マヤガレットさん
➲リングから姿を消しているインリン様。いったいどこにいるんでしょうか??　一方、たまごはぐんぐん成長中。

埼玉県・中川雅博さん・自由業・28歳
➲前号でkamipro AWARDのイラストを大量に描いてくれた中川画伯から久々のハガキです。ぜひ、また送ってください!!

東京都・ゆりりさん
➲ミルコのハイをくらっても「ビックリした」だけのハントは凄い!!　『PRIDE』無差別級GPには果たして出場するんでしょうか？

大阪府・白河甚平さん
➲HGもRGも、あの絶妙な間の取り方は素晴らしいですね。次回の『ハッスル』も同時参戦なるんでしょうか？

スクープ！　ザ・目撃!!

●今日、**池袋の回転寿司屋**に入ったら奥のテーブル席にエンセン井上選手がいました。マネージャーらしき人と、**隣りにはなんと超常現象評論家の韮澤潤一郎氏が！**　まるで『kamipro』の対談かよと思い、いったいこの二人がどんな会話をしてるのかとこっそり聞き耳を立てていると、エンセン選手の携帯に電話が。何やら英語で延々と長電話を始めてしまい気になる会話の内容はわからずじまい。それにしても、エンセン選手は目でも合わせようもんならボコボコにされそうなくらいオーラがありました（被害妄想）。
【おジャ課長さん】

●1月26日に僕が毎度自由が丘南口でコンタクトのチラシ配りしてたら、自転車をこぎながら携帯で話してる新日本を退団した**長尾選手**を見ました！　じつは去年も正面口プラザ前で歩いていたからチラシ渡して握手しました！　ヤングライオン杯の最中だったから「この前の後楽園（田口戦）行きました！」と言ったら、長尾選手が「あ〜全然ダメだった！」と言いました。僕は余計なことを言ってしまったようです（涙）。長尾さんすみません！
【原姉貴はゴッチ式さん・チラシ配り・30歳】

●**本物**、といえる**手裏剣術**を見てきました。**四国山中**の秘密の場所での体験教室です！
HP→http://www.geocities.jp/onti2005/
【徳島県・コン吉さん・医師・37歳】

●京王線の某駅で、**GRABAKA**の**山崎剛選手**を見ました。普通に電車に乗って、眠そうな目をこすりながら、4つ目の駅で降りて行きました。本当にただ見かけただけです。
【東京都・しんさん・学生・21歳】

紙のプロレス道場

※Q7のヒント

プロレス全問正解当たり前クイズ

Q1　ザ・ロード・ウォリアーズ。片方はアニマル、もう一人は？

Q2　ブルーノ・サンマルチノは「人間発電所」、高野拳磁は「人間バズーカ」。ではアンドレ・ザ・ジャイアントは「人間○○」でしょう？

Q3　藤波辰巳がニューヨーク、MSGでWWFインターナショナルJr.王者になったとき、マイクで叫んだ有名な言葉は？（ヒント：英語です）

Q4　昭和の大悪党アブドーラ・ザ・ブッチャーの凶器と言えばフォーク。では、ザ・シークの凶器と言えば？

Q5　元横綱・北尾光司のテーマ曲を作曲した有名なミュージシャンと言えば？

Q6　クラッシュ・ギャルズ全盛時代、全日本女子プロレスはある有名プロレスラーの名前を題名にしたミュージカルを上演しました。そのレスラー名とは？

Q7　元NWA世界ヘビー級王者ハーリー・レイス。このレスラーのルックスから連想されるニックネームを答えなさい（例　ボブ・サップ＝野獣）

アフロ

Q8　小川直也の必殺技STO。さてなんの略？

Q9　ターザン山本の名著『○○レスラー』さて○○には何が入るでしょう？

さすが

Q10　山口日昇、堀江ガンツがかつて通っていたことがある出版学校の名前は？

読者のみなさんと一緒にプロレスを勉強するこのコーナー。今回は、カルトQ（'91〜'92年フジテレビ）で出題されたプロレスクイズは楽勝で全問正解だったというプロレス博士・堀江ガンツ先生に出題していただきました。さあ、制限時間は10分。よ〜い、スタート!!

今月の出題者　堀江ガンツ先生

0点

今回は、まさかの全敗……。ボッシュウト!!　っていうか、先月に比べて急にレベルアップしすぎです。はいっ、♪気にしない〜、気にしない〜、気にしない〜。望みはたぁかく果てしなく、ってことで来月またがんばります！　ちなみに、読者のみなさんはいくつ正解したかな？　え？　そうか、キミもがんばれ!!

【正解】　①ホーク　②山脈　③アイ　ネバー　ギブアップ　④火　⑤デーモン小暮　⑥ダイナマイト・キッド　⑦美獣（スペーストルネードオガワ）ザッツ　⑧日本エディタースクール

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください！　ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでも結構！　お便り、お待ちしています！

こんな情報お待ちしています！

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストのあて先&メールアドレスは「radical@kamipro.com」
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス　kamipro編集部
「応募がない」係まで。
携帯サイト「kamipro Hand」からの投稿もできます。

ハガキのクオリティの高さに感激中!!　これからも面白ハガキをどんどん送ってちょうだいな。

栃木県・阿部かすみさん・中学生・14歳
➲ご近所迷惑を気にしてるんですね。でも、笛をふくことは悪いことではないですよ。

五味選手の試合を生で見たいです。
（大分県・栗林智美さん・主婦・25歳）
▼栗林さんをはじめ、同じ目標の人多数。そこまで思わせる五味選手は凄い。

漢字検定準2級をとる。
（千葉県・糸久晃平さん・学生・15歳）
▼いい目標ですね！　では、合格した暁には『kamipro』から何か差し上げます。

今年の目標は結婚して子どもを産むことです。ちなみに、彼氏はいませんが、好きな人がいるのでがんばります！
（東京都・西本ゆうこさん・看護師・28歳）
▼彼氏がいないけど、子どもを産もうとしている西本さんの目標の高さに脱帽です。頑張ってください!!

なんでもかんでも食べさせないようにする。
（福岡県・ふたごのママさん）
▼そうしてください。

マット界の掲示板

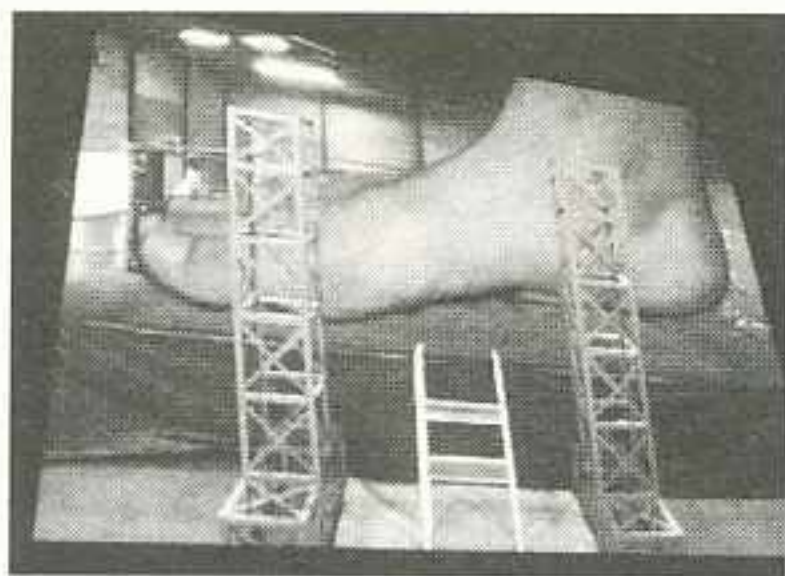
kamipro

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

ハミ出し情報局

2月26日は『PRIDE』、ZERO1、BML、Iジャ、LL、M's、修斗、など全国で14興行と盛りだくさん。そんな中、風香がアストレスを卒業! 萌え好きは要チェック!! また3月5日はノア、『ハッスル』、マッスルなど興行戦争ボッ発!! ノアは、5月に開幕するPRIDE無差別級GPより一足先に、小橋vs KENTA、田上vs丸藤など階級の壁を越えるカードをラインアップ!!

3・5マッスル新宿大会前売り券完売! ハッスル、ノアの裏側で何が起こる!?

「行こうぜ! プロレスの向こう側!!」と言いながら、とっくに向こう側に行ってしまった感のあるマッスル。前回のマッスル9では、演劇の町・下北で、ミュージカル並のフィナーレを見せ、超満員の観客を魅了&爆笑の渦に巻き込んだ。プラチナペーパー化しているチケットは今回も前売り分は早々と完売! わずかだが当日券も販売されるので「向こう側」に行きたい人はダッシュ!!

『マッスル10』 ★日時 3月5日(日)試合開始19:00 ★場所 新宿FACE

★出場選手 マッスル坂井ほか ★問 03-5360-6653

★HP http://www.ddttec.com/muscle/index.html

▼大会の行方が気になる人は坂井日記もチェック

http://www.ddtpro.com/cgi-bin/sakai8diary.cgi

※なお同日、昼にはDDTも開催! 新社長三四郎が試練の大鷲戦へ!!

天才競演! 初代タイガーと丸藤が激突!!

2代目・三沢光晴、3代目の金本浩二、そして現4代目タイガーと対戦経験のある丸藤が最後にしてすっかりヘビー級になった"初代の虎"を狙う!

リアルジャパンプロレス『レジェンド・チャンピオンシップ&"市街地型実戦武道"第6回掣圏真陰流トーナメント』

★日時 3月10日 試合開始 18:30 ★場所 東京・後楽園ホール

★ 主要対戦カード

初代タイガーマスク vs 丸藤正道(NOAH)

【レジェンド・チャンピオンシップ】(王者)折原昌夫 vs X

『第6回掣圏真陰流トーナメント』開催

★その他出場予定選手 桜木裕司、瓜田幸造

★問 KIAI PROJECT 03-5778-4995

ノア・杉浦がパンクラス ヘビー級トーナメントに出場!!

PANCRASE『2006 BLOW TOUR』

★日時 4月9日(日) 試合開始16:00 ★場所 東京・ディファ有明

★主要対戦カード

【ヘビー級王座決定トーナメントBブロック】

野地竜太(パンクラスGARO) vs 杉浦貴(ノア)/(他団体の強豪) vs (海外の強豪)

『第12回ネオブラッド・トーナメント準決勝』

★日時 4月2日(日) 試合開始14:00

★会場 ゴールドジムサウス東京アネックス

★問 パンクラス 03-5792-0815 ★http://www.pancrase.co.jp

キングスロードに また一人王道戦士が参戦!!

キングスロード『EXCITE』

★日時 2月28日(火) 試合開始19:00 ★場所 東京・後楽園ホール

★主要対戦カード

ターザン後藤&越中詩郎 vs ジョージ・ハインズ & スティーブ・コリノ

長井満也&石狩太一 vs ミスター雁之助&リッキー・フジ

相島勇人 vs 後藤達俊

★その他出場選手 宮本和志、池田大輔、橋本友彦、大矢剛功、高西翔太

★問 キングスロード 03-3403-7344 ★HP http://www.kings-road.jp/

Fight & Ticket

2・23伝説のイベント再び! 話題のあのイベントも同日開催!!

『女子プロリベンジ・T-1グランプリ ～魂～大志～帝王～』

★日時 2月23日(木) 試合開始18:39(イッパイ・サンキュー)

★場所 東京・新宿FACE

★主要対戦カード

【これぞ! リアルT-1プロレス スペシャル6人タッグマッチ】

尾崎魔弓(Ozアカデミー代表)、アメージング・コング(アメリカ代表)、倉垣翼(JWA女子プロレス代表)、AKINO(M's Style代表)、豊田真奈美(フリー代表)、堀田祐美子

※組み合わせは後日発表

【衝撃デビューから184日! 再びT-1 GPに見参!!】

T-1マスク(※コマンド・ボリショイ/Team T-1) vs 栗原あゆみ(M's Style)

【美女か野人か!? ビューティーアスリート vs ヒューマンビースト】

大向美智子(M's Style) vs 木村響子(フリー)

【実力派宣言 トップ・オブ・ザ・スキル】

永島千佳世(Ozアカデミー) vs 米山香織(JWP女子プロレス)

【男の中の女 フューチャートライ】

竹迫望美(IWA JAPAN) vs 優菜(ガッツワールド)

★問 チケット&トラベルT-1 03-5275-2778 ★HP http://www.t-1.jp

第1回大会で人間不信に陥ったというチケット&トラベルT-1二見代表。2・23もその動向に注目!!

チョロの見どころ T－1GPの見どころといえば、やはり二見代表の動向だ。第1回大会では「意味のない金網マッチはやりたくなかった」と観客に謝罪した前川にブチギレ。そんな二見氏にビビってたじろいだか今回は前川の出場は見送られたようだが、何かビッグサプライズが起こるのは間違いない!

ZERO1・MAX『S-ARENA』

★日時 2月23日(木) 試合開始19:30 ★場所 東京・新木場1stRING

ハチャメチャかつ実験的! ZERO1・MAXのアナザーワールド『S-ARENA』がついに10回目の興行を迎える。サムライTV映像班と崔領二コミッショナーの高レベルな悪ふざけに加えて、ケンドー新木場や毎回イジられ続ける不動力也、さらにはなんと言っても、大森隆男率いるアックスボンバーズは一見の価値アリ!

★問 (株)ファースト オン ステージ 03-5730-3966

ビッグマウスラウド特別顧問に真樹日佐夫氏が就任! 前田&船木、長州&永田の来場は!?

BIG MOUTH LOUD『REALLUSION』

★日時 2月26日(日) 試合開始14:00

★場所 徳島・徳島市立体育館

★主要対決カード 柴田勝頼 vs アランカラエフ

★その他出場予定選手

村上和成、アレクサンダー大塚、新崎人生ほか

★問 BIG MOUTH LOUD 03-3888-3375

★HP http://www.bigmouthishikawa.com

特別顧問に就任した真樹道場総本部宗師・真樹日佐夫氏(左)と、伝説の空手家、佐藤塾塾長・佐藤勝昭氏。(右)「押忍!!」

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

Book

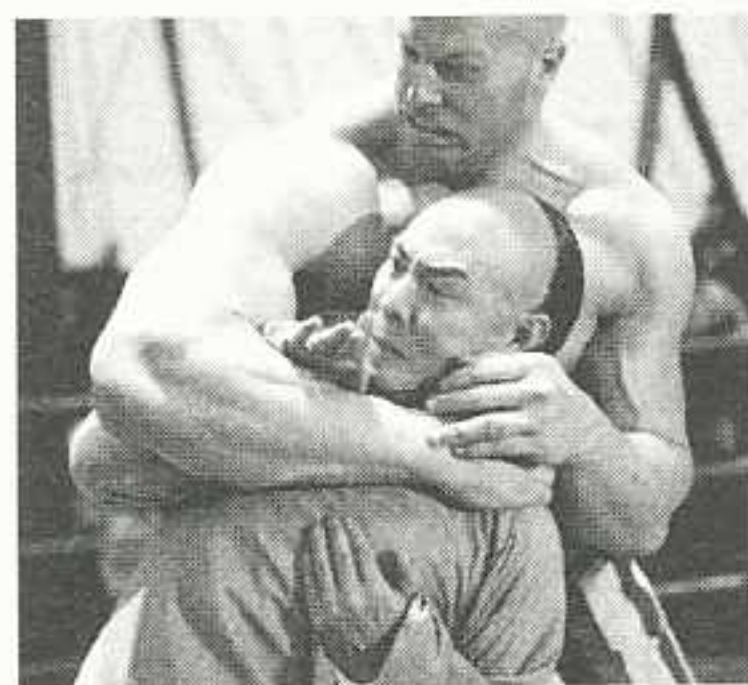
『サムライ・シロー三昧』連載中のせきしろ著『去年ルノアールで』発売!!

本誌で『サムライ・シロー三昧』を好評連載中のせき詩郎こと、せきしろの『relax』の人気連載がついに単行本化！　本書は月刊誌『relax』で2000年2月から2004年10月号まで4年以上にわたり連載されていた「今月のルノアール」に加筆、書き下ろしを加えたもの。内容はというと……、「その凄まじいまでの観察眼と想像力と腰砕けになるほどのヤル気のなさに、思わず誰もが脱力。時代を反映するキャッチーな固有名詞をちりばめ、昨今の風俗や流行を見事に脱構築した、まったく新しいスタイルのエッセイ、いわば“無気力文学の金字塔”である」（プレスリリースより）。帯には推薦人として、バッファロー吾郎の木村明浩、南海キャンディーズの山里亮太といったお笑い界のビッグネームに混ざり、せきしろさんの愛する元・平成維震軍の斎藤彰俊からも長文の推薦文が寄せられている。こちらも必見です！

『去年ルノアールで』　★著者　せきしろ　★発売日:2月23日　★価格　1,575円(税込)
★問（株)マガジンハウス　03-3545-7030　★http://www.magazine.co.jp/index.jsp

Dvd & Cinema

あのネイサン・ジョーンズがいつの間にか映画界を席巻!!

旧ZERO-ONEの常連ガイジンレスラーでWWEでも活躍したネイサン・ジョーンズが映画界で大活躍! 3月18日に公開される『SPIRIT』、そしてGWに公開される『トム・ヤン・クン!』に出演している。『SPIRIT』は、『HERO』主演のジェット・リーが実在した中国武術の伝説、フォ・ユンジアを演じる格闘・武術エンターテイメント。また『トム・ヤン・クン!』は『マッハ!』で生身によるアクションの臨界点を体現し、前人未到の技を日本中に知らしめたトニー・ジャー監督によるアクション超大作。『マッハ!』で稼いだ金をつぎ込んだというアクションシーンはマジでヤバい!!　映画ファン・格闘技ファンを問わず、両作品とも必見!!

『SPIRIT』
★3月18日より、サロンパス ルーブル丸の内系ほか全国松竹・東映系にてロードショー
★特別鑑賞券1,300円
★ HP　http://www.spirit-movie.com

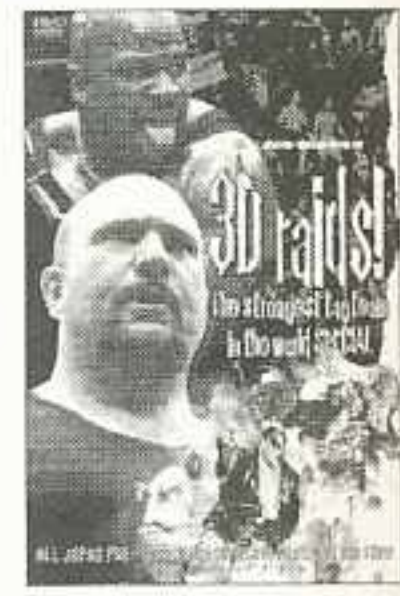
『トム・ヤン・クン！』
★GWよりシネマミラノ他全国ロードショー
★特別鑑賞券1,300円
★HP　http://www.tyg-movie.jp/

“闘い”と“愛”を描いたDSP第1弾映画『殴者』がDVDに!!

桜庭和志、高山善廣、ヴァンダレイ・シウバらPRIDEトップファイターが身体を張って体現した究極の愛の物語がDVDに!　DSE榊原代表の制作総指揮のもと、いま人気絶頂の玉木宏、水川あさみ、陣内孝則、虎牙光輝ら豪華俳優陣が競演したこの作品。映画監督を務めているのは、浜崎あゆみ、スガシカオなど大物アーティストのプロモを出かけている須永秀明氏。その緻密に計算された、緊迫した世界観と美しい映像表現には、格闘技ファンならずとも胸を打たれる。映画館で見逃した人はぜひ!!

★販売価格￥3,990（税込）　★発売日　3月3日（金）
★本編・93分／完成披露での舞台挨拶ほか特典映像あり
★問　（株）メディアファクトリー　カスタマーセンター　03-5469-4880
★HP　http://www.mediafactory.co.jp

全日本05年終盤戦の名勝負・名場面を完全網羅したDVDがユークスから発売!!

全米最強タッグ・TEAM 3Dが全日本を襲撃!　テーブル葬の衝撃は世界最強タッグをも飲み込んだ!! それを迎え撃った武藤＆曙、コジカズの勇姿、さらに小島vs健介戦、グレート・ムタ＆ボノの競演など、どこまでも熱い武藤ゼンニッポンの2005年集大成がここに完結!!

『全日本プロレス コンプリートファイル2005 3rdステージ“3D来襲! 世界最強タッグ”スペシャル』
★販売価格6,300円（税込）　★発売日 3月24日
★本編・約77分／ 特典・約103分　★問（株)ユークス 045-451-5217 ★HP　http://www.yukes.co.jp/

Hand

携帯サイト『Kamipro Hand』コラムには、月曜に井上義啓、木曜にターザン山本！、そして金曜に“GK”金澤克彦と、プロレス界の伝説編集長3人を集めて絶賛配信中!!　土曜コラム「ＶＩＶＡハッスル！」には、ドクロンＺの友達（？）浜田文子が登場！　グラン浜田を父に、ソチ浜田を姉に持ち「おなかの中にいたころからプロレスを見ていた」という彼女が見る『ハッスル』、そして現在の女子プロレスとは……!?　写真は中川画伯によるカレンダー待画・２月バージョン。新春スペシャル江頭２：50の動画＆着ボイスは２月末日まで配信中。急いでゲッツ!!

Docomo	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技

紙プロHand

kamipro calendar

2 FEBRUARY

23 THU.
NOAH■香川・高松市総合体育館（18:30）
T-1グランプリ■東京・新宿FACE（18:39）

24 FRI.
ZERO1・MAX■千葉・東金アリーナ（18:30）
DRAGON GATE■東京・後楽園ホール（18:30）

25 SAT.
NOAH■愛知・Zepp Nagoya（18:00）
全日本■長野・ウェルサンピア松本（18:30）
ZERO1・MAX■大阪府立体育会館第2競技場（18:00）
みちのく■愛媛・西与市乙亥の里（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
日本キック■東京・後楽園ホール（17:30）

26 SUN.
PRIDE■埼玉・さいたまスーパーアリーナ（16:00）
NOAH■茨城・水戸市民体育館（17:00）
全日本■富山・魚津市体育館（16:00）
ZERO1・MAX■東京・後楽園ホール（18:30）
ビッグマウス・ラウド■徳島・徳島市立体育館（16:00）
DRAGON GATE■静岡・ツインメッセ静岡（17:00）
IWAジャパン■東京・新宿FACE（19:00）
大阪プロ■大阪・なみはやドーム（19:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（13:00&16:30）
LLPW■東京・後楽園ホール（12:30）
JD■東京・新木場1stRING（13:00）
M's Style■東京・新宿FACE（12:00）
修斗■愛知・Zepp Nagoya（15:00）
MAキック■東京・ディファ有明（16:00）
R.I.S.E.■東京・ゴールドジム大森（17:00）

27 MON.
全日本■岐阜・高山マウントエース（18:30）
大日本■東京・後楽園ホール（19:00）

28 TUE.
NOAH■埼玉・桂スタジオ（19:00）
全日本■岐阜・多治見美濃焼却センター（18:30）
キングスロード■東京・後楽園ホール（19:00）

3 March

1 WED.
アパッチ■東京・新木場1stRING（7:00）

2 THU.
NOAH■神奈川・小田原アリーナ（18:30）
全日本■広島・呉市体育館（18:30）

3 FRI.
DRAGON GATE■広島・広島県総合体育館（18:30）
WMF■東京・新木場1stRING（19:00）
修斗■東京・北沢タウンホール（18:30）
J-NETWORK■東京・後楽園ホール（17:00）

4 SAT.
新日本■埼玉・久喜市総合体育館（17:00）
DRAGON GATE■福岡・小倉北体育館（18:30）
SUPER CREW■東京・新木場1stRING（17:00）
リアルリズム■大阪・Zepp Osaka（17:00）
天空■東京・新宿FACE（18:00）

5 SUN.
ハッスル■神奈川・横浜文化体育館（17:00）
K-1■ニュージーランド・オークランド
NOAH■東京・日本武道館（17:00）
全日本■東京・後楽園ホール（12:00）
DDT■東京・新宿FACE（13:00）
マッスル■東京・新宿FACE（19:00）
DRAGON GATE■福岡・地場産ぐるめ（17:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00&18:30）
ターザン後藤一派■東京・キネマ倶楽部
アジアン興行■埼玉・越谷バトルスフィア（18:00）
NEO■福井・福井市体育館（14:00）
NJKF■東京・後楽園ホール（17:00）
MAキック■東京・ディファ有明（16:00）

6 MON.
新日本■東京・後楽園ホール（18:30）
NEO■東京・板橋グリーンホール（19:00）

7 TUE.
新日本■埼玉・熊谷市民体育館（18:30）
全日本■秋田・秋田県立体育館（18:30）

8 WED.
全日本■青森・五所川原市民体育館（18:30）

9 THU.
ハッスル■東京・後楽園ホール（19:00）
DRAGON GATE■兵庫・サイトKOBE（19:00）

10 FRI.
DRAGON GATE■鳥取・米子ビッグシップ（19:00）
リアルジャパン■東京・後楽園ホール（18:30）
THE WOMAN■東京・新木場1stRING（19:00）

11 SAT.
新日本■愛知・愛知県体育館（18:00）
DRAGON GATE■鳥取・鳥取産業体育館（19:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
ガッツワールド■東京・新木場1stRING（18:30）
K-DOJO■千葉・BlueField（18:30）
G-SHOOTO■東京・新宿FACE（18:00）

12 SUN.
ハッスル■愛知・愛知県体育館（16:00）
DRAGON GATE■香川・高松シンボルタワー（17:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
K-DOJO■東京・新宿FACE（18:30）
ガロガ■埼玉・越谷バトルスフィア（14:00）
華☆激■東京・板橋赤塚公会堂（13:00）
NEO■東京・キネマ倶楽部（13:00）
JWP■東京・キネマ倶楽部（17:00）
JD■東京・新木場1stRING（18:00）
KAKIDAMISHI■沖縄・ダブルミント（18:00）

15 WED.
HERO'S■東京・日本武道館（17:30）
DDT■東京・新木場1stRING（19:30）

16 THU.
EXCITING・BOX■東京・新宿FACE（19:00）

17 FRI.
新日本■大阪・大阪市立公会堂（18:00）
DRAGON GATE■東京・後楽園ホール（18:30）

18 SAT.
DRAGON GATE■栃木・栃木県総合体育館（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（18:30）
NEO■大阪・アゼリア大正（18:00）
コンバットレスリング■東京・町田市体育館（10:00）

19 SUN.
新日本■東京・両国国技館（15:00）
DDT■愛知・名古屋ワンダーシティ（14:00）
DRAGON GATE■埼玉・川越ぺぺホール（18:00）
みちのく■岩手・矢巾町民総合体育館（15:00）
アパッチ■東京・新木場1stRING（18:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00）
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館（13:00）
ONLY ONE■東京・後楽園ホール（12:00）
息吹■東京・新木場1stRING（12:30）
パンクラス■大阪・梅田ステラホール（12:00）
全日本キック■東京・後楽園ホール（18:00）

20 MON.
DDT■静岡・清水マリンビル（18:30）

21 TUE.
ZERO1・MAX■北海道・札幌テイセンホール（16:00）
DDT■富山・富山イベントプラザ（13:00）
みちのく■青森・八戸シーガルビューホテル（14:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
IWAジャパン■東京・新木場1stRING（18:30）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00）
泉州力興行■大阪・はびきのコロセアム（17:00）
M's Style■東京・新宿FACE（12:30）

22 WED.
ビッグマウス・ラウド■東京・後楽園ホール（18:30）

23 THU.
NOAH■東京・後楽園ホール（18:30）
ZERO1・MAX■北海道・旭川振興センター（18:30）

24 FRI.
ZERO1・MAX■北海道・函館市民体育館（18:30）
みちのく■大分・佐伯市番匠体育館（18:30）
ユニオン■東京・新木場1stRING（19:30）
修斗■東京・後楽園ホール（18:00）

25 SAT.
NOAH■石川・石川県産業展示館（18:00）
ZERO1・MAX■青森・八戸市民体育館（18:00）
みちのく■福岡・福岡甘木青果市場（17:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
JD■東京・新木場1stRING（18:30）
シュートボクシング■東京・後楽園ホール
APKF■東京・新宿FACE

26 SUN.
NOAH■石川・スポーツセンターろくせい（17:00）
DRAGON GATE■三重・津市体育館（17:30）
みちのく■延岡市民体育館（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（13:00&16:30）
WMF■青森・青森産業会館
前川久美子引退興行■東京・後楽園ホール（12:00）
新日本キック■東京・後楽園ホール（17:00）
R.I.S.E.■東京・ディファ有明（16:00）

※主催者側の都合により、時間等変更する場合がございます。あらかじめご了承下さい。

ヤーッホ、ヤッホ、ヤッホ、コラム！ コラコラコラコラ、コラマイケル！

イラスト◎師岡とおる

kami pro column

kamipro.column

出渕誠の レイザーラモン 英知自慰（えいちじい）

第5回 ついに実現!! 『HGvsRG』は危険な試合に!?

イラスト◎出渕誠

昨年11月、「HGvsRG」という夢の（？）試合がひっそりと行われていた……。

その模様は『月刊DVDよしもと本物流 Vol・7』というレンタル専用DVDに収録（タイトルは「レイザーラモンハードバトル」）されているが、できればこれから書く試合エピソードを読んでから見てほしい。なぜなら、力道山vs木村政彦、前田日明vsアンドレ・ザ・ジャイアント、アポロ菅原vs鈴木みのると同列に語られる、いわゆる「プロレスをはみ出した」試合だったのだ。

芸人同士なので、この試合は段取りがあり中盤にRGがHGの腰を攻めるくだりが用意されていた。そして本番！ HGの攻撃が続く。だがRGが段取りとおりに反撃開始。エルボー！ タックル！ そしてトペアトミコにいくぜ！ だがその瞬間、僕はより激しくより派手に技を決めたい、という欲にかられてしまう。

まず、打ち合わせよりHGをロープから遠くに配置。そしてセカンドロープからという約束を破り、トップロープからスワンダイブ式トペアトミコを試みた。さらに背中あたりに落ちるところを腰をピンポイントで爆撃！ ドスン！ 会場は大歓声！ よっしゃ成功だ！

……あれ？ HGがなかなか立ってこない。なるほど～ダメージの大きさを観客にわからせるために立てない芝居をしてるんだな。さすがショーン・マイケルズを敬愛してるHG。しかし休ませないぜ、立てオラ！と無理やり立たそうとする。HGが「ちょ、ちょっと待て」とささやく。が、強引につぎの展開へ。

じつはこのとき、HGは腰を負傷していたのだ。RGの掟破りの攻撃がHGの命ともいえる腰、そう昨年、吉本興業を過去最高収益に導いた功労者であるHGの腰を破壊してしまったのだ……。

うまい人ならうまく体重もかけずにやれただろう。だが僕は前田の長州顔面蹴撃事件ばりのガチアトミコを仕掛けた。ただ自分が目立ちたいがために（↑サイテー）。しかもHGは腰の負傷を感じさせず、僕を攻めまくって試合は終了。

試合後、控室にて。「どういうつもりや！ セカンドロープから背中に落ちる約束やったやろ！（怒）」とHG。「いや～盛り上がると思って……」とRG。

「今、腰が痛すぎてヤバイ……。あのとき、ほんまに立てなかったんや！ これで仕事キャンセルとかなったら責任取れんのか？ 何考えてんねん！（怒）」とHGの怒りが爆発。最後は「もうええわ……」と言ったきり、口をきいてくれなかった。

帰りのタクシーは重苦しい雰囲気だった。いままで僕が相方をパクろうと、暴露話をしようと怒らなかったHGが初めてキレた。幸い仕事キャンセルは免れたが、これが原因で腰振りはしばらく自粛したHG。あやうく芸能界引退させてしまうところだった……。

と、こう書くと殺伐としてますが、DVDではリットン調査団さん、ケンドーコバヤシさんの実況解説で楽しめますのでぜひ見てください～。こういうのがあるからプロレスって面白いよね！ でも約束破られた方はほんと腹立っただろうな～。

Izubuchi Makoto◎出渕誠（レイザーラモン）
吉本興業のお笑いコンビ、『レイザーラモン』HGの相方、RG。HGを“アレンジ”した「フォフォフォ、フォー!」「ヨウヨウヨウ！」などをキメ言葉として絶賛活躍中。

第5回

今月のがんばれイリホリ

「東京ゾンビ」地方で上映拡大中☆

花くまゆうさく

リングの汁 ミニ

この締め切りが2月頭と言われていたのだが、なんも書くことがないので拷問だ。2月4日、5日にいろいろ大会あるからそれまで締め切りは無視無視。

サムライTVの『浅草キッドの海賊男』を見てたら、高阪がゲストだったんだが「子どもんときはバンドやってた」とある意味、衝撃の告白。そしてそのバンドはRCサクセションのコピーやってたと言うじゃないですか！いい話だな。どの曲をコピーしてたのかな？ 昔から好感度高いTKですが、これでさらに好感度UP！

4日の注目は、『MARS』のヤノタクvsハニ・ヤヒーラと『K－1MAX』のレミーガvs真吾パパ（我龍真吾）。前回、中原太陽に完勝した強豪グラップラーと矢野さんがやるとなればこれはみもの。5日は『DEEP』の"十段"今成正和vsジェフ・グローバーと連日私的ビックカードだ。でも5日は僕も試合あるので4日の観戦はパスして家でK－1をおとなしく見る。

サムライTVの『キックの星』で"真吾パパ通信"を毎回見ていたので、こうしてゴールデンタイム進出した真吾パパの姿には、よかったねえとしみじみとした気分。だがそんな気分を木っ端みじんにレミーガが粉砕！残念ナリ。レミーガも前回、体重が重い永田に塩漬け固め（ⓒZSTサイト）されたうっぷんがあるから、ここで爆発しないと気がすまなかっただろうしね。ということで誰かつぎは永田弟を極めてほしいなぁ。

そのころ『MARS』を見にいった友達からメールで「矢野さんは三角で落ちた」とのこと。これまた残念。しかし強いなヤヒーラ。これでHERO'S行きかしら。永田さんを極めてください。

そして5日。私はNOギのグラップリング大会にひさびさ出場。一回戦ヒザ十字で勝ったが二回戦ポイント負けでガックシ。このガックシは十段vsジェフ戦がふき飛ばしてくれるはずと後楽園へ向かう。しかし今回はまったく噛み合ず残念。ジェフのほうが試合動かそうとがんばってたかな。

メインの桜井隆多vs長南亮は試合前から二人が異常にテンション高くて凄かったが、あぁいう結果で残念。はじめの流血中断後の再開がスタンドだったのが桜井選手にはかわいそうだったね。それにしても二人のあのテンションは凄かったなあ。後楽園にたまに舞い降りる異常なテンション試合がまたひとつ生まれた。

Hanakuma Yusaku
◎映画「バス男」最高☆邦題以外次点なし。

イナズマKの

ハードコアドージョー

第5回

"ザ・フェノメナル"（驚異的）AJスタイルズ降臨!!

Inazuma K
◎最近は、人の家でのDJにハマってます。楽しいぜ、友達んち!

六角形のリングのニクいヤツら、アメリカの新興団体TNAが遂に日本のサムライTV初登場。これまでネットで落ちてる映像は見たりしてたけど、大会をフルサイズで見れたのは今回が初。PPVのみだけど、放送開始はうれしいかぎりだ。

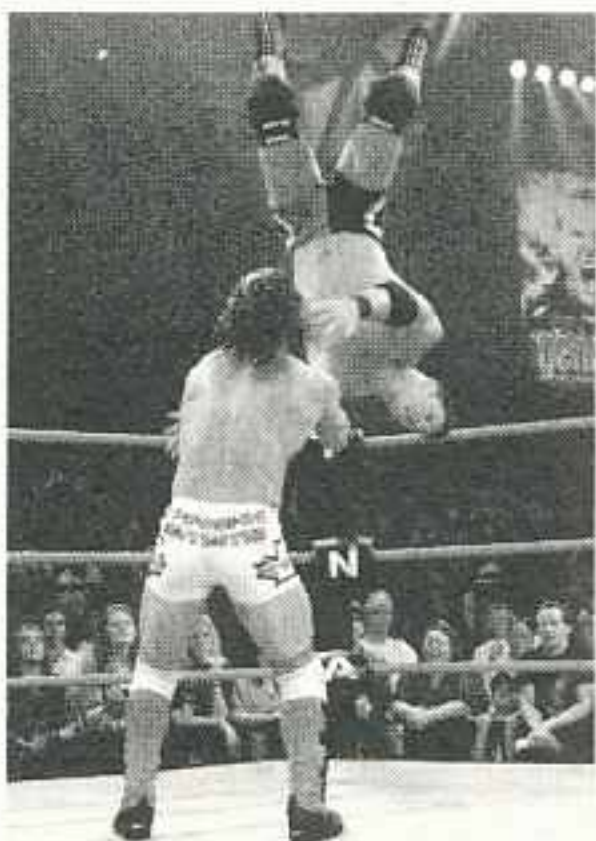
さらりとおさらいすると、TNAは02年にWWEを辞めたジェフ・ジャレットが父親のジェリー・ジャレットと旗揚げした団体。WWE離脱組やWCW、ECW残党組、若くていきの良い選手らが集結しているというのがおおざっぱな様相。中でも注目はハイフライ系のジュニアヘビーの選手らによって競われるXディビジョンマッチ。ROHなどのインディー団体でもトップとして活躍する選手が揃っており、トリッキーでハイポテンシャルな試合で人気を集める。その中心選手がAJスタイルズだ。

ではPPV『TURNING POINT』を見ての勝手な感想といってみましょう。TNAはWWEと違い、今のところ他団体への出場もできるので、サンジェイ・ダット、アレックス・シェリー、ピーティ・ウイリアムスなど、日本でもおなじみの選手が多い。それにクリスチャン、ババレイ&ディーボーン、元ビリー・ガン、元ロードドッグ、元Kクイック、レイヴェン、ライノといった元WWE勢がいきいきとファイトをしている。WWEと比べると、比較的レスリング自体に重点が置かれているのがTNAの特徴。それにハードコア色も濃い。WWF人気が爆発していたアティテュード路線の頃の風景をちょっと思い出す。

さあ、注目のAJスタイルズはこれまたおなじみのサモア・ジョーとセミで対戦。それにしてもAJは、日本でフルスペックで試合したのってロウ・キーとの一試合くらいでしょ。『W－1』では扱い悪すぎ。もっときちんとやれば、『K－1MAX』のアルバート・クラウス級の扱いができるのに。次、来日するならもっと良い活かし方をしてほしいものです。以前行われたアルティメイトX戦でのピーティらとの3ウェイマッチなんか、アメイジングムーヴ連発の凄さだった。ネットで探してぜひ見てください。

さて試合は、チャンピオンのAJにヒールのジョーが挑むといった流れ。とにかくAJは技の姿勢、受け身が格別。切れの良い飛び技も躊躇なく繰り出していく。走り高跳びのベリーロール式で場外に飛んでくサルトなんか天才的としか言いようがないっす。だがAJをピックアップしといてなんだけど、試合見ててひかれてしまったのはサモア・ジョーの方だった。

ZERO－ONEマットにも一時期常連だったジョーがもの凄い急成長を遂げてるのだ。ROHでの小橋建太戦以上のファイトぶり。橋本真也が乗り移ったかのようなキックの嵐に、大谷晋二郎から盗んだ顔面ウォッシュなど、超ハードヒットに攻め立てる。ZERO－ONE・ミーツ・サモアの新ジャンル確立だ。最後は猛攻をしのいだジョーがスリーパーで勝利し、Xディビジョン新チャンピオンをゲット。ジョー万歳！……って主旨から完全に外れてるけど。

先日TNAには棚橋弘至選手が上がって評判が良かったようだけど、個人的には、大日本の伊東選手とノアのKENTA選手あたりが、出たら観客からのHOLY SHIT！ 大爆発でしょ。今は、大きくもなく小さくもないちょうどいいサイズのTNA。ここからどう変わっていくのか分からないけど、注目しといて損はないよ。

Xディビジョンマッチでアメイジングムーヴ連発のAJスタイルズ!

椎名基樹の サムライ三昧

第3回

大森隆男のアックスボンバーの謎

最近のプロレス界で一番イイ味出している男といえば、ZERO1・MAXの大森隆男選手。AWAのベルトを巡る一連の抗争でも、その無駄に熱くクソ真面目な性格と、悪徳コミッショナーの手管でベルトを奪われる脱力系ストーリーラインのギャップが楽しい。大森選手しか醸し出すことができない心地よい空回りぶりである。同列に並べては失礼かもしれないが、自分の発言で自分が窮地に立たされる、あたかもダチョウ倶楽部のような自縄自縛のキャラクターは、筆者のもっとも好みのパターンだったりする。

最近は、得意技のアックスボンバーから名付けた、若手育成グループ「アックスボンバーズ」なるモノを組織して、さらなる空回りを加速させているようで、今後の展開に目が離せない。

そこで、ふっと思ったのだが、大森選手はなぜアックスボンバーを得意技に選んだのだろう？　技を出す時どんなに言う間がなくても、まるで義務のように「アックスボンバー」と、せわしなく叫ぶ姿が、どこかヒーローごっこをする小学生、それもとてつもなく身体が大きな小学生のようである。必殺技を定着しようとする気持ちは理解できるが、筆者はそこに無言のメッセージ、否、「アックスボンバー！（ダミ声）」の一言のメッセージを感じる。

そこで、大森選手の顔をよくよく見てみると、こりゃ、ハルク・ホーガンに似ていないか？　日本人離れした彫りの深い顔。面長な顔の形。少し短いとはいえ、髪型も金髪のさらさらヘアであるし、口髭の形もハルク・ホーガンではないか。背格好もちょうど同じくらいである。

多分、大森選手はプロレスラー仲間からちょくちょくホーガンに似ていると言われ続けていたか、自分で鏡を見て「俺ってホーガンに似てるよな」と、うっとりしているのではないかと思うのだ。だから、アックスボンバーを得意技に選び、ホーガンキャラをこっそりアピールしているのではないのだろうか。

そう考えると大森選手がAWAのベルトにこだわる理由もよくわかる。オールドファン、日本のプロレス黄金期を見てきたファンにとって、ホーガンはWWEチャンプではなくAWAチャンプである。日本人にとってホーガンは現在のWWF隆盛の礎となったホーガンではなく、猪木をアックスボンバーで失神させ、IWGPの初代王者に輝いたWWF入り直前のホーガンであろう。その頃のホーガンが巻いていたのがAWAのベルトだ。AWAのベルトは大森選手の中でホーガンキャラを完成させる必須アイテムなのではないだろうか。ここまで全て想像に過ぎないが、わざわざアックスボンバーやギロチンドロップを得技に選び、ルックスも似ているとなれば、大森選手がホーガンを自分のキャラクターとして、非常に意識しているということは、整合性がある想像だと思う。

だとするなら、もっと髪の毛を伸ばし、金髪もオキシドールで脱色しまくったって感じの汚いプリンでなく、もっときっちりと染め、口髭も染め、さすがに黒地に一番の文字ではヤリ過ぎかと思うので黄色いパンツを履き、オマケに青のカラーコンタクトでもして、完璧なホーガンキャラを見てみたいと思うのは人情だが、それをしないのが大森選手の奥ゆかしさなのだろし、作り上げた大森キャラを消してホーガン一色にする抵抗感もあるだろう。しかし「ハッスル限定」だったらもう偽ホーガンくらいのキャラでいっても問題ないように思ったりする。いまの時代、長続きすることよりも目立ったもん勝ちみたいなところもあるので、ぜひ、大森選手の完璧なホーガンキャラが見てみたい。と、なんだか最後は無責任なまとめになってしまった。

最後に、新日のクロネコ選手が急死した報には驚かされた。エディ・ゲレロや橋本選手と、このところプロレスラーの急死のニュースは多々あり、原因はそれぞれだろうが、不謹慎だが「プロレス性突然死」とでも言いたくなる。

この間もZERO1・MAXの浪口選手が試合中失神し、そのまま試合を続けたなんて記事を読んだが、格闘技だったらKOされたら、その後、何ヵ月か試合ができないというルールもあるが、プロレスは目を覚ましてまだリングに上がり続けなきゃならないというのだから、その仕事の過酷さには驚かされる。それについて、とやかく言える権利も建設的な意見も持ち合わせていないのだが、少なくとも顔面に失神するような打撃を入れるのは、ちょっとそれはないよなと思う。それを防ぐには、やられた方が後で椅子でも持ってキッチリ仕返しするしかないかなと思うけど。しかし、難しいね。

「最後に」と書いたのに文字数が足りないので、蛇足ながら『PRIDE』を見ていて前々から思っていること！　カメラマンに番号付きのビブスを着せるの、みっともなさすぎない？　どこか幼稚園的というか、共産主義の国っぽいっていうか、この映像が世界に発信されると思うと、日本人として気恥ずかしいです。そして、『PRIDE』だけとは限らないけど、そもそもカメラマンの人数多すぎない？　リング一周グルリと取り囲んでいるけど、格闘技雑誌って一体何誌あんの？　会場でよく「カメラマンどけ〜！」なんてヤジが飛ぶけど、それぞれ事情はあれ、そりゃそーだと思います。客がなんでカメラマンに気を使かわなければならねーんだって思うもんね。

以上。

こちらが"アックスボンバー"でお馴染みの大森隆男さん。現在はモヒカン部分をブロンドに染め上げている大森さんだが、よく見ると、た、たしかにホーガンに似ているような……。

大森さんといえば現在、ZERO1・MAXとサムライTV!のコラボ興行「S-ARENA」でのアックスボンバーズ劇場で大活躍中。スクールウォーズの山下真司ばりの熱血教師風の大森さんを見るだけでも新木場1stRINGに行く価値有り!

Motoki Shiina
◎今月は工事のためサムライTV！は見れませんでした。あとはとくに何もありません。

金ちゃんのどこまでやるの？

イラスト◎中川画伯

第4回 金原弘光に聞く7の質問

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

年が明けて一カ月以上経つのに、試合が全然決まってないからさ、コラムに書くことないな～と思ってたんだけど、編集部がそれを見越して、俺に「お題」を与えてくれたんで、今回はそれに答える形でお茶を濁させていただきます（笑）。

Q1　子どものころ憧れていたプロレスラーは？

俺がプロレスファンになったきっかけは初代タイガーマスクなんだけど、やっぱり一番憧れたのは、ダイナマイト・キッドだね。俺が中学生のころさ、キッドとコブラとデイビーボーイ・スミスが巴戦でジュニア王座を争うやつがあってさ、あれがもう俺の中では生涯最高の名勝負だからね。あんときのキッドはホントにカッコ良かったよ。あのころキッドって正面飛びのミサイルキックをやったあと、背筋でぴょんと跳ね起きてたじゃん。俺、新日本のプロレス学校に通ってるとき、あれをよく真似してたからね（笑）。俺がプロレスラーになったら、これだけは絶対に使おうと思ってさ。

Q2　これまでで一番強かった相手は？

俺はノゲイラとかミルコ、シウバ、ショーグンとか強いヤツといっぱいやってきたけど、一番強かったのはマリオ・スペーヒーだな。マリオはあのころ（2000年）『アブダビ』でも負けなしで、ヒザの手術する前だから全盛期だったと思うけど、とにかく寝技がしつこくて力が強くて、全部俺の動きに先回りされる感じで強くて巧いと思ったな～

Q3　もう一度闘ってみたい相手は？

いっぱいいるよ！　一回負けてる選手は誰とでもやりたいけど、その中でもとくにというとミルコとシウバかな。

Q4　逆に二度と闘いたくない相手は？

それは俺が勝ってて凄く強かった選手だね。たとえばデイブ・メネーとかジェレミー・ホーンとかね。勝ち逃げしたほうがいいなって（笑）。

Q5　自分のベストバウトは？

そうだなぁ～、飯塚（高史）戦か木村健吾戦かな（笑）。格闘技だったらノゲイラの試合も良かったと思うし、オランダでオーフレイム兄をKOした試合も良かったと思うけど、感慨深いのはチャンプア・ゲッソンリット戦かな。ムエタイの大物とキックルールで互角に闘えたのは自信になったからね。

Q6　自分以外で一番好きな選手は？

ヒョードルとボブチャンチンかな。俺は打撃で勝つ選手が好きだけど、シュートボクセみたいな荒っぽい打撃じゃなくて、ちゃんとパンチの技術がある人がいいね。そうなるとこの二人とあとミルコかな。総合でミルコだけでしょ？　蹴りで勝つ選手。なぜミルコだけハイキックが当たるかというと、サウスポーっていうのが大きいんだよね。キックの選手だったらサウスポーの打撃にも対応できるけど、まだまだ総合の選手は打撃の強いサウスポーが少ないから対応しきれないんだよ。

Q7　今年、絶対に実現したい目標を教えてください。

近藤選手とリマッチして、パンクラス・ライトヘビー級のベルトを奪いたいね。まぁ、それ以外にもとにかく試合をしまくりたい、それが今年の目標だね。今年は85キロに減量しようとも思ってるし、総合だけじゃなくて、プロレスからキックボクシングまで全方位からオファーお待ちしてますから、金原を使いたい団体、イベントがありましたら、事務所まで電話ください！（笑）。お願いしま～す！

ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報

第5回 私だけが知っているイゴール・ボブチャンチン

今年の冬は寒い日が続いてますが、厳しい寒さで思い出すのはイゴール・ボブチャンチンの住むウクライナです。私は一度だけウクライナを訪問したことがありますが、驚くことに、あの国ではマイナス60℃を記録した地域もあるのですから！

そんな寒さが文明の浸食を良い意味で拒み、ウクライナの美しい自然を保っています。だから商業的にはお世辞にも栄えているとは言い難い。地方でしたが、一流レストランですら暖房設備はなく、私はコートを着たまま食事をしたものでした。あ、もちろん店員さんもコート着用です！　ちなみにキエフから遠く遠く離れた町に住むイゴールも、現地でレストランを経営しています（遠すぎて私は訪問できませんでした）。

そんな"辺境の地"でイゴールは世界に通用する戦士へと成長しました。もともとウクライナは旧ソ連圏内だけあって格闘技が盛んな国で、アマチュア・ボクシングからはあのクリチコ兄弟を輩出。ボブチャンチンはクリチコらと兄弟弟子の関係にあたります。

私がイゴールを初めて見たのは9年前、ヒカルド・モラエスが優勝した第二回ロシア・アブソリュート大会です。前回準優勝のイゴールは三回戦でミーシャに敗れてしまいましたが、当時から打撃の凄みは一流。いまでこそ多くのストライカーがMMAで活躍しておりますが、その礎を築いたのは間違いなくイゴールです。それに当時は素手のルールだったせいで余計強烈な印象がありました。

驚くことに、彼はあれだけのハードパンチャーなのに拳をケガしたことがありません。それにいまでもバンデージを巻いていない！　現在の総合格闘技界ではおよそ考えられないイゴールのタフさ。けっこうルールにも無頓着な面もあって、中村カズ選手とのGPリザーブマッチでは、通常の3Rルールだと勝手に思いこんでしまい、2R終了時に自軍で椅子に座って最終ラウンドに備えていたほどです。「それぐらい理解しておけよ……」私は頭を抱えてしまいました（笑）。

かといって彼の性格は豪快無比というわけではなく、とてもシャイでナイーブ。お金の貪欲さは見られず、自分で納得ができる体調、精神状態でなければ試合に挑もうとしません。とにかく良い試合がしたいということが彼のモチベーションなのです。

じつは昨年の『PRIDE男祭り』で桜庭選手との対戦がオファーされましたが、しばらく入念な練習を課していなかった彼は、"大晦日出場"という世界中の格闘家がすぐ飛びつくオファーをあっさり断りました。断念した理由の一つに、一昨年に女の子が産まれたことも含まれます。彼は子宝に恵まれていないことを深刻に悩むほどの人間だったので、ちょうど言葉を喋りだし、いろんなことが理解できるようになってきた娘とクリスマスを一緒に過ごしたかったそうです。ウクライナではお正月とクリスマスは同時に取り扱われる大行事。日本人にはない特別な感覚をこのシーズンに持っており、イゴールはその日に備えて、サンタの衣装やらプレゼントを用意に精を出していた。つまりサクよりサンタを選んだわけですね。

自分の状態を客観視できる才能、強靱な肉体、愛すべき子煩悩さ。イゴールは、ファイターとしてだけでなく人としても素晴らしい人物です。それにしても、中村戦でマネージャーであるオバチャンチンさえ、しっかりルールの把握をしてくれてさえいれば……とほほ。

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

チーム鈴木の明るい未来

世界に羽ばたく夫婦コラム

KENZO HIROKO

今月は新日本プロレスの選手大量離脱問題についてチーム鈴木が言及！　新日本時代の先輩であり、同じフロリダの住人、つい最近では一緒にドイツ遠征も行った西村修選手には、やはりとくに思い入れが深いようで……。

浩子　早いもので、もう2月。

健想　しかも2006年、プロレス界はさっそく激震が走ってるよ。

浩子　西村さんが″フリーバード宣言″!!

健想　タンパでも前々からいろいろと話はしてたけど、とうとうキタ!?って感じ。

浩子　そういう″時代″なのかな。いままでのような″定型″がどんどん形を変えて、そのうちまた淘汰されてくんじゃない？　それにしても、西村さんといえば新日本、いろんな選手がいろんな団体に出て交流している中で、とっても新日本色の強いレスラーの一人だったから驚き。

健想　だけど、西村さんはいいんだよ。商品価値のある選手はいろんなところに立っていくもんだから。プロレスだけでなく、どの業界だってそうじゃない？　もちろん会社側にはそれだけの損失は出るけど、そうして選手は選手の商品価値、会社は会社の利益を狙って、やりあってこそ業界が良くなるわけだから。

浩子　確かにそうね。アメリカもいまでこそWWEの一人勝ちだけど、ひと昔前は選手は移動し、会社はそれを食い止めて……ってやりあってたんだもんね。

健想　いまだってそうだよ。いまのWWEには大きい敵はいなくなったけど、トップ選手になればなるほど会社とのやりあいは続いてる。大体、選手と会社が仲良しこよしになったらおかしくなるもんだよ。会社が会社の利益を追求しすぎれば、選手は大変な目に遭う。会社が選手寄りになりすぎれば経営はうまくいかない。会社がだめになれば、選手にだって良くない。だからそこは常に、お互いがお互いの利益を求めてやりあってていいんだと思う。それでこそプロレス界だよ。

浩子　自分で自分のハードル上げちゃったよ（笑）。しかし、そりゃ一理あるね。だけど日本は思いっきり感情でビジネスする国だからね。

健想　そう思う！　久々に日本に戻ると、すっごく感じる！　客にウケる＝金になることをとことん追求するのがアメリカだから。個人的にこの選手とはベッタリだから使う……みたいなのは、ある意味新鮮に『ここは日本だ……』って感じるよな。

浩子　アメリカでも、金になる選手とは会社もベッタリするけどね（笑）。でも、普通に金のある方に移っていくから。

健想　それは選手もそうだからさ。ビジネスライクな関係だよ、あくまでも。会社と選手には絶対的に越えられない一線がある。日本みたいに、会社側の人間と選手が個人的に仲良くなんて絶対しない。その代わり、会社側の個人的な発言もなかなか聞こえてこない。これは大きな違いだよ。

浩子　確かに。日本では、考えられないことに会社が選手の悪口を選手に聞こえるところで平気で言っちゃうんだよね。あれ、全部聞こえてて聞こえてない振りして穏やかに話すのって、凄いきつい。かといって、それに対してビジネスライクにやると『生意気だ』って角が立つし（笑）。

健想　だから、会社だって利益を追求できなくなる。だけど、逆にいうとこれが日本の″隙間″だよ。ここに金になるビジネスが転がってる。

浩子　それ堀江（貴文・ライブドア前）社長が言ってたね。いまやニュースもそればっかりで……。

健想　堀江社長に刺激されてる若い世代は多いから、残念だよな。だけど、あれだけの大金をはじき出せば、これだけのリスクがあるってことなんだよ。これでこそビックビジネスでさ。アメリカでも、ミリオネアーを超えるビリオネアーが自殺に追い込まれるくらい落ちたりするじゃん。

浩子　そう。しかし凄いことに、上がる人はまたそこからでもはい上がるんだよね。

健想　それだけギリギリってことなんだよ。『金持ちでいいなぁ？』なんて言ってるけど、そこのリスクは高い。

浩子　で、なんの話だったんだっけ？　新日本の話だ！（笑）。

健想　だからさ、僕が思うのは、今回いちばん痛いのは選手の離脱じゃないんだよ。いちばん痛いのはケロさんの離脱。

浩子　リングアナの!?

健想　新日本の大会を観に行って、どこで新日本を一番感じる？　会場はどこもいろんな団体が使う、選手はいまや交流戦でいろんな場所で見られる。俺たちが大会を観て「うわぁ新日本だぁ!!」って最初に感じる瞬間はケロさんの声だよ。あれはある意味では伝統だよ。すっっっげぇぇぇ寂しいしよ、絶対。

浩子　選手の離脱もさることながら、新日本にとって一番痛いのはケロさんの離脱、とあなたはおっしゃる……。

健想　だってあの声こそ「THE新日本」だもん。新日本の大会からケロさんの声が消えるのは痛すぎる。

浩子　確かに、あの艶のある響く声で「赤コ〜ナ〜……」って、あれ好きだったなぁ。ホント、あれは確かに「これぞ新日本」って印象だったからね。

健想　だろ？　これが俺の新日本への″家族愛″ from西村語録（笑）。それに、もうひとつ気になることがあるんだよ……。西村さんたちが離脱していく一方で、長州さんが戻って、タイガー服部レフェリーが戻り、越中さんが戻り……ってこれは、新日本のWJ化が進んでる。

浩子　WJ……久しぶりだなぁ、その名前。

健想　元WJレスラーとして、これは食い止めねばならない。だってこのままWJ化が進んだら僕も戻らなきゃいけない！

浩子　心配しないで。あなたは戻してもらえませんから（笑）。

健想　このWJ化を食い止めるべく、僕はひとつ宣言する。

浩子　今度は何っ!?

健想　フリーバー″ズ″宣言。

浩子　パクリじゃん、西村さんの。しかも思いっきり。

健想　いや違う。西村さんと二人だから複数で″ズ″になった。

浩子　またそういうことを言ってると西村さんに「あんたたち夫婦はホントにねぇ。バカですねぇ」って言われちゃうよ！

健想　いや、これは本気。俺は西村さんの退団にスゲー勇気を感じたの。やっぱりやりたいことをやんなきゃいけないって。信念は貫かないとダメなんだよ。3ヵ月前のあのきつかったときに「ガンを宣告されるよりよっぽどましだ」って言われたじゃん。あれを思い出した。俺も一生懸命やる、その代わり違うことは違う、目の前のことに翻弄されたり束縛されたりせず、自分の信念を持ってやっていきたい。だからフリーバー″ズ″!!　うまく締まった!!

ブレーメンにて。不倫疑惑（？）と『東スポ』一面も飾った西村と浩子の関係やいかに!?

「@ぴあ」で連載中の日記に書き下ろしコラムを加えた単行本が絶賛発売中！　鈴木浩子『ゲイシャガール、リングに上がる』（集英社インターナショナル／1470円）

映画
シムソンズ
公開記念

榊原信行代表に聞く

ドリームステージピクチャーズとは何なのか?

PRIDE、ハッスルに続く新ブランド? DSEが映画配給を手掛ける「ドリームステージピクチャーズ」とは何なのか? 絶賛公開中の映画『シムソンズ』のみどころとあわせて榊原代表に直撃した!

聞き手/真下義之　写真協力/DSP

――今日はPRIDE無差別級トーナメントの展望……ではなく、榊原代表が製作総指揮した映画『シムソンズ』、そして映画配給会社ドリームステージ・ピクチャーズとはいったい何なのか? を中心にうかがいたいと思います!

榊原　よろしくお願いします。

――僕も『シムソンズ』を試写で拝見したんですが、こういっては失礼かもしれないですが、予想以上の出来に驚かされました。

榊原　(すかさず)感動しました?

――いや～上映中に3～4回くらい涙腺がゆるみました。周囲でもすすり泣きしてる人が多かったですし、試写を見た知り合いも軒並み好評価です!

榊原　ありがとうございます。一般試写の反応もかなり評判がいいんですよ。『シムソンズ』は誰しもが自分の青春時代とオーバーラップする部分があるストレートな映画ですから、そこを評価してもらってる気がしますね。

――ただ格闘ファンにしてみると「なぜDSEが映画に情熱を注いでいるのか?」というのは不思議だと思うんですよね。

榊原　「DSEが腰掛け程度にやってるんじゃないか」とかね(笑)。

――そういう意味で第一作の『殴者』は、DSEが手がける映画としては非常にわかりやすい映画でしたね。

榊原　桜庭和志選手やヴァンダレイ・シウバが出てきたり、PRIDEが持つ世界観の延長線上でしたからね。

――WWEのビンス・マクマホンがザ・ロックの主演で映画をプロデュースしてるような感覚で受け入られたと思います。ただ今回は「女子高校生4人組」や「カーリング」とか一見、DSEと結びつかなそうなテーマ設定ですが、なぜこういった映画を選ばれたんですか?

榊原　この映画って〝原作ありき〟ではなく、〝企画ありき〟の映画なんです。まず「人口5000人程度の北海道の常呂(ところ)町の女子高校生たちが結成したカーリングチームが02年のソルトレーク・オリンピックに出場した」というひとつの事実があった。当時はニュースでも大きく扱われたんですが、そこを我々が「映画向きの素材だな」と発見したことからスタートした。

――「これは映画になるな」と感じられたと。

榊原　そうです。それにDSEの仕事は格闘技やプロレスに限定しているつもりはないんですよ。映画だったり、音楽のライブイベントや『愛・地球博』みたいな博覧会、というふうに僕が東海テレビの事業で仕事をしていたスタンスを会社組織に昇華させた〝エンターテインメントコンテンツの総合商社〟にしたいんです。

――ほ～。なんでも揃っている〝コンテンツデパート〟みたいなイメージですね。

榊原　これまではリングを使ったエンターテインメントでしたが、今度は映画というフィールドで興奮や感動を与えられるコンテンツを創造してゆこうというところからドリームステージ・ピクチャーズはスタートしたんです。

――けっして腰掛け程度にやってるわけではない! と。

榊原　そうですね。それに先日、去年の日本の映画興業収益ベスト10が発表されましたけど邦画界っていま凄く活況なんですよ。

――以前の〝ハリウッドひとり勝ち〟という一極型の市場ではないですよね。

榊原　映画『世界の中心で愛をさけぶ』が大ヒットしたあたりから邦画に対する意識が変わってきてる。お客さんが「邦画をお金を払っても見に行こう」という意識が出てきてるから新規参入するには絶好のタイミングなんです。

――あくまでビジネス的な勝機があった上での参入ということですね。

榊原　そうです。映画は自由な世界、ラブストーリーありコメディありサスペンスありとなんでも可能ですけど、ドリームステージという名前にふさわしい、伝えたいテーマに沿った作品に限定していこうと思ってます。だから絶対やらないのは……ホラー映画とかね(笑)。

――ワハハハハ! 確かに〝夢を与えるホラー〟というのは難しいですね。

榊原　たぶんやらないでしょうね。今回は女の子4人組を通しての青春もの。スポーツを通じた友情や出会い、挫折、紆余曲折やひとつの目標や夢に向かってみんなで力を合わせるひたむきにがんばる姿を映画に落とし込んだら、観客に勇気や感動を与えられるかな、と思ったんです。

――その映画部門がドリームステージピクチャーズ、略してDSPになるわけですね。

榊原　そうです。じつはアルファベット順にどんどん増やしていこうと思ってるんですよ。DSAからDSZまでね(笑)。

――DSAにDSZ!

榊原　DSAはドリームステージアミューズメントの略ですね。いつかディズニーランドみたいな遊園地を作りたいと思ってますし、DSZはドリームステージ・ズー。いずれ家族連れが来るような動物園をプロデュースしたいと思ってて(笑)。

――ドリームステージ・ズー! なんだかズールやら、クイントン〝ランペイジ〟ジャクソンやらが檻に入ってそうですね(笑)。もう夢はディズニーばりに無限大に広がっていきますね。

榊原　その様々なコンテンツを手がけて培った営業力やノウハウとか人脈はPRIDEやハッスルにもまた、フィードバックできると思いますし。ただ映画に関して言えば、月に一本ずつ映画をリリースするようなスタンスは無理ですから、なるべく原作に頼らずオリジナルの企画で脚本から練って、年に二本くらいやりたいですね。

――本当の意味でのコンテンツメイクということですよね。

榊原　まぁ、『シムソンズ』は邦画でも中規模作品ですから。『男たちの大和』や『THE有頂天ホテル』に比べたら制作費も宣伝費も少ないですし。

――ただ『シムソンズ』はそういった中規模の枠の中でも最大限に勝負していますよね。たとえば上映時期が完全に冬季オリンピックのタイミングと同期してたり、北海道を舞台にしたことで北海道の上映館を多めに設定したりとか。非常に戦略的にやられてますよね。

榊原　そこらへんは念密にやりましたね。あと北海道を舞台にした映画に、大泉洋さんが出てくれたということも大きい。最近は全国区になりつつあるけど彼は北海道では絶大な人気がありますし。

――『水曜どうでしょう』でブレイクした大泉洋さんのコーチ役はこの映画の肝になってますよね。普通だったら竹中直人さんが演じるような役ですけど、本当に素晴らしい演技でしたね。

榊原　彼はうまいですねぇ。もちろん加藤ローサさんはじめ、主演の4人の女の子の演技もみんな素晴らしかった。キャスティング面も含めてとてもうまくいきましたね。

――『kami-pro』読者的にはカフェのマスター役の髙田統轄本部長の演技も見逃せないですし(笑)。

『シムソンズ』は心の純粋度がわかる“リトマス試験紙”みたいな映画です

榊原 そこも見どころのひとつです（笑）。でもこれは佐藤祐市監督や森谷雄プロデューサー、現場のスタッフたちが賢明にがんばってくれた成果ですよね。……ただこの映画の製作委員会には、地上波テレビ局や大手広告代理店とかが入ってないからプロモーションやタイアップでは思うにまかせない部分もある。公開する劇場もウチの営業のスタッフが劇場に交渉して開けてもらったりしてますし。

——今回は、大手シネコンのワーナーマイカルさんが早い段階から決まっていたとうかがってます。

榊原 マイカルさんには脚本の時点から賛同してもらって「全面的に劇場を開けてやらせていただきます」と協力していただいたんです。……これは『殴者』の上映時の反省点なんですが、日本の映画市場って東宝さんや東映さんといった劇場を持っている配給の力が絶対的なんですよ。

——劇場配分のとりあいがある人ですね。

榊原 松竹さんや東映さんに交渉しても、彼らは自分たちの会社の映画の編成を優先させてしまうので『殴者』は公開劇場が僕らの思い通りにならなかった。だから今回は違った上映システムを模索して、自分たちで劇場を早い段階で決めたんです。

——そういう落としどころが明確なところも含めてDSPの本気度を感じましたね。

榊原 ただテレビ局主導の映画とかは電波を好きなだけ使って宣伝してますからねぇ。『●●●●●●』だって、あれだけスポット打ちゃあ誰でも見ますよ！

——ワハハ！ もう洗脳みたいなものですからね。

榊原 だから今後、温めている企画にどうやってテレビや大手広告代理店に（力を強めて）“イニシアチブをとられずに”協力してもらっていくか？ というのがポイントです。キャスティングや脚本に口出されて、主導権奪われてもつまらないですから。

——そのコンテンツの育て方の方法論は、ハッスルやPRIDEに相通ずる部分を感じますね。

榊原 完全に同じですね。基本は“なんでも自分たちでやる”っていうスタンス。ハッスルもPRIDEも会社の成功体験としては「自分たちが率先して動いて懸命に情熱をもってつくりあげたものは作品にも出演者、出場者にも絶対に伝わる」ということ。その部分はものづくりの一番根っこだし、どこのフィールドでも何をやるのでも一緒だと思いますね。

——そんな榊原さんがお好きな映画として以前、『グランブルー』を挙げてらっしゃいましたね。

榊原 はい。『グランブルー』は、リュック・ベッソン監督の繊細さとか「自分が海が好きだ」という部分も含めて、映像美やラストシーンの素晴らしさ。切ない永遠の別れだったり……そういう男女関係を丁寧に描いている映画は好きですね。邦画だと山田洋次さんの『たそがれ清兵衛』もいいですね。

——お聞きしていると……榊原さんはかなりラブストーリーがお好きみたいですが。

榊原 いやいやそんなことないですよ（笑）。『ソードフィッシュ』みたいなアクションサスペンスも好きだし、エミネムの『8マイルズ』みたいな映画も好きです。ただ好きな映画と、自分たちがつくっていく映画は違ったものにしていこうと思っていて、できれば勧善懲悪な作品だったり、見終わってさわやかな気持ちになる映画がいいと思ってるんです。やりたくないのは、人がむやみに死んだりとか、意味なく不幸になったり病気になったりとかね。

——そういう意味で『シムソンズ』はDSPの指針を示す宣言のような映画になったと思いますね。

榊原 うん。この映画は誰も死なないし、誰も病気にならない。胸がキュンとしたり、気持ちいい涙が溢れたりとか。そういう意味でリトマス試験紙的な映画なんです。心に純粋な美しさとか素直さが残っている人は泣けるけど、失なってしまった人は泣けないんですよね。

——いや〜僕も泣けてよかったです！（笑）。しかし、PRIDEで興奮させ、ハッスルで笑わせて、『シムソンズ』で泣かせる……喜怒哀楽のソフトが出そろったという気がしますね。

榊原 僕らの仕事は映画館や試合会場という非日常空間へいざなって、そこで生きる喜びや勇気を与えること。人間が生きてく上で「食べる栄養」とは違った意味で必要なものだし、これからの時代、もっと求められると思うんです。そこは手段や形や方法は選ばずにどん欲にやっていきたいですね。

——それがDSPだったり、DSZだったりすると（笑）。日々変化するDSEの活動に注目していきたいと思います。今日はありがとうございました！

【06年2月3日／DSE事務所にて収録】

シムソンズ（2月18日より全国順次ロードショー）

監督:佐藤祐一　配給:ドリームステージピクチャーズ

http://www.sim-sons.com/

02年のソルトレーク冬期オリンピックにて、“氷上のチェス”カーリングの日本代表として出場したのが北海道の小さな町、常呂町出身の4人の少女たち、「シムソンズ」だった。実話にもとづいた感動ストーリーとして映画化！　高校3年の和子は憧れのカーリング選手・真人に触発され、カーリングチーム結成に奔走する！　集まったのは農場の娘・奈摘（高橋真唯）、運動オンチの史江（星井七瀬）、唯一の経験者、美希（藤井美菜）。元カーリング選手の漁師・平太（大泉洋）がコーチとして結成された「シムソンズ」は北海道大会に向けて走り出した！

髙田統括本部長もカフェマスター役として登場！ナイスな演技に注目だ。

"チャンピオン"五味隆典が再始動！『ディメンション・ゼロ グランプリ―1―』本選出場者を激励！

05年の大晦日、日本人初のPRIDE王者に登り詰め、日本中を熱狂させた五味隆典がひさびさに登場！五味隆典がイメージキャラをつとめる本格カードゲーム『ディメンション・ゼロ』のグランプリ本戦大会の会場で出場者を激励！自ら決勝進出者を呼び込むなど、会場を盛り上げた。

会場の異様な熱気に驚きつつ、マイクで挨拶した五味。会場をさらにヒートアップさせた。

『PRIDE男祭り』の激闘以降、ひさびさに報道陣の前に姿をあらわした五味隆典。この日は、自身がイメージキャラクターをつとめる"知的総合格闘技"こと本格カードゲーム『ディメンション・ゼロ』の初の公式グランプリ大会の会場に登場し、日本全国から集まったカードファイターたちを力強く激励した。

万雷の拍手で迎えられた五味はマイクを握って「（会場の熱気で）熱いですね！ダウンを脱いでくればよかった」と笑顔で挨拶。

そして、決勝に進出した8名の強豪たちをマイクを握ってひとりづつ呼び込んで、会場の熱気をさらに上昇させた。またセレモニー終了後には「初代チャンピオンの座は歴史に残る名誉なこと、ぜひがんばってください」と同じく初代チャンピオンである、自らの姿に重ね合わせながら、参加者にエールを送った。

注目される今年の活動に関して「みなさんの喜ぶカードをやりたい」と前向き姿勢ながら、噂されるPRIDE無差別級トーナメントに関して「いま、この体重でいい作品がつくれてる。年齢的にも体重が増えてくれない時期なので、スピードやテクニックを重視した軽量級でやっていきたい」と軽量級に専念したい様子。

また現在、10連勝中の五味にとって「同階級でライバルや強敵となる選手は見当たらない」状態であり、試合数が異様に多かったここ数年を踏まえて「今年は3試合くらい」と対戦相手を吟味していきたい方針のようだ。

具体的には「春先にワンマッチでやれれば、間に合わせたい」と語りつつ「PRIDEナンバーシリーズにも武士道の代表として上がってみたい。もちろん武士道も盛り上げていきたい」と力強く発言。どうやら"火の玉ボーイ"五味隆典の動向から、今年も目が離せなくなりそうだ。

自らが呼び込んだ決勝進出者、上位8名の猛者たちとファイティングポーズをとる五味隆典。

上位8名の進出者と壇上でつぎつぎに熱い握手を交わした五味。

「ディメンション・ゼロ グランプリ ―1―」大成功！ 賞金100万円は大学生の中村慎太郎さんの手に！

囲碁や将棋のようなプロプレイヤー制、高額な賞金制度が初めて導入された話題のカードゲーム『ディメンション・ゼロ』の公式イベント、「ディメンション・ゼログランプリ―1―」がいよいよ開催！

当日、会場は異常な熱気につつまれ、全国から選りすぐられた256名枠の本戦を勝ち抜き、初のグランプリ王者として優勝賞金100万円を獲得したのが大学4年生の中村慎太郎さんだ。

決勝戦は格闘技さながらのスリリングな攻防となり、逆転勝利した中村さんはガッツポーズで喜びを爆発！　惜しくも準優勝、賞金50万円を手にした岩田隼一さんはなんと中学2年生！　14歳ながら決勝進出の8人の選出時点では総合1位で通過するなど圧倒的な強さで会場を沸かせた。

今回、下は小学校3年生、上は40代までという幅広い年齢層の参加者が、腕を競い合い、予選では全国から3000人以上が参加。地方予選に参加できなかった人向けの「前日予選」では予定された倍以上の参加者が詰めかけるなど『ディメンション・ゼロ』の急速な浸透ぶりを改めて実証した大会となった。

この熱気は、大阪に舞台を移し4月に開催予定の「ディメンション・ゼロ グランプリ―2―」に伝播されること間違いなし。真剣勝負のカードゲームの歴史がついにその幕を開けた！

会場では33位～64位入賞者に1万円、65位～128位の入賞者に5000円が手渡された。上位入賞者は銀行振込で入金された。

初のグランプリ王者となった中村慎太郎さん（中央）、準優勝の天才少年、岩田隼一さん（右）。左はブロッコリー木谷会長。

髪のこと、この一冊で解決!!

電話一本で
お届けします!!

全3章36ページ
オールカラー

アデランス

Aderans
MIHO

正しい
シャンプー
の方法は?

髪の構造、
脱毛の原因とは?

ベスト
アドバイス
ブック

自己流ヘアケアの
問題点は?

あなたにピッタリの
ヘアケアとは?

ストレスと
抜け毛の関係

髪に良い食事?
髪に良くない食事?

THE BEST ADVICE BOOK

髪のトラブルを
回避するための知識
満載です。

ヘアチェック体験リポート

[ベスト アドバイス ブック]

もれなくプレゼント。携帯からでも無料 0120 68-9696

アデランス
www.aderans.co.jp
J-Hair 日本毛髪業協会加盟

アデランスの電話でヘアチェック 0120-02-1960
24時間ネットでヘアチェック e-check! 09696.jp

史上最大激震

新日本プロレス契約更改2006

こんないまだからこそ世界戦略というか。ソムフフフ!!

てなこと言ってるうちにバングラデシュ興行中止!!

まさにG1(グレートでイチバン)クライシス!

ついについに訪れた未曾有の危機!!
ゲームソフト会社ユークスの救済買収による
子会社化で崩壊を免れた新日本プロレスだったが、
今度は選手の大量離脱劇に見舞われてしまった。
新日本プロレスは、いったいどうなるんだ!?

designed by Tani-yan (Two Three)

過疎化がますます進む!?
新日本プロレス～離脱者の歴史～

00年

橋本真也（途中解雇→ZERO-0NE）

01年

大谷晋二郎
（退団→ZERO-0NE→ZERO1-MAX）
高岩竜一
（退団→ZERO-0NE→ZERO1-MAX）
※**中村祥之**
（退社→ZERO-0NE→ZERO1-MAX）

02年

武藤敬司（退団→全日本プロレス）
小島聡（退団→全日本プロレス）
ケンドー・カシン
（退団→全日本プロレス→フリー）
※**渡辺秀幸**
（退社→全日本プロレス→フリー？）
※**青木謙二**
（退社→全日本プロレス→キングスロード）
長州力
（途中退団→ＷＪ→リキプロ＆新日本現場監督）
佐々木健介
（途中退団→ＷＪ→健介オフィス）
※**永島勝司**
（途中退団→ＷＪ→内外タイムス編集長）

03年

鈴木健想（退団→ＷＪ→WWE→フリー）
越中詩郎（退団→ＷＪ→オフィスＫ２）
※**マサ斎藤**
（退団→ＷＪ→健介オフィス相談役）
※**保永昇男**
（退団→ＷＪ→リキプロのレフェリー）
※**タイガー服部**
（退団→ＷＪ→新日本プロレス？）

04年

AKIRA（退団→フリー）
小原道由
（退団→中古車販売ガリバー→接骨院開業）
※**上井文彦**
（途中退社→ビッグマウス・ラウド）

05年

柴田勝頼（退団→ビッグマウス・ラウド）
村上和成
（フリー契約破棄→ビッグマウス・ラウド）
安田忠夫（解雇→フリー）

※マークは主な関係者、レフェリーなど

波乱？ 妥当？ 離脱者11名! 保留者6名!!
新日本プロレス契約更改データ

更改選手

天山広吉
1/13 保留
1/17 保留
（1時間30分の交渉の末）
1/25 ほぼ合意
厳しい評価の原因は、脱水症状によるIWGPベルト流出!! そ、そんな馬鹿な……。

エル・サムライ
1/11 保留
1/24 保留
1/28 サイン
「会社が苦しいのは分かるが、こちらも苦しい。この条件なら、どっちに転ぶかわからない」とコメントするも、最終的には残留。

稔
1/12 保留
1/23 保留
1/28 サイン
一回目の交渉で「一発で決めました」と発言。しかし、保留していたことが明らかに。謎のコメントはジュニアグループを取り巻く政治的な駆け引きか……？

蝶野正洋
1/10 ほぼ合意で保留
1/25 不明・ノーコメント
ここ数年、フリー状態が続いている蝶野。ほかの選手に「条件に合わないからとあきらめるのはまだ早い」と残留呼び掛ける異常事態。

永田裕志
1/10 一発サイン

中西学
1/10 一発サイン
芸能活動の功績を評価してほしい旨を明かした。

中邑真輔
1/12 一発サイン
「若いし独り身なんでどうにでもなる」20分のスピードサイン。他団体との交流試合、海外進出、総合格闘技再挑戦の３つのノルマ達成を宣言。

棚橋弘至
1/23 一発サイン
わずか５分でサイン。「契約書を読む時間だけ。会社の現状は理解しているので金額は仕方がない」

飯塚高史
1/10 一発サイン
保留者に残留を呼びかけ!

真壁刀義
1/19 一発サイン

矢野通
1/12 保留
1/18 保留
1/23 サイン
一回目の席では2時間にも及ぶ話し合いの末、保留。

獣神サンダーライガー
1/16 ほぼ合意
1/18 サイン
長州現場監督の補佐役に就任することになった。「前回もサインするつもりだった。野球やサッカーで保留は当たり前。保留は悪いイメージでない」

タイガーマスク
1/13 保留
1/18 サイン
「ブラックタイガーとの再戦要求に念書を準備してくれた」から残留!! いや、非常にプロレスチックなコメントだ。

邪道
1/13 保留
1/20 サイン

外道
1/13 保留
1/23 サイン

田口隆祐
1/16 保留
1/18 サイン
「結婚して子どもがいることを報告させていただきます」家族を支えるために頑張れ、田口!!

山本尚史
1/16 一発サイン

後藤洋央紀
1/16 保留
1/18 サイン

裕次郎
1/16 ノーコメント
1/19 サイン
ブログが突然終了……。

退団選手

ブルー・ウルフ
1/17 フリー
モンゴルに帰国。ウランバートルの道場建設を表明。

長井満也
1/16 前向きな保留
1/31 退団決定
キングスロードに参戦

吉江豊
1/11 ほぼ合意で保留
1/19 退団決定
残留濃厚だったが、突然のフリー宣言。新日本の継続参戦を強調。

成瀬昌由
1/18 保留
1/25 退団決定
会社側が契約を再検討するという異例の事態。成瀬は業界を震撼させる計画の始動を示唆。

西村修
1/25 退団
数年前から内容的には“ガイジン契約”だったと言われている。

竹村豪氏
1/18 保留
1/19 ノーコメント
1/25 退団
ZERO・1MAX参戦へ。

長尾浩志
1/16 ノーコメント
1/19 退団決定
ハッスルオーディションに合格。新日本から高田モンスター軍へ移籍というかたちに。

安沢明也
1/16 不明・ノーコメント
25歳の若さで現役引退を表明、料理人の道へ。

柳澤龍志
1/12 保留
1/19 不明・ノーコメント
1/25 フリー
昨年は年間契約ではなく単発契約。今後は坂口道場預かり？

後藤達俊
1/17 保留（↓50%減）
1/27 退団
一回目の交渉で約５０％の大幅カットを提示を受ける。後進指導の道を用意されたが、退団を選択。「どこにでも出る。PRIDEでもハッスルでも出たい」ZERO1・MAX、キングスロードに参戦。

田中秀和（ケロ／リングアナ）
2/19 退団
「自分の心の中にある大切な物が守れなくなったから」という理由で1月24日に辞表を提出。

山口秀幸（リングアナ）
日付不明 退団
1・19後楽園大会直前には退社。2月19日以降はリングアナウンサー不在という緊急事態。

ヒロ斎藤
1/11 保留
1/18 保留
1/24 不明
1/28 退団決定
同じベテランの後藤達俊同様、厳しい提示を受けたと思われる。なお、千葉・船橋に店を構えていた「焼き肉屋ヒロ」は昨年末から休業中……。

保留選手

平田淳嗣
1/17 保留
1/24 ほぼ合意で保留

金本浩二
1/27 保留
昨年から退団を匂わせる発言を連発。2・15両国国技館大会後に今後を明らかにするというが、おそらく残留。

垣原賢人
1/13 保留
首の負傷が癒えてから改めて交渉

井上亘
1/12 保留
1/18 保留
一時は退団と報じられたが、公式HPのBBS「結論はもう少し待っていてください」と書き込み。おそらく残留。

藤波辰爾
<不明>
昨年は選手契約していなかった模様だが……新団体設立の動きも見せていただけに、今後の動向、不要な発言が気になるところ

ジョシュ・バーネット
<不明>
『PRIDE・31』は“新日本プロレス所属”で出場するが……今年は契約を更新されるのか。

元気ですか――っ!? 元気があれば、なんでもできる!! と言いますが、まぁズバリ言って、元気があってもできないことは世の中にあるというか。ンムフフフ! それでも元気にやるしかないということでね。触ってねえから知らないですが、いっぱい選手が辞めたみたいですね。まあ、こんなこともあるさ、たまには! ダハハハハ!（以上、アントン風に妄想執筆）。

というわけで、いくらアントニオ猪木風に元気よく書き出しても、どうにもならなそうな気配がぷんぷん漂う現在の新日本プロレス。ここからは声のトーンを落として音読してもらいたいが（たとえば、あなたのお小遣いや給料がいきなり50パーセントカットされたことを想像して）、今年1月に行なわれた契約更改は、なんと11名という史上最多の離脱者を生んでしまった!! そのうえリングアナの田中ケロちゃんや、縁の下の力持ちである社員たちもが新日本を離れる事態に。そんな戦力ダウンが影響したのか、かつて盛況を極めた2月の札幌シリーズは散々な客入り……。現地では目玉の一つであった曙出場のアナウンスすら、行き届いていなかったそうだ。

新日本の選手離脱劇は、今回に始まったことではない。紐解けば、新日本プロレスは「離脱と復帰の歴史」とも言える。しかし、今回はいままでの離脱例とは明らかに質の違うを感じる。決定的に何かが違うん、ダー!!

古くは長州力から維新軍、そして前田日明、高田延彦らＵＷＦ勢の選手大量離脱ショックが新日本を襲った。最近では、橋本真也がＺＥＲＯ―ＯＮＥを立ち上げ（あくまで新日本の衛星団体という位置づけのスタートだったが）、武藤敬司や小島聡、中枢幹部らの全日本プロレス電撃転出。また、長州力＆永島勝司のＷＪに選手が合流したケースもある。

橋本も、武藤も、長州も、前田も、新日本の高待遇を捨てて、自らが理想とする環境づくりを目指して新日本を離れた要因が強かった。選手同士の確執、派閥争いの末、理想と理想のぶつかり合いの果ての出来事。しかし、今回の離脱劇の主な原因は、新日本の経営悪化がもたらしたものに過ぎない。選手や社員たちは昨年11月の時点で給料の2割カットを言い渡されたという。そして1月には、厳冬更改になるダウン提示を突きつけられた。そりゃ辞める人間も出てくるって!!

給料問題だけではなく、表沙汰になっているゴタゴタは数多い。たとえば、チケット販売の未回収金問題、興行不振による招待券の大量配布、ロイヤリティー不払いにより『闘魂ＳＨＯＰ』のグッズ差し押さえ（結局、力道山ＯＢ会が同店を買収）、ドラゴンのクーデター未遂事件、曙のサソリ固め失敗（これは違うか）、現地プロモーターサイドの事情によるバングラデシュ興行の中止……。ほかにもいろいろあったんだけど、文字数の都合＆おそろしくて表沙汰にできない話なのでここまで!

繰り返すが、新日本の選手離脱劇はいまに始まったことではない。しかし、今回は誤解を恐れずに言えば、選手を切り捨てざるをえなかった経営状況なのである（そんな状況下で東アジアを束ねる格闘技プロモーション設立をブチ上げるアントンは、いつ何時呑気だ）。06年の新日本プロレスの行方は、果たして――!?

（ジャン斉藤）

スーパーウルトラ大混迷！
検証・新日本プロレス ①

中村祥之

ファースト・オン・ステージ代表（ZERO・1MAX運営）

中村祥之が指摘する新日本低迷の理由
降りかかる火の粉を取り払う人間が内部にいなくなってしまった

元・新日本プロレス出身の背広組として、ZERO・1MAXの運営や、『ハッスル』でらつ腕を奮う中村祥之代表（ファースト・オン・ステージ）。毎日、ユークスの株価チェックも欠かさない中村代表が、“故郷”新日本プロレスの迷走ぶりを遠慮なしでブッタ斬る！

聞き手／ジャン斉藤、松澤チョロ　構成／真下義之

——今日は中村さんの古巣であり、崩壊した新日本プロレスの……。

中村　（さえぎって）してないよ、崩壊は（笑）。

——いや、冗談抜きで言い間違えました（笑）。最近はこういった本（『新日本プロレス　崩壊の真相』／宝島社）が出てるので、ついつい。

中村　はいはい。それ、読みましたよ。この本のタイトルも〝崩壊〟ってなってるけどさ、この本で一番驚いたのは、本の記事を書いている記者さんの顔ぶれなんですよ。俺からするとさ……新日本プロレスをずっと〝守ってた〟人たちがいるじゃない。

——ああ、元『週刊ゴング』の小佐野（景浩）さんや金澤（克彦）さんとか。

中村　その人たちが暴露本とは言わないまでも、ある意味で暴露本的な要素がある本にどうして執筆してるんだろう？　って不思議なんだよね。こういう状況を見ても、新日本プロレスはマスコミの信頼関係さえも崩壊してるんだなって思ったよ。

——かつて新日本プロレスに元気があったときは「批判したら取材ができなくなる」という縛りや遠慮がありましたけど。

中村　しかし、この本にはリング外の話、プロレス関係者も知りたいような記事が詰まってるし、完全にマニア向けだよね。この本の販売部数でプロレスマニアの総数がわかるんじゃない？　僕も本屋でパラパラ読んだけど思わず買ってしまったし（笑）。

——中村さんも即買い（笑）。

中村　俺の知らない事実もけっこうあったし……。ただごく数名なんだけど、自分が新日本に関わってたときの事実と違うことを書いてた人もいたけどね。

——しかし、マット界っていままで〝守ること〟によってビジネスとして成り立っていたのが、いまは〝暴くこと〟でビジネスになるという構造になってきましたよね。

中村　『ｋａｍｉｐｒｏ』もさ、以前は関係者やレスラーから警戒されてるような状況があったわけじゃない。でも、『ｋａｍｉｐｒｏ』はこの本とはちょっと違って、ファンにいろいろ想像させるきっかけは与えたかもしれないけど。

——ま、胸を張って言い訳しますと、ネガティブな暴露はしてない。……ような気がします（笑）。

中村　笑いにしてたじゃない？　「ドラゴン・呪いのしゃもじ」の話とかさ（笑）。

——ああ、吉田（豪）さんがヤフオクで入手した伝説の一品ですね。持ち主に次々と不幸なことが訪れるという（笑）。

中村　でも、この本は笑えないもんねえ。昔の新日本だったら……これは出版社に殴り込んでるんじゃない？

——もしも中村さんが新日本にいた当時、こんなふうに書かれてたら……。

中村　（語気を強めて）俺が立場もらっていたら、すぐ行くだろうね！

——ガハハハハ！　やりますかーっ‼

中村　俺は行くね！　っていうか「守るべきものがどこなのか？」って問題だよ。いまの俺が守るべき団体はＺＥＲＯ・１ＭＡＸや『ハッスル』じゃない？　だからＺＥＲＯ・１ＭＡＸや『ハッスル』に降りかかる火の粉は当然取り払うよ。だけど、いまの新日本プロレスの内部にはそういう人間がいねえのかな？　って。

——内部がドタバタしていてそれどころじゃないこともあるんでしょうね。

中村　そうだねえ。新日本プロレスが闘魂SHOPのグッズを差し押さえとかさ、俺にはもう意味がわからないよ。

――どうやらグッズのロイヤリティが支払われてないことから生じた騒動みたいですね。

中村　そういうピンチを迎えたり、こういう本が出た反動で客が増える時代でもないからさ。昔なら「新日本プロレスを守らなくては！」という熱いファンもいたと思うけど、いまは「もういいや」っていう人が多いんじゃない？　あとこんなタイトルで本が出されたら、少なくとも世間では「新日本プロレスという会社は潰れた」と思った人がいるだろうね。

――団体に求心力があれば、それほど影響はないんでしょうけど。

中村　やっぱりさ、5年前、俺がいたときの新日本プロレスといまの会社は完全に別物だよ。たとえば、1月4日にウチの選手を連れて東京ドームに行って試合しましたけど、俺からすると新日本プロレスってステージが一段とか二段上の別格の存在だったんだよね。でも実際会場に行ってみたら……なんかバックステージにいや～な空気が流れているんだよねぇ。

――選手や関係者に覇気がないというか。

中村　なんか薄暗～くて、靄がかかったような、どんよりとしたバックステージだった。俺は元・新日本プロレスの人間だし、普通は昔の会社の仲間に会うと懐かしさを覚えるでしょ。それがねえ……昔の仲間に会ってもまったくうれしくないんですよ（淡々と）。

――今回はまさに『故郷』というサブタイトルでしたけども、実家に帰った気がしないと？

中村　なんか、ちょっと旅に出てるあいだに、故郷が荒れ果てた場所になってしまった気分というか。お城の様子がまったく変わって、王様も違うような……誰かに乗っ取られたのか崩壊したのかわからないけど。非常にどんよりとした世界だったよ。

――そんな状態の新日本プロレス、あるいはプロレスに未来はあるんでしょうか？

1月28日の後楽園大会で新日本のアイコン的存在だった“ケロちゃん”こと田中秀和リングアナまでもが「一番大切なものを守れなくなった」と退団表明！　2月19日の両国大会のラストアナウンスは絶対に聞き逃せない！

1・4ドームのバックステージは非常にどんよりとした世界だった

中村　いや、『ハッスル』の出現で、スポーツエンターテインメントとしてプロレスを見る人の層は確実に広がったと思うんですよ。『ハッスル』で子どもから大人まで幅広くファミリーで来られるような間口が広がったから、本当は新日本プロレスみたいなプロレスを見たい人、あるいはNOAHさんみたいな正統派プロレスが見たい人も増えるはずなんだよね。実際、いまのNOAHさんは一定以上の集客力がある。カードを発表しなくてもたぶん武道館を満員にするくらいのパワーがあるよね。

――固定サポーター層をガッチリと握ってますからね。

中村　たぶんNOAHの会場に行った人はほとんどが満足して帰ると思うけど、いまの新日本プロレスはさ、カードを発表したところで「これはまぁ……行かなくていいかぁ」ってなっちゃうネガティブ要素があるからね。

――そうなった理由はいろいろ挙げられますけど、中村さんとしてはいまと昔では何が決定的に違うと思いますか？

中村　そうだねえ。新日本出身の背広組で言うと、俺もそうだし元・全日本の渡辺（秀幸）さんもそうだし、キングスロードの青木（謙治）さんもそうだし、ビックマウスラウドの上井（文彦）さんもいる。俺らは新日本プロレスを出て、なんだかんだ言われながら細々とプロレスで生活してるじゃない？　たとえヤドカリと言われようとさ（笑）。

――プロレス界から食いついて離れない、みなさん粘り強い方ばかりですよね（笑）。

中村　そういうヤドカリ根性のある人間が新日本からいなくなっちゃったのかな。もちろん新日本に優秀な人は残ってますよ。たとえば営業の田中一徳くんという元気のいい子がいて、あの子と会社の若い子たちがガッチリ手を組んだらおもしろいなと思って、個人的に「頑張れよ！」って応援したこともあるんです。だけどその若い子たちも今回の騒動でみんな辞めちゃったんですよ！

――バリバリの即戦力たちが離脱！

中村　ましてや俺が一番ビックリしたのは勤続25年という新日本プロレスの象徴みたいな田中秀和リングアナウンサーが涙の退団というニュースだよ！　俺からしたらさ「涙を流すくらいなら退団すんな！」っていう気持ちもあるわけだけど。

――歯を食いしばって残るべきだったと？

中村　だって涙を流すということは、何か後悔の念があるわけでしょ。だったらその涙を流すぶん、新日本でもう一回頑張ればいいじゃん。

――フロントの人間が辞める際には派閥争いが理由の一因にも考えられますけど。

中村　そういう意味ではさ、ネガティブな騒動が起こったのは「長州さんが現場監督として戻ったから」って騒がれがちだけど。それは問題をすりかえてるし、責任を押し付けてるだけ。だって、長州さんがいようといまいとレスラーの年俸は下がるわけじゃない？（語気を強めて）。

――ズバリ言って、長州さんはあんまり関係ないですよね。そもそも雇われ現場監督なんですから（笑）。

中村　でしょ！　長州力のせいになっているのは不自然だし、批判すべきものを批判できない代わりにスケープゴートにされているように見える。誰もが「なぜこうなったのか？」って真相部分には触っていないんだよね。だから俺がこう言うのは失礼かもしれないけど……長州さんはかわいそうな気がするよ。

——で、その前までは、すべてを猪木さんのせいにしてたんですよね。まあ、猪木さんに責任があるのはたしかですけど（笑）。

中村 今回ようやく猪木さんがいなくなりました。そしたら長州さんのせいにするのが一番てっとり早いってなるよね。

——中村さんにとって、いまの新日本プロレスは反面教師的な存在なんでしょうか？

中村 俺は新日本を辞めて〝脱・新日本〟できた唯一の人間だと思いますよ。って言うのは、ZERO・1MAXの団体経営とか、組織のまとめ方とか、選手のコミュニケーション方法とかは全部、NOAHの仲田龍さん（取締役渉外部長）に質問したりして教えてもらったからね。俺は龍さんのやり方を全部、真似てるから。それで新日本的な考えを捨てられたんだけど、渡辺さんも青木さんもやっぱり新日本的な要素があると思うし。上井さんなんかは新日本そのものじゃない（笑）。

——上井さんの精神性はかつての新日本そのものですよね。元WJの永島勝司さんはどうですか？

中村 永島さんはときどき酒飲むけど、あの人こそいまだに新日本の永島勝司だよね（笑）。もちろん、新間寿さんもそうだしね。

——新日本に入社すると、強烈な刻印が刻み込まれちゃうんですかねえ。

中村 うん。あの会社に3年いたら誰でもそうなると思うよ。

——石の上にも3年といいますけども（笑）。

中村 ホント、ホント（笑）。3年いたら心に新日本のライオンマークが刻み込まれちゃうんだよね。でも俺はある時期から、新日本に対しての思い入れがなくなっちゃった。だから田中リングアナも新日本への思い入れがなくなったはずなんだよ。

——思い入れがなくなった理由がなんだったのかは、凄く興味ありますよね。

中村 「自分の中の一番大切なものを守れなくなった」って雑誌に書いてあったけど。……でも田中さんには、いままで俺らのことさんざんコキ下ろされてきたからねえ（笑）。俺らはいまだ恨みに思ってるもん。博多の大会では「昨日ここで試合をした別の団体はガラガラでしたけどウチは入りました」って嫌みを言われたこともあったし。東京ドームでウチの沖田がリングアナしたときは「あんなリングアナウンサー最低だ！」って言われたりさ。でも、もうフリーになったらもう新日本プロレスというバックはないんだから、これから彼がどんな行動をとっていくのか興味はあるよね。

——新日本を辞めても「K－1、『PRIDE』、よ～く見てろぉ！」の精神は維持してもらいたいですけど（笑）。

中村 彼は2月の両国までは新日本に残るそうだけど、いつか『ハッスル』からオファーしたいよね。そこは『ハッスル』ファンの期待に応えないと。

——後楽園が爆発するような仕掛けを見たいですねえ。

中村 本家ケロちゃんがきたら、いろんなことができるハズだよ（笑）。

——新日本からは今回、長尾（浩史）選手が『ハッスル』に上がりますけど、ほかにも続々と参戦するムードは高まってますよね。

中村 後藤さんも「『ハッスル』や『PRIDE』のリングに上がる用意がある」って言ってたよ。「オファーはないと思うけど」って付け加えていたけどさ。

——あ、寛水流出身の後藤さんを『PRIDE』のリングでぜひ見たいです！　後藤さんも道場では態度の悪い若手をカチくらわしたりとか、そうとうに腕っぷしに自信があるみたいですし。

中村 そりゃあ彼は技の当たりも強いし。プロレスも私生活もあのまんま生きてる人だからさ。『PRIDE』側がもし後藤さんに本気でオファーしたいなら、俺はいつでも後藤さんに話を持ってくよ！

——ぜひPRIDE無差別級GPに出てほしいですねえ（笑）。

中村 ここ数年、長州さんのバーリ・トゥード待望論もあったけども、後藤さんが『PRIDE』に出たらどうなるんだ？　っていう興味は尽きないよ。俺はチケットを買ってでも観に行くね！

——ヒョードルをバックドロップで投げることを想像しただけでお腹いっぱいです（笑）

中村 それはやっぱり見たいじゃない！『PRIDE』のリングで後藤達俊のバックドロップが炸裂する！　そういう爽快なシーンを見てみたいよねえ。

——話は戻りますけど、今回ここまで大量離脱が起きたりすると、親会社のユークスさんとしても穏やかじゃないでしょうね。

中村 う～ん。でも結局、ユークスみたいな肖像権を管理する会社は、最終的にはその人の肖像がほしいわけで、興行がほしいわけじゃないでしょ。いまだったらアントニオ猪木、藤波辰爾、長州力、それに蝶野さんとか武藤さんとかの肖像権があればい い。だから親会社として新日本プロレスに興行数を増やせという指示はおそらく出てないと思うよ。肖像を長く維持して、タイミングを見計らって商売したいはずだよね。だから興行回数なんてたとえば年間20回しかなくたってべつにユークスは困らない。極端なことといえば、お客さんが入らなくたって問題ないんだよね。

——そういうもんなんですか。

中村 ただ、新日本のオフィシャルページに堂々と書いてあったけど、どう考えたって年間100万人は間違いなく動員していないからね！（笑）。

——プロ野球チームだってそのラインを超えることが目標なのに（笑）。また大きく出ましたね。

中村 ある意味では、そういう見栄も大切だと思うよ。でもさ、100万人動員してたら、赤字にはならねえよ！（笑）。

——ワハハハ！　なんて隙だらけな団体なんでしょうか（笑）。

中村 だって3000人入る会場を年に100カ所でやっても30万人。東京ドームを50000人入れて、3回やっても合わせても45万人だよ。まずはそういったところから矯正してさ、ちゃんと現実を見ないと。だって正直、主催者発表なんてただの見栄じゃない。新日本が100万人ならば、ウチも80万人くらいは入ってるぞっていう（笑）。だけどもうそんな見栄の必要性は感じないからさ。ウチは4月くらいから、観衆未発表でいくかもしれないよ。

——そこでスポンサーに対する問題は生じ

ユークスがほしいのは、興行じゃなくレスラーの肖像権でしょ？

没落の原因を徹底解明せよ！ 中村代表の新日本復活案

猪木さんや長州さんのせいにしないこと!!

ないんですか？

中村 こっちで実数をカウントしてスポンサーに提出すればいいだけの話。100万人って申告してるほうが胡散臭いよ！（笑）。

――ガハハハ！ 興行のことでいえば、あれだけ選手がいなくなったら、興行数は減らざるを得ないものなんでしょか？

中村 興行数は、従業員が減らなければ減らさなくてもいいと思うよ。ただ売り興行の場合は「いままで500万円だったのを400万円にしてよ」っていう話は出てくるかもしれない。そこで不思議なのは、最近、藤波さんがまったくロードに出ていないってこと。地方だと長州、藤波はネームバリューがあるじゃない？ その藤波さんが出てないのは地方のプロモーター的には痛いと思う。

――もっともっと藤波さんや長州さんを有効活用したほうがいいわけですね。

中村 ……そういえば、こないだ思ったのは、新日本プロレスにWJの匂いがしてきたってことなんだよね。

――あ、鈴木浩子GMも似たようなことを言ってるんですよ（笑）。元WJの越中（詩郎）さんや大森（隆男）さんも登場しましたし、地方では宇和野vs石井というヤングマグマなシングル対決が組まれたり

中村 さすがは新GM（笑）。いや、俺はすっごいWJの匂いを感じてて。あそこに唯一、WJの匂いがしないのはアパッチ軍だけでしょ。ただ、アパッチはリキプロの匂いはするわな（笑）。

――微妙につながってるわけですね（笑）。

中村 WJから変化したリキプロも混ざった感じだよね。リキプロとアパッチの合同興行の中に、新日本の選手がゲスト参戦しているというか。そこに中邑（真輔）くんとか棚橋（弘至）くんとかが混ざってる。で、中西（学）くんは妙にその空間にフィットしてるから「もしかしたらWJにいたんじゃないか？」というような空気さえあるよ（笑）。

――いたような気がしますねえ（笑）。

中村 もっと言うと、WJでのダン・ボビッシュの役どころが、ブロック・レスナーに置き換えられるよ（真顔で）。

――ガハハハハ！ やけにギャラが高いダン・ボビですね。

中村 まぁ体格的にはね。そうすると末期にはジュニアの外人勢とかが出てくるはずだよね。これでスティーブ・マジソンとかシェーン・ブラザースとか出てきたら……これは完璧にワールド・ジャパン（WJ）化してくるよ（笑）。

――ニュー・ジャパンからワールド・ジャパンへ！ という意味ではけっして間違えていないんですけどね。

中村 まぁ、冗談はともかくさ、我々ZERO・1MAXとしては、退団された吉江選手、ヒロ斎藤さんや後藤達俊さんにオファーを出します。西村修選手にも単発でオールドスクールのキャッチレスリングをやってもらいたいし。そういう夢のビジョンが無限に広がってますよ！

――ヒロさんと後藤さんのブロンドアウトローズとかレイジングスタッフももう一回、見たいですね。いまの読者には難解すぎるキーワードですけど（笑）。

中村 いや、あの入場テーマは聞きたいよね～（笑）。ちょっと自分たちの趣味寄りになっちゃうけど。ただプロレスって温故知新だから、古いものに触って新しいものも受け入れてくれれば。

――わかりました。ZERO・1MAXの動向にも期待してます！

現場監督就任後、ここぞとばかりにリキプロ系のインディーレスラーを導入。選手の大量離脱後も方針を続行してることで、選手からは反感買いまくり、ビッグ・サカにも「筋が違う」と激怒されつつも、着々と“WJ化”を進行中の長州力。 だが長州もしょせん雇われ監督。新日本プロレス低迷の本当の元凶はいったい誰なんだ？

さっそく仕掛けた！ 吉江豊の“友人” Y2P-160kg、後藤達俊が参戦!!

ZERO1・MAX2月シリーズ

2月24日（金）
千葉・東金アリーナ 18:30～
2月25日（土）
大阪・大阪府立体育会館第2競技場 18:00～
2月26日（日）
東京・後楽園ホール 18:30～

大谷晋二郎 & 田中将斗 vs スティーブ・コリノ & Y2P-160kg
［インターナショナルJr選手権］
［王者］日高郁人 vs 菅原拓也［挑戦者］
大森隆男&高岩竜一 vs 安田忠夫&後藤達俊
崔領二 vs 佐々木義人
藤田ミノル&アレックス・シェリー&浪口修 vs GENTARO&Gamma&クレイジー・ボーイ
神風 vs 佐藤耕平

［問い合わせ］
（株）ファースト・オン・ステージ TEL.03-5730-3966

GKが指摘する新日本低迷の理由

あれだけの大所帯に高年俸、団体を維持するのは無理があった

スーパーウルトラ大混迷！
検証・新日本プロレス②

金澤克彦

（元）『週刊ゴング』編集長

前『週刊ゴング』編集長“GK”金澤克彦が今号もプロレス界の現状について語りまくった!! 主要テーマは、もちろん、契約更改にともなう所属選手＆スタッフの相次ぐ退団で緊急事態となった新日本プロレスの現状、そして今後の行方である。

聞き手／ジャン斉藤　構成／松下ミワ

―金澤さん、今月もよろしくお願いします！

GK　はい、よろしく！

―今回は、例年だったら、『格闘二人祭り』のホストなのにスネて帰ってしまった（各自調査）ターザン山本！さんにブッタ斬ってもらっている新日本プロレス契約更改のドタバタについておうかがいしたいと思います。今回は、選手やフロントを併せて10名以上が退団するという緊急事態になりましたけど、金澤さんからすると予測通りの展開なんですか？

GK　まあ藤田和之が言っていたけども、みんなが自分の意志を持って動き出しただけだから。いまは団体や会社に守られる時代じゃないんで、いつでもフリーになる覚悟がないとやっていけないということですよね。

―さすが金澤さんが言うと重みがありますね！（笑）。

GK　そうなんだよ（笑）。だから西村（修）なんてもともと自分の世界を持っていた人間だから、彼にとってみたらフリーになることは大事件でもなんでもないんですよ。

―ただ、選手の精神性はともかくスキャンダルな話題が誌面をにぎわせていますよね。実際に業界では、書けることからとても活字にできないことまで情報が錯綜していて。

GK　そうだねえ。すでにいろんな媒体で記事になっていることでいえば、昨年の11月に新日本の選手および社員の給料が2割カットになった件があったでしょう。それがきっかけで進退を考えた選手や関係者は多かったでしょうね。

―その時期に新日本が依頼退職者を募っていたという話もあったそうですね。

GK　そうそう。だからほら、リングアナの山口（秀幸）さんなんかは生活の厳しさから早々に退団を決意して辞表を出してたわけですよ。

―でも、山口さんは1月まで新日本のお仕事をされてましたよね。

GK　やっぱり彼が抜けたら業務が機能しない部分もあっただろうし、新日本から慰留されてお手伝いというかたちで携わっていたんだよね。山口さんみたいに社員の人からしたら、20パーセント減給というのは痛恨でしょう。そういう意味では去年の11月の時点から「年明けの契約更改はタダではすまないな」という雰囲気は漠然とながらも漂ってたんだよね。

―しかし、給料2割カットを提示されたといっても、ようやくほかのプロレス団体と肩を並べたとも言えるんですよね。

GK　そうなんだよね。この業界が厳しくなっていくなかでも、やっぱりほかと比べた場合、新日本プロレスはダントツで年俸が良かった。だからいままでと比べたらギャラは相当落ちているんだけど、ほかと並ぶぐらいになったという程度でしょう。

―リングスも所属日本人選手にはかなり払っていたそうですけど、かつての新日本はそのリングスよりもギャラは高かったと聞くから驚きです！

GK　ギャラの話でいうと、いまは『ハッスル』がかなり高いと思われてますけど、あれは限られた人間以外はそんなに高いギャラじゃないから。

―ワンマッチのギャラとしてはいいんでしょうけど、『ハッスル』はシリーズを組んでるわけじゃないですし。話は戻りますが、

今回の件で新日本はさらに経理的な締め付けが厳しくなったと思うんですけど、それによって果たして会社はいい方向に進むのでしょうか？

GK　まあ、選手や社員の気持ちを抜きにして言えば、やっぱりこの時代にあれだけの高年俸を払って、あれだけ多くの選手を雇用するというのは非常に無理があったと思いますよ。

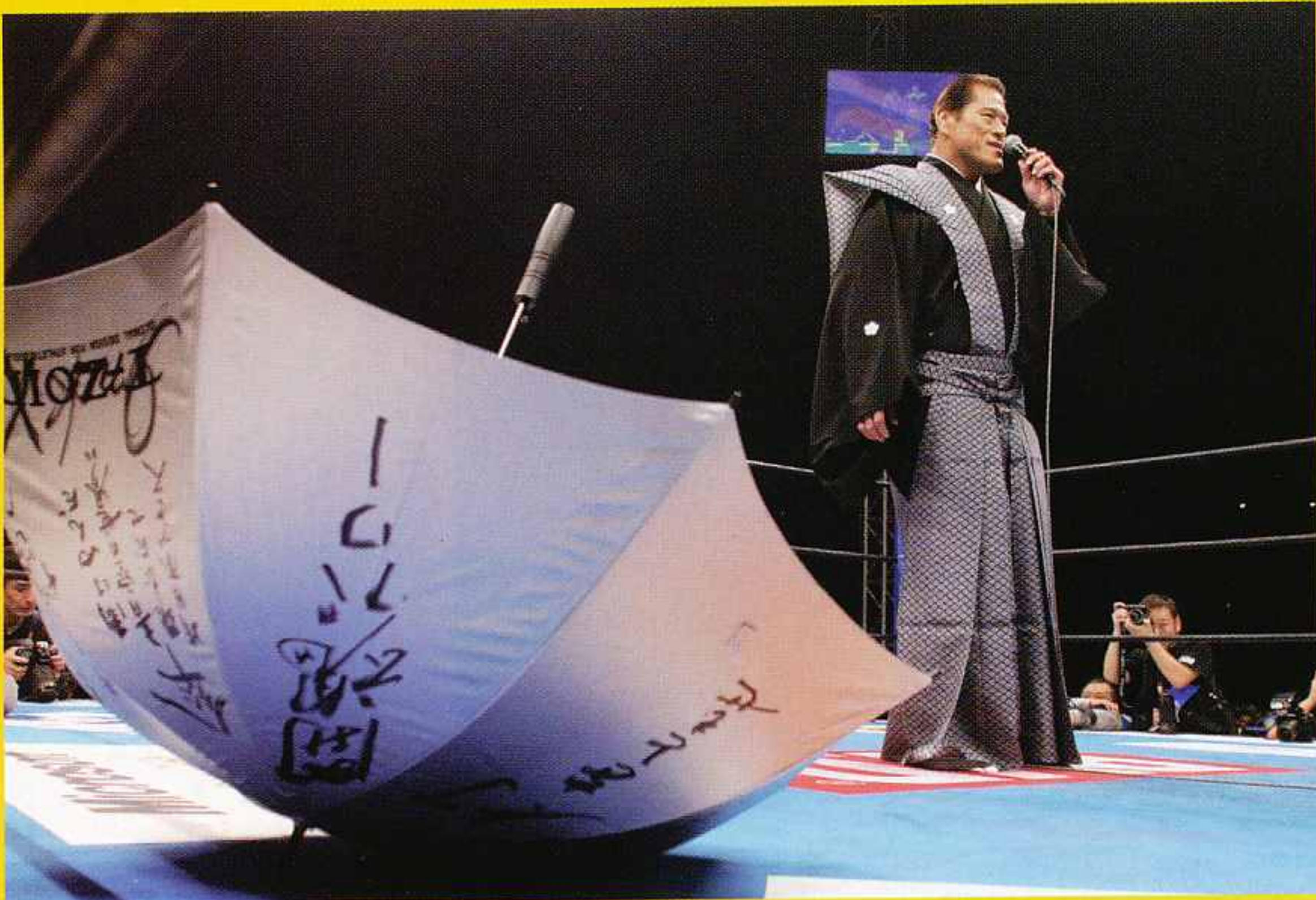
――生命線だったドーム興行から撤退したこともありましたし。

GK　良い言い方をすれば、いまは自然な状態になったということでしょう。というか、本来は何年か前からこういうかたちを目指すべきだったんじゃないかな。急にスタートしたから歪みが出てきたのかもしれないし。

――金澤さんとしては、どのくらい前から体制方針を変えていれば……と思いますか？

GK　そうですねえ。お金うんぬんの話よりも、新日本がどのタイミングで落ちてきたかと言えば……前にも言いましたが、2002年に武藤敬司、小島聡、ケンドー・カシンが新日本から離れたときがありましたけど、その理由ってお金じゃなかったわけですよね。全日本に移ったことで明らかにギャラは安くなる。しかし、彼らは環境を選んだわけですよ。そこから「プロはお金である。トップは新日本である」という観念が崩れたのかなあと思いますけどね。

――破綻の兆しは武藤敬司らの移籍劇にあった、と。それにしても、前社長の草間さんが着手していたチケット代の未回収金問題を含めて、プロレス団体の盟主と言われていた新日本がかなり杜撰な体制で興行を回してたというのは、噂で耳にしていたとはいえ本当に驚きなんですよね。まぁ、そのチャランポランさが魅力でもあったわけですけど（笑）。

GK　お金の細かいことはわからないけど、僕らが一番困ったことは、とにかくここ数年、社員の異動の周期が短くて、誰がどこの部署にいるかわからない状態だったんですよね。

“アントニオ猪木”という一番の柱であり、一番の象徴を手に入れた新日本。しかし、この柱が揺らげば破綻の日が近づいてしまうのもまた事実。そんな猪木さんは、果たして新日本をどこへ向かわせようとしているのか？

新日本低迷の始まりは武藤敬司、小島聡らの移籍劇にあった

どんどん社員が入れ替わったというか。それは業界的にも凄くマイナスになったという部分は多々ありますよね。ちゃんと踏襲すべきことが伝わってきていないというのは。

――要するに、マスコミを始めとする外部関係者と、内部担当者のつながりが薄くなっていったんですね。

GK　草間さんは新日本の体制を変えるためにメスを思い切り入れたんだけど、そこはマイナスに出た点もあったなという気はしますね。マスコミの立場からすると、担当者といろいろスムーズに事が運ばなかったところはありましたから。

――新日本内部の派閥の争いも暗い影を落としていたと聞いています。最近では、急性心不全で亡くなられたブラック・キャットさんの葬儀で、藤波さんが体制批判をブチ上げたり。藤波さんは、選手としてもレフェリーとしてもキャットさんと契約しなかった新日本の姿勢に疑問を投げかけたわけですけど。

GK　じつはキャットさんは、興行部のリングスタッフとして再スタートする予定だったんですけどね。

――藤波さんも一応役員なわけだから、オフレコならともかくそんなコメントは出すのはまったく意味がわからないですけど、きっとそれくらい内部がゴタゴタしているということなんでしょうね。

GK　藤波さんからそういう厳しい言葉が出たということは、藤波さんも新日本の現体制に対して「これは違う」ということを感じたんでしょう。藤波さんも腹を括って何かやるだろうという噂もあったわけですからね。

――藤波さんが新団体を設立して、ついにマット界の徳川家康になろうとしていたみたいですね。

GK　僕が聞いた話によれば、そんな藤波さんを支持する人もいれば、それに納得いかない人間も内部にいたみたいなんだけど、最終的に新日本の親会社であるユークスさんが藤波さんを必要としたそうです。やっぱり〝藤波辰爾〟という名前はブランドだから。

――藤波さんのほかにも、選手たちがグループで独立するという噂もあったみたいで。

GK　契約更改の最中にジュニアの選手たちが退団を匂わせていたじゃないですか。結託という言い方は良くないかもしれないけど、長州現場監督が決定した軍団解散という方針に不満があって、自分たちの作ってきたジュニアの世界に手を下されるのは非常に遺憾であるというような雰囲気があった。結局、ライガーが現場監督補佐という、要するにジュニアをまとめていくという立場に収まってからは、収拾がついた感じがあるけども。

――藤波、ジュニアという新日本のブランドは保たれたと。新日本にはもう一つ、〝アントニオ猪木〟という強烈なブランドがありますよね。

GK　うん。新日本プロレスの状況は良くないのかもしれないけど、極端な話、新日本というかユークスさんが〝アントニオ猪木〟というブランドを猪木事務所から手に入れたのは大きな収穫だと思いますね。

――しかし、プロレスマスコミ的には新日本が変わるためには〝脱・猪木〟を求めるわけで、「新日本がこうなったのは猪木さんのせいだ」と批判する声が挙ってますけども。

GK　あのね、その件に関しては面白いことを言った人がいるんだけどさ。誰かといえば永田裕志で、彼いわく「新日本プロレスに柱がない、柱を立てろってマスコミや

長州さんなんかは言うけど、新日本プロレスには永遠の柱があるんだ。アントニオ猪木がずっと柱なんだ」と言うんですよ。僕はこの言葉は名言だと思うんだけどな（笑）。

—まあ、かつてのドーム興行は猪木さんというか、猪木ラインの選手の存在で成り立っていた部分がありましたからね。

GK ただ、永田の言葉には続きがあって、それは僕が代わって言うけど、「でも柱を揺らしたのも猪木さんですよ」ということなんだよね。

—揺らすどころか、思い切り伐採しようとしてましたよ！（笑）。

GK 一時期、猪木さんの目が新日本を飛び越えて『PRIDE』や総合の世界に向いてしまったことがありましたけど、そのときの猪木さんの新日本批判は度を超えてましたよ。かわいい子を叱るのを通り越して、ちょっとイジメにしか聞こえなかったから。

—成田空港会見で「テレ朝なんて死んじまえ！」「新日本は脳ミソが腐ってるんじゃないのか!?」という具合の過激なアドバイスを毎回、送ってましたね（笑）。

GK やっぱり猪木さんの言動による新日本のイメージダウンはかなり大きかったと思いますよ。で、象徴の話をするならば、もう一人、新日本の象徴と言える、ケロさん（田中リングアナ）がいたと思うんですよ。

—良くも悪くもケロちゃんは新日本の象徴でしたね（笑）。

GK ケロさんは人によってはボロクソ言われる存在だけども、やっぱりそれはあの人が新日本プロレスの象徴だからじゃないですか。すべてはあの人が背負っていたというかね。だから、あの人が辞めるという決断をしたということは、要するに、猪木さんに「さようなら」をしたということなんですよ。

—前からケロちゃんと猪木さんの関係があまりよろしくなさそうでしたけど、ついに決別したと。

GK 一昨年の大阪ドームでケロさんなんかが中心になって、中邑真輔vs棚橋弘至戦をメインで組もうとしてたんですが、でも、猪木さんにツルの一声ですべて覆されたことがあったよね。

“お客さんが大切だ”という言葉はいままで空虚だった

—チケットの売れ行きの悪さに業を煮やした猪木さんの介入によって、小川直也らハッスル軍が電撃投入された興行ですね。

GK あのへんからケロさんは猪木さんから新日本を守らないといけないという考えになったみたいなんだけども。大きな問題があるとすれば、ここ数年、やっぱり猪木さんの許可がなければ最終的にカードを決められなかったらしいんですよね。

—いろいろ動いてマッチメイクしても、いつ覆されるかわからない。そんな体制自体に大きな問題があったんですね。

GK 上井さんは猪木さんとはうまくやっていたんだけど、上井さんが退社してからはカードがなかなか決まらなくて。チケットのさばきも後手後手。そういったことも興行不振につながっていったんでしょうね。

—あの当時の新日本の状態や面子からして、正直、ドーム規模の興行を支えるのはもう無理だったという面はあったんじゃないですか？

GK たしかに、あの大阪ドームあたりから「もう無理なんじゃないの？」という雰囲気はあったでしょう。だからそのダメージを引きずったまま開催した1・4東京ドームというのは本当に雰囲気悪かった。進行のスタッフも元気ないし、選手も元気がないし、お客さんまで元気ないし……という（苦笑）。

—なんでやるんだろう？ という感じでしたよね（笑）。それである意味、象徴だったケロちゃんが辞めて、猪木さんが引き続き大きな柱になれるかというと、そういう雰囲気や待望論もない。じゃあ、これから新日本は誰を柱にすればいいのか？ という話なんですけども。

GK 僕はね、いま現在、新日本プロレスだけを見たら、曙に期待してるんですよ（キッパリ）。

—あ、曙ですか!! たしかに体格的だけは柱としてピッタリですけど（笑）。

GK なぜなら曙のカードはなんとなくプロレス心がいっぱいありそうだから。長州&曙vs天山&蝶野なんてね、もうこれこそがプロレスだろうという感じです。ハッキリ言って、曙と天山なんか毎日当たってほしい（笑）。毎日当たっても、毎日お互いのいいところが出るんじゃないかというような雰囲気があるよ。だから曙を使って、プロレス本来のおもしろさをお客さんに伝えてほしいなって思いますね。

—つまり、金澤さんとしては、新日本に"プロレスの醍醐味をあらためて追求してほしい"という願いがあるんですか？

GK そうそう。殺気とかストロングスタイルを打ち出すのもいいけれど、プロレスで一番大事なのは「面白いかどうか？」じゃないですか。だってNOAHの武道館大会なんて「面白いからまた来よう」と思う内容ですよね。それで次に友だちを誘ってくる。口コミこそが最高のパブリシティじゃないですか。

—いまの新日本は明らかにリピーターが少なそうですよね。招待券の大量配布問題もあって、どんどんファンの足が遠ざかっていますし。

GK でも、新日本の後楽園ホールが満員になるということは、ファンはまだまだ確実にいるんですよ。だからプロレスの醍醐味を味わえるマッチメイクさえハマれば、新日本は爆発すると思うんですよね。

—どん底に落ちたわけじゃないと？

マジかよ!? GKの新日本復活案

新日本の柱を曙にすべきだ

GK　いや、どん底だとは思うけど（苦笑）。材料はそんなに悪くないはずだから。だけど現状では、それに沿ったマッチメイクが表現しづらいというのはあるでしょう。いまの新日本って、ファンの目線に立ってないから鈍感になってるところがあるんですよね。本来なら、ファンがどの試合を観て評価したのかということをちゃんと把握してなきゃダメ。誰が人気があるとか細かく分析すればいいだけの話なんですけど。

——そこで考えないといけないのは、いまのファンが求めるプロレスとは何か？　ということになるんですが、前田（日明）さんが1・4東京ドームでビックマウス勢に下した指令というのを聞いて、闘いの質を深めるのはたしかに重要になってくると思うんですけど、それよりいまは興行の質をもっと高めてもらいたいと思ったんですよね。前田さんが指令したとおり、〝小川 vs 橋本〟のような展開になれば、一時的なおもしろさはあったと思うんですが……。

GK　ちょっと話は違うかもしれないけど、前田さんは以前のインタビューで、理想のプロレスというのはUWFスタイルだというような言い方をしてて。それはある程度、当たっているのかなと思ったんですよ。UWFってスポーツライクなプロレスでしたよね。技術で見せるという。

——でも、現時点でそのスタイルを追求したい願望があって、しっかり魅せられるのは田村潔司一人だけなんですよね。

GK　できるのは田村潔司だけでしょ。いわゆるU系の色を打ち出してる団体はあるけども、本当のUWFスタイルというのはできてない現実がある。

——一夜漬けや精神性でまっとうできるスタイルじゃないというか。

GK　で、〝小川 vs 橋本〟のような闘いにしても、それは前田さんのもう一つの極端な願望であって。こんなことが許されていいのか？　ということになって、世間まで巻き込むような事件になればプロレス界は変わると。そこから転がしていけばいいという発想なんだろうけど。

——ただ、小川 vs 橋本の〝1・4事変〟がビジネスにつながったのは、破壊王の懐が深かった部分が大きいと思うんです。

GK　橋本真也だからこそ拡がった。つまるところは橋本真也は無茶苦茶、人がいいというか、なんでも包み込んでしまうというか。橋本真也だからこそできたわけだよ。

——それで、これからのプロレス、とくに新日本には、そういったほころびが必要だと思いますか？

GK　必要ないと思いますよ。現時点でも、ほころびだらけなんだから（笑）。

——ダハハハ！　紡いでいく作業が必要なんですね。しっかりとファンのニーズに応えられるような体制をつくって。

GK　新日本にとって、というかこの業界にとって、〝お客さんが大切だ〟という言葉はいままで空虚だったと思うんですよね。でも、いま本当にその言葉の大切さがわかってきたんじゃないですか。プロレス週刊誌だってそうでしょ？　売れなくなってから、ファンの大切さやニーズがわかってきたのと同じで。いや、雑誌はいまだに全然わかってねえのかな（笑）。だから、まずはフラットにすることから始めないといけない。ほころびだらけの状態を修繕する。それに、プロレスファンをがっかりさせてきた歴史が続いたから、今度はファンを喜ばせてあげないといけない。試合を観たあとは、やっぱりみんなが拍手して終わらないと。

——あと気になる点を挙げれば、毎年囁かれるテレビ朝日の中継撤退の噂なんですけども。

GK　いや、テレ朝さんは新日本とともに進むというのが基本方針でしょ。WJができたときもW—1のときもテレ朝で中継するいう噂が浮上していたけど、毎回必ずその話はなくなってるからね。それにテレ朝さんは、もし新日本がなくなったら、もうプロレスには手を付けないでしょうし。

——いまのところ、手を付けられるような団体も見当たらないですもんね。

GK　ちょっと難しいでしょうね。やっぱり結論として、この業界には新日本プロレスが必要なんですよ！

【06年2月2日／都内ロイヤルホストにて収録】

昨年、WWEのリングでプロレスデビューを果たした元横綱・曙。その後、武藤敬司率いる「武藤部屋」で着々と実績を積み、『W-1　GP』や新日本、NOAHのリングで大活躍！　GKをして「プロレス心がいっぱい」と言わしめる曙は、プロレス界の救世主、そして新日本の新たな柱となり得るのか!?

スーパーウルトラ大混迷！
検証・新日本プロレス ③

長尾浩志

元・新日本プロレス

大型選手として新日本プロレスから将来を期待されていた長尾浩志。1月の契約更改の席で契約を続行せず、退団。新たな活躍の舞台を求めてハッスルオーディションに参加。事実上、新日本から『ハッスル』へ移った選手第一号となったが、果たしてきっかけは何だったのだろうか？　インタビュー、そ〜れっ!!

聞き手／坂井ノブ　構成／ジャン斉藤　写真協力／DSE

長尾の新日本プロレスとは何だったのか
未熟者の自分にはストロング・スタイルが何だったかわからなかった

——今日は新日本プロレスを辞められたことをテーマにお話をうかがいたいんですが、長尾さんは『ｋａｍｉｐｒｏ』初登場になるので、まずは簡単な自己紹介からお願いします！

長尾　え〜、長尾浩志、26歳です。身長１９６センチ、体重１１３キロです。

——デカイ!!（笑）。

長尾　はい（笑）。血液型はO型で出身は大阪、02年に新日本プロレスに入門するまで、バレーボールVリーグの堺ブレイザーズに在籍してました。

——デビュー戦は高山（善廣）さんとタッグを組んでＩＷＧＰタッグトーナメント戦に出場するという大抜擢で。

長尾　でも、まあご存じのように、その直前に調子乗ったことやって大怪我しちゃって（笑）。

——伝説のリング飛び降り事件！（笑）。直前の後楽園ホールで顔見せしたときのことですよね。

長尾　はい〜。リングから帰るとき普通に降りたらいいのに、カッコ付けて飛び降りたら着地できずに倒れ込んでしまって。会場はドッカ〜ッンと爆笑ですよぉ（笑）。

——デビュー前から大恥をかいてしまったわけですね（笑）。

長尾　それで右ヒザの靭帯を切っちゃって。結局、1年間欠場して、再デビューというかたちで前座からやり直したんですけど。怪我して正解でしたね。なんの格闘技経験もないボクがあのまま上のほうで試合をやっていたら、いずれ大きな怪我をしていただろうし、下で基礎を学べなかったと思うんで。

——そうして前座で経験を積んだとはいえ、新日本はもともと長尾さんを大プッシュする予定だったわけじゃないですか。それほど将来を嘱望されたのに、どうして新日本を辞めることになったんですか？

長尾　う〜ん。それはやっぱり、新しいことにチャレンジしたかったということですね。

——理由はそれだけなんですか？

長尾　はい。そうです。

——いまの新日本はかなり混乱した状況ですけど、内部にいた長尾さんからすると、そうなった原因はなんだと思いますか？

長尾　う〜ん。ボクはそんなこと偉そうに言える身分じゃないので。

——では、絶賛混乱中の新日本を辞めてからの心境はどうですか？

長尾　ちょっと気が楽になりました（笑）。

——ワハハハ！　それは良かった。

長尾　いろんな不安はなくなったんで、これからは自分が持っている能力をノビノビと試したいですね。

——ノビノビと（笑）。

長尾　いやいや、新日本でノビノビできなかったのは自分の不甲斐ないところで。自分のデカさ、大きさをアピールできなかったのは本当に残念でした。

——新日本の掲げる〝ストロングスタイル〟が肌に合わないところもあったりしたんですか？

長尾　う〜ん、そこはわからなかったですね。〝ストロングスタイル〟って何？　と聞かれても、パッと出てこないから。何かそういう説明をされたわけじゃないし、未熟者の自分には結局はわからなかったですね。はい。

——それで長尾さんは現在ハッスルオーディションに参加中ですけど（2月10日大会前に収録）、退団を公式発表する前から一

新日本にいたときから、髙田総統は凄いなって思ってました

新日本の若手が『ハッスル』に移った理由とは？

部マスコミで『ハッスル』入りを報じられてましたよね。

長尾　なんかいろんなとこにそんなこと載ってたから、周りの選手から「『ハッスル』に行くんだろ？」って聞かれてたんですよ。オーディションは受けようと思ってたけど、入るとは決まってないので「知らない」って答えて。ボクが辞めたことにショックを受けてた選手もいましたねえ……。

――会社からは引き留められなかったんですか？

長尾　「なんで辞めるんだ？」って言われていろいろ説明しました。向こうは納得してなかったですけど、最後は「頑張れ」ということで。いまは前向きに『ハッスル』で頑張ることで頭がいっぱいです。

――その『ハッスル』って新日本よりも〝リング外〟の存在感を強く求められるじゃないですか？

長尾　そこは新日本よりも難しいところですけど、ボクの今年の目標は、なんでもチャレンジするということなんですよぉ。だからどんなことにも挑戦していきたいですね。

なんと新日本の若手レスラーを洗脳していた高田総統!!　これから長尾のような“隠れキリシタン”ならぬ“隠れモンスタン”があとに続く展開はあるのだろうか？　希望としては総統が直接、新日本の会場に乗り込んで、観客もろとも洗脳してほしい!!

――新日本時代から『ハッスル』はご覧になってたんですか？

長尾　直接、観たことはなかったんですけど、DVDで観たことはあります。新鮮味があって楽しかったです。

――へえ～。新日本は『ハッスル』を認めていないとはいえ、選手レベルではちゃんとリサーチしてるんですね。

長尾　やっぱり文句を言って批判する人もいますし、「楽しそうだなあ」と言う人もいますし（笑）。

――「楽しそうだなあ」と（笑）。

長尾　芸能人とかも出てるから華やかじゃないですか。ボクの友だちの知り合いでプロレスを知らない人も、『ハッスル』のことだけを知ってましたからねえ。

――もしかしたら、巷レベルでは新日本より有名なんですかね？

長尾　（急に小声になって）……いや、じつはそうなんですよぉ。ボクの大きな身体を見て「何をしてるの？」って聞かれたから、「新日本プロレスのプロレスラー」って言うと「新日本？　知らない」って。それでいろんな団体の名前を挙げたら、「『ハッスル』なら知ってる」って言われて。スゲエなあ、『ハッスル』って思って（笑）。

――ダハハハハ！　『ハッスル』の知名度はともかく、新日本が知られてないのは寂しい話ですね。

長尾　ボクは新日本プロレスが一番の団体だと自信を思っていたんで、かなりショックでしたねえ。そこまで……。

――つまり、『ハッスル』挑戦の陰には、一般人の何気ない発言があったんですね（笑）。

長尾　いや、それで決心したわけじゃないですけどぉ（笑）。

――では、最後にこれからの目標をお願いします。

長尾　まずはハッスルオーディションに受かることですね。それで……ボクは髙田モンスター軍に入りたいんですよねぇ。

――あら、モンスター軍志望（笑）。何か惹かれた理由でもあるんですか？

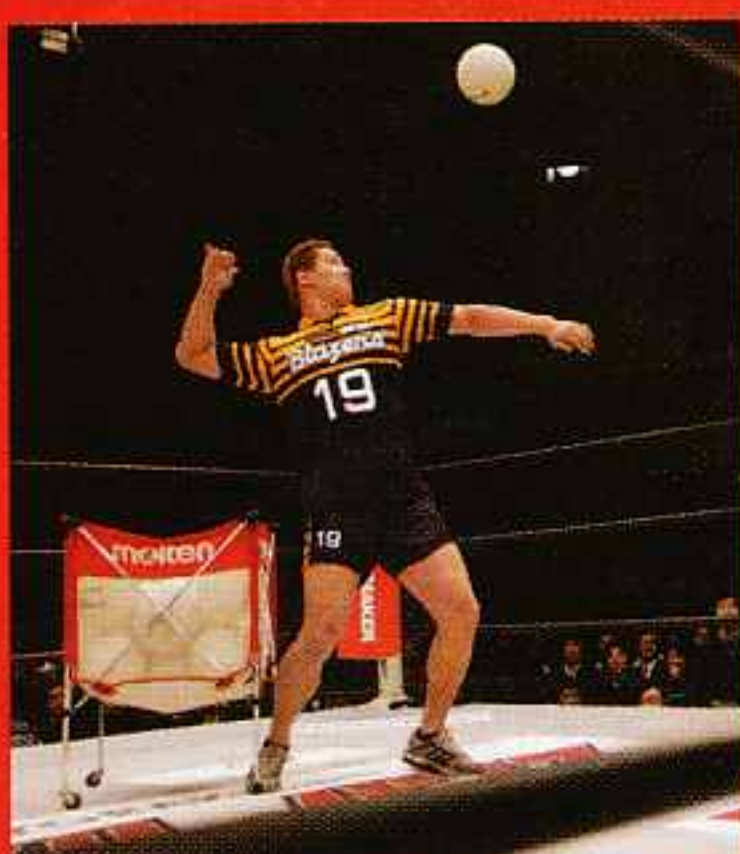
長尾　やっぱりDVDで観ても髙田総統は凄いなって思って。

――ダハハハハ！　髙田総統は新日本の若手を洗脳していた（笑）。

長尾　いやいや、笑い事じゃなくて真面目な話で。髙田総統は自分の存在を身体で表現しているんで、本当に勉強になりますね。あとモンスター軍は島田二等兵さんとかアン・ジョー司令長官さんとかもいて、なんか明るそうだし。

――ノビノビできそうだと（笑）。

長尾　そうですね～。モンスター軍ならボクの身体をうまく使ってくれそうですし。オーディションで受かって、早く髙田総統に改造されたいです！

――わかりました（笑）。今後の活躍を期待してます！

【ながお・ひろし】1979年12月26日、大阪府出身。高校卒業後、Vリーグ堺ブレイザーズに入団。02年4月新日本プロレスに入門。03年2月にデビュー。06年1月、新日本を退団。インタビューの3日後、2月10日『ハッスル・ハウス』で念願の髙田モンスター軍入り。196cm、113kg。

セット内容 ファイティングスタンド+サンドバックDX150+パンチングボール+トレーニンググローブ+安定用重し袋

お買得セット

W158×D152×H183～228cm

ファイティングスタンド・フルセット

50,000円→**10,800円**（消費税込）

サンドバックを使いパンチ、蹴りの練習。逆サイドでパンチングボールを使いコンビネーションの練習。これ1台であなたの部屋が本格練習場に!

さらに 先着500名様に限り SBスプリングをプレゼント!

トレーニング時の揺れやショックを軽減しすばらしい打撃感を実現!!

最高級レザー使用! 中身入りでこの価格!!

40Ø×150 15,000円→**6,800円**（消費税込）

40Ø×130 13,000円→**4,800円**（消費税込）

40Ø×100 10,000円→**3,800円**（消費税込）

クサリ

サンドバッグDX

クサリ付き

NEW

FIGHTING ROAD

様々なコンビネーション練習に最適です。

プロ格闘家が認めたファイティングバッグ

Wプレゼント!

今、ファイティングバッグをお買上げの方に、トレーニンググローブをプレゼント。さらに、トレーニング解説DVD「ファイティング」もプレゼント!

魔裟斗

「ファイティング」DVD

40Ø×H180×土台60

ファイティングバッグ

パンチにキック激しい衝撃をガッチリ受け止める。自宅でできる本格トレーニング!

高級レザー

30,000円→**14,800円**（消費税込）

打撃本体には、多重構造ウレタンを使用。

当社推薦

キングスセット+ベンチセーフティ+バーベルラバータイプ100kgセットがついてこの価格!

ファイティングセットⅢ

97,000円→**49,800円**（消費税込）

当社推薦

ハードベンチ+ベンチセーフティ+バーベルラバータイプ70kgセットがついてこの価格!

ファイティングセットⅡ

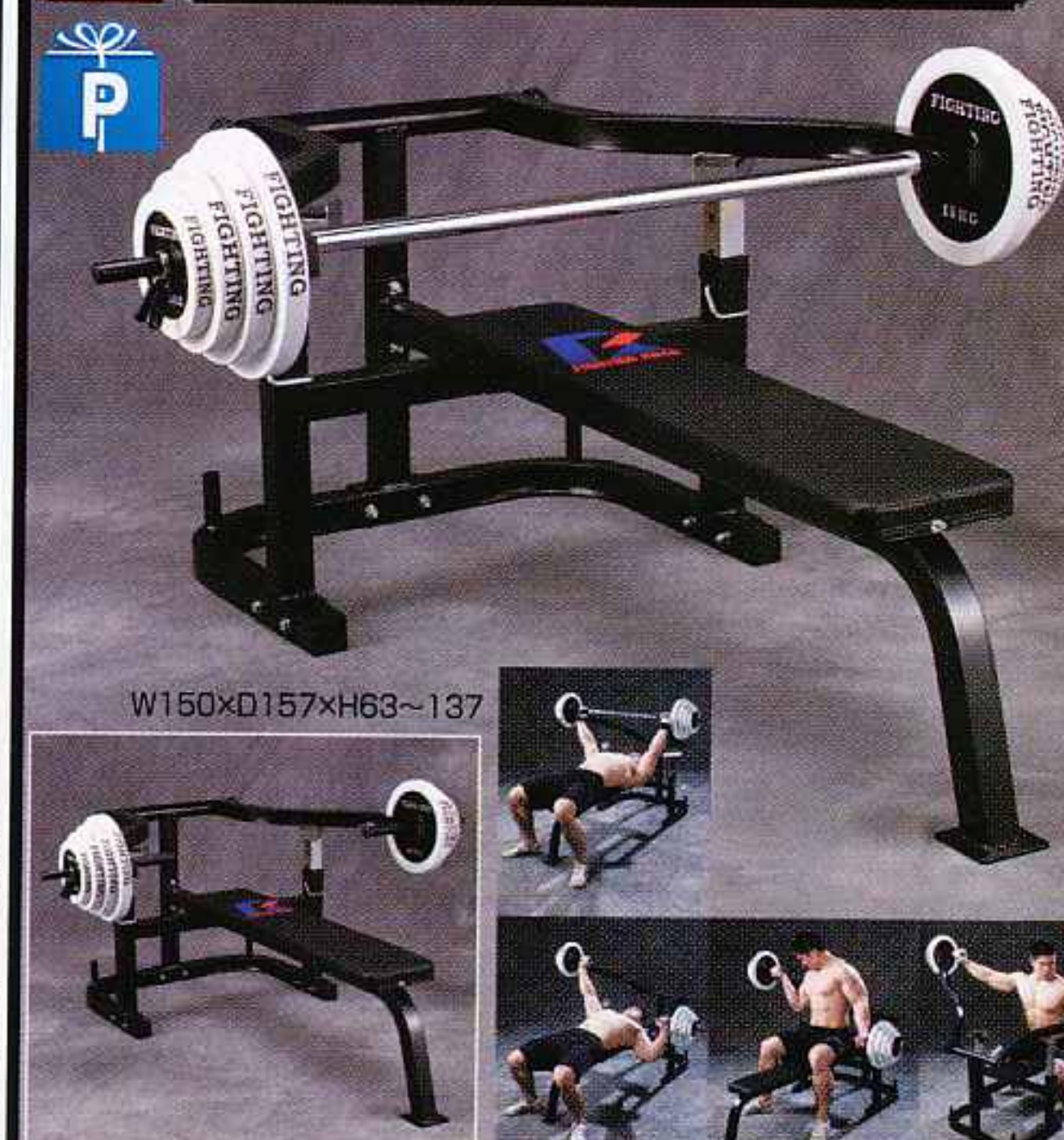
65,000円→**34,800円**（消費税込）

ベンチマット

8,000円→**4,800円**（消費税込）

サイズ:110cm×200cm×厚5mm

当社推薦

プレートラバータイプ2.5kg×2/5kg×2/7.5kg×2 10kg×2計50kgの重りがついてこの価格!

W150×D157×H63～137

セーフティプレスベンチセット

47,500円→**29,800円**（消費税込）

サイズ:8oz・10oz・12oz・14oz カラー:黒・赤

プロフェッショナル ボクシンググローブ

最高級本革製 19,800円→**4,800円**（消費税込）

サイズ:フリー カラー:黒・赤

プロフェッショナル ヘッドガードインナーバー

最高級本革製 17,800円→**5,800円**（消費税込）

サイズ:フリー 両手

プロフェッショナル パンチングミット

最高級本革製 9,800円→**3,800円**（消費税込）

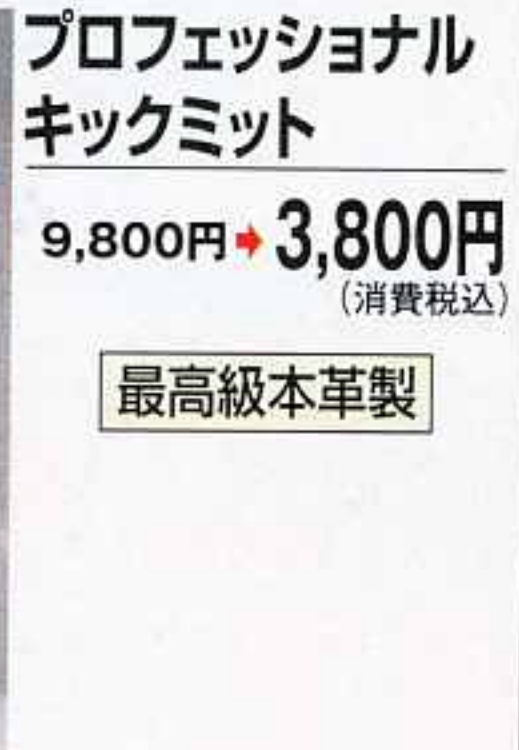
プロフェッショナル レッグガード

14,800円→**4,800円**（消費税込）

最高級本革製

サイズ:フリー カラー:黒・赤

プロフェッショナル キックミット

9,800円→**3,800円**（消費税込）

最高級本革製

サイズ:40×18×10 カラー:黒(打面)・赤(打面)

FIGHTING ROAD

(株)ファイティングロード

〒547-0027 大阪市平野区喜連2-5-49 龍本平野ビル7F

お申し込み方法

ご注文はTEL・FAX・ハガキにて 通販OK

TEL/06-6706-4411

FAX/06-6706-4412

HPアドレス http://www.fightingroad.co.jp

Eメールでのお申込み shop@fightingroad.co.jp

受付時間 AM9:00～PM9:00（年中無休）
1月1日～3日のみ休業致します。（1月4日より通常営業）

便利なクレジットカードもご利用OK! VISA MasterCard

■ハガキでのお申し込み方法

切手 〒547-0027 大阪市平野区喜連2丁目5-49龍本平野ビル7F ファイティングロード 紙プロ係

商品名
電話番号
住所
氏名

- 受注後スピード配送!（但し、地域により異なります）
- 代金は商品到着時、配達員にお支払い下さい。
- 表示価格には送料は含まれておりません。
- 返品、交換は未開封に限り、到着後7日以内にて（送料はお客様負担になります。）
- 改良の為、予告なく色・形状が変わる事があります。
- 全商品に生産物賠償保険付
- お客様の個人情報は商品およびカタログの発送以外には使用いたしません。

肉体改造!

1日15分のトレーニング。

日々の練習で強さを勝ち取れ!!

魔裟斗<マサト>
K-1 WORLD MAX 2003 世界王者
シルバーウルフ所属

正しく学ぼう!

P入り商品お買い上げの方には、トレーニング解説DVD「ファイティング」をプレゼント!!

第1部は魔裟斗選手の試合直前本格練習を収録しました!!☆魔裟斗選手による正しい打撃、蹴りのアドバイスもあるぞ!
第2部はあの東京大学ウエイトリフティングチームによるより良い筋肉の造り方を収録!!☆ベンチプレス、ダンベル、腹筋…等、正しいフォームを学ぼう!

Wプレゼント!

バーベル、ダンベルお買上げの方に、**ウェイトグローブをプレゼント!** 発汗によるスベリを無くし、安全にトレーニングできます。さらに、**トレーニング解説DVD「ファイティング」もプレゼント!**

P 魔裟斗「ファイティング」DVD

ブラックタイプ

バーベル ブラックタイプ

重量	消費税込価格
30kgセット	12,000円→6,800円
50kgセット	17,000円→9,800円
70kgセット	22,000円→13,800円
100kgセット	29,500円→17,800円
140kgセット	39,000円→23,800円

シャフト付き

ダンベル ブラックタイプ

重量	消費税込価格
20kgセット	7,000円→4,800円
30kgセット	9,500円→6,800円
40kgセット	12,000円→7,800円
50kgセット	14,000円→8,800円
60kgセット	16,500円→10,800円

シャフト付き

プレート ブラックタイプ

重量	消費税込価格
1.25kg	300円
2.5kg	600円
5.0kg	1,200円
7.5kg	1,800円
10.0kg	2,400円
15.0kg	3,600円
20.0kg	4,800円

ラバータイプ

バーベルラバータイプ

重量	消費税込価格
30kgセット	16,000円→9,800円
50kgセット	24,000円→13,800円
70kgセット	32,000円→19,800円
100kgセット	44,000円→26,800円
140kgセット	60,000円→34,800円

シャフト付き

ダンベル ラバータイプ

重量	消費税込価格
20kgセット	9,500円→6,800円
30kgセット	13,500円→8,800円
40kgセット	17,500円→10,800円
50kgセット	21,500円→12,800円
60kgセット	25,000円→14,800円

シャフト付き

プレート ラバータイプ

重量	消費税込価格
1.25kg	400円
2.5kg	800円
5.0kg	1,600円
7.5kg	2,400円
10.0kg	3,200円
15.0kg	4,800円
20.0kg	6,400円

W130×D137×H100～130

キングofベンチ (プレートセット別売) 背もたれ角度4段階に調節可能! 35,000円→12,800円(消費税込)

W62×D126×H85～105

ハードベンチ (プレートセット別売) ワンタッチでシットアップベンチ。折りたたみが可能! 20,000円→9,800円(消費税込)

W52×D126×H100

トレーニングベンチ (プレートセット別売) 安定感抜群のベンチプレス台 12,000円→5,800円(消費税込)

W130×D137×H205

キングスセット (プレートセット別売) 背もたれ角度4段階に調節可能! 40,000円→18,800円(消費税込)
ラット運動によるショルダー部の集中強化によりパンチ力強化、持久力が備わります!

W130×D195×H205

キングスセットDX プロスクワット台付(プレートセット別売) 背もたれ角度4段階に調節可能! 58,000円→27,800円(消費税込)

W100×D115×H140～220

マルチジム 高さ調整可能 24,800円→9,800円(消費税込)

1日10分!! 有酸素運動で脂肪を燃やせ! 持久力をつけろ!

抵抗値設定 / 運動時間累計 / 速度の計測 / 走行距離の累計 / 消費カロリーを累計表示

W51×D80×H111cm

フィットネスバイク fr サドル高さ調整可能 39,800円→7,800円(消費税込)

W55×D130×H45

フラットベンチPRO 極太パイプを使用抜群の安定感! 10,000円→4,800円(消費税込)

W56×D127×H123

シットアップベンチ 手軽に腹筋・背筋のトレーニングが出来ます。 10,000円→4,800円(消費税込)
5段階の角度調節が可能!

ベンチセーフティ ベンチの両サイドにセットすれば安全にプレス運動ができます。 13,000円→6,800円(消費税込)

W45×D51×H60～82

W100×D60×H120～160

プロスクワット台 (プレートセット別売) 18,000円→9,800円(消費税込)

タイガー・ドラゴンこと浅井嘉浩がついに動き出した！2・7dragondoor後楽園大会のメイン終了後、次回、4・16後楽園（大会名未定）で、一昨年より封印していたキャラクター、ウルティモ・ドラゴンを復活。また“第4の闘龍門”である闘龍門メキシコ道場勢の逆上陸、鈴木健想、タジリの参戦。さらにはメキシコ、ルチャリブレの殿堂アレナ・メヒコで5・13『ドラゴ・マニア』開催、そこにあのグレート・ムタを参戦させると発表したのだ。暗い話題が多い日本マット界を尻目に次々と放つ浅井マジック。この春、この男の動向に注目だ！

聞き手と写真／堀江ガンツ　試合写真／平工幸雄　designed by nogu (Two three)

ORAGON

4.16後楽園で"ウルティモ・ドラゴン"遂に復活!

"第4の闘龍門"日本逆上陸も決定!!

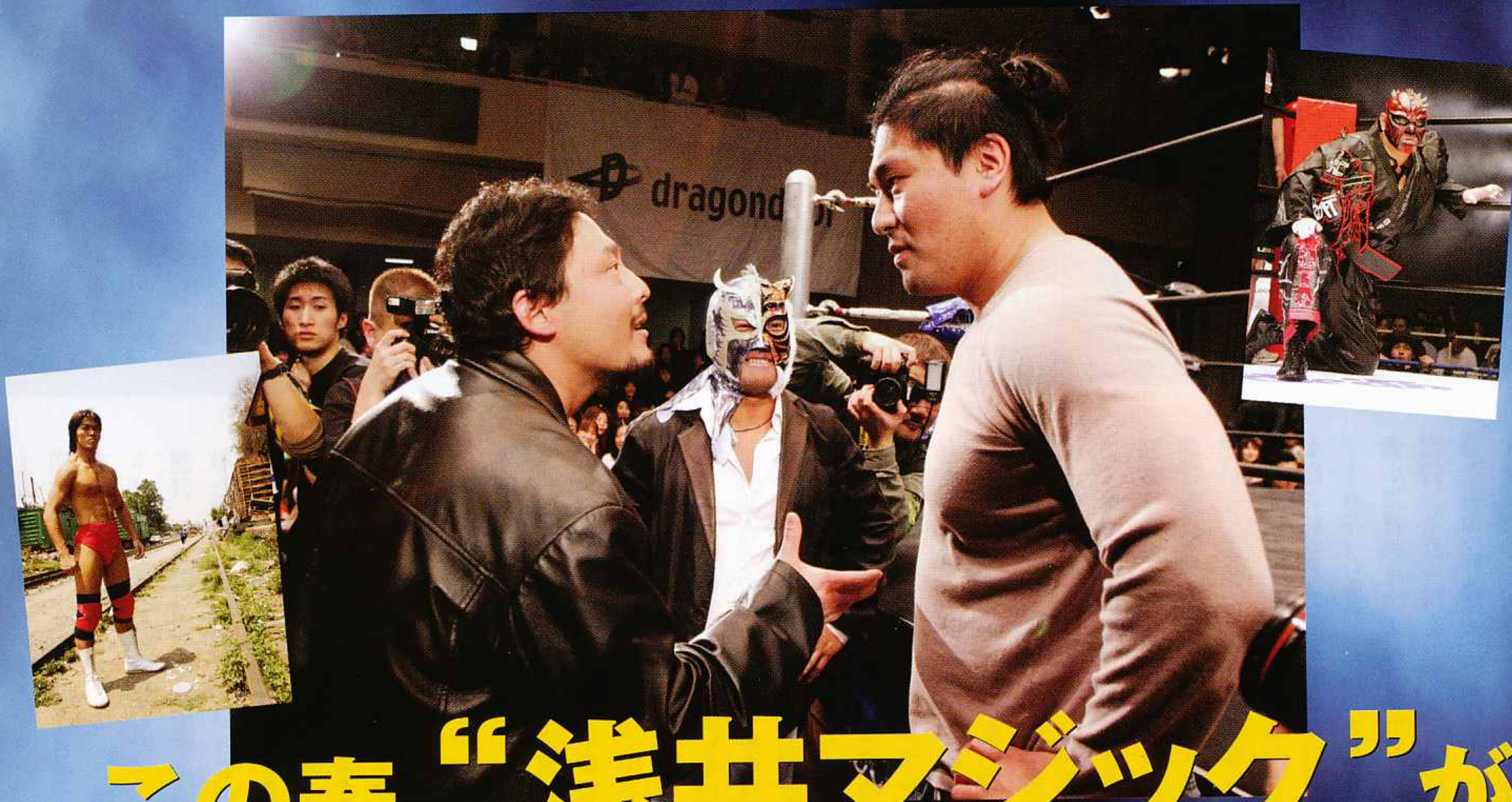
5.13 アレナ・メヒコで『Dragomania（ドラゴマニア）』開催!

グレート・ムタ出場決定!!

そして タジリ、鈴木健想も集結!!

この春、"浅井マジック"が 爆発する!!

TIGER D

団体のカラーをハッキリと打ち出して それを信じて続けていけばいいんですよ

――浅井さん、昨日（2月7日）のdragondoor後楽園大会は、久々に〝浅井マジック〟を見たというか、サプライズ満載でおもしろかったですね。

浅井 そうですか。ま、大会自体は僕はタッチしてませんから、川畑（dragondoor代表）を中心に若い奴らがよくやったってことなんじゃないですか。

――でも、興行の最後に5・13アレナ・メヒコで『Dragomania』開催。グレート・ムタ参戦決定を発表。さらに鈴木健想、タジリ登場っていうのは、最近のプロレス界じゃ珍しいポジティブな話題ですよ（笑）。今年に入って日本のプロレス界は暗い話題ばかりでしたからね。新日本プロレスの契約更改とか。

浅井 はいはい。

――あれは日本の外から見ていてどう思いましたか？

浅井 僕は新日本プロレスという会社に所属したことがないので、外から見てるだけなんで、あんまり憶測だけでモノを言うのはまずいと思うんですけど。ただ、新日本プロレスの歴史って、こういうことの繰り返しじゃないですか。

――そうですよねぇ（笑）。

浅井 離脱が出て、それでまた戻ってきて。お客さんがたくさん入っているときもあれば、入ってないときもある。旗揚げ直後から潰れそうだったって話も聞きますし、いつもタイトロープじゃないですか。だから、もう膿を出し切って、改革すれば盛り返すと思いますけどね。大きな団体ってそういうもんですよ。

――それは海外もみんなそうなんですか？

浅井 そうですよ。いまメキシコのCMLって凄いお客さん入ってますけど、ほんのちょっと前は潰れそうで、実際、クローズする話もありましたからね。でも、いま日本のプロレス団体っていうのは、一般のお客さんを引き込むのがかなり難しいことはたしかですよね。テレビで普通の人が起きてる時間にやってないわけですから。

――しかも何週間遅れとかの放送ですからね（笑）。

浅井 だから、いかに潜在しているプロレスファンを自分の会場に呼ぶかっていうのが課題だと思うんですよ。そのために何をしなきゃならないかというと、自分たちの団体のカラーをハッキリさせて、プロレスをやればいいんですよ。

――プロレスをやればいい。

浅井 そう。簡単な話ですよ。プロレスをやればいいんです。NOAHさんがいい例じゃないですか。馬場さんの時代から続いている、プロレスの王道を本当に継承されて、プロレスをやっているじゃないですか。ほかの団体のダメな部分っていうのは、「あれもある、これもある、これもある、これもある」ってなってるというか。お客さんの的を絞れてないんですよね。

――たしかに団体の規模に関わらず、好調と言われているのはカラーがしっかりしてるところですよね。

浅井 だから、自分の団体のカラーを出して、それを信じて続けていくってことが一番大事なんですよ。ハッスルなんて、最初は凄く批判されてたじゃないですか。でも、自分たちのカラーを出して、それを信じて続けていって支持を広げていきましたよね。俺たちだって、ルチャ・リブレと日本、そしてアメリカンスタイルとのミックスさせた闘龍門スタイルっていうのがあるじゃないですか。それを信じて続けてきた結果ですから。

――そうですよね。

浅井 そこにたとえば格闘技的なものを無理に入れたりすると、お客さんはやっぱり迷いますよね。イタリア料理を食べに行って、ラーメンが出てきたら、たとえラーメンがおいしくても嫌じゃないですか。

――ラーメン食いたかったらラーメン屋に食いに行きますよね（笑）。

浅井 それと同じですよ。自信を持って自分たちの〝料理〟を出したらいいじゃないですか。だから、たとえば闘龍門はたまに金網をやるにしても、なんにしてもすべて闘龍門式でウチのスタイルでやりましたから。オリジナリティが大事なんですよね。

――いまのdragondoorっていうのは、浅井さんはどのぐらい関わっているんですか？

浅井 dragondoorに関しては、川畑がやってて、僕は後ろから見ている立場というのが一番わかりやすいんじゃないですかね。ま、俺も自分の考えはありますけど、これを始めたっていうのは彼らの意思なんですよ。俺のところに来て「自分たちでやってみたい」と。ここにきて本人たちも自信付けてきてるし、奴らもやっぱり男だから、いつまでも使われてばっかりじゃおもしろくないわけですよ。

――そうでしょうね。

浅井 闘龍門スタイルというか、ウルティモ・ドラゴンのプロデュース方法を継承したいんだけど、そっくりそのままというのではなく、自分らの味付けをしたい。それがこの間の後楽園（T2Pワンナイトスタンド）だし、これからまた彼らは彼らで動きはあると思うし。俺自身は日本の興行会社にはあまりこだわりはないですから。

――大事なのはあくまでメキシコですか。

浅井 そうです。俺の一番の仕事っていうのは、メキシコの道場で、日本から来た子たちをレスラーにして、プロレス界に送り出してあげるということですから。そのためにメキシコの自主興行を充実させなきゃいけないし。日本での興行っていうのは、やっぱり生徒たちはみんな日本人なんで、日本での発表の場がほしいじゃないですか。あと、日本からの生徒さんを受け入れるので、どうしても日本の連絡先って必要ですよね？ 自分の中ではそういう位置づけなんですよ。

2・7dragondoorのラストでは、ウルティモ、タジリ、健想という“元メジャーリーガー”の3ショットが実現。このサプライズが浅井マジックだ。

2.7 dragondoor
T2P ONE NIGHT STAND

この日の主役はもちろん、元T2Pのエースであり、ドラゲー退団後、日本初試合となるミラノ。アメリカ修行の成果が見せられなかったと本人は不満顔だったが、次回、5・13『Dragomania』に期待！

一夜限りのT2P復活がコンセプトだった今大会、大鷲と対戦した川田利明ももちろん六角形のリングに登場。闘いとエンターテインメント的要素がほどよくブレンドされたdragondoorのリングは川田に合っているかも。

休憩前にはライブドアの小島克典スポーツマネジャーがリングに登場。ホリエモン騒動後もdragondoorとの協力体制継続をアピールすると、大柳鈫也が旗揚げ戦に続き改めてライブドア入社を懇願すると「このご時世にウチに就職ですか？」とひと言。

メイン終了後、ミラノが闘龍門メキシコ道場の同期であり、すでにリングからは去っているフィリップ・J・福政と大柳鈫也を呼び寄せ記念撮影。T2P卒業式のようだった。

メイン後、ウルティモ校長が「4・16後楽園で闘龍門メキシコ道場生の逆上陸」を発表すると、近藤修司らはその大会には出ないと発言。逆に校長に代わり後輩たちのプロデュースに回ることを示唆した。

——あくまでメキシコの生徒のために存在してほしいと。

浅井　だから日本に関しては、俺が直接見なくてもいいだろう、と。だから今回、近藤があういう感じで言ってくれたんでね（後楽園の試合後、「（メキシコには）僕らの後輩がたくさんいます。彼らはいまの現状に満足していないように見えます。俺らには俺らの考えがある」と、4月に日本逆上陸を果たすメキシコ道場生たちのプロデュースを自分たちで受け持つことを示唆した）。俺の中では、ホッとしている部分もあるんですよ。これで完全にこいつらに任せてもいいのかなって。俺が思うのは、「そんなに簡単じゃないよ。でもやってみろ」っていう感じですね。

——じゃあ、この第4の闘龍門は、日本では浅井プロデュースじゃなくなる可能性もあるわけですか。

浅井　ありますよ。だからあいつらがどういうコンセプトでやるのか、あいつらが「自分らでやりたい」「頑張ります」ということなんで、ちょっと僕は遠くから見てようかなと思います。そして俺自身は、よりメキシコの自主興行に力を入れたいなと。

——でも、どうなんですか、以前は闘龍門メキシコ道場に入ったら、ゆくゆくは闘龍門JAPANで日本デビューできるもんだという空気があったわけじゃないですか。それがなくなって、なにか変わってきてますか？

浅井　誰かに言われたんですけど、「闘龍門はようやく学校らしくなったね」って。「何それ」って聞いたら、「卒業生がいろんなところで活躍してるね」って。

——ああ、そうですよね。卒業後の〝就職先〟が広がったという面もたしかにありますよね。

浅井　鈴木健想にも「どこの会場に行っても闘龍門出身者はいますよね」っていわれましたから（笑）。言われてみれば、たしかにそうかなと。

——新日本、全日本、NOAH、ハッスル、みちのく、ZERO1-MAX、DDT、そしてもちろんドラゴンゲートと。

浅井　それはいい意味でも、悪い意味でも、俺が日本のプロレス界に残した功績ですね。まぁ、悪い意味のほうが大きいと思いますけど（笑）。

——これまでならレスラーになれなかった人でも、なれるようにしちゃったわけですからね（笑）。でも、どこに行っても闘龍門出身の選手がいるってことは、どこに行っても通用する基礎を身につけされたということですもんね。

浅井　まあ、そうですね。だから、俺の方針は間違ってなかったんだなって。ようやくこのあたりにきて、答えが出たのかなって思いますけどね。

——プロレスラーとしての技術だけじゃなくて、キャラクターも浅井プロデュースですもんね。

浅井　あとやっぱりプロレスに対する考え方ですよ。技術的な部分よりも、頭の中でもプロレスというものをしっかり理解させたのが大きかったと思うんですよね。

——なるほど。

浅井　技術ばかり先行して、プロレスをまったく理解しないでやっているような人たちって、たくさんいるじゃないですか。そういう人たちって一番困りますよね、正直言って。

——プロレスラーなのにプロレスのなんたるかがわかってないという（笑）。

浅井　プロレスには全部理屈があるんですよ。どうしてこうならなきゃいけないのか、

どうしてこうしなきゃいけないのか。闘龍門はそっちの部分もケアしてるんでね、だからどこに行っても通用するんだと思いますよ。

――要は、プロレスのフォルムという、プロレスのホントの基礎ですよね。

浅井　そう。それができない人とか、わからない人っていうのが凄く多い。俺からしたら、それでよくプロレスやってんなって不思議でしょうがない。だから健想なんかと話すと、健想なんかも、昔はそういう部分ってあったと思うんですよ。

――アメリカに行った当初は大変だったみたいですからね。

浅井　だから、WWEに入ってようやく彼の中でプロレスの謎が解けたと思うんですよ。

――ダハハハハ！　あのキャリアでようやく（笑）。

浅井　それでいまハジけてるんですよね。

――それこそプロレスって、長年の歴史で作り上げられた目に見えない〝虎の巻〟があるんでしょうね。

浅井　あるんですよ。僕はその〝虎の巻〟の内容を生徒たちに事細かに教えてきたわけです。でも、新日本プロレスの場合、自分で〝虎の巻〟の紐を解いて読まなきゃならないわけですよ（笑）。

――ダハハハハ！　いわゆる「盗め」ってヤツですよね（笑）。

浅井　しかも、〝虎の巻〟がどこにあるのかさえも教えてくれないというね（笑）。でも、僕は世界中を回って、自分で見つけてきた〝虎の巻〟を生徒に見せて教えてきたんですよ。

――それは重要ですよね。

浅井　重要ですよ。だから、そのへんをどう理解させていくか。ただ、リングに上がって勝って、自己満足しても仕方がないことですから。それを闘龍門ではみっちりと教えてきたんですよね。勝つなら、ちゃんと勝ちなさい。負けるなら、ホントに思いっきり負けなさい。簡単な話です。そこがプロだと思うんですよ。

――そうしないと、勝つ意味も負ける意味もないと。

浅井　それは格闘技も一緒だと思うんですよ。地味な試合でフルラウンド判定で勝つんだったら、2ラウンドぐらいで、壮絶にKO負けしたほうが、インパクトあるわけじゃないですか。そうしたら負けたとしても、また次の試合があるわけでしょ？　それで成功したのが高山（善廣）君だと思うんですよ。だって彼って総合格闘技で一回も勝ってないでしょ？

――そうなんですよ。じつは未勝利なんですよね（笑）。

浅井　だけど、あれだけインパクトを残して、たぶんギャラも相当稼いだと思う。彼こそ〝リアルプロレスラー〟だと思うんですよ。

――なるほど。

浅井　プロレスラーって負けても落ちないんですよ。格闘家は負けたら落ちますよね。それは格闘家は負け方がわからないからだと思うんです。とにかく負けない試合をするのが格闘家ですよね。でも、プロレスラーは勝とうが負けようが関係ないんだから。いかに自分を表現するかですよ。勝つときもそうだし、負けるときもそう。それをもっとも表現したのが高山善廣だったと思うんですよね。

――高山選手もそうですけど、格闘家でも人気がある選手って、じつはそれを知ってるんですよね。

浅井　ああ、そうでしょうね。ヴァンダレイ・シウバなんかまさしくプロレスラーじゃないですか。彼がそれを勉強したのかどうかはわかりませんけど。勝つときは徹底的に勝つ、でもヤラれるときは思いっきりヤラれるみたいなね。そういう知恵というか、真理のようなものが〝虎の巻〟としてプロレスには詰まってるんですよ。

――それって素晴らしい〝無形文化財〟ですよね（笑）。

浅井　ホントそうですよ。

――そして、5・13アレナ・メヒコで開催される『Dragomania』っていうのは、そういうプロレスの〝虎の巻〟を熟知した、マスターたちが集まるようなイベントになるんですか？

浅井　そうですね。武藤さん（グレート・ムタ）を始め、メキシコではちょっと集められないようなメンバーを集めますから。た

素晴らしい盛り上がりを見せた、昨年の5・14闘龍門8周年記念興行inアレナ・メヒコ。今年は『Dragomania』と題してさらにパワーアップさせ、5・13アレナ・メヒコで開催が決定している。

ここがルチャリブレの殿堂アレナ・メヒコの外観。収容人数1万5千人のこの会場はCMLLの常設会場であり、ここを毎週満員にしているのだから、その人気と団体としての力は凄さがわかる。

目に見えないプロレスの〝虎の巻〟を僕は闘龍門の生徒たちに教えてきたんです

プロレス界低迷打開のヒントというのはメキシコにたくさん埋まってるんですよ

だ、それがメキシコのお客さんにそのままストレートに伝わるかどうかはわからないですよ。メキシコのお客さんは、そこまでマニアックじゃないから。でもいま僕が構想しているメンバーを集めれば、それぞれがマスターなんで、もの凄い空間ができあがると思うんですよ。

――メキシコでやりながらも、日本のファンへのアピール力というものもありますよね。

浅井 そう。あえてメキシコでやるっていうのがいいわけですよ。堀江さん（聞き手）も去年メキシコまで来てくれて、アレナ・メヒコのお客さんの熱狂ぶりを憶えてます？

――あれはもの凄かったですね！

浅井 あの雰囲気で熱狂的な声援を受けて、武藤さんがどういうファイトをするか。

――楽しみですよね、それ。

浅井 もしかしたらヒザの悪い武藤さんが、お客さんの声援が肥やしになって普段の10倍ぐらいの試合をするかもしれないじゃないですか。それが、僕は凄い楽しみなんですよ。

――無茶苦茶、イキイキするグレート・ムタが見られる可能性ありますよね。

浅井 逆に、ちょっとこれは『Kamipro』で宣伝してもらいたいんですけど、日本のファンもぜひあの空間に参加してほしいんですよ。日本であるあいう空間でプロレスを見ることって不可能じゃないですか。だから、ぜひウチのメキシコ興行に来て、あの空間で同じ楽しさと喜びを分かち合ってほしい。もの凄く貴重な体験ができると思いますよ。

4・16後楽園ホールで、いよいよ待望の日本逆上陸をはたす闘龍門メキシコ道場勢。"第4の闘龍門"である彼らははたしてどんなインパクトを見せるか、エース堀口ひろみ（左下）の闘いぶりに注目！

――僕も最近は格闘技の取材ばかりでプロレスはあまり見なくなってるんですけど、去年のアレナ・メヒコ大会を見たら一発でプロレスファンに戻りましたね（笑）。

浅井 そうでしょ？（笑）。

――それで去年は初代タイガーマスクを呼んで、今年は武藤さんを呼ぶという発想がいいですね。

浅井 やっぱり武藤さんは、インターナショナル・スターですからね。でも、よく考えたら、武藤さんってアメリカでしかやってないんですよ。別にヨーロッパを転戦したこともないし、メキシコもない。僕としては、あの人の素晴らしさをもっと世界中の人に知ってほしいわけですよ。ほかにも素晴らしい選手はいますけど、やっぱり武藤さんがアメリカで一番成功した日本人じゃないですか。

――いまやレジェンドですよね。

浅井 それをやっぱりメキシコのファンに見てもらいたいんですよ。それが今回の大会の僕の一番の狙いですね。それで武藤さんにも刺激受けてもらったら、僕もうれしいですしね。武藤さんも日本にいると、全日本プロレスの社長として大変じゃないですか。そこでメキシコに来て、外の空気吸ってもらって、プロレスの話をちょっとしたいんですよ。僕自身、武藤さんからいろいろ学びたいこともたくさんあるし、武藤さんにもメキシコマットを経験してもらってリフレッシュしてもらいたいんですよ。

――いやぁ、これは武藤敬司の魅力が久々に爆発しそうな気がしますね。

浅井 ま、楽しみにして下さい。

――それ以外にも『Dragomania』には健想選手とか出るんですか？

浅井 健想とタジリに関しては、ほかの団体さんとの兼ね合いもあるので、これからですね。でも、健想に関しては、メキシコのほうに定期的に出たいと言ってるんで、『Dragomania』にも出てほしいですね。

――健想さんも、アレナ・メヒコで試合して感動したみたいですからね。

浅井 だから、いまの日本マットって低迷してるじゃないですか？ その打開策、ヒントがメキシコにはたくさん埋まってると思いますよ。

――たしかに、メキシコでルチャを見ると、浅井さんの言う「プロレスをやればいい」っていう意味がなんとなくわかりますよ。

浅井 だから迷うことないんですよね。「なぜ、迷ってる？ プロレスやればいいじゃないか！」っていう（笑）。自分らのプロレスに自信を持ってやればいいじゃないかって。でも、最初は反応がないかもしれない。3ヶ月やってもないかもしれない、半年経ってもないかもしれない。だけど1年続いたらファンがついてきてますよ。すぐに結果を求めるからダメなんです。

――去年の全日本プロレスやハッスルなんかも、信じてやり続けたからこそブレイクしたんですもんね。

浅井 そうです。しつこいぐらいにやらないとダメなんです。自信持ってやることです。信念持ってね。

――わかりました。では、4月の後楽園と5月のアレナ・メヒコ、期待してます！

【06年2月9日／羽田空港にて収録】

たいがー・どらごん
1966年12月12日、愛知県名古屋市出身。本名・浅井嘉浩。新日本道場に通いで入門後、単身メキシコに渡り、日本では90年にユニバーサルのリングでデビュー。その後、U・ドラゴンに変身。メキシコにプロレス学校「闘龍門」を設立。一昨年、ウルティモ・ドラゴンのキャラクター日本では封印。タイガー・ドラゴンとして活躍していたが、4月16日にウルティモ・ドラゴン復活が決定！

TIGER DORAG

言うちゃ悪いけど今月のお題

〝殺し〟とは何か？

プロレス・マスコミの“生きる伝説”

I編集長の喫茶店トークラウンド

I編集長が語る“I用語”の中でもとくに使用頻度が高く、重要な役割をはたしている言葉である“殺し”。「○○には“殺し”がない」などといった感じで、これまでのトークの中でもたびたび使われてきたが、はたして“殺し”とはいったい何なのか？　今月はそこを掘り下げます！

聞き手／堀江ガンツ

designed by bun-chan (Two Three)

――さて、井上さん。今日はですね、井上さんが常々言っておられる、〝殺し〟とはいったい何なのか。その定義をズバリうかがいたいと思います！

井上 まあ〝殺し〟の定義というとだね、ハッキリ言うたら、殺気と恐怖を併わせ持った試合、一言で言うとそうなる。

――ほう。殺気と恐怖ですか。

井上 だから最近のプロレスがぜ〜んぜん面白くないのは、なんべんも言うてるけど、その二つがちっともないからですよ。

――まぁ、ありませんよね。

井上 ところが力道山時代はそれがあったんだよな。それは力道山自身がハッキリ言うたらヤクザの親分のような怖い存在だったからね。

――ヤクザの親分のようでしたか（笑）。

井上 そりゃあ怖いぜ。ぶん殴られたりはしなかったけれど、怒鳴りつけられたりしたことはなんべんもあった。しかも俺なんかは当時はペーペーだから、力道山に近寄るのも怖かった。そういった怖い力道山というのは、試合の上では〝殺し〟はなかったけれども、一般の私生活が〝殺し〟で満ちていたわけですよ。

――私生活が〝殺し〟で満ちている！　そっちのほうがよっぽど怖いですね（笑）。

井上 だから猪木なんていうのは何回ぶん殴られたかわからない。芦屋の旅館の玄関先で、靴べらでバチーン！　と殴られたこともあったしね。それに猪木はこう言うたらなんだけど、若い頃は非常にどんくさかったのよ。だから力道山は猪木が気に入らなかった。まぁ、とにかくリングを降りたときの力道山というのは非常に怖かった。これはもう〝殺し〟の塊みたいなもんだから。

――〝殺し〟の塊（笑）。

井上 だから〝殺し〟の雰囲気を持ったレスラーは誰かとなると、まず力道山だし、そして前田、長州といったところだろうな。

――力道山、前田、長州が3大〝殺し〟レスラーですか。

井上 猪木や大木金太郎なんかも、どっちかと言うと〝殺し〟の雰囲気を持っていた人なんですよ。猪木や大木の実態を知らない人間からしたら、猪木はおとなしいし、大木はもの凄く優しくてジェントルマンですから、「なんであんな人が〝殺し〟なんだ」と言われるかもしれんけど、我々は〝真の姿〟を知ってるからね。

――大木金太郎の真の姿を知ってますか。

井上 そりゃ知ってますよ。でも、決して猪木や大木がヤクザだと言いたいわけじゃない。

――そりゃそうですね（笑）。

井上 いざというときは〝殺し〟を使う男だということですよ。

――穏和な人だけれども、懐には〝殺し〟という〝ドス〟を持っていると。

井上 そう！　そういった裏の技術とか気迫というものを持っていたということであって、いまのレスラーやK－1、『PRIDE』のファイターとはそこが違うと。

――あ、K－1や『PRIDE』ファイターは〝殺し〟を持ってませんか。

井上 ないねぇ。強いて挙げればヒョードルやショーグンあたりが、チラッと〝殺し〟の片鱗は見せるけれども、まず〝殺し〟の雰囲気を持った男というのは、長州、前田あたりで打ち止めでしょうな。

――じゃあ、もう20年ぐらい新たな〝殺し〟を感じさせる男は現われてませんか。

井上 だから言うたら悪いけれども、力道山、前田、長州と並べて何が共通点なんだよ。

――う〜ん……ちょっと言いづらいですけど、ルーツがお隣の半島ということですかね。

井上 そう。ハッキリ言うたら朝鮮人ですよ。

――ホントにハッキリ言いますね（笑）。

井上 この人たちは、あの年代を考えると、子どもの頃から朝鮮人ということでいじめられ

“殺し”を持っているのは力道山、前田、長州。この3人の共通点を言ってみろ！

とったんだよな。前田なんていうのは三代続いた日系韓国人でしょう。で、何年か前に帰化したので、いまは紛れもない日本人なんだけれども、子どものころはやいのやいの言われたわけですよ。それは力道山にしたって、長州、大木にしたって、みな同じ経験をしとるはずなんですよ。

――きっとそうなんでしょね。

井上 だから極端な話をすれば、国鉄スワローズの金田正一とか、巨人の張本さんとかも向こうの人だからね。この二人はとっくに引退したから名前を出すけれども、いま活躍してるプロ野球の選手の中にもいくらでもいますよ。しかも、そういった人たちは成績がいいんだよな。それはなぜかって言うと、「日本人コノヤローッ！」っていう反骨心があるんだよ。それがバネになって名選手を生むし、タレントなんかでもいま君の頭に浮かんだだけでも、たくさんおるだろう。

――芸能界だと〝大御所〟と呼ばれる人たちは、あちらの人たちばかりにすら思えますよね。

井上 それはそういったことをバネにしてのし上がってきたわけですよ。だから前田の大阪時代というのは、君もあまり知らんだろうけど、田中という中華料理屋をやってる空手の先生がおってやね。

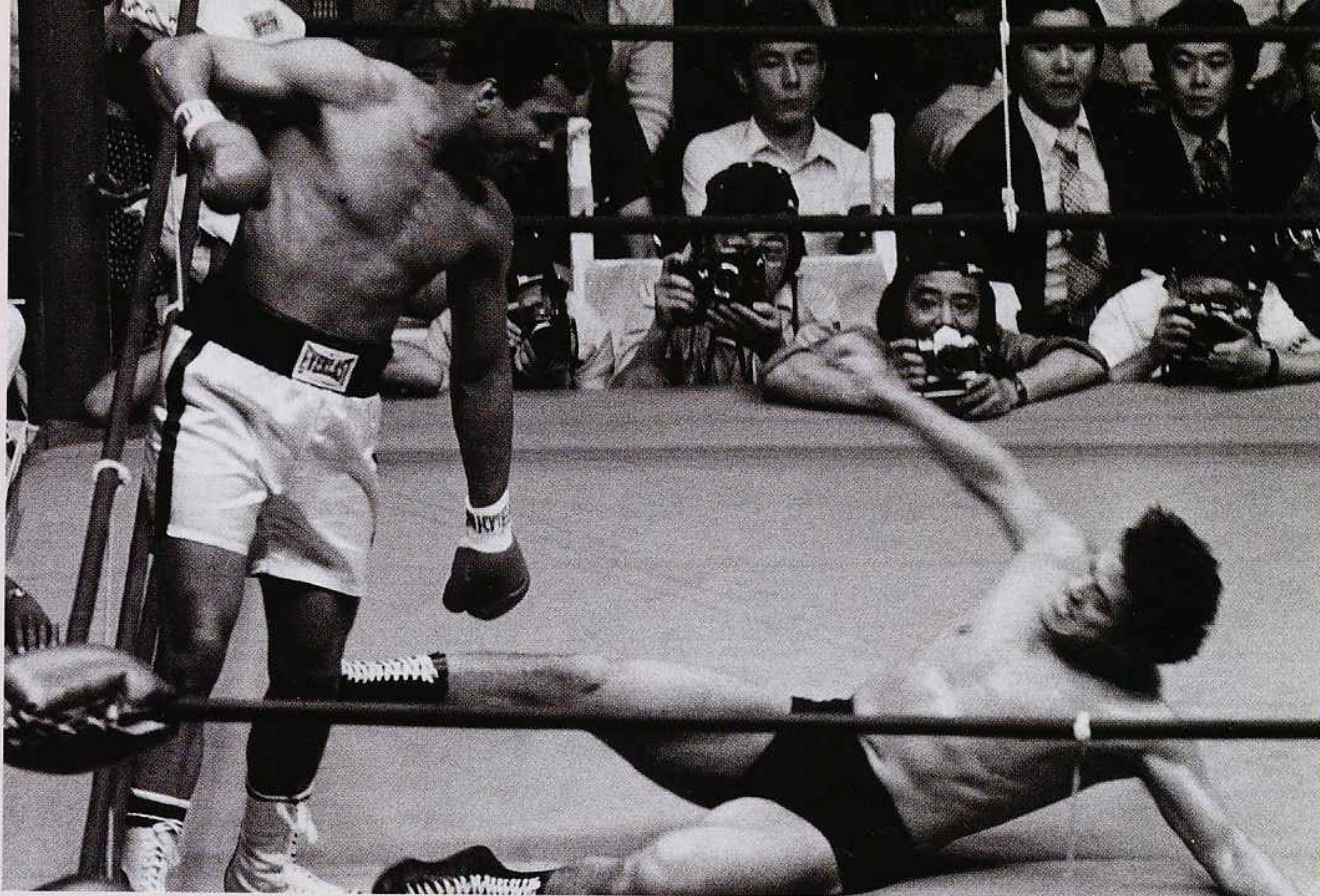
――田中正悟さんですね。

井上 この二人で道頓堀あたりに行って、ケンカばかりしとったんだよな。だから前田という男は道場で鍛えられた男じゃないんですよ。あれは街のケンカで強くなった男ですよ。それがプロレスの世界に飛び込んだと。だから、これほど恐ろしい男はいないんですよ。

――「生のケンカ、見せたろか」の人ですからね（笑）。

井上 だから前田の試合というのは非常に不細工でね、蹴るにしたって受けるにしたって、非常に演技はヘタだ。

――演技はヘタ（笑）。

井上 でも、実際に相手を殺す技術というのは持ってますよ。そりゃそうですよ、〝殺し〟のテクニックを持ってなかったら、ケンカには勝てないんだから。だからそういった修羅場を若い頃からずっと積んどった男なんだから、実際にケンカをやらせたら、前田とか長州は非常に強い。あとは藤原とか木戸あたりだな。この二人は純然たる日本人だけれども、やっぱり〝殺し〟の技術を持っているわけですよ。だからあの二人の試合というのは、たとえプロレ

まさにかつての力道山のように、リングを降りてもヤクザの親分的な怖さを漂わせ、私生活が〝殺し〟に満ちている感のある最近の前田日明。たしかにいまのプロレスラーにこんなタイプはいない。

互いに“殺し”を持つも同士である猪木と前田。“カリスマ”と称されることも多い二人だが、リング上でのカリスマ性と“殺し”の有無というのは密接な関係があるのかもしれない。

スであろうとも油断がならない。ちょっと外人選手がおかしなことやってきたならば、知らん顔してお返しするからね。

——客にわからない部分で裏技を使うわけですか。

井上 だから、じーっと見とったら、そういった裏技をときたま使っとるんだよな。だから藤原、木戸の試合というのは、俺なんかもいつもじーっと見とったし、非常に面白い。裏技を使える男だからね。この二人だけじゃなくて、星野勘太郎や山本小鉄にしてもそういうところはある。新日本プロレスの選手というのは、猪木を始めとして力道山の系統を踏んでますからね。

——たしかにケンカ屋が多いですよね。

井上 ところが全日系というのは、言うたら悪いけど、そういった〝殺し〟の雰囲気はない。馬場さんがああだし、鶴田があああだしね。

——リングを降りたら〝殺し〟どころか、油絵描いたり、フォークギター弾いたりしてる人たちですからね（笑）。

井上 ところが猪木は力道山の〝殺し〟というものを受け継いでいるし、ましてや若い頃、ブラジルのコーヒー農園で奴隷の死体なんかを見てきた男なんだから。〝死〟というものに直面してきた男ですよ。だから猪木vsアリ戦のときなんかでも、ヒドい目に遭ってるわけだろう。

——どんな目に遭ってるんですか？

井上 猪木は言わんけどね、新間さんなんかに言わせると、ピストルを突きつけられたというもんな。

——ピ、ピストルですか！

井上 そりゃそうですよ！ だから猪木はアリに対しておかしなことをやってたら命はなかった。アリの取り巻き連中というのはハッキリ言うたらマフィアやら殺し屋やらがずらーっと固めてたんだから。

——アリ軍団とはそんな物騒な人たちなんですか。

井上 そりゃあ凄かった。一癖も二癖もある人間ばかりなんだか。新間氏なんかも震え上がったというもんな。だからそういった体験を猪木も積んでるわけですよ。だから最初に言った大木がなぜ〝殺し〟を持ってるかというと、韓国育ちだからケンカをやらせるとものの凄く強い！

——大木金太郎は韓国のケンカ屋でしたか。

井上 ああ！ ホンマもんのケンカをさせたら、まず大木に勝てるヤツはいない。だから当時、力道山は3カ月に一度か半年に一度ぐらい、レスラーに道場で本物のケンカをやらせたんだよ。

——道場内で練習じゃなくて、ケンカをやらせるんですか？

井上 も～うケンカもケンカ。マスコミなんかはシャットアウトでやるわけですよ。これを〝生ジュース〟と言うとったんだけれどもね。

——生ジュース！ ガチンコとかセメントとかそういったたぐいの言葉なんでしょうね。

井上 で、猪木が言うとったけれども「生ジュースで勝てなかったのは大木さんだけだ」と。

——ほ～う。

井上 ハッキリ言うたら、馬場とか吉村とか遠藤とかそういった連中は相手じゃなかったと。猪木もケンカ強いからね。その猪木が大木にはコテンパンにやられたらしい。それほど大木というのはケンカが強い。だから〝殺し〟というのは何かと言うと、そういった〝殺し〟のテクニック。ヘタをしたら相手を殺してしまうというテクニックを持ったレスラーが試合で発揮できるものと、そう定義して言えるのかもしれない。

——ホントに相手を殺してしまうテクニックですか……。

井上 それがいまのレスラーにはない（キッパリ）。

——まぁ、ないでしょうね（笑）。

俺が猪木をよしとするのは猪木にはホンマもんの〝殺し〟があったから。馬場にはないけどね

井上 言うたら悪いけど、いまの新日にしたって全日にしたってノアにしたって、〝殺し〟の雰囲気を漂わせるレスラーなんか一人もいない。だから前田あたりの試合を見てごらんよ。大阪での佐山戦、三重でのアンドレ・ザ・ジャイアント戦、長州への顔面襲撃事件、猪木とのもの凄い対立。ああいったものからは〝殺し〟の匂いがプンプンするじゃないか。

——そうですね。

井上 〝殺し〟というのはべつに殺人じゃありませんからね。そういった恐怖や殺気というものがリングに現われたものを私は〝殺し〟と言ってるわけですよ。

——なるほど。

井上 だからべつにケンカを〝殺し〟と言っとるわけじゃない。そういったものを持っているファイターなりレスラーなりが、リングの上で漂わせる殺気と恐怖。そして試合の中でチラリと見せる本物のケンカ。そういったものが〝殺し〟であって、それを持っているのは力道山、猪木、大木、長州、前田ですよ。逆に言うと、それ以外の人は持ってないということなんだよな。

——とくに最近のレスラーからは感じられませんよね。

井上 でも、それは仕方のない部分でもあるんだよ。ブラジルで白目を剥いた死体を見てきた猪木と、そんなものを全然見ていない連中とでは違いますからね。だからそれは同一に論じるころはできない。ただ、そういった体験を積んでる猪木には〝殺し〟があるということですよ。だから俺が猪木をよしとするのは、〝殺し〟が猪木にはあるからなんですよ。馬場とかにはないけどね。

——ありませんか（笑）。

井上 しかも猪木はそれが試合にもチラッと出てくるわけですよ。ペールワンとの試合にしたってそうだしね。あの試合は〝殺し〟の塊ではないけれども、最後の腕折りは紛れもな

リング上の闘いだけでなく、リングを降りてからもドス黒い闇の攻防があったと伝えられる猪木vsアリの世紀の一戦。猪木のこうした修羅場をくぐりぬけた体験が、リング上で“殺し”を漂わせた要因にもなっているという。

く〝殺し〟ですよ。ミスター高橋あたりも「猪木のホンマもんの試合はペールワン戦とアリ戦の2試合だ」とか言うとったけどやね、二つでも三つでもホンマもんの〝殺し〟があったということは事実。だから俺は猪木を買うんだよ。いつ〝殺し〟が出てくるかわからないんだから。シュツッドガルトでのローランド・ボック戦についても藤原に言わせたら「あれはホンマもんの〝殺し〟だ」と「猪木さんだからこそ、ボックの低空のスープレックスを耐えられた。他のレスラーだったら絶対にやられてる」って言うからね。それほど猪木は受けが巧かった。俺もあの試合を見て俺も思った。「さすが猪木。受けが巧いのは知っとったけど、猪木は〝殺し〟の受けも巧い」と。

――〝殺し〟の受けが巧いですか。

井上 それには感心しましたよ。だから、そういったものがリングに現われるのを俺は〝殺し〟と言うとるわけで、そういったものがリングに現われないK−1や『PRIDE』ではダメだと言うとるんだよ。だから『PRIDE』にしたってK−1にしたって、俺に言わせればかったるい！

――かったるいですか！

井上 なぜかったるいかと言えば、〝殺し〟がないからですよ。ハリトーノフに〝殺し〟があるか？ ないじゃないか。ヒョードルに〝殺し〟があるか？ ちょっとしかないじゃないか。K−1なんて誰も持ってない。だから『PRIDE』もK−1もかったるいんだよ！ チェ・ホンマンなんて、なんなんだよ、あれ！ まっったく〝殺し〟の匂いがしない。真剣勝負で〝殺し〟がなければダメなんだよ。だからこの間の2・4K−1 MAXなんかまったく〝殺し〟がない。レミギウス以外は、全部判定でしょうが。

――見事に判定だらけでしたね（笑）。

K−1復興のためにはチェ・ホンマンに“殺し”を身につけさせるしかないですよ！

井上 魔裟斗にしたって力のない試合だしね。俺はよっぽど途中で見るのやめようかと思ったわ。最近の真剣勝負であれほどつまらん大会はない！ まったく〝殺し〟がないんだから。あんなことをやっとったら、お客は見にきませんよ。〝殺し〟がないプロレスにはハッキリ言って見る価値はないけれども、真剣勝負である『PRIDE』、K−1にすらそれがないから俺はダメだと言うとるんだよ。『PRIDE』にしても「試合」はあるけれども「勝負」がない。「勝負」がないということは〝殺し〟がないということですよ！ だからハリトーノフなんていうのは、ホントは〝殺し〟を持ってる男なんだよ。あれはパラシュート部隊だからね。

――ロシア軍人ですもんね。

井上 ということはパラシュートで敵ののど真ん中に降りてごらんよ。敵が待ち構えていて自動小銃で撃ってくるんだから。それをくぐり抜けたとしても次は白兵戦ですよ。そういったことをハリトーノフが経験してるかどうかは知らんけれども、少なくとも訓練は受けているし、覚悟はできとるはずなんだよ。

――精神力は他の選手と違いそうですよね。

井上 だからハリトーノフは他の選手と違って、〝殺し〟というもの持ってるはずなんだよ。そのハリトーノフがリング上で殺気や恐怖というものを漂わせていないとダメじゃないか、というのが俺の意見。ところがハリトーノフは実戦では〝殺し〟を見せているかもしれないけれど、『PRIDE』の試合になると「これは試合だ」ということで、殺気やら狂気といったものを見せないんだよな。それじゃダメなんだよ。相手を殺さないにしても、〝殺し〟のムードを漂わせてくれんと。やはり他の選手はほんわかしていても、ハリトーノフだけはリングに上がった瞬間に震え上がるような殺気、恐怖というものを感じさせないと嘘じゃないかと。それを言ってるんだよ。

――ハリトーノフに期待してるからこその憎まれ口だと。

いまI編集長が“殺し”の使い手として、もっとも期待している二人であるハリトーノフとチェ・ホンマン。はたしてどちらが、「太股に頭突きをして、相手の腎臓を潰す」ような“殺し”を身につけることができるか？　注目だ！

井上 そう！ だから他の選手にはそういったことを言わない。シュートボクセの連中なんかは〝殺し〟を持ってるからね。ショーグンなんかは顔面を蹴り上げたりする瞬間に〝殺し〟をチラリと見せるじゃないか。だからショーグンは強いんだよ。技術とかそういったものではないんだよ。あとヒクソンなんかも〝殺し〟を持ってる。

――ヒクソンは持ってますか！

井上 ヒクソンの話を人づてに聞いたんだけれども、「太股に頭突きを食らわせた場合に相手の腎臓を潰せる、それだけの技術を私は持ってる」と言ったらしい。

――太股なのに腎臓って凄いですね。

井上 だからヒクソンという男は怖いんですよ。そういったものが〝殺し〟なんだよ！ だから安生が道場破りに失敗してボコボコにやられたというのもわかるんだよ。それはヒクソンに〝殺し〟があったからなんだよな。そうじゃなかったら安生ほどのケンカ屋がやられませんよ。あいつはケンカ屋だからね。

――道場では最強という噂がずっとありましたからね。

井上 あいつはケンカやらせたら強い。だから道場破りに行ったんだけど、どっこいそこにはヒクソンという殺し屋がおったんだよ。

――ヒクソン＝殺し屋ですか！

井上 だから〝殺し〟を持っている男というのは、力道山であり、猪木であり、大木であり、前田であり、ヒクソンなんだよな。そういった〝殺し〟がなんかの拍子でチラッと見える。そういったものがないと、プロレスでも『PRIDE』でも面白くありませんよ。

――いま『PRIDE』、K−1に一番必要なのは〝殺し〟ですか。

井上 だからK−1が本当に強い団体になるためには、チェ・ホンマンに〝殺し〟を身につけさせることですよ。

――チェ・ホンマンに〝殺し〟！（笑）。

井上 チェ・ホンマンというのは優しくて春風のような男ですよ。でも、あんなことじゃK−1はいつまでたっても低迷したままだ。チェ・ホンマンがホントの意味で殺気、恐怖といったものを身につけて、リングに上がっただけで相手が震え上がると。一発のパンチや蹴りで下手したら相手を殺してしまうと。そうなったときがK−1の天下ですよ！

――なるほど！ 今日は〝殺し〟について、よ～くわかりました。ありがとうございました！

【06年2月8日／電話取材にて収録】

アメプロ★ウワサルーン 特別編

問題提起

WWE SMACKDOWN! JAPAN TOUR

WWEの日本公演はこのままでいいのか？

撮影／平工幸雄、George Napoli

WWE日本ツアーに大きな転機が訪れた。観客動員は両日あわせて約1万5000人と振るわず内容的にも首をかしげる部分は少なくなかった。この大会をどう読むか、そして非常ベルが鳴り響くWWE日本ツアーは今後どうなってしまうのか？　日本在住メキシコ人がアメリカンプロレスを語る連載企画の拡大版です！

ホセ
口は悪いがプロレス魂を持つ熱い男。広い情報網を持ち、行動力もある。

ミゲル
プロレス業界内部と太いパイプがあるクールな男。最新情報をいちはやく握る。

パンチョ
他の二人の情報に「へぇ～」とか「はぁ～」とか言ってることが多い。

イラスト◎エロコエロオ

パンチョ　今回のツアーは二日間で1万5000人が観たことになるわけですが。

ミゲル　2002年3月1日以来、最低の観客動員数だった。

ホセ　今回は二日連続でやる必要もなかったでしょ。一日だけにしとけばよかったんだよ。二日ともかなりの客席を潰してたから。

パンチョ　アメリカでもハウスショーの動員が落ちてるという話ですけど、それがようやく日本にも上陸してきたという感じかもしれませんね。

ホセ　今回、新しい選手が多かったから日本のファンに対するお披露目にはなったんじゃないのか。その中でもスペル・クレイジーは最高だったな！　キッド・キャッシュもよかったんじゃないのか？

パンチョ　キッド・キャッシュは噂レベルだとあんまりいい選手じゃないのかなと思ったんだけど、ハードヒットで日本向きでした。まあ、選手からは嫌がられるかもしれないですね（笑）。

ミゲル　MNMも良かったよ。テレビのまんまのキャラだったし。

ホセ　ただ、二日間通して感じたのは、WWEに入って日の浅い選手は入場のときに華がなかったような気はしたね。そこが退屈に感じたなぁ。

ミゲル　何言ってんだよ、メリーナは華あったじゃねえか！

パンチョ　華だらけでしょう！

ホセ　まあね。でも、今回のツアーはパイロ（花火）が一発もなかったし、照明も花道もホントに質素だったから、選手を見るしかないわけだよ。そういう環境だと少しきついな。選手も入場のあと、シーンとしてる客席を暖めようとして5分ぐらい客いじりやってるし。

パンチョ　気が付いたらどの試合も15分ぐらいやってて、なんだかやたらと長く感じましたね。

ミゲル　やっぱり今回はブギーマンが来なかったのは痛かったね。

ホセ　そう！　日本に来る直前にJBLvsブギーマンをやったんだから、ランデ

WWEファンクラブのイベントにカートが登場！

WWEファンクラブに入るとイベント参加の特典に加え、年6回の会報（『RAW MAGAZINE』日本語版）が送られてくる。

WWEファンクラブは日本ツアー恒例のファンイベントを横浜アリーナ内で開催した。2月4日はマット・ハーディ&アニマル、翌5日はカート・アングル&ラシュリーが登場した。5日はなんと途中でフナキが飛び入り参加！　イベントを大いに盛り上げた。WWEファンクラブ会員だけが参加できるこのスペシャルなイベントに参加したいというかたは、まずWWEファンクラブに加入しよう！

【お問い合わせ】WWEファンクラブ
http://www.wwefanclub.ne.jp/

主要な登場人物の半分だけしか来なければ世界観は伝わらない

イ・オートンが欠場になった時点でブギーマンを呼べばよかったんだよ。

パンチョ 何なんですかね？　なんでブギーマンやクルーザー級のベルトを獲ったグレゴリー・ヘルムズが出なくて、（フィット・）フィンレーが出てるんですか？　あれは昔、新日本に来てたデイブ・フィンレーと同一人物ですよね？

ホセ そう。アメリカではフィット・フィンレーで通ってる。1月下旬にWWEデビューをしたばかりから、まだ日本ではその模様は放送されてない。これも盛り上がりに欠けた原因だろうな。

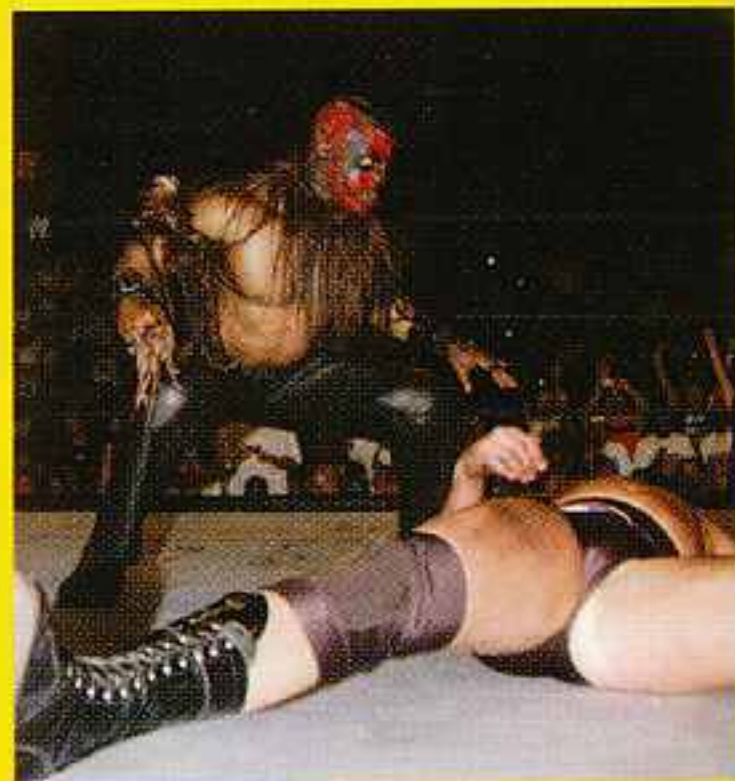
ミゲル いくらテレビでやってても、フィンレーじゃ盛り上がらないだろう（笑）。

ホセ ベノワvsフィンレーって10年前の〝新日ジュニア〟でやってそうなカードだもんな。日本のファンのニーズをはき違えちゃったのかもしれないね。

パンチョ そういえば、二日目のメイン後のボーナストラックもリッキー・スティムボートが締めちゃって……。あれも完全にはき違えてますよ！（怒）。

ミゲル 去年の7月の日本大会で、あれとまったく同じことやってたでしょう。

ホセ あのとき客席では「誰、あのおじさん？」って、みんな言ってたからね。

ミゲル あのへんがジョニー・エースのセンスなのかなぁ……。

ホセ 来日メンバーにロードウォリアー・アニマルが入ってるのはいいとしても、マット・ハーディーとのタッグじゃないだろう、という気がしたね。タッグをずっと組んでたハイデンライクはウォリアーズのペイントまでして気合いが入ってたのに、去年末でクビになっちゃったんだよ。耳の病気で治療のためにツアー外れたら音信不通になって、そこからは連絡を取っても「もう勘弁してくれ」ってなっちゃったみたいだよ。

ミゲル アニマルはマットよりラシュリーと組んだほうがはまったかもしれない。

パンチョ 個々は悪い選手じゃないのに、そういうミスマッチというかアンバランスは今後、解消してもらいたいですねぇ。それと、二日目は試合順もバランス悪かったように思います。セミ前のアンダーテイカーvsJBLが27分もやって、メインのアングルの試合が8分そこそこって、どういうことなんですかねぇ。

ホセ カートは来日記者会見でもずっと首を氷で冷やしてたから、よっぽど具合が悪かったんだろうね。日本の前にはタイで大会があったんだけど、アメリカから20時間かけてフライトして、着いてすぐ試合して、休む間もなく日本に移動してきたって。

ミゲル 選手のコンディションも影響して、いろんなバランスが崩れたのか？

ホセ それにしても調子良さそうなポール・ロンドンは2日ともロクに試合させてもらえてなかった。そういう部分は歯がゆいよな。もっと観たいのに。

ミゲル 昔はそのへんのバランスもちょうど良かったんだけどね。２００２年3月1日に久々の来日をしたときなんか、19時に始まって22時には試合をキッチリ終わらせてたからね。そのあとはボーナストラックを30分以上やってたけど（笑）。

ホセ 普段はドラマばっかり見せてるWWEが「プロレスの試合もしっかり出来るんだぞ」って見せるのはいいことだと思うけど、まあ今回はやり過ぎだったよな。ひとつの大会の中に同じような試合は二つも3つもいらないんだけど、今回はルチャかクラシカルなレスリングかっていう二者択一しかなかったように思うんだ。

パンチョ そうですねぇ。あと、引っかかったのは二日連続してエディ・ゲレロのトリビュートをやったことでしょう。

ミゲル 一日だけでやめとけば美しかったんだよ。レイ・ミステリオの試合もクリス・ベノワの試合も感動して泣きそうになったもん。ただ、2日連続になると同じ内容でも覚めて見えちゃうんだよ。

パンチョ 僕は「あ、ひょっとしたら全米でこれと同じことを毎日やってるのかな」って思ってしまいましたね。

ホセ そう。決して悪いことじゃない、むしろ日本のファンは初めてエディを追悼できたように思えたし。でも、同じ会場で二日連続の大会をやるんだから、もうちょっと考えてほしかったな。

パンチョ むしろ思い切ってエディ追悼大会にしても良かったかもしれないですね。

ミゲル あと冬と夏の恒例で、ただなんとなく日本に来てるんだったら、今後はWWEのプラスにならないような気がするよ。

ホセ 惰性で来てるだけだもんなぁ。

パンチョ 僕は今回のツアーというものがNて、WWEの日本ツアー2連戦を見OAH化してるような印象を受けたんですよね。わかる人だけがわかればいいというような空間になってませんか？

ミゲル でも、いままでよりもプロレスマニアみたいな観客が少なかったような気もしたけどね。……今回はかなり招待券を配ってたのかな？

ホセ そういう噂も聞くね。寂しい話だよ。

パンチョ 今後、WWEの日本ツアーはどうすれば熱気が戻ってくるんですかね？

ホセ 今回も熱気がなかったとは思わないよ。来てるお客さんは盛り上がってたし。でも、動員的には２００２年以降で一番苦戦したんだろうし、あの頃に比べると熱も下がってきてると思う。やっぱりツアーに来る選手の人選だよな。今回はケン・ケネディ、バティスタ、オートン、ブッカーTも来なかった。1時間半の『SMACKDOWN！』に出てる主要な登場人物の約半分が来なかったんだよ。もっと試合をコンパクトにして選手を大勢見せてほしいと思う。アメリカで見るとお腹いっぱいになるんだから。

ミゲル これじゃ『SMACKDOWN！』の世界観が半分も伝わらないよな。今後のことで言えば、ストーンコールドとハルク・ホーガンが来れば、さいたまスーパーアリーナでも満員になると思う。みんなスターを見たいんだよ。

パンチョ 次はまた7月に来るんですかね？

ミゲル いやぁ〜、さすがに今回のチケット状況を把握して、巻き返しを図ってくるらしい。7月から9月の間という話だよ。

パンチョ とにかく、日本におけるWWE人気はこのましぼんでほしくないですね。期待しましょう。

【06年2月某日、神奈川県某所にて収録】

WWEファンの間で話題沸騰中のブギーマン。この写真では見にくいが試合中に生きたままのミミズをむさぼり食う。

メリーナは入場で沸かせたが、ビキニコンテストでは水着にならず観客も呆気に取られた。このメンバーでのコンテストは初だった。

豪華商品から拾ったものまで!!

2月はまだまだ寒いですね。

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（賞品は3月16日以降発送予定です）。
【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤面白かった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦いま大注目している選手⑧そろそろ卒業したいこと
【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス『kamipro』編集部「『どんぐり』です!」係まで
※締切は2006年3月15日（月）当日消印有効

kamipro 096 応募券 どんマイケル

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

FUJITA

1名様

■HP***http://www.beast-1.com/

サイン入り

藤田選手サイン入り飛行機ラジコン

表紙の撮影で使った飛行機ラジコン（1万円相当）を、なんと藤田選手のサインを入れてたった1名様にプレゼント！　これ、無線で本当に飛ばすことができます!!

注目選手のサインがいっぱい!!

dragondoor

■HP***http://blog.livedoor.jp/dragon_door/

3名様

サイン入り

**ミラノコレクションA.T.
サイン入りポスター&サイン色紙**

2・7『RETURN OF THE HEXAGON』のポスターを持って突然編集部に現われたミラノコレクションA.T.選手。最近の『kamipro』に一言もの申した色紙とポスターをご提供!

1名様

Dynamite!!

■HP***http://www.so-net.ne.jp/feg/k-1/top.htm

サイン入り

中尾選手サイン色紙

『Dynamite!!』で大活躍の中尾芳弘選手の貴重なサイン。中尾選手によると、このサインは小学校の頃に考案され、それ以来ずっと書き続けているものだそうです。素晴らしい!!

2名様

HUSTLE

■HP***http://www.hustlehustle.com/

サイン入り

浜田選手&ドクロンZコラボサイン色紙

『kamipro Hand』でインタビューした浜田選手。じつは、『ハッスル』に登場するドクロンZと大の仲良し!!　というわけで、お二人のサインが入ったコラボ色紙を2名様にプレゼント。

2名様

WEAR

■雪崩式HP***http://www.nadareshiki.com
■ART JUNKIE TEL***GROUND COBRA:092-711-1021
■FIGHTING TV サムライHP***http://www.samurai-tv.co.jp
■FIGHTING TV サムライ（携帯サイト）***http://m.rakuten.co.jp/samurai-tv

各1名様

サムライTVクラシックプロレスTシャツ
（ブラック、パープル／Lサイズ）
プロレス・格闘技の専門chが運営するネットショップ「FIGHTING SHOPサムライ」では、さまざまなプロレス・格闘技グッズを絶賛発売中！【サムライTV提供】

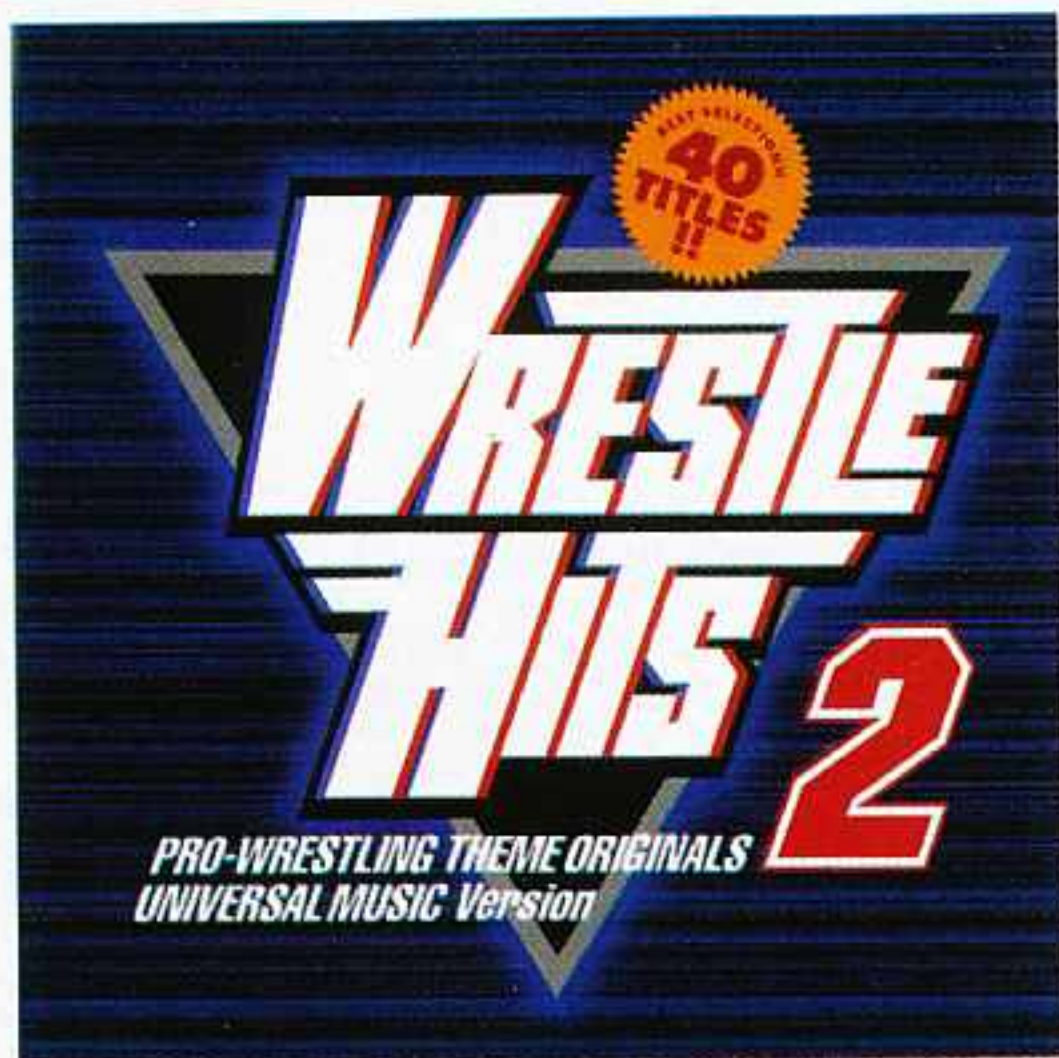
1名様

ART JUNKIEパウンダーTシャツ（XSサイズ）
桜井隆多選手やしなしさとこ選手のTシャツも手がけているART JUNKIEさんから今月も新作をご提供いただきました！【ART JUNKIE提供】

各1名様

雪崩式 暴言大賞Tシャツ
（Lサイズ）

雪崩式 N.W.A,（雪崩式レスリングアカデミー）ユニフォーム（Lサイズ）
「日常生活にプロレスを取り入れる」をコンセプトに立ち上げられた『N.W.A,』のユニフォームと、マグナム北斗のトークイベント「暴言大将」とのコラボTシャツです。【雪崩式提供】

CD

3名様

WRESTLE HITS 2（¥3000（税込））
『WRESTLE HITS』が早くも第二弾を発売！ 今度は栄光のジュニア・ヘビー級選手のテーマ曲など全40曲が収録されています!!【ユニバーサルミュージック提供】
■ユニバーサルミュージックHP***http://www.universal-music.co.jp/

BOOK

■マガジンハウスHP***
http://www.magazine.co.jp/index.jsp

3名様 サイン入り

『去年ルノアールで』（2月23日発売マガジンハウス刊／¥1575（税込））
『kamipro』コラムでおなじみのせきしろさんの本が出ます!!『relax』で人気連載「今月のルノアール」がついに単行本化！【マガジンハウス提供】

ALL JAPAN

1名様

全日本プロレス武藤敬司社長就任3周年記念酒&升
武藤敬司社長就任3周年パーティでいただいた純金箔入大吟醸を升と一緒にプレゼント。編集部に置いておくと飲んでしまう人がいるので早くもらってくれ！【全日本プロレス提供】

DSP

■メディアファクトリーHP***http://www.mediafactory.co.jp/
■シムソンズHP***http://www.sim-sons.com/

5組10名様

シムソンズ鑑賞チケット
DSPが自信を持ってお送りする映画『シムソンズ』の鑑賞チケットを5組10名様にプレゼント。カーリングに夢中の加藤ローサはスクリーンの中でしか見られないぞ!!【DSE提供】

1名様

殴者DVD
（06年3月3日発売／93分／¥3990（税込））
昨年9月に公開された映画『殴者』がついにDVD化！ 桜庭和志やシウバらの熱演は見ないとソン!!【メディアファクトリー提供】

GAME

■コナミHP***http://www.konami.co.jp/

セットで3名様

ランブルローズ ダブルエックス（Xbox360用）
（06年3月30日発売／¥7329円（税込））
コナミフィギュアコレクション ランブルローズVol.1
（06年3月16日発売／¥630（税込））
昨年2月に発売されたPS2ソフト「ランブルローズ」が次世代機「Xbox360」で登場!! 先行で発売されるフィギュアとセットで3名様に!（フィギュアは各1体です）【コナミ提供】

全6種（日ノ本零子、イーブル・ローズ、デ キシー・クレメッツ、ドクターアナスタシ ア、ミストレス、ベッ キー）

DVD

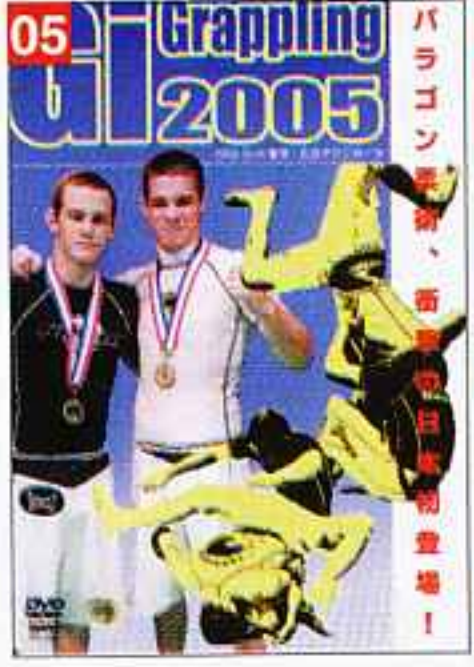
各1名様

グッドオールデイズと呼ばれるアメリカ50年代に活躍した懐かしのレスラーを収録した『黄金期プロレス50選』ほか、今月もクエストさんから注目のDVDをご提供いただきました!【QUEST提供】

01★流智美の黄金期プロレス50選 vol.6
241分／¥5880（税込）
02★村上竜司 ケンカ必勝法 88分／¥4935（税込）
03★ブラジリアン柔術全日本オープン2005
231分／¥5880（税込）
04★第二回世界空道選手権大会
234分／¥5880（税込）
05★Gi Grappling2005 191分／¥5880（税込）
06★A to Z vs 外敵軍 全面対抗戦
88分／¥4935（税込）
07★大道塾 着衣総合格闘技 空道 part.2
100分¥5880（税込）

■QUEST HP***http://www.queststation.com/

TOY

■DDT HP***http://www.ddtpro.com/

ポイズン澤田JULIE サイン入りマラカス
1・29『DDT』の会場でポイズン澤田JULIEが現代に置いていったマラカスをささきぃがナイスGET! 忘れ物なのになぜかサイン入りです!!

1名様 サイン入り

Tokoro hideo

所 英男

小さな“ヴォルクハン”

サイン&握手会

3.4東京イサミにて開催!!

限定200名

我々のニューヒーロー『所英男』。今年もますますのご活躍を願って、皆で応援しましょう!

お見逃しなく!

3月4日(土)
所選手と交流の場

200名のお客様限定

所選手のオリジナル商品をお買い上げいただいた200名のお客様に対してサイン、握手会またポラロイドカメラによる記念撮影などを行います。
日時:平成18年3月4日(土)
開始時間:15:00〜17:00
場所:東京イサミ店

東京イサミ TEL.03-3352-4083
OPEN/am11:00-pm8:00
〒160-0002 東京都新宿区新宿4-2-21相模ビル4F
定休日/毎週火曜・祝日 FAX.03-3352-4084

東口
新宿駅
大塚家具
南口
甲州街道
新宿4丁目交差点
新南口
ヴィクトリア 本間ゴルフ
東京イサミ
高島屋
明治通り
新宿駅南口より3分

▲所選手 オリジナルTシャツ▲

※商品はrvddw所選手・ZST Tシャツ・DVDetc
※ポラロイド記念撮影は別途料金になります
※持込みカメラ・携帯での撮影は禁止です

信頼と実績の武道・格闘技用品トップメーカー
ISAMI
〒346-0014
埼玉県久喜市吉羽2-29-7

通信販売のご注文は今すぐTEL or FAX or E-MAIL!

TEL ▸▸▸ 0480-24-0711 [ご注文受付時間(平日)9:00〜21:00 お問合受付時間(平日)9:00〜17:00]
FAX ▸▸▸ 0120-110-666 フリーダイヤル 24時間受付中
E-MAIL ▸ isami@isami.co.jp 24時間受付中

お支払方法

代引 ご注文受付後、商品到着時に商品と引換に「商品代金+消費税+送料」を配達員にお支払いください。
現金書留 ご注文受付後、注文書+商品代金+消費税+送料をご送金ください。
カード ご購入金額合計1万円以下でもご利用できます。合計2万円より2回払、合計5万円より分割払(セントラルファイナンス)もご利用できます。
ご利用いただけるカード▸▸▸ DC VISA MasterCard JCB

kamipro 紙のプロレス

No.96

2006年3月8日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
山口日昇
青柳昌行

編集若頭
堀江ガンツ

編集スタッフ
ジャン斉藤
真下義之
松下“トランシーバー”ミワ
八木賢太郎(物件探し手伝いのため非番)

電気部
さききぃ
松澤チョロ

企画制作部
坂井ノブ
上杉どんぐり

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子RG

編集次長リローデッドPart.5
松林 貴

デザインカントク
出田さん(TwoThree)

デザインキャプテン
金井ヒサくん(TwoThree)

デザイン
松坂“闇将軍”マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき(以上、TwoThree)

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志(以上、さおとめの事務所)

カメラマン
乾 晋也
菊地茂夫
丸山剛史
平工幸雄
戸成嘉則
山口比佐夫
松本 崇
黒田史夫
平 専英

お勘定&衣料部
林 一枝

のど自慢
寂しいユルは入江(TwoThree)

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石“酒はなんでも飲みます”芳司

年度末目前で超フル回転の編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
(広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで)

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
(受付時間/土日祝祭日を除く12:00~17:00)
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン(URL:http://www.enterbrain.co.jp/)、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

次号No.97号は 3月24日(金) 発売予定!

※地域によっては多少発売日が遅れます。

3・15『HERO'S』詳報&
4・2『PRIDE武士道』直前情報満載!!